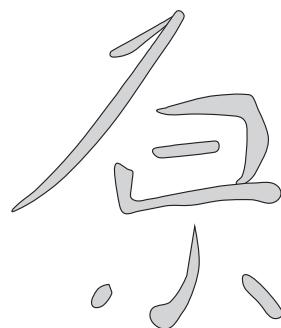


熊本県文化財調査報告書 第308集

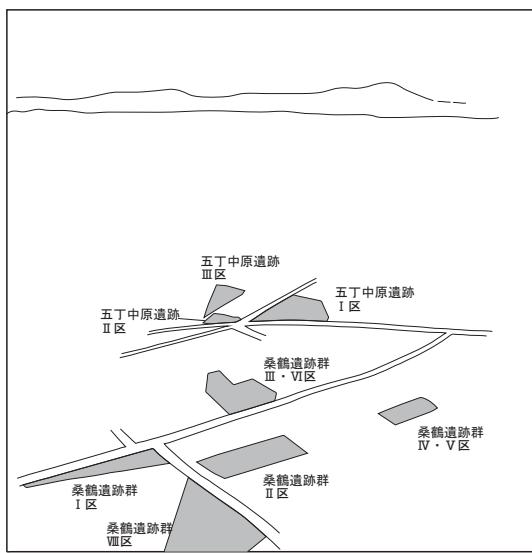
桑鶴遺跡群  
五丁中原遺跡

—砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告—



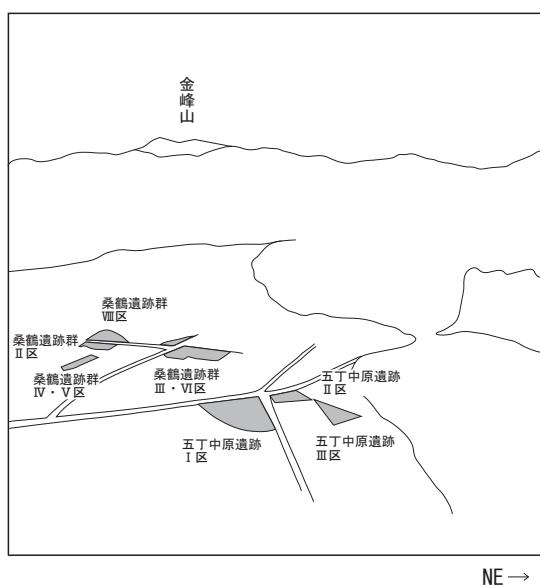
熊本県教育委員会

2015



SW →

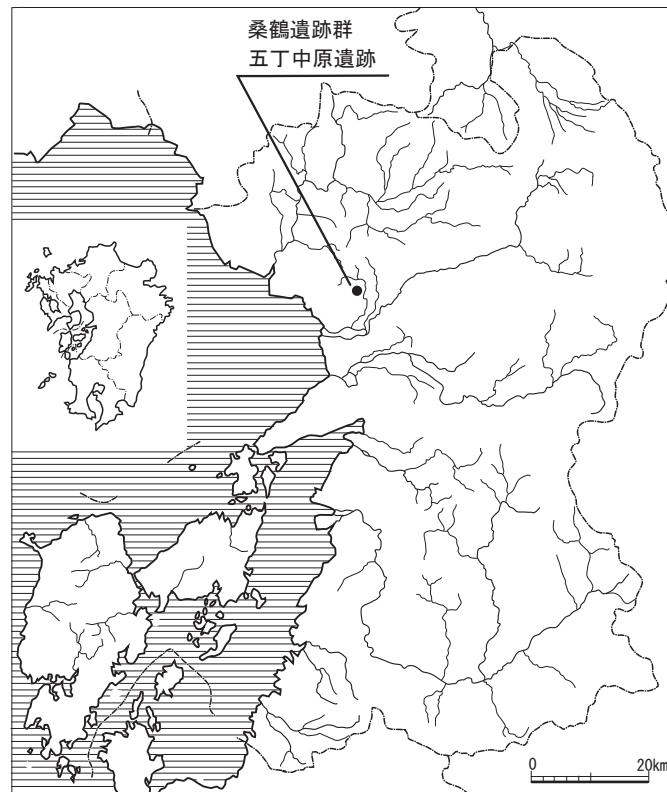
巻頭カラー 2  
空撮 2 (NE →)



NE →

# 桑鶴遺跡群 五丁中原遺跡

- 熊本県熊本市北区所在の埋蔵文化財 -



熊本県教育委員会

2015

## 序 文

熊本県教育委員会は砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴い、桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡の調査を実施しました。その結果、古代の住居跡や中世期と推定される建物群などの生活居住地を確認することができました。

今回の調査の成果の一つに旧石器の出土があります。これはこれまで不確定であった熊本西部にて良好な出土になりました。これから、この時代を考える上で貴重な情報の提示ができ、今後に弾みが付くものでしょう。また出土遺物の中には「原」と書かれた文字資料があり、調査地の古代地名や自然環境を窺い知ることができました。

今回の文化財調査は調査・整理が熊本市の政令市に伴い権限移譲するという形態ではありましたが、熊本市の深いご理解のもと、本報告書の発行ができました。

記録保存という形ではありますが本報告が地域の発展とともに、将来、地域の貴重な歴史の情報として引き継がれ、生かされていくことを望んでおります。

なお、本調査を実施するにあたり、御理解とご協力をいただいた地元の皆様並びに関係機関に深く感謝申し上げたいと思います。

平成 27 年 3 月 31 日

熊本県教育長 田崎 龍一

## 例　　言

- 1 本書は、熊本県熊本市北区に所在する桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡調査の報告書である。桑鶴遺跡群は平成18年度に第1次、21～23年度に2次調査を実施した。
- 2 発掘調査は、熊本県土木部及び熊本土木事務所の依頼を受け、熊本県教育委員会が実施した。調査費及び整理報告費については、同事業部局及び熊本市が負担した。
- 3 遺物の整理・報告作業は、熊本県文化財資料室で平成25年度から26年度まで実施した。
- 4 本書で用いる地形図は、熊本県土木部から提供、並びに国土地理院発行の2万5千分の1地形図をもとに作成した。
- 5 遺跡の測量の基準点測量及び水準測量は株式会社長田測量設計・株式会社ワールドコンサルタント・有限会社坂井設計コンサルタント・株式会社十八測量設計の委託事業とした。現地での写真撮影は各調査員が行い、遺構実測は現場作業員の協力のもと各調査員が実施した。遺物の実測・製図は、春川香子・今田里枝・出家麻里・濱崎清子・園田智子・立岩恵美子・山下義満が行い、一部株式会社イビソク、株式会社九州文化財研究所の委託事業とした。遺物の写真撮影は、村田百合子・松本智子・蓮池千絵が行い、一部、春川・今田が行った。
- 6 自然科学分析については火葬骨分析は、NPO法人人類学研究機構、炭素同位体年代測定は株式会社古環境研究所に委託した。
- 7 本書の執筆は、第V章　自然科学分析は、NPO法人人類学研究機構、炭素同位体年代測定は古環境研究所が行った。第IV章 第1節 旧石器の調査成果・及び第VII章の旧石器の稿は岡本が、その他を山下が執筆した。
- 8 整理後の保管は熊本県文化財資料室で保管されている。
- 9 本書の編集は、熊本県教育庁文化課が行い、春川・今田の援助を得て山下が担当した。

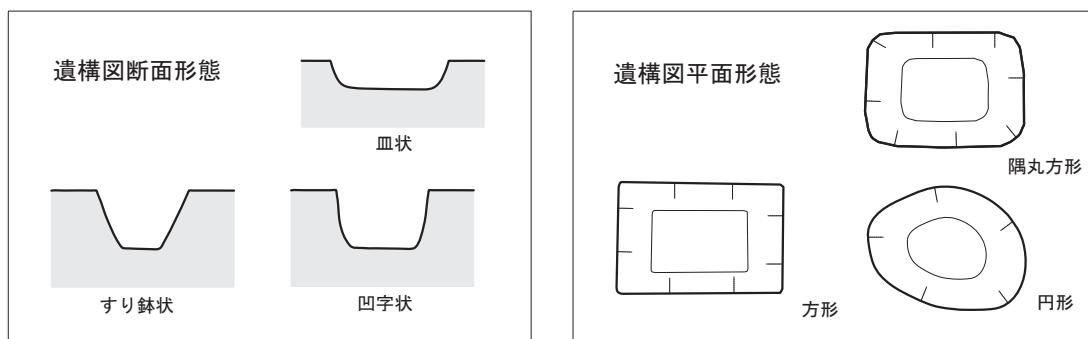
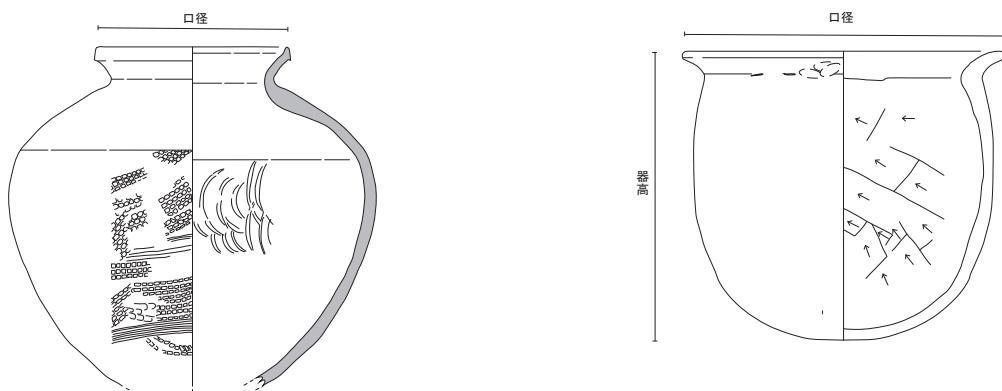
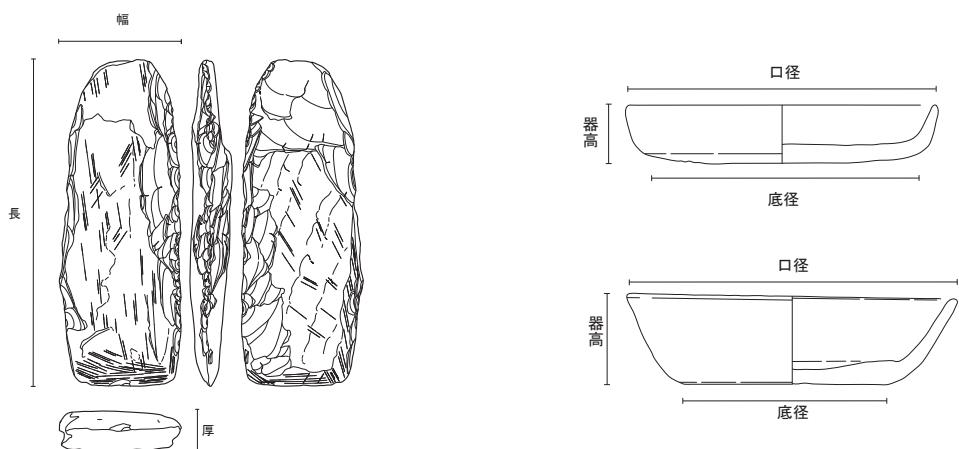
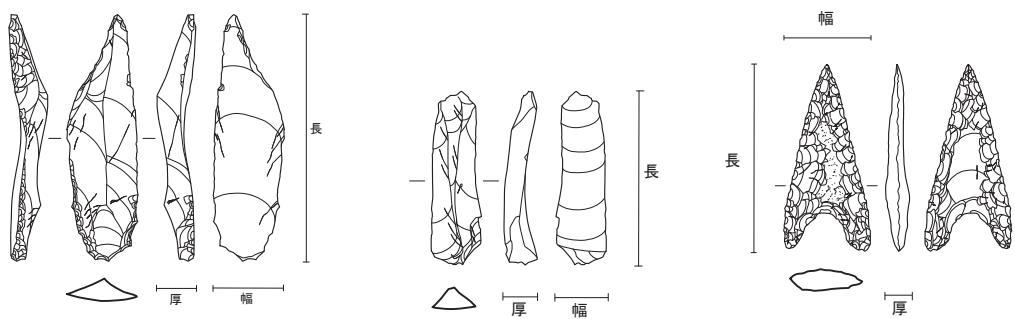
## 凡　　例

- 1 方位／座標 国土座標第II系（日本測地系）を基準とし、方位もそれに準じた。
- 2 遺跡地区名 遺跡全体の地区（第1図）の通りである。また桑鶴遺跡群は平成18年度を1次・平成21～23年度を2次と区分した。
- 3 遺構名略号 次の通りである。SH；住居・SB；掘立柱建物・SK・ST；土坑・SD；溝・SI；埋設遺構・SO；燃焼土坑・SX；不明遺構・P；Pit 遺構
- 4 遺構図版 標高は東京湾平均海面水（Tokyo Peil [T.P.]）による。
- 5 遺構図版 縮尺 遺構図版は、ブロックごとに掲載し、縮尺はキャプション及びスケールで図示した。
- 6 遺構図版 線種 遺構平面図は原則として確定ラインは実線で掲載し、遺構上・下端の推定線は破線で示した。また搅乱および調査区範囲については実線及び一点破線で示した
- 7 遺構図版 断面ポイント 各遺構の平面及び断面図では—ラインの内側をポイントとしている。
- 8 遺物図版 縮尺 遺物実測は原則として土器は1/3、

## 例

- で行い、石器は1/1・2/3・1/3・1/4・1/5、その他は2/3で掲載した。またこれに該当しないものは、その縮尺を図中に示した。
- 9 遺物図版 線種 外形線、中心線及び区画線は実線、稜線は一点破線または二点破線、推定線は破線で示した。また、須恵器については、断面を塗りつぶした。また彩色土器については原色に近い色を用いた。
  - 10 遺物図版 土器の小破片については、断面図の左を内面、右を外表面の立面図にしている。
  - 11 接合痕跡は、断面の内側に細線を入れている。
  - 12 遺物観察表 すべての実測個体について、遺物観察表を掲載した。その凡例は、観察表の上に別項にて注記している。
  - 13 色調 本書で用いた土壤・胎土色調名は、農林水産省技術事務局監修「新版 標準土色帳」を用いた。陶磁器・玉類については、大日本インキ化学工業株式会社発行「中国の伝統色」第2版(1986)を用いた。

## 凡 例



## 本文目次

第Ⅰ章 調査の経過.....	1	第V章 自然科学分析 .....	217
第1節 調査に至る経緯と経過.....	1	第1節 火葬人骨 .....	217
第2節 調査の組織.....	1	第2節 放射性炭素年代測定 .....	223
		(1) 五丁中原遺跡I区.....	223
		(2) 桑鶴遺跡群II区.....	225
		(3) 桑鶴遺跡群VIII区.....	227
第Ⅱ章 遺跡の環境.....	4		
第Ⅲ章 調査の概要.....	5	第VI章 遺構・遺物データ .....	229
第1節 調査区の位置.....	5	遺構データ .....	229
第2節 調査の概要.....	5	出土遺物観察表（石器） .....	236
第3節 基本土層.....	5	出土遺物観察表（土器） .....	242
		出土遺物観察表（金属製品） .....	261
第Ⅳ章 調査の成果.....	22		
第1節 旧石器.....	22	第VII章 総括 .....	263
第2節 繩文.....	25	第1節 遺構.....	263
第3節 弥生.....	25	第2節 遺物.....	264
第4節 古代.....	25	第3節 結言.....	270
第5節 中世.....	25		
第6節 不明.....	26		

## 図 版 目 次

第 1 図 遺跡範囲図	3	第 30 図 出土遺物実測図 5(五丁中原遺跡 I 区)	45
第 2 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡調査区位置図	7	第 31 図 出土遺物実測図 6(五丁中原遺跡 I・II・III 区)	46
第 3 図 グリット図 1	8	繩文	
第 4 図 グリット図 2	9	第 32 図 桑鶴遺跡群06-I 区遺構配置図	47
第 5 図 グリット図 3	10	第 33 図 桑鶴遺跡群06-I 区 1号・2号集石実測図	48
第 6 図 グリット図 4	11	第 34 図 桑鶴遺跡群06-I 区 3号・4号集石実測図	49
第 7 図 グリット図 5	12	第 35 図 桑鶴遺跡群06-I 区 5号・6号集石実測図 及び出土遺物実測図	50
第 8 図 グリット図 6	13	第 36 図 桑鶴遺跡群06-I 区土器集中区 1実測図 及び出土遺物実測図	51
第 9 図 グリット図 7	14	第 37 図 桑鶴遺跡群06-I 区土器集中区 2実測図 及び出土遺物実測図	52
第 10 図 グリット図 8	15	第 38 図 桑鶴遺跡群06-I 区土器集中区 3実測図 及び出土遺物実測図	53
第 11 図 土層柱状図	16	第 39 図 桑鶴遺跡群06-I 区 SK-02・05実測図	54
第 12 図 基本土層図 1	17	第 40 図 桑鶴遺跡群06-II 区遺構配置図・SI-03実測図 及び出土遺物実測図	55
第 13 図 基本土層図 2	18	第 41 図 桑鶴遺跡群 II 区 III 層・IV 層上面遺構配置図 及び7号集石実測図	56
第 14 図 基本土層図 3	19	第 42 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-05実測図 及び出土遺物実測図	57
第 15 図 基本土層図 4	20	第 43 図 桑鶴遺跡群 VI 区遺構配置図	58
第 16 図 基本土層図 5	21	第 44 図 桑鶴遺跡群 VI 区 8号・9号集石実測図	59
<b>旧石器</b>		第 45 図 桑鶴遺跡群 VII 区遺構配置図・ ST-09・11実測図及び出土遺物実測図	60
第 17 図 調査区位置図	23	第 46 図 五丁中原遺跡 II 区 III 層・IV 層遺構配置図 及び ST-28~30・32~34 実測図	61
第 18 図 桑鶴遺跡群 II 区旧石器(出土相当層) 出土平面図	24	第 47 図 五丁中原遺跡 II 区 IVa 層・IVb 層遺構配置図	62
第 19 図 桑鶴遺跡群 II 区調査区土層断面図	27~28	第 48 図 五丁中原遺跡 II 区 ST-53・56~58・61 実測図	63
第 20 図 出土遺物実測図 1 (桑鶴遺跡群 I・III・IV・VI 区出土地不明)	29	第 49 図 五丁中原遺跡 II 区 ST-54・59・60・62・63・65 実測図	64
第 21 図 出土遺物実測図 2(桑鶴遺跡群 II 区)	30	第 50 図 五丁中原遺跡 II 区 SX-02 実測図 及び出土遺物実測図	65
第 22 図 桑鶴遺跡群 VII 区旧石器(出土相当層) 出土平面図	31		
第 23 図 桑鶴遺跡群 VII 区調査区土層断面図 1	33~34		
第 24 図 桑鶴遺跡群 VII 区調査区土層断面図 2	35~36		
第 25 図 出土遺物実測図 3(桑鶴遺跡群 VII 区①)	37		
第 26 図 出土遺物実測図 4(桑鶴遺跡群 VII 区②)	38		
第 27 図 五丁中原遺跡 I 区 VI・VII・VIII 層 遺物出土状況	39		
第 28 図 五丁中原遺跡 I 区調査区土層断面図 1	41~42		
第 29 図 五丁中原遺跡 I 区調査区土層断面図 2	43~44		

第 51 図 五丁中原遺跡II区 SX-04実測図 及び出土遺物実測図	66	第 74 図 桑鶴遺跡群III区 SH-03実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-03出土遺物実測図	89
第 52 図 五丁中原遺跡III区IV層・V層遺構配置図 10号集石実測図及び出土遺物実測図	67	SH-04実測図及び出土遺物実測図	90
古代		第 75 図 桑鶴遺跡群III区 SH-05実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-05土坑・竈実測図	91
第 53 図 桑鶴遺跡群06-I区遺構配置図 及び出土遺物実測図	68	SH-05粘土流出状況 及び出土遺物実測図	92
第 54 図 桑鶴遺跡群06-I区 SD-09実測図 桑鶴遺跡群06-I区 SI-01・02実測図	69	第 76 図 桑鶴遺跡群III区 SH-05出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-06実測図	93
第 55 図 桑鶴遺跡群06-I区 SI-01・02実測図 及び出土遺物実測図	70	SH-06粘土流出状況 及び出土遺物実測図	94
第 56 図 桑鶴遺跡群06-I区 SK-01・06実測図 桑鶴遺跡群06-I区 SD-07実測図	71	第 77 図 桑鶴遺跡群III区 SH-06出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-07実測図	95
第 57 図 桑鶴遺跡群06-I区 SD-07実測図 桑鶴遺跡群I区遺構配置図	72	SH-07粘土流出状況 及び出土遺物実測図	96
第 58 図 桑鶴遺跡群I区遺構配置図 桑鶴遺跡群I区 SH-01実測図及び竈実測図	73	第 78 図 桑鶴遺跡群III区 SH-07出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-08実測図	97
第 59 図 桑鶴遺跡群I区 SH-01実測図及び竈実測図 桑鶴遺跡群I区 SH-01完掘図	74	SH-08粘土流出状況 及び出土遺物実測図	98
第 60 図 桑鶴遺跡群I区 SH-01完掘図 及び出土遺物実測図	75	第 79 国 桑鶴遺跡群III区 SH-08出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-09実測図	99
第 61 国 桑鶴遺跡群I区 Pit 1・燃焼土坑実測図 桑鶴遺跡群II区コンタ図	76	SH-09粘土流出状況 及び出土遺物実測図	100
第 62 国 桑鶴遺跡群II区コンタ図 及び遺構配置図(III層上面検出)	77	第 80 国 桑鶴遺跡群III区 SH-09出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-10実測図	101
第 63 国 桑鶴遺跡群II区 SX-02実測図 桑鶴遺跡群II区 SX-03実測図	78	SH-10粘土流出状況 及び出土遺物実測図	102
第 64 国 桑鶴遺跡群II区 SX-03実測図 桑鶴遺跡群II区 SX-04実測図	79	第 81 国 桑鶴遺跡群III区 SH-10出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-11実測図	103
第 65 国 桑鶴遺跡群II区 SX-04実測図 桑鶴遺跡群II区 SX-04ベルト土層断面図	80	SH-11粘土流出状況 及び出土遺物実測図	104
第 66 国 桑鶴遺跡群II区 SX-04ベルト土層断面図 及び波状掘り込み実測図	81	第 82 国 桑鶴遺跡群III区 SH-11出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-12実測図	105
第 67 国 桑鶴遺跡群II区 SX-04遺物出土状況 骨片散布状況及び出土遺物実測図	82	SH-12粘土流出状況 及び出土遺物実測図	106
第 68 国 桑鶴遺跡群II区 ST-01・02実測図 桑鶴遺跡群III区 VI区遺構配置図	83	第 83 国 桑鶴遺跡群III区 SH-12出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-13実測図	107
第 69 国 桑鶴遺跡群III区 VI区遺構配置図 及び遺物出土状況	84	SH-13粘土流出状況 及び出土遺物実測図	108
第 70 国 桑鶴遺跡群III区燃焼土坑No.1・ST-01実測図 及び出土遺物実測図	85	第 84 国 桑鶴遺跡群III区 SH-13出土遺物実測図 桑鶴遺跡群III区 SH-14実測図	109
第 71 国 桑鶴遺跡群III区 ST-04・07実測図 及び出土遺物実測図	86	SH-14粘土流出状況 及び出土遺物実測図	
第 72 国 桑鶴遺跡群III区住居址群概念図 桑鶴遺跡群III区 SH-01実測図	87		
第 73 国 桑鶴遺跡群III区 SH-01実測図 及び出土遺物実測図	88		

第 95 図 桑鶴遺跡群III区 SH-12使用時完掘・ Pit検出状況及び出土遺物実測図	110	第 116 図 桑鶴遺跡群III区 SH-19完掘状況	131
第 96 図 桑鶴遺跡群III区 SH-12完掘状況	111	第 117 図 桑鶴遺跡群III区 SH-20硬化面検出・ 完掘状況	132
第 97 図 桑鶴遺跡群III区 SH-12竪実測図 及び出土遺物実測図	112	第 118 図 桑鶴遺跡群VI区 ST-01～03実測図 及び出土遺物実測図	133
第 98 図 桑鶴遺跡群III区 SH-12硬化面検出・土器 密集区遺物出土状況及び出土遺物実測図	113	第 119 図 桑鶴遺跡群VI区土師器出土状況	134
第 99 図 桑鶴遺跡群III区 SH-12土器密集区 出土遺物実測図 1	114	第 120 図 桑鶴遺跡群IV区遺構配置図	135
第 100 図 桑鶴遺跡群III区 SH-12土器密集区 出土遺物実測図 2	115	第 121 図 桑鶴遺跡群IV区 SH-01実測図 及び出土遺物実測図	136
第 101 図 桑鶴遺跡群III区 SH-12出土遺物実測図	116	第 122 図 桑鶴遺跡群IV区 SH-01竪実測図 及び出土遺物実測図	137
第 102 図 桑鶴遺跡群III区 SH-13実測図	117		
第 103 図 桑鶴遺跡群III区 SH-13竪実測図 及び出土遺物実測図	118		
第 104 図 桑鶴遺跡群III区 SH-14硬化面検出 及び竪実測図	119		
第 105 図 桑鶴遺跡群III区 SH-14竪・土坑遺物出土状況 及び出土遺物実測図	120		
第 106 図 桑鶴遺跡群III区 SH-15実測図	121		
第 107 図 桑鶴遺跡群III区 SH-15竪実測図	122		
第 108 図 桑鶴遺跡群III区 SH-15完掘・竪遺物出土状況 及び出土遺物実測図	123		
第 109 図 桑鶴遺跡群III区 SH-16竪検出・使用時状況	124		
第 110 図 桑鶴遺跡群III区 SH-16完掘・竪遺物出土状況 及び出土遺物実測図	125		
第 111 図 桑鶴遺跡群III区 SH-16P-①・②実測図 及び出土遺物実測図	126		
第 112 図 桑鶴遺跡群III区 SH-17使用時状況 及び出土遺物実測図	127		
第 113 図 桑鶴遺跡群III区 SH-17完掘状況・Pit-①・② 実測図及び出土遺物実測図	128		
第 114 図 桑鶴遺跡群III区 SH-17竪実測図 及び出土遺物実測図	129		
第 115 図 桑鶴遺跡群III区 SH-18検出・粘土流出状況 及び出土遺物実測図	130		
		古代～中世	
		第 123 図 桑鶴遺跡群06-I区遺構配置図 及びSD-10実測図	138
		第 124 図 桑鶴遺跡群V区IIIa層遺構配置図・鉄滓出土 状況・ST-01実測図及び出土遺物実測図	139
		第 125 図 桑鶴遺跡群V区IIIb層遺構配置図・ ST-02実測図及び出土遺物実測図	140
		中世	
		第 126 図 桑鶴遺跡群III区遺構配置図	141
		第 127 図 桑鶴遺跡群III区 SB-01実測図 及び出土遺物実測図	142
		第 128 図 桑鶴遺跡群III区 SB-02・03実測図	143
		第 129 国 桑鶴遺跡群III区 SB-04実測図	144
		第 130 国 桑鶴遺跡群III区 SB-05・06実測図	145
		第 131 国 桑鶴遺跡群V区遺構配置図	146
		第 132 国 桑鶴遺跡群V区 SB-01実測図 及び出土遺物実測図	147
		近現代	
		第 135 国 桑鶴遺跡群06-I区遺構配置図	150
		第 136 国 桑鶴遺跡群06-I区 SD-01実測図	151

第 137 図 桑鶴遺跡群06- I 区 SD-02・03・05実測図	152	第 159 図 五丁中原遺跡 I 区V層遺構配置図	
第 138 図 桑鶴遺跡群06- I 区 SD-04・08実測図	153	及びST-27実測図	174
第 139 図 桑鶴遺跡群06- I a区 SD-06実測図		第 160 図 五丁中原遺跡 I 区IVa層遺構配置図	
及び06- I c区 SD-06実測図	154	及び遺物出土状況	175
不明			
第 140 図 桑鶴遺跡群06- I 区遺構配置図		第 161 図 五丁中原遺跡 I 区	
及びSK-04・07～09実測図	155	ST-04・06～08・SX-01実測図	176
第 141 図 桑鶴遺跡群06- I 区 SX-01・02・04実測図	156	第 162 図 五丁中原遺跡 I 区IVb層遺構配置図	177
第 142 図 桑鶴遺跡群06- II 区遺構配置図	157	第 163 図 五丁中原遺跡 I 区	
第 143 図 桑鶴遺跡群06- II 区		ST-11～15・23～26実測図	178
SK-10～13・SX-03実測図	158	第 164 図 五丁中原遺跡 I 区 ST-16～22実測図	179
第 144 図 桑鶴遺跡群06- II 区 SD-11・12実測図	159	第 165 図 五丁中原遺跡 III 区遺構配置図	180
第 145 図 桑鶴遺跡群IV区遺構配置図		第 166 図 五丁中原遺跡 III 区 SD-01実測図	181
及びSP-01（貝殻Pit）実測図	160	第 167 図 五丁中原遺跡 III 区 ST-38～45実測図	182
第 146 図 桑鶴遺跡群VII区IVa層遺構配置図	161	第 168 図 五丁中原遺跡 III 区 ST-46～51実測図	183
第 147 図 桑鶴遺跡群VII区		第 169 図 五丁中原遺跡 III 区 ST-66実測図	184
SX-01(P-01・02・03)・SX-04実測図	162	遺物	
第 148 図 桑鶴遺跡群VII区 ST-01～05・07・P-01実測図		第 170 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
及び出土遺物実測図	163	出土遺物実測図 7	185
第 149 図 桑鶴遺跡群VII区IVb層遺構配置図		第 171 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
及びST-08・10・29・P-58実測図	164	出土遺物実測図 8	186
第 150 国 桑鶴遺跡群VII区 SX-02・03実測図		第 172 国 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
及び出土遺物実測図	165	出土遺物実測図 9	187
第 151 国 桑鶴遺跡群VII区 SX-05・ST-15・16実測図	166	第 173 国 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
第 152 国 桑鶴遺跡群VII区		出土遺物実測図 10	188
SH-01・P-01(柱穴)実測図	167	第 174 国 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
第 153 国 桑鶴遺跡群VII区 V層遺構配置図	168	出土遺物実測図 11	189
第 154 国 桑鶴遺跡群VII区 SO-01実測図		第 175 国 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
及び出土遺物実測図	169	出土遺物実測図 12	190
第 155 国 桑鶴遺跡群VII区 SO-02～04実測図	170	第 176 国 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
第 156 国 桑鶴遺跡群VII区 ST-20～22・25実測図	171	出土遺物実測図 13	191
第 157 国 桑鶴遺跡群VII区		第 177 国 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
ST-12・18・19・23・24・26～28実測図	172	出土遺物実測図 14	192
第 158 国 桑鶴遺跡群VII区遺構配置図		第 178 国 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡	
及びST-30・31実測図	173	出土遺物実測図 15	193

第 179 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 16	194	第 191 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 28	206
第 180 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 17	195	第 192 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 29	207
第 181 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 18	196	第 193 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 30	208
第 182 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 19	197	第 194 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 31	209
第 183 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 20	198	第 195 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 32	210
第 184 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 21	199	第 196 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 33	211
第 185 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 22	200	第 197 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 34	212
第 186 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 23	201	第 198 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 35	213
第 187 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 24	202	第 199 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 36	214
第 188 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 25	203	第 200 図 遺跡を取り巻く石材環境	266
第 189 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 26	204	第 201 図 熊本市周辺の地質図と 旧石器時代の遺跡位置図	267
第 190 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 27	205		

## 表 目 次

第 1 表 遺跡地名表	2	第 6 表 出土遺物観察表（土器）	242
第 2 表 調査時期	6	第 7 表 出土遺物観察表（金属製品）	261
第 3 表 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡		第 8 表 旧石器時代の地域的編年と 本遺跡との比較表	265
出土旧石器器種・出土層位点数	24		
第 4 表 遺構データ表	229	第 9 表 周辺の旧石器遺跡データ一覧表	268
第 5 表 出土遺物観察表（石器）	236		

## 写真図版目次

Ph. 1	273	Ph. 8	280
阿蘇4火碎流堆積物中の黒曜石確認状況		桑鶴遺跡群III区 SH-17竈検出状況 (W→)	
五丁中原遺跡II区西側工事現場土層断面状況		桑鶴遺跡群III区 SH-12土馬出土状況 (124) (S→)	
桑鶴遺跡群VIII区 SH-01使用時完掘状況 (N→)		桑鶴遺跡群III区住居密集地検出状況 (SE→)	
Ph. 2	274	Ph. 9	281
桑鶴遺跡群VIII区土層断面図A-A' (S→)		桑鶴遺跡群III区 SB-05完掘状況 (E→)	
桑鶴遺跡群VIII区南西壁土層断面		桑鶴遺跡群IV区 SH-01竈使用時状況 (E→)	
五丁中原遺跡I区南壁土層断面B (S→N)		Ph. 10	282
五丁中原遺跡I区VI層石器出土状況 (28)		桑鶴遺跡群V区 SD-01完掘状況 (N→)	
Ph. 3	275	Ph. 11	283
五丁中原遺跡I区東壁土層断面 1 (W→E)		桑鶴遺跡群VIII区 SX-05炭化物出土状況 (N→)	
五丁中原遺跡I区東壁土層断面 2 (W→E)		五丁中原遺跡I区 SX-01完掘状況 (W→)	
五丁中原遺跡I区東壁土層断面 3 (W→E)		Ph. 12	284
Ph. 4	276	出土石器 1 (表)・(裏)	
桑鶴遺跡群06-I区 1号集石検出状況 (W→)		Ph. 13	285
桑鶴遺跡群06-I区 3号集石検出状況 (W→)		出土石器 2 (表)・(裏)	
Ph. 5	277	Ph. 14	286
桑鶴遺跡群06-I区 SI-01検出状況 (S→) (64・65)		出土石器 3 (表)・(裏)	
桑鶴遺跡群06-II区		Ph. 15	287
SI-03土坑検出状況 (E→) (50)		出土石器 4 (表)・(裏)	
Ph. 6	278	Ph. 16	288
桑鶴遺跡群II区 SX-04検出状況1 (N→S)		出土石器 5 (表)・(裏)	
桑鶴遺跡群II区		Ph. 17	289
SX-02 (右) SX-04 (左) 検出状況 2 (N→S)		出土石器 6 (表)・(裏)	
Ph. 7	279	Ph. 18	290
桑鶴遺跡群I区石器出土状況 (3)		出土石器 7 (表)・(裏)	
桑鶴遺跡群II区石器出土状況 (9) (E→)			
桑鶴遺跡群II区 SX-05土器出土状況 (E→)			

Ph. 19	..... 291	Ph. 25	..... 297
	縄文早期土器 1 楕円文		桑鶴遺跡群III区 SH-05出土ヘラ描き「原」
	縄文早期土器 2 条痕文・格子目文・塞ノ神式		桑鶴遺跡群III区 SH-12出土ヘラ描き「原」「○」
Ph. 20	..... 292	Ph. 26	桑鶴遺跡群「原」墨書ヘラ記号 ..... 298
	桑鶴遺跡群06-I 区 SI-01出土土器		輸入磁器類
	桑鶴遺跡群06-I 区 SI-01底部様相		桑鶴遺跡群V区出土坩堝と轆の羽口
	桑鶴遺跡群V区出土坩堝と轆の羽口		桑鶴遺跡群VI区ガラス滓(左) 桑鶴遺跡群VI区鉄滓(右)
	桑鶴遺跡群06-II 区出土土製勾玉	Ph. 27	桑鶴遺跡群III区 SH-05出土袖石 ..... 299
	桑鶴遺跡群VI区ガラス滓(左) 桑鶴遺跡群VI区鉄滓(右)		石器 1 (石鎌)
	五丁中原遺跡 I 区出土免田式土器片		石器 2 (石鎌・尖頭器)
Ph. 21	..... 293	Ph. 28	..... 300
	桑鶴遺跡群 I 区 SH-01出土土器		石器 3 (石匙)
	桑鶴遺跡群 II 区 SX-05阿高式土器		石器 4 (打製石斧・磨製石斧・凹石)
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-03出土墨書き土器	Ph. 29	..... 301
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-12出土土馬		石器 5 (砥石)
	桑鶴遺跡群 VI 区 ST-03出土土器		石器 6 (石劍・石包丁・用途不明石器)
Ph. 22	..... 294	Ph. 30	..... 302
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-05出土土器		金属製品 1
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-12出土土器		金属製品 2
Ph. 23	..... 295		
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-12出土土器		
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-07出土土器		
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-10出土土器		
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-11出土土器		
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-14出土土器		
Ph. 24	..... 296		
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-16出土土器		
	桑鶴遺跡群 III 区 SH-17出土土器		
	桑鶴遺跡群 III 区出土把手部位		
	桑鶴遺跡群 VIII 区 SH-01 P-1出土土器		
	桑鶴遺跡群 IV 区 SH-01出土土器		
	把手貼り合わせ状態		

## 第Ⅰ章 調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯と経過

今回報告する調査地は砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う調査で、この事業は西廻り自動車道と変化し熊本市を環状化する。調査区は未買収地を多く抱え取得地からの調査となり、このため調査区が年度の連續性がないのはこのためである。また調査区（桑鶴2次）に欠番（VII区）があるのは、調査直前で中止になったためである。

この地は熊本食品工業団地（通称フードパル）建設に伴う文化財調査を平成5年度～7年度に熊本市が実施している。この成果は「五丁中原遺跡」として報告されている。これらの遺跡は縄文から中世の複合遺跡であるが、遺跡の中核は弥生期の環濠集落であろう。

桑鶴2次・五丁中原は試掘結果を受け調査区が確定し、平成21年6月1日より調査を開始するが、用地買収が平行して行われており調査可能な地区より調査を開始した次第である。本遺跡に於いて調査区に連續性がないのはこのためによる。また平成24年4月1日に熊本市が政令市となり、権限移譲もこれに伴い調査主体も熊本市に移行することになり、平成24年熊本市との協議・引き継ぎをおこない、これを持って本調査を終了した。

平成25年度より、整理・報告書作成を開始したが、この経費は熊本市の受託事業となった。

### 第2節 調査の組織

#### 桑鶴遺跡群1次

発掘調査（H 18年度 2006）（平成をHで略号化した）

調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者 梶野英二（文化課長）

調査総括 倉岡 博（課長補佐）

西住欣一郎（文化財調査主幹兼第2係長）

調査事務局 吉田 恵（課長補佐）

高宮優美（主幹兼総務係長）

小谷仁志（主任主事）

調査担当 山中智恵（文化財保護主事）

中尾健照（非常勤職員）

士野雄貴（非常勤職員）

#### 桑鶴遺跡群2次・五丁中原遺跡

発掘調査（H 21～23年度 2009～2011）

調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者 米岡正治（文化課長 H 21年度）

小田信也（文化課長 H 22～23年度）

宗村士郎（教育審議員兼課長補佐 H 21～23年度）

調査総括 木崎康弘（課長補佐 H 22年度）

西住欣一郎（主幹兼文化財調査第2係長 H 23年度）

調査事務局 元島 茂（課長補佐 H 22年度）

川上勝美（課長補佐 H 23年度）

山田京子（参事 H 22年度）

松島英樹（主任主事 H 22年度）

調査担当 試掘担当 廣田静学（参事）

山下義満（参事 H 21～23年度）

藤本竜一（文化財保護主事 H 21年度）

布田智久（文化財保護主事 H 21年度）

桑島幸平（非常勤職員 H 21～23年度）

宮川香織（非常勤職員 H 21～23年度）

牛島晋二（非常勤職員 H 21～22年度）

師富成香（非常勤職員 H 21年度）

川俣幸次（非常勤職員 H 21年度）

整理・報告書作成（H 25～26年度）

整理主体 熊本県教育委員会

整理責任者 小田信也（文化課長 H 25年度）

手島伸介（文化課長 H 26年度）

整理総括 西住欣一郎（課長補佐 H 25～26年度）

岡本真也（主幹兼文化財調査第2係長 H 24～25年度）

整理事務局 馬場一也（課長補佐 H 25年度）

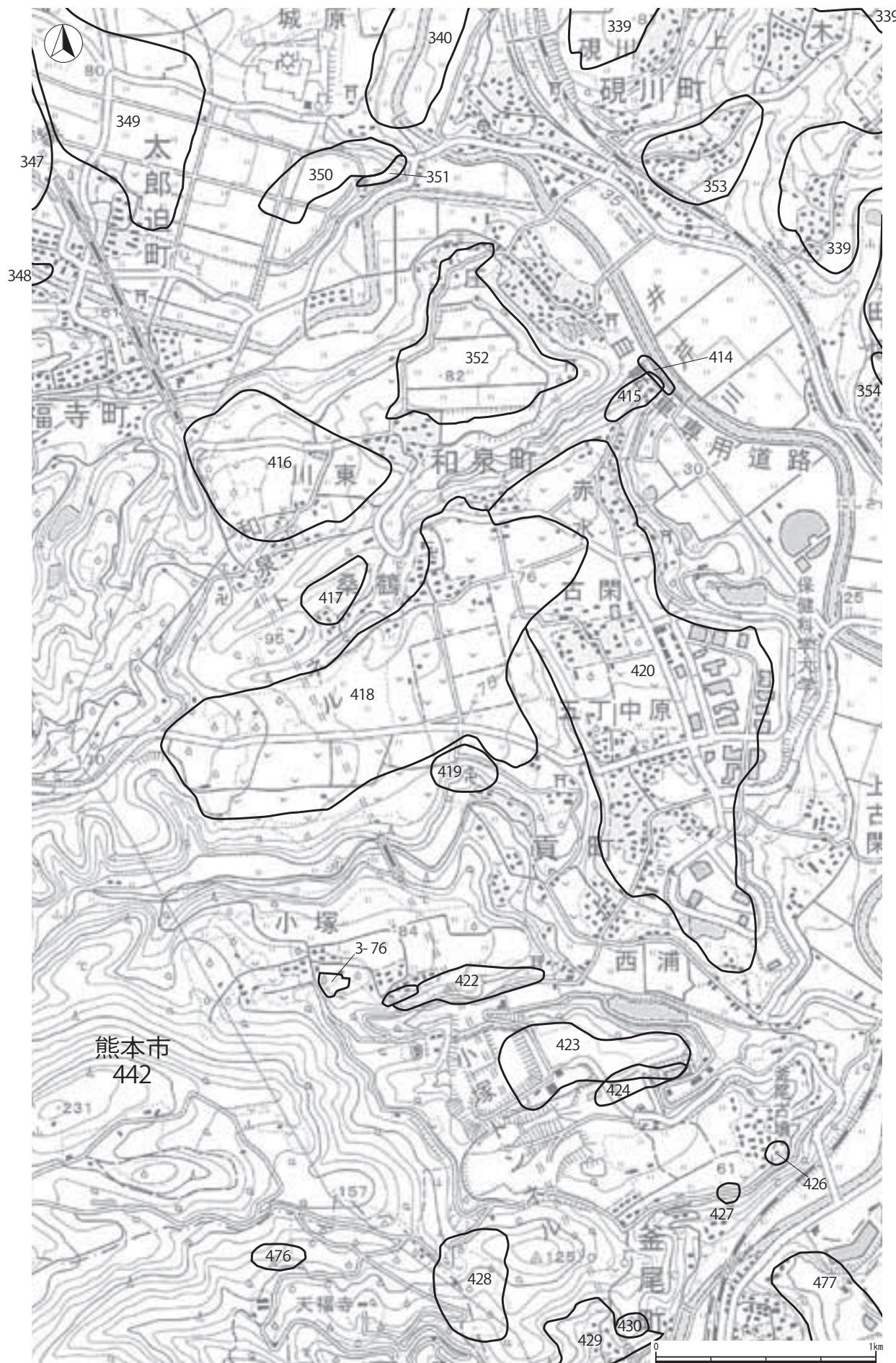
松永隆則（課長補佐 H 26年度）

廣石啓哉（主幹兼総務・文化係長 H 25～26年度）

有馬綾子（参事 H 25～26年度）	調査指導・助言及び協力者
天草英子（主任主事 H 25～26年度）	熊本市教育委員会・野田拓治（熊本県文化財資料室長）・岡本真也・坂田和弘・村崎孝宏・木村元治・廣田静学・中川 治（熊本県文化課）池田朋生（熊本県立装飾古墳館）金田一精・岩谷史記（熊本市教育委員会）・福岡市埋蔵文化財センター
整理担当 山下義満（参事 H 25～26年度）	
春川香子（非常勤職員 H 25～26年度）	
出家麻里（非常勤職員 H 25年度）	
今田里枝（非常勤職員 H 26年度）	

遺跡番号	遺 跡 名	所 在 地（熊本市）	時 代	種 別
339	硯川遺跡群	北区硯川町・下硯川町	縄文～平安	包蔵地
340	北迫川底遺跡群	北区北迫町	弥生～中世	包蔵地
347	万楽寺出口遺跡	北区太郎迫町		包蔵地
348	原山遺跡	北区太郎迫町		包蔵地
349	太郎迫遺跡	北区太郎迫町	縄文	包蔵地
350	妙見遺跡群	北区立福寺町	縄文・中世	包蔵地
351	今熊横穴群	北区立福寺町	古墳	古墳
352	川東遺跡群	北区和泉町	縄文・弥生	包蔵地
353	柚ノ木遺跡	北区硯川町	縄文・古墳	包蔵地
354	一丁畠横穴群	北区下硯川町	古墳	古墳
414	崩平横穴群	北区和泉町	古墳	古墳
415	赤水城跡	北区和泉町	中世	城跡
416	皮籠石遺跡	北区和泉町	縄文～中世	包蔵地
417	中尾遺跡	北区和泉町	縄文	包蔵地
418	桑鶴遺跡群	北区和泉町	縄文～中世	包蔵地
419	瑞巖寺跡	北区貢町	中世	寺社
420	五丁中原遺跡群	北区和泉町・貢町	旧石器～弥生	包蔵地
3-76	小塚遺跡	北区貢町		包蔵地
422	原口原横穴群	北区貢町	古墳	古墳
423	扇田遺跡	北区貢町		包蔵地
424	扇田横穴群	北区貢町	古墳	古墳
426	釜尾古墳	北区釜尾町	古墳	古墳
427	橋口古墳	北区釜尾町	古墳	古墳
428	釜尾堂出遺跡群（釜尾遺跡）	北区釜尾町	古墳	包蔵地
429	北島北遺跡	北区釜尾町		包蔵地
430	常福寺古墳	北区釜尾町	古墳	古墳
476	天福寺裏山古墳群	西区花園7丁目	古墳	古墳
477	熊本工大遺跡	北区池田4丁目	弥生	包蔵地

第 1 表 遺跡地名表



第1図 遺跡範囲図（熊本市遺跡地図に加筆） S=1/25000

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡は、熊本市西部に位置する遺跡で金峰山の裾状台地の先端に位置する。遺跡は弥生時代から中世時代にかけての遺跡であることが判明している。またこれまでの調査結果等から旧石器の存在が指摘されていた。

熊本食品工業団地の建設工事に伴い、平成6・7年に調査が行われている。この結果は「五丁中原遺跡」（1997熊本市教育委員会）として報告されている。調査成果は弥生後期の環濠集落が主たる成果であった。この調査において旧石器の存在が指摘されておりこれが本調査の指針の一つになった。縄文期は本遺跡の北西方面に所在する太郎迫遺跡・北東方面の四方寄遺跡に代表される縄文後晩期の有数な密度・規模を持つ良好な遺跡が所在する。弥生期では熊本市調査の五丁中原遺跡が後期の環濠集落として顕著で、幅4m・深さ2.5mのV字状環濠に囲まれた中には83軒の堅穴住居検出されていることから、この時期に多く存在するムラの存在を窺わせる。

古墳時代になると6世紀に築かれたとされる国指定の装飾古墳 釜尾古墳が近在する。他には大塚古墳・追畠古墳などにも存在し、また井芹川沿いの台地先端の崖面には多くの横穴墓が分布している。今熊横穴墓・削平横穴墓・一丁畠横穴墓・豆尾横穴墓などである。古代以降は須恵器窯跡の田畠窯跡の存在があるがその詳細は現在ではまだ不明部分が多い。中世は古代に寄進地系荘園が存在し鹿子木氏がこの一帯を中世期まで統治する。妙見城・赤水城などはこの鹿子木氏に関与した山城と考えられている。

この桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡の周囲は旧石器から中世まで遺跡に恵まれている。その一つの理由として台地にも湧水が存在し、河川の存在が挙げられ人々の生活の根源という「水」に恵まれた地域と考える。地名として「和泉町」が近在する。

## 第III章 調査の概要

### 第1節 調査区の位置（第2図 参照）

調査区は台地に存在し桑鶴遺跡群06（1次）と桑鶴遺跡群（2次）には0.8kmの距離があり、遺跡は砂原四方木線予定地である南西-北東に位置する形状である。熊本市西部に位置する金峰山より延びる鋸状台地に所在し、行政区画は熊本市北区貢町・和泉町にまたがる海拔70m級台地に遺跡は所在する。

この台地は急激に落ち込みの様相を呈し、下位には平野部が展開するが近在の台地に挟まれる迫地に近い。この平野部に井芹川が緩やかに蛇行しながら河川を形成し、この迫間状平野に沿うように鹿児島本線と県道31号線（通称 鈴麦線）が南北に縦断している。

第II章で述べたように桑鶴遺跡群（2次）の中心地より直線にして0.6Kmに「五丁中原遺跡」（1997 熊本市教育委員会）が所在していることからこの台地一帯は埋蔵文化財包蔵地と考えられる。

### 第2節 調査の概要

今回は、時期としては主に旧石器と古代が中心となった。旧石器は「五丁中原遺跡」（1997 熊本市教育委員会）の調査において旧石器が確認されており、この成果をもとに調査を開始した。その結果、桑鶴遺跡群調査区Ⅱ区に於いて下位黒褐色土よりナイフ型石器の出土を確認した。これを契機にⅧ区でも旧石器の出土があり、これらは熊本市西部方面にての初出土として考えた。また整理時にはAT（姶良Tn火山灰）下位からの遺物確認もでき、今後この一帯の旧石器調査の参考になろう。

縄文期は鍵層である通称「アカホヤ」（鬼界カルデラ）下位からは早期土器・集石の遺物・遺構が認められたが生活の本拠地である住居の存在は確認出来なかった。上位からは中期の阿高式土器が出土したが単体に近く、この時期の様相は不明である。後晩期の土器などの遺物は出土するがこれに伴う遺構が存在しなかつたし、その包含層の堆積も僅かであったことも遠因である。

本遺跡のもう一つの成果は古代の住居地群の検出である。これまでこの周辺の古代期は積極的な調査事例に乏しかったが今回の調査で、出土遺物から9世紀頃と推定され、またヘラ描き土器からの文字資料にも恵まれ、この遺跡の性格を思考する材料になったのである。中世期の掘立柱建物・時期不明であるが堀・古道など各遺構の特質が見られよう。

砂原四方寄線改良工事に伴う埋蔵文化財調査の報告や周辺は、今後、開発工事に伴いさらに調査が進む可能性も高い。開発事業とともに文化財不明瞭地域も多いことから、周辺の埋蔵文化財の分布を再考・検討し、今後に活かせる遺跡ともいえる。

### 第3節 基本土層（第11～16図 参照）

桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡は前述したように同質の遺跡として考えており、その詳細は基本土層の中にも見受けられる。各調査区に示準層の黄褐色のアカホヤ火山層が存在している。これは鹿児島県鬼界を中央火口丘とする鬼界カルデラを形成した際の大爆発により運ばれてきたと考えられている。この層の前後に差異がある。

このアカホヤ層上位には黒褐色土を持ち、これは縄文後晩期の包含層に該当するが、弥生～古墳の包含層にも該当する（桑鶴遺跡群Ⅷ区）。また桑鶴遺跡群06-I・II区のようにアカホヤ層上位が近現代の耕作層でありこのことは永年に亘る開墾が行われていたことになる。

アカホヤ層下位は縄文早期の黒褐色土に恵まれた桑鶴遺跡群Ⅷ区に存在した。しかし大半がアカホヤ層下位は苦土である通称ニガ土層が存在する。ATと呼称される姶良Tn火山灰と呼ばれる鹿児島湾の姶良カルデラを起

源とする火山灰であろう。これらのアカホヤ・ニガという呼称は地域土層名で農耕にて使用されてきた。アカホヤは赤味を帯びボコボコした軽い土という意。イモゴともいう。ニガとは苦土と表記され、耕作しても拳大の塊が細かく分離せず農家を困らせたという。

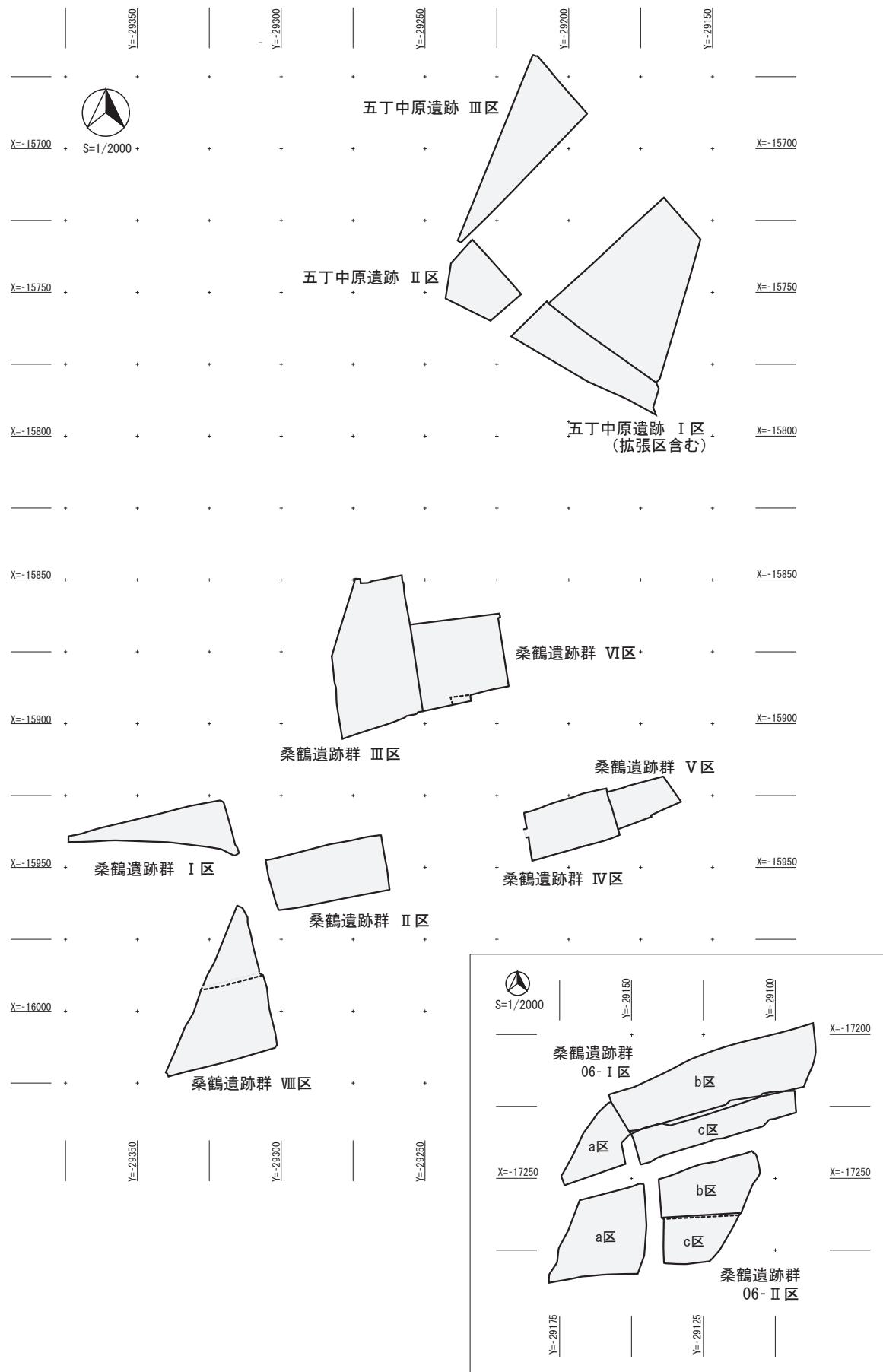
従って基本的には以下のようになる。

- I層 耕作土
- II層 黒褐色土 (10YR2/2)
- III層 暗褐色土 (7.5YR3/3)
- IV層 暗褐色土 (10YR3/3) 縄文早期
- V層 黒褐色土 (10YR2/3) [ニガ] 旧石器

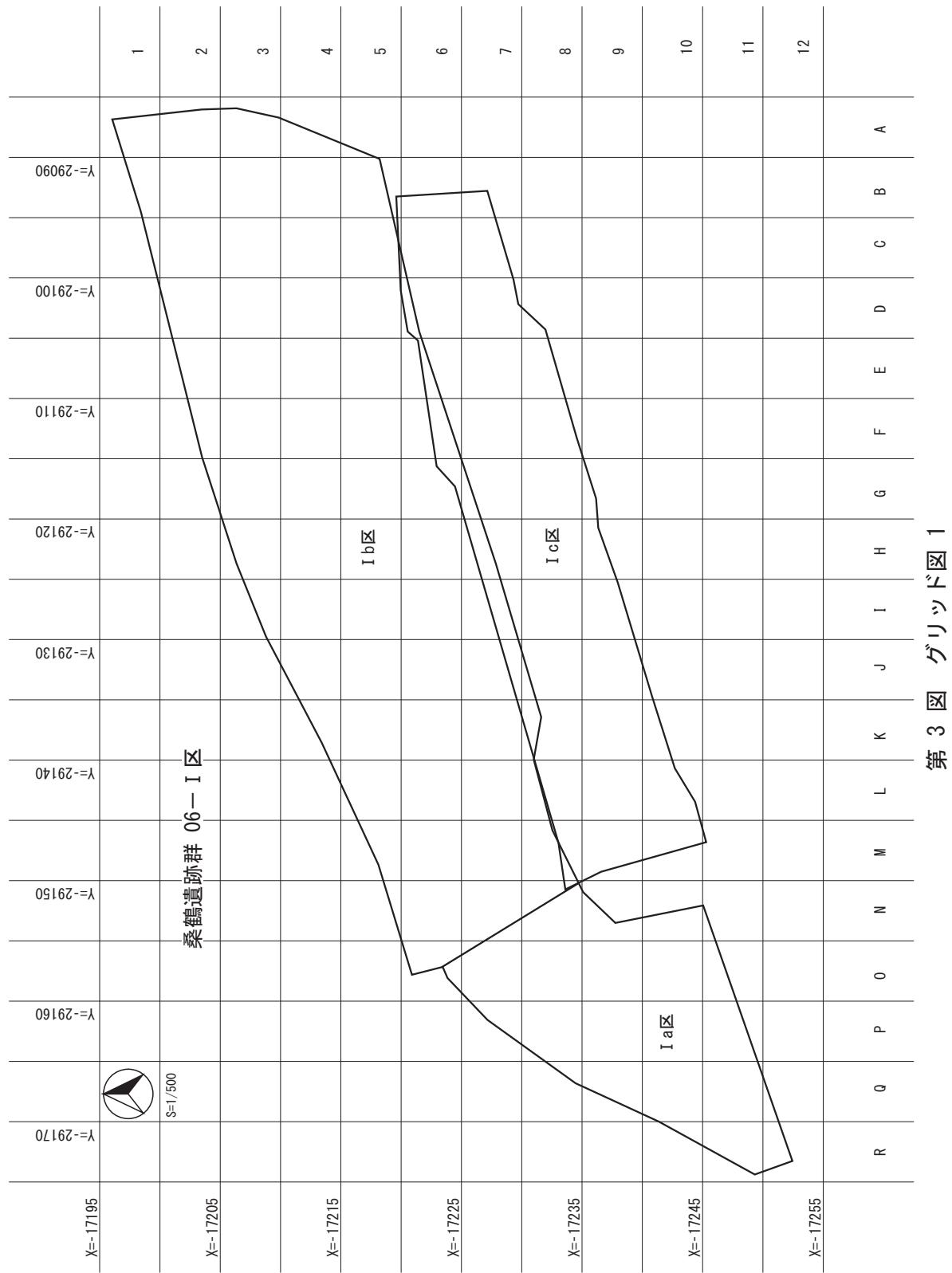
また第V章の自然科学分析での土壤分析箇所は第11図（土層柱状図）に提示した。

調査区		年度	平成18 (2006)	平成19 (2007)	平成20 (2008)	平成21 (2009)	平成22 (2010)	平成23 (2011)
1次	桑鶴遺跡群06-I区		■					
	桑鶴遺跡群06-II区		■					
2次	桑鶴遺跡群I区				■			
	桑鶴遺跡群II区				■			
	桑鶴遺跡群III区				■			
	桑鶴遺跡群IV区				■			
	桑鶴遺跡群V区				■			
	桑鶴遺跡群VI区					■		
	桑鶴遺跡群VII区					■		
	五丁中原遺跡I区				■			
	五丁中原遺跡II区					■		
	五丁中原遺跡III区					■		

第2表 調査時期

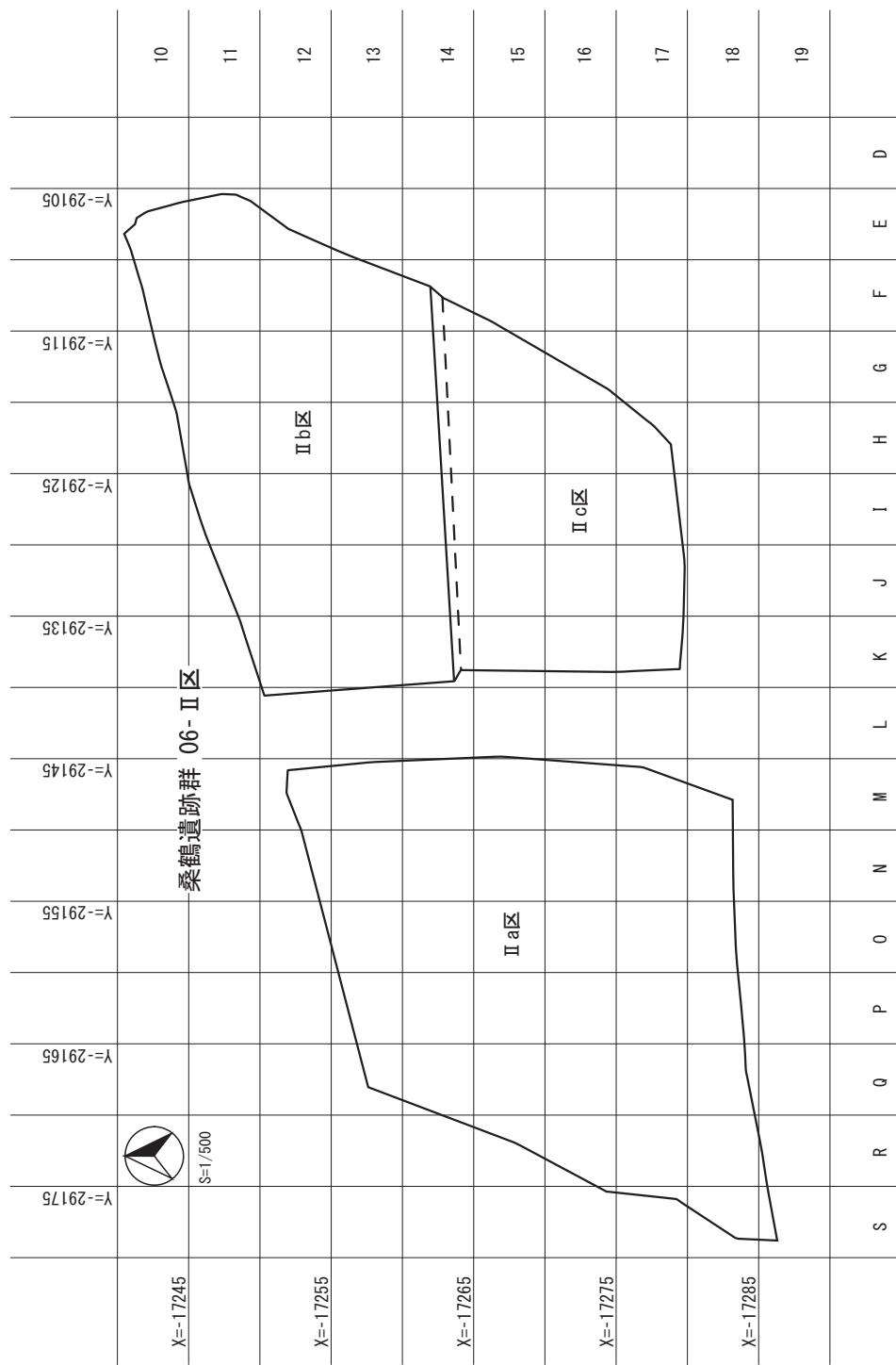


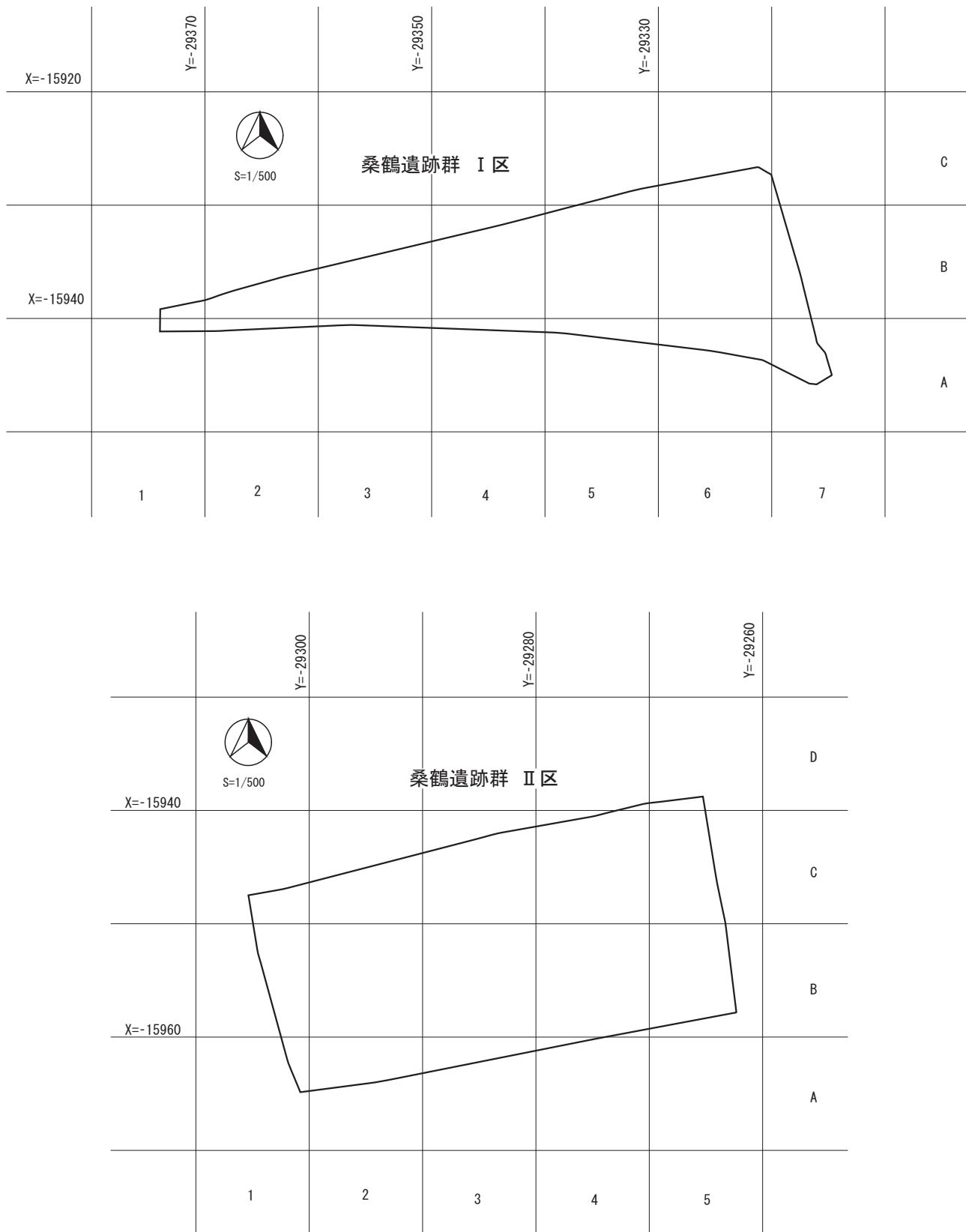
第2図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 調査区位置図



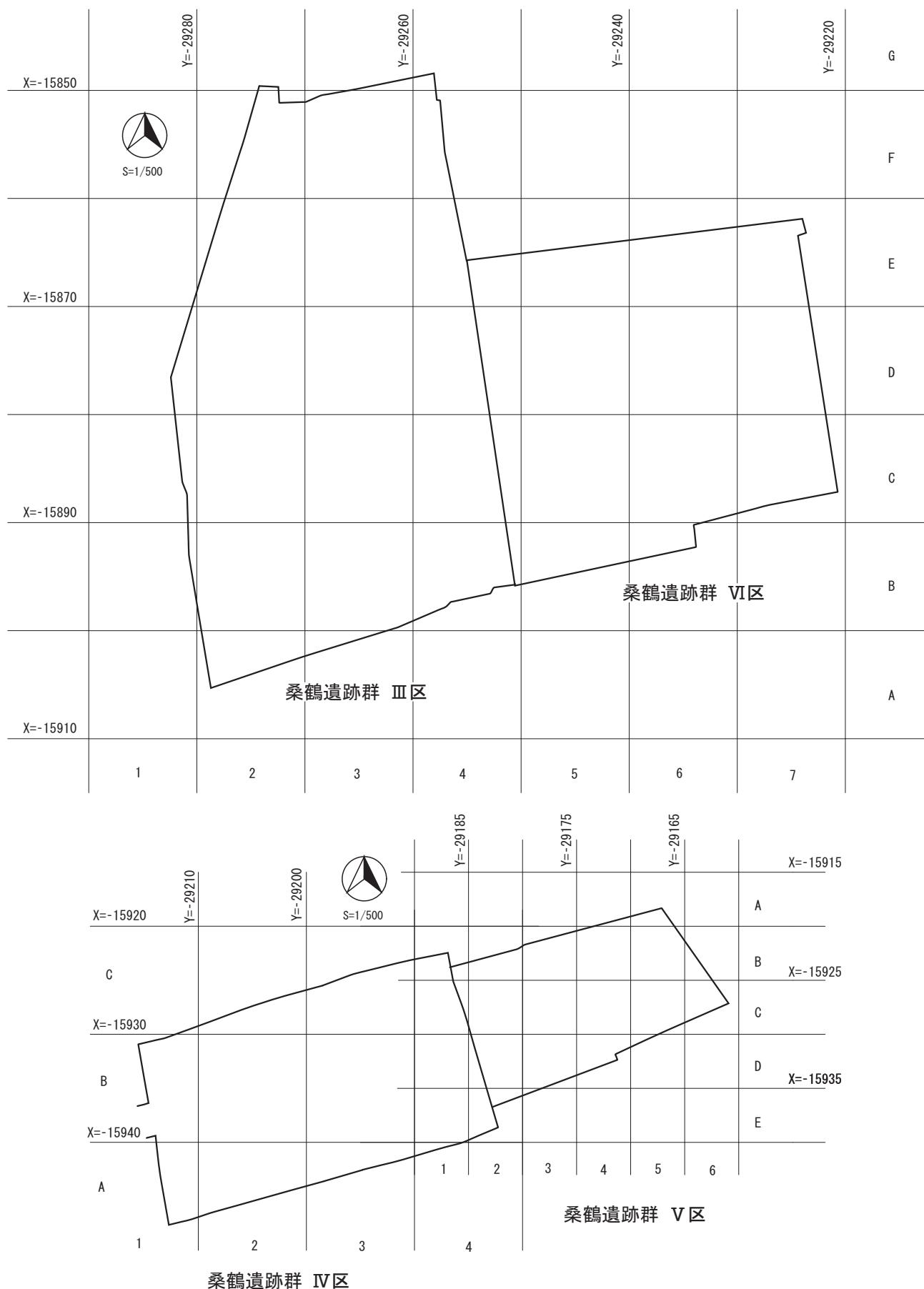
第3図 グリッド図 1

第4図 グリッド図2

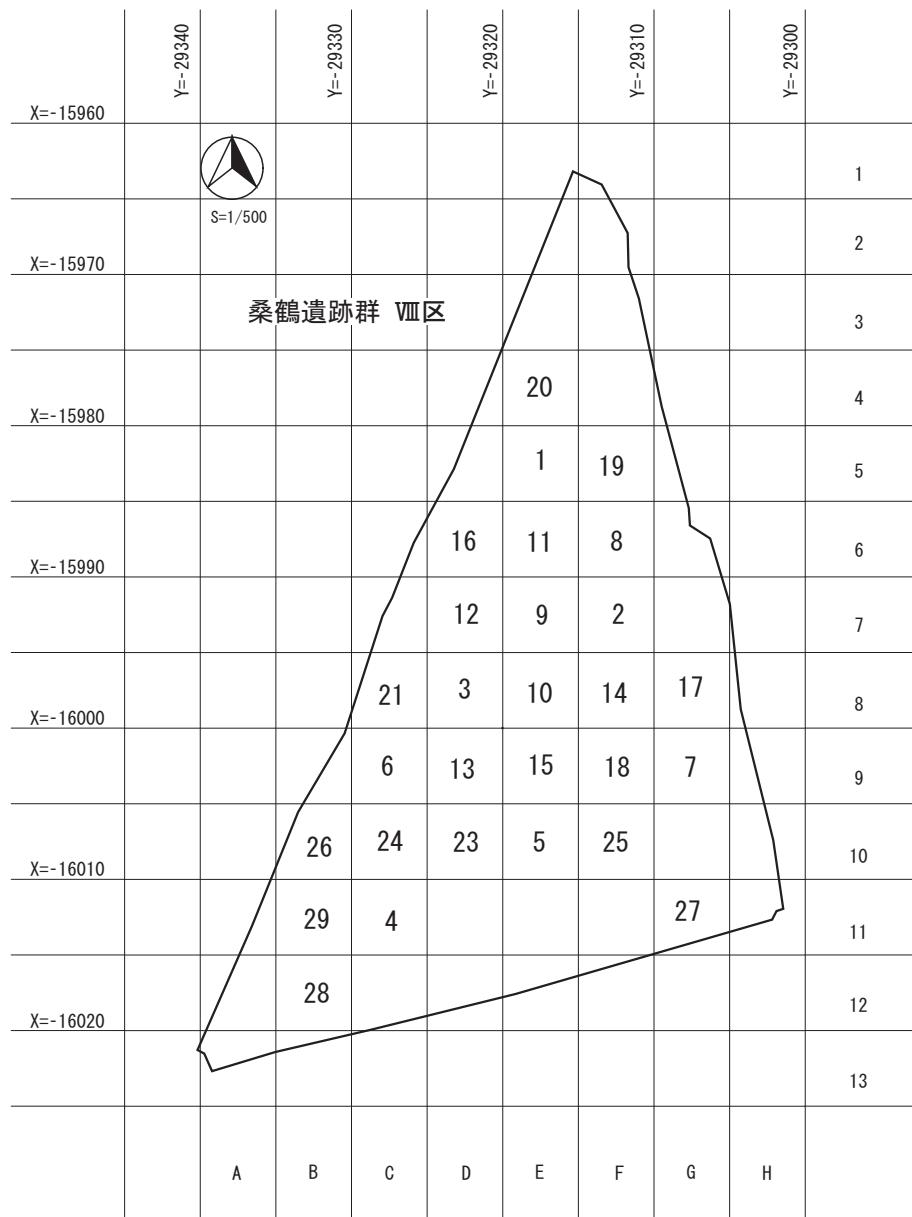




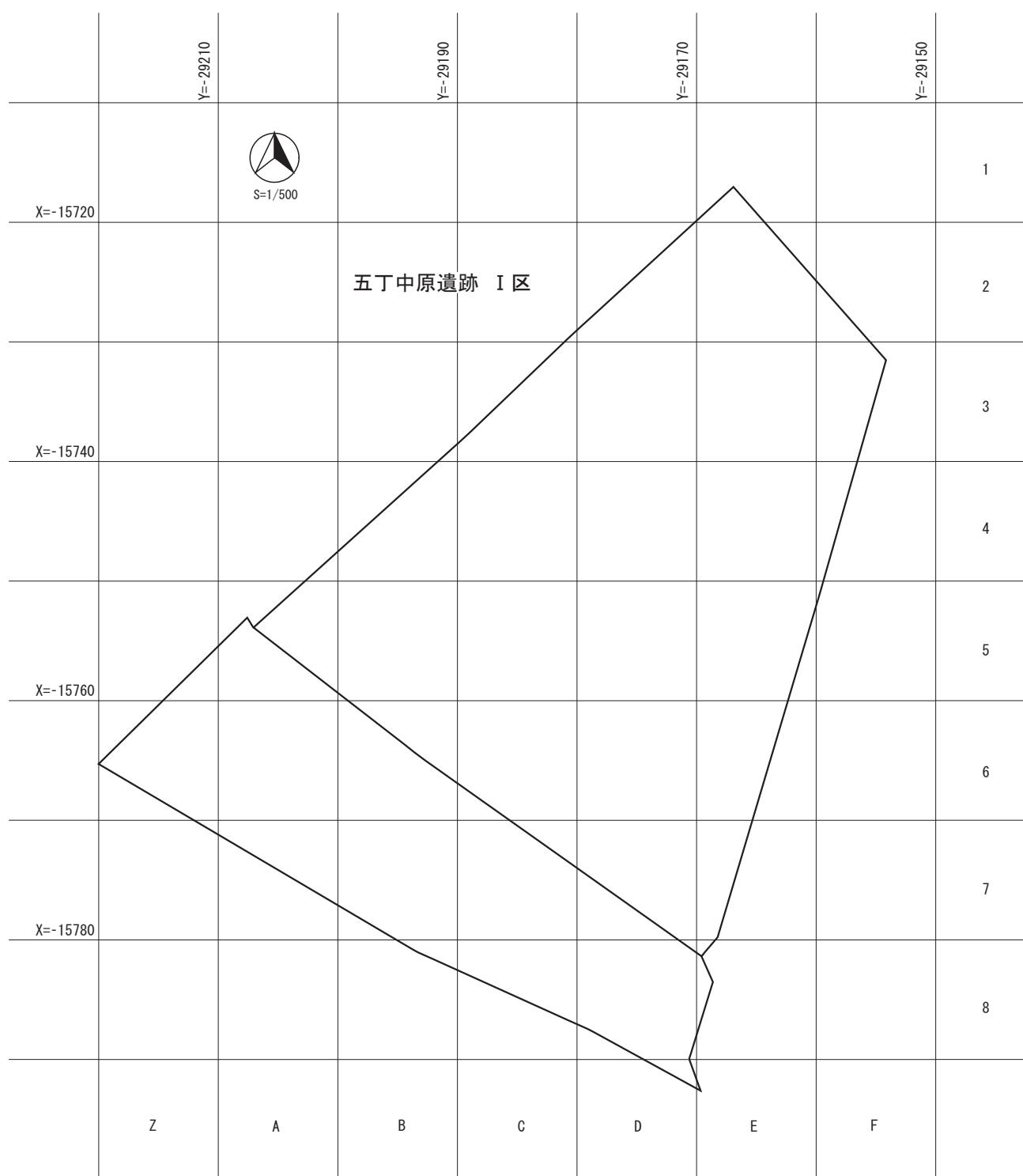
第5図 グリッド図 3



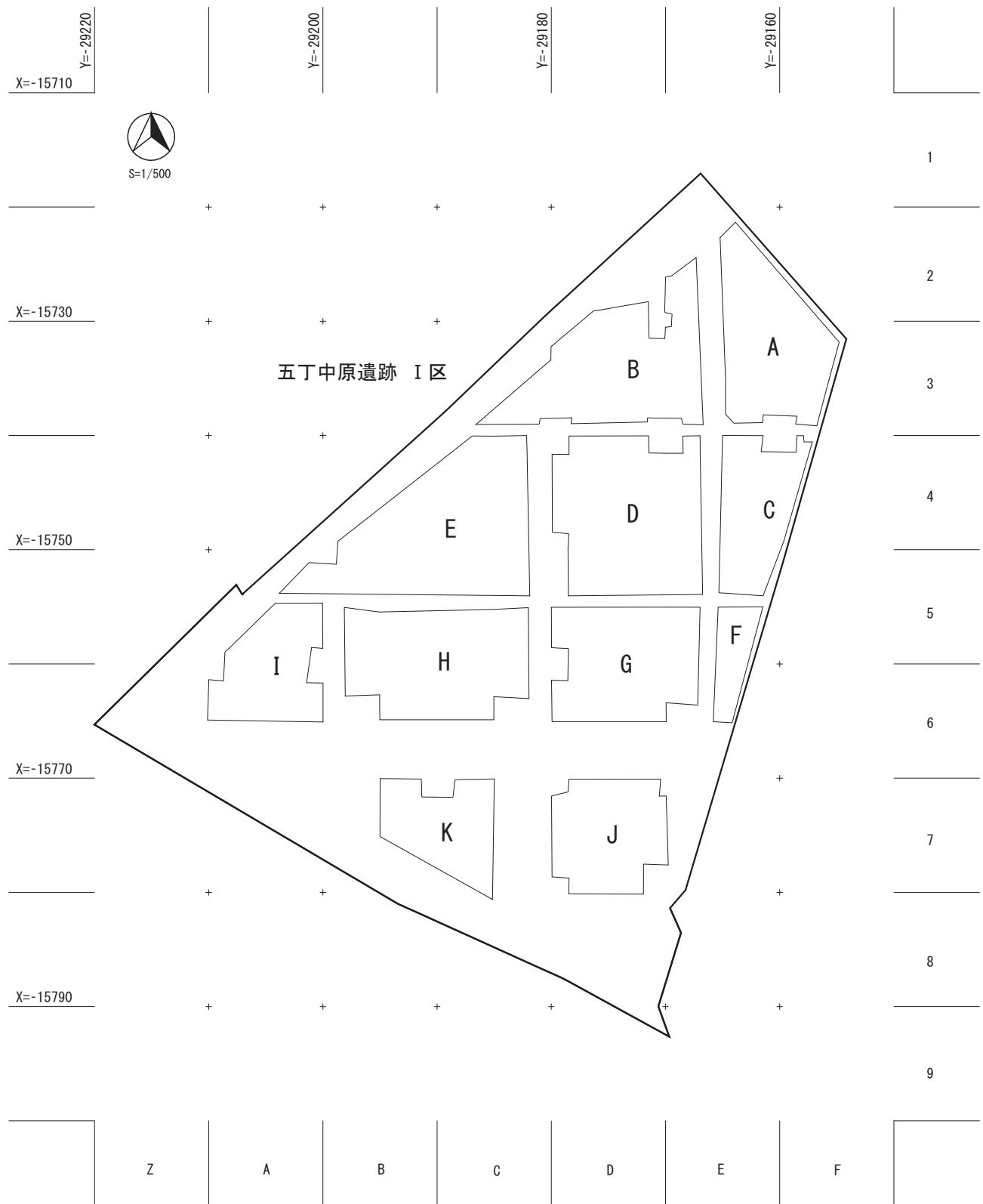
第6図 グリッド図4



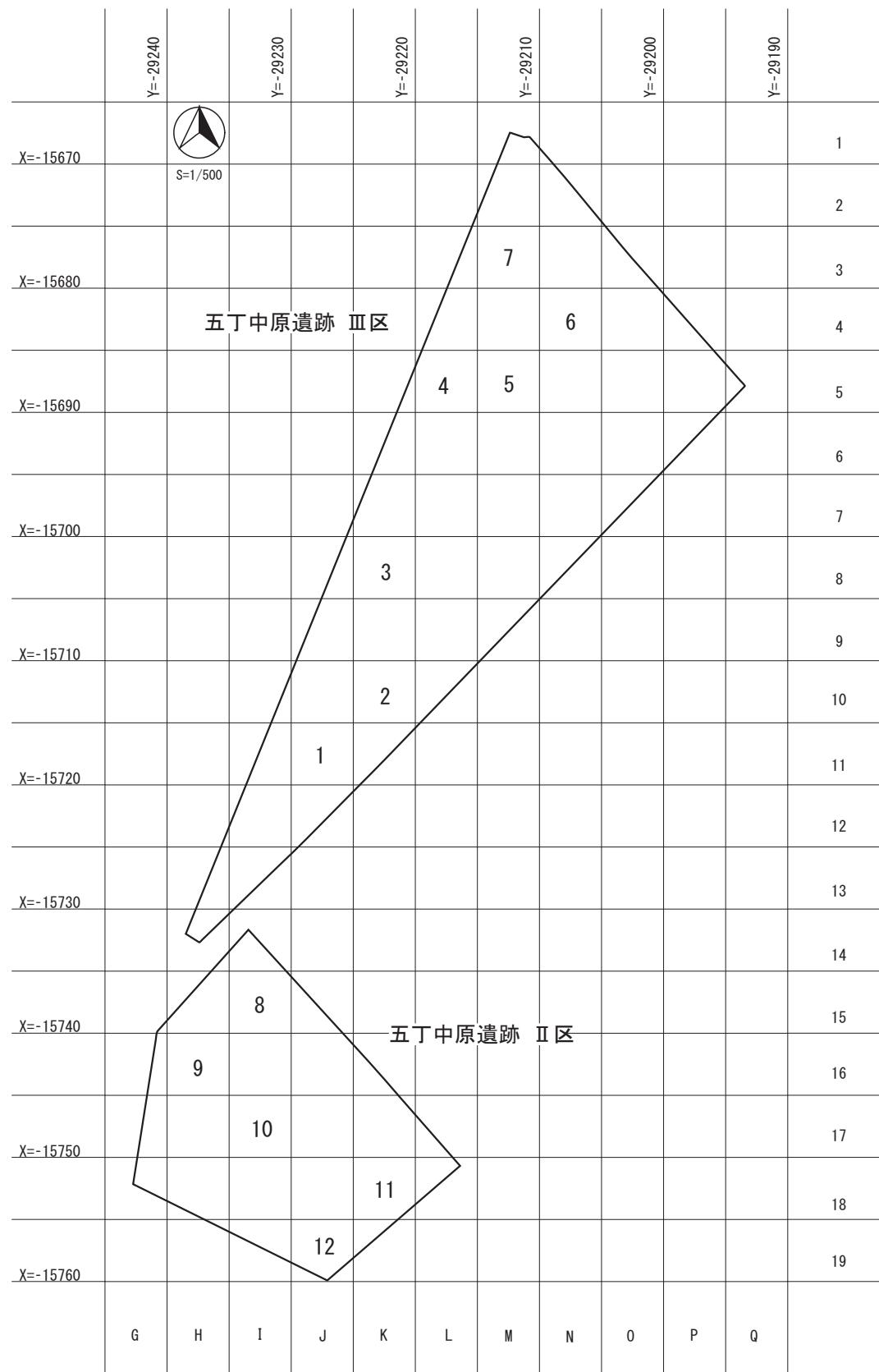
第7図 グリッド図 5



第8図 グリッド図6



第9図 グリッド図 7

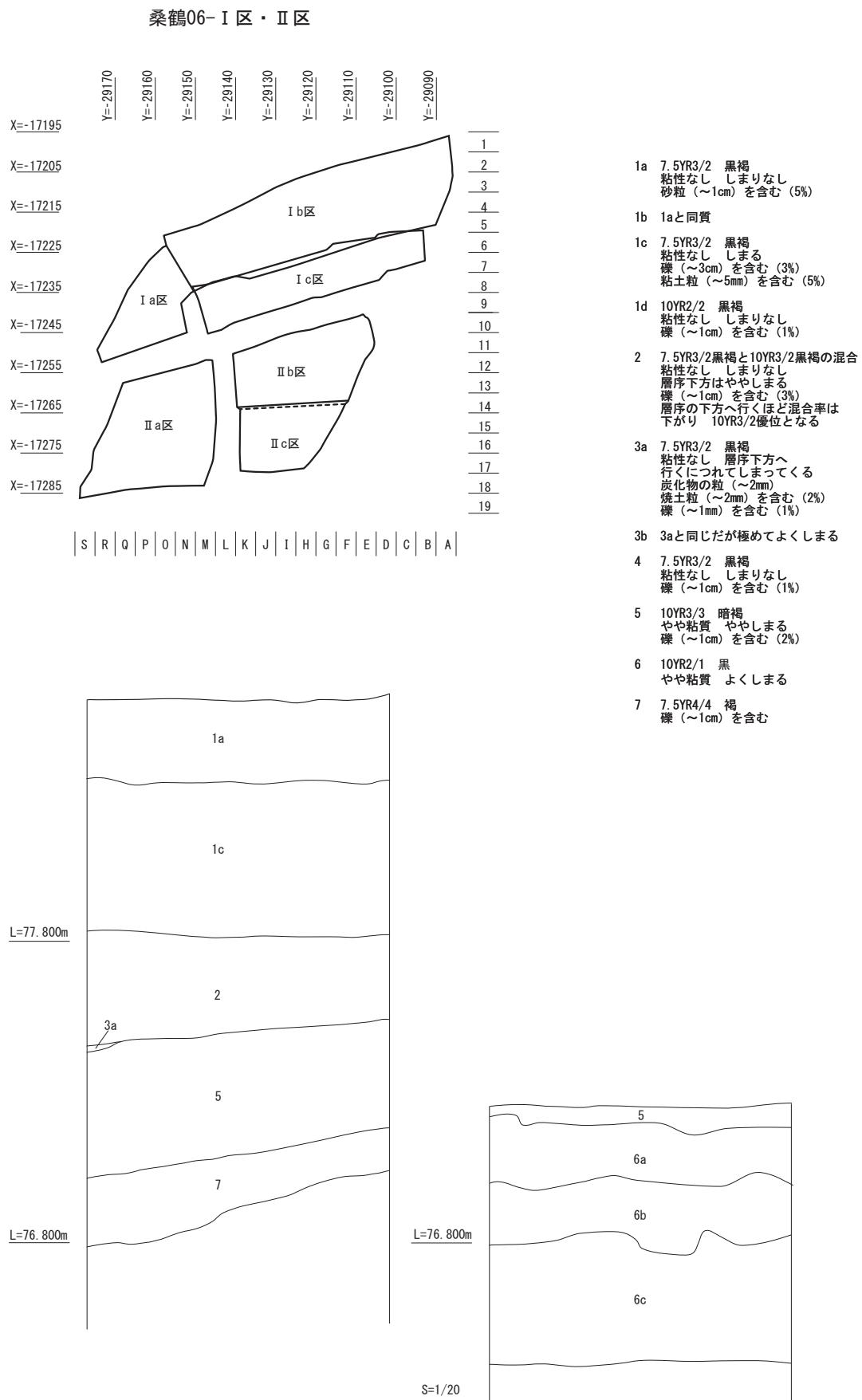


第10図 グリッド図 8

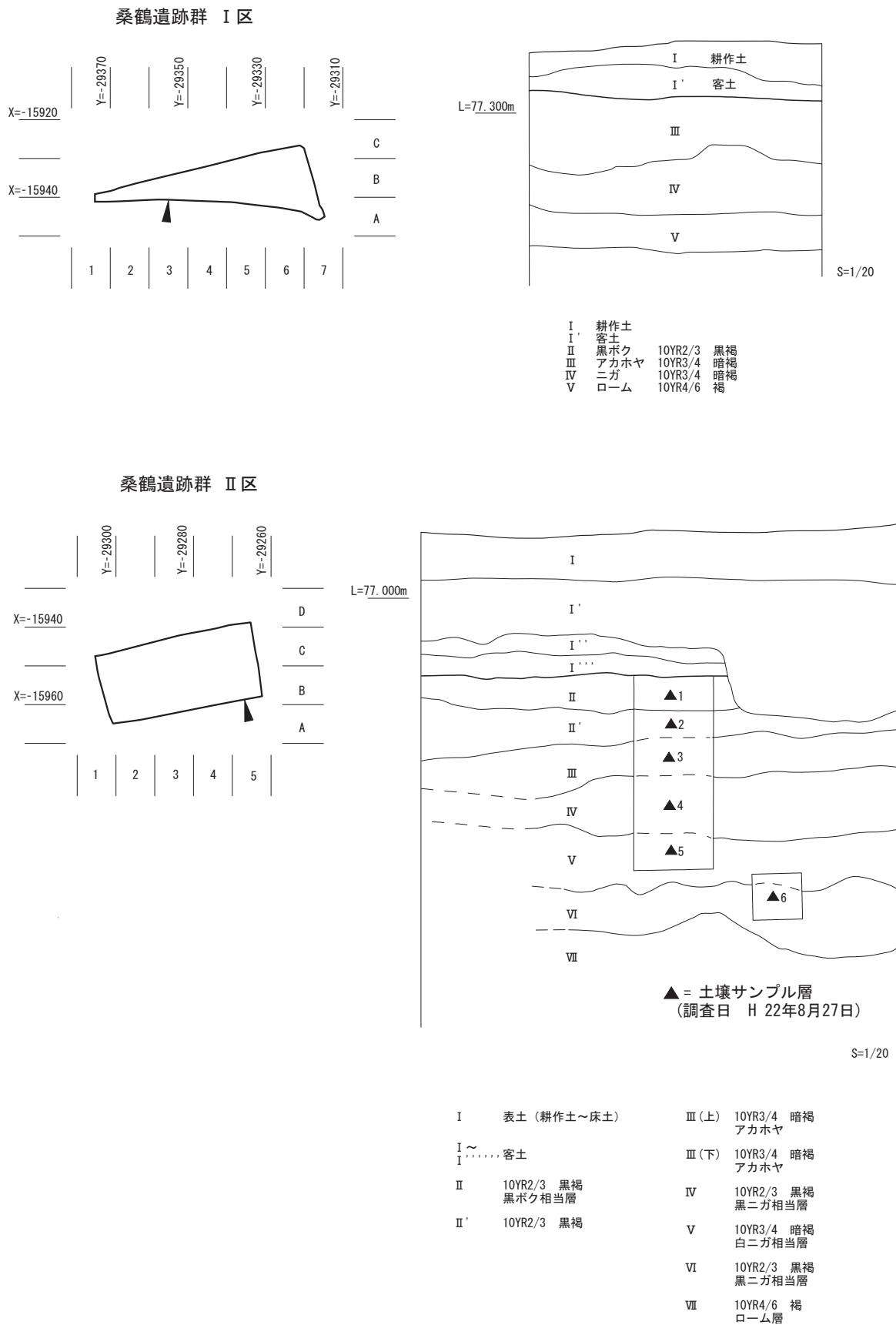
クワ06-I区・II区		クワI区		クワII区		クワIII区		クワIV区		クワV区		クワVI区	
0層	表土ハギ時の盛土	I層	表土（耕作土～表土）	I · I'層	客土	I層	表土・客土	I層	表土・客土	I層	表土・客土	I層	表土・客土
1a · 1b層	黒褐色土現代耕作層 7.5YR3/2	II層	黒褐色土黒ボク 10YR2/3	II · I'層	黒ボク 中世～古代	II層	黒褐色土黒ボク 10YR2/3	I' · I' · · · · · 層	客土	II層	黒褐色土黒ボク 10YR2/3	I層	表土・客土
1c層	黒褐色土現代の客土層 7.5YR3/2	III層	暗褐色土アカホヤ 10YR3/4	II · II'層	黒褐色土（黒ボク） 10YR2/3	III層	(a · b) アカホヤ ▲ 1 ▲ 2	IIIa層	暗褐色土アカホヤ漸位置 10YR3/4	IIIb層	褐色土アカホヤ 遺構出 10YR4/4	IIIa層	暗褐色土アカホヤ漸位置 10YR3/4
1d層	黒褐色土現代の客土層 10YR2/2	IV層	暗褐色土ニガ 10YR3/4	III層 (上 · 下) (a · b)	暗褐色土 (アカホヤ) 10YR3/4	IV層	黒色土 縄文早期 10YR3/3	III層 (上 · 下)	暗褐色土 アカホヤ 7.5YR3/3	IV層	にぶい黄褐色土 縄文早期 10YR4/3	IV層	暗褐色土黒ニガ 7.5YR3/4
2a層	2b層 黒褐色土近現代耕作層 7.5YR3/2と10YR3/2との混合	V層	褐色土ローム 10YR4/6	IV層	黒褐色土黒ニガ 10YR2/3	V層	白ニガ ▲ 4	V層	褐色土白ニガ 7.5YR4/3	V層	褐色土白ニガ 7.5YR4/3	V層	口一ム層
3a · 3b層	黒褐色土近世耕作層 7.5YR3/2	V層	暗褐色土白ニガ 10YR3/4	VI層	黒褐色土黒ニガ 10YR2/3	VI層	黒ニガ ▲ 5	VI層	耕作土	VI層	耕作土	VI層	耕作土
4層	黒褐色土包含層 7.5YR3/2	VII層	褐色土ローム 10YR4/6	VII層	褐色土口一ム層 10YR4/6	VII層	褐色土口一ム層 10YR4/6	VII層	耕作土	VII層	耕作土	VII層	耕作土
5層	黒褐色土アカホヤ土 10YR3/3	VIII層	褐色土口一ム層 10YR4/6	VIII層	褐色土口一ム層 10YR4/6	VIII層	褐色土口一ム層 10YR4/6	VIII層	客土	VIII層	客土	VIII層	客土
6a層 · 6b層 · 6c層	黒色土ニガ土層 10YR2/1	IX層	暗褐色土・黒色土ニガ土層 10YR2/1	IX層	暗褐色土・黒色土ニガ土層 10YR2/1	IX層	暗褐色土・黒色土ニガ土層 10YR2/1	IX層	客土	IX層	客土	IX層	客土
7層	褐色土口一ム層 7.5YR4/4	X層	褐色土口一ム層 7.5YR4/4	X層	褐色土口一ム層 7.5YR4/4	X層	褐色土口一ム層 7.5YR4/4	X層	近現代	X層	近現代	X層	近現代
※II区II'層はV区IIIa層（アカホヤ漸位置）にあたる可能性 II区III(上 · 下)はV区IIIb層（アカホヤ層）に相当する													
クワII区													
耕作土 · 客土	近現代	耕作土 · 客土	近現代	耕作土 · 客土	近現代	耕作土 · 客土	近現代	耕作土 · 客土	近現代	耕作土 · 客土	近現代	耕作土 · 客土	近現代
擾乱 1		擾乱 1		擾乱 1		擾乱 1		擾乱 1		擾乱 1		擾乱 1	
擾乱 2		擾乱 2		擾乱 2		擾乱 2		擾乱 2		擾乱 2		擾乱 2	
擾乱 3		擾乱 3		擾乱 3		擾乱 3		擾乱 3		擾乱 3		擾乱 3	
IV層 暗褐色土 縄文後晩期 10YR3/4		IV層 暗褐色土 縄文後晩期 10YR3/4		IVa層 黒褐色土・アカホヤ漸位置 縄文後晩期 10YR2/3		IVa層 黒褐色土・アカホヤ漸位置 縄文後晩期 10YR2/3		IVb層 暗褐色土 縄文後晩期 10YR3/4		IVb層 暗褐色土 縄文後晩期 10YR3/4		V層 黑褐色土 縄文早期 10YR3/3	
V層 黑褐色土 縄文早期 10YR3/4		V層 黑褐色土 縄文早期 10YR3/4		V層 黑褐色土 縄文早期 10YR3/3		V層 黑褐色土 縄文早期 10YR3/3		V層 黑褐色土 縄文早期 10YR3/3		V層 黑褐色土 縄文早期 10YR3/3		VI層 暗褐色土・白ニガ 10YR3/4	
VI層 暗褐色土・白ニガ 10YR3/4		VI層 暗褐色土・白ニガ 10YR3/4		VI層 暗褐色土・白ニガ 10YR3/4		VI層 暗褐色土・白ニガ 10YR3/4		VI層 暗褐色土・白ニガ 10YR3/4		VI層 暗褐色土・白ニガ 10YR3/4		VII層 黑褐色土・黒ニガ 10YR2/3	
VIII層 黃褐色土 縄文早期 10YR3/3		VIII層 黃褐色土 縄文早期 10YR3/3		VIII層 黃褐色土 縄文早期 10YR3/3		VIII層 黃褐色土 縄文早期 10YR3/3		VIII層 黃褐色土 縄文早期 10YR3/3		VIII層 黃褐色土 縄文早期 10YR3/3		VIII層 黃褐色土 縄文早期 10YR3/3	

第 11 図 土層柱状図

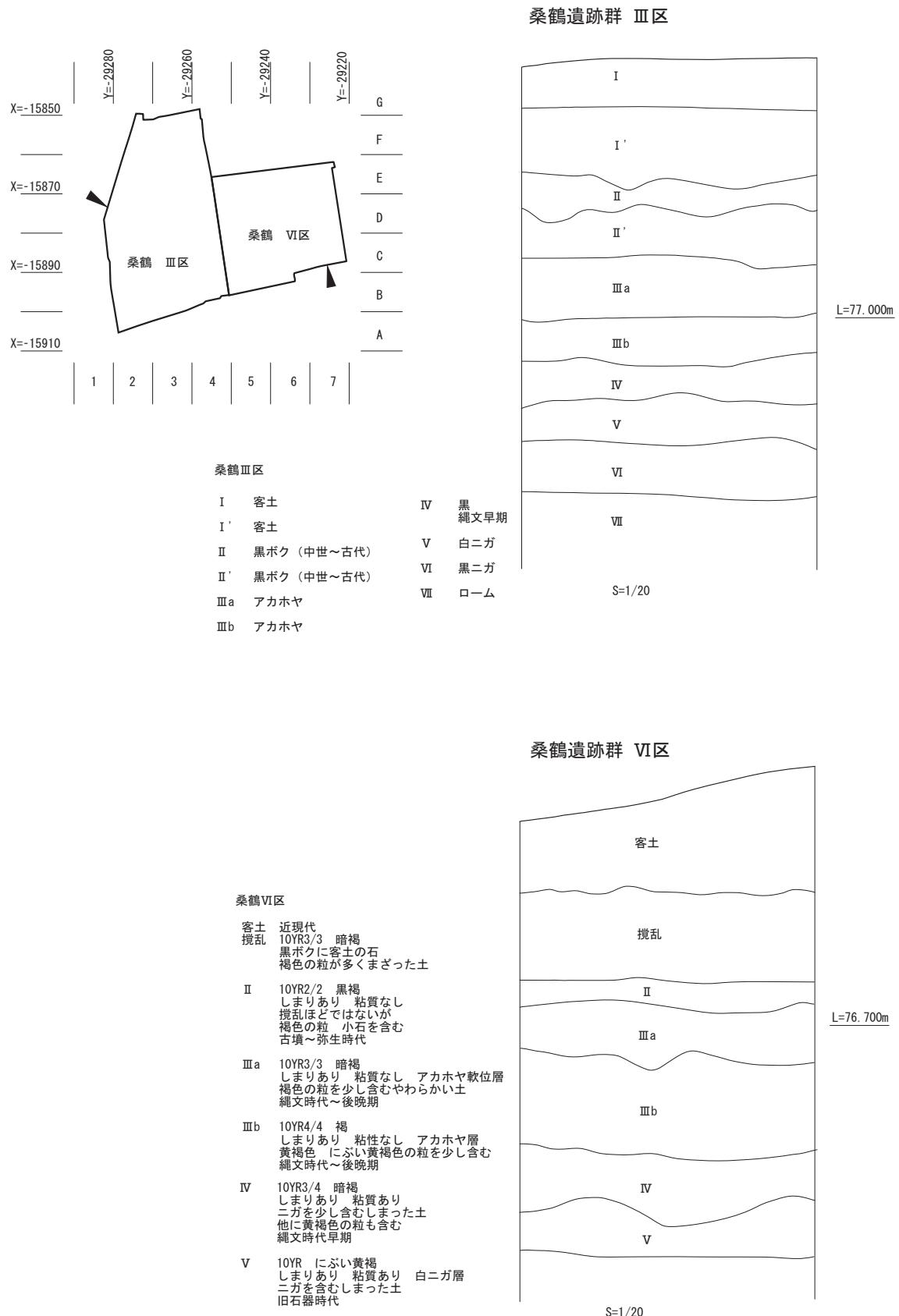
クワ = 桑鶴遺跡群  
ゴナ = 五丁中原遺跡  
▲ = 科学分析採集地点



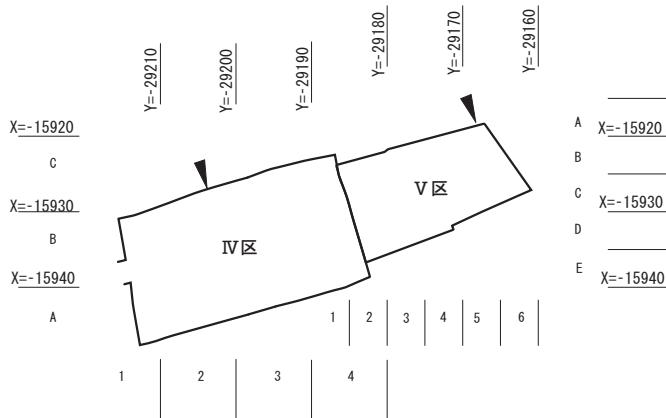
第12図 基本土層図1



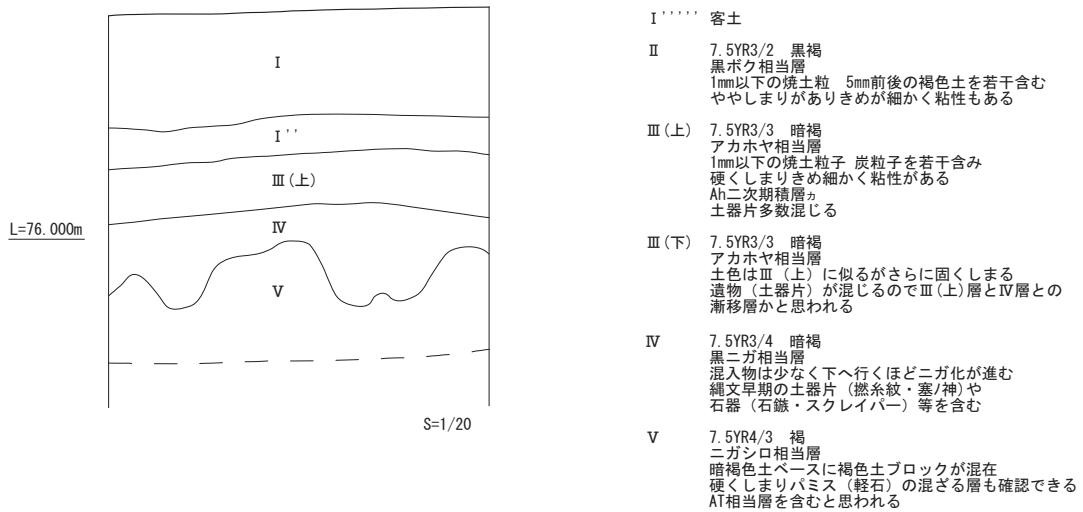
第 13 図 基本土層図 2



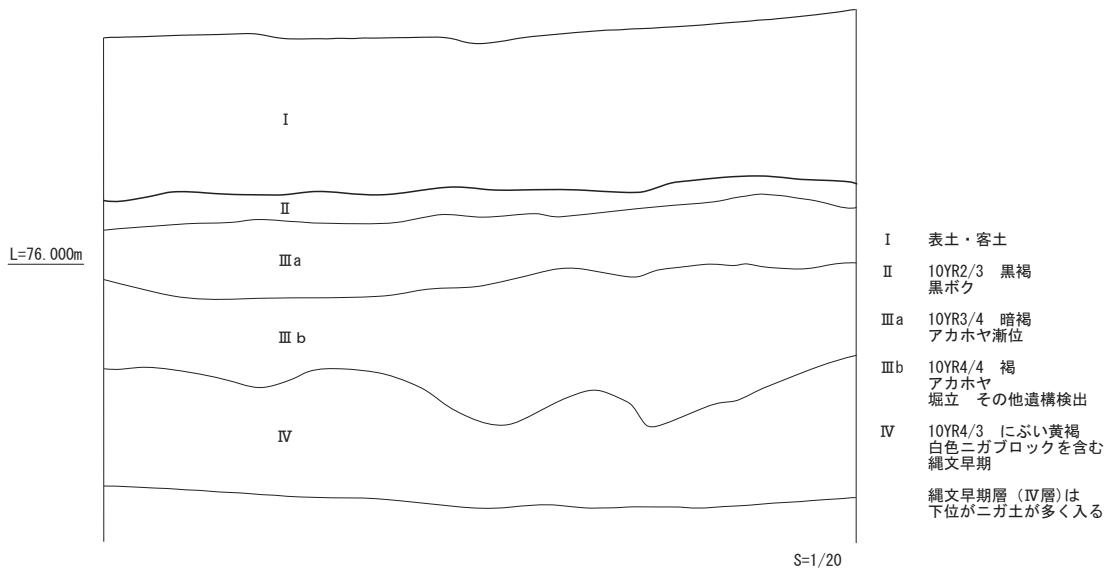
第14図 基本土層図 3



桑鶴遺跡群 IV区

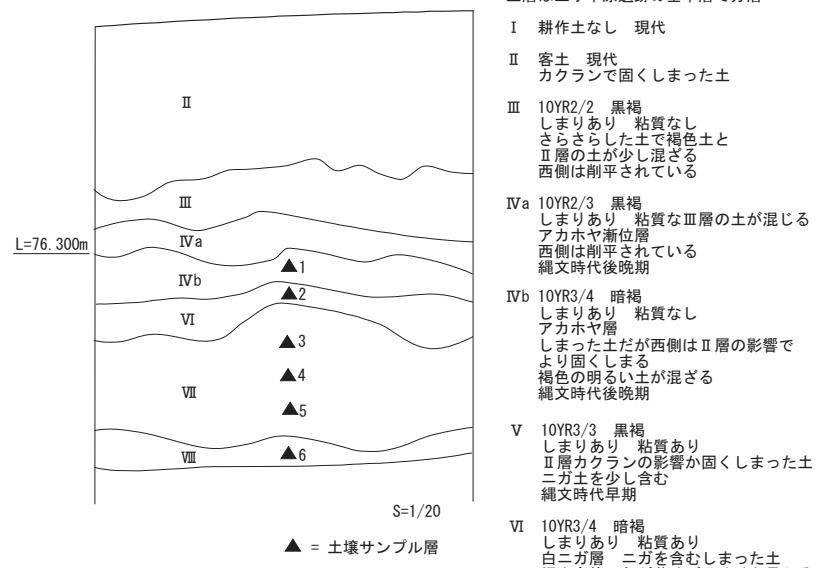
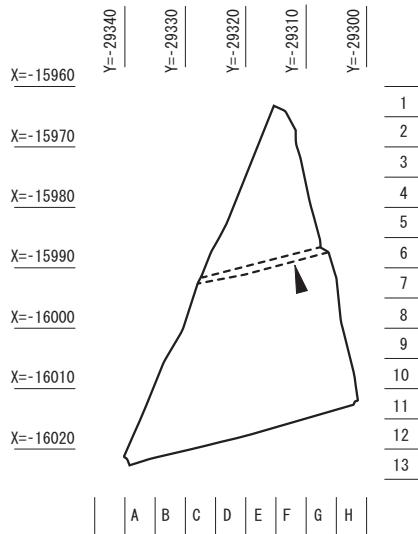


桑鶴遺跡群 V区

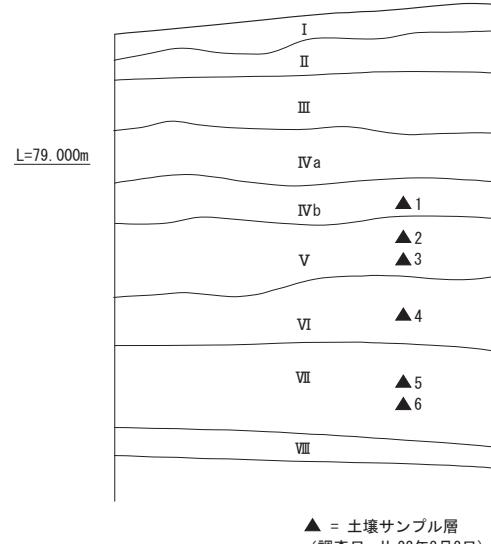
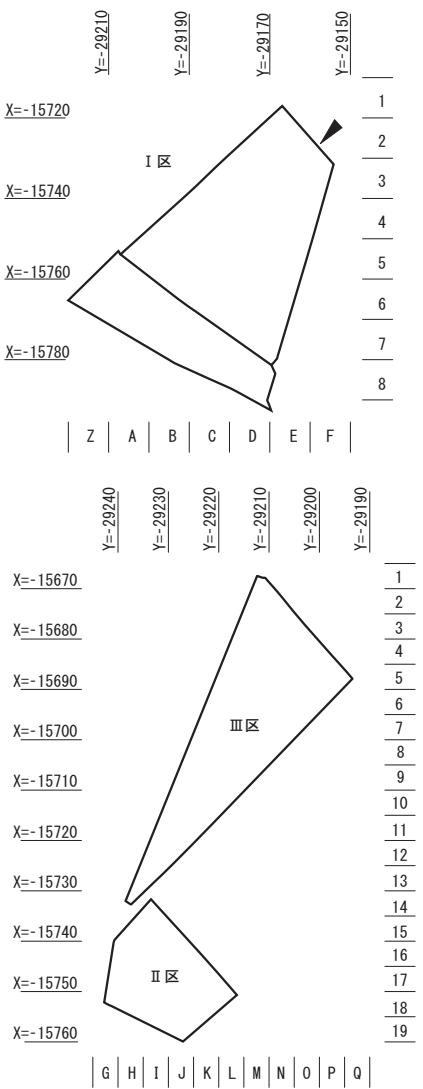


第15図 基本土層図 4

## 桑鶴遺跡群 VIII区



## 五丁中原遺跡 I ~ III区



- |  |   |
|--|---|
| I 耕作土  | V 10YR2/3 黒褐<br>粒子は細かく粘質は低い<br>縄文早期の層                                     |
| II 客土  | VI 10YR3/3 暗褐 (ニガシロ)<br>粒子は細かく粘質は強い<br>ブロック状の固い土があり白っぽく見える<br>これ以降の層は旧石器  |
| III 10YR2/2 黒褐 (黒ボク)<br>粒子は細かくさらさらした土 粘質は低い<br>本来なら中世から弥生にかけての包含層<br>削平され遺物等は少くない<br>II層の影響で固くしまっている | VII 10YR2/3 黒褐 (黒ニガ)<br>粒子は細かく粘質は強い<br>ブロック状の固い土がある<br>樹痕によるカクランと焼土炭が多くある |
| IVa 10YR3/4 暗褐 (アカホヤ漸位)<br>粒子は細かくさらさらした土 粘質は低い<br>縄文後晩期の層  | VIII 10YR5/8 黄褐 (ローム)<br>粘質がとても強い粘土層                                      |
| IVb 10YR3/3 暗褐 (アカホヤ)<br>粒子は細かく粘質は強い<br>縄文前期と見られる  |   |

第16図 基本土層図 5

## 第IV章 調査の成果

### 第1節 旧石器

#### (1) 旧石器時代の遺物

##### ①はじめに

桑鶴遺跡群と五丁中原遺跡から出土した旧石器について、各遺跡の調査区ごとに報告していきたい。報告者が旧石器と判断した石器は以下の条件を満たすものとした。

- ・調査者が、旧石器出土該当層（地層形成の年代が旧石器時代にあたる層）から出土した遺物（一括及び点あげ）として取り上げた遺物。但し、明らかに旧石器ではないと判断した石器や剥離面が新しいと判断した石器等については除外した。
- ・旧石器出土該当層より以降の新しい時代の層（出土層不明、表土、攪乱層、縄文時代・古代・中世の遺構や遺物包含層など）から出土した石器の中に含まれている明らかな旧石器や旧石器と考えられる石器（例えばナイフ形石器などの定形石器、剥離面の風化が激しい石器、縦長剥片剥離の傾向がある石器など）。

##### ②出土層位（第4表参照）

旧石器出土該当層は、調査区により若干異なるが、旧石器が多く出土した桑鶴VII区や五丁中原I区ではVI層、VII層、VIII層上層が該当する。各層は場所により層の厚さが異なり、インボリューションも見られる。噴出年代がBP28,000～27,000年とされる始良Tn火山灰は、テフラ分析は未実施であるが周辺地域の調査事例からVI層と考えられる。VI層、VII層には通称ニガと呼ばれる始良Tn火山灰を含む硬化層が存在する。

しかし、本遺跡で実施した放射性炭素年代（C 14 年代）測定結果では、層の年代を裏付ける良好な結果は得られていない。各層から採取したカーボンが自然現象や動植物等の影響で上下層に混入した可能性が高い。よって旧石器出土該当層から出土した石器であっても本来の原位置を保っているとは断定できない。

なお、桑鶴II区（第19図）、VIII区（第23、24図）、五丁中原I区（第28、29図）の土層断面図には周辺から出土した遺物の投影したレベル位置を表示している。

##### ③各遺跡、各調査区の出土遺物

調査区により、遺物点上げ、あるいは出土層一括で取り上げを実施している。特に桑鶴II区、VIII区、五丁中原1区では遺物点上げによる遺物が多い。点上げ遺物を中心に接合を試みたが接合遺物はなかった。ここでは調査区ごとに図化した石器を中心に報告したい。

なお、石材は報告者の肉眼観察によるものであることを断っておきたい。

##### ◆桑鶴I区（第20図、第7表参照）

4点の石器が出土している。ナイフ形石器2点、細石刃1点、角錐状石器1点であるが、旧石器出土該当層から出土している石器は1の二側刃加工ナイフのみである。

##### ◆桑鶴II区（第21図、第7表参照）

確実な旧石器2点と旧石器該当層から出土した石器4点の6点を図化した。9は二側刃加工ナイフ、10は縦長剥片でいずれも出土層位不明である。10の石材は、緑川周辺で産出される輝緑凝灰岩で旧石器の石材に良く利用される。11、13、14は阿蘇4系黒曜石（Aso-4 ob）の石核で、12は剥片である。V～VII層（白ニガ～ローム層）の点上げ遺物ということで図化した。この他にも当該層から12点の点上げ石器がある。

##### ◆桑鶴III区、IV区、VI区（第20図、第7表参照）

III区では廃土中から細石刃（6）が1点、IV区ではIV層の黒ニガ（縄文早期相当層）から細石刃（7）が1点、VI区では同じIV層から台形様石器（4）が1点出土している。

◆桑鶴VIII区（第25、26図、第7表参照）

13点の石器を図化した。15は二側刃加工ナイフ形石器、16は切出形ナイフ形石器、17は角錐状石器、21、22は台形様石器、20、25は二次加工剥片、27はサイドスクレイパー、18は細石刃、その他は剥片と碎片である。15～18、21以外は旧石器出土該当層（VI～VIII層）から出土しており、AT下層のVII～VIII層から出土している石器が多い。

◆五丁中原I区（第30、31図、第7表参照）

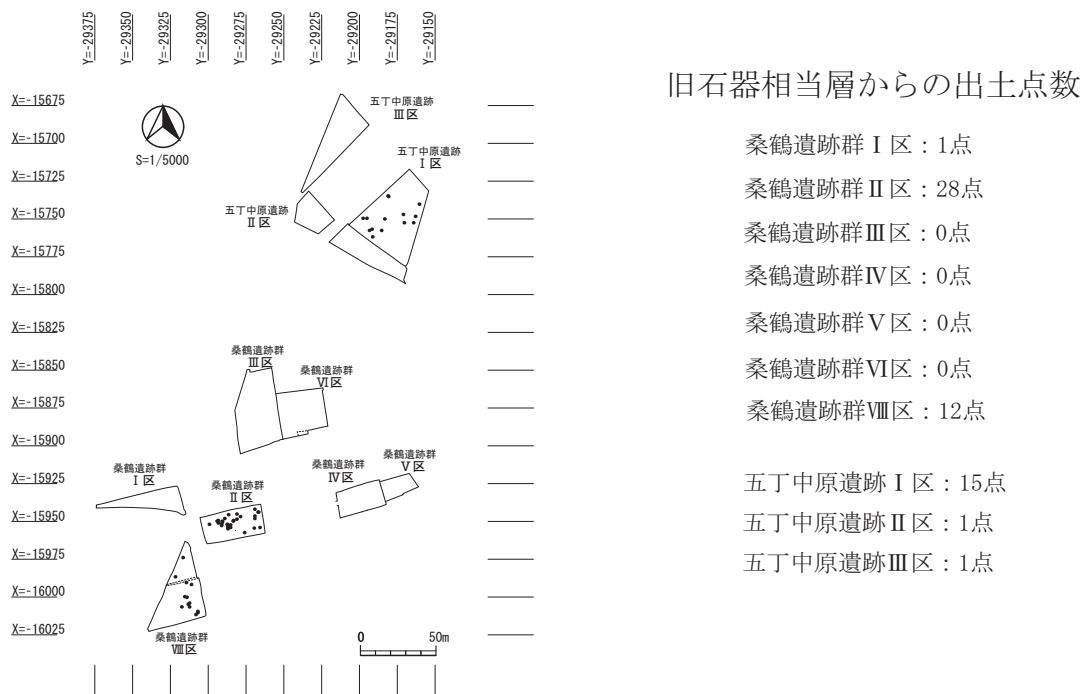
15点の石器を図化した。29、34は二側刃加工ナイフ形石器、33は国府系の横剥ぎ素材のナイフ形石器、32は角錐状石器、36、37、39、40は細石刃、その他は剥片である。31～33、36、37、40以外は旧石器出土該当層（VI～VIII層）から出土しており、VI、VII層から出土している石器が多い。V層（縄文早期相当層）出土の細石刃（36、37、40）が3点、VI層出土の細石刃（39）が1点あった。

◆五丁中原II区、III区（第31図、第7表参照）

II区ではVI～VII層一括取り上げ遺物の中から剥片（43）が1点、III区ではVI層取り上げ遺物の中から二次加工剥片（42）が1点出土している。

【註】

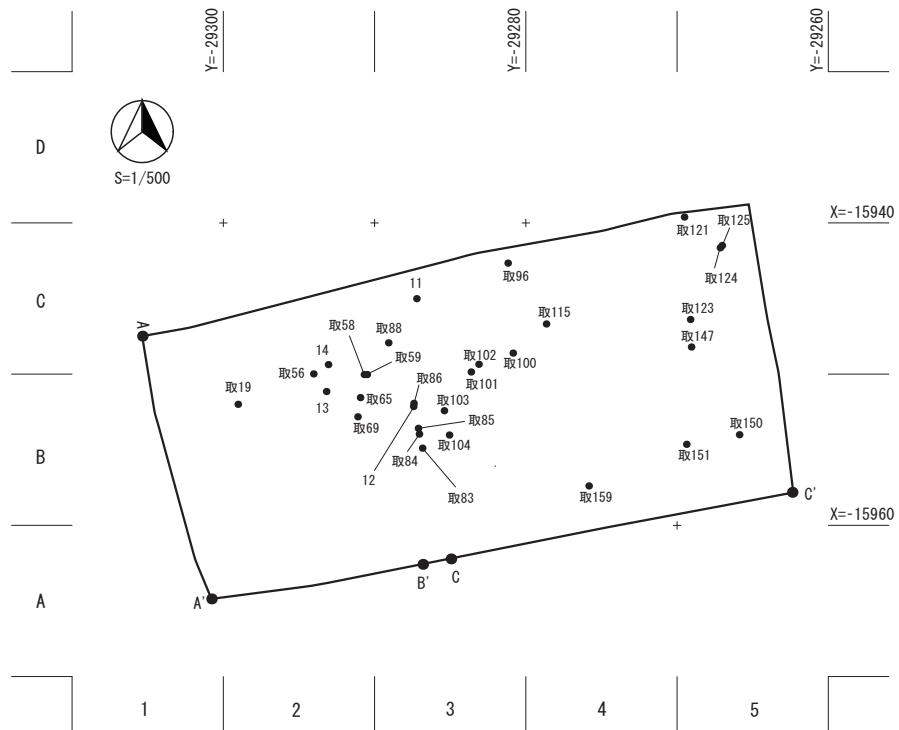
- 1) 石の本遺跡群IIの発掘調査報告書（池田朋生 1999）で実施されたテフラ分析によると黒色帶上層で縄文時代早期の通称クロニガの下層にある含白斑ローム黒褐色粘質土層中に「始良 Tn 火山灰」が含まれると報告されている。



第17図 調査区位置図

器種 出土層位	台形様 石器	切り出し 形ナイフ	二側刃 ナイフ	横剥ぎ ナイフ	ナイフ 形石器	角錐状 石器	スクレ イバー	細石刃	石核	二次加 工剥片	剥片	碎片	合計
○ IV層～VII層 【旧石器出土 相当層】	1	0	3	0	0	0	1	2	9	4	24	14	58
× 攪乱層 I層～V層 層位不明など	2	1	1	1	2	3	0	9	0	0	3	0	22
合計	3	1	4	1	2	3	1	11	9	4	27	14	80
器種 石材	台形様 石器	切り出し 形ナイフ	二側刃 ナイフ	横剥ぎ ナイフ	ナイフ 形石器	角錐状 石器	スクレ イバー	細石刃	石核	二次加 工剥片	剥片	碎片	合計
腰岳産 黒曜石	1		1			1		6	1	2	3	3	18
阿蘇4系 黒曜石								3	8		9	4	24
在地産 安山岩					1					1	7	3	12
良質安山 岩(西北九 州産)	1		1	1	1					1	3	1	10
象ヶ鼻産 ガラス質 溶結凝灰岩											1		1
チャート	1	1										1	3
流紋岩			1										1
輝緑凝灰岩			1			1	1	1			2		6
不明								1			2	2	5
合計	3	1	4	1	2	3	1	11	9	4	27	14	80

第3表 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡出土 旧石器器種・出土層位点数(写真のみ遺物とドットのみ遺物も含む)



## 第2節 縄文

### 早期の遺構と遺物

縄文時代早期は集石が10基検出された。小規模でありまた密集ではなく散乱という感じを受ける。これは集石が蒸焼き調理法ならば上位である石を除いた状態であろうか。押型文を伴う遺構であるため早期遺構とした。押型文は条痕文（No. 192～194）・山形文（No. 196）・楕円文（No. 198）が認められ、この包含層より塞ノ神式土器（No. 199）の出土も見られる。

しかし、本来の生活居住地である住居は確認できなかった。またこの包含層の堆積は浅く良好な調査区は桑鶴遺跡群（2次）III・V・VI区 五丁中原遺跡調査区であった。

### 中期の遺構と遺物

中期は阿高式土器（No. 54・55・201）が桑鶴遺跡群（2次）II区調査区壁際にて出土した。断面に僅かだが掘り込みが観察され本来は土坑に廃棄された遺物になろうか。本遺跡での縄文中期遺物はこれのみである。

### 後晩期の遺物

後晩期はアカホヤ上位層またはアカホヤ漸移層内にて出土したが良好な出土ではない。近郊にこの時期の大規模遺跡である「太郎迫遺跡」・「妙見遺跡」などが存在するため関連した当時の一集落地であろうが住居等の遺構の検出がなかったためその詳細は不明である。装飾品であろうと推測される（No. 256）はこの時期に想定したが第175図の時期不明の図版に掲載した。

## 第3節 弥生

この時期は明確な遺構の検出ができず、遺物としても数点であるが。No. 257は免田式土器の破片である。重弧文が確認され彩色が施されているため祭祀に用いられていたと思われるが、破片でありまたローリングも激しく出土地点は使用地点とは異なるのであろう。祭祀の性格を持つため、本遺跡では近在に集落の存在を示唆する遺物である。他には同じく彩色の袋状口縁破片（No. 258）がある。他に黒髪式（No. 259・260・261）・城ノ越式（No. 263）など数点出土したことにより中期後半から後期にかけて密度は高くないが弥生期が存在し、1点だけであるが石包丁（No. 485）により稻作を生業としたことが窺え、その生産地は台地下位の井芹川周囲であろう。現在も田園地帯として稲穂を実らせている。

## 第4節 古代

本遺跡のもう一つの成果はこの時期の良好な住居地の検出である。桑鶴遺跡群（2次）III・VI区にて切り合いも多く存在したが、竈付住居の検出は集落の存在を意味し、また住居地に伴う遺物にはヘラ描きの土器も存在し、このことから地名の存在を想定できる資料となった。また桑鶴2次II区にて検出された道路状遺構については時期特定ができないなかつたが、「道」・「集落」という関連を想定することもできる。この台地に8世紀頃の集落の存在が確認され、それは交通を伴う集落と考えられる。

## 第5節 中世

中世は掘立柱建物が検出され、それは複雑な切り合いでなく単独の存在である。これは中世期に集落として短期間的な要素が強く、また掘立柱建物も小規模である。12～13世紀の輸入磁器も出土しており伝世の性格を持つがこの時期が本遺跡の中世期のピークであろう。

また堀の検出があり時期特定に至らなかつたが、この遺構は中世期に館の存在を示唆した。

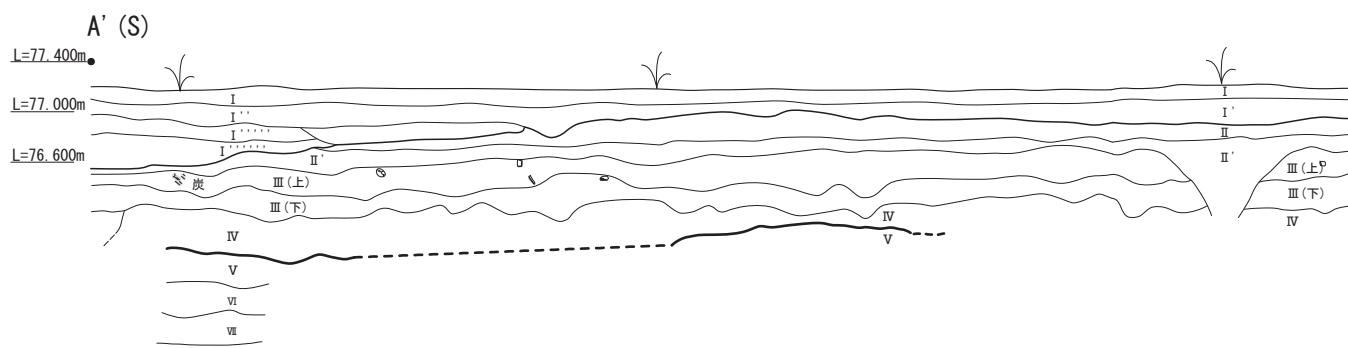
## 第6節 不明

本遺跡は後世の開墾を受けた調査区も多く、検出層・埋土層の観察・出土遺物の確認も行ったが遺構時期について明確ではなく、従って時期不明とした。主に土坑状の掘り込みが多く、またその性格も不明であった。近現代のイモ穴等とは明らかに性格が異なるため、中世以降の可能性もあるが特定が出来なかった。

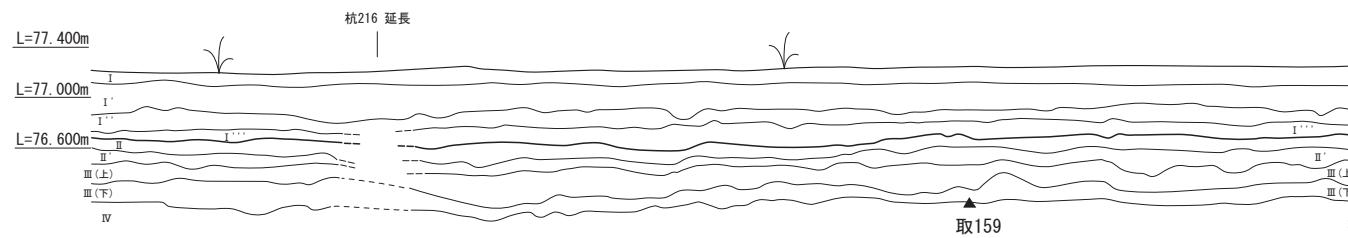
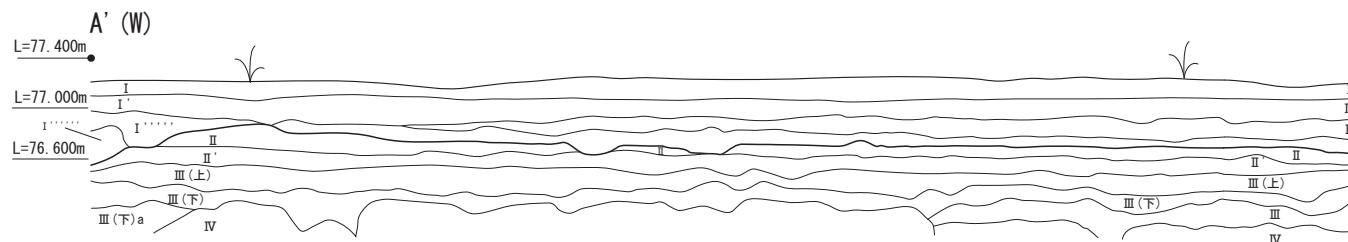


調査休息場所設営

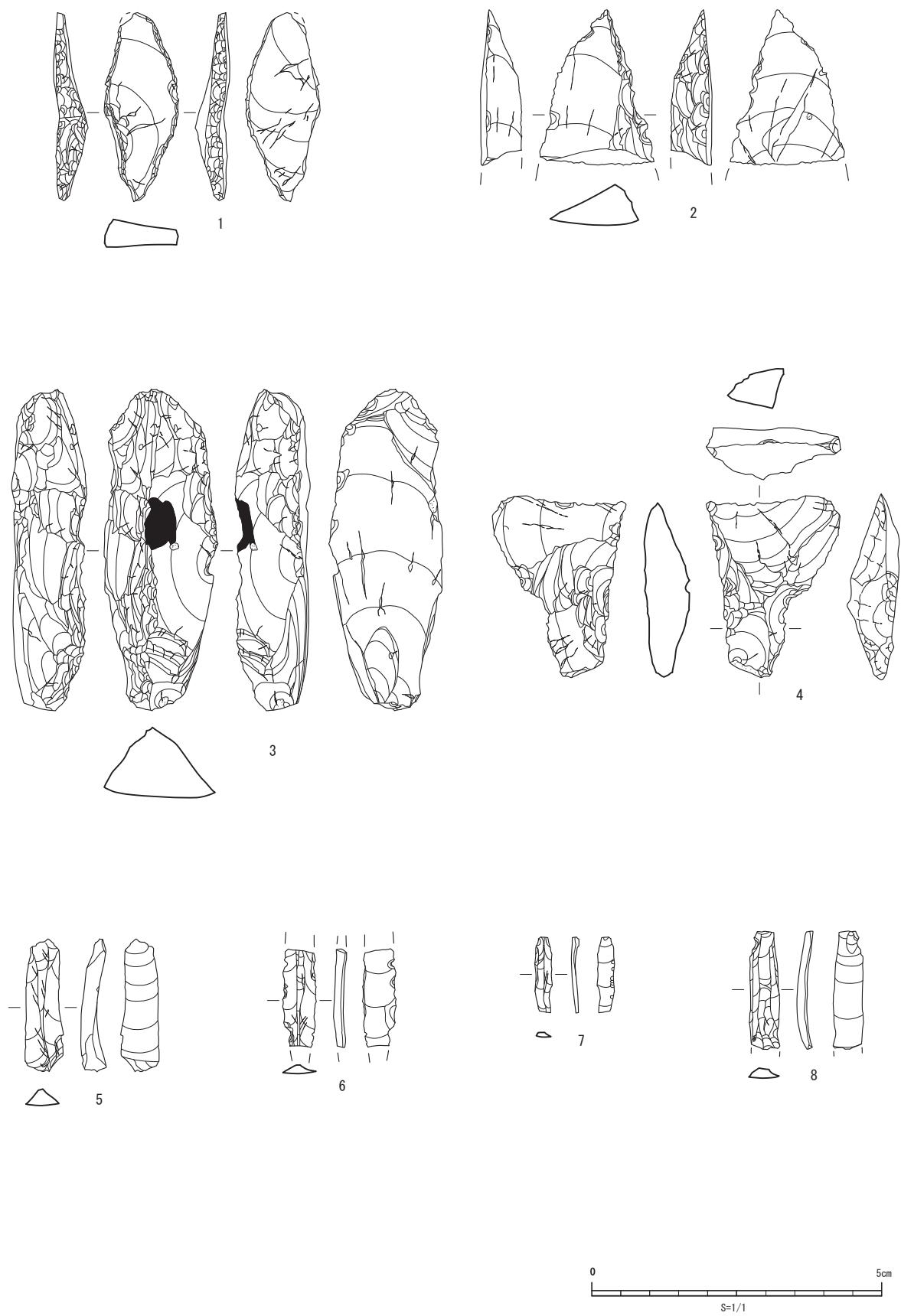
南北壁（西側）A'-A'



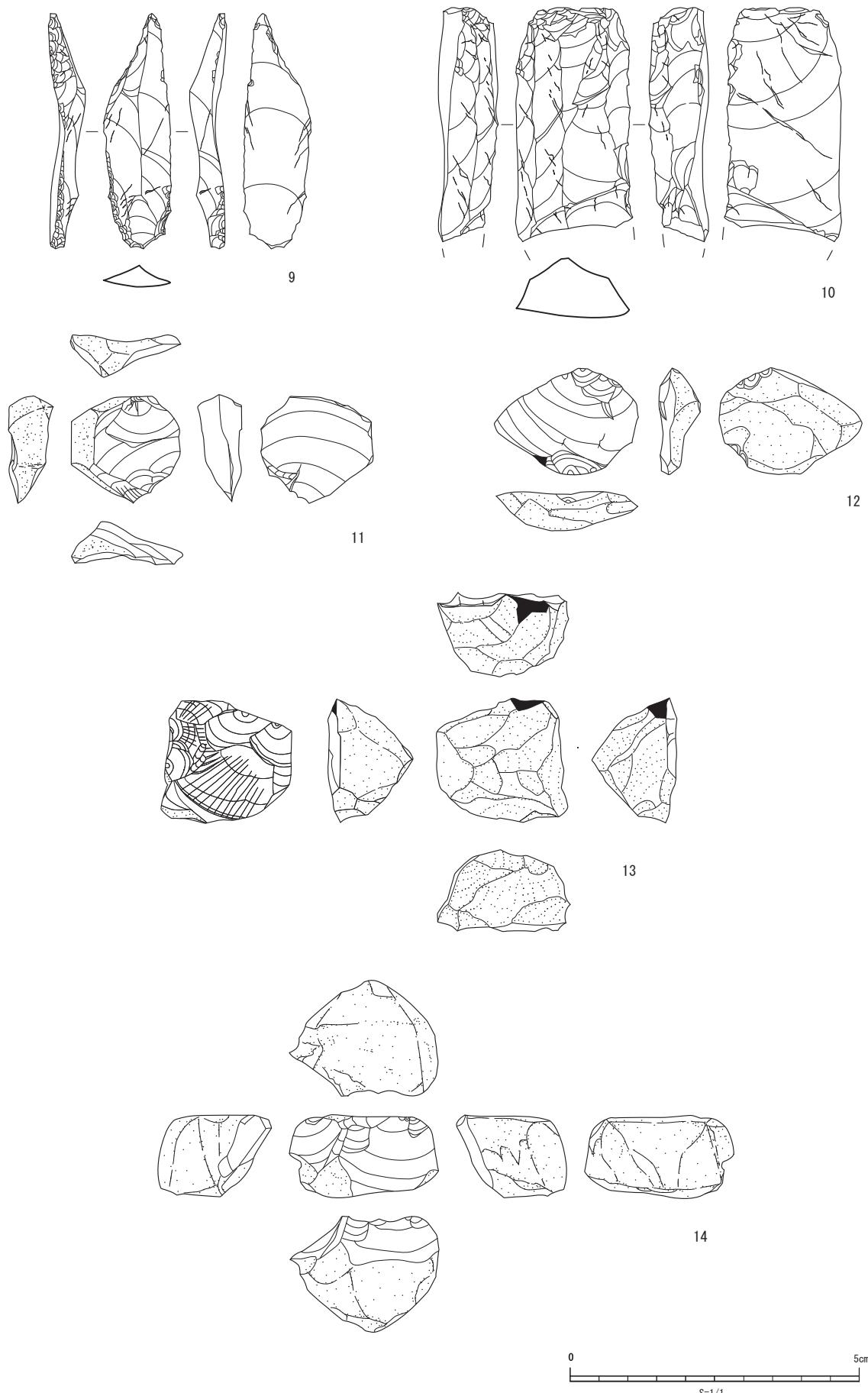
東西壁（南側）A'-B' C-C'



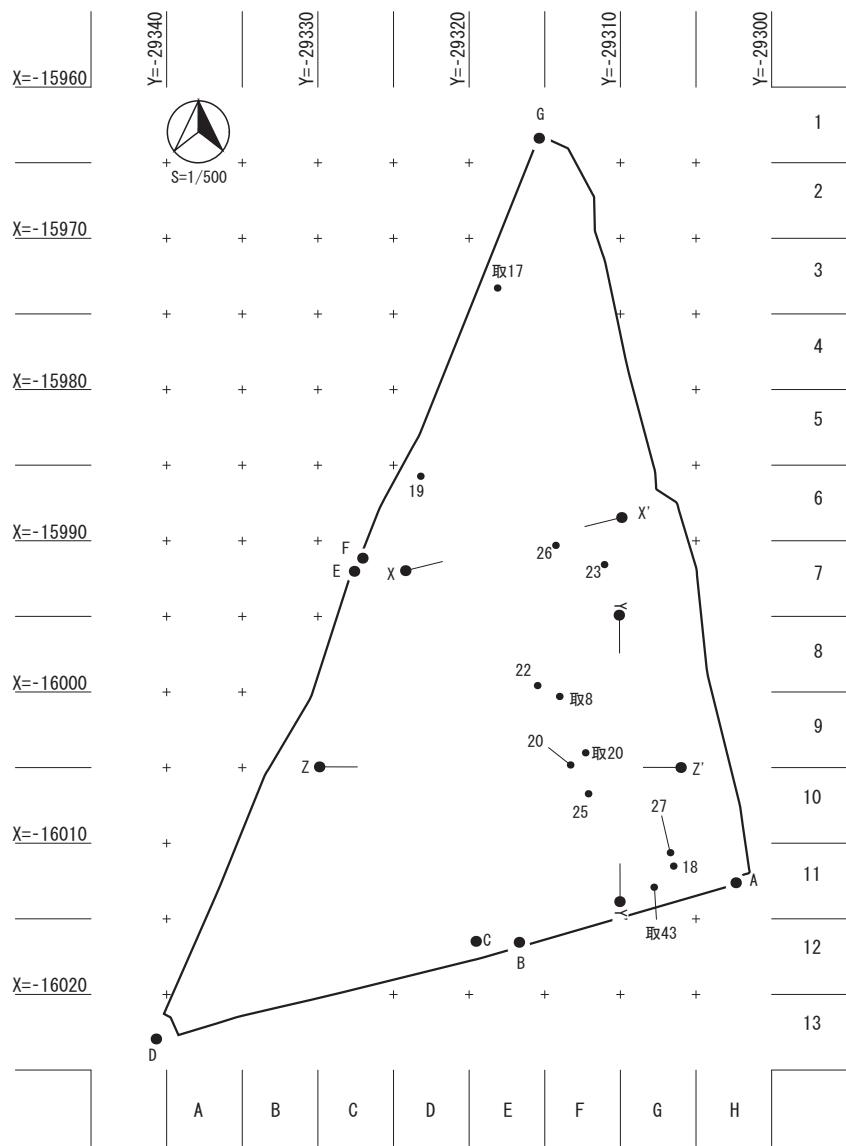
第 19 図 桑鶴遺跡群



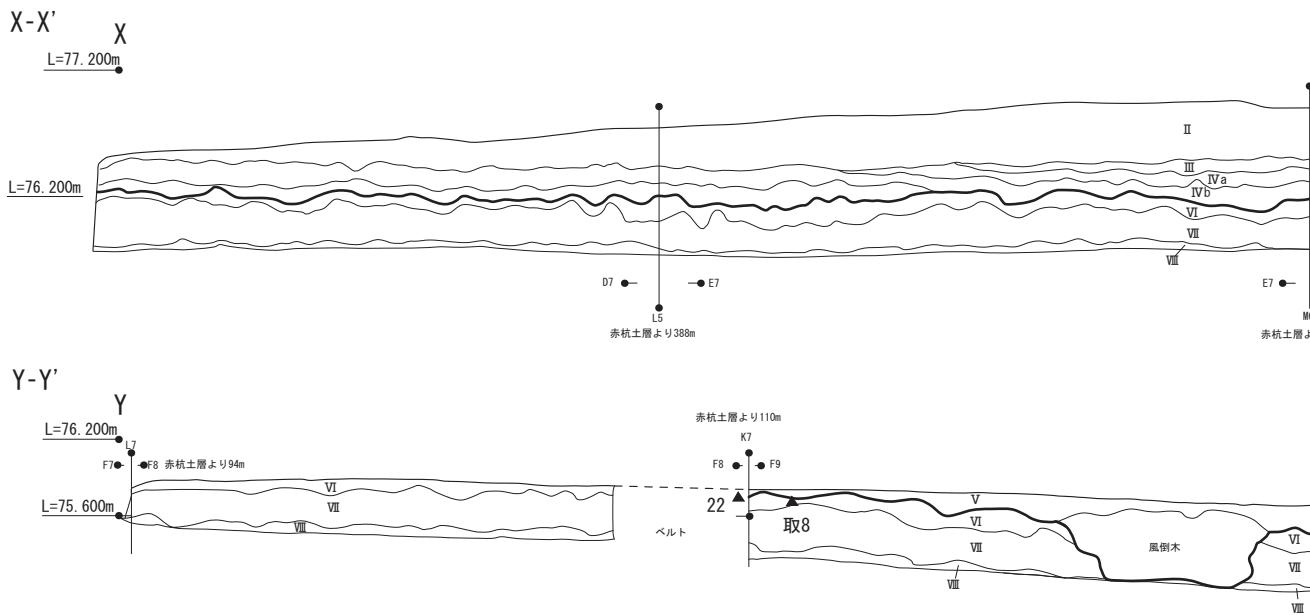
第 20 図 出土遺物実測図 1(桑鶴遺跡群 I・III・IV・VI区・出土地不明)



第 21 図 出土遺物実測図 2(桑鶴遺跡群 II 区)



第 22 図 桑鶴遺跡群 VIII区 旧石器(出土相当層)出土平面図



### X-X' 土手

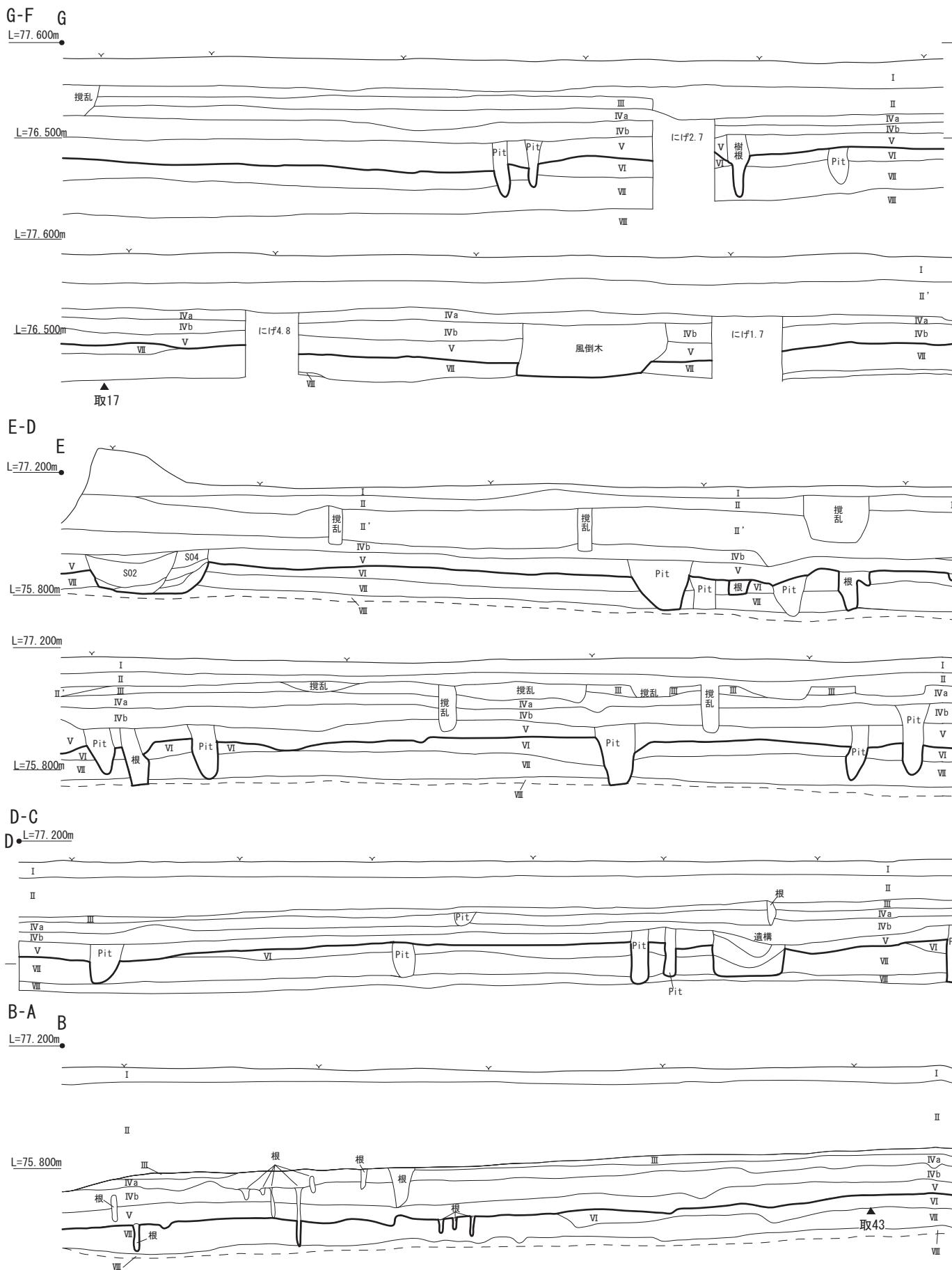
注記

土層は五丁中原遺跡の基本層で分類	
I層	耕作土 無し 現代
II層	密土 現代 カクランで堅くしまった土
III層	10YR2/2 黒褐 しまりあり 粘質なし さらさらした土で褐色土とII層の土が少し混ざる 西側は削平されている 古墳・弥生時代
IVa層	10YR2/3 黒褐 しまりあり 粘質なし III層の土が混じる アカホヤ漸位層 西側は削平されている 縄文時代後晩期
IVb層	10YR3/4 暗褐 しまりあり 粘質なし アカホヤ層 しまった土だが西側はII層 影響で上り硬くしまる 褐色の明るい土が混ざる 縄文時代後晩期
V層	10YR3/3 暗褐 しまりあり 粘質あり II層カクランの影響で硬くしまった土 ニガ土を少し含む 縄文時代早期
VI層	10YR3/4 暗褐 しまりあり 粘質あり 白ニガ土 層にニガ土を含む。しまった土 埋土全体の色が薄くほんやりと見える 旧石器時代

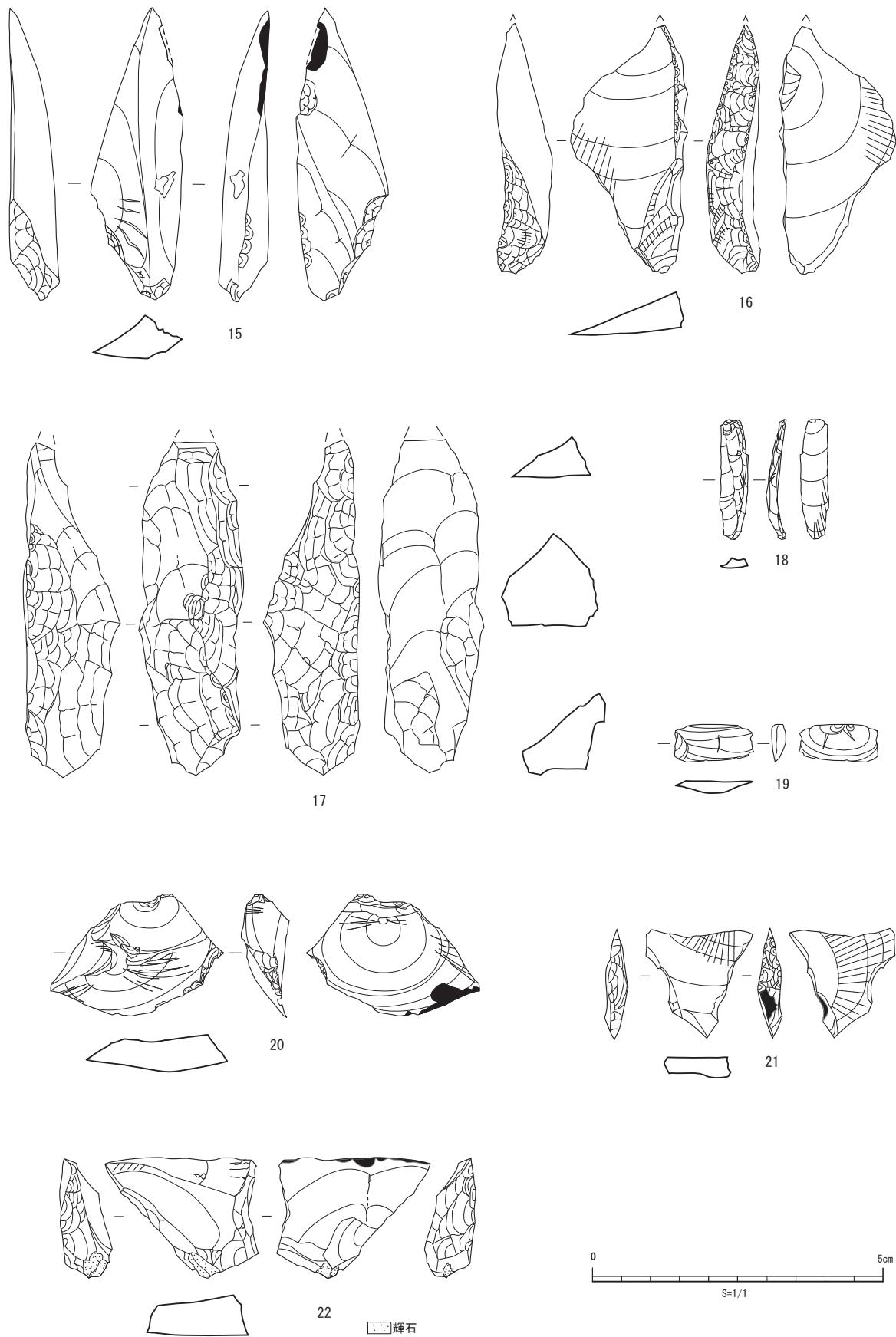
※太線より下層は、旧石器出土該当層

※▲は、出土遺物のレベルを近くの

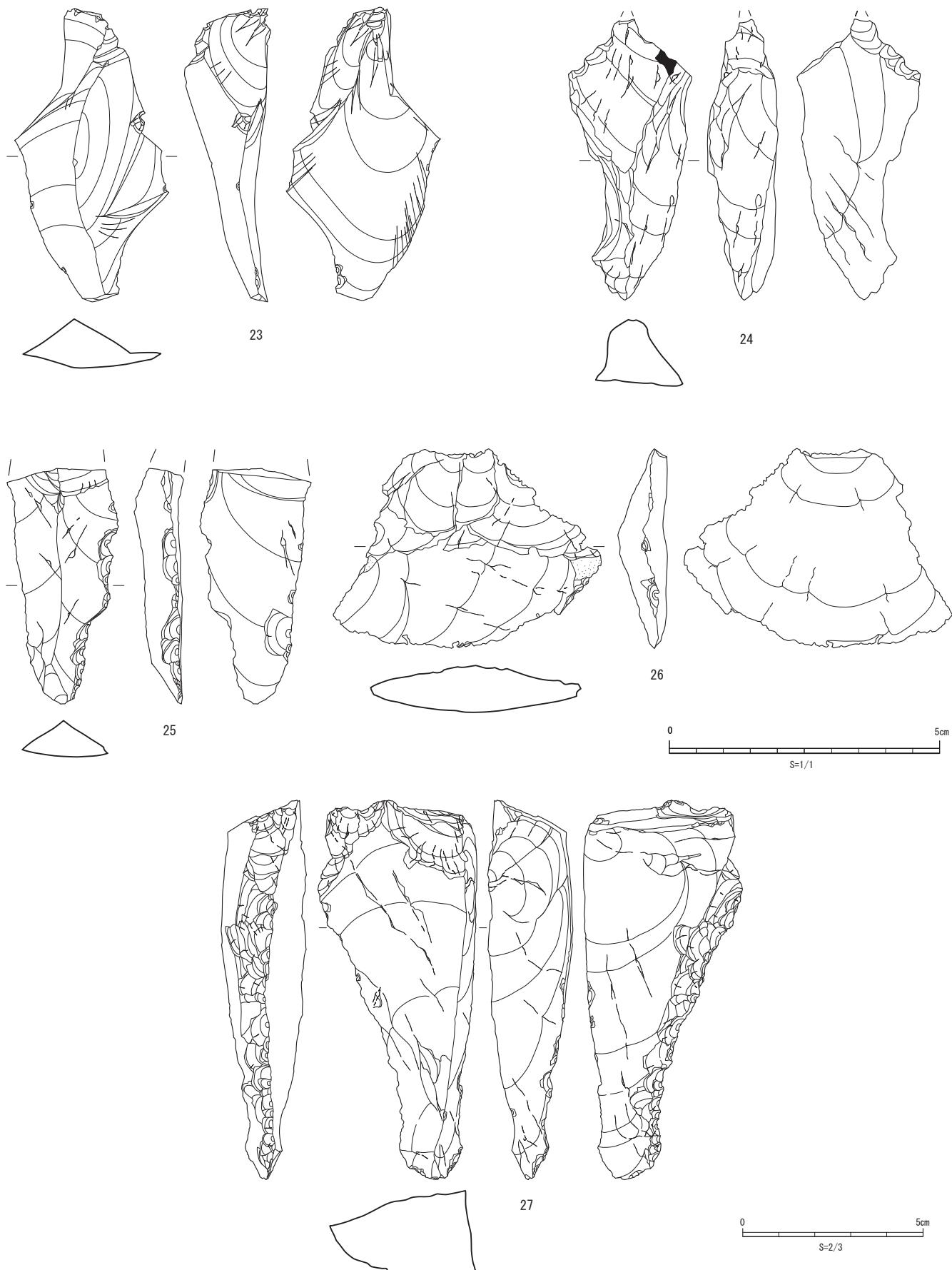
土層断面に投影したもの



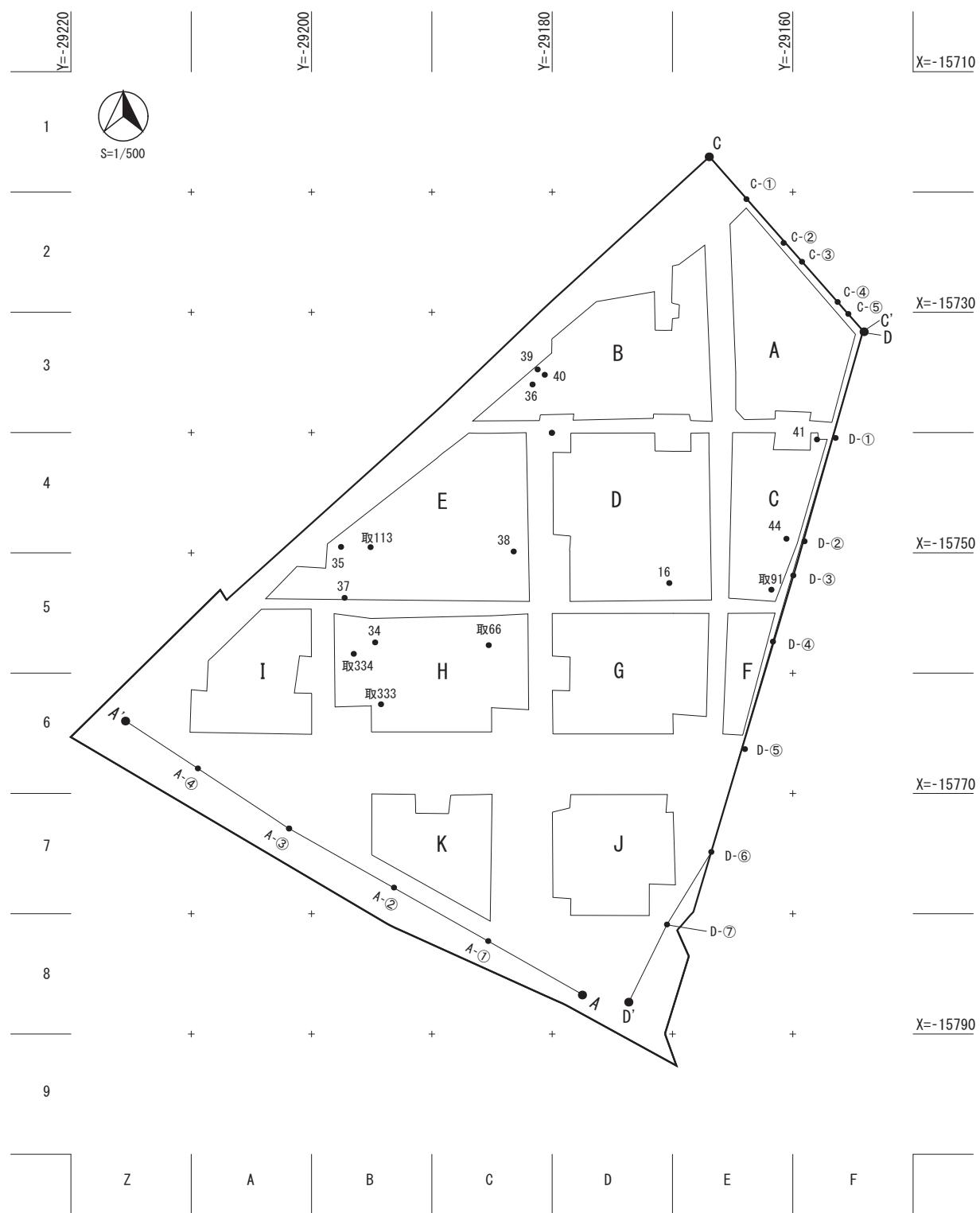
第 24 図 桑鶴遺跡群 VIII区



第 25 図 出土遺物実測図 3(桑鶴遺跡群VIII区①)

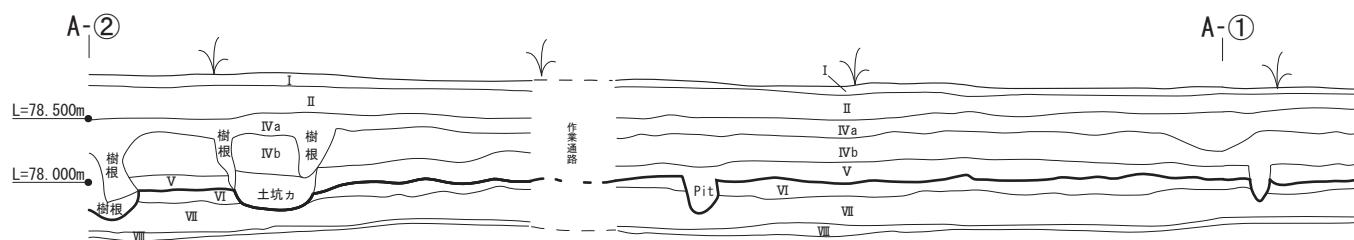
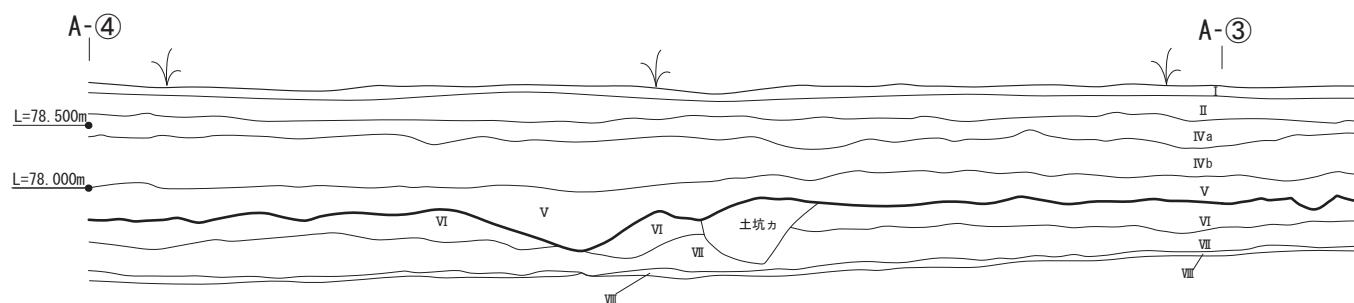
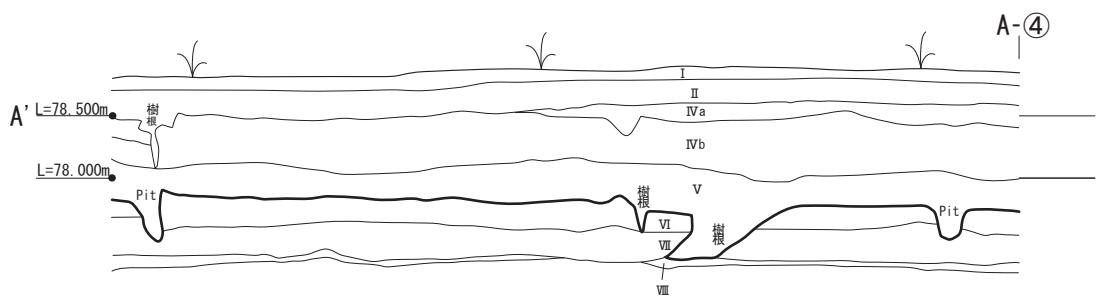


第 26 図 出土遺物実測図 4(桑鶴遺跡群Ⅲ区②)

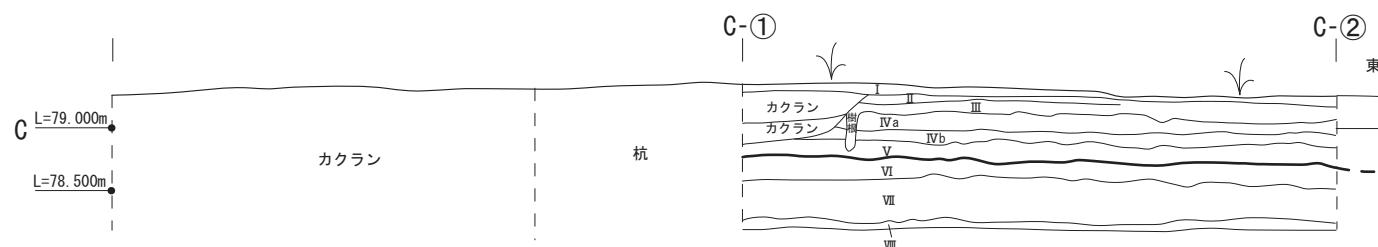


第27図 五丁中原遺跡 I区 VI・VII・VIII層遺物出土状況

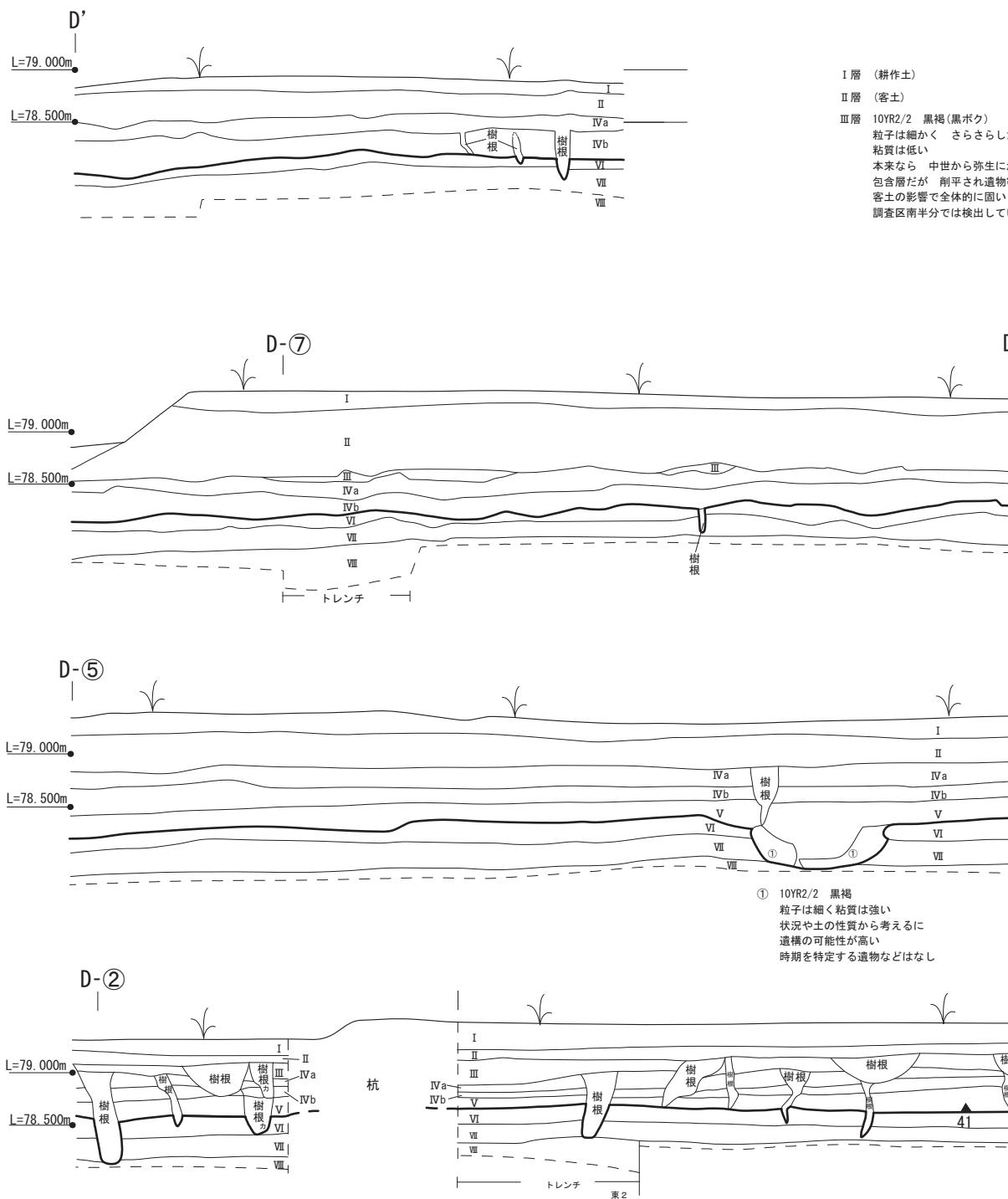
### 南側土層断面図



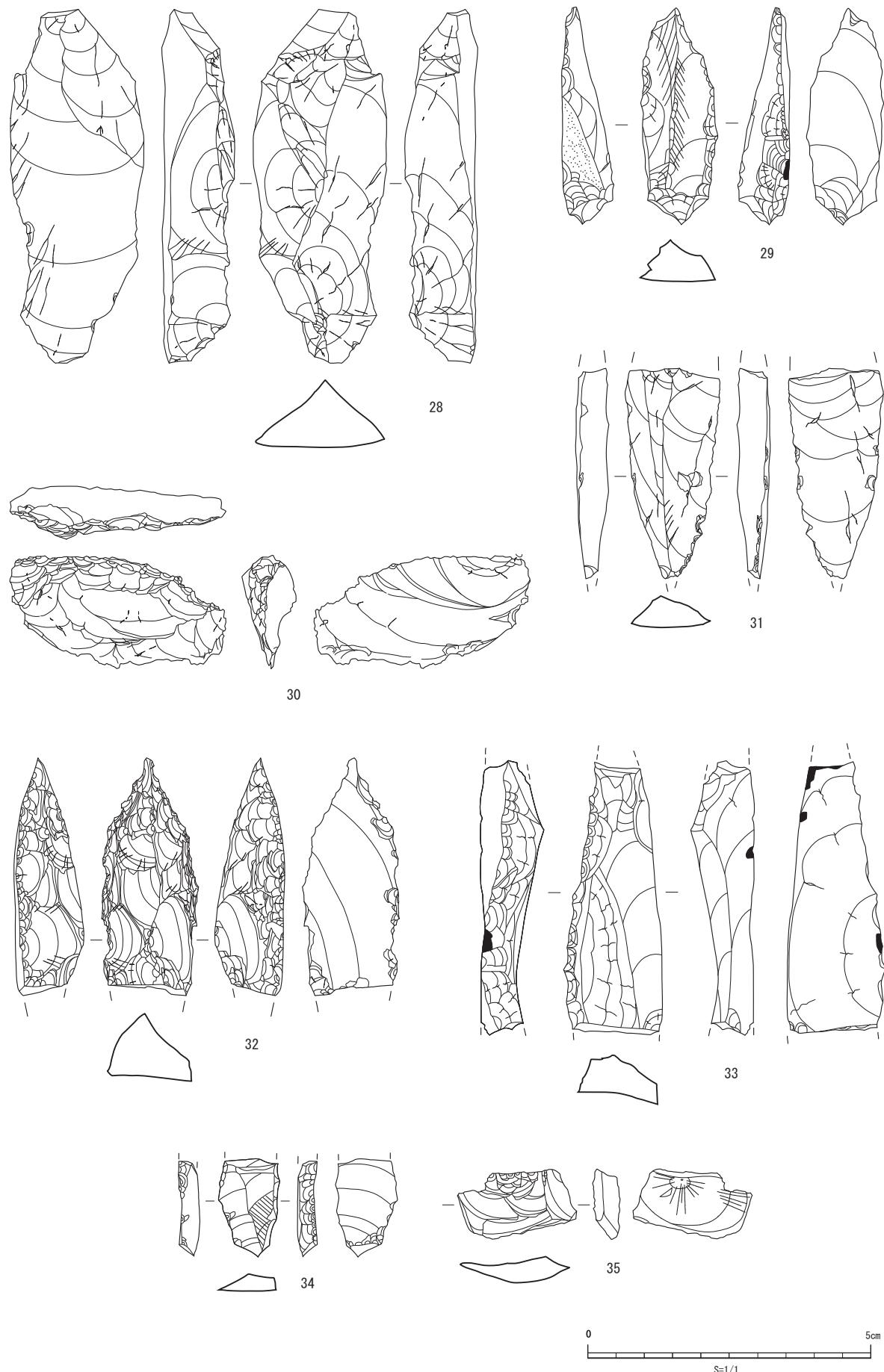
### 北側壁面土断図



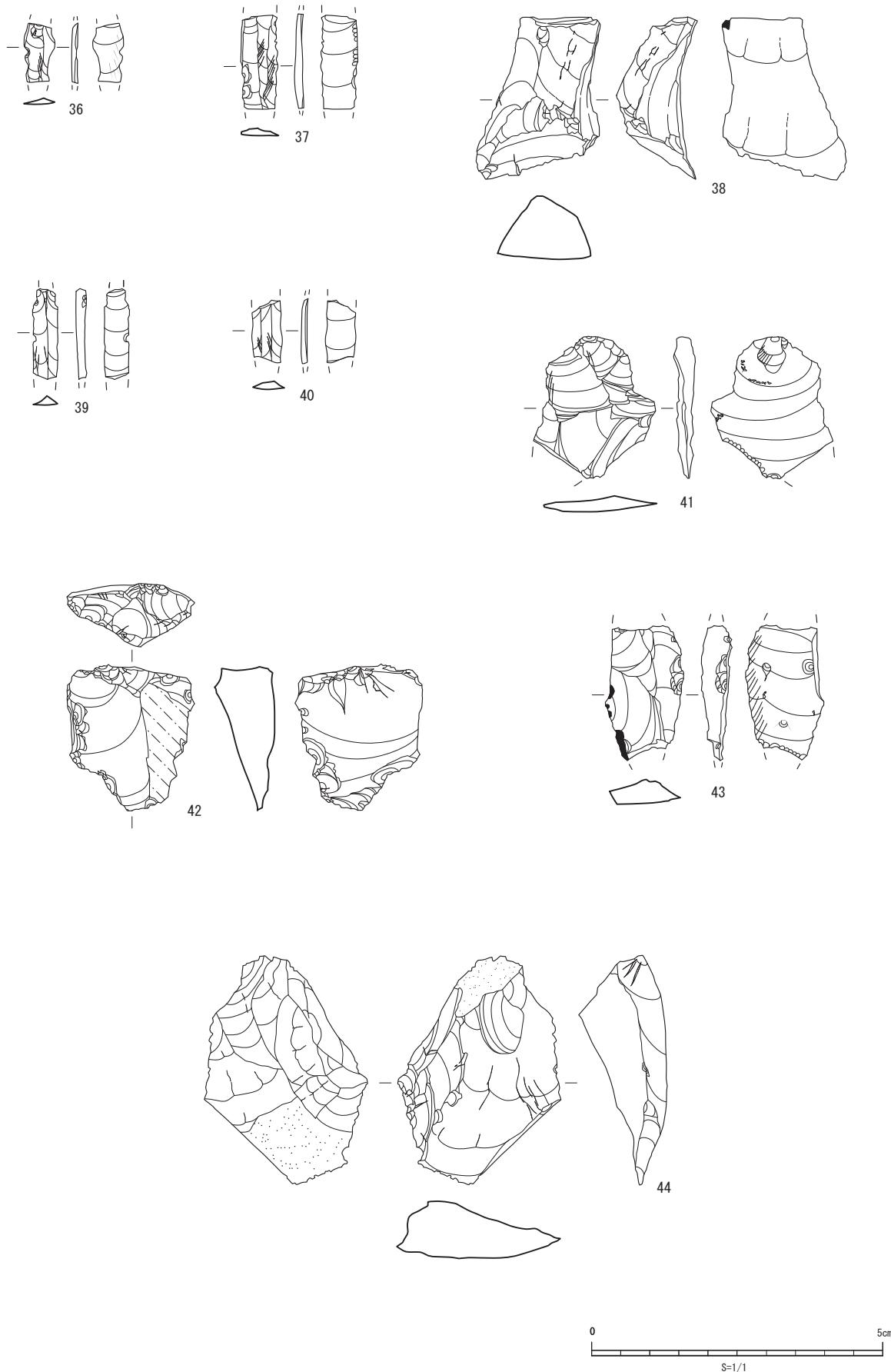
第 28 図 五丁中原遺跡



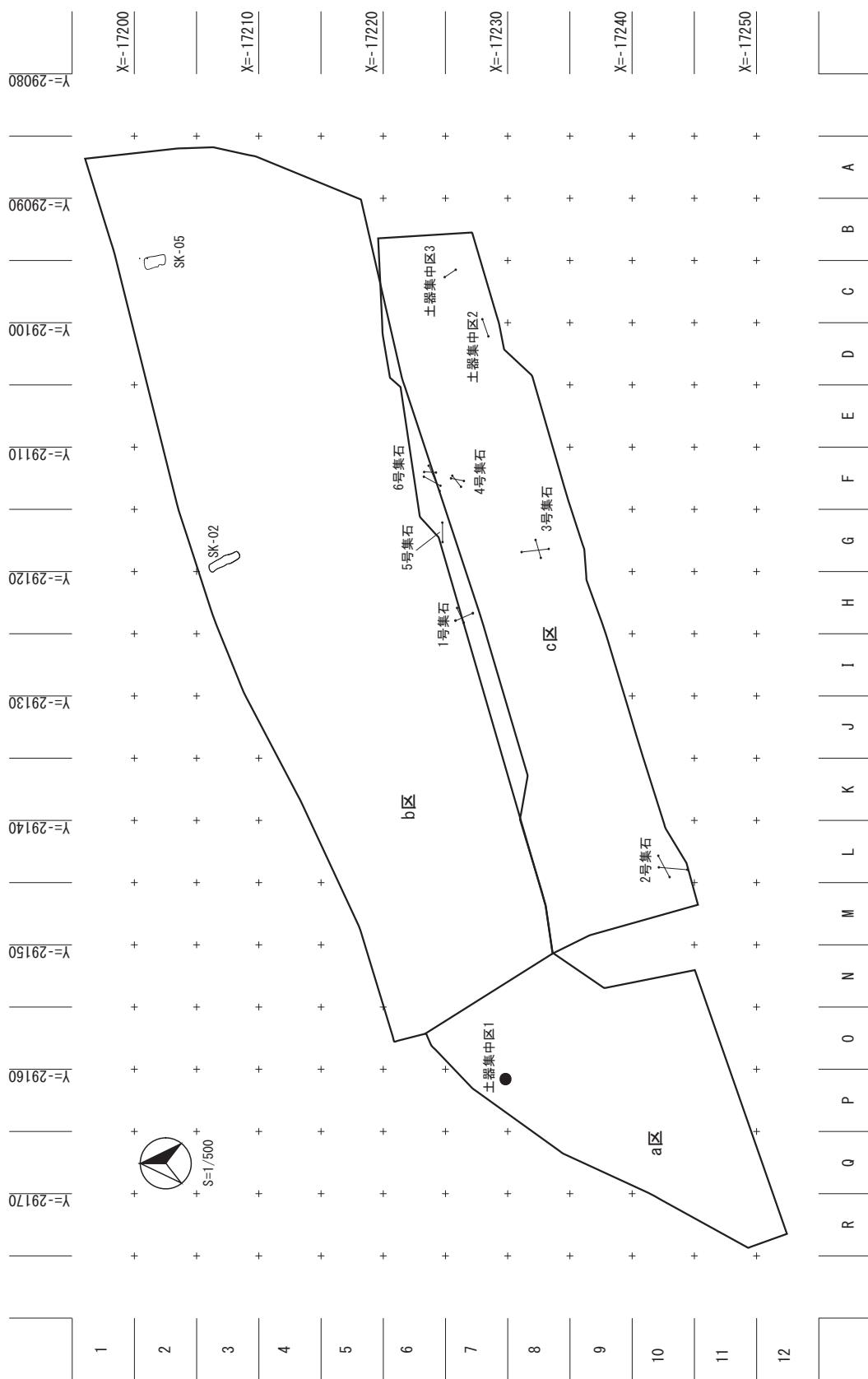
第 29 図 五丁中



第 30 図 出土遺物実測図 5(五丁中原遺跡 I 区)

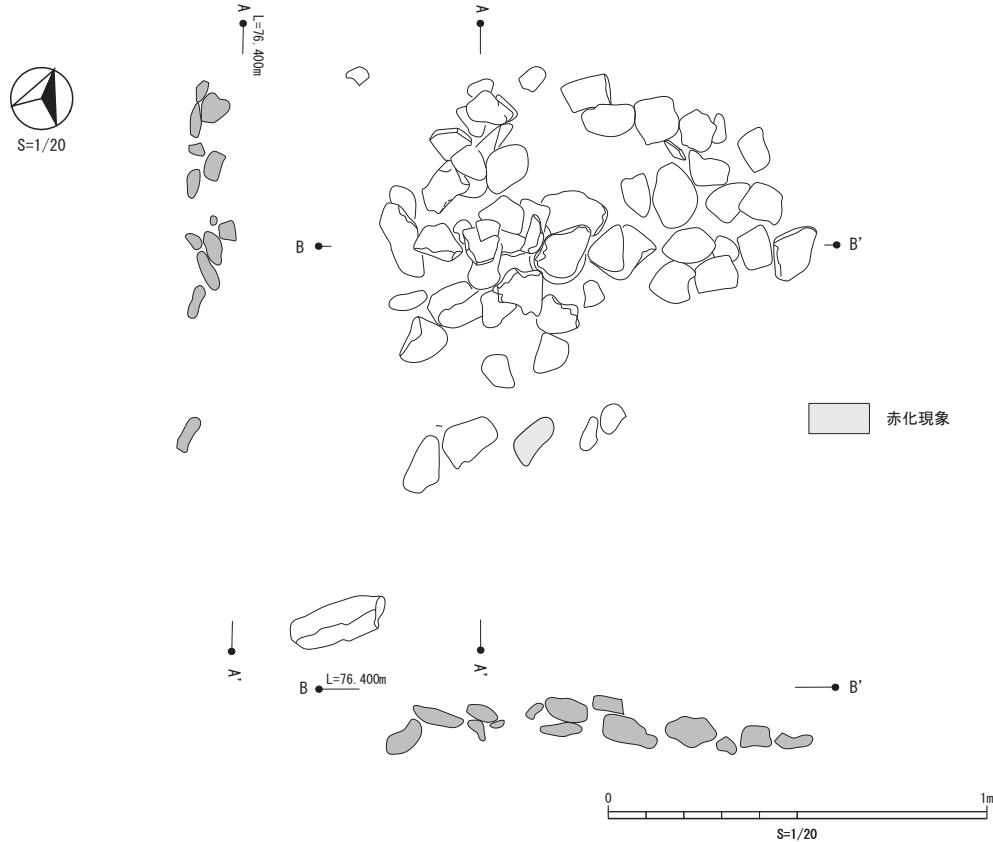


第31図 出土遺物実測図6（五丁中原遺跡I・II・III区）

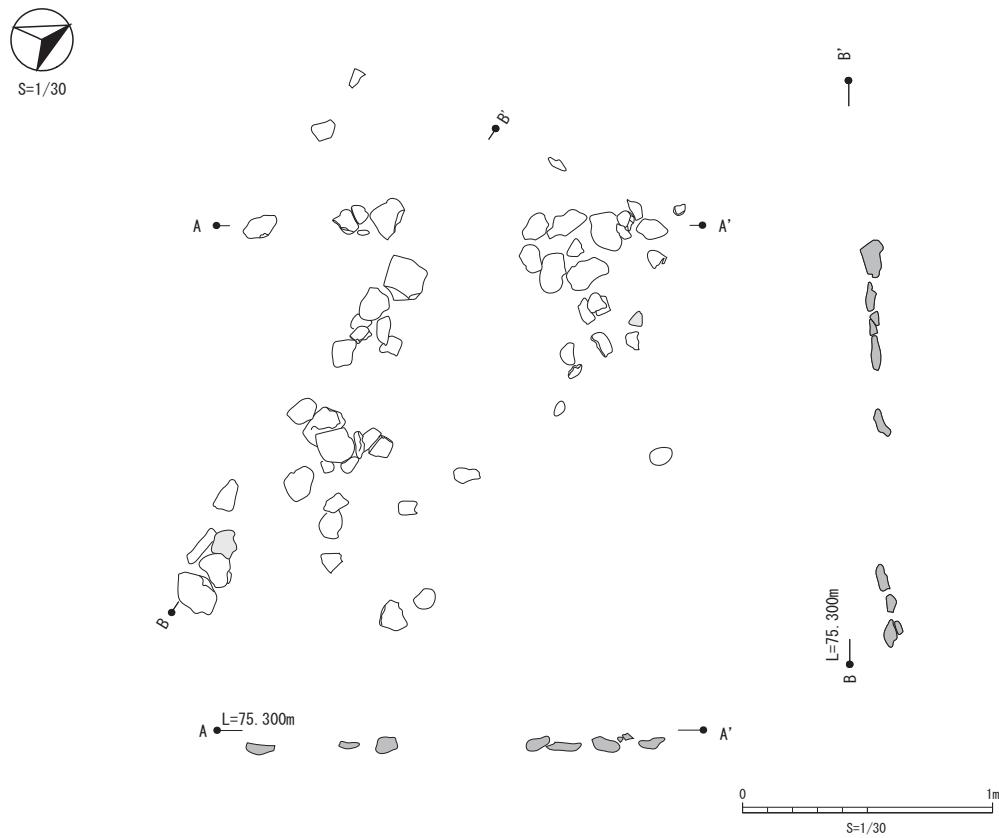


第32図 桑鶴遺跡群 06-I区 遺構配置図

1号集石

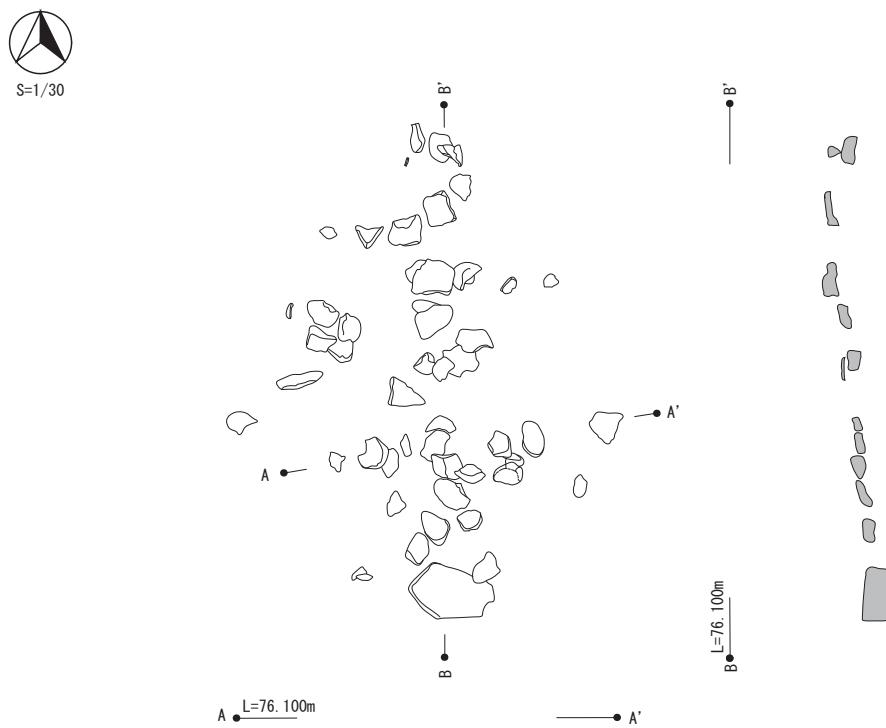


2号集石

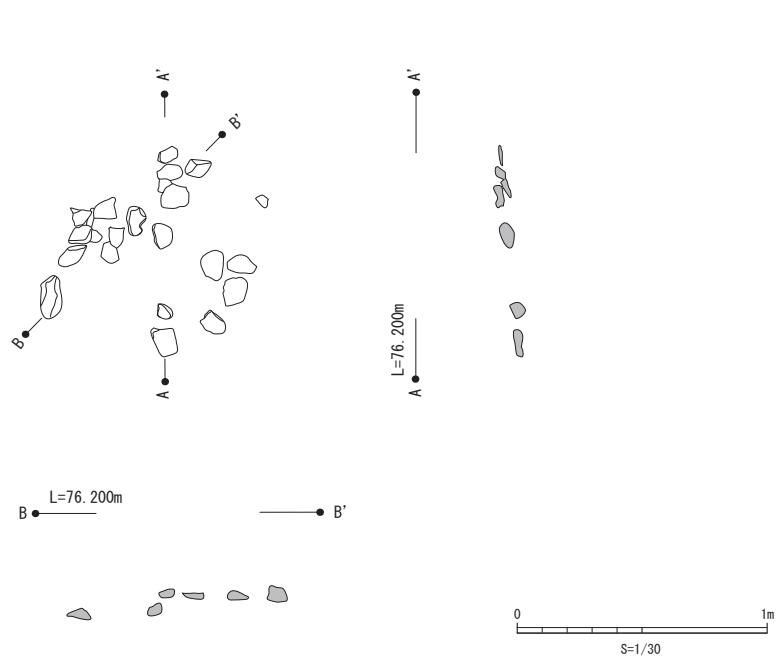


第33図 桑鶴遺跡群 06-I区 1号・2号集石実測図

3号集石

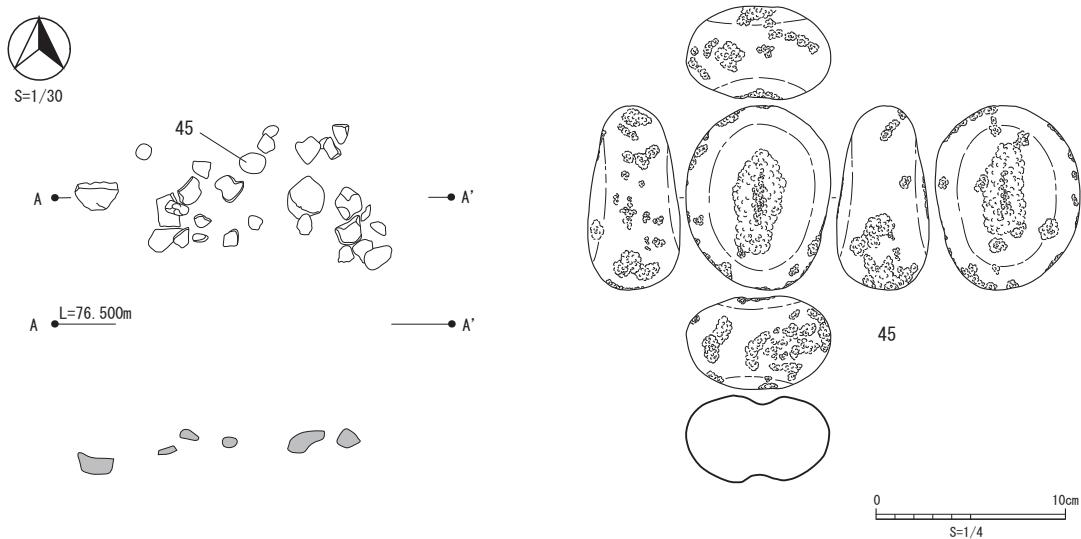


4号集石

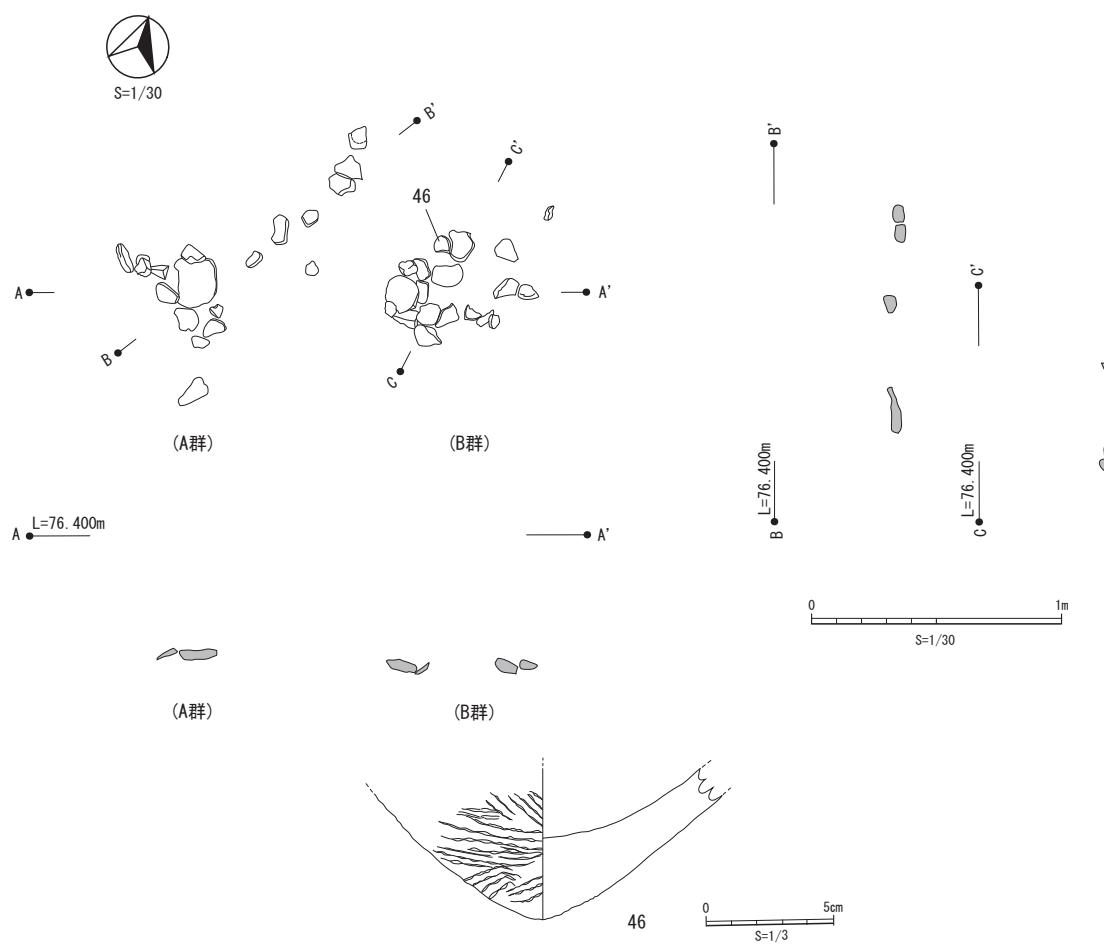


第 34 図 桑鶴遺跡群 06- I 区 3号・4号集石実測図

5号集石

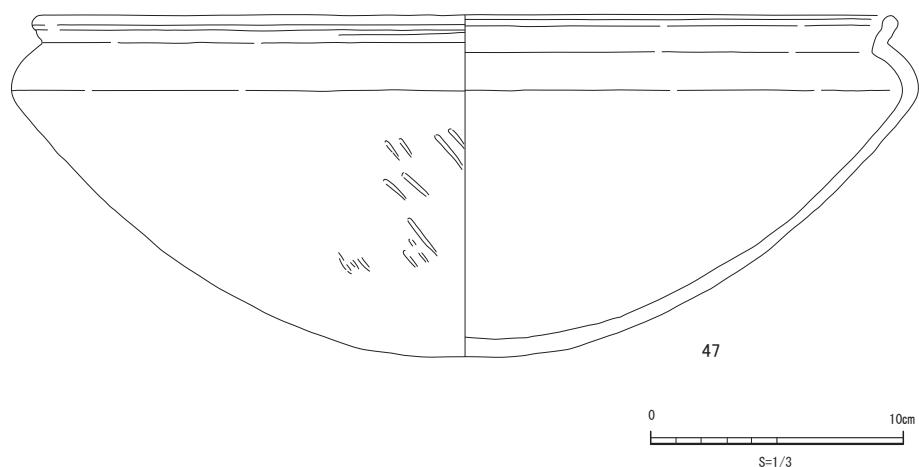
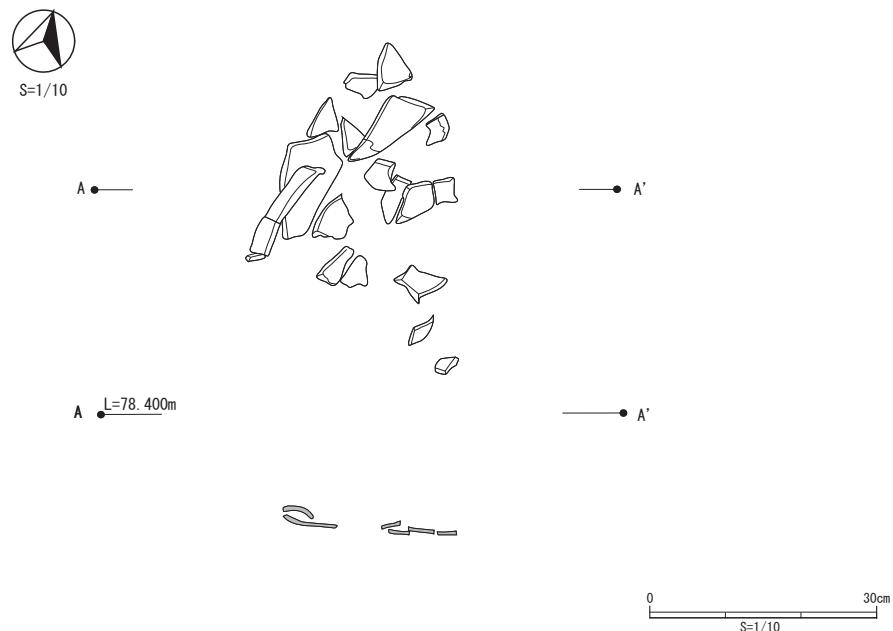


6号集石



第35図 桑鶴遺跡群 06-I区 5号・6号集石実測図及び出土遺物実測図

## 土器集中区1



第 36 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 土器集中区1実測図及び出土遺物実測図

土器集中区2



A ● L=75.500m

● A'

● A'



0 50cm  
S=1/20

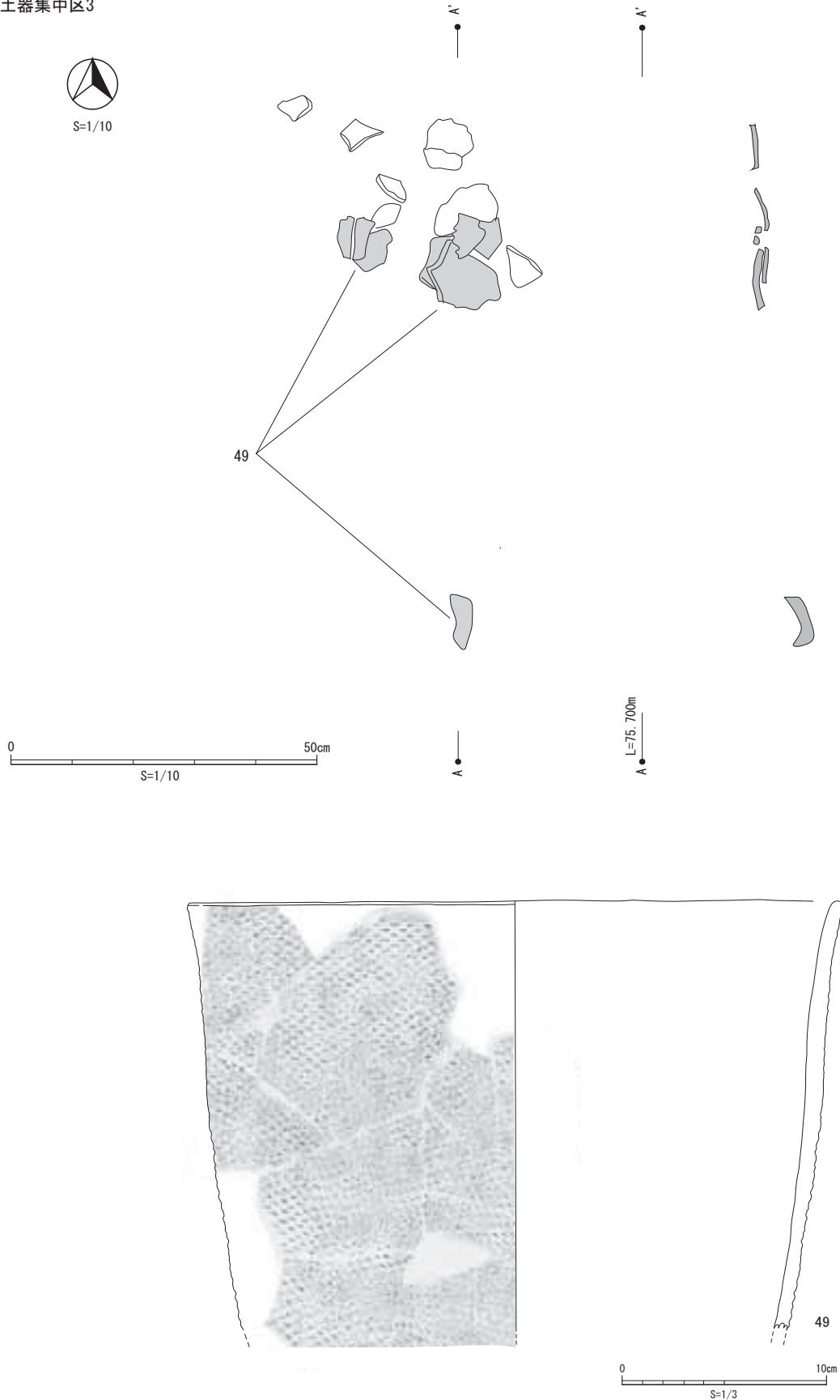


48

0 10cm  
S=1/3

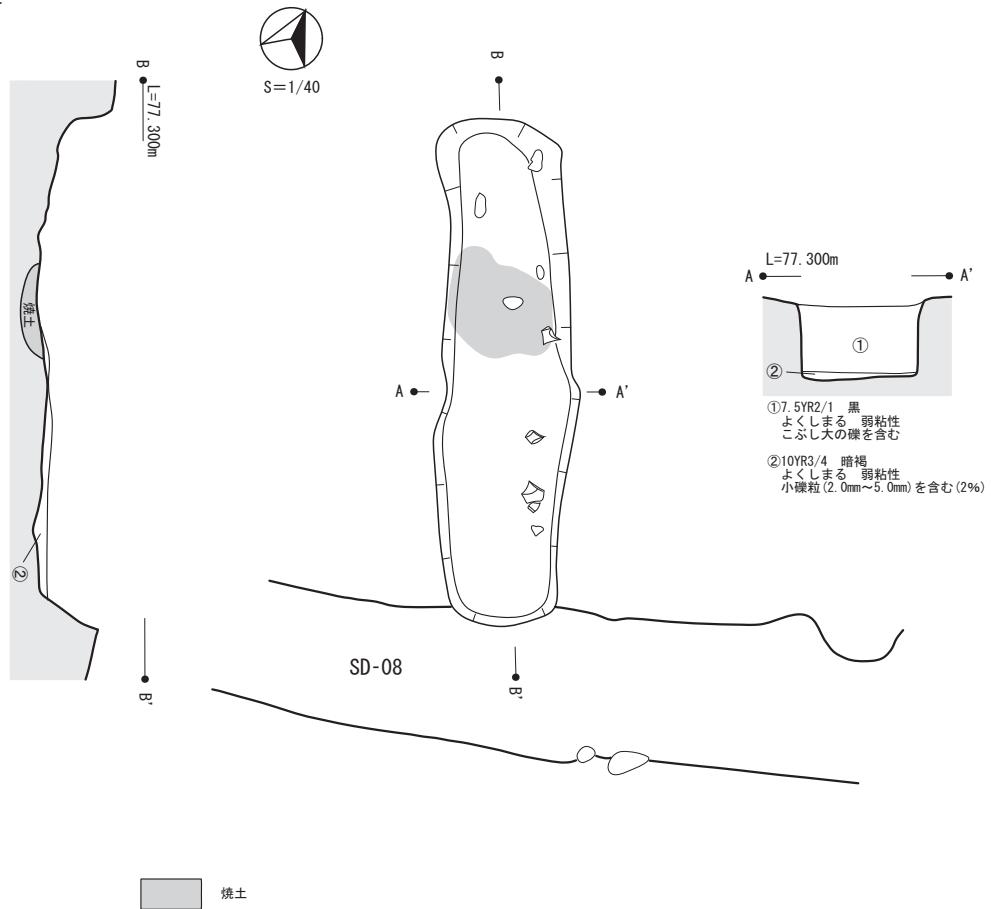
第 37 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 土器集中区2実測図及び出土遺物実測図

土器集中区3

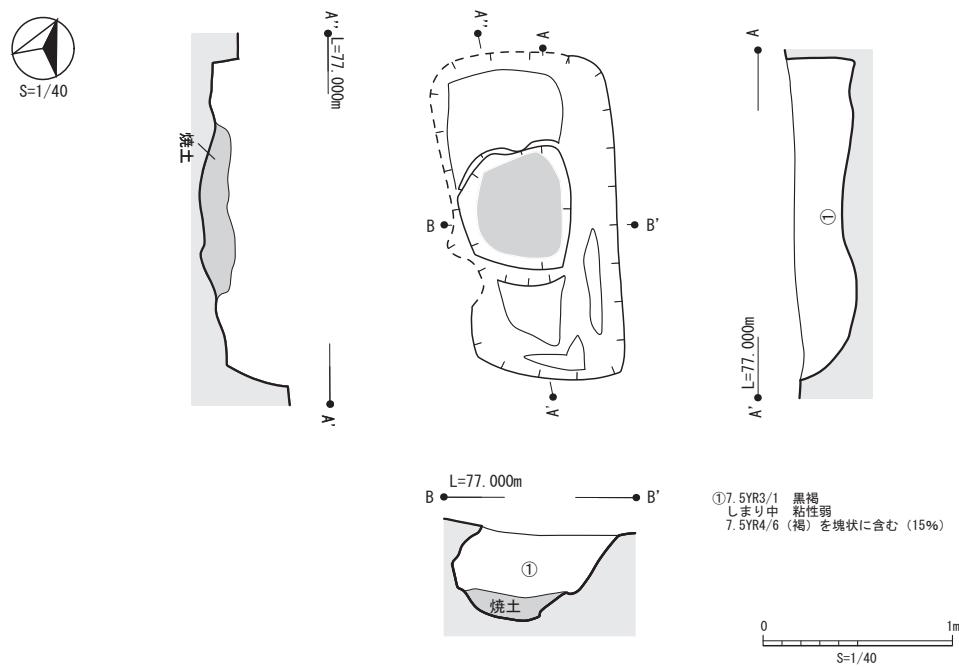


第38図 桑鶴遺跡群 06-I区 土器集中区3実測図及び出土遺物実測図

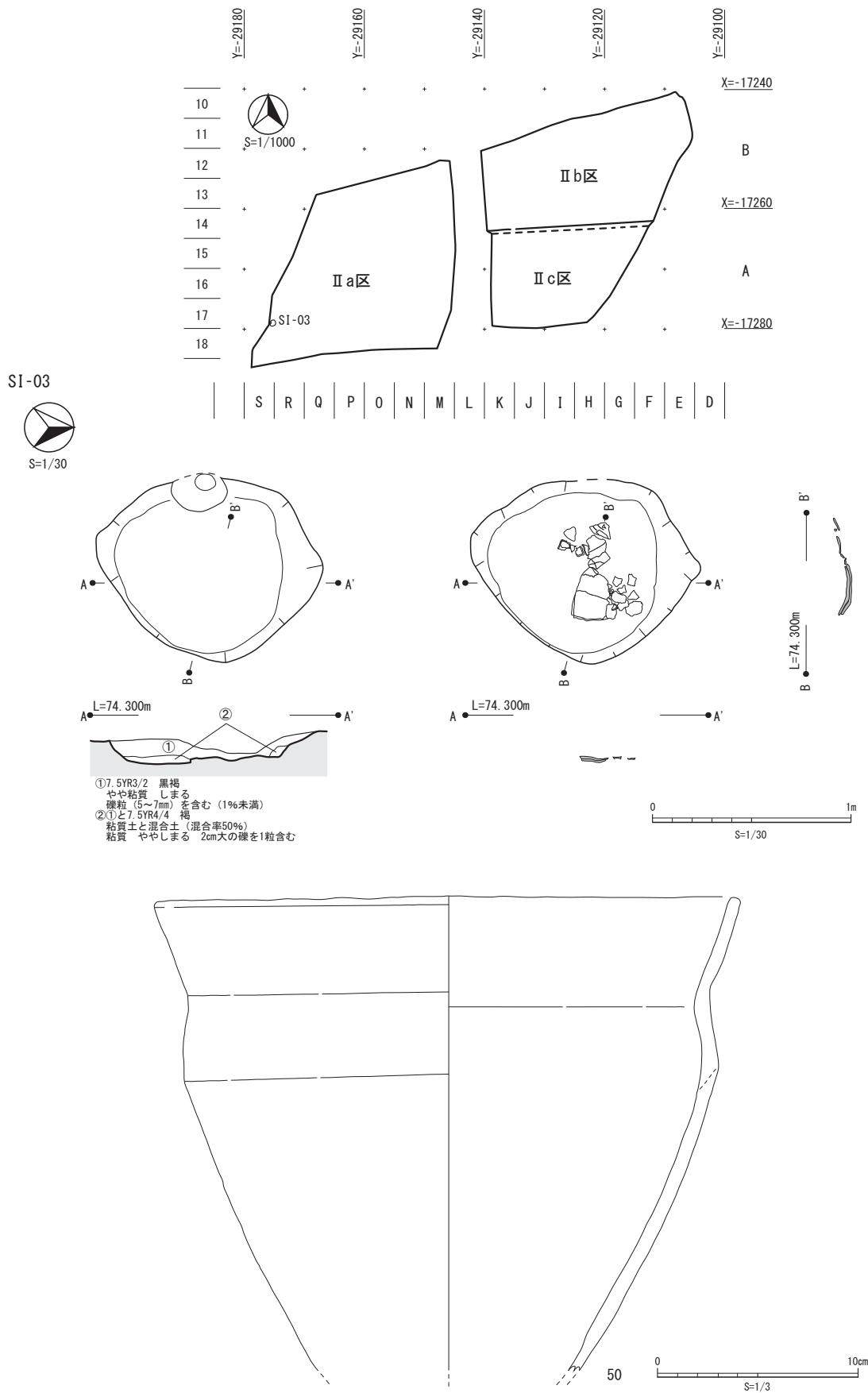
SK-02



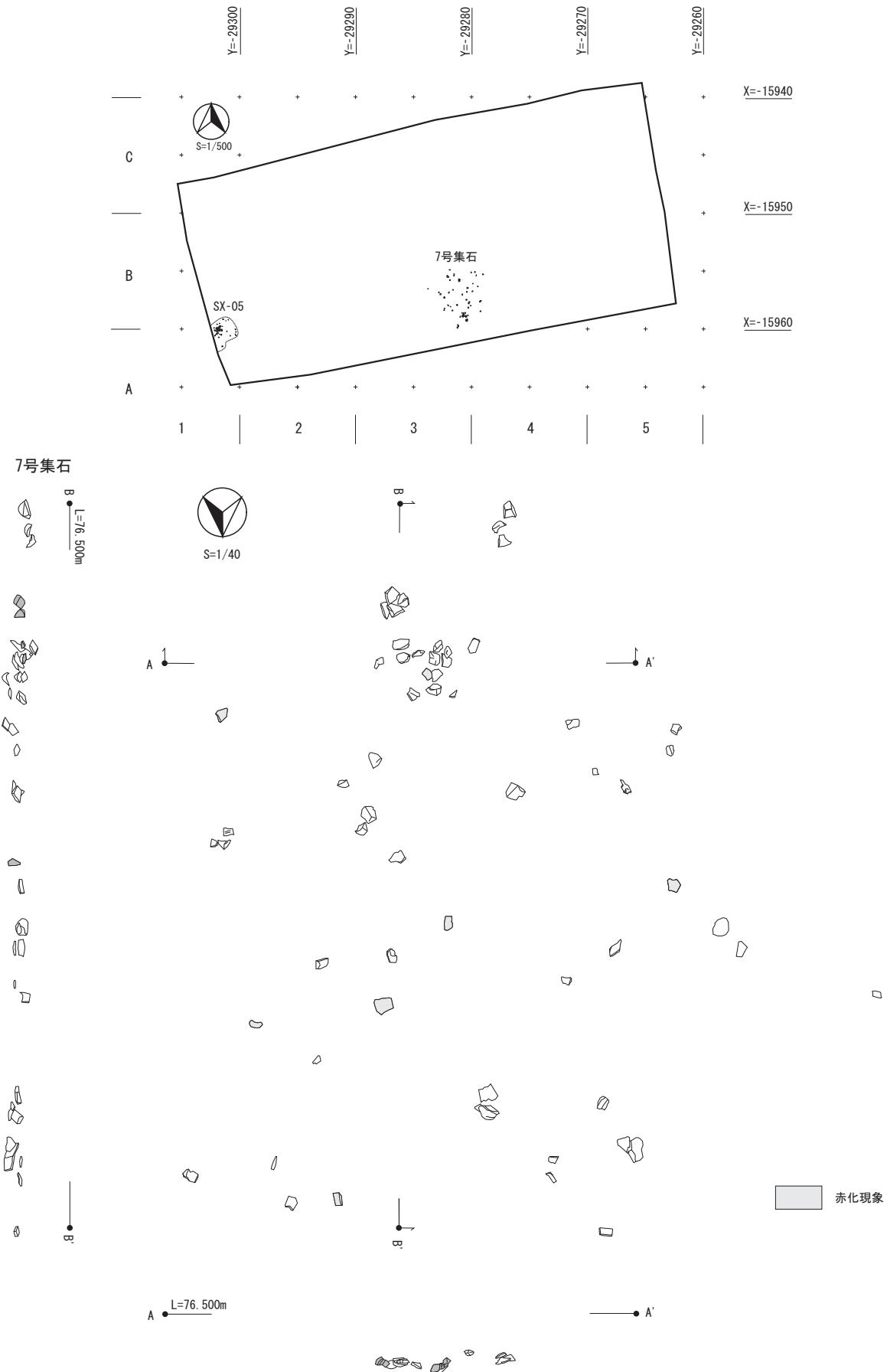
SK-05



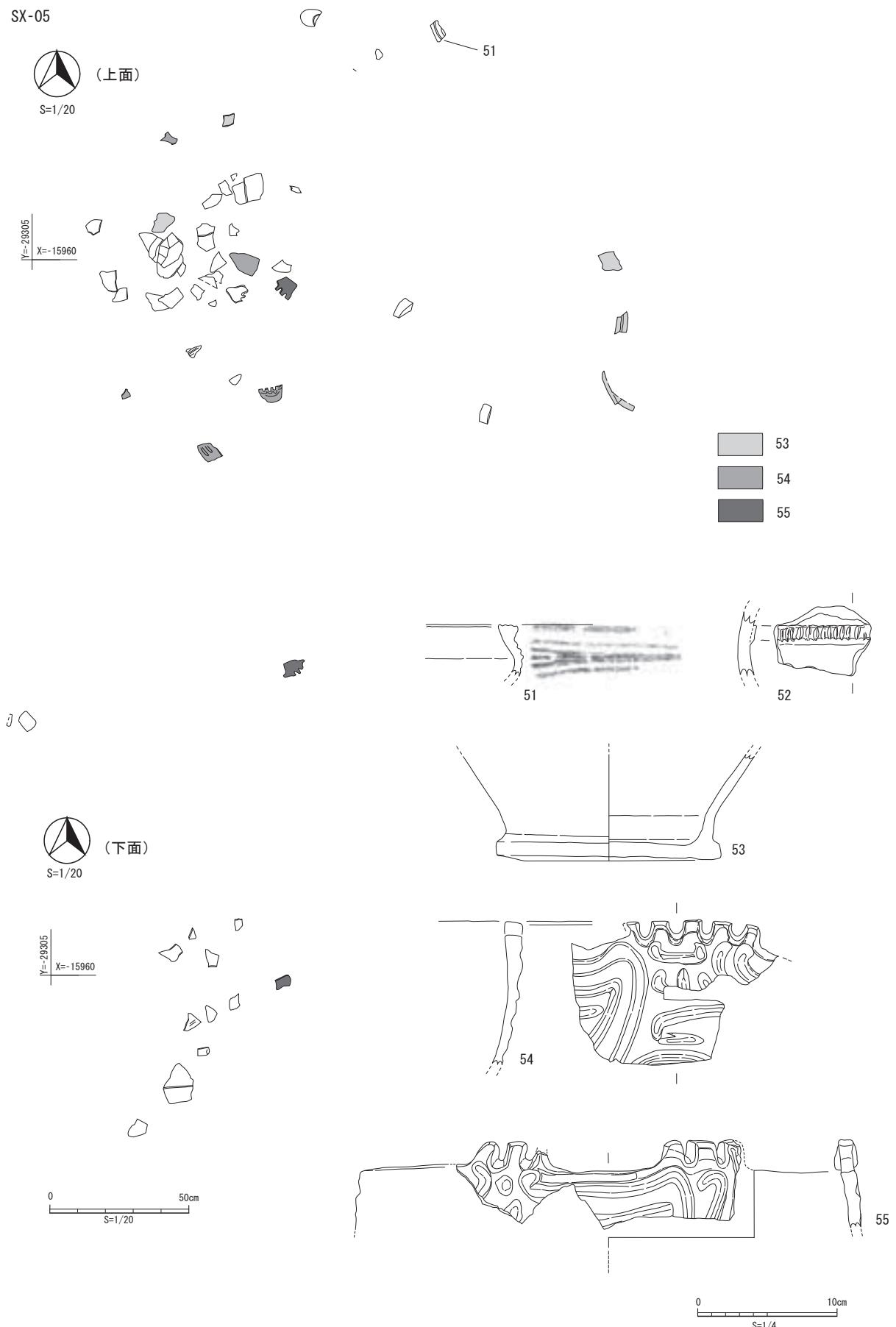
第39図 桑鶴遺跡群 06-I区 SK-02・05実測図



第 40 図 桑鶴遺跡群 06-II 区 遺構配置図・SI-03実測図及び出土遺物実測図



第 41 図 桑鶴遺跡群 II 区 III層・IV層上面 遺構配置図及び7号集石実測図

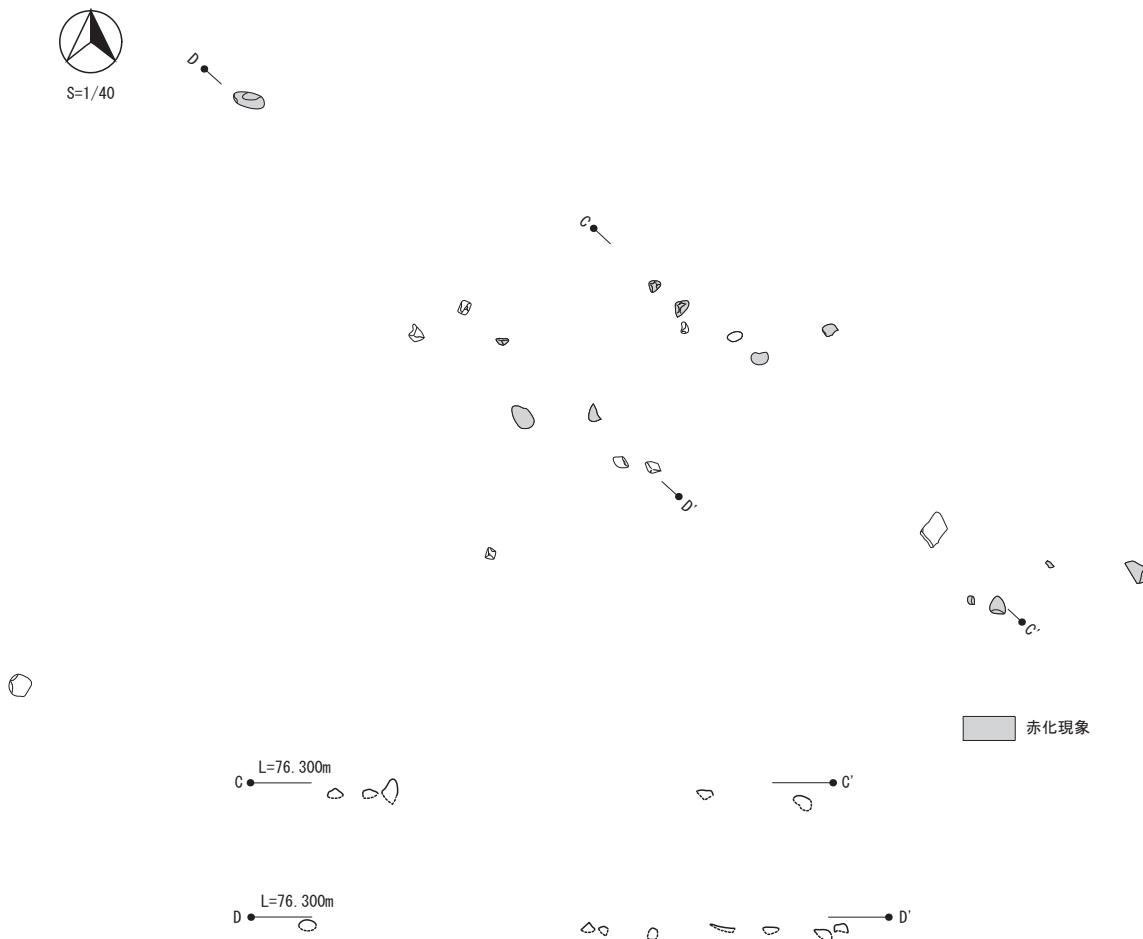


第42図 桑鶴遺跡群 II区 SX-05実測図及び出土遺物実測図

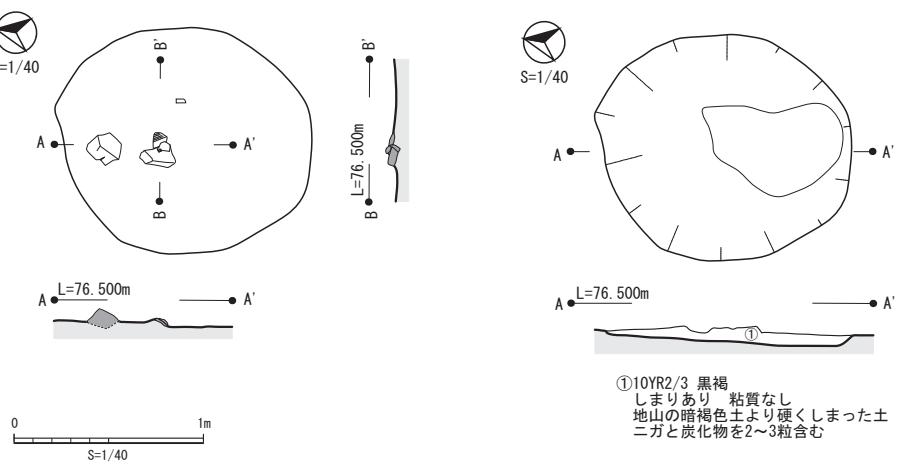


第 43 図 桑鶴遺跡群 VI 区 遺構配置図

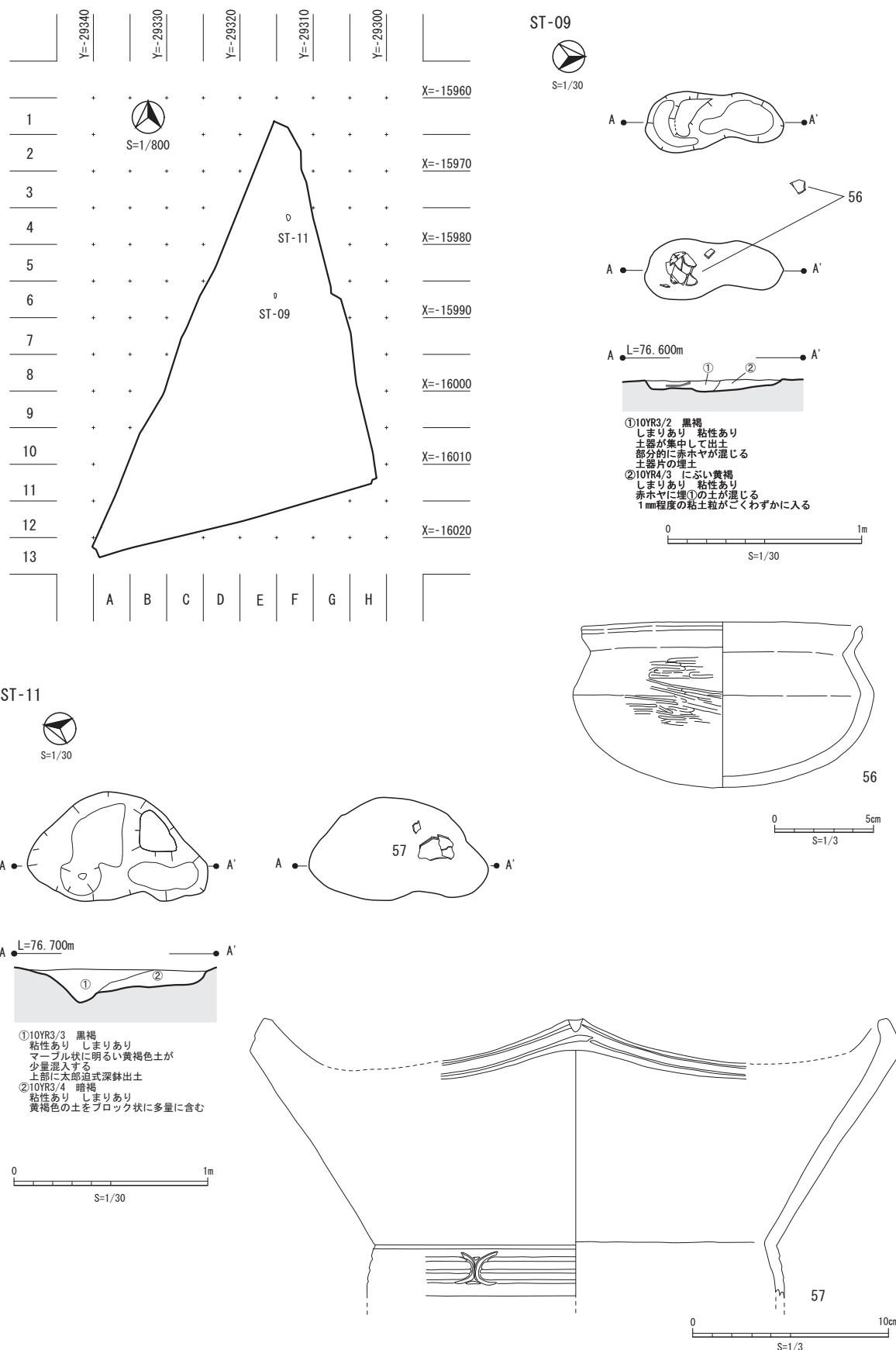
8号集石



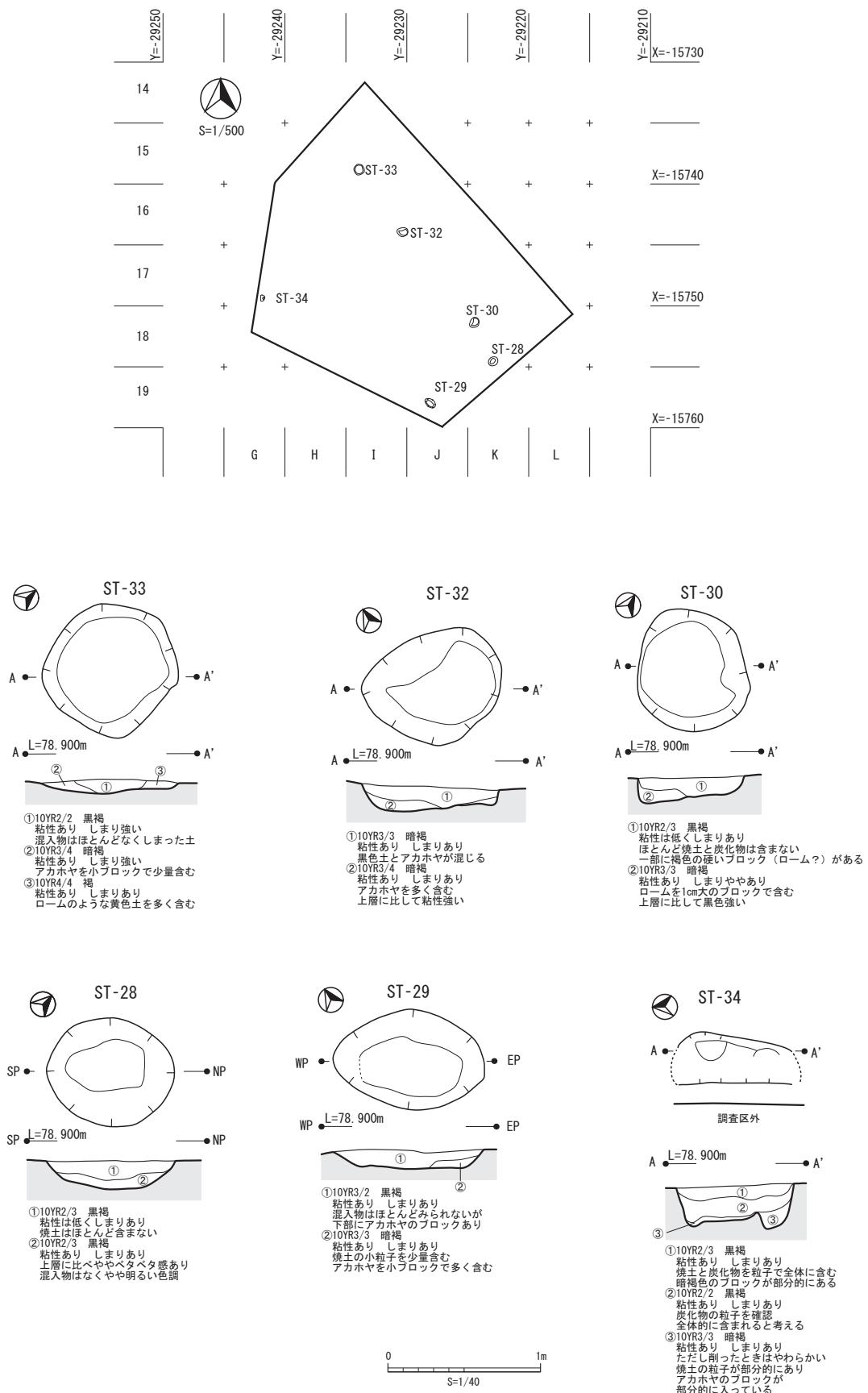
9号集石



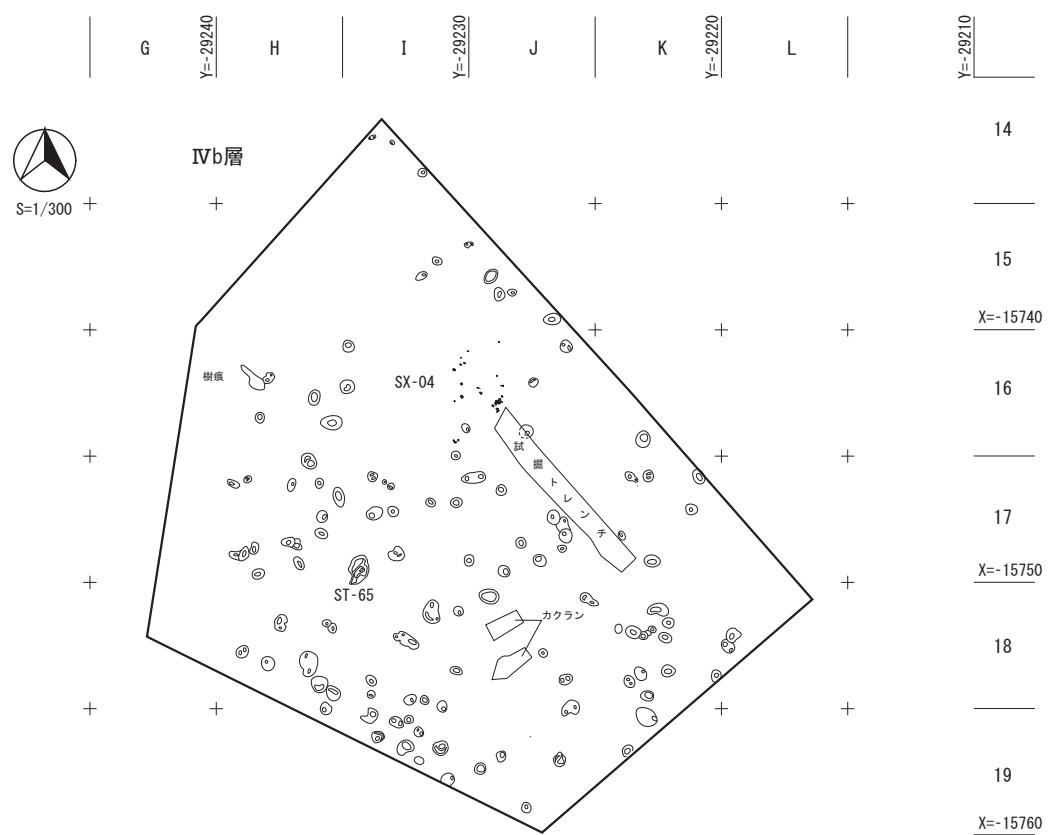
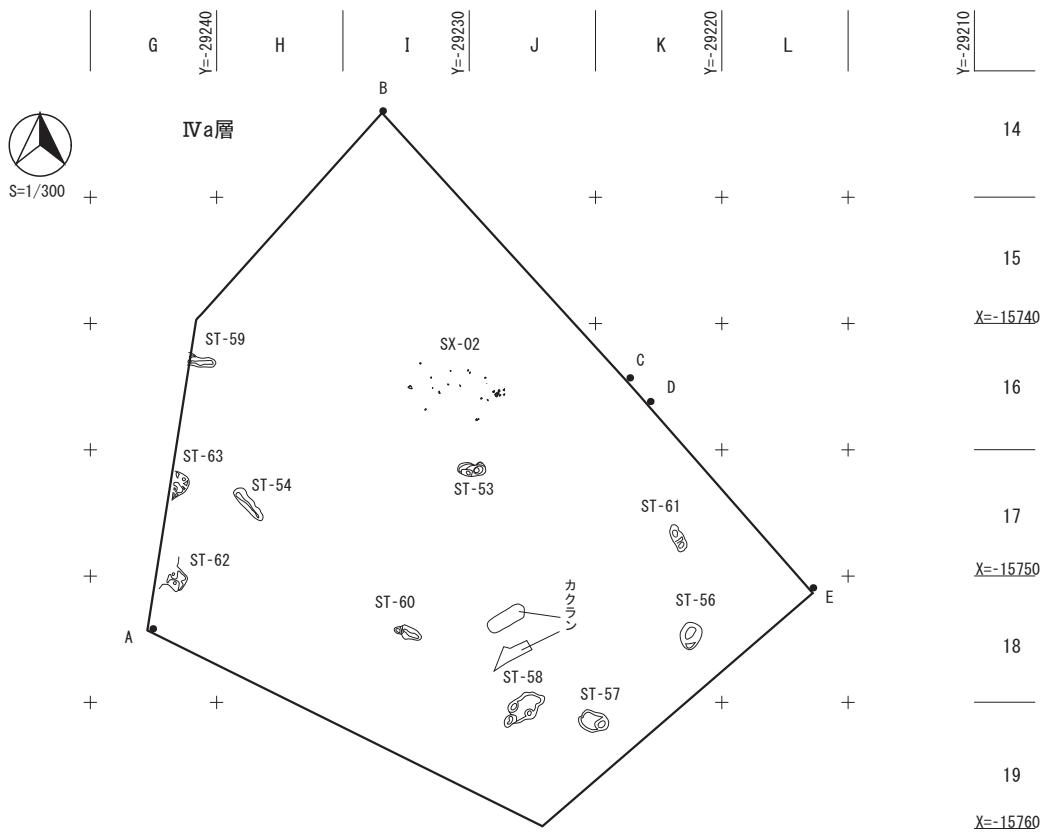
第 44 図 桑鶴遺跡群 VI区 8号・9号集石実測図



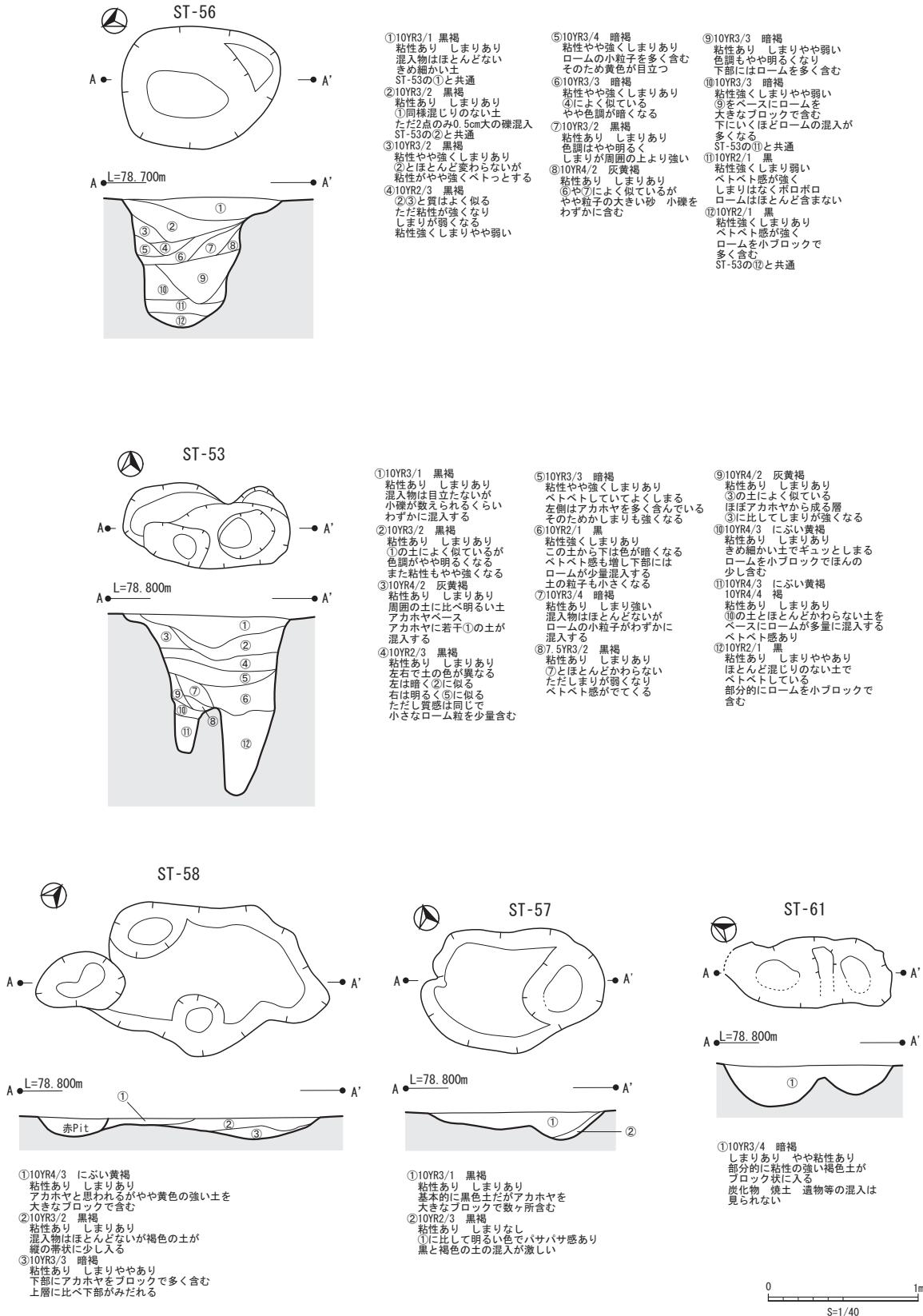
第45図 桑鶴遺跡群 VIII区 遺構配置図・ST-09・11実測図及び出土遺物実測図



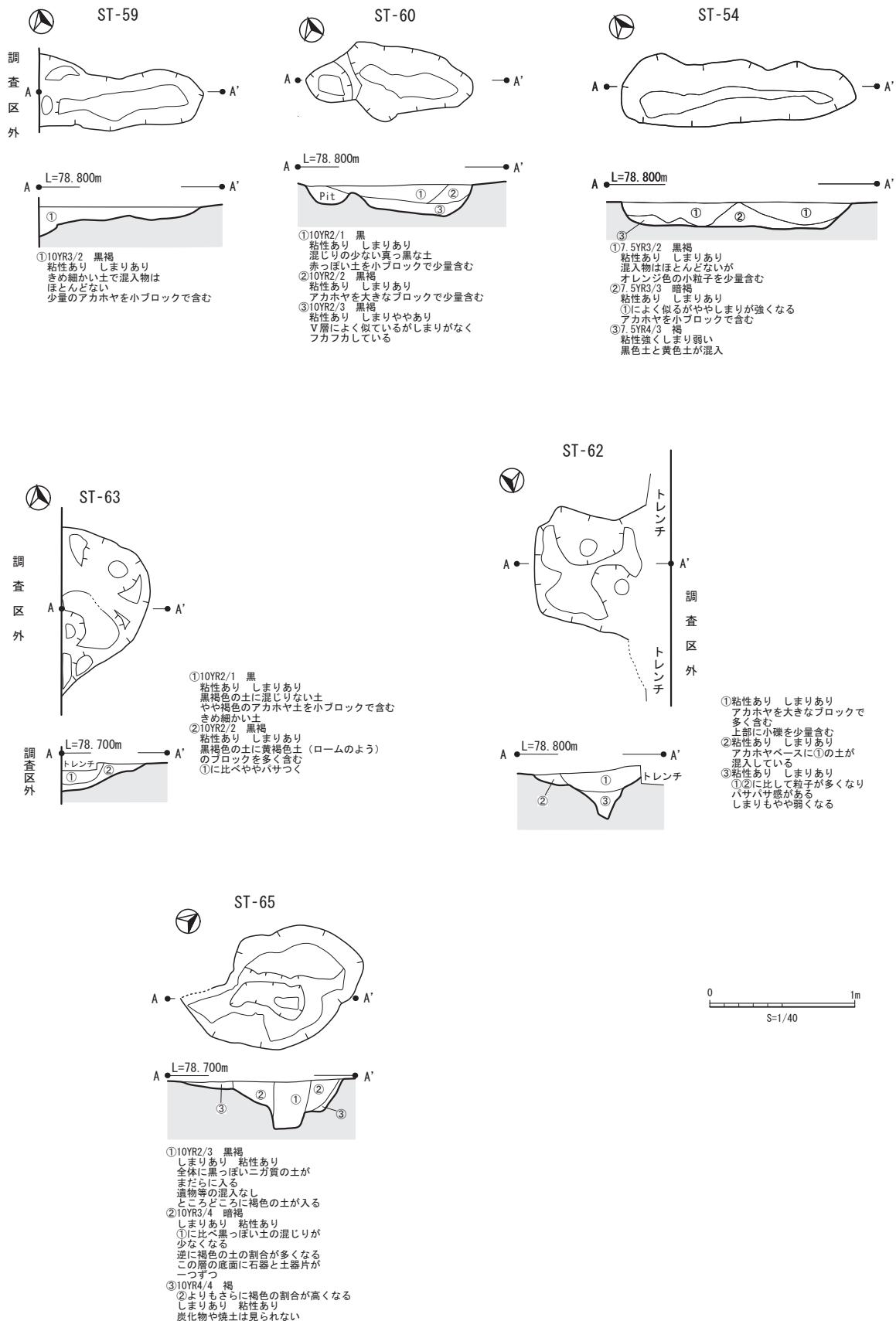
第46図 五丁中原遺跡 II区 III層・IV層 遺構配置図及びST-28~30・32~34実測図



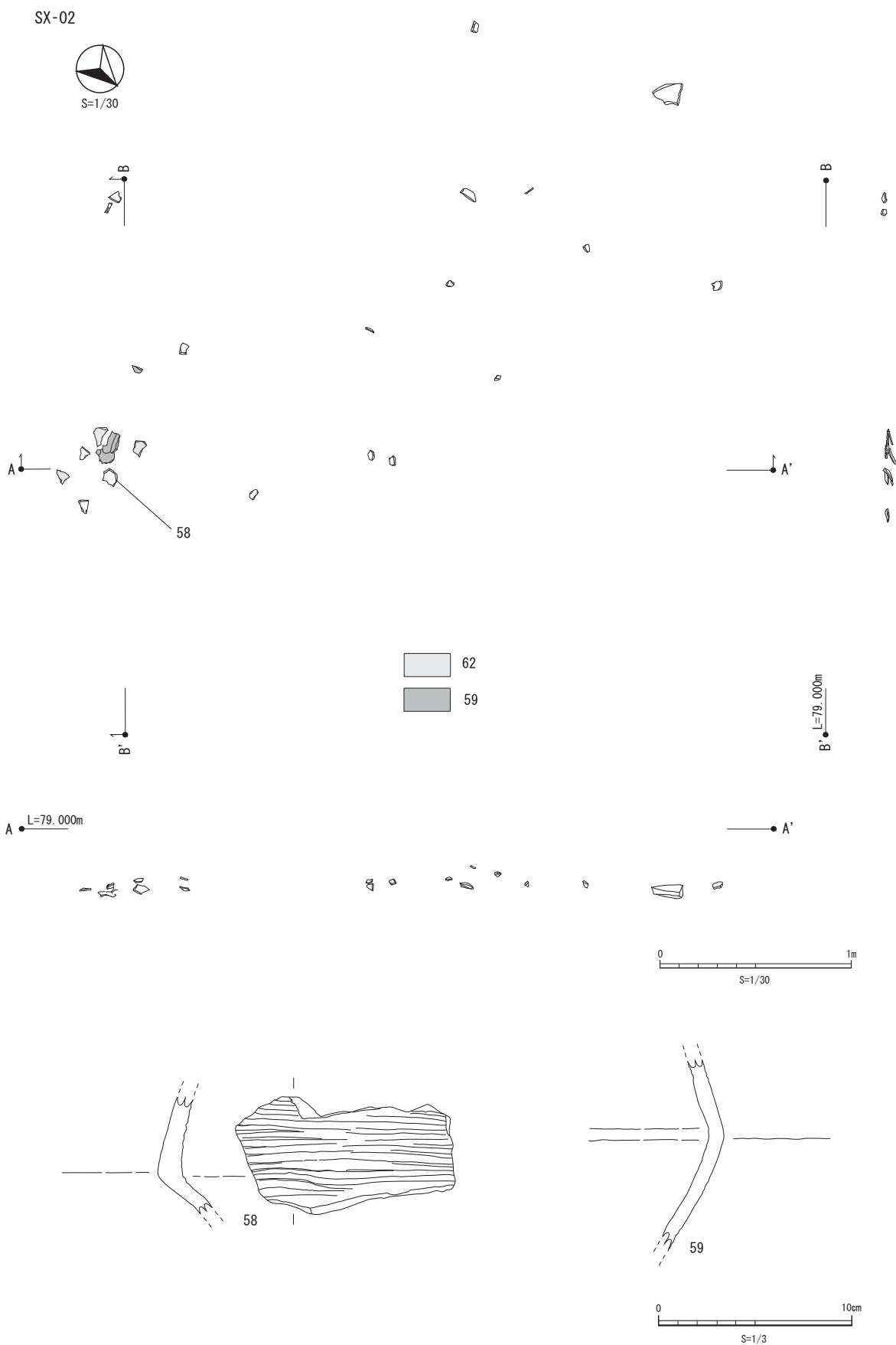
第47図 五丁中原遺跡 II区 IVa層・IVb層 遺構配置図



第48図 五丁中原遺跡 II区 ST-53・56~58・61実測図



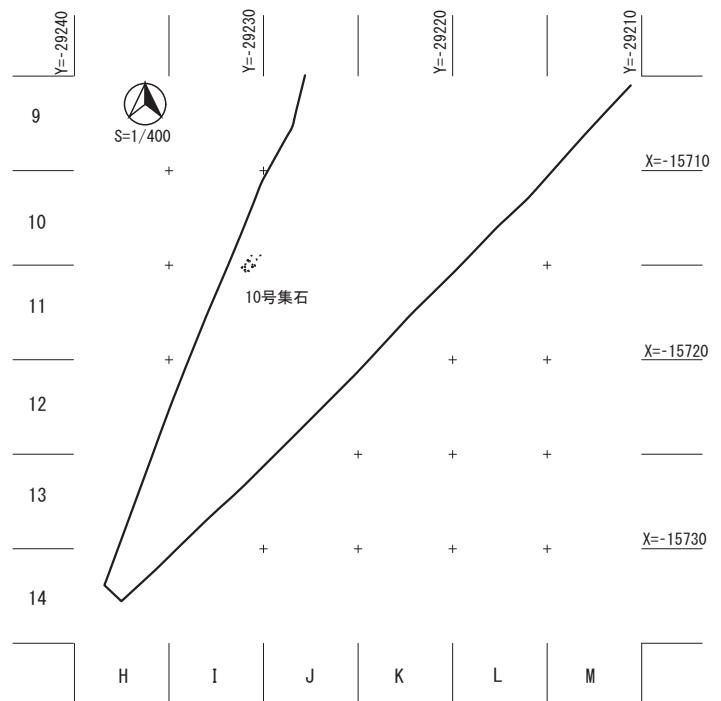
第49図 五丁中原遺跡 II区 ST-54・59・60・62・63・65実測図



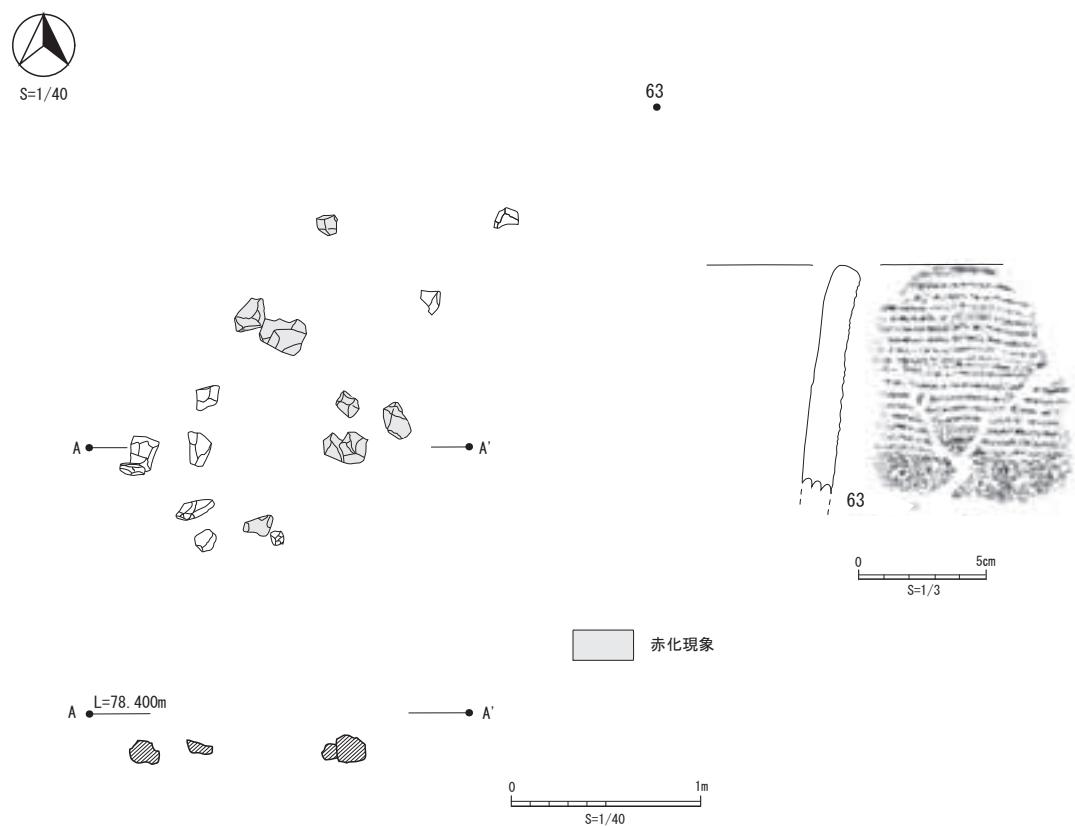
第 50 図 五丁中原遺跡 II 区 SX-02 実測図及び出土遺物実測図

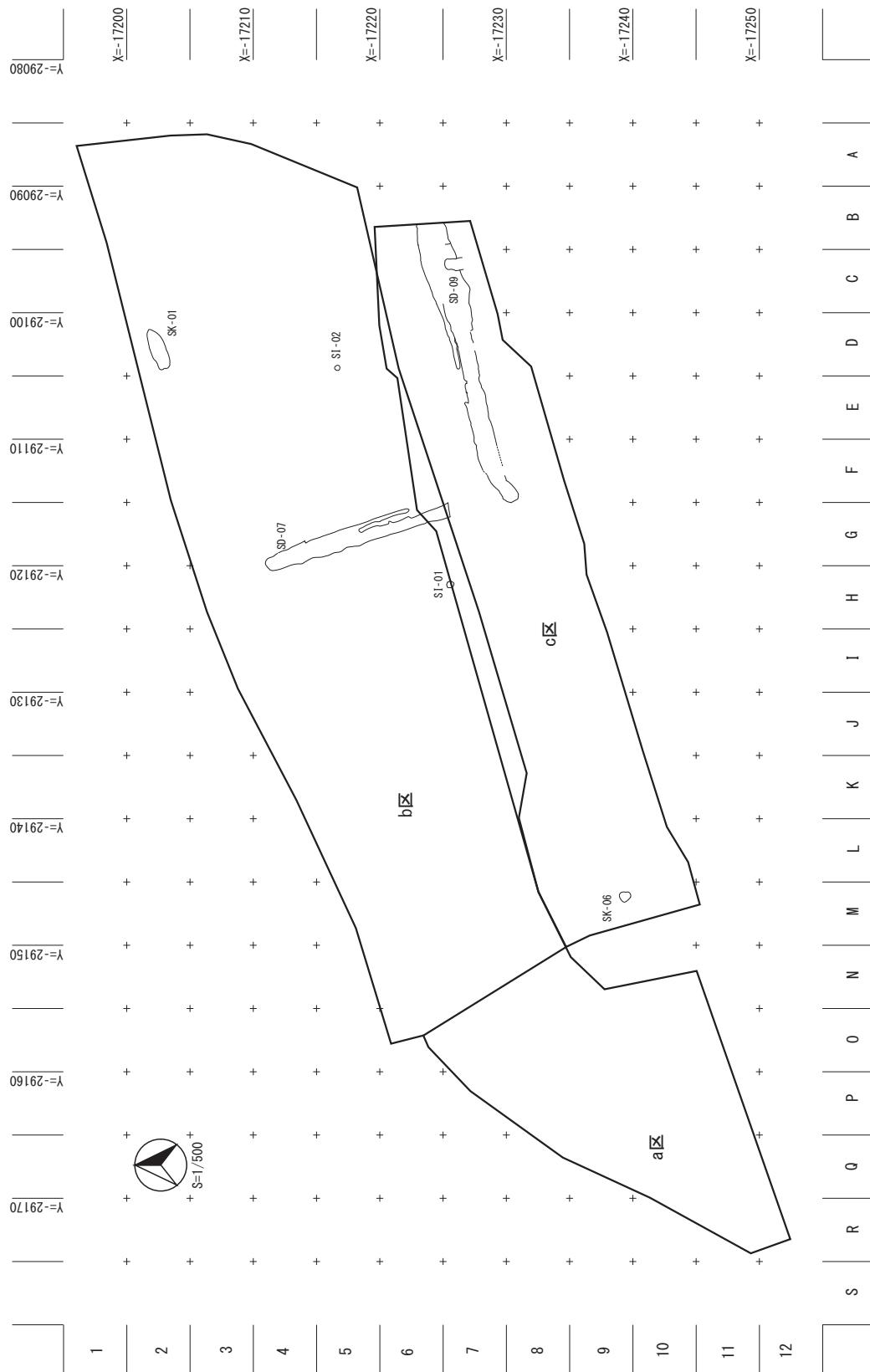


第 51 図 五丁中原遺跡 II 区 SX-04 実測図及び出土遺物実測図

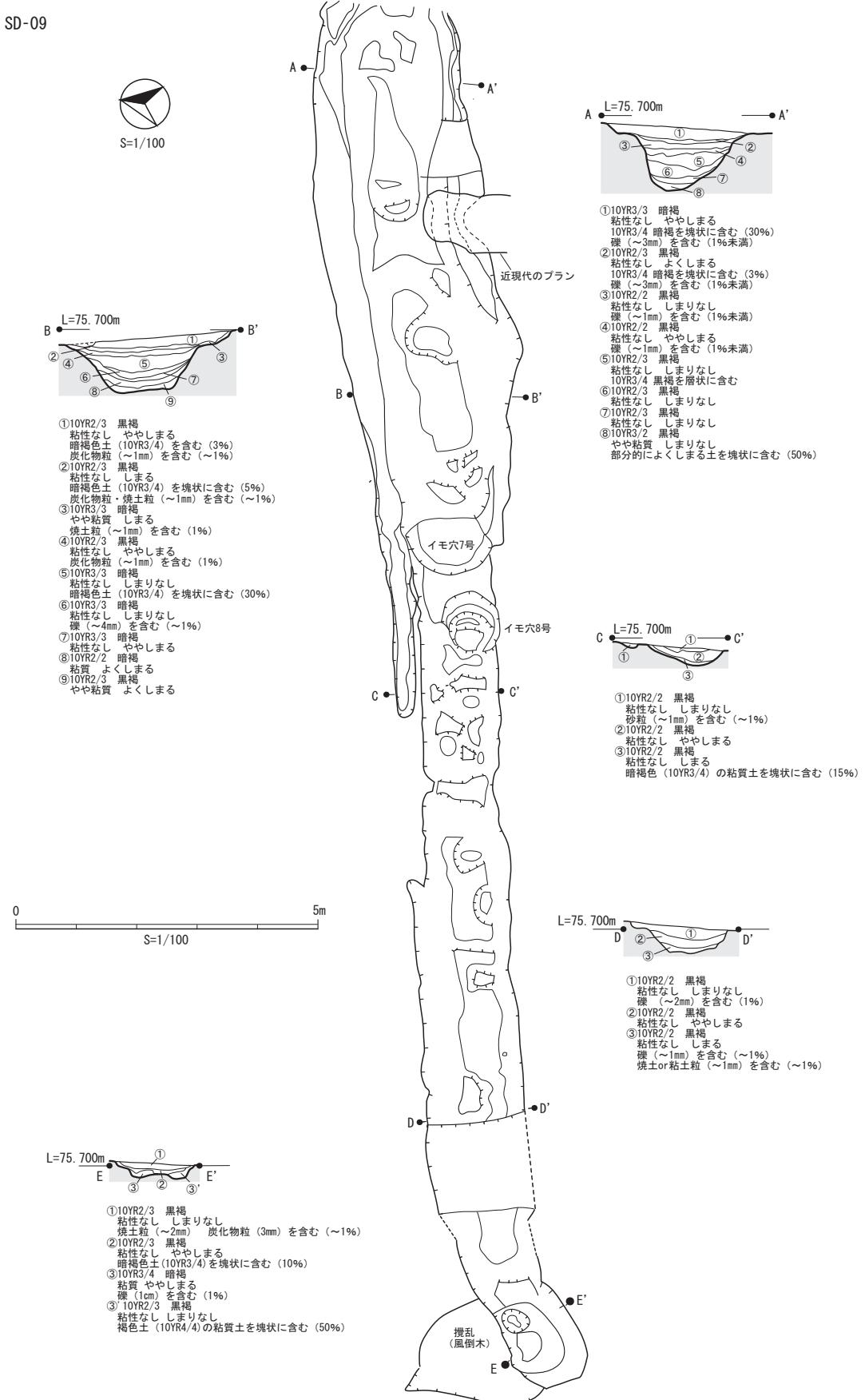


10号集石

第52図 五丁中原遺跡 III区  
IV層・V層 遺構配置図・10号集石実測図及び出土遺物実測図



第53図 桑鶴遺跡群 06-1区 遺構配置図

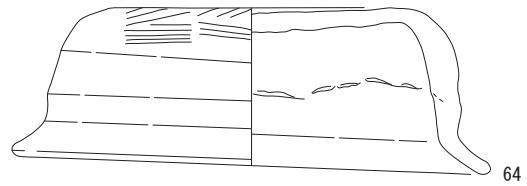
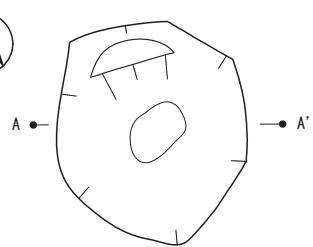


第 54 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SD-09 実測図

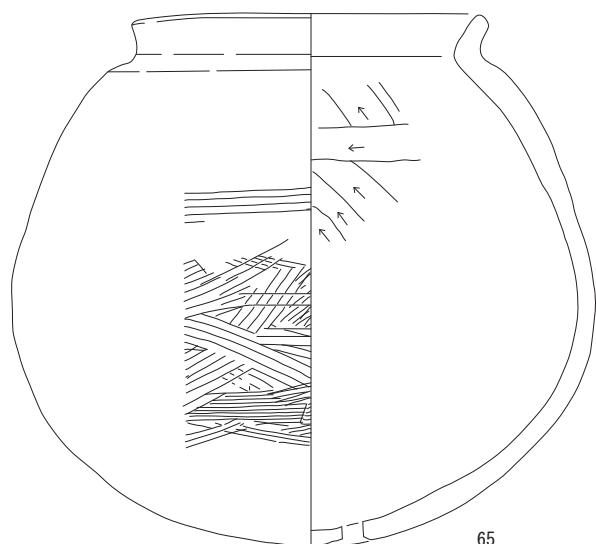
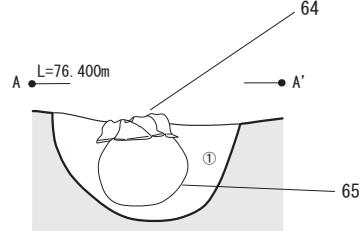
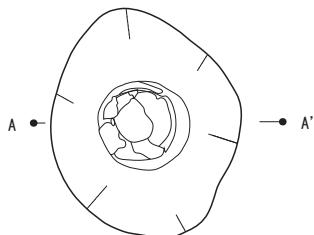
SI-01



S=1/20



64



65

①7.5YR3/3 暗褐色  
粘性なし しまりなし  
7.5YR1/2 黒色土を含む (炭化物の影響か)  
炭塊 (~3cm) を含む (50%~)  
(炭化物はすべて木炭)  
燒土は特に見られない

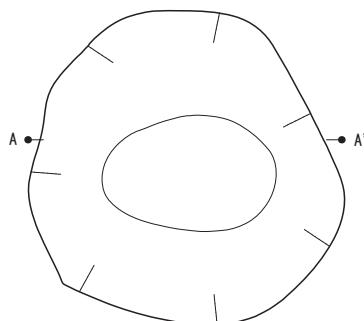
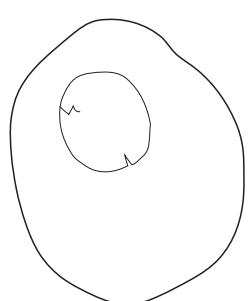
0 50cm  
S=1/20

SI-02

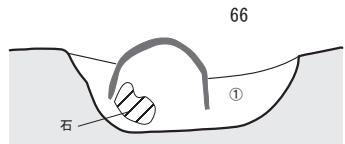


S=1/10

A ● —● A'



A ● L=76.400m —● A'



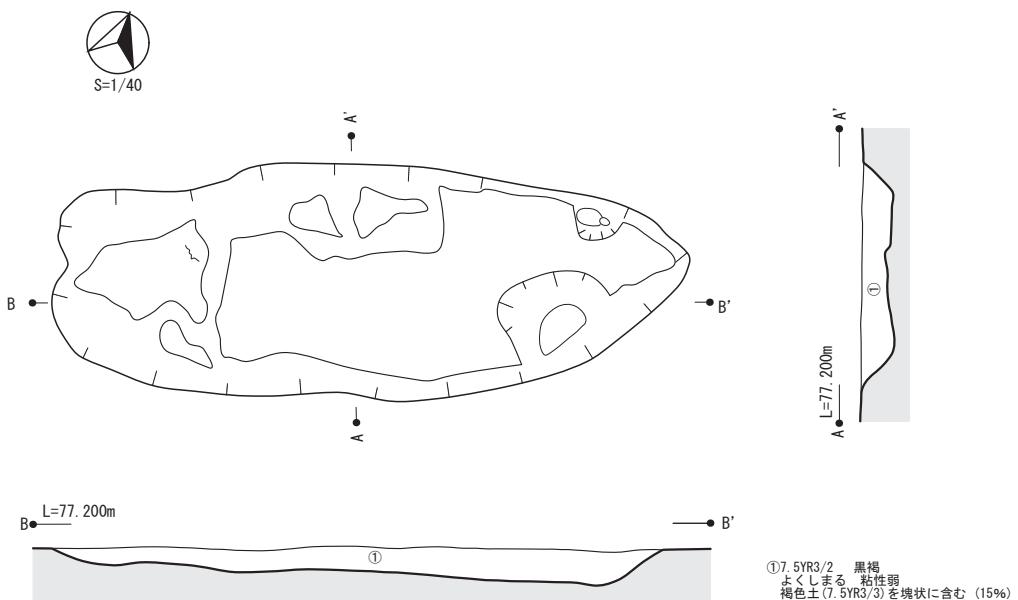
0 10cm  
S=1/3

①7.5YR3/4 暗褐色  
粘性なし しまりなし

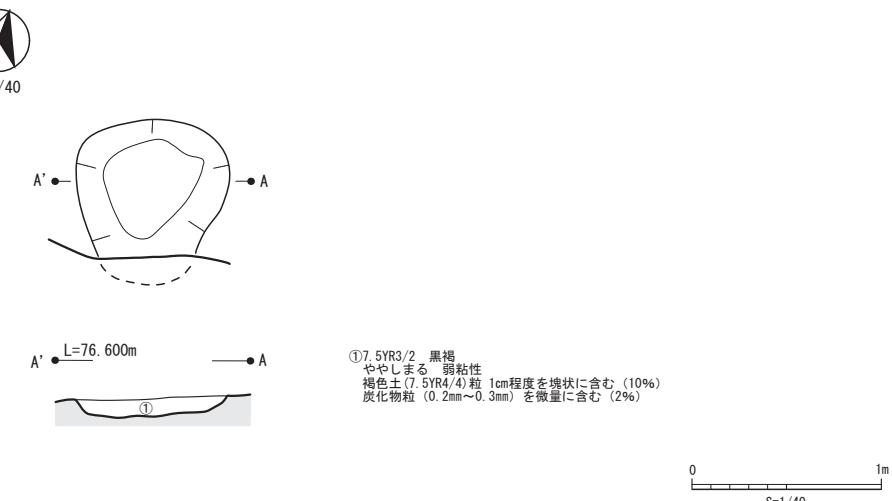
0 30cm  
S=1/10

第 55 図 桑鶴遺構群 06-I 区 SI-01・02実測図及び出土遺物実測図

SK-01

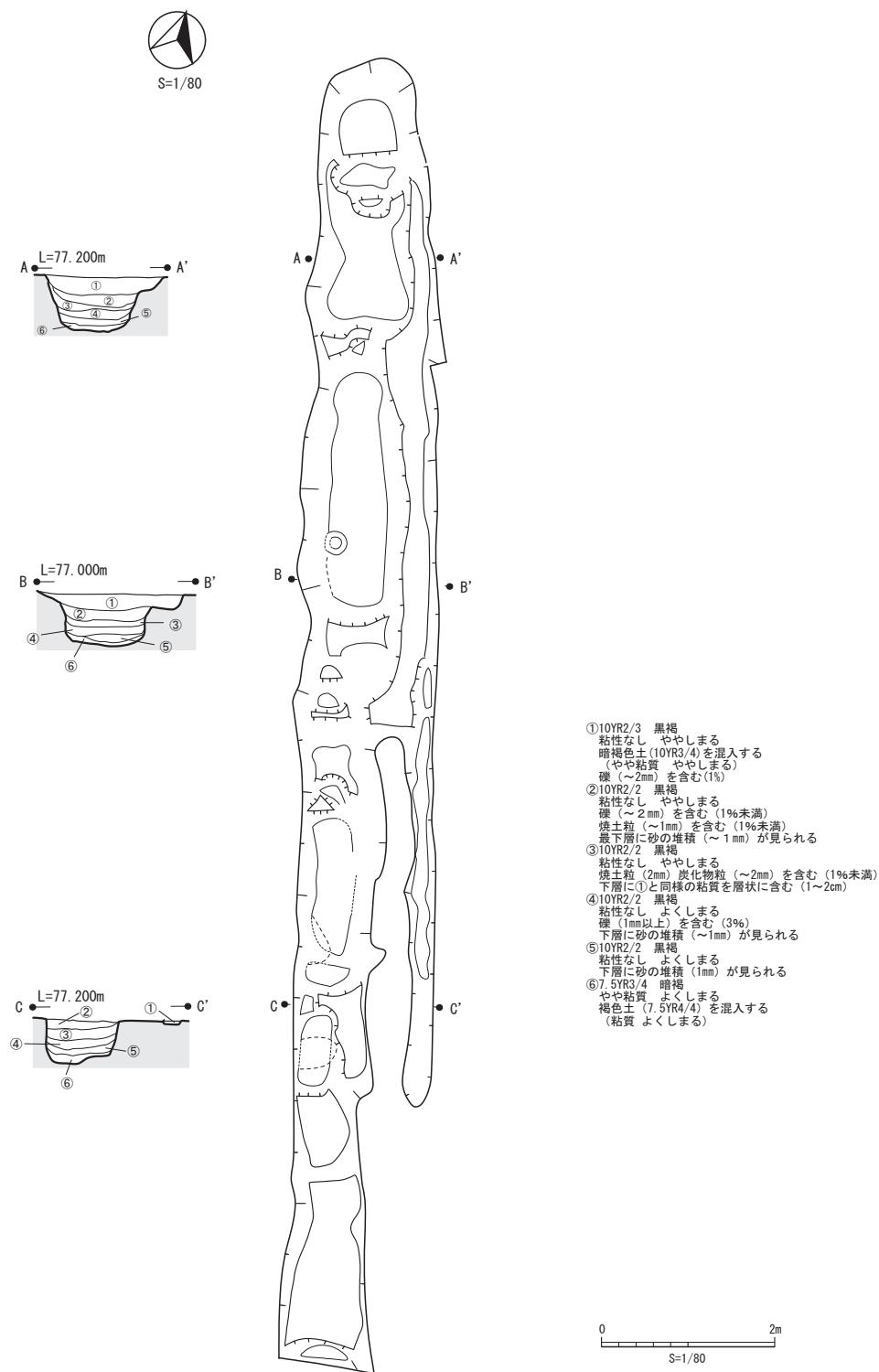


SK-06



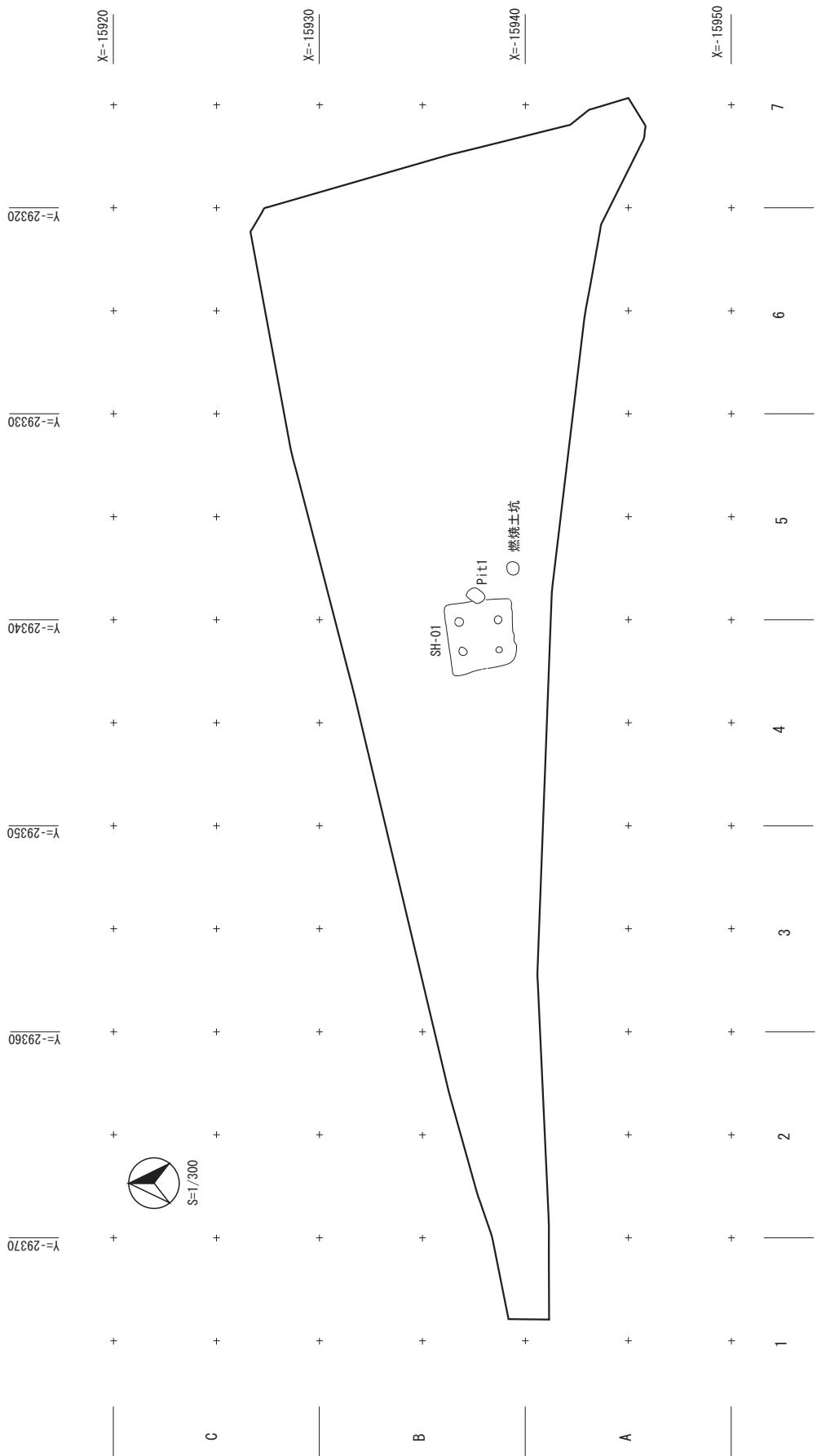
第 56 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SK-01・06 実測図

SD-07

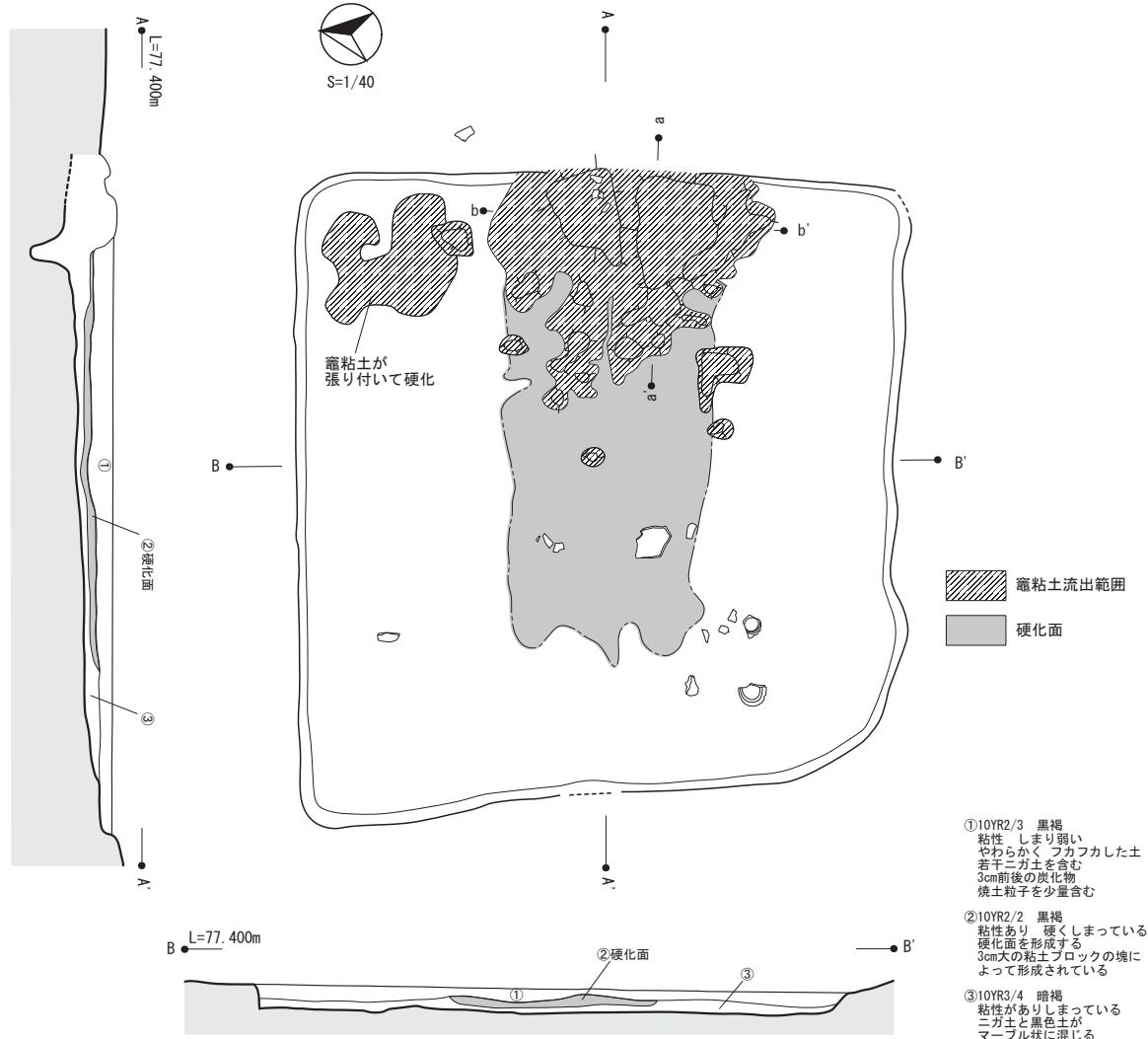


第 57 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SD-07 実測図

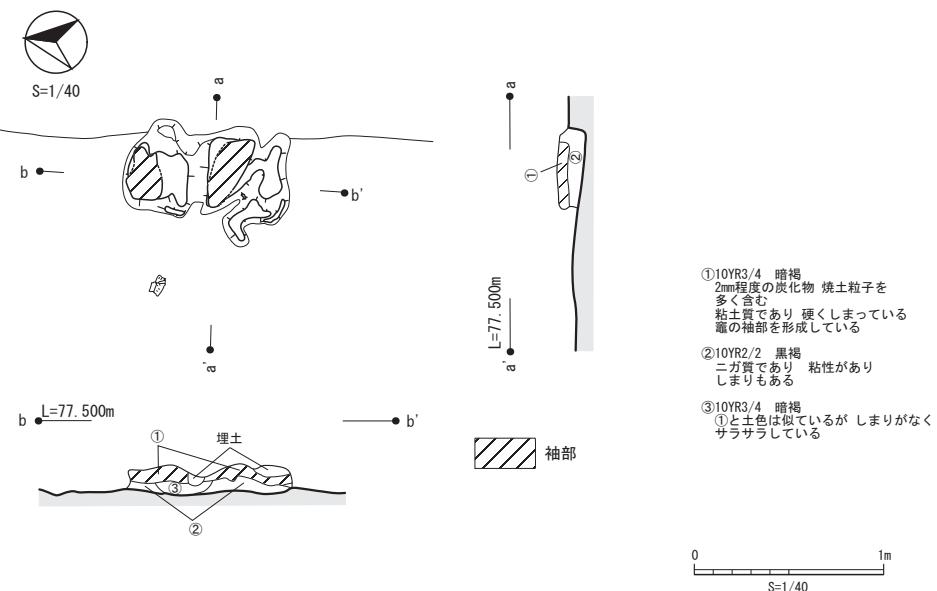
第58図 糸錆遺跡群 I 区 遺構配置図



硬化面・粘土検出状況

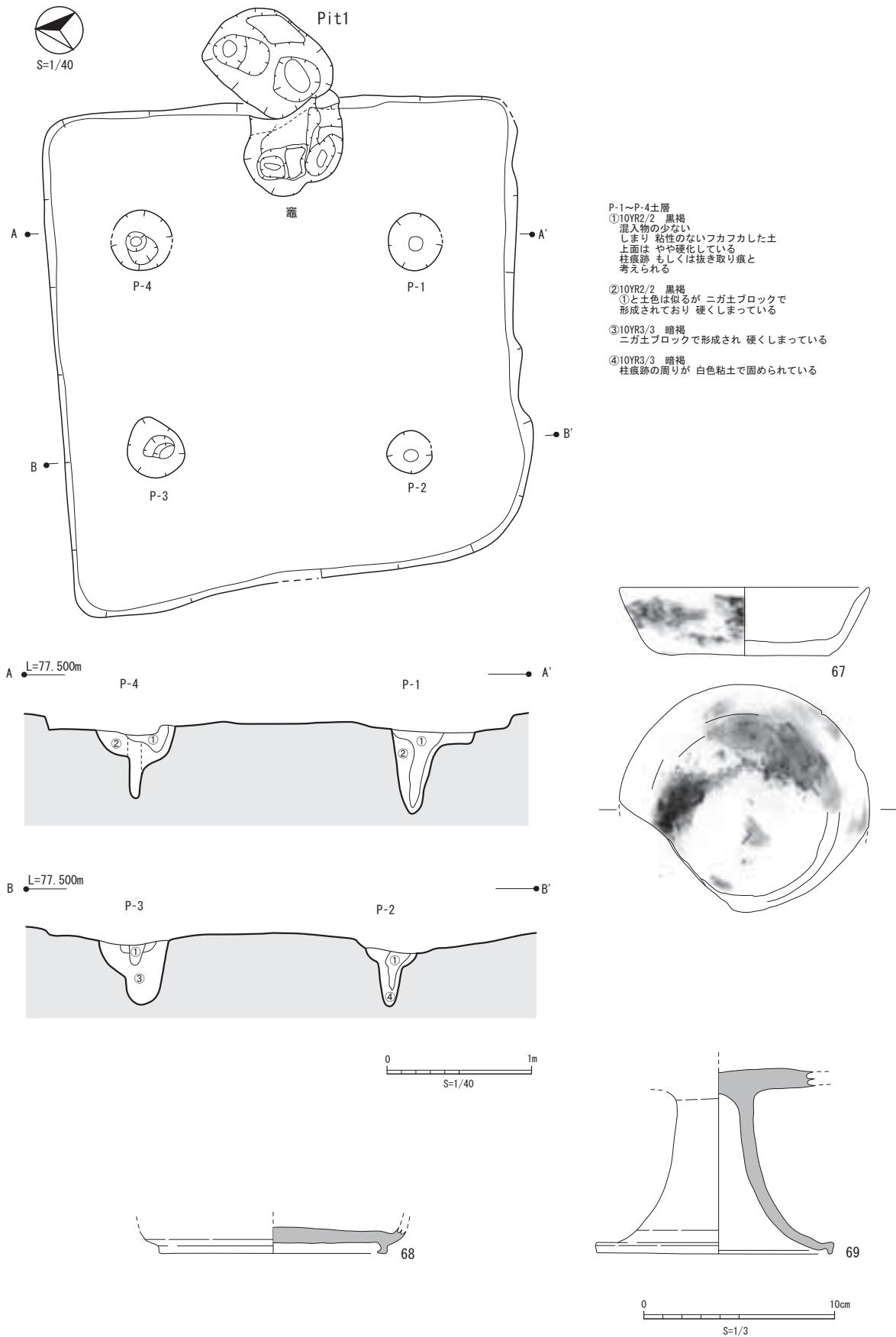


竈検出状況

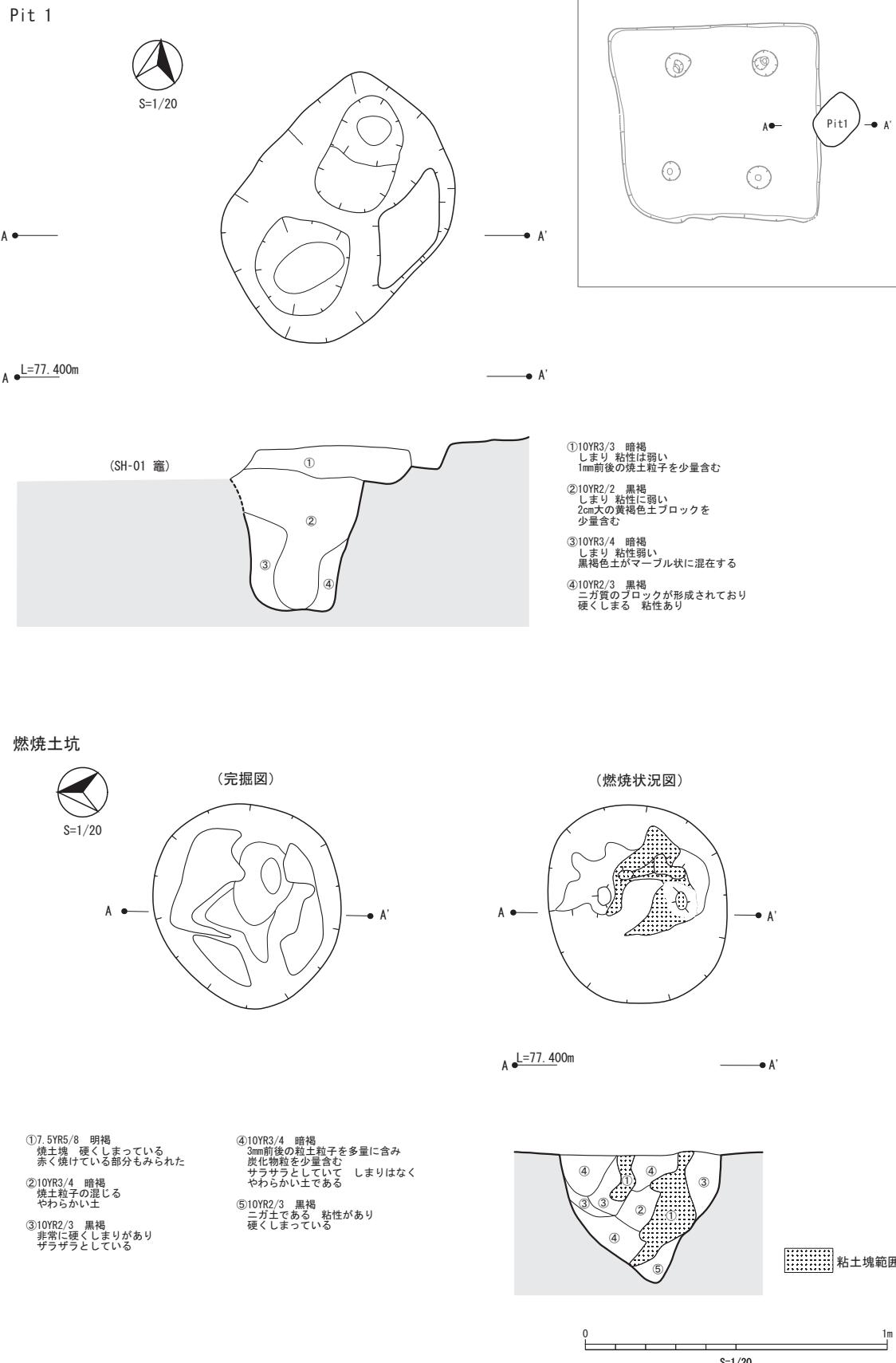


第 59 図 桑鶴遺跡群 I 区 SH-01実測図及び竈実測図

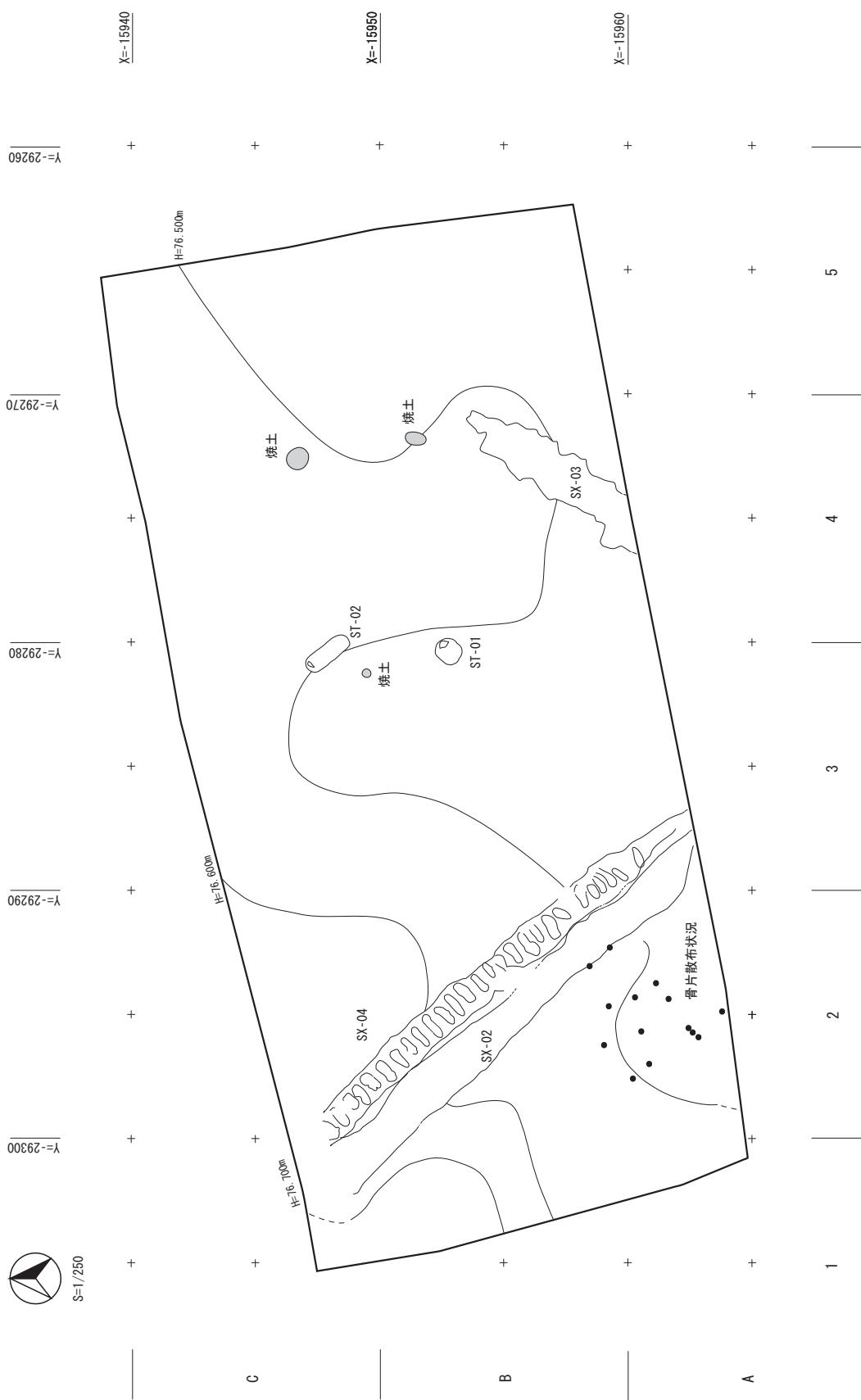
## 竈完掘・P-1～P-4検出状況



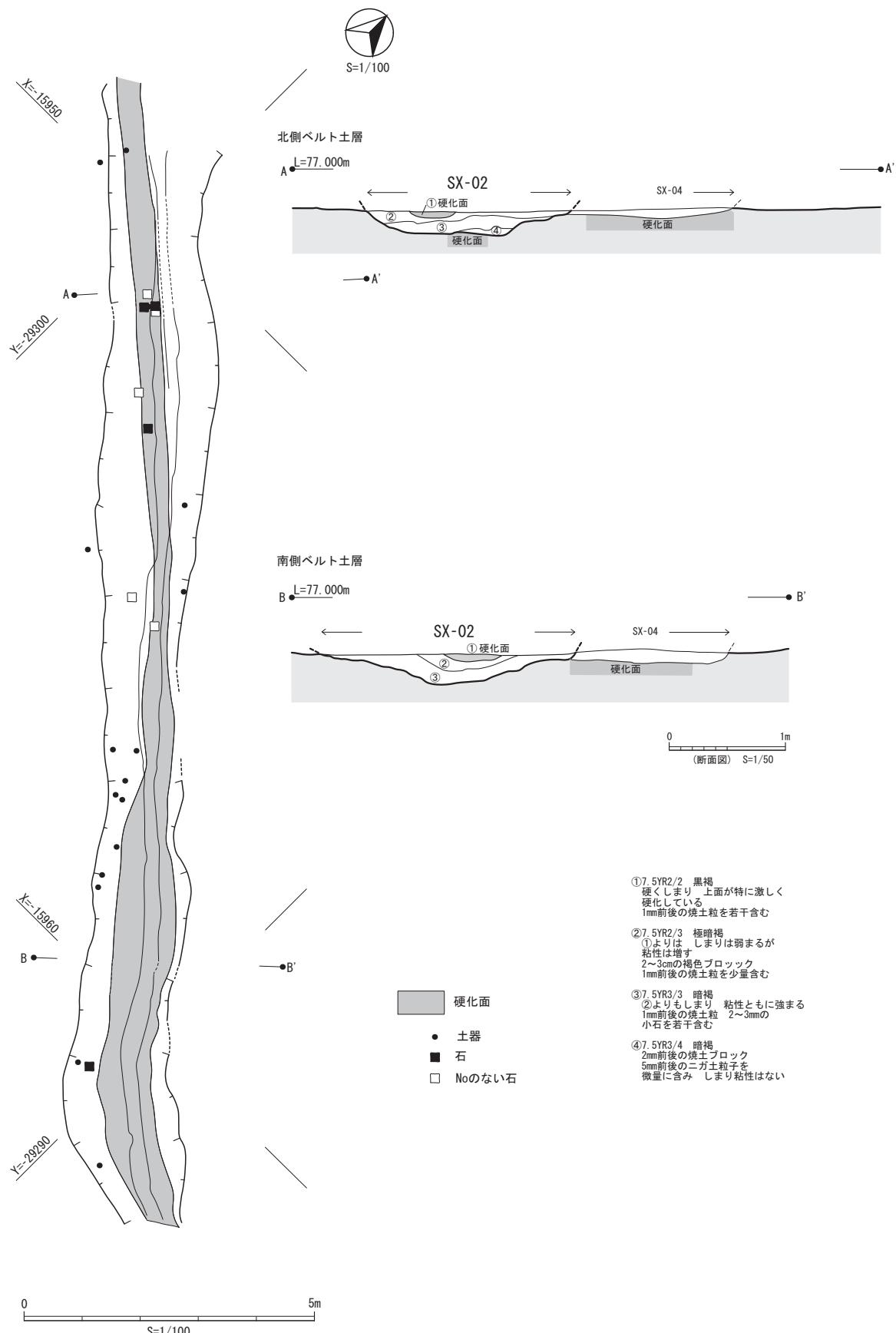
第 60 図 桑鶴遺跡群 I 区 SH-01 完掘図及び出土遺物実測図



第 61 図 桑鶴遺跡群 I 区 Pit1・燃焼土坑実測図



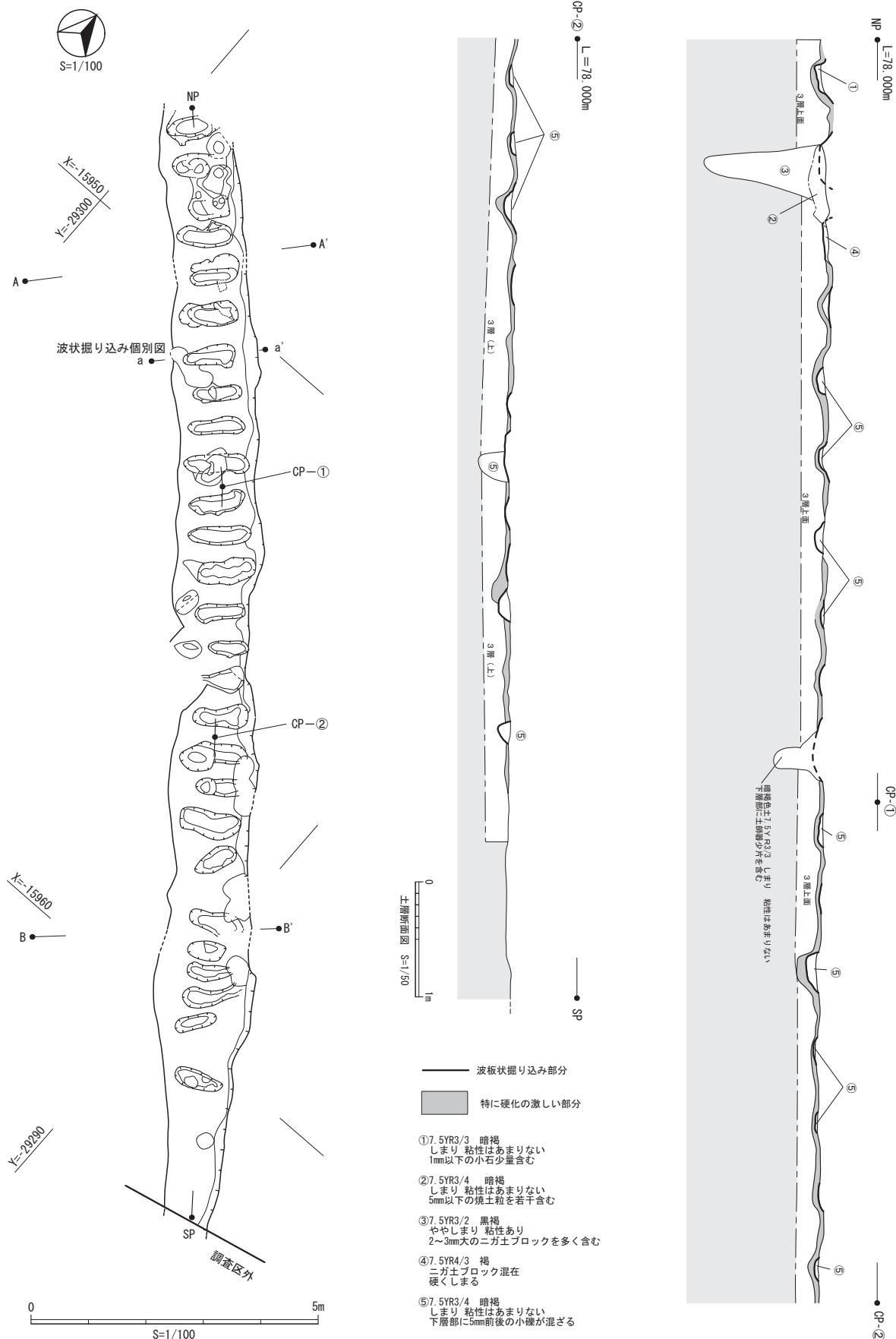
第 62 図 桑鶴遺跡群 II 区 コンタ図及び遺構配置図（III層上面検出）



第 63 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-02 実測図

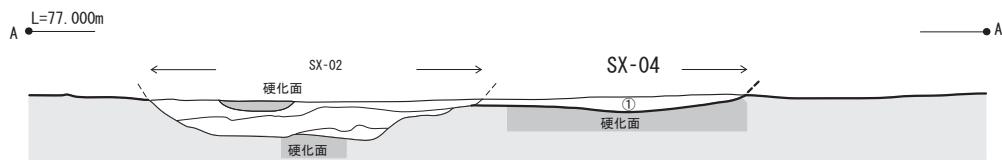


第 64 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-03 実測図

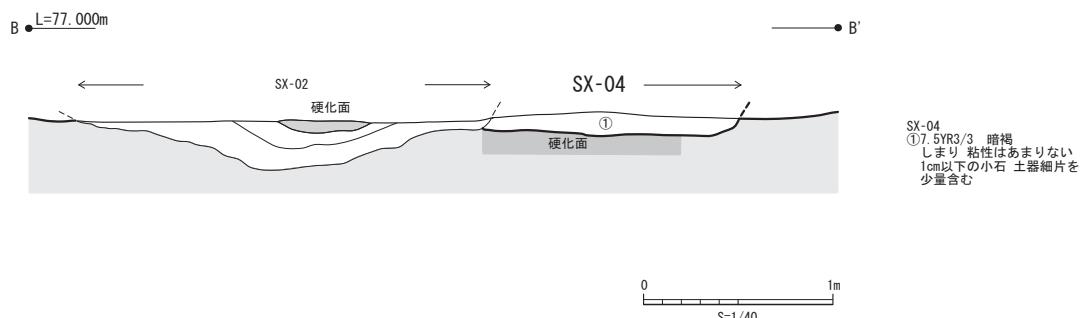


第 65 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-04 実測図

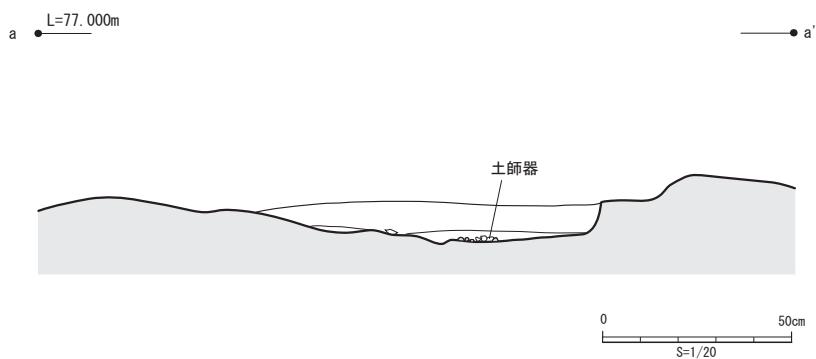
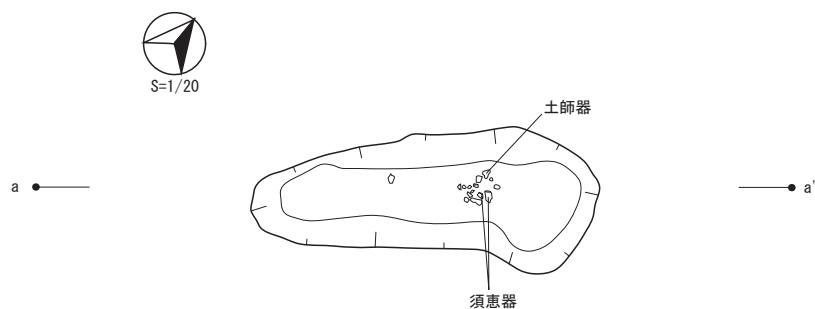
## 北側ベルト土層



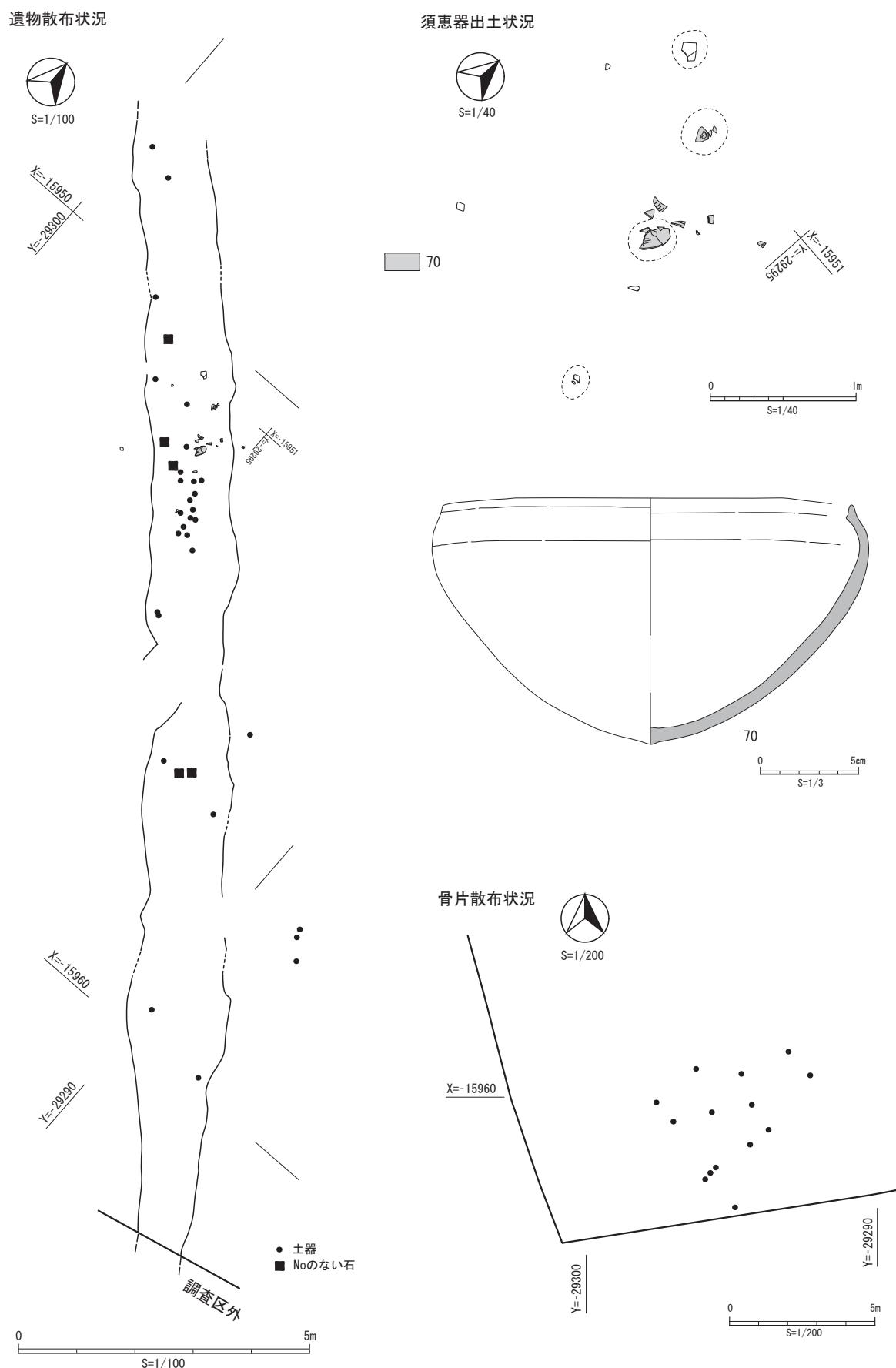
## 南側ベルト土層



## 波状掘り込み状況

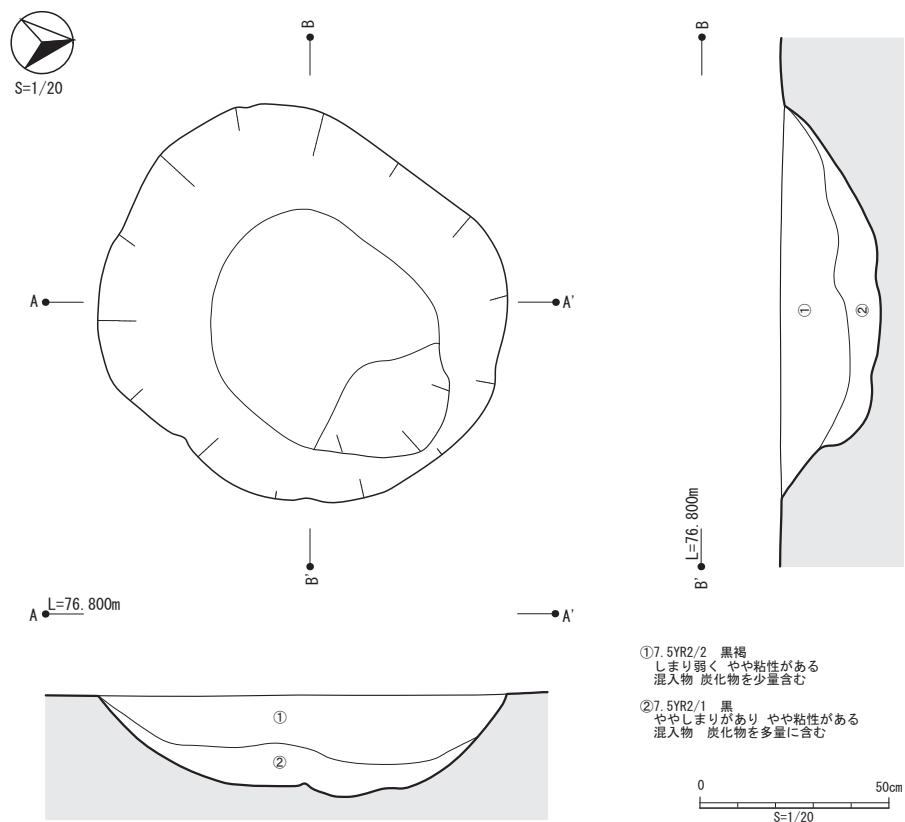


第 66 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-04ベルト土層断面図及び波状掘り込み実測図

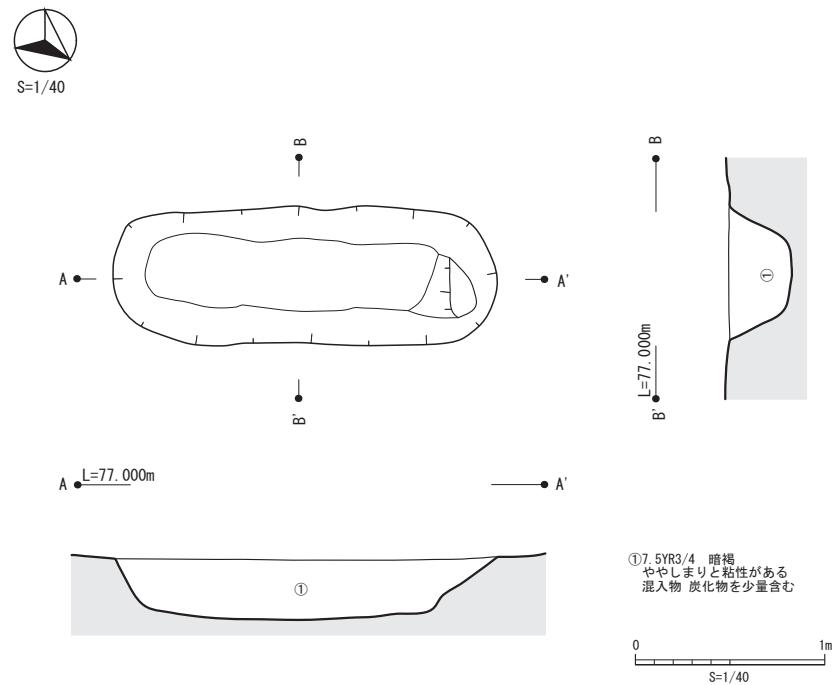


第 67 図 桑鶴遺跡群 II 区 SX-04 遺物出土状況・骨片散布状況及び出土遺物実測図

ST-01



ST-02

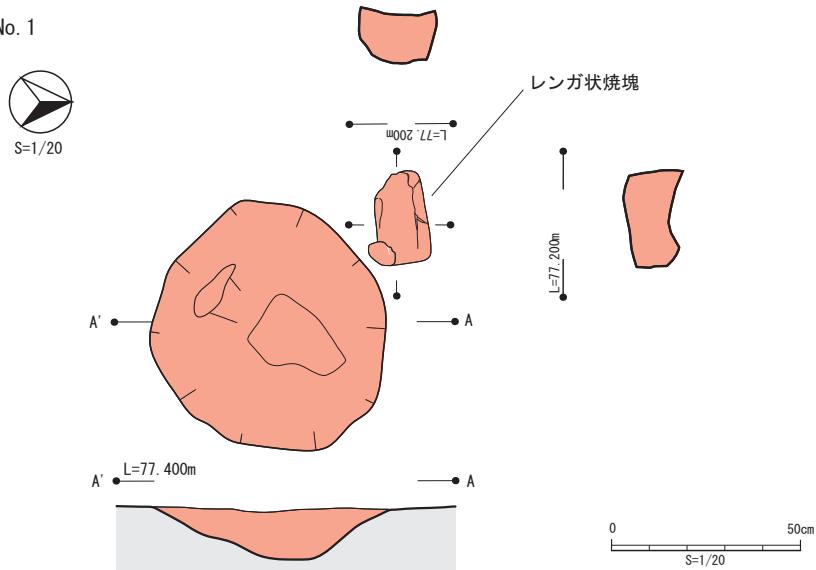


第 68 図 桑鶴遺跡群 II 区 ST-01・02 実測図

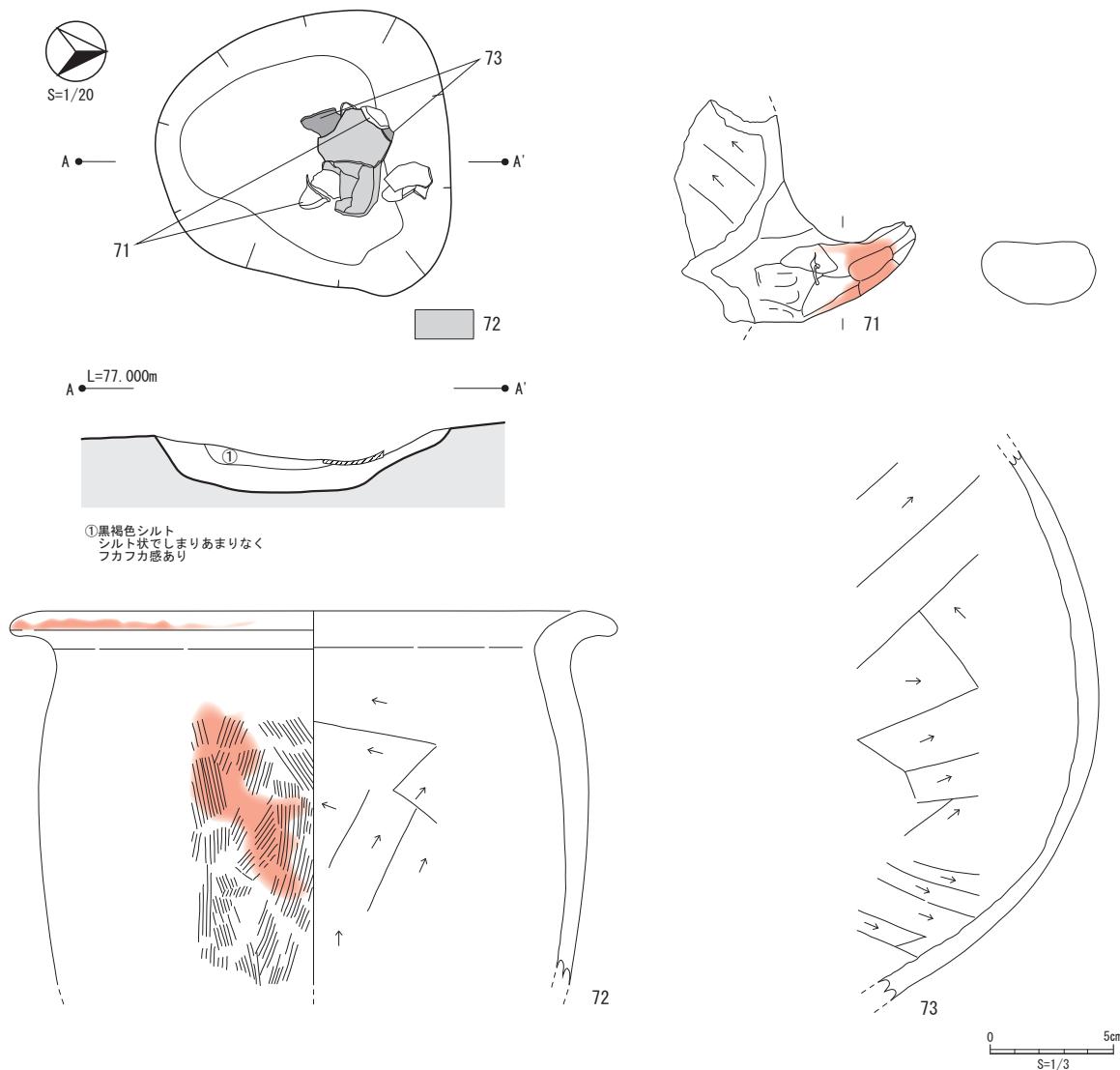


第 69 図 桑鶴遺跡群 III・VI区 遺構配置図及び遺物出土状況

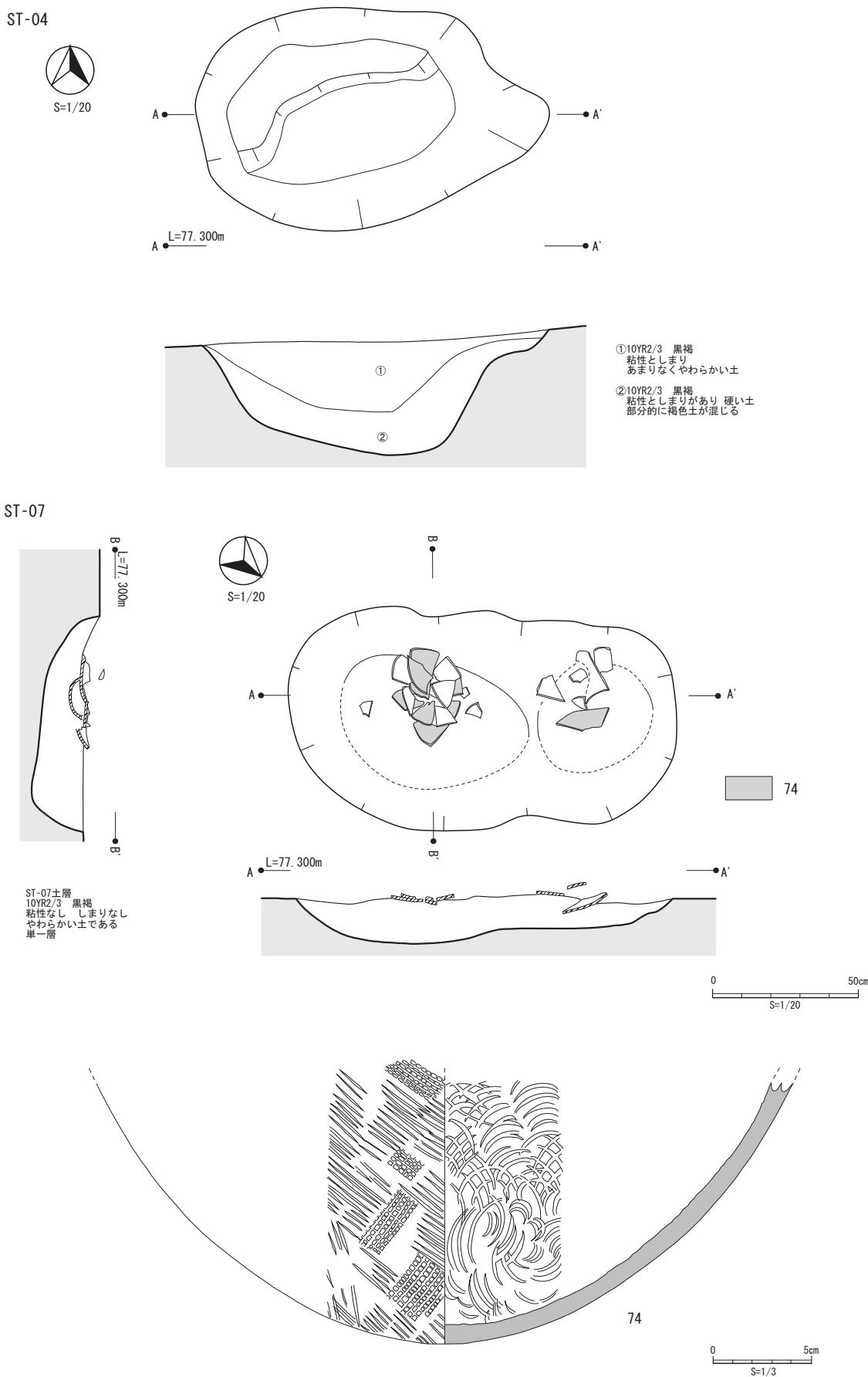
燃焼土坑 No. 1



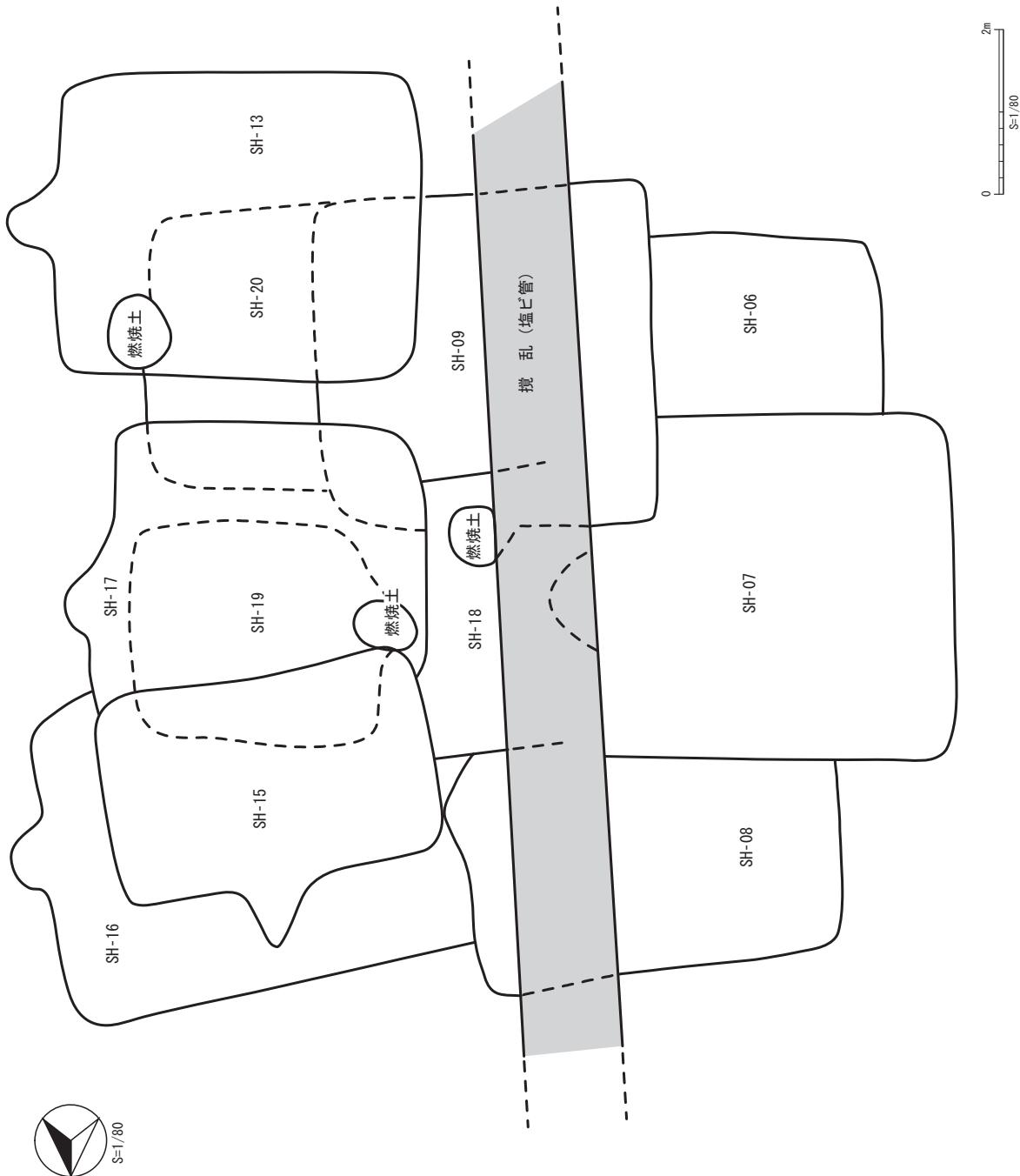
ST-01



第 70 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 燃焼土坑No. 1・ST-01実測図及び出土遺物実測図

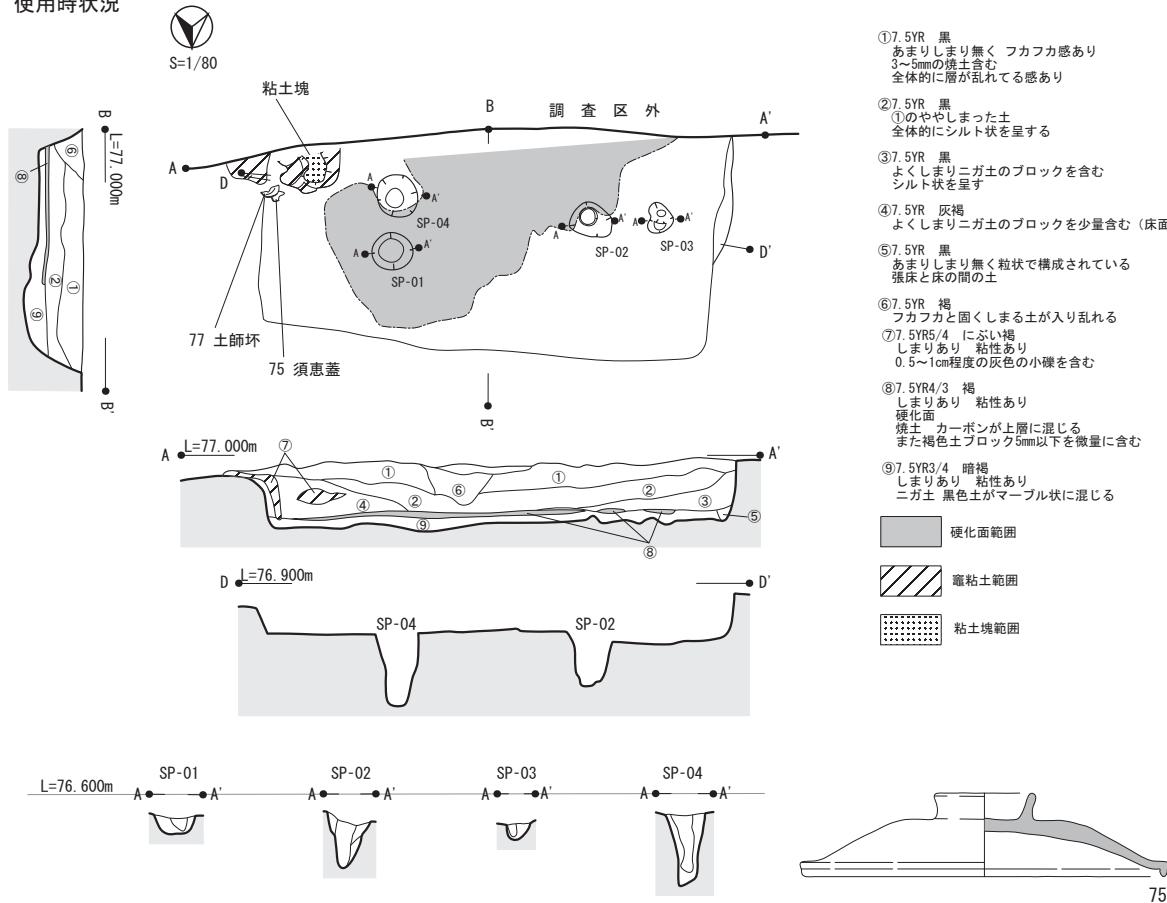


第 71 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 ST-04・07実測図及び出土遺物実測図

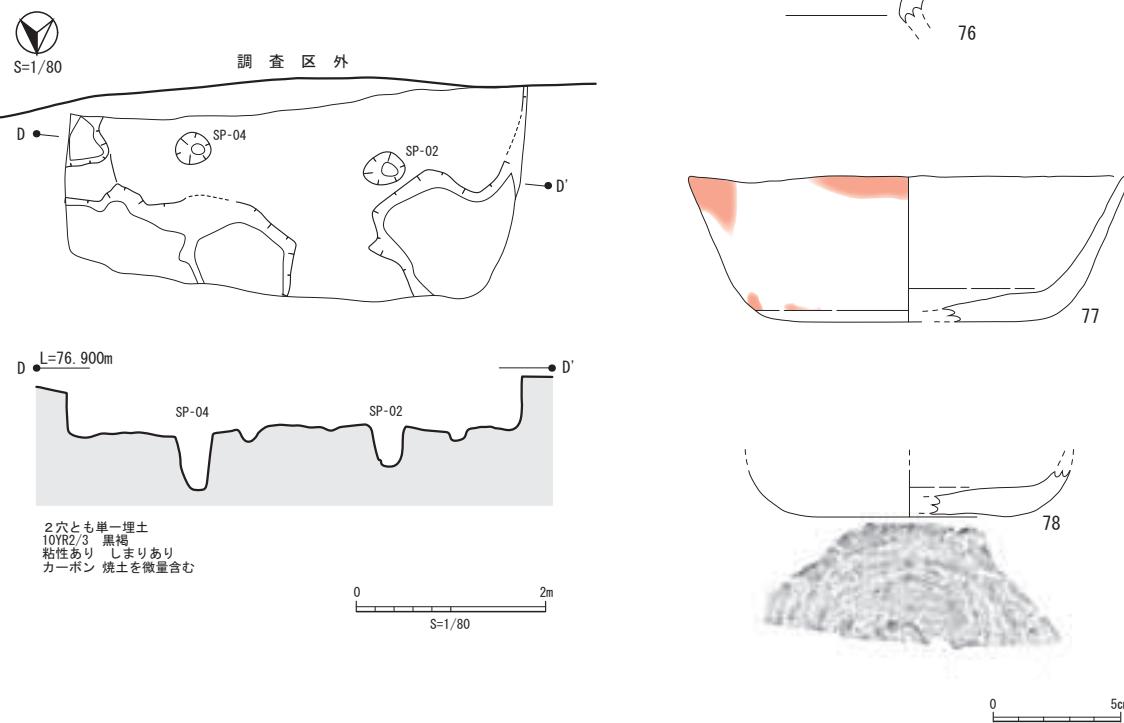


第 72 図 桑鶴遺跡群 III区 住居址群概念図

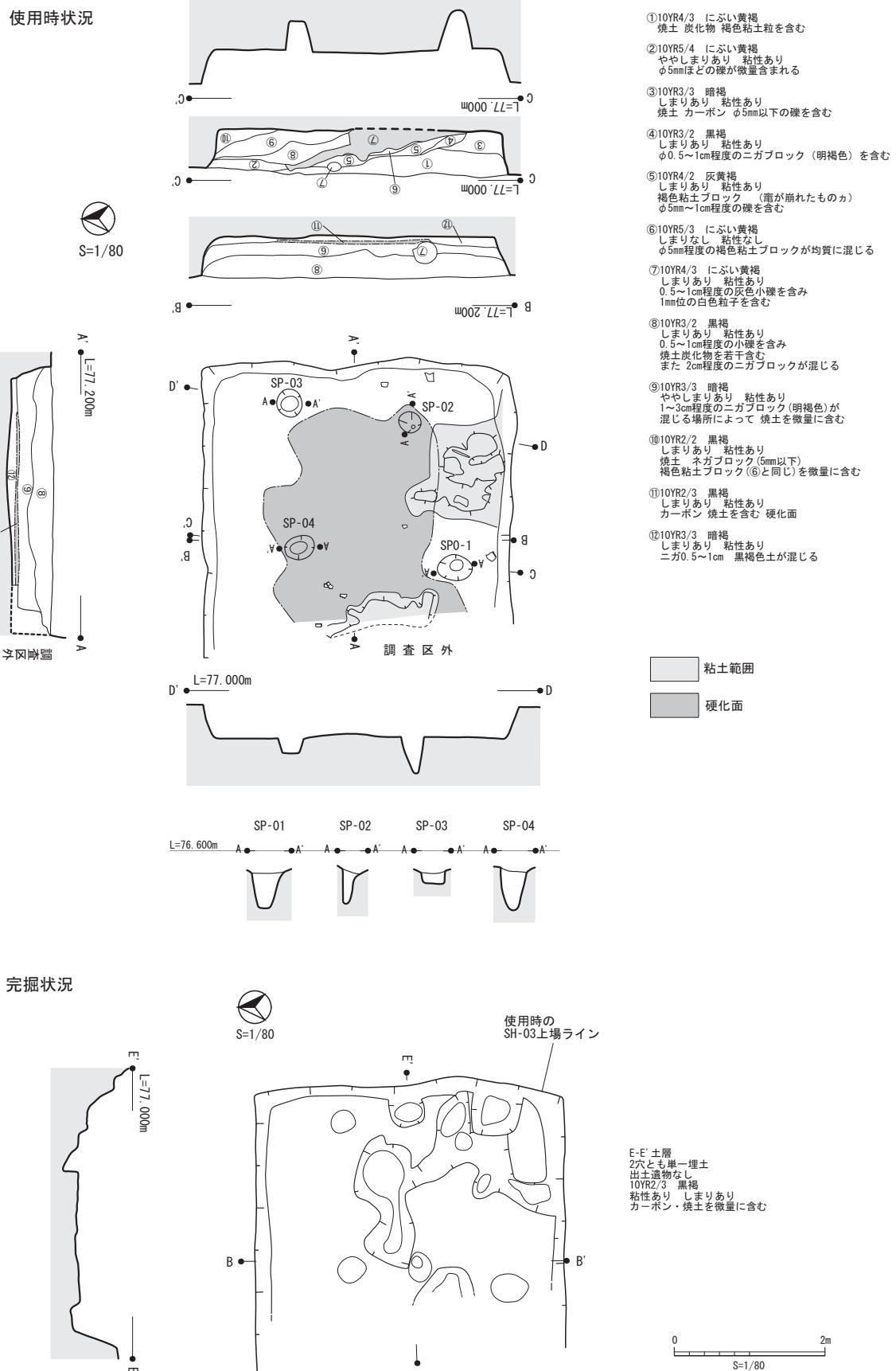
使用時状況



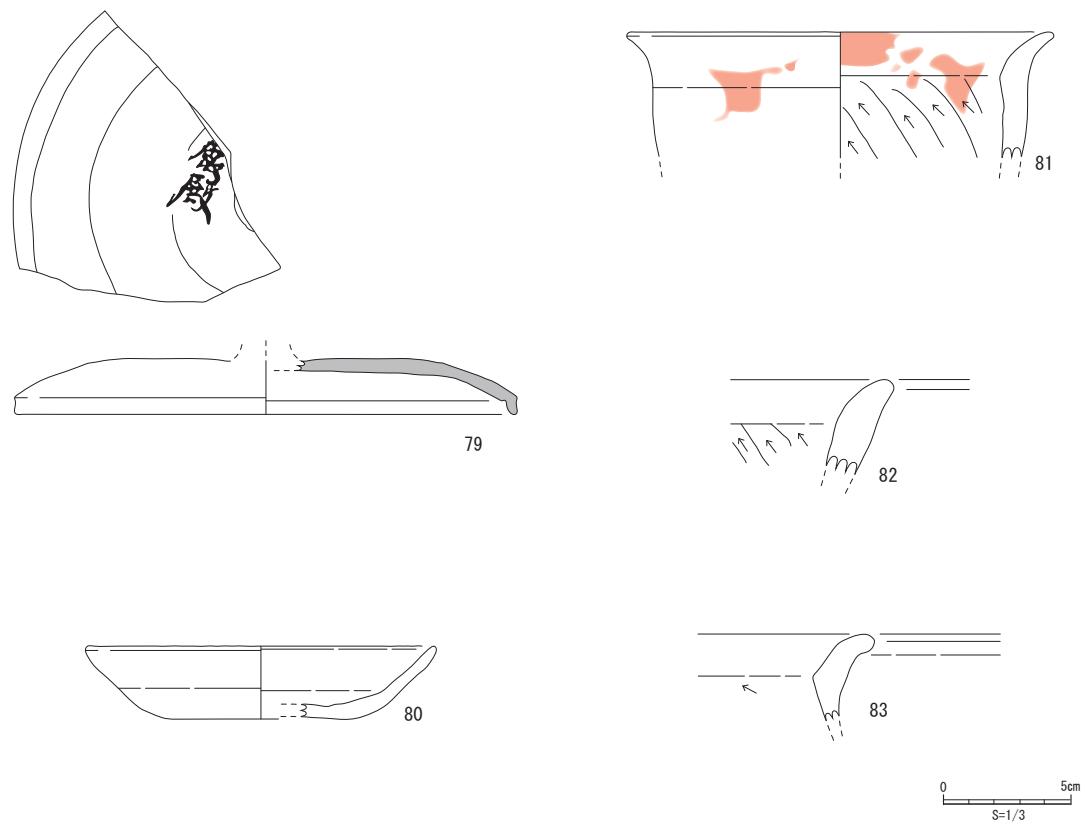
完掘状況



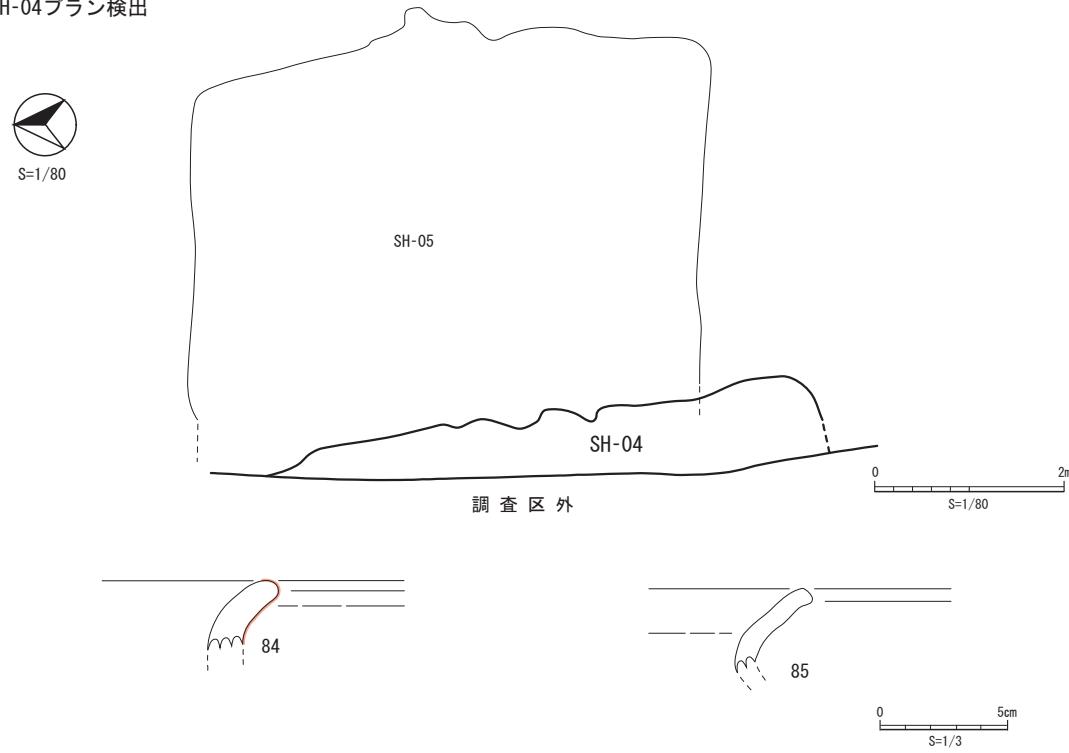
第 73 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-01実測図及び出土遺物実測図



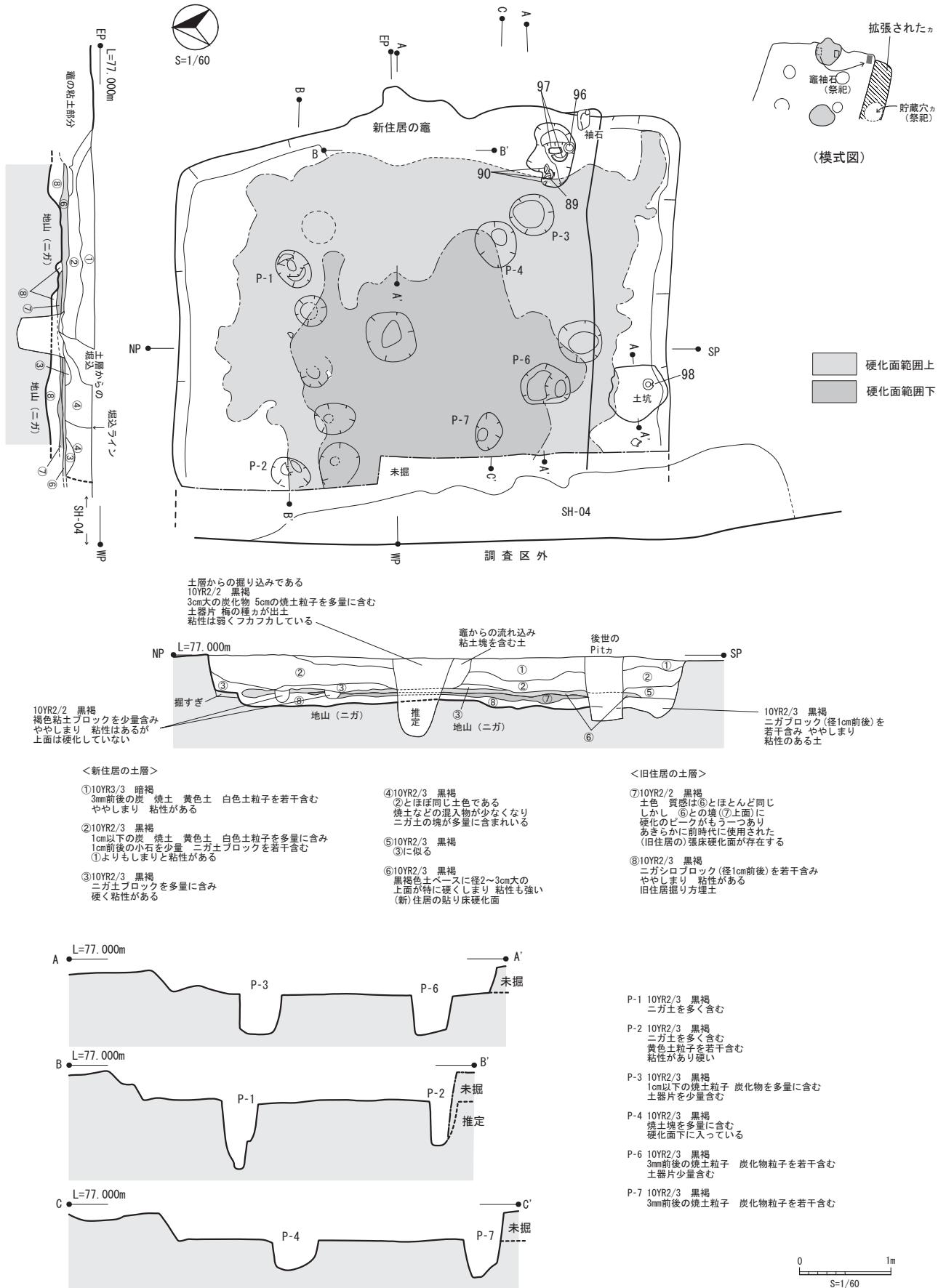
第 74 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-03実測図



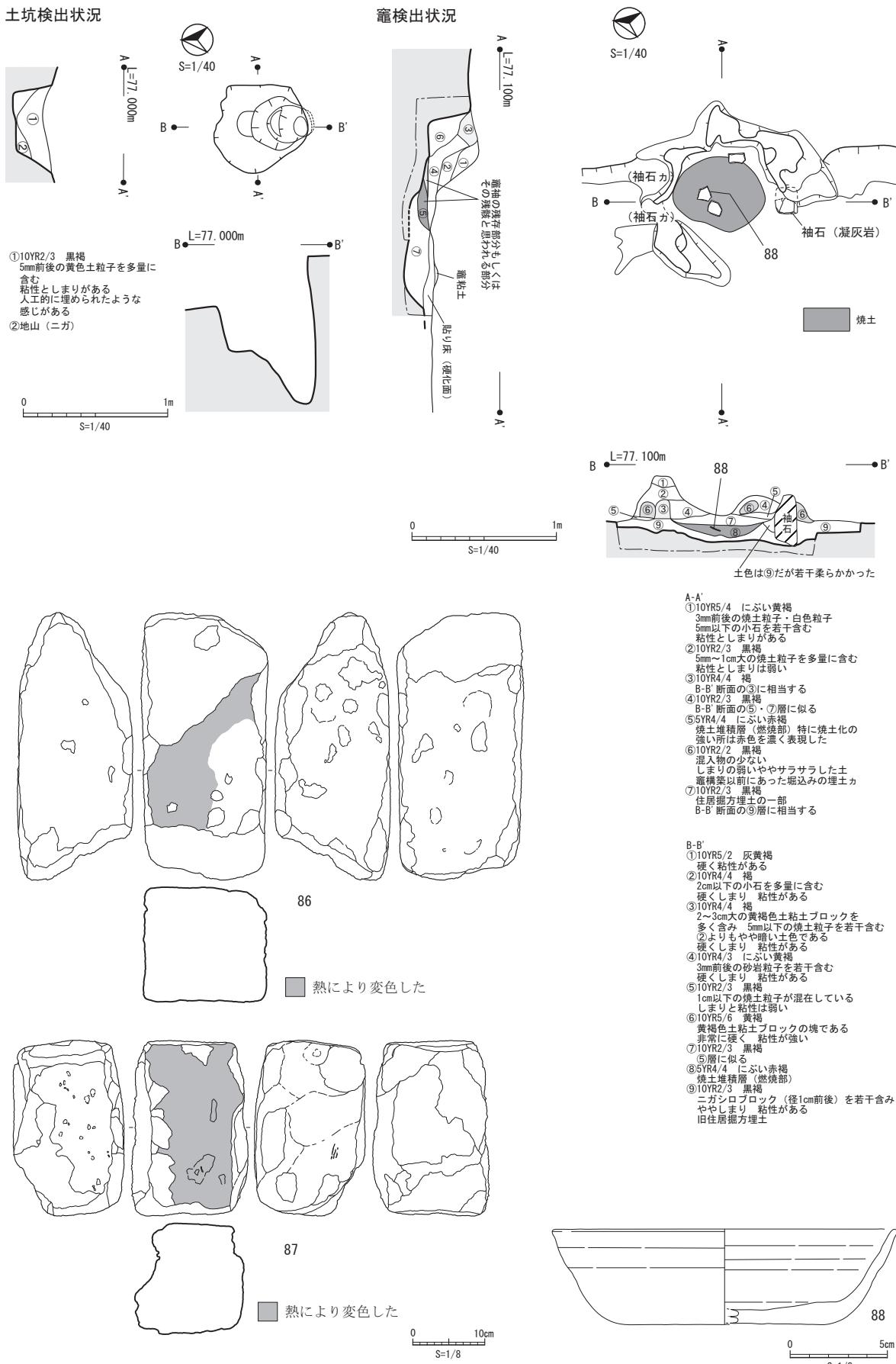
SH-05<SH-04プラン検出



第 75 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-03出土遺物実測図・SH-04実測図及び出土遺物実測図

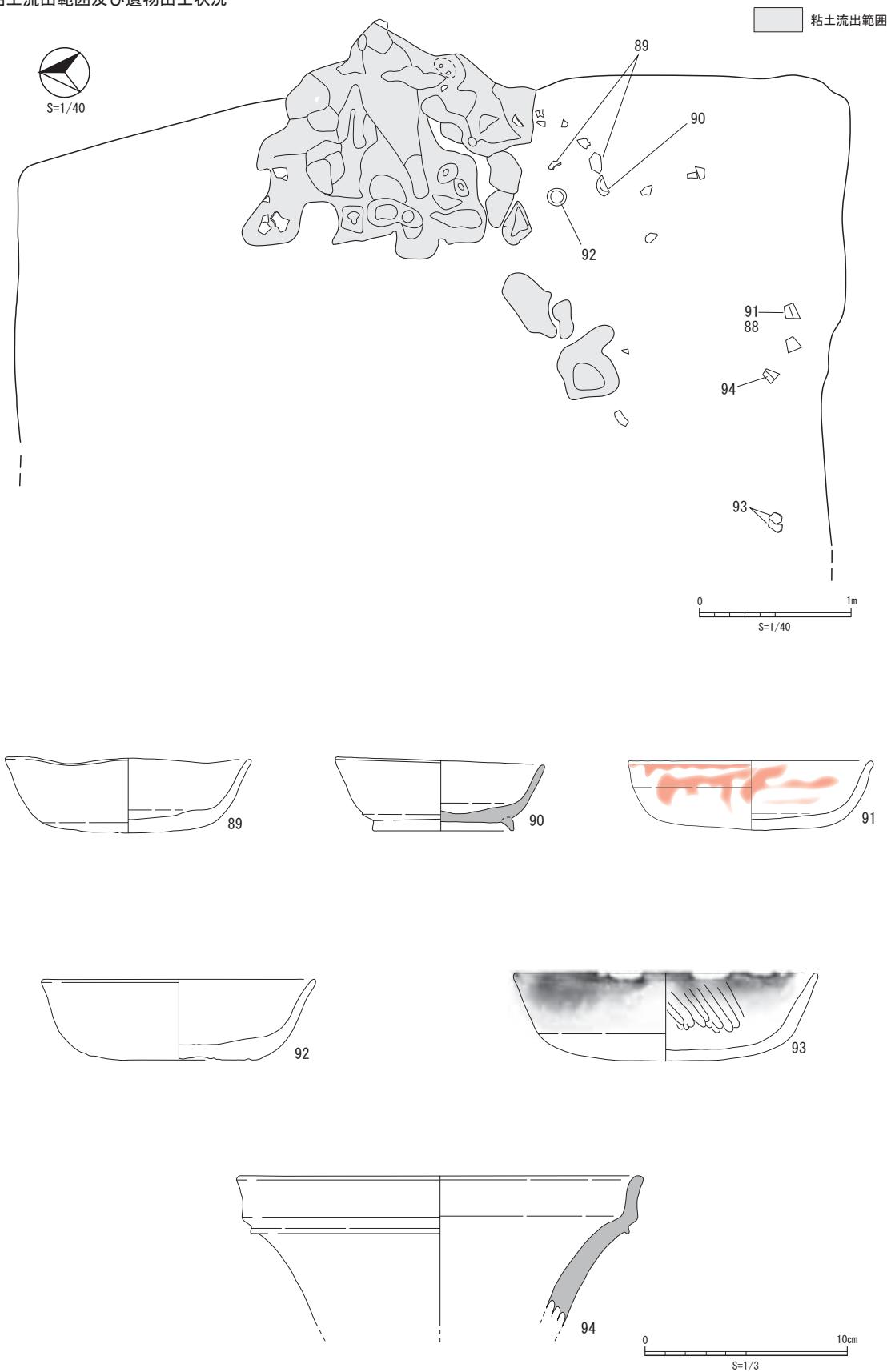


第 76 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-05実測図

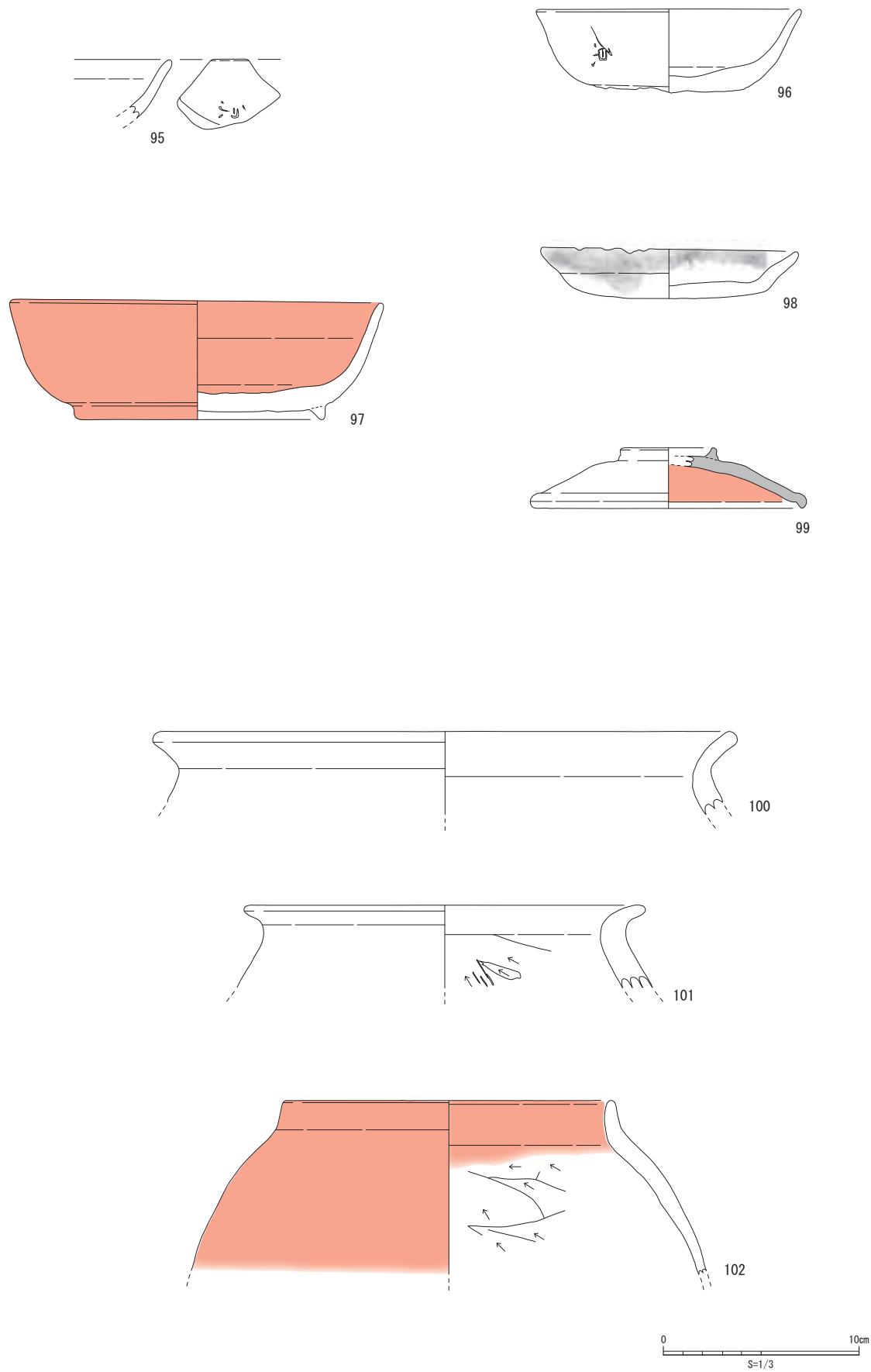


第 77 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-05土坑・竈実測図及び出土遺物実測図

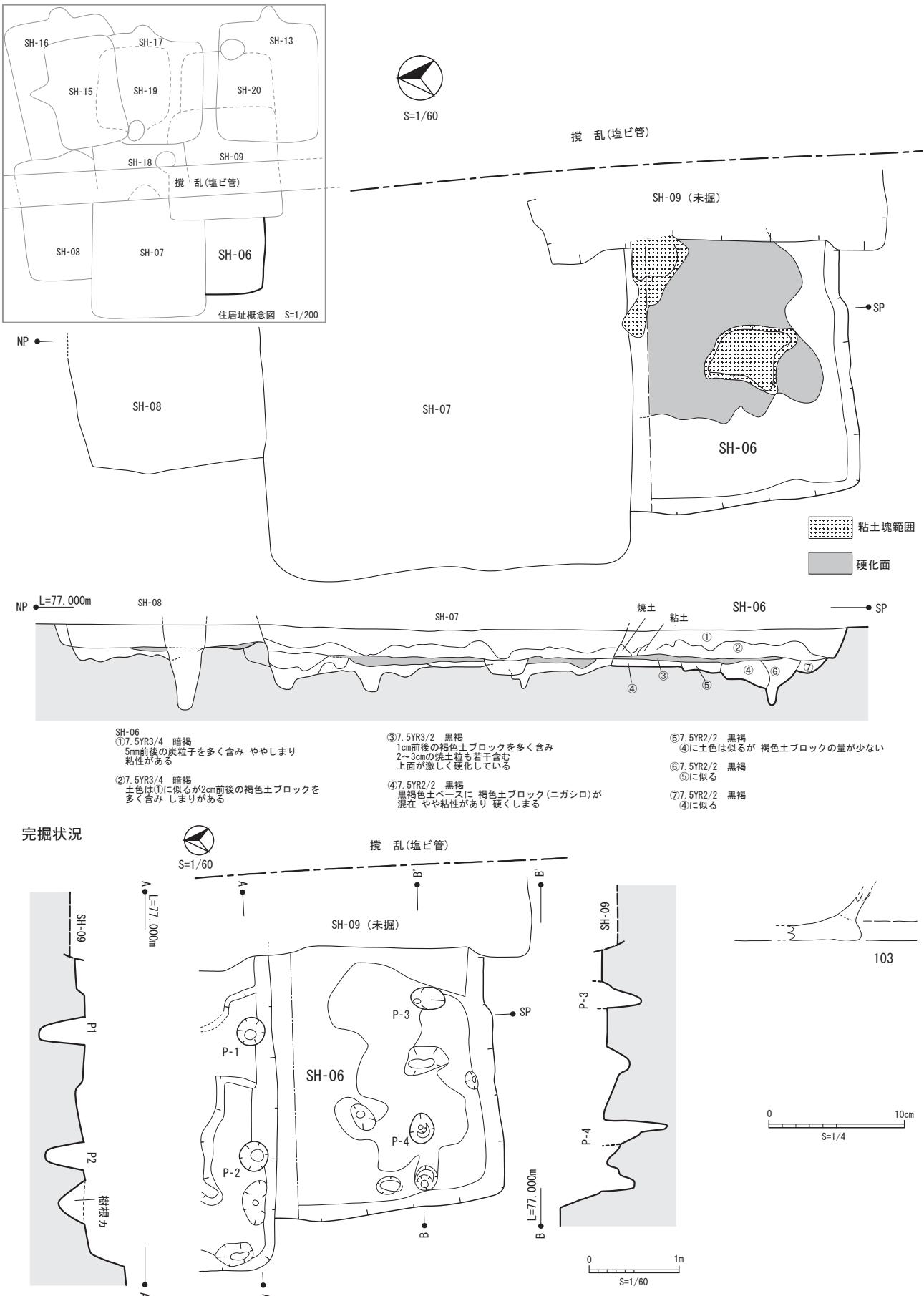
## 竈粘土流出範囲及び遺物出土状況



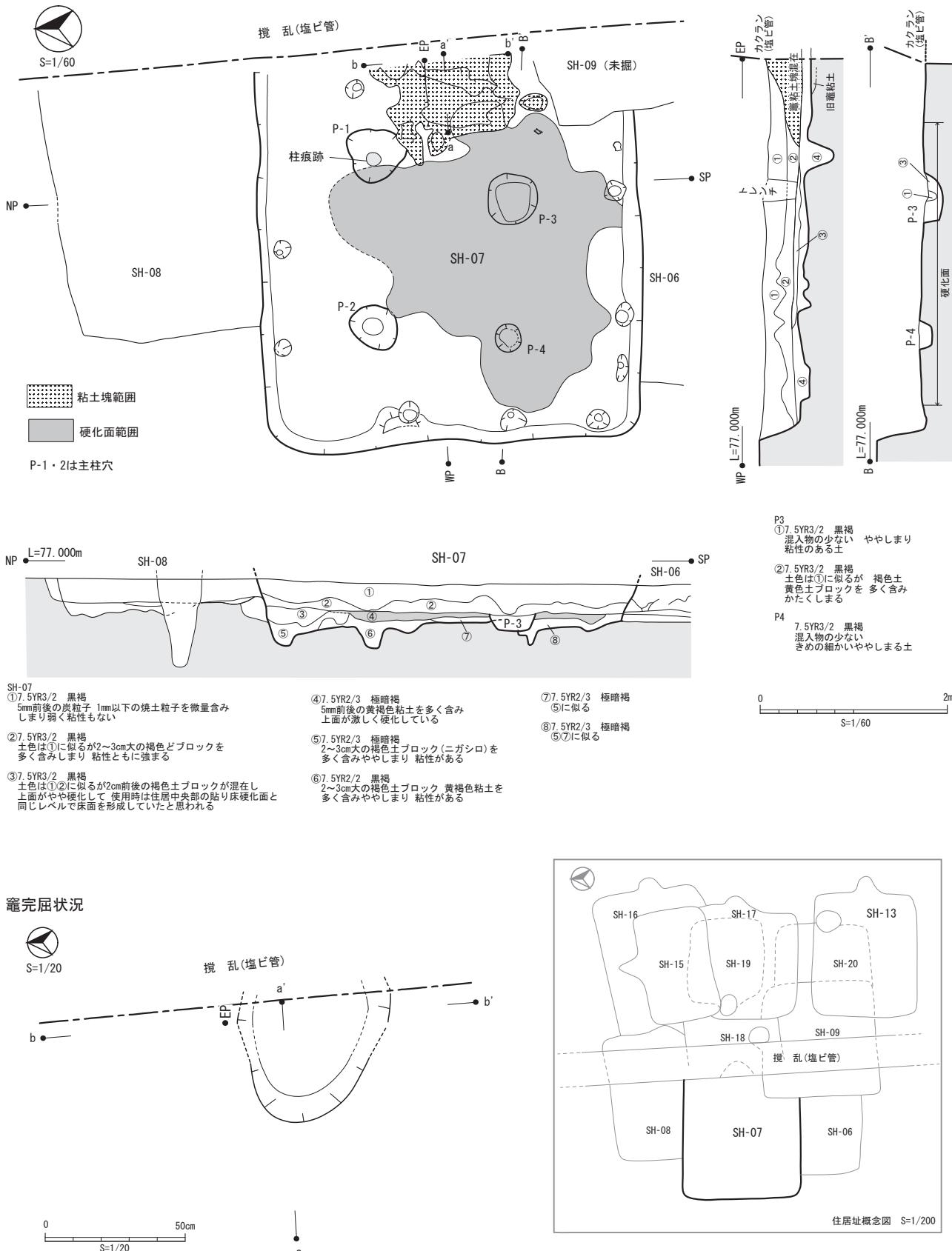
第 78 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-05 竈粘土流出状況及び出土遺物実測図



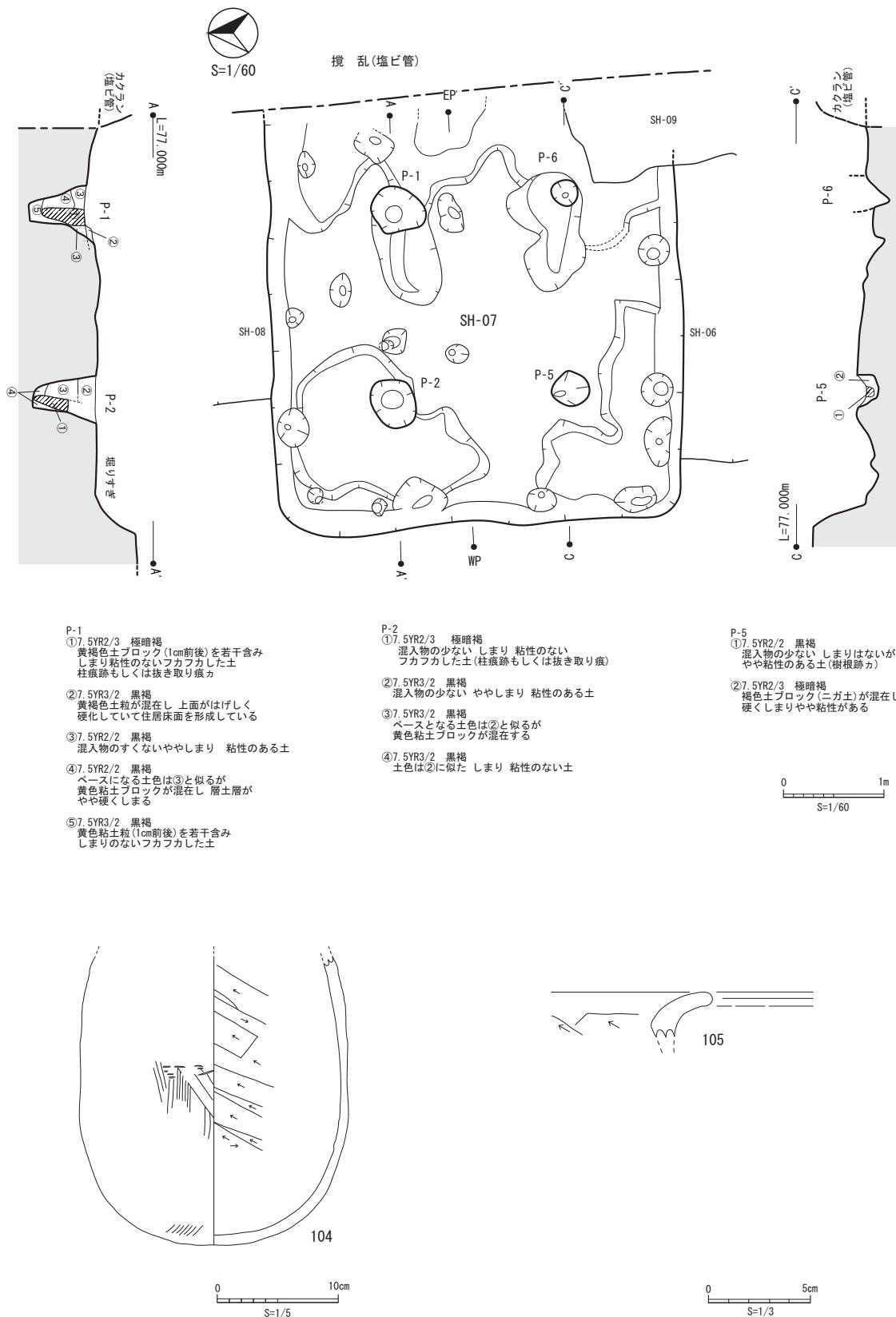
第 79 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-05出土遺物実測図



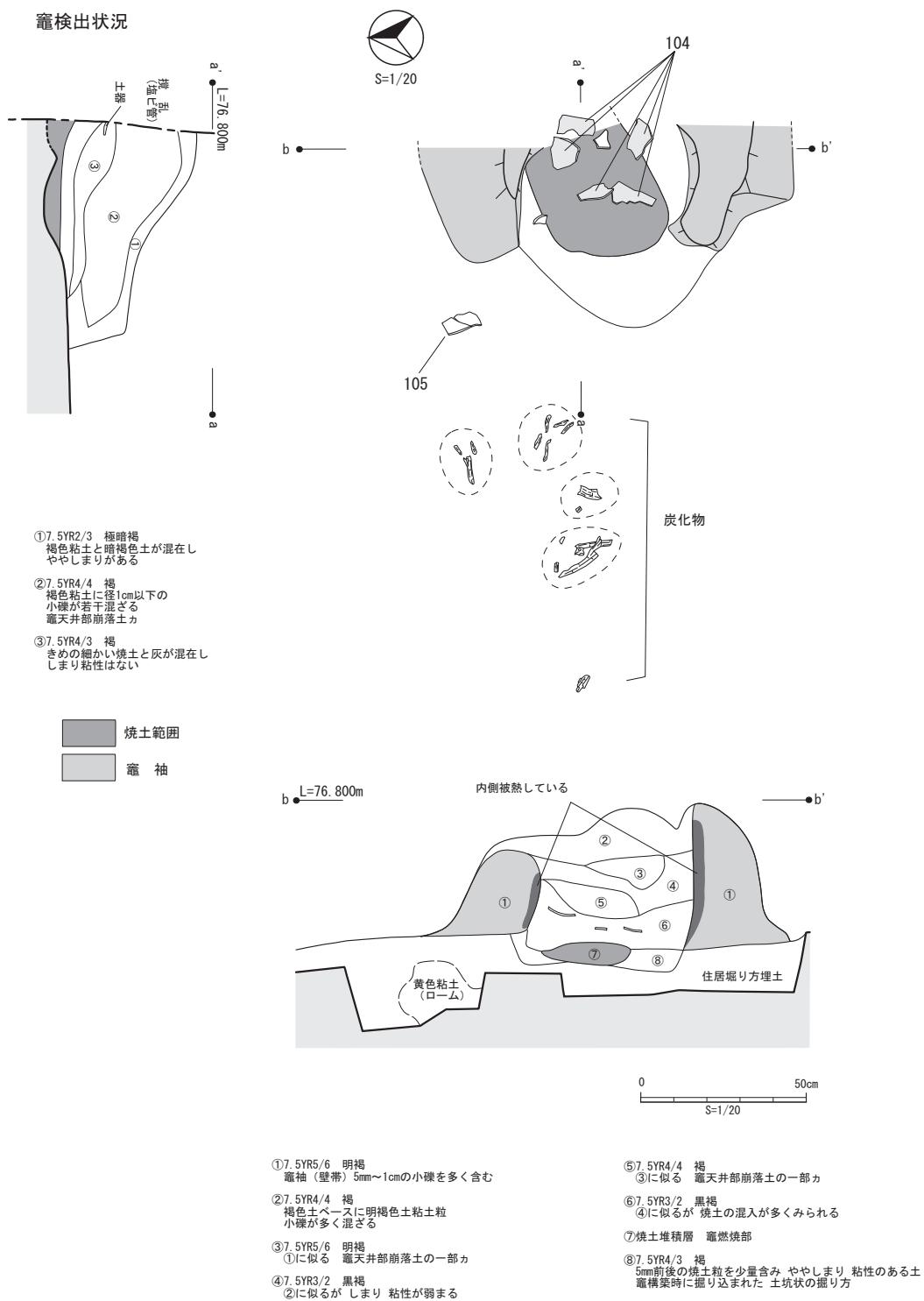
第 80 図 桑鶴遺跡群Ⅲ区 SH-06実測図及び出土遺物実測図



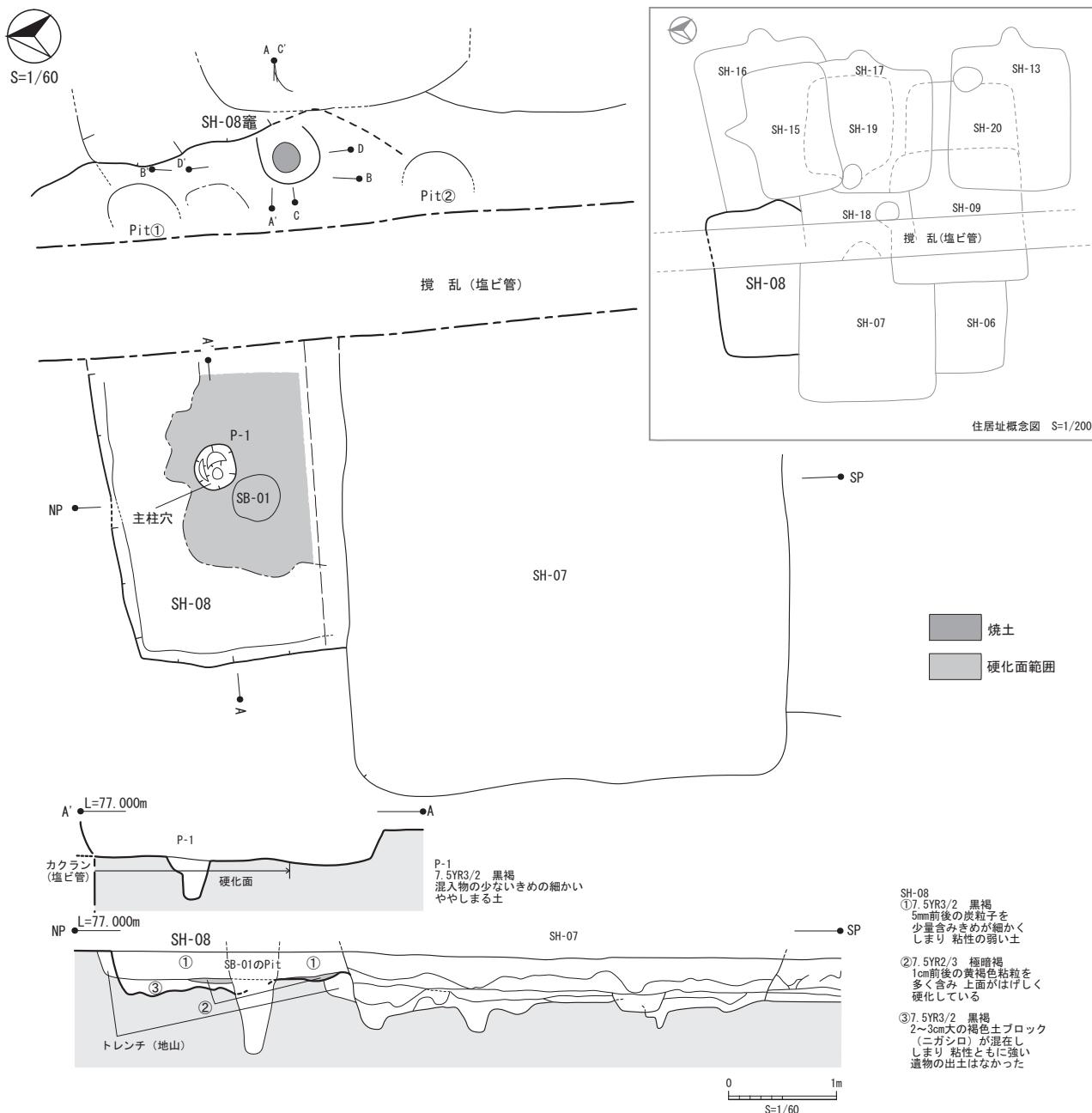
第 81 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-07実測図



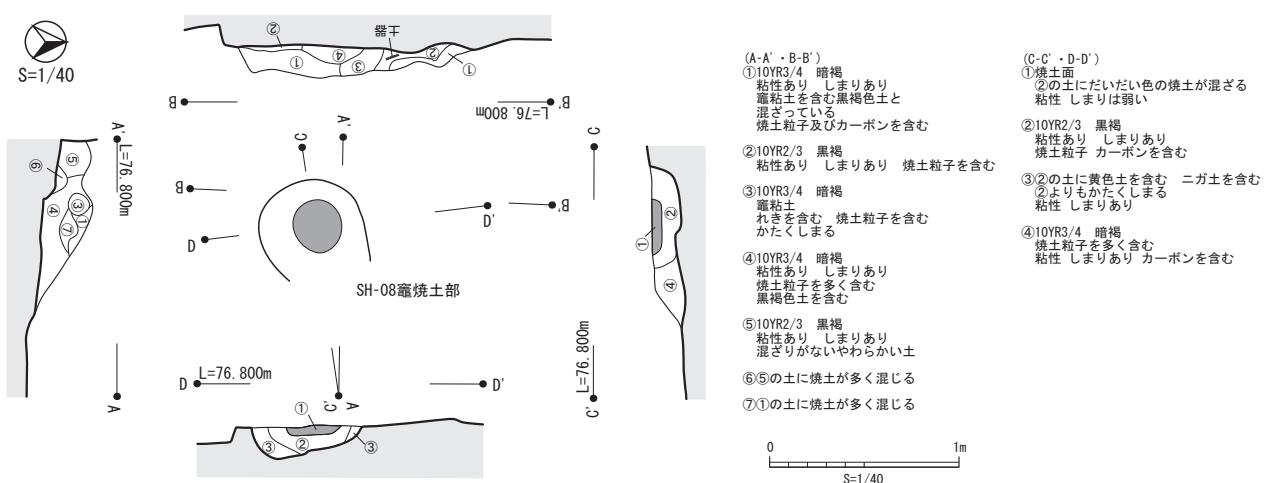
第82図 桑鶴遺跡群 III区 SH-07 Pit検出状況及び出土遺物実測図



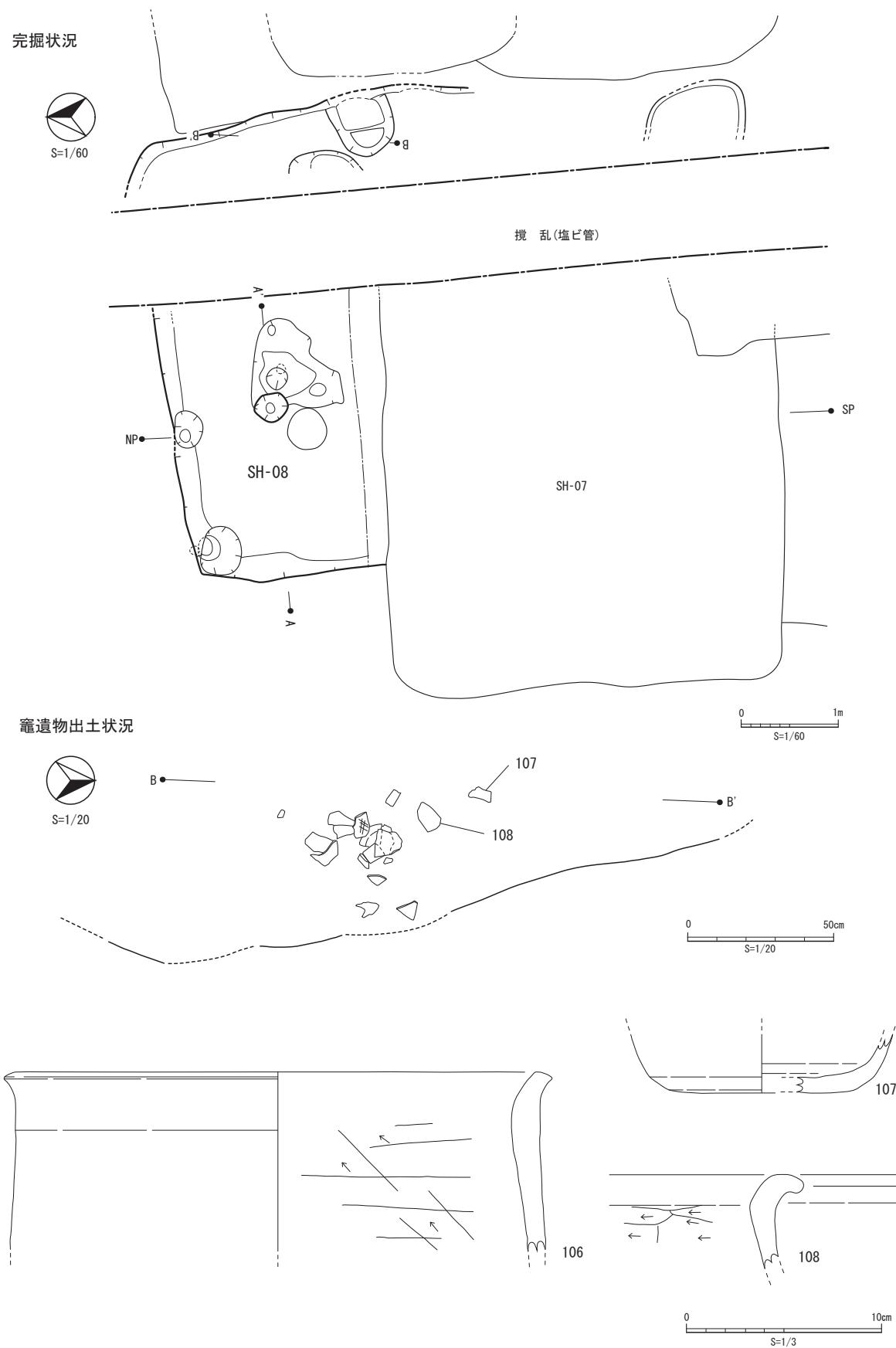
第 83 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-07竈窯測図及び炭化物出土状況



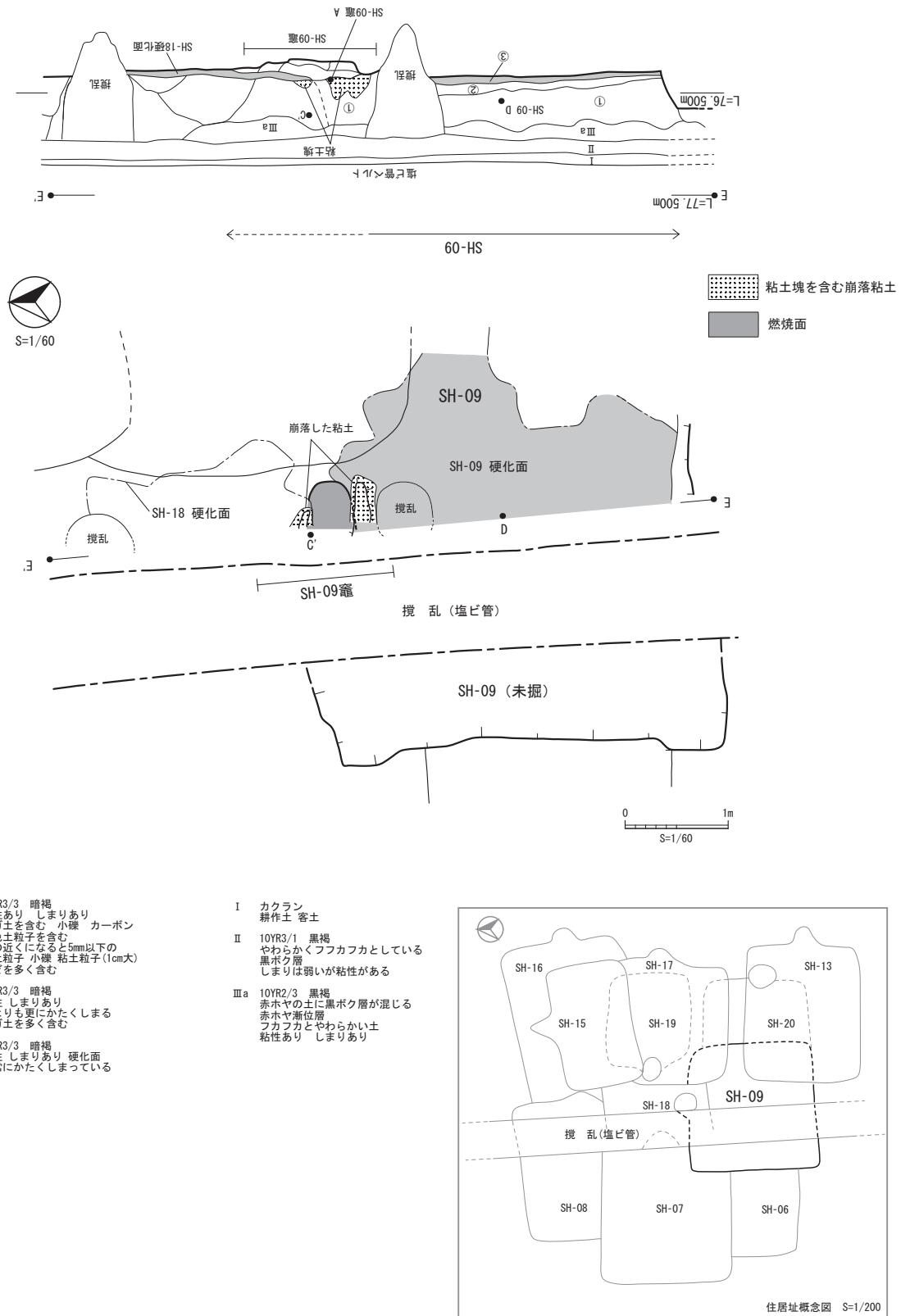
竈検出状況



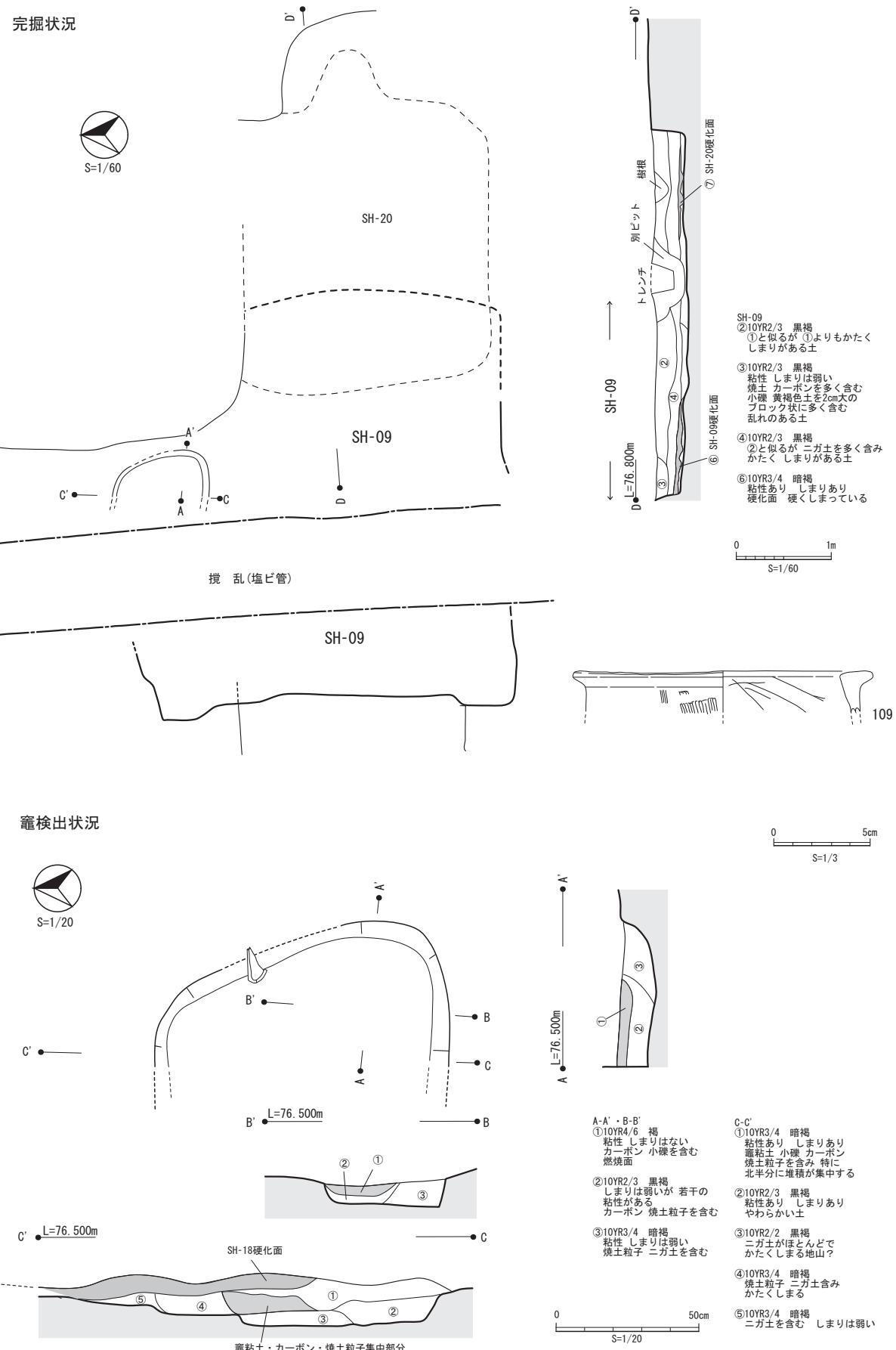
第 84 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-08実測図及び竈検出状況



第 85 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-08竈遺物出土状況及び出土遺物実測図

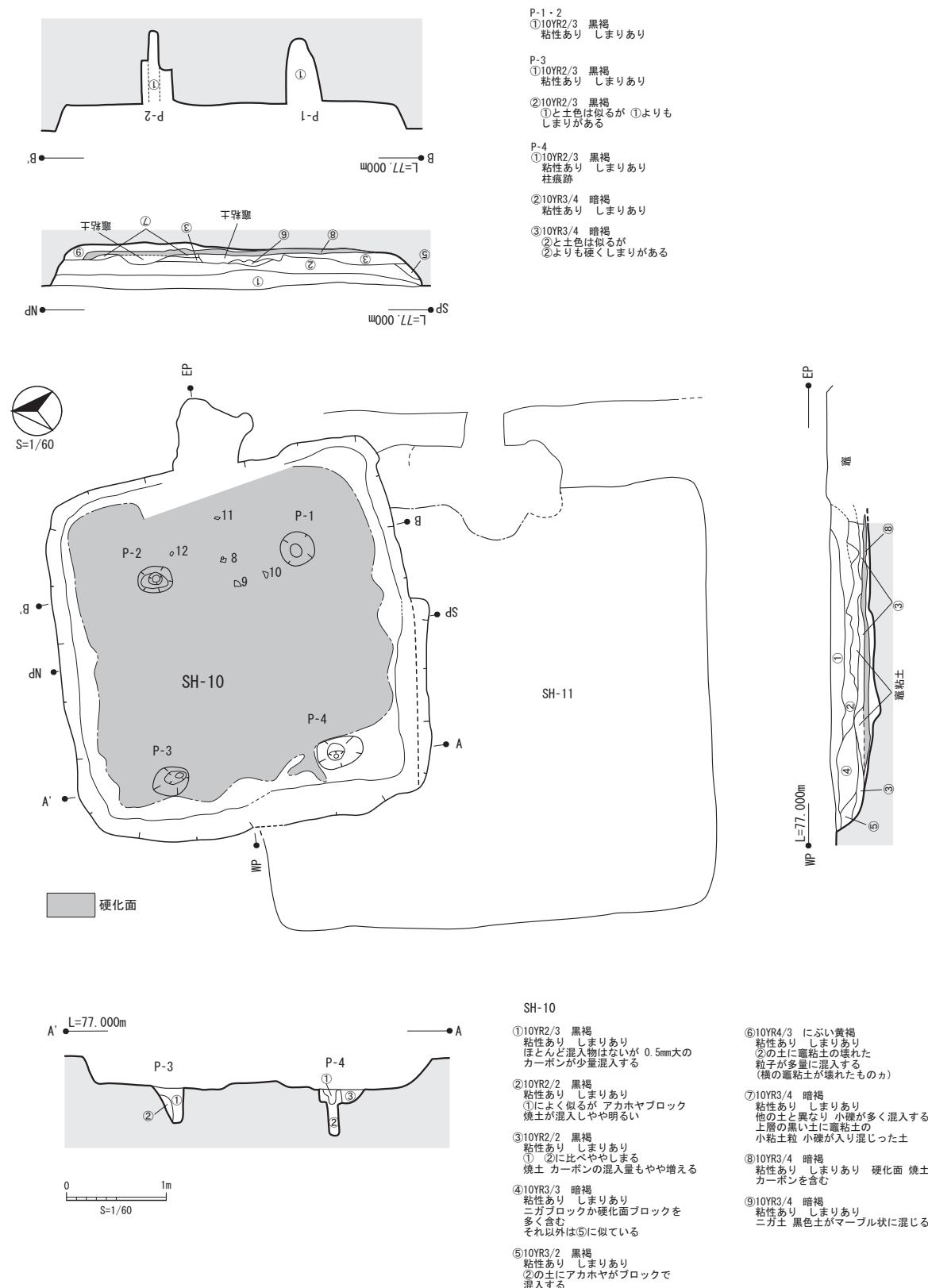


第 86 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-09実測図及び竈検出状況



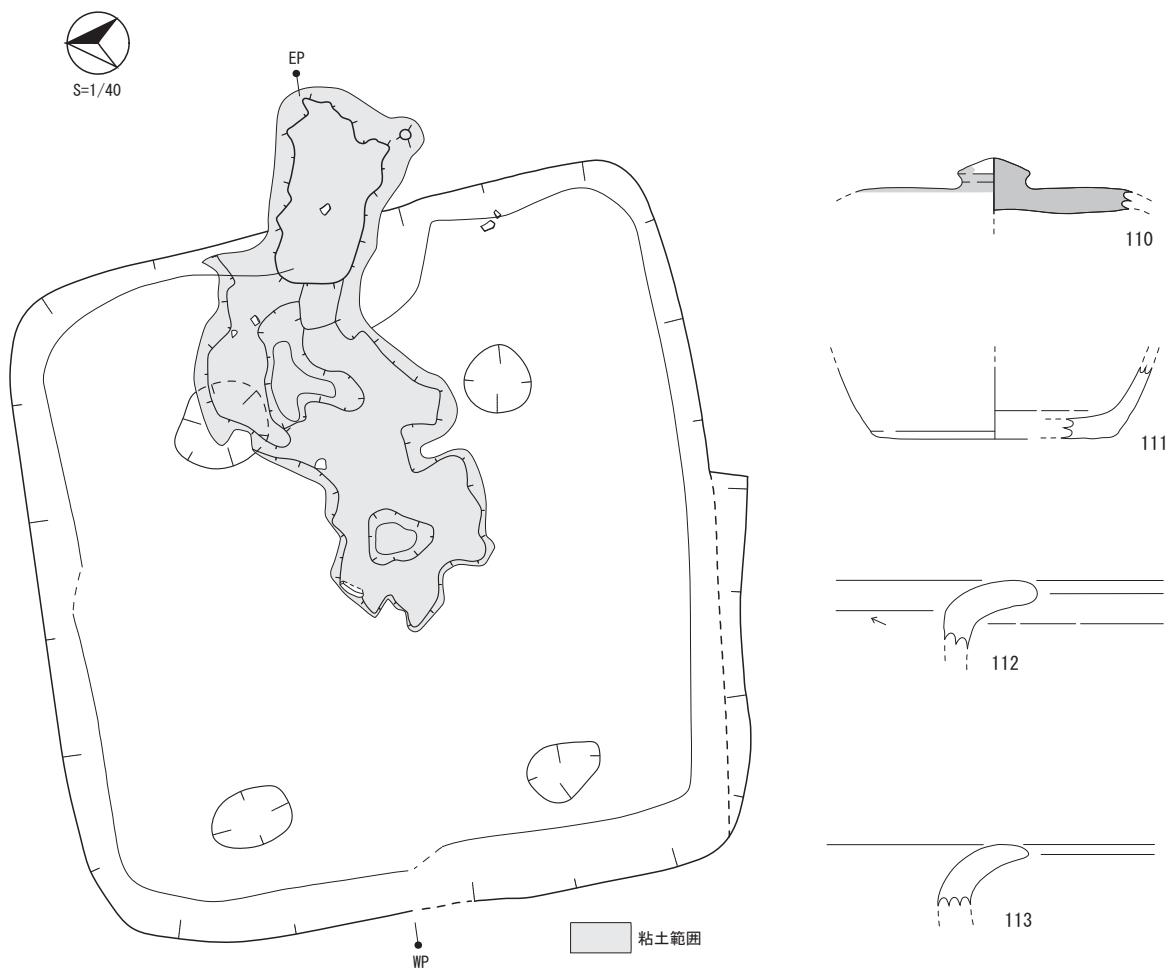
第 87 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-09竈実測図及び出土遺物実測図

## 使用時状況

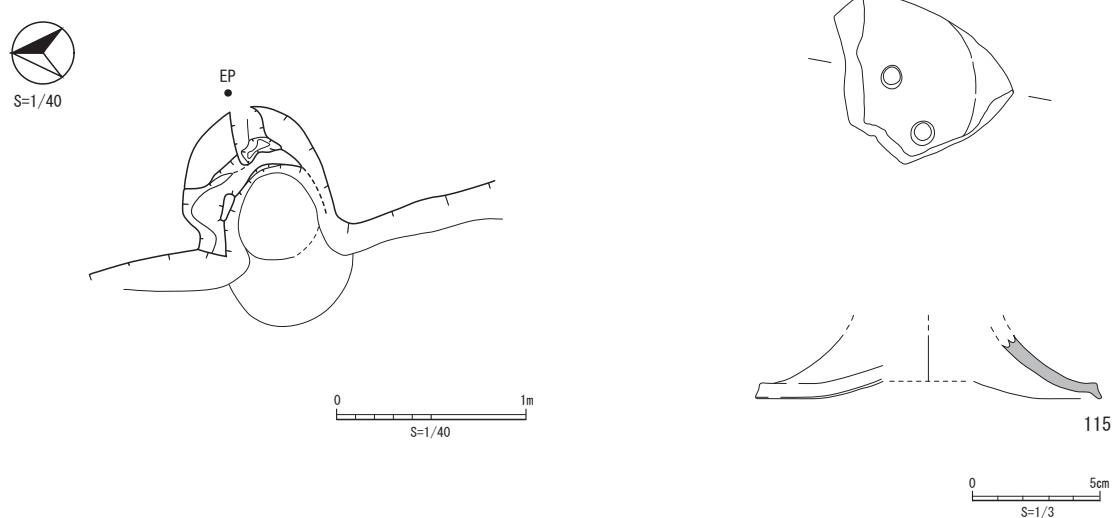


第 88 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-10実測図

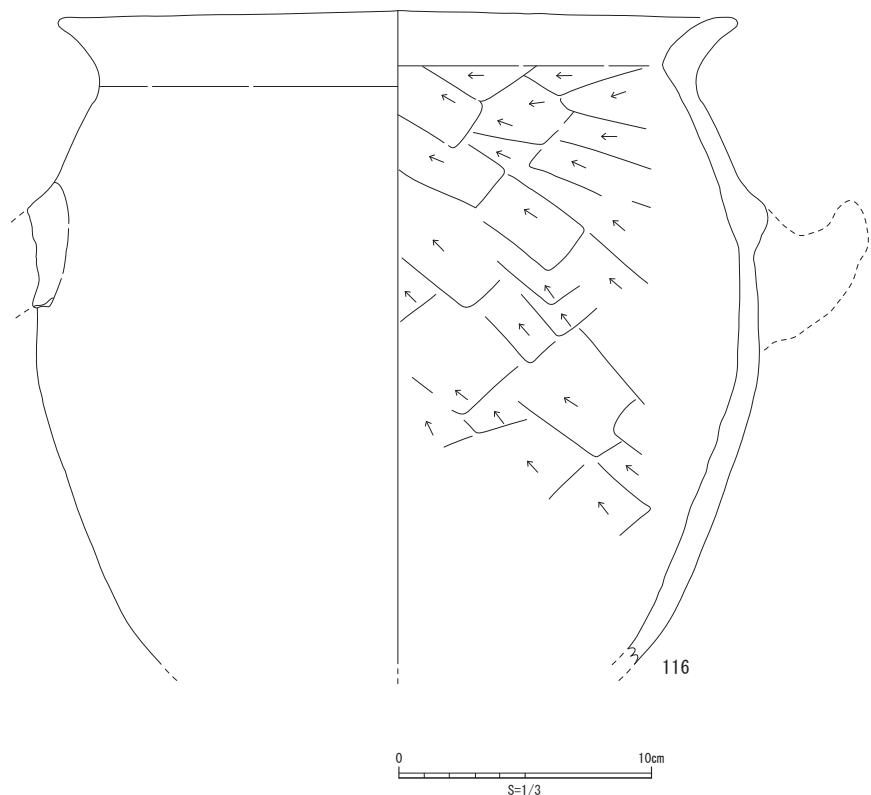
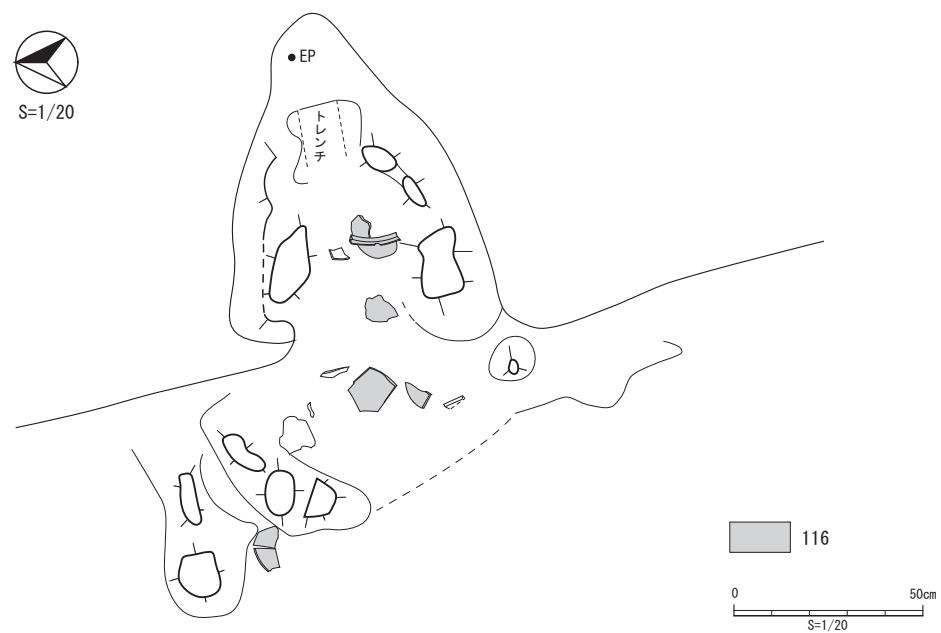
竈検出状況（竈粘土流出）



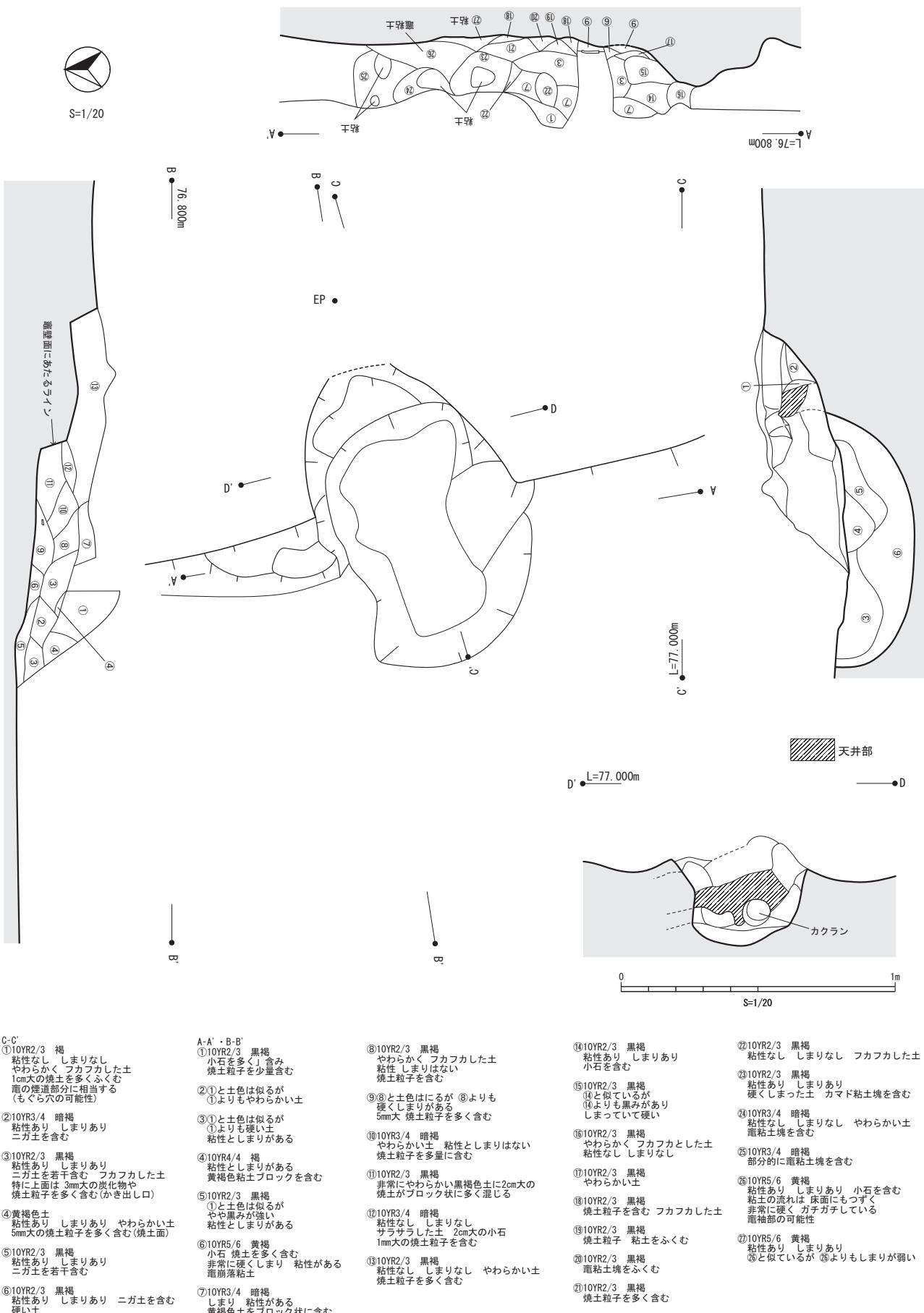
竈使用時完掘状況



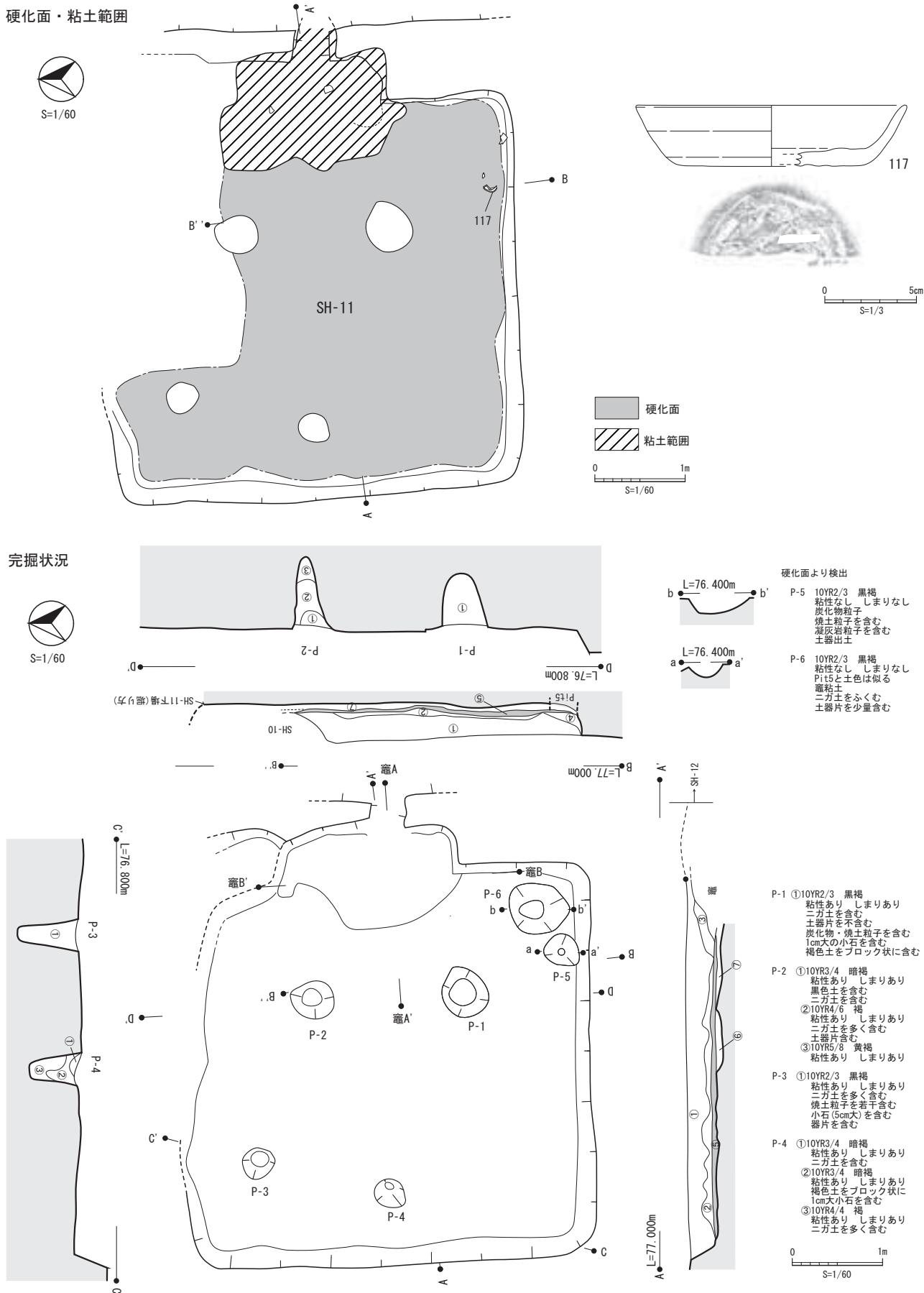
第 89 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-10 竈検出・完掘状況及び出土遺物実測図



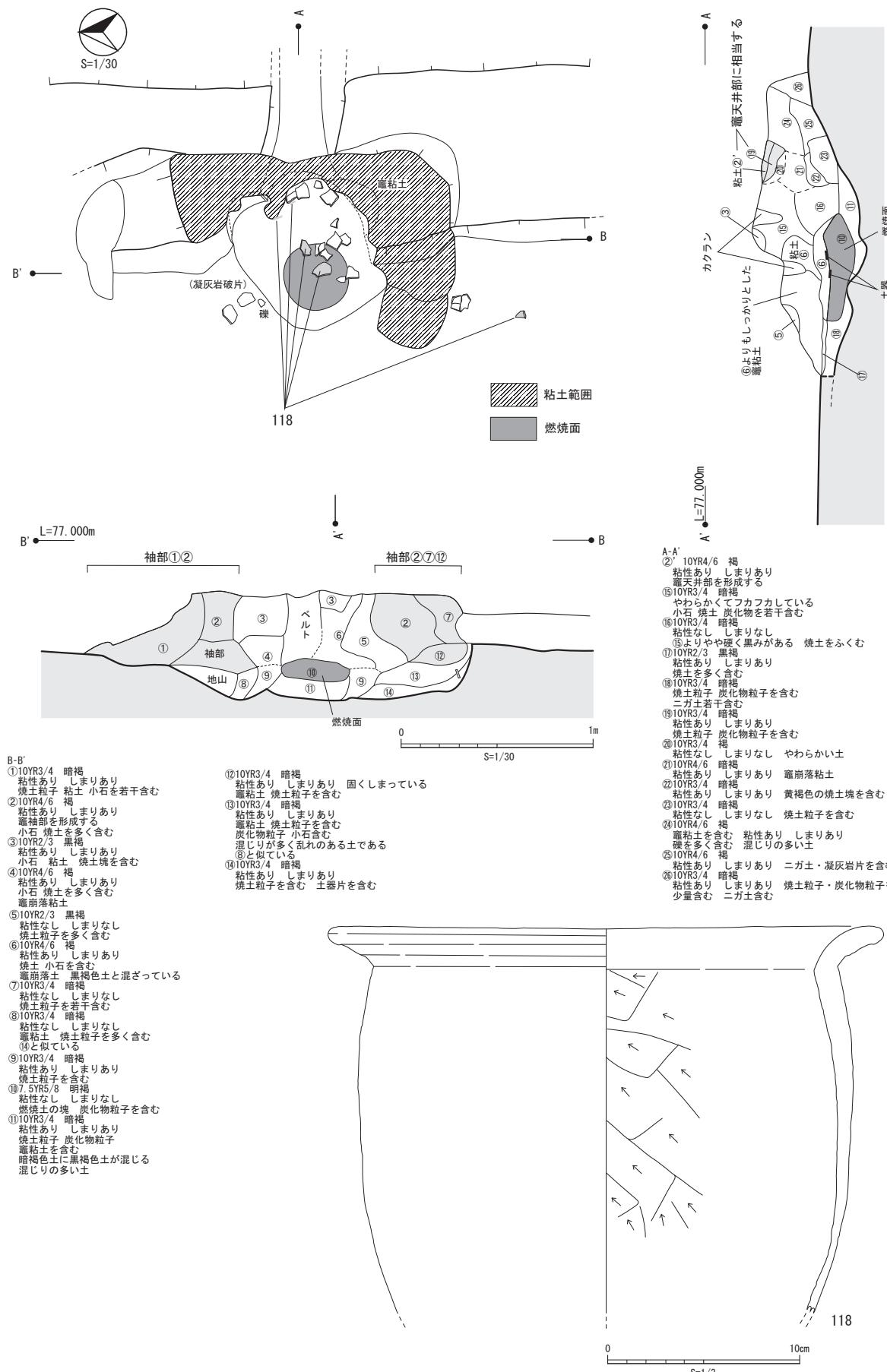
第 90 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-10竈遺物出土状況及び出土遺物実測図



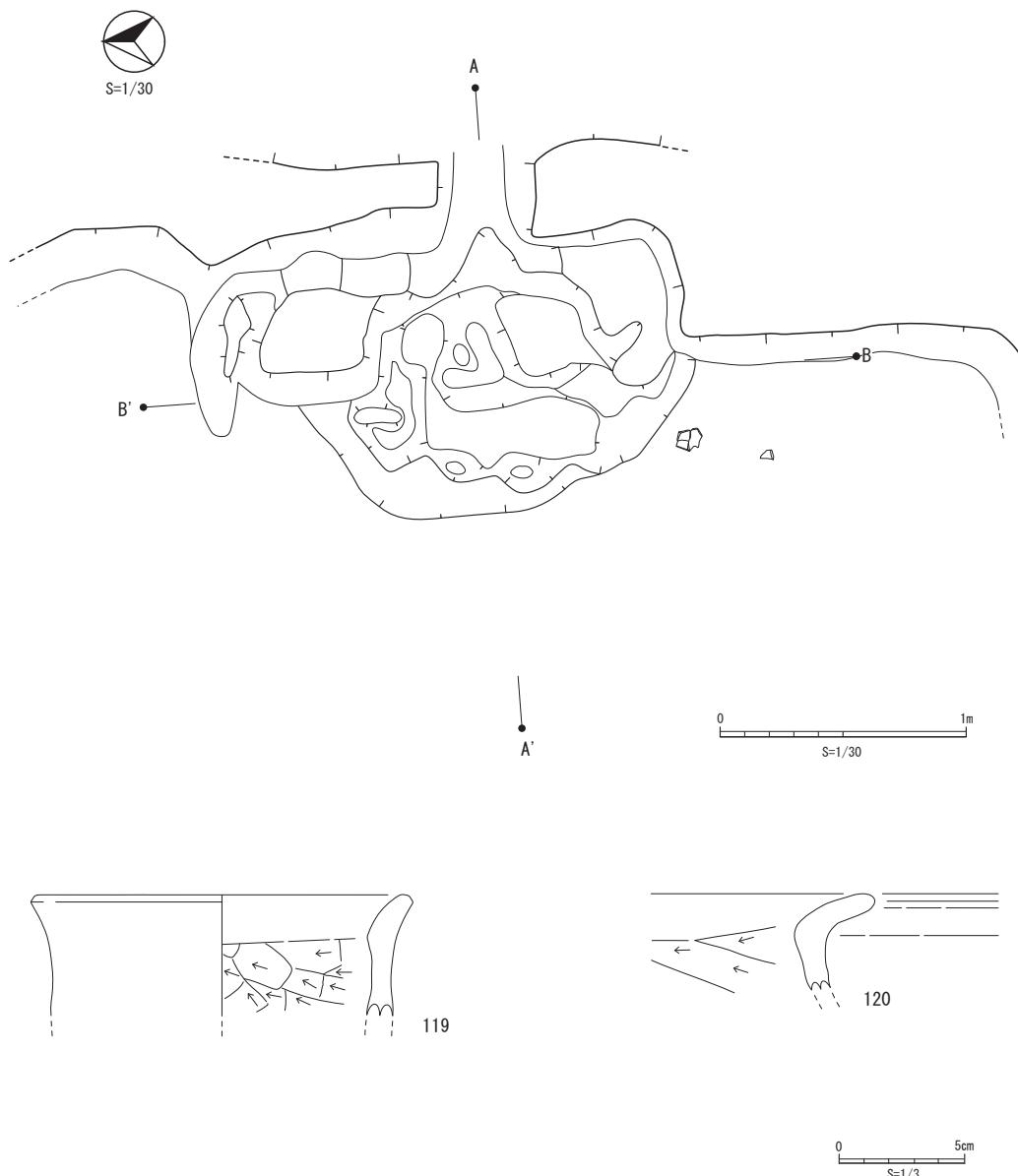
第91図 桑鶴遺跡群 III区 SH-10竈完掘状況



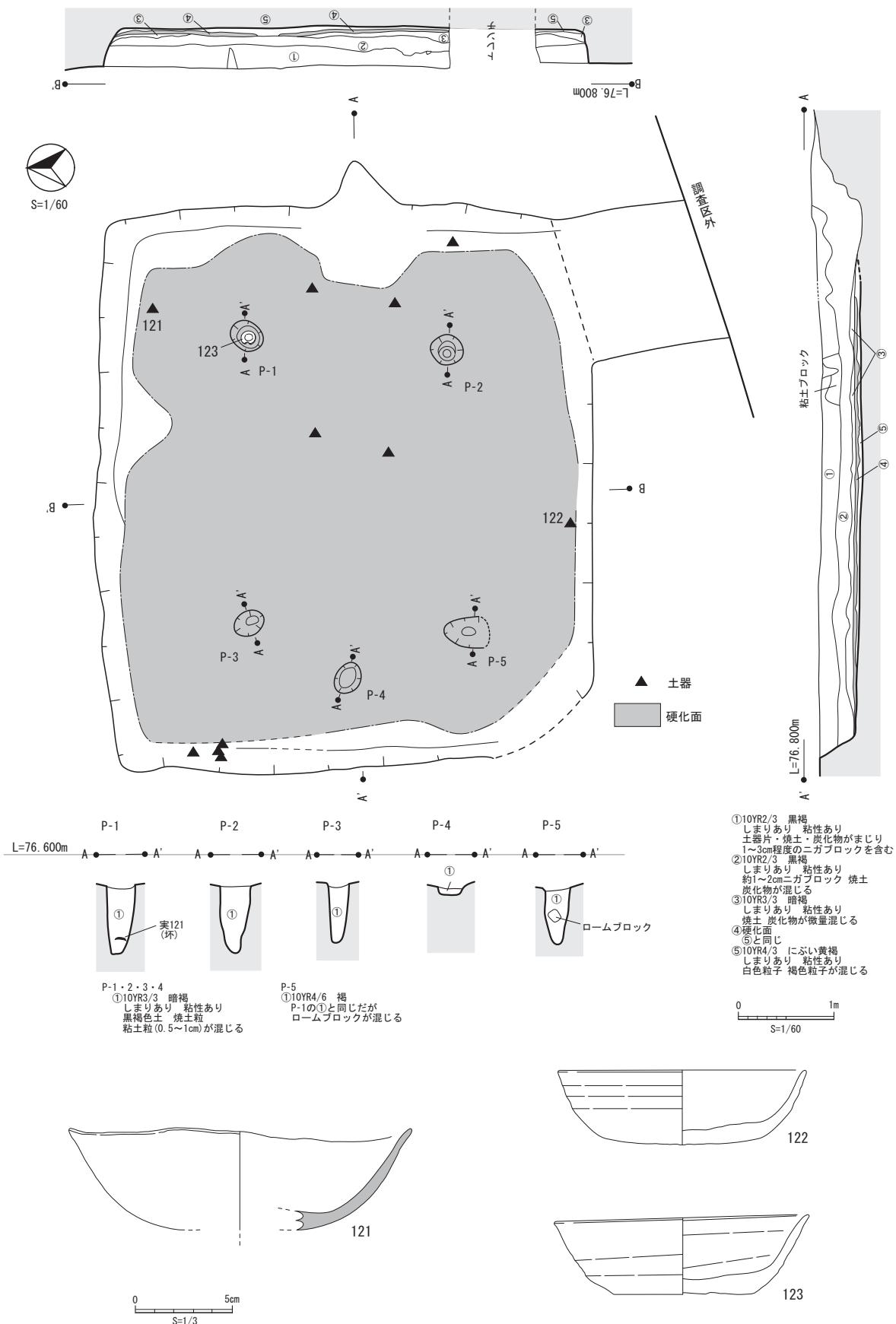
第92図 桑鶴遺跡群 III区 SH-11硬化面・粘土範囲検出・完掘状況及び出土遺物実測図



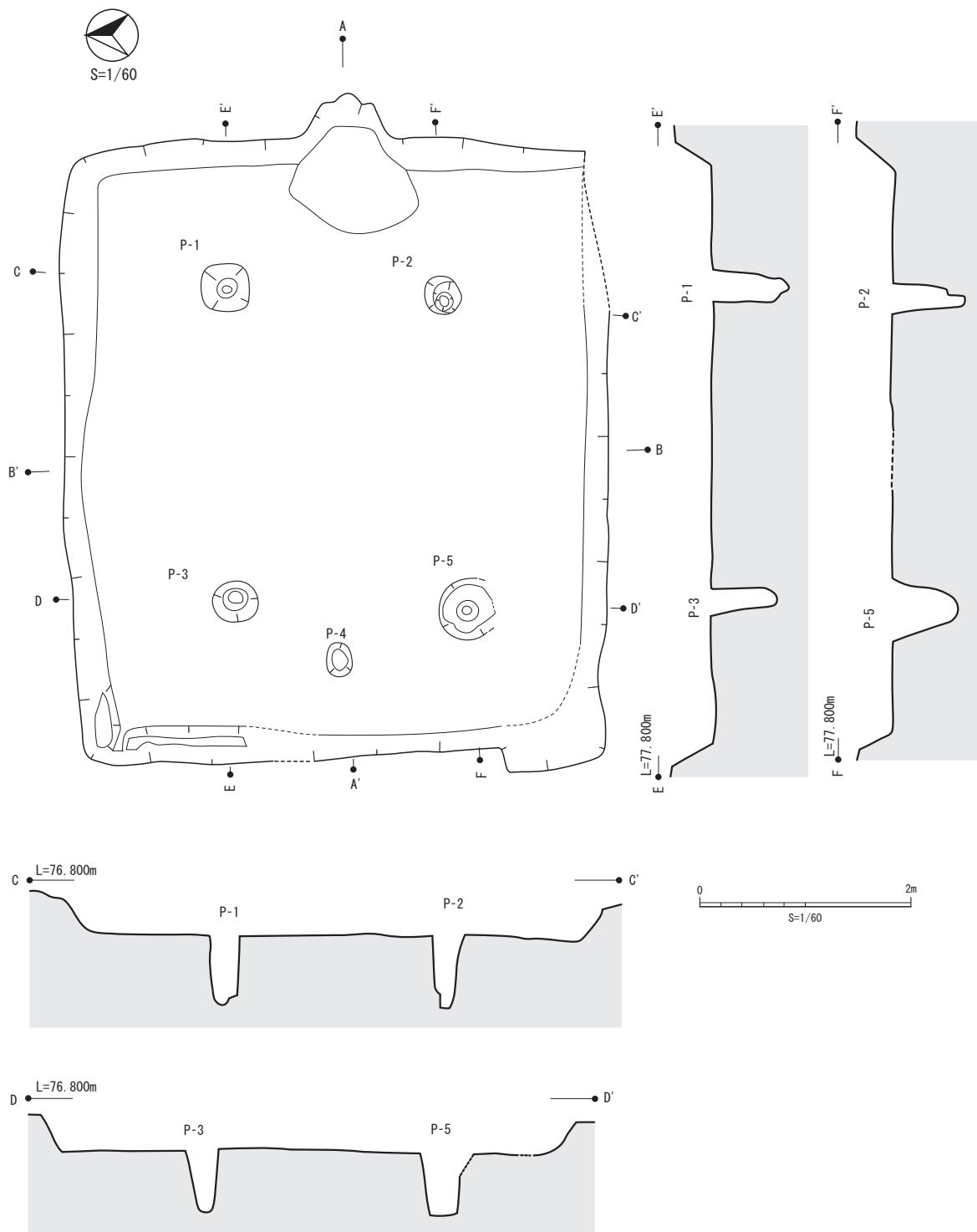
第93図 桑鶴遺跡遺跡群 III区 SH-11竈実測図及び出土遺物実測図



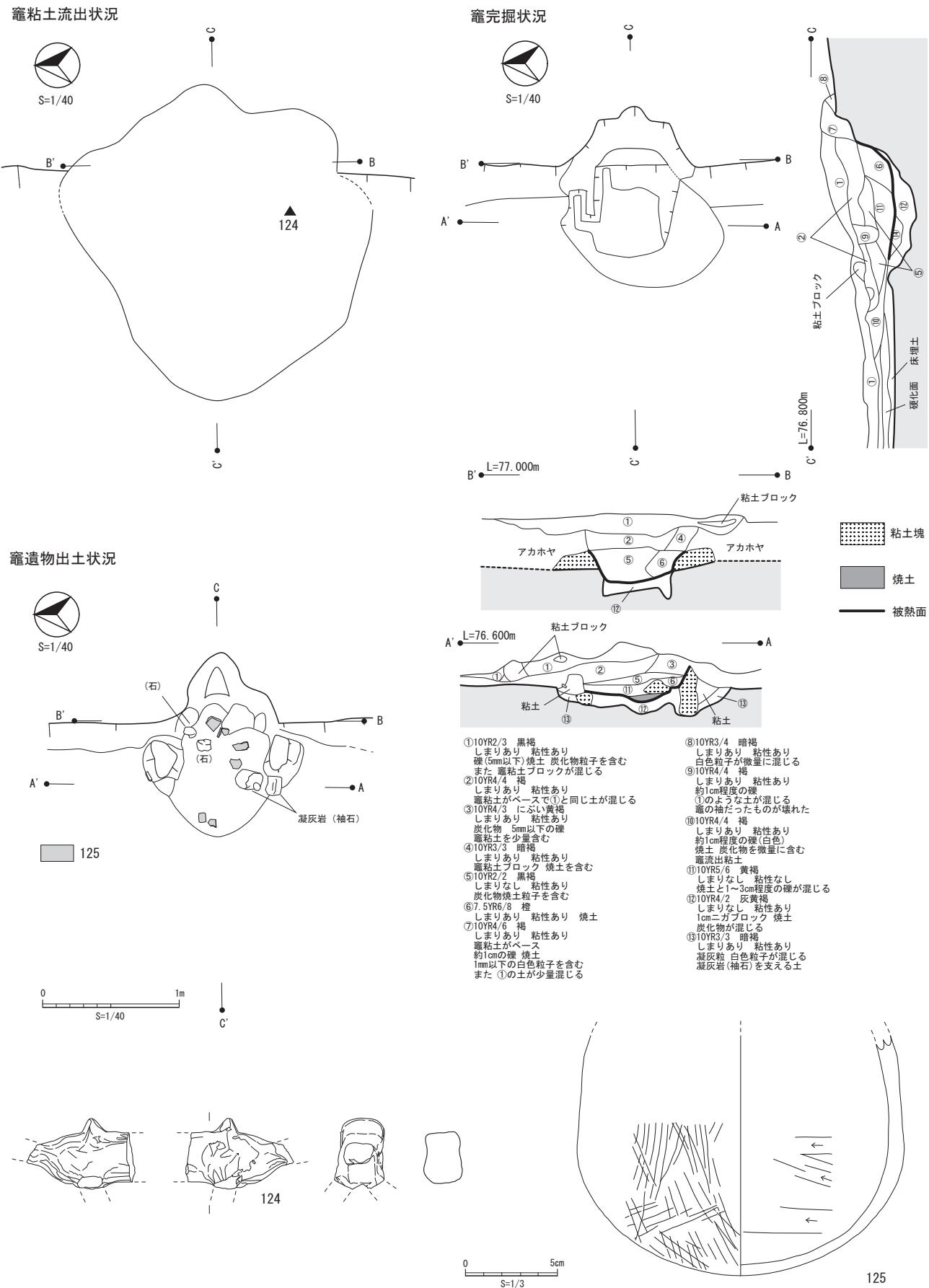
第 94 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-11竈粘土範囲及び出土遺物実測図



第 95 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-12使用時完掘・Pit検出状況及び出土遺物実測図



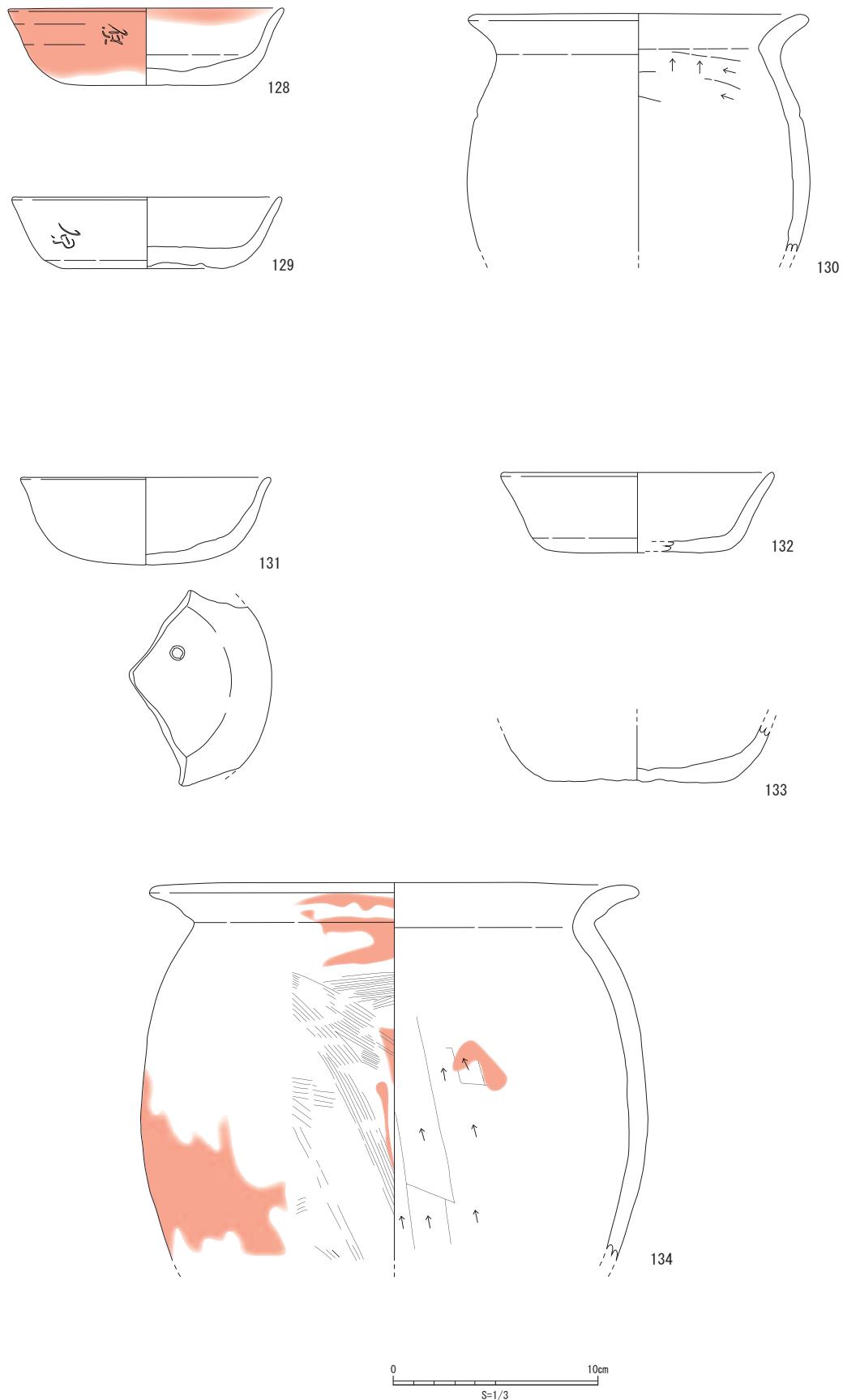
第 96 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-12完掘状況



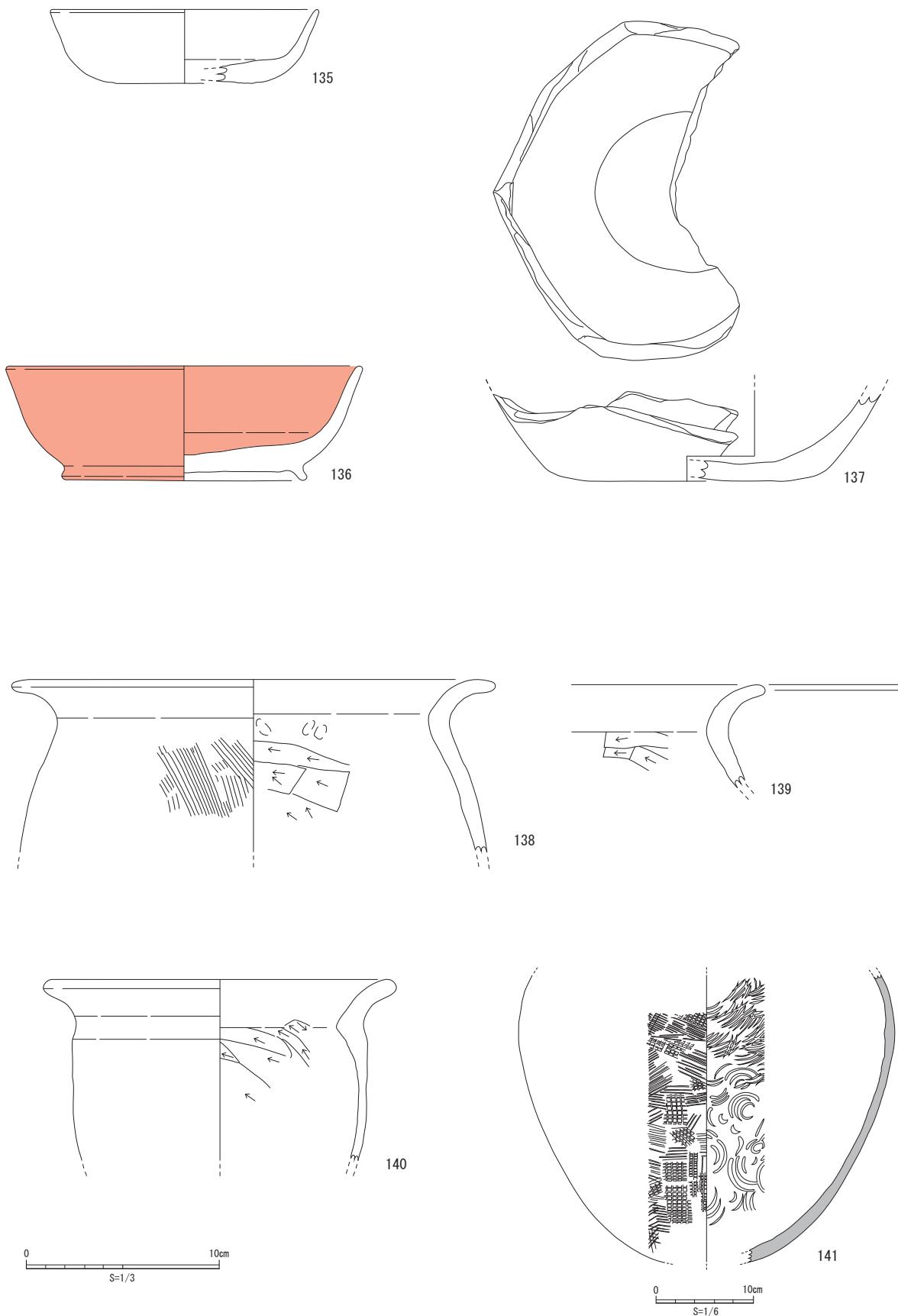
第 97 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-12竈実測図及び出土遺物実測図



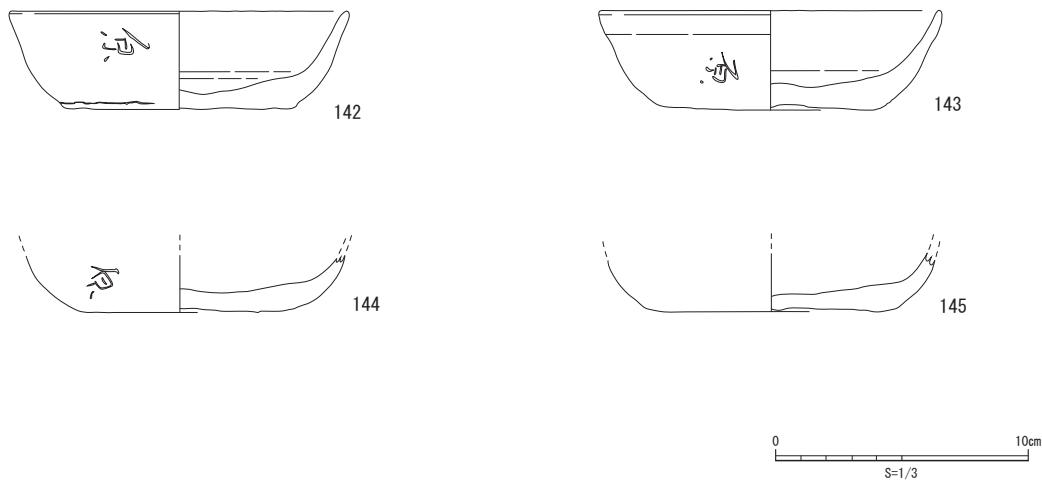
第 98 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区  
SH-12硬化面検出・土器密集区遺物出土状況及び出土遺物実測図



第 99 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12土器密集区出土遺物実測図 1



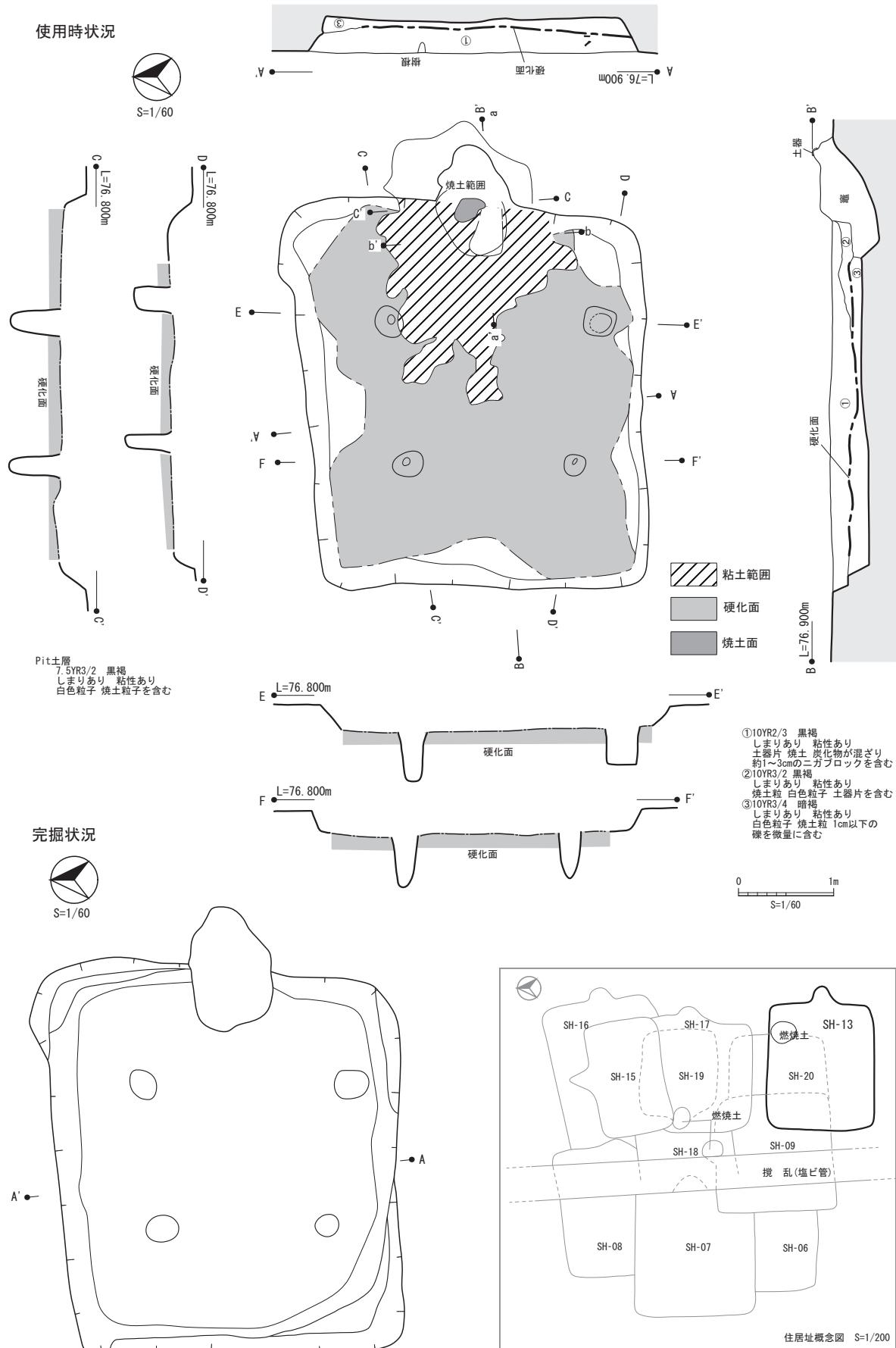
第 100 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-12土器密集区出土遺物実測図 2



第 101 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12出土遺物実測図

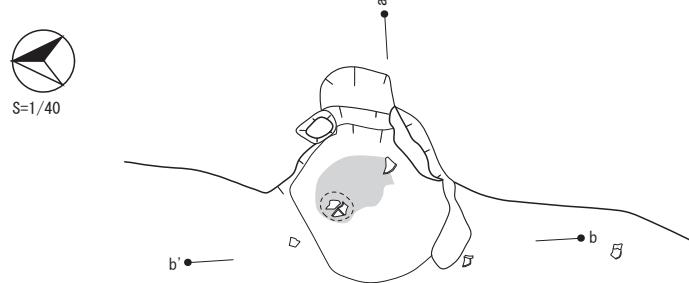


夏休み体験発掘



第102図 桑鶴遺跡群 III区 SH-13実測図

竈使用時状況



①10YR4/4 褐  
しまりあり 粘性あり  
約1cmの礫 炭化物 焼土が混じる  
竈粘土がベース  
10YR3/4 暗褐

②10YR3/4 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
竈粘土のブロック 焼土  
炭化物が混じる

③10YR3/3 暗褐  
しまりなし 粘性あり  
径約1mmの白色粒子 焼土が微量に混じる

④10YR4/3 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
約1cmの竈粘土 焼土 炭化物が混じる

⑤10YR4/3 にぶい黄褐  
しまりあり 粘性あり  
炭化物 烧土が微量に混じる

⑥10YR4/2 灰黄褐  
しまりあり 粘性あり  
焼土 炭化物 竈粘土粒が混じる

⑦10YR3/4 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
径約1mm白色粒子 5mm位の礫が微量に混じる

⑧粘土ブロック

⑨竈粘土  
10YR4/6 褐  
しまりあり 粘性あり  
凝灰岩礫(1~2cm) 白色粒子(0~2mm)

⑩10YR3/3 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
粘土粒(径約3mm) 烧土粒が混じる

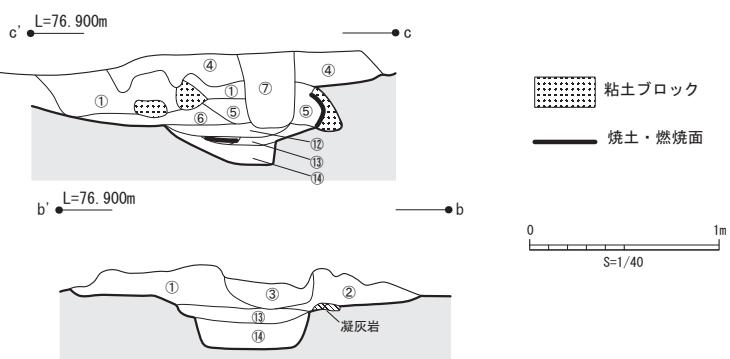
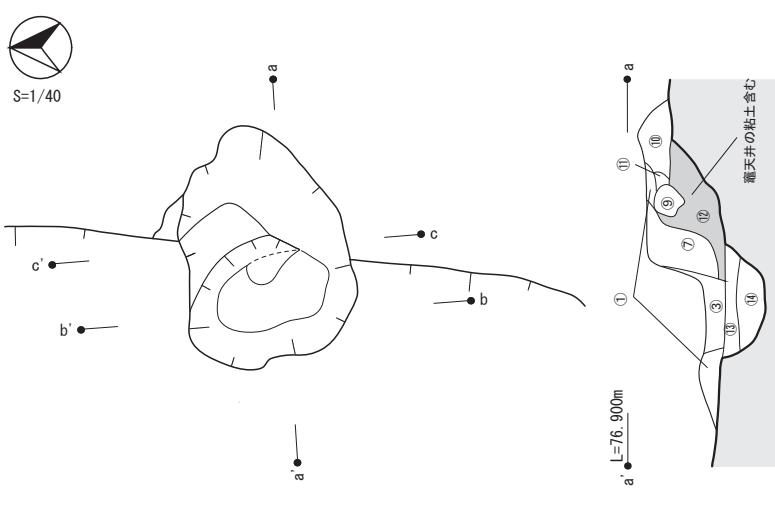
⑪10YR5/6 黄褐  
しまりあり 粘性あり  
遷流出粘土がベースで①が混じる

⑫10YR4/3 にぶい黄褐  
しまりあり 粘性あり  
焼土粒 竈粘土(1~2cm)の礫を含む

⑬10YR3/3 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
白色粒子 約1cmの礫が微量に混じる

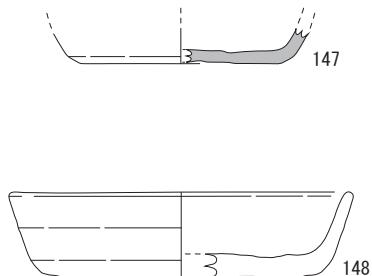
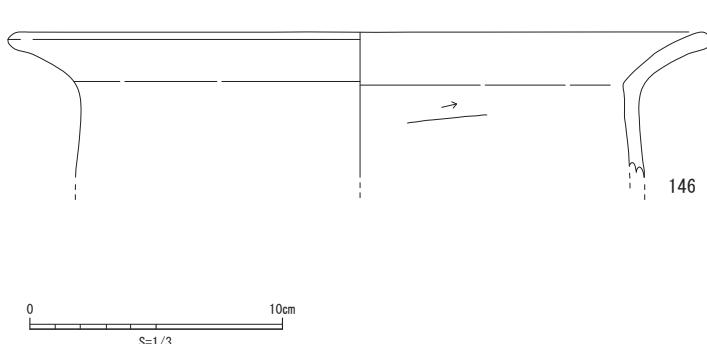
⑭10YR3/4 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
白色粒子 烧土粒を微量含む  
また ニガ土が混じる

竈完掘状況

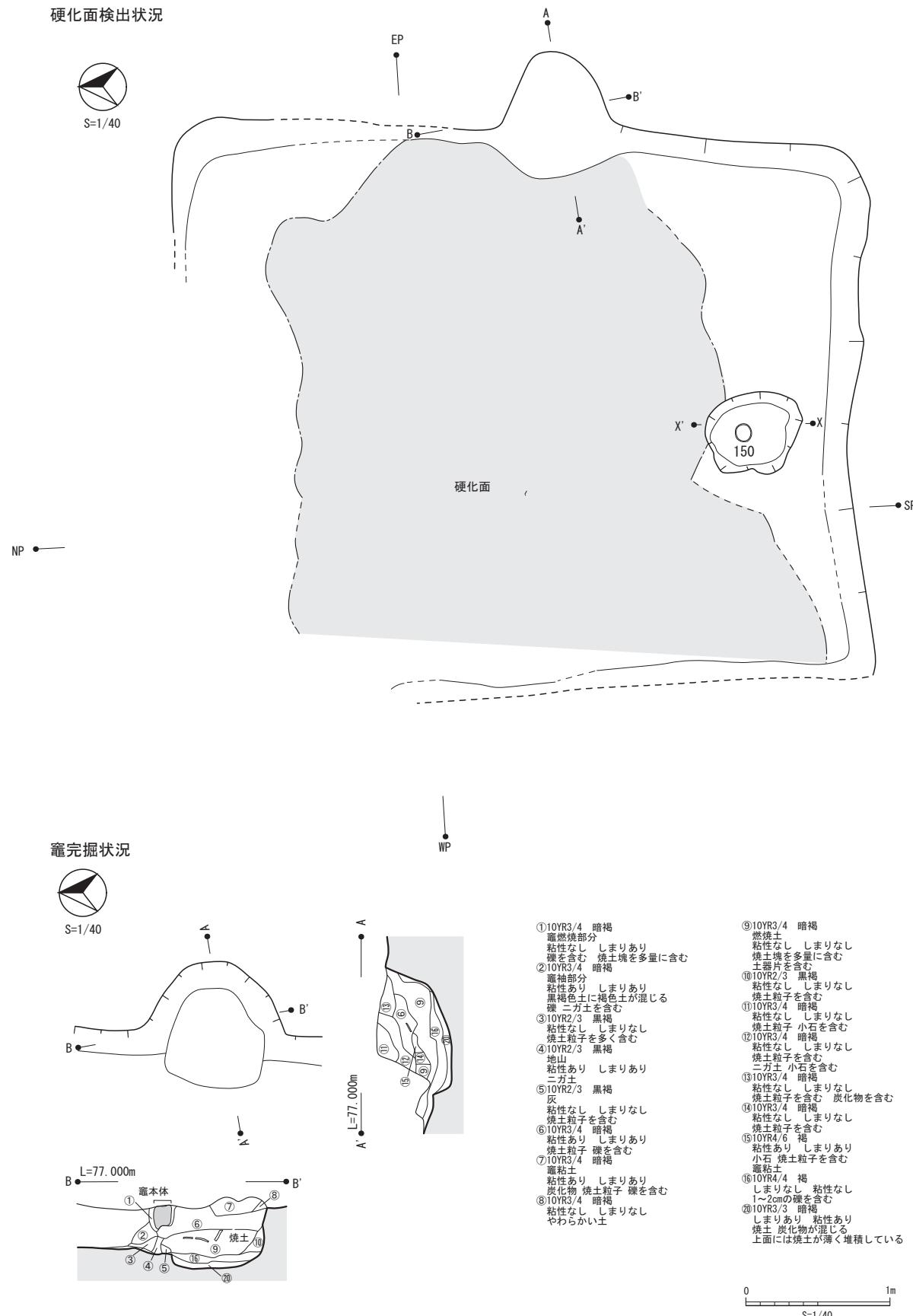


粘土ブロック  
焼土・燃焼面

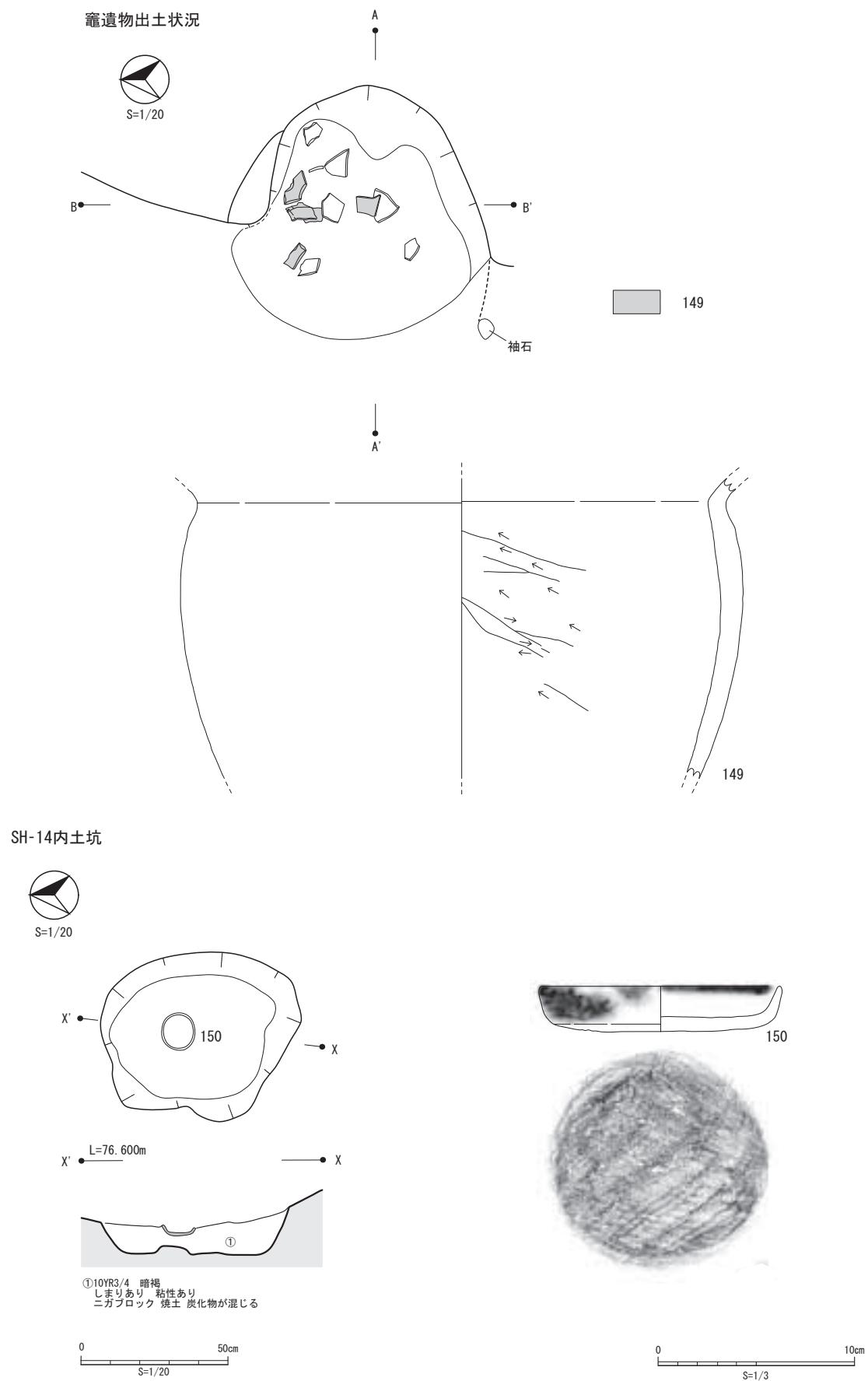
0 1m



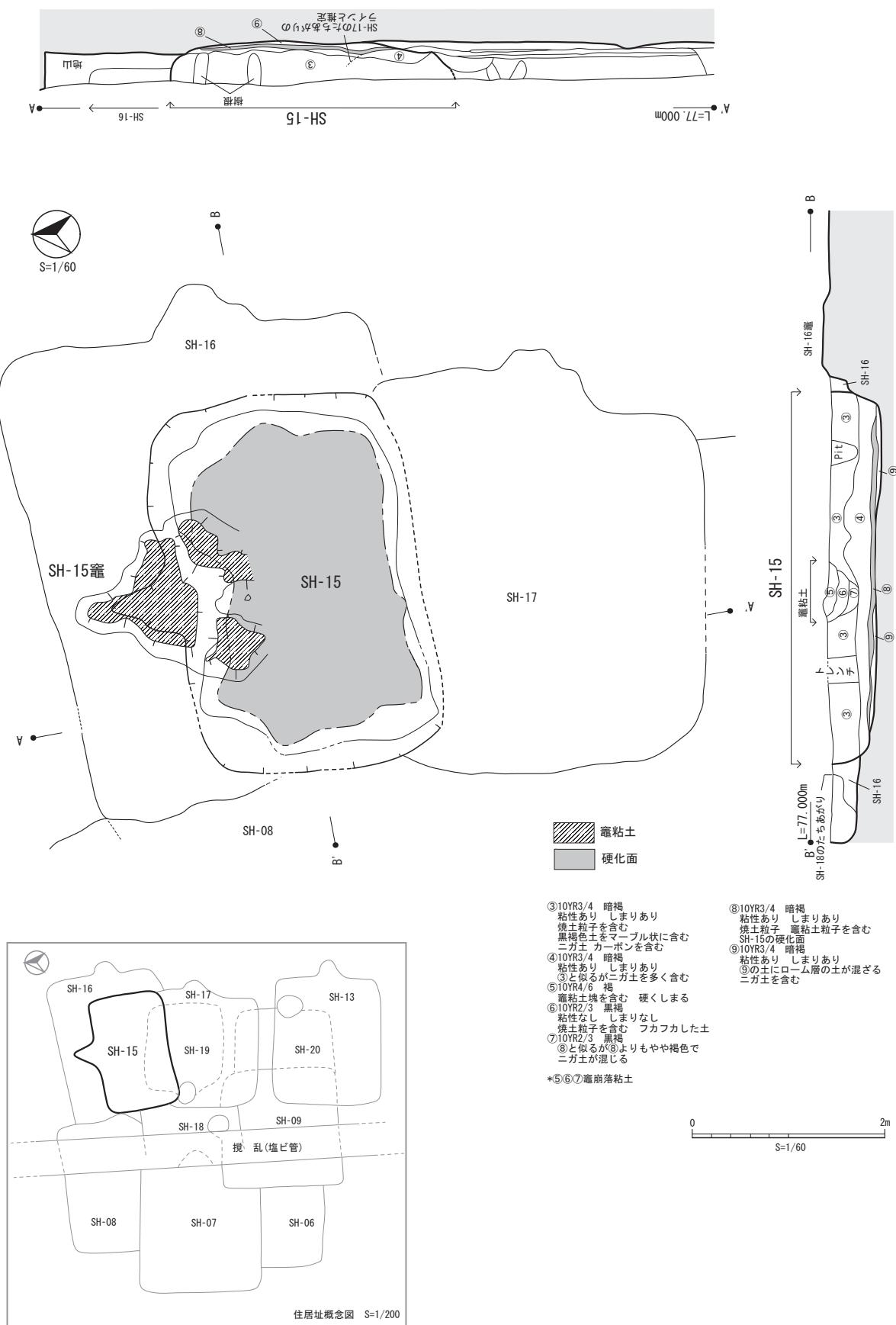
第 103 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-13竈実測図及び出土遺物実測図



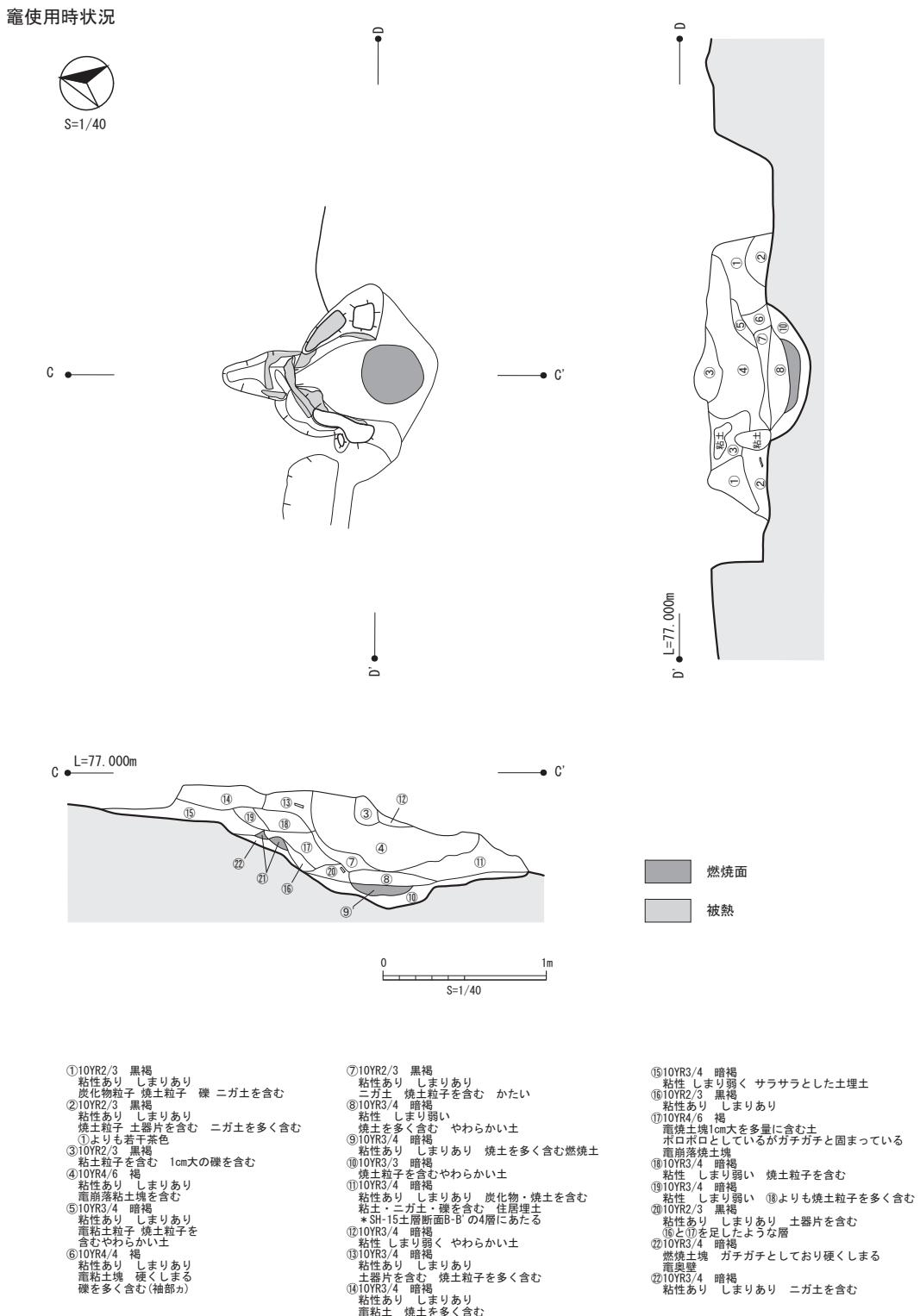
第 104 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-14硬化面検出及び竈実測図



第 105 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-14 竈・土坑遺物出土状況及び出土遺物実測図

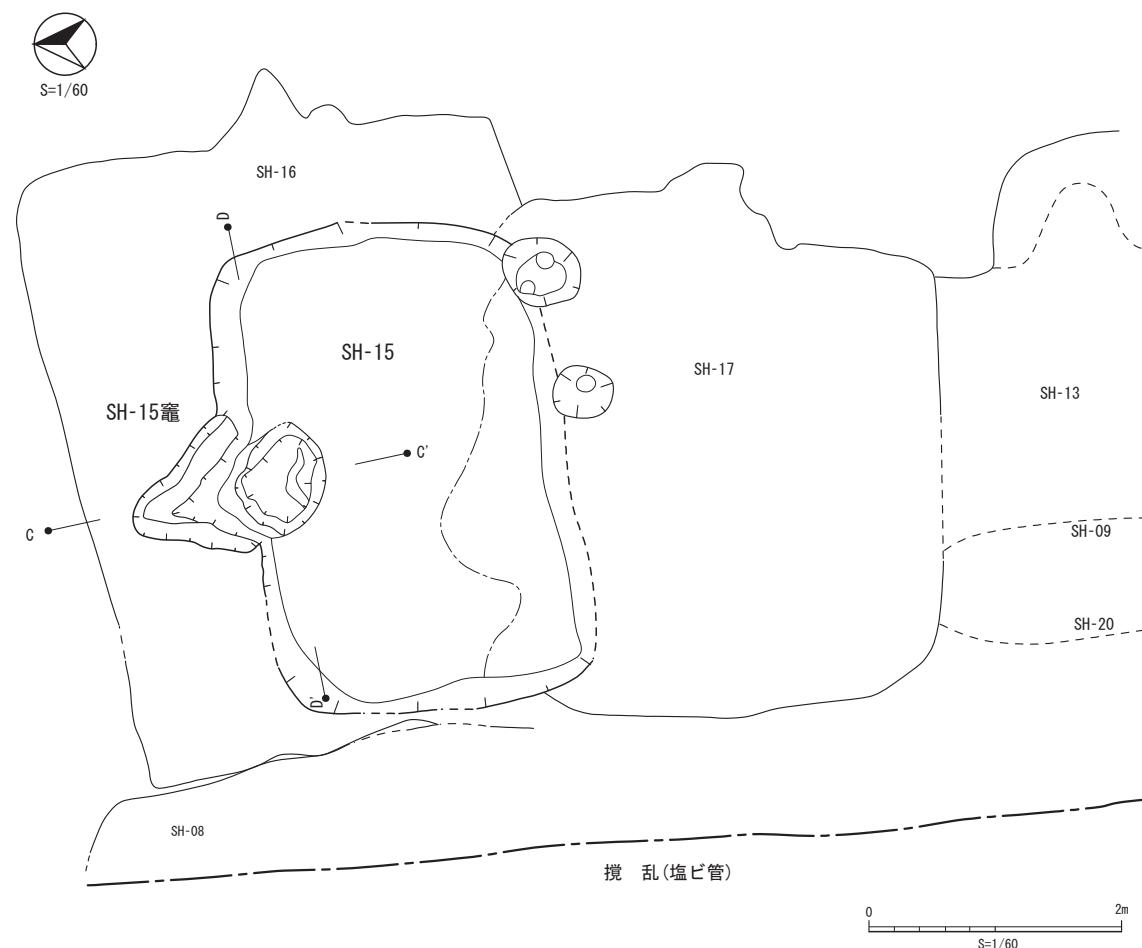


第 106 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-15 実測図

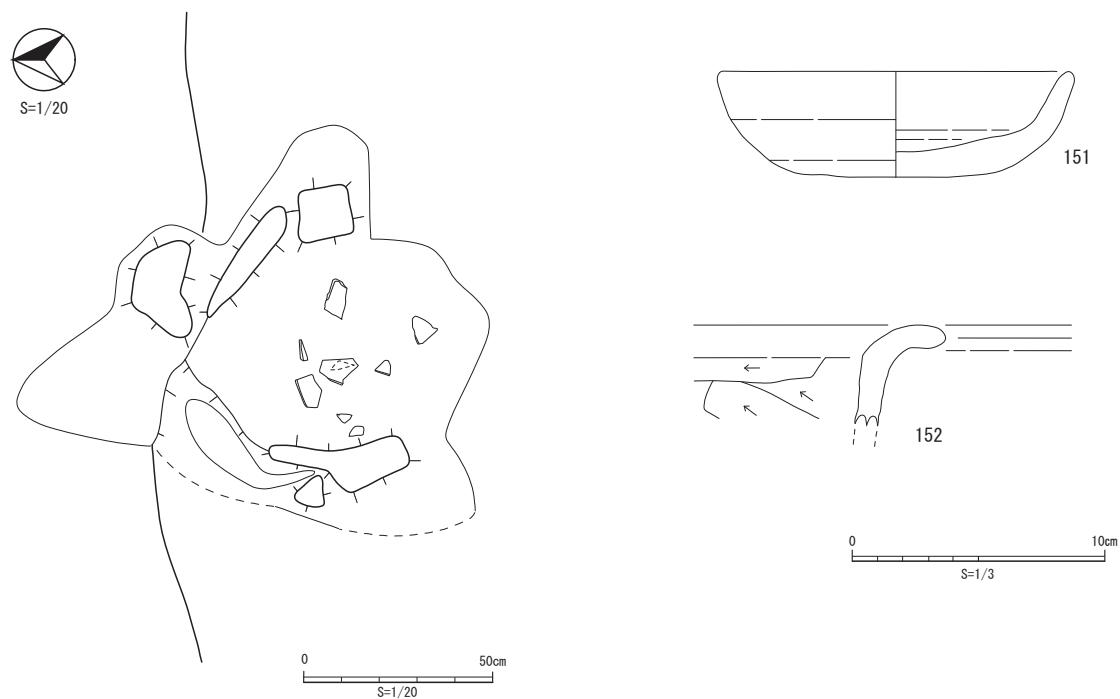


第 107 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-15竈実測図

## 完掘状況

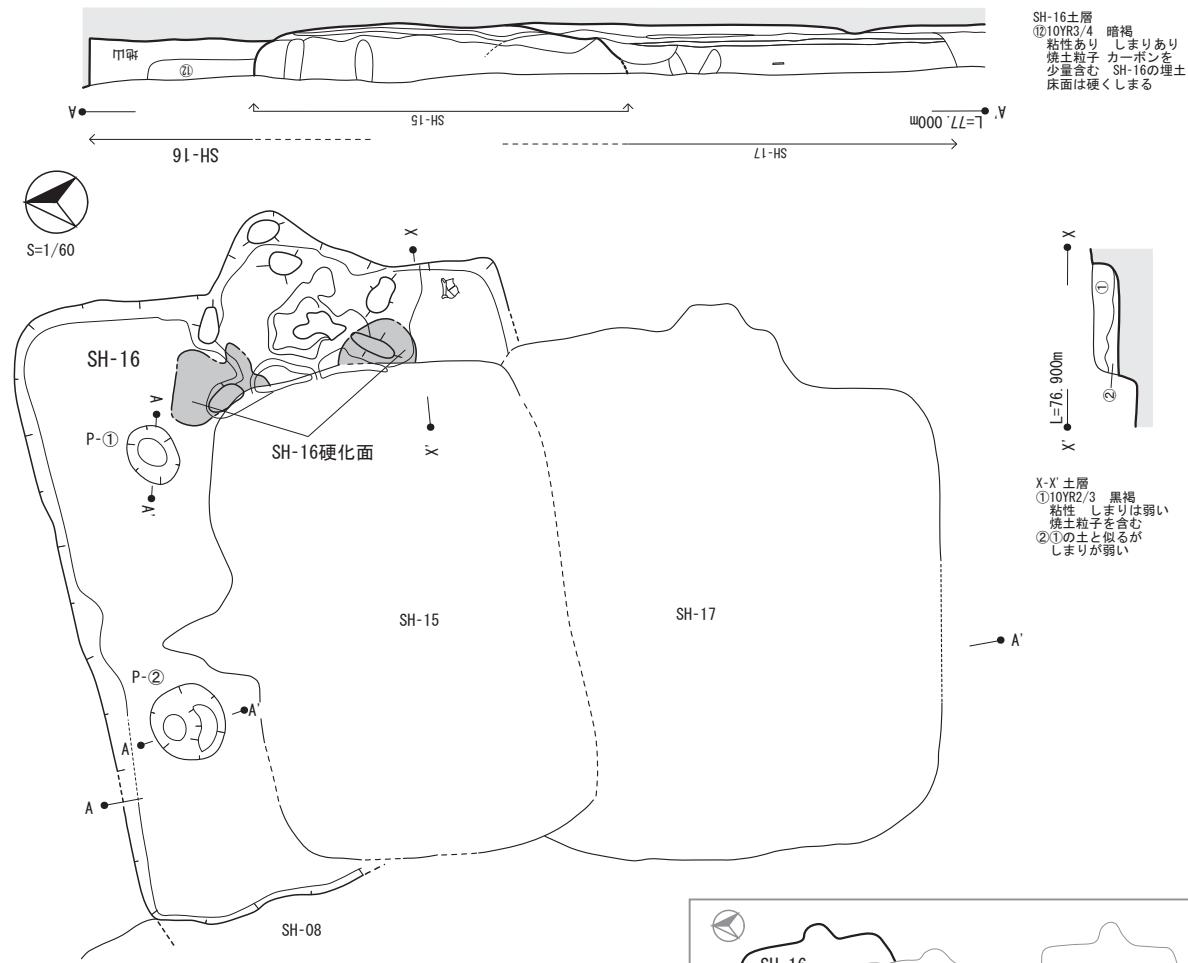


## 竈遺物出土状況

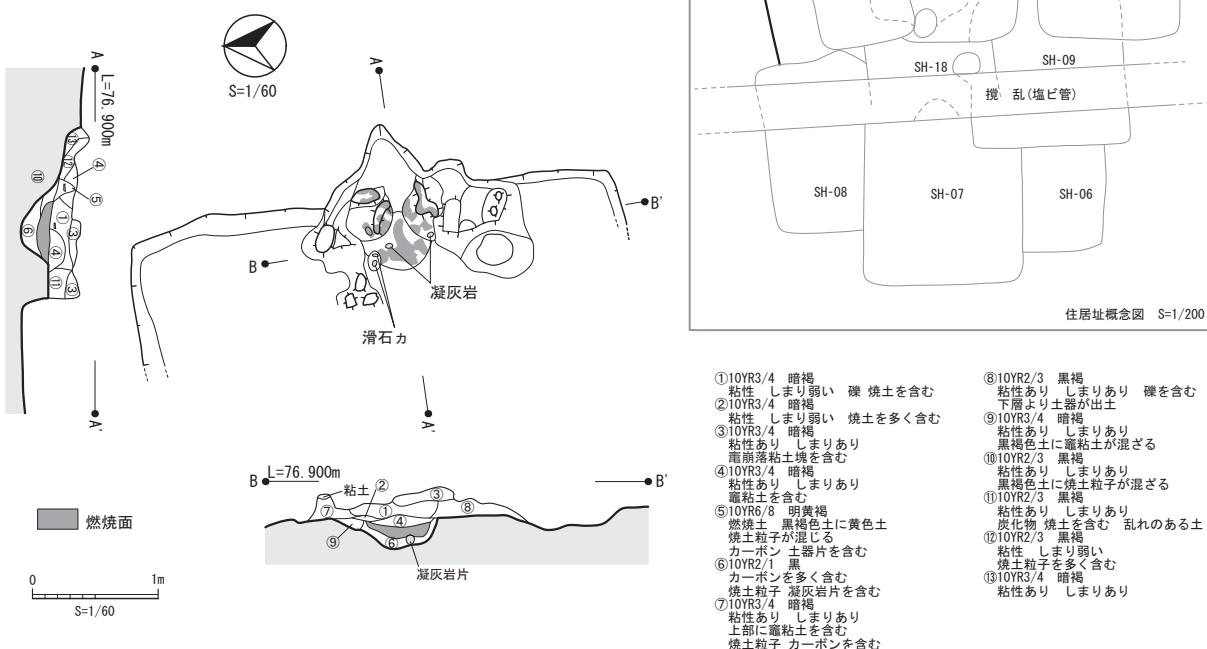


第 108 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-15完掘・竈遺物出土状況及び出土遺物実測図

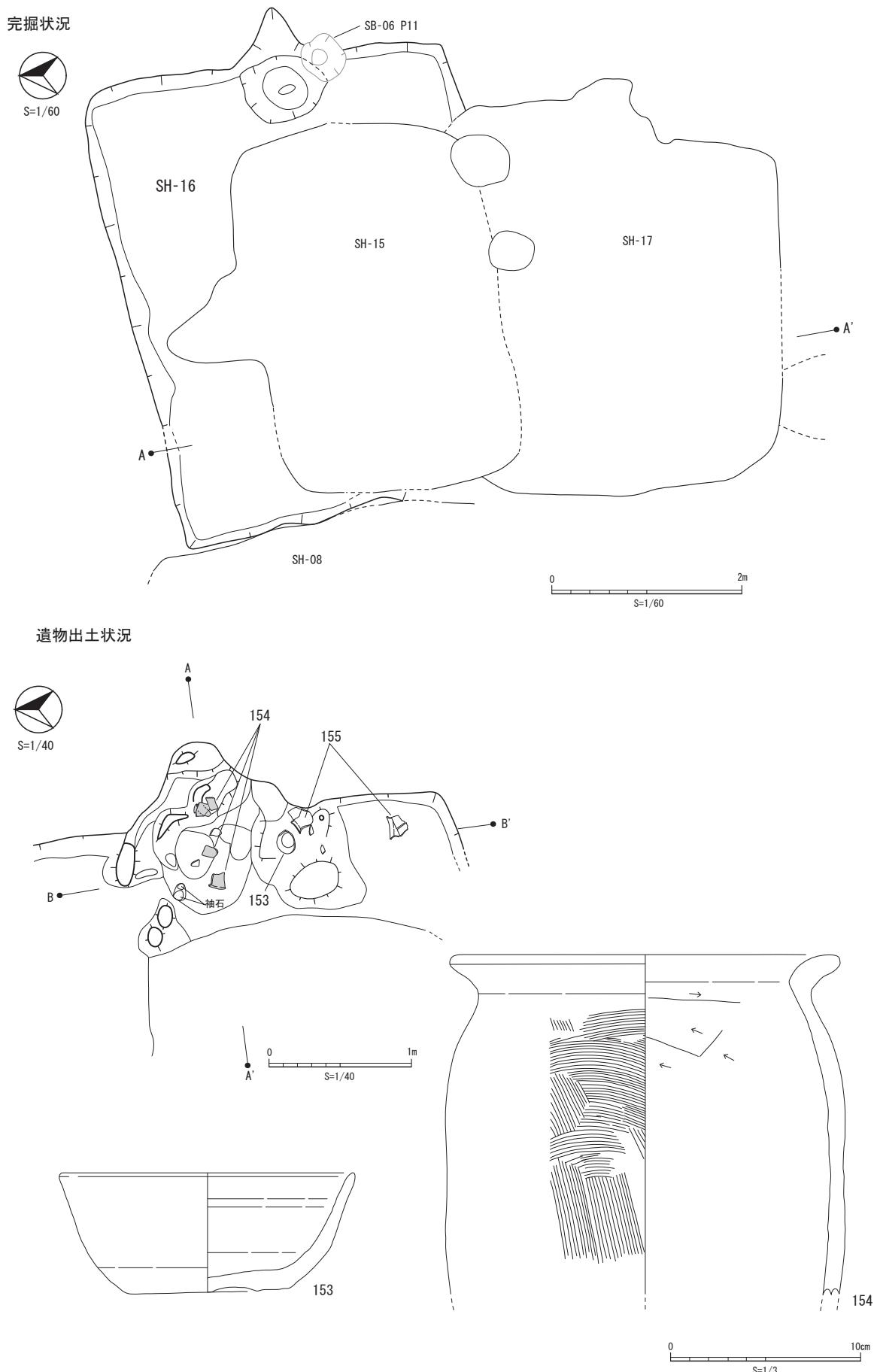
竈検出状況



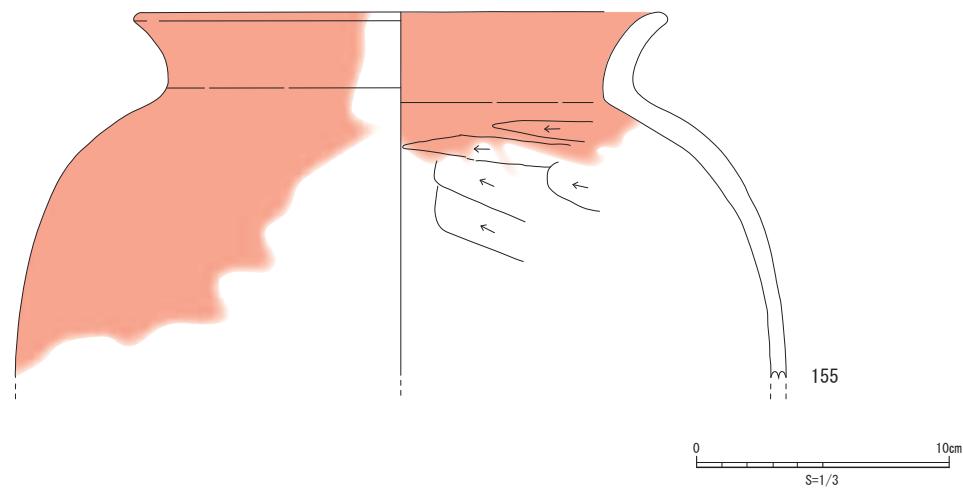
竈使用時状況



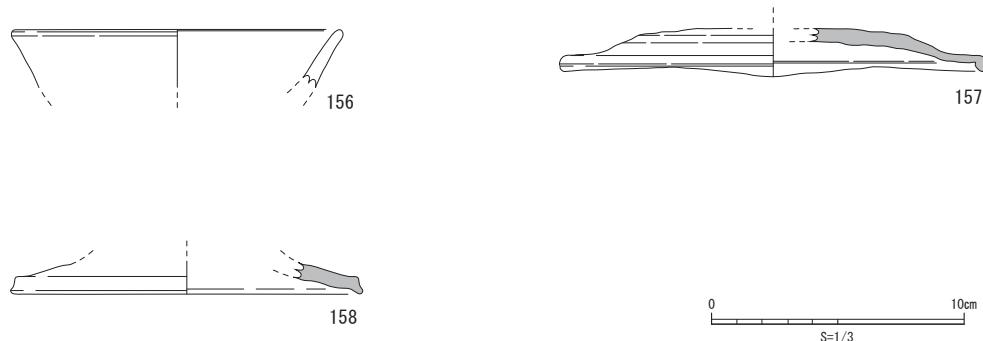
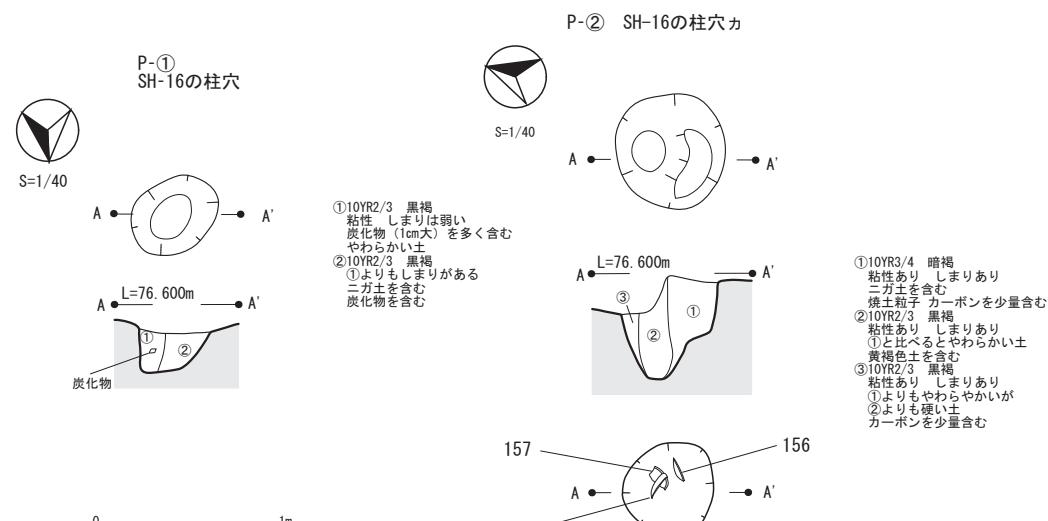
第 109 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-16竈検出・使用時状況



第 110 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-16 完掘・竈遺物出土状況及び出土遺物実測図

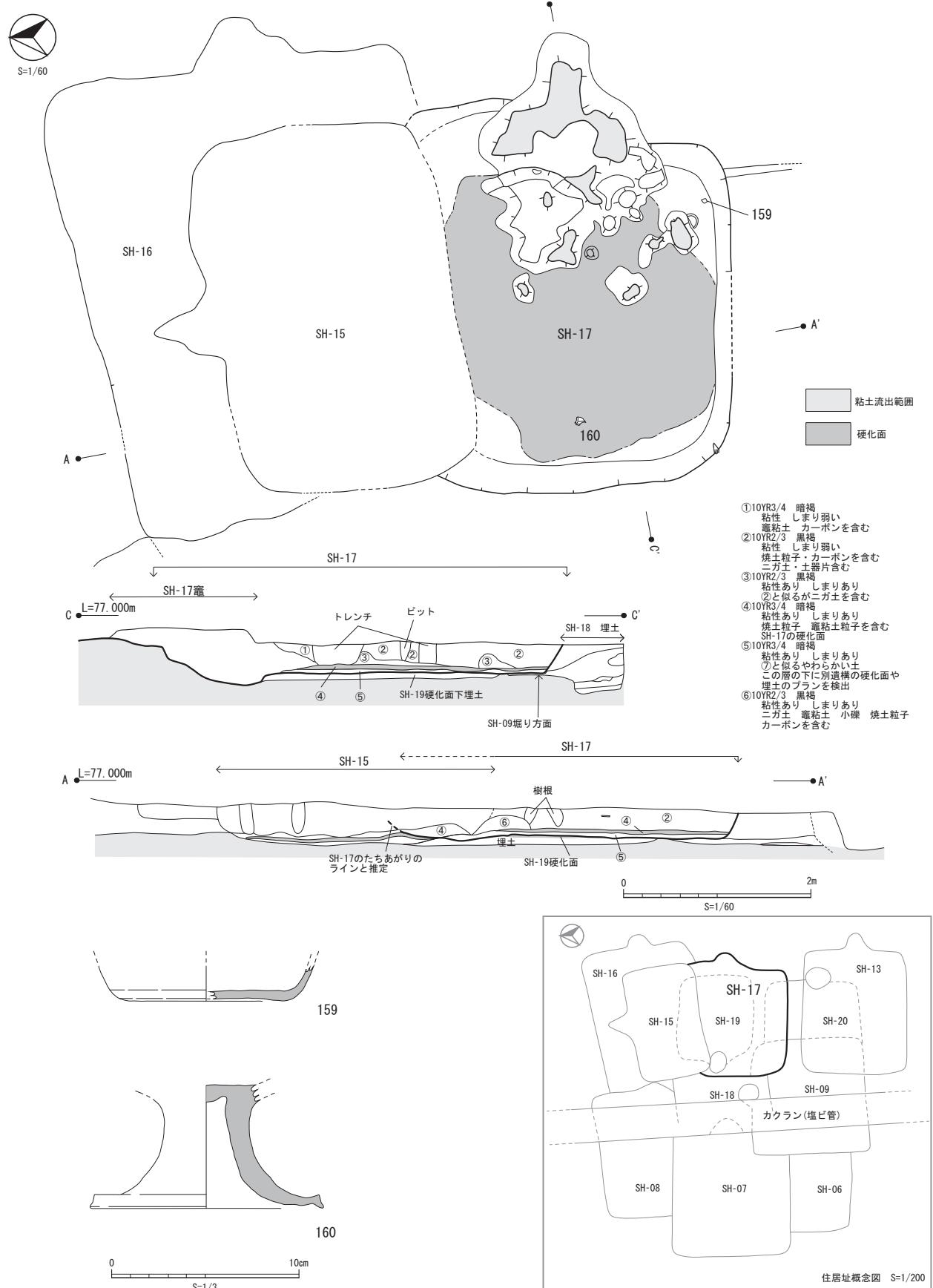


P-①・②



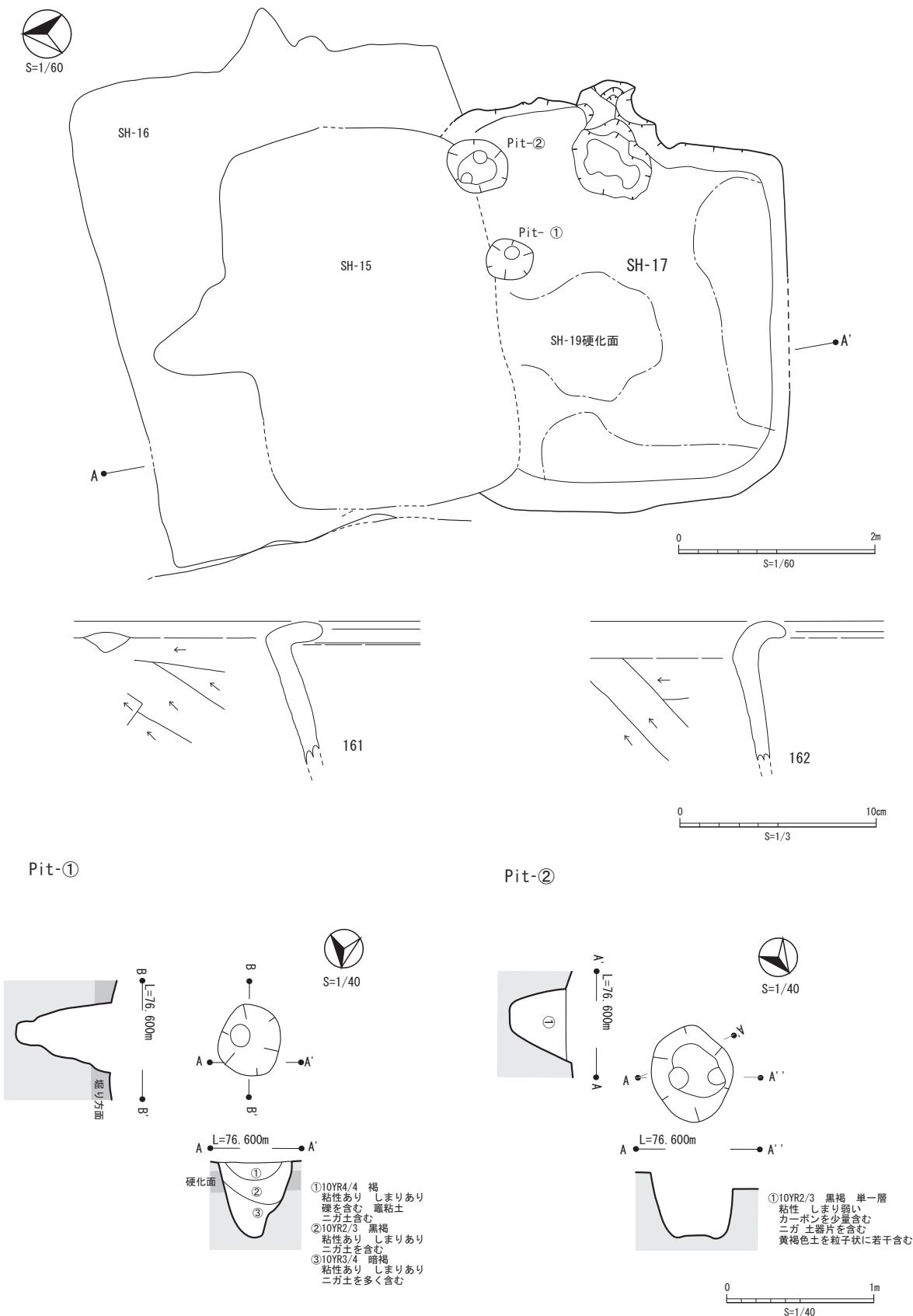
第 111 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-16 P-①・②実測図及び出土遺物実測図

## 使用時状況

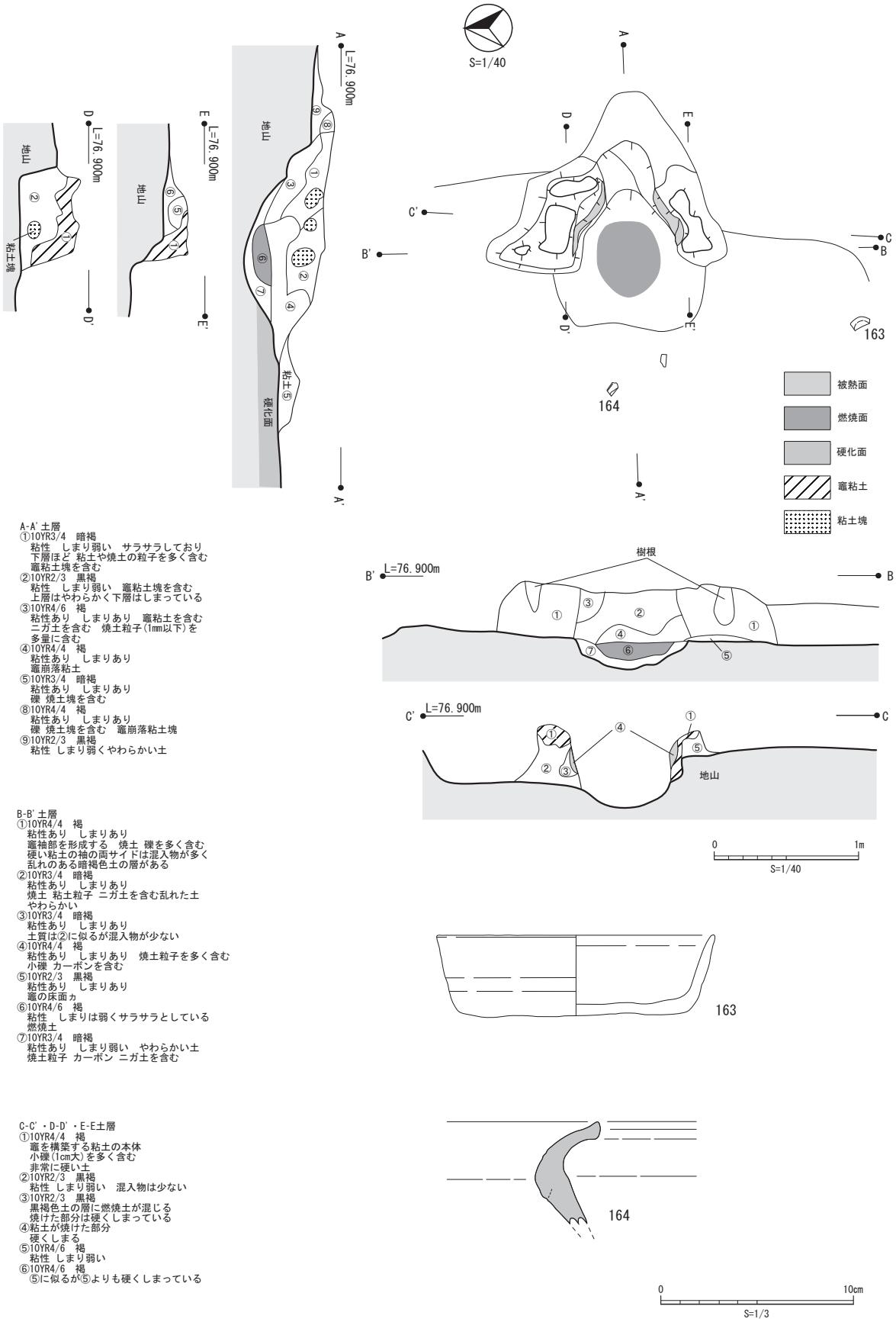


第 112 図 桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-17 使用時状況及び出土遺物実測図

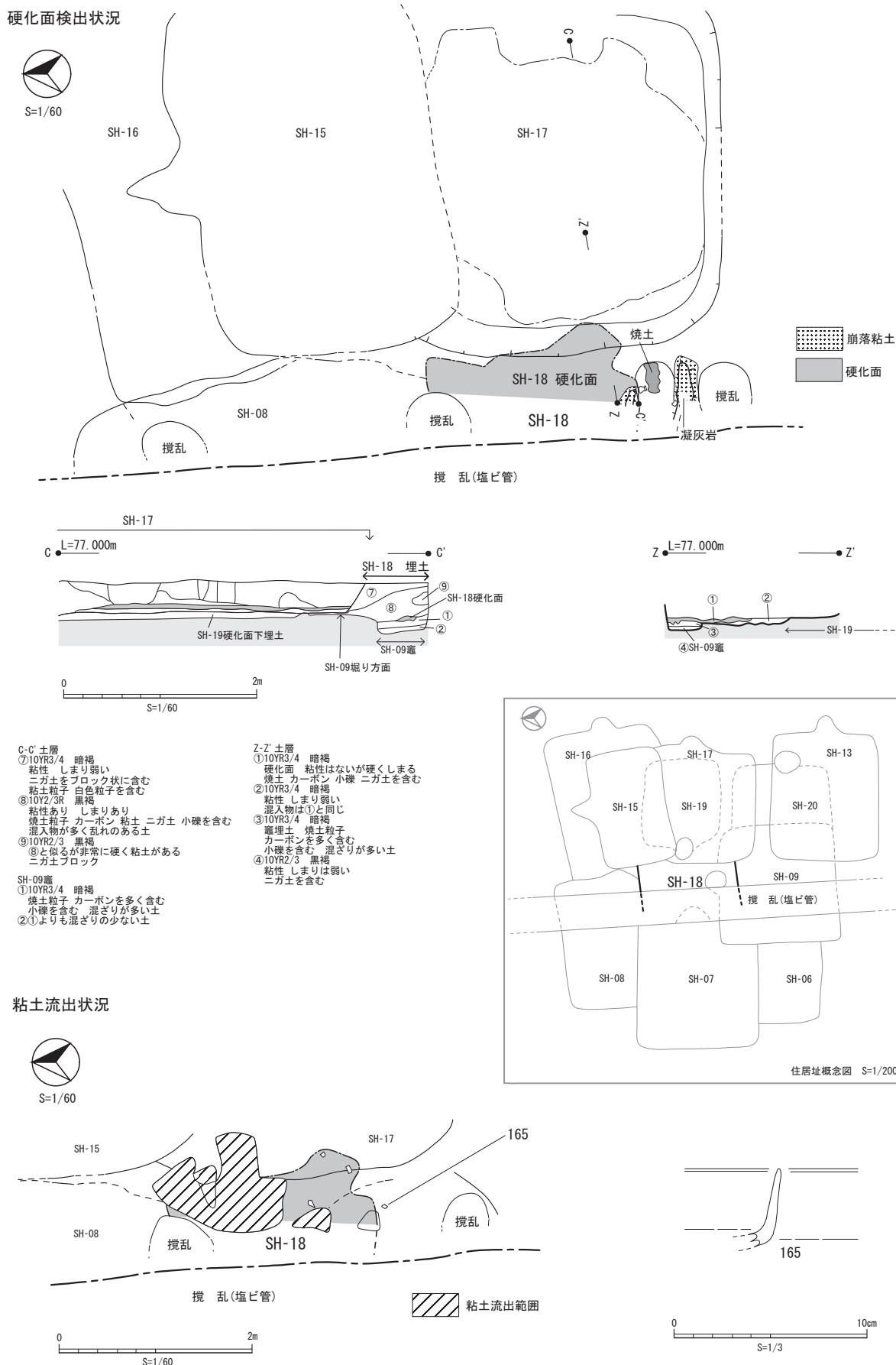
完掘状況



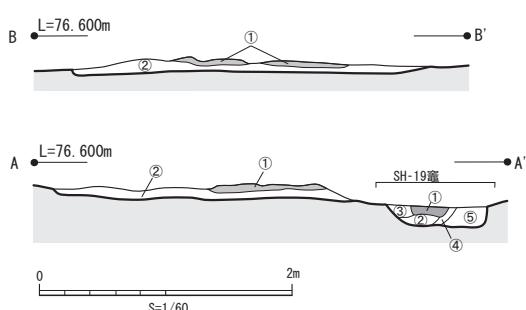
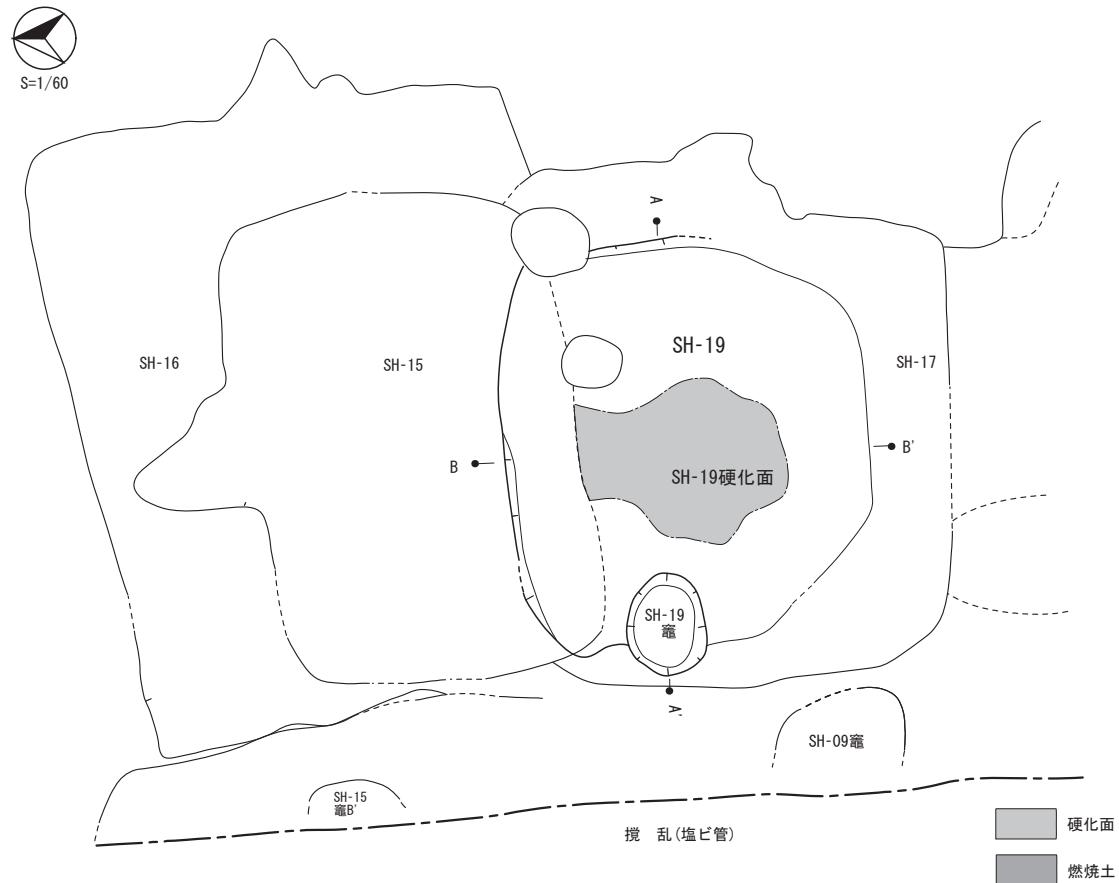
第 113 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-17完掘状況・Pit-①・②実測図及び出土遺物実測図



第 114 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-17 竈実測図及び出土遺物実測図

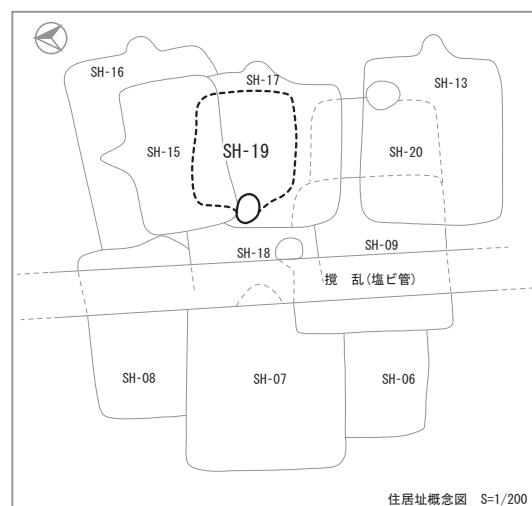


第 115 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-18 検出・粘土流出状況及び出土遺物実測図

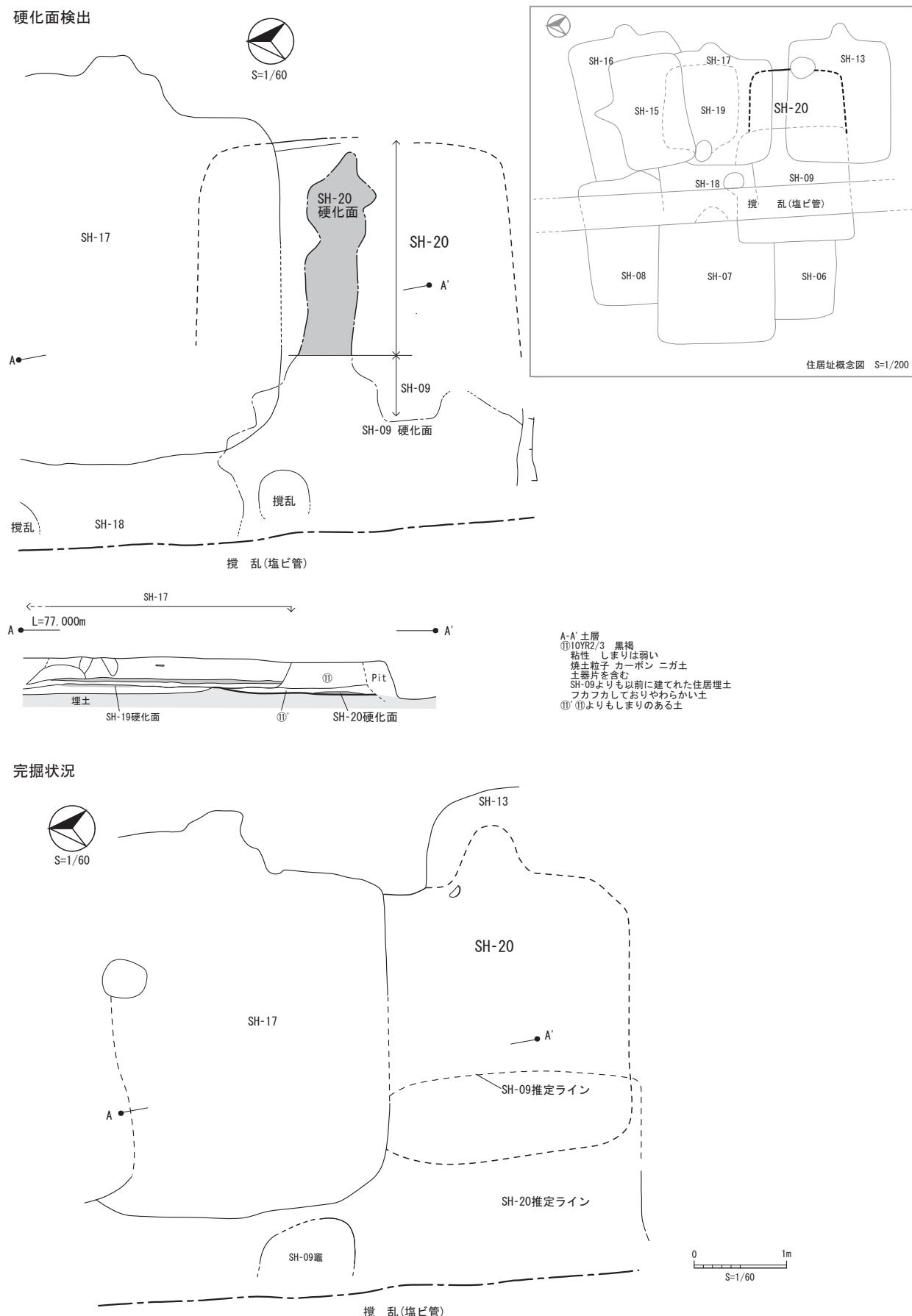


①10YR2/3 黒褐  
粘性あり しまりあり  
二ガ土 硫 黄褐色色粒子を含む  
硬くしまる 硬化面  
②10YR2/3 黑褐  
粘性あり しまりあり  
含有物は①と同じ

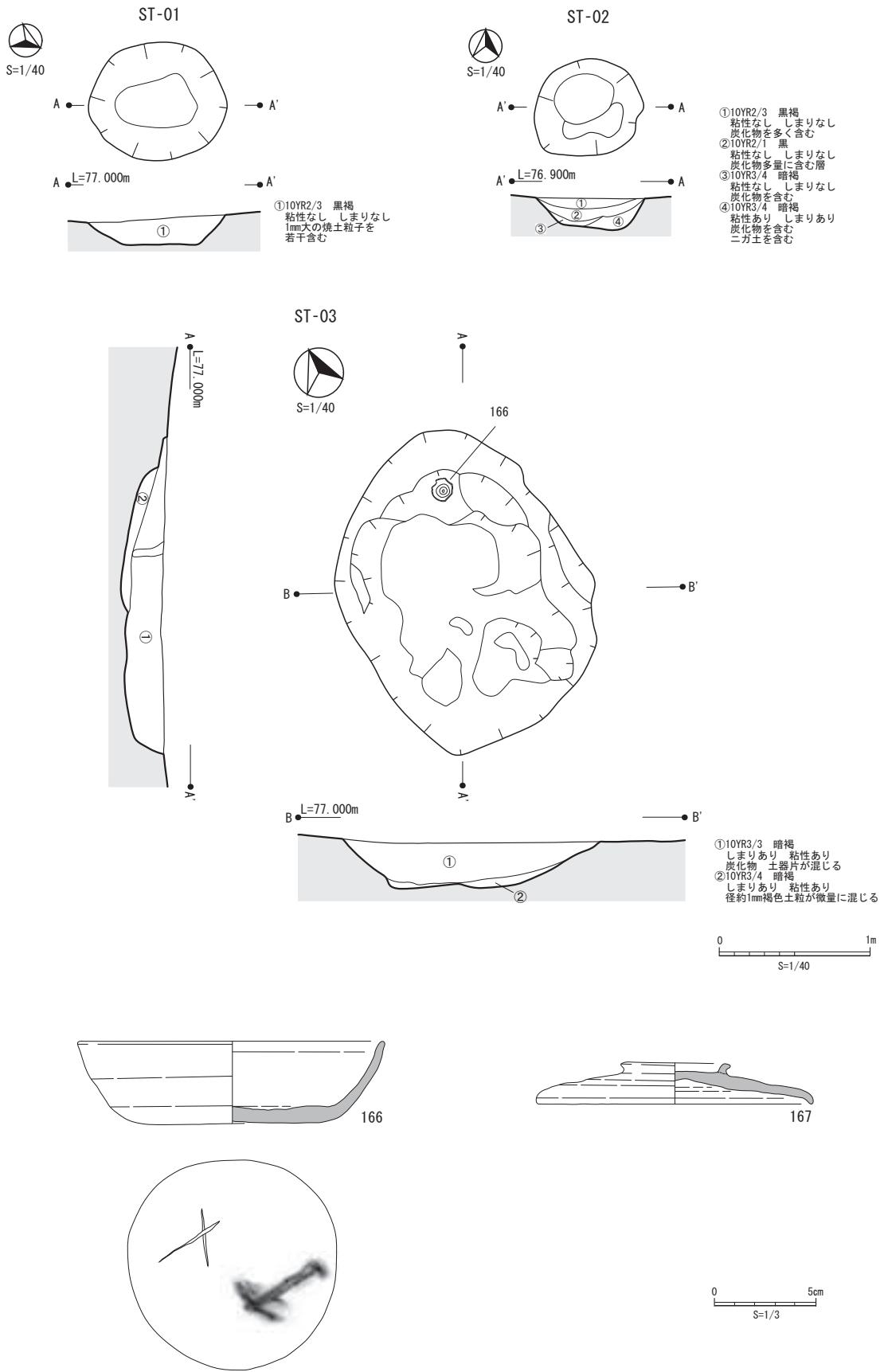
①燃焼土  
粘性あり しまりあり  
黒褐色土に燃焼土をブロック状に含む  
二ガ土を含む  
②二ガ土  
粘性 しまり弱い  
焼けた感じがあり ザラザラしている  
③10YR2/3 黑褐  
燃焼土粒子を多く含む やわらかい土  
④10YR2/3 黑褐  
やわらかい土 ③ほどの混ざりがない  
⑤10YR3/4 暗褐  
二ガ土を含む ④よりもしまっている  
黄色土を含む



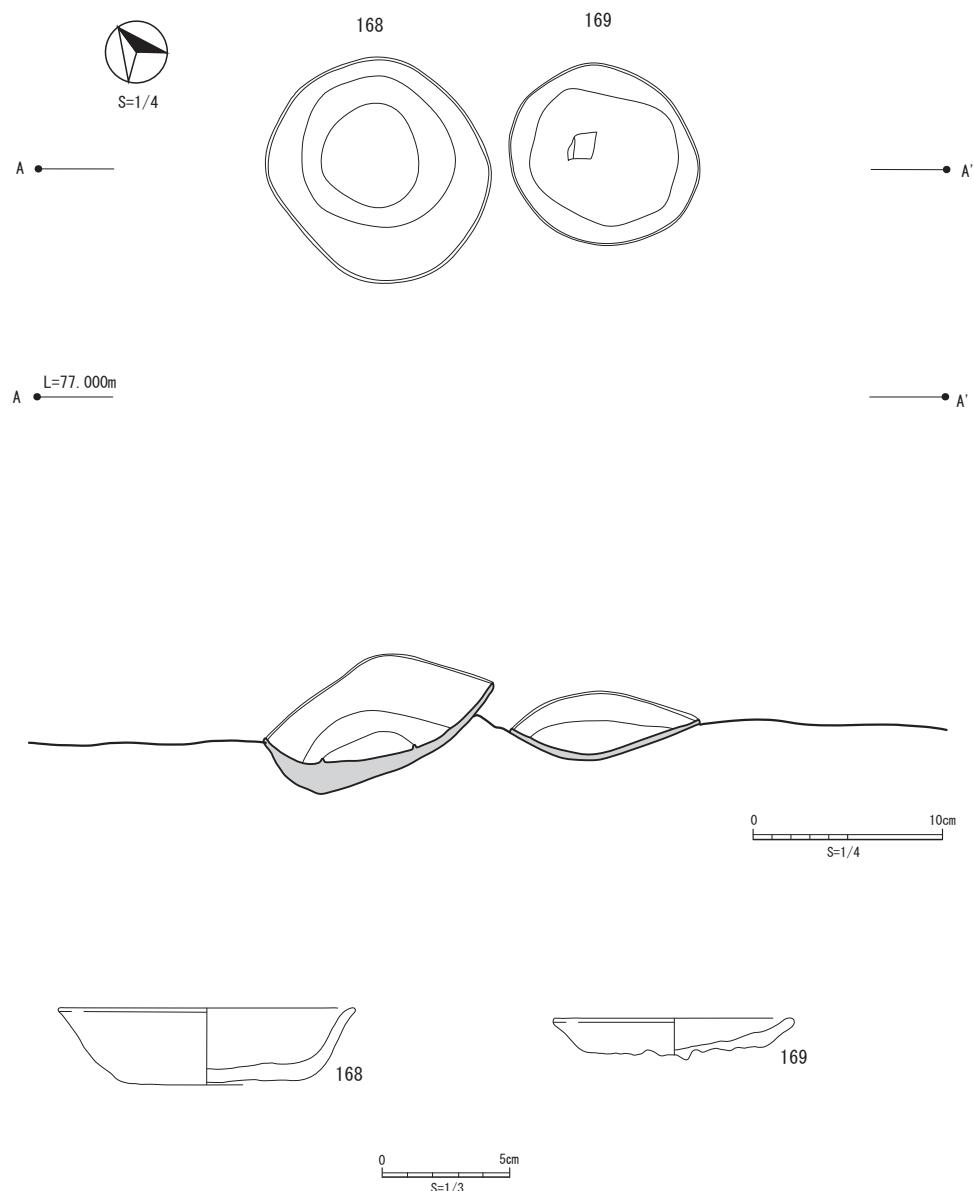
第 116 図 桑鶴遺跡群 III 区 SH-19完掘状況



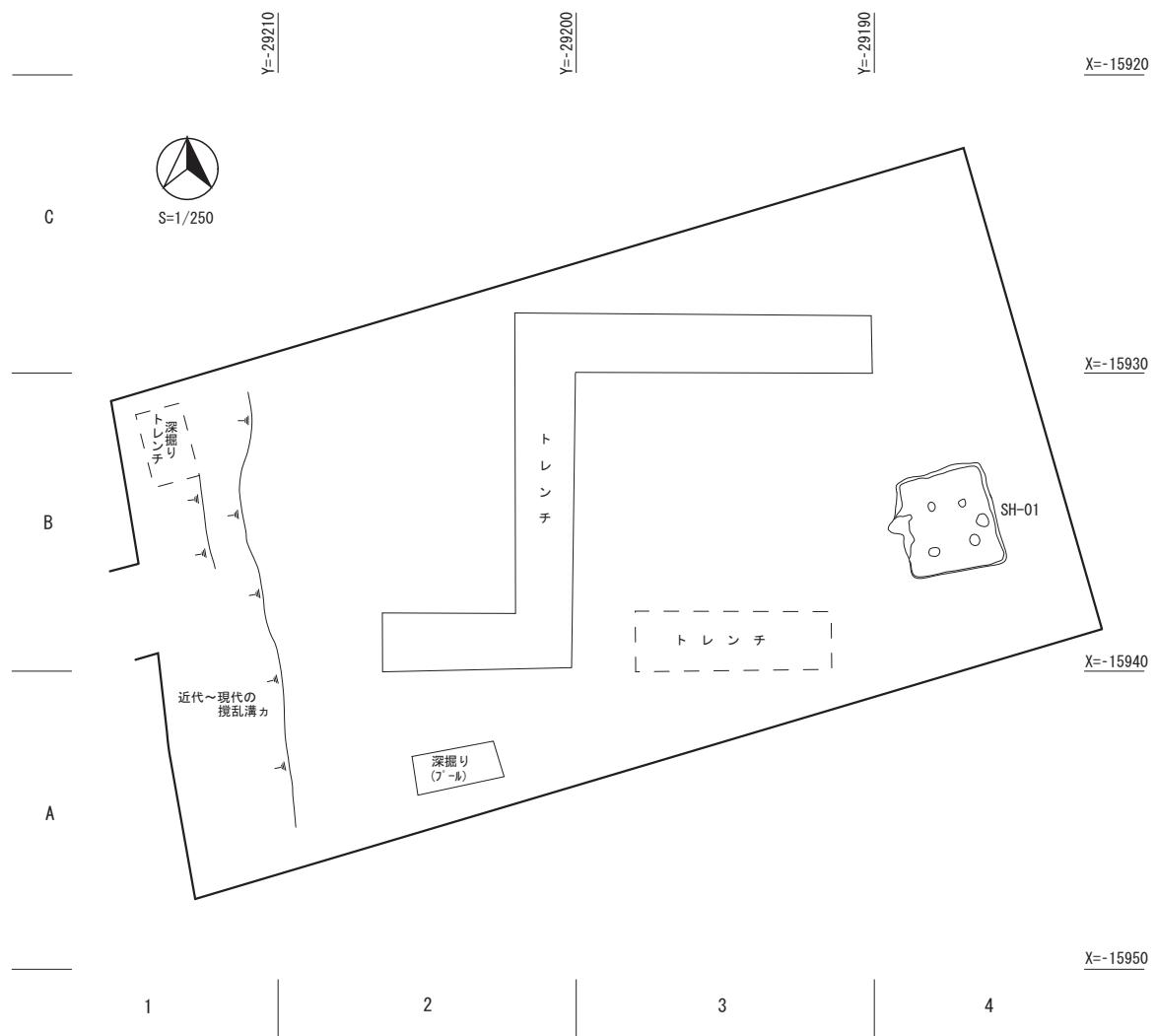
第 117 図 桑鶴遺跡群 III区 SH-20硬化面検出・完掘状況



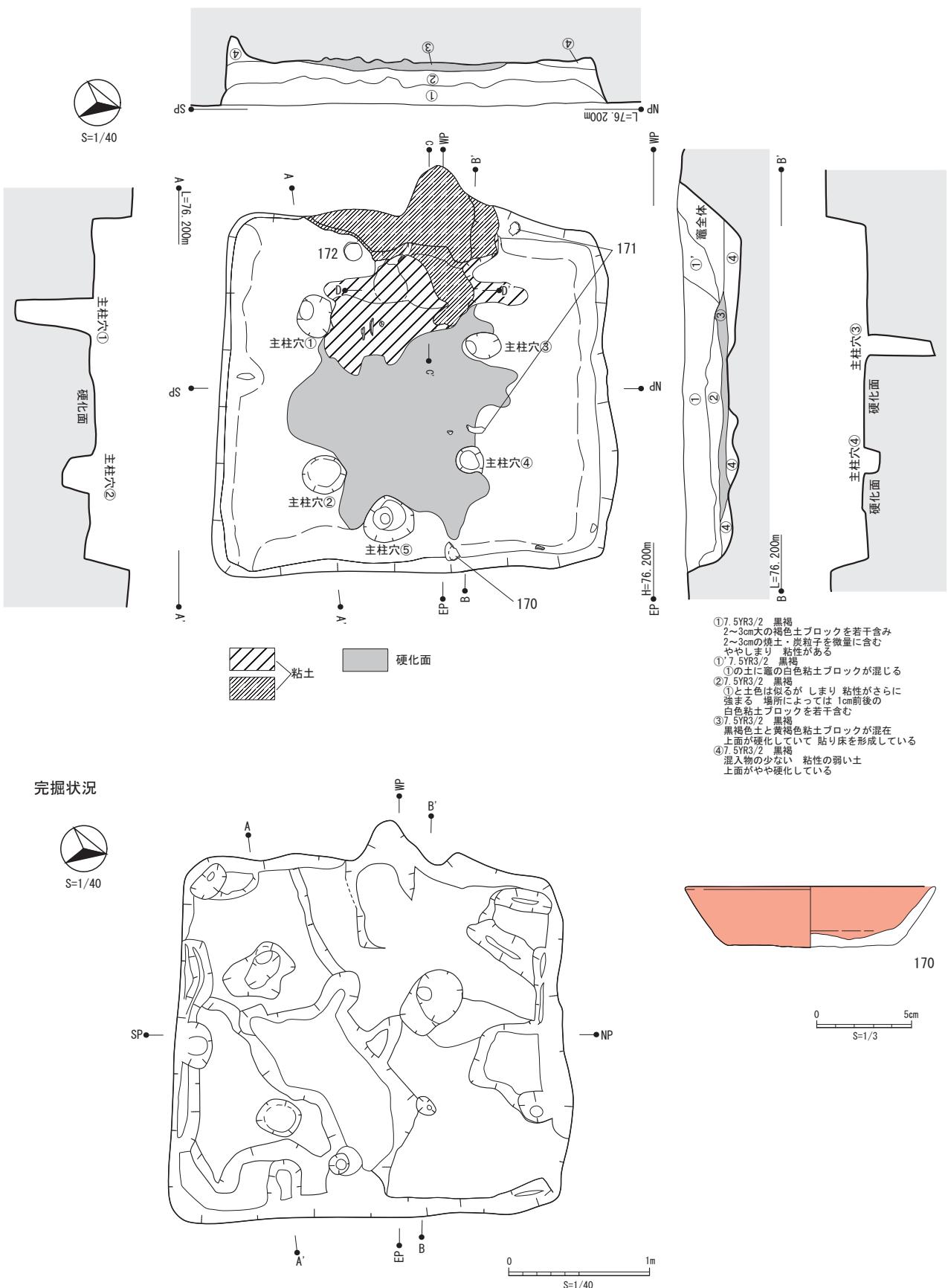
第118図 桑鶴遺跡群 VI区 ST-01~03実測図及び出土遺物実測図



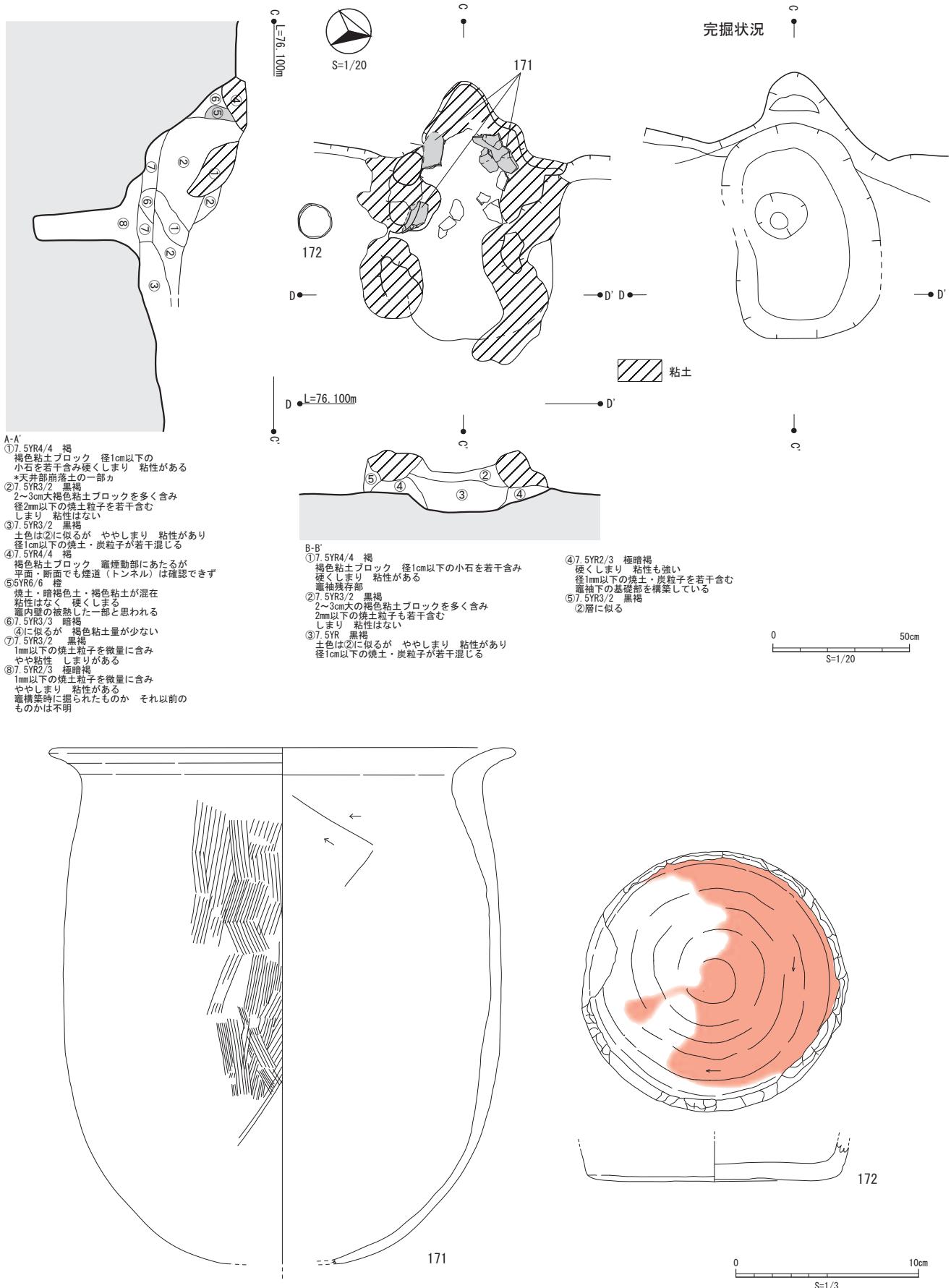
第 119 図 桑鶴遺跡群 VI区 土師器出土状況



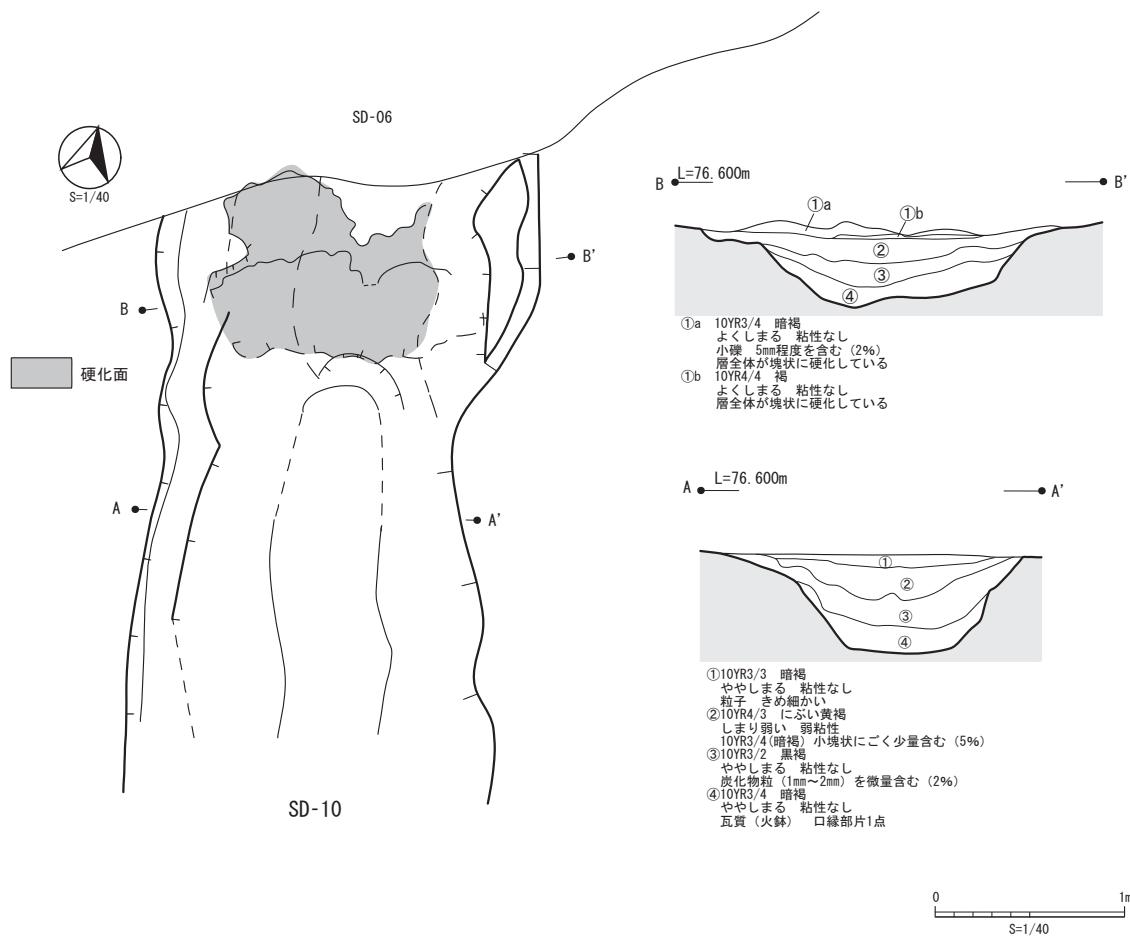
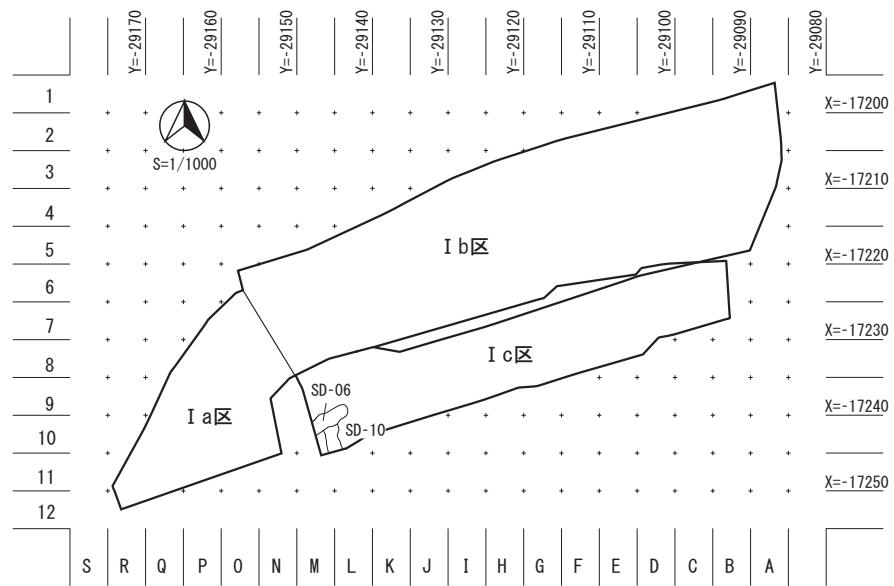
第 120 図 桑鶴遺跡群 IV区 遺構配置図



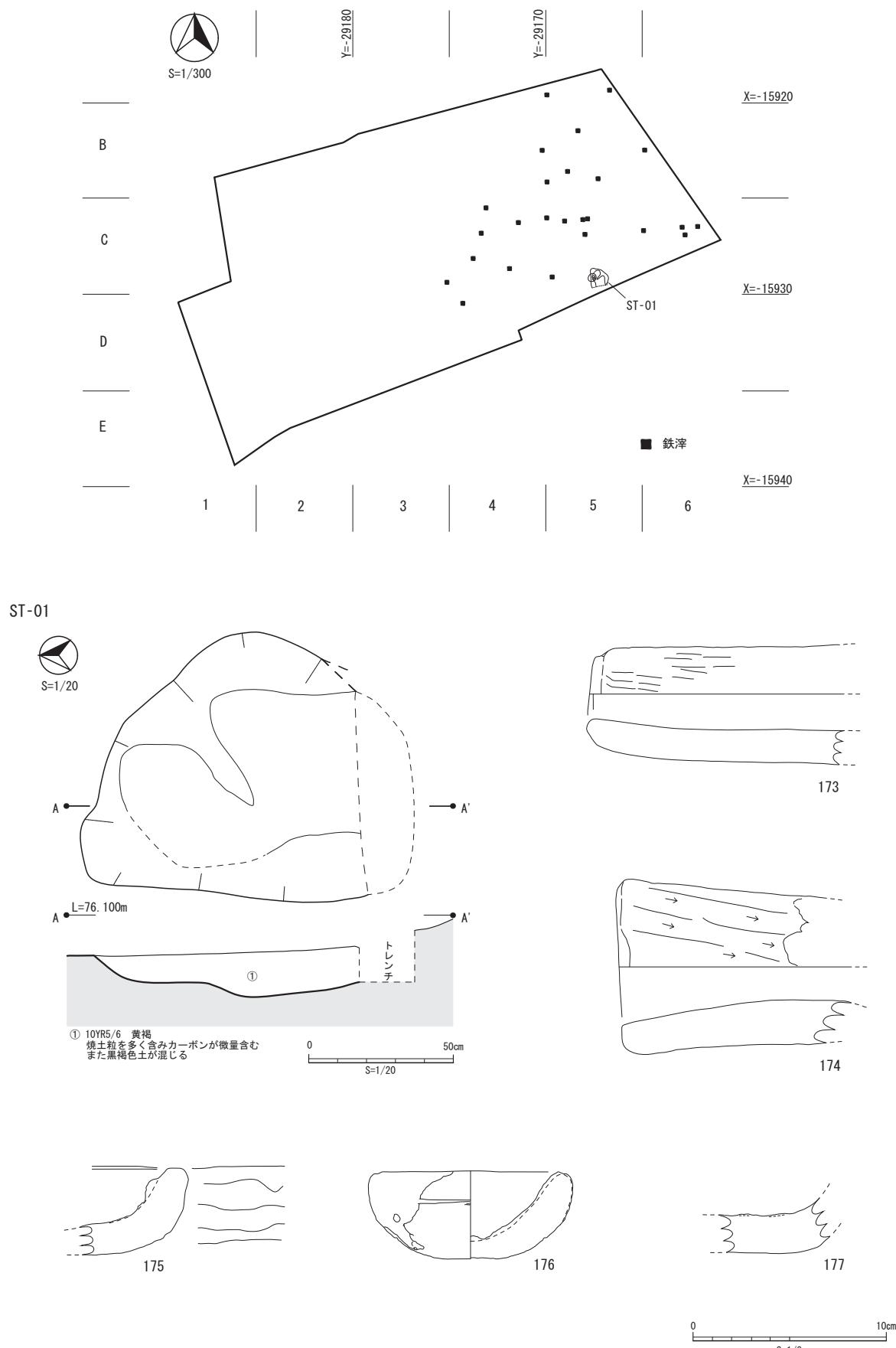
第 121 図 桑鶴遺跡群 IV区 SH-01実測図及び出土遺物実測図



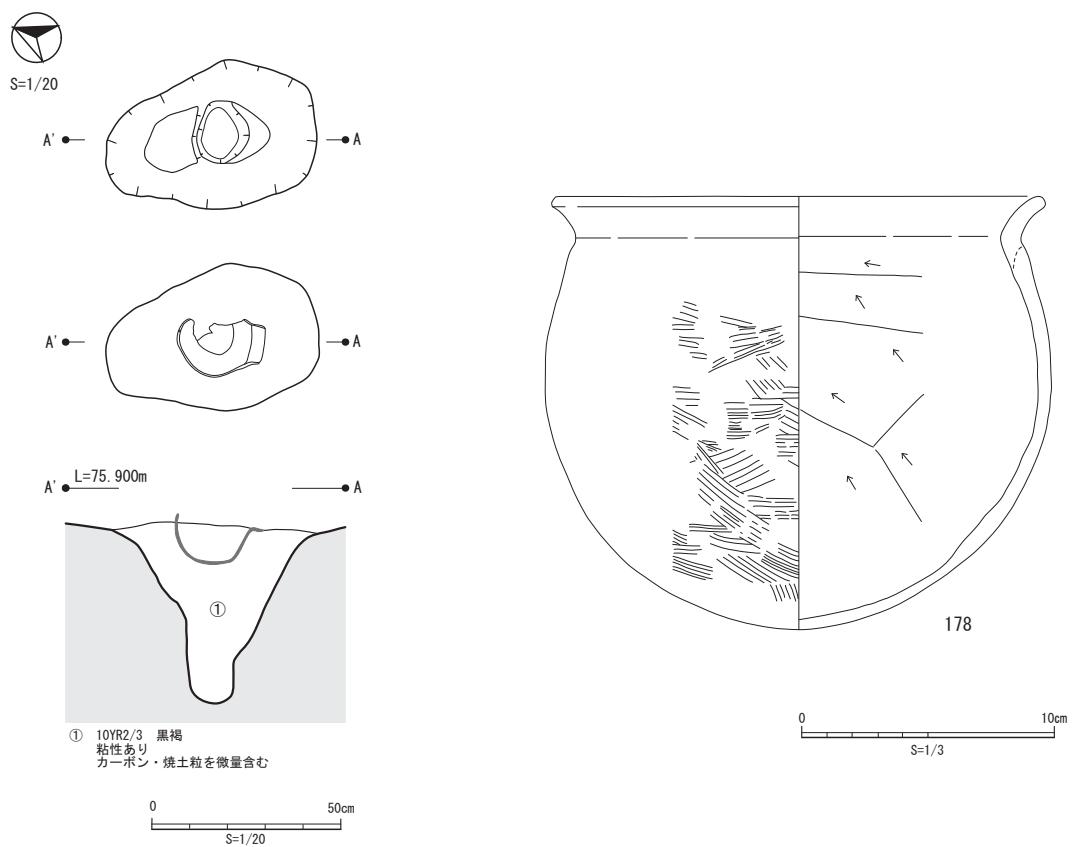
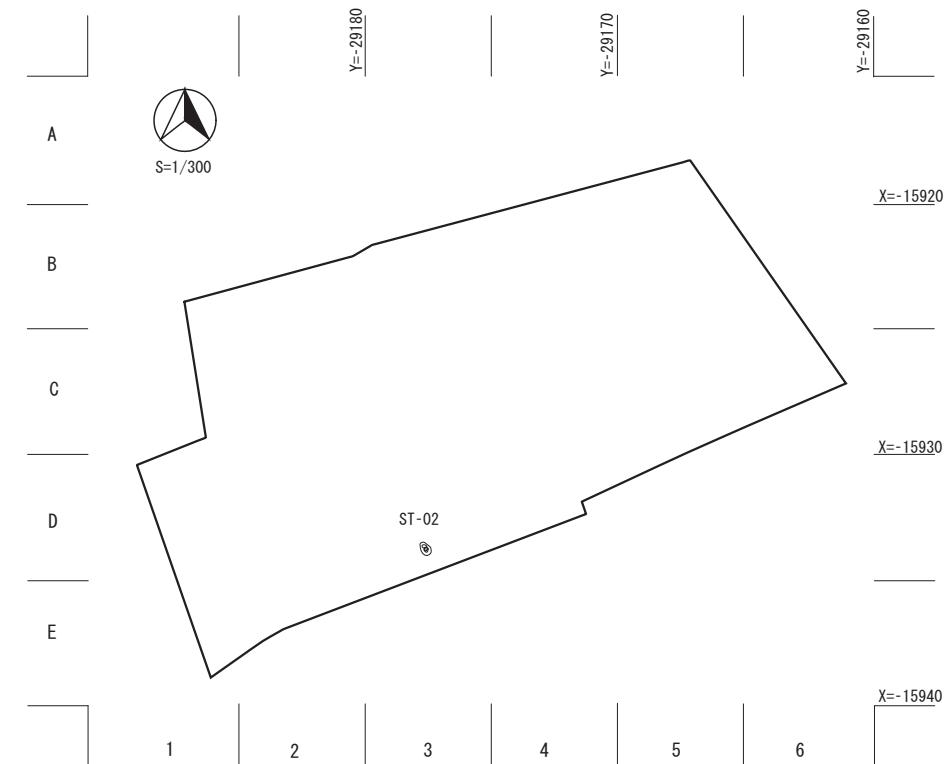
第 122 図 桑鶴遺跡群 IV区 SH-01竈実測図及び出土遺物実測図



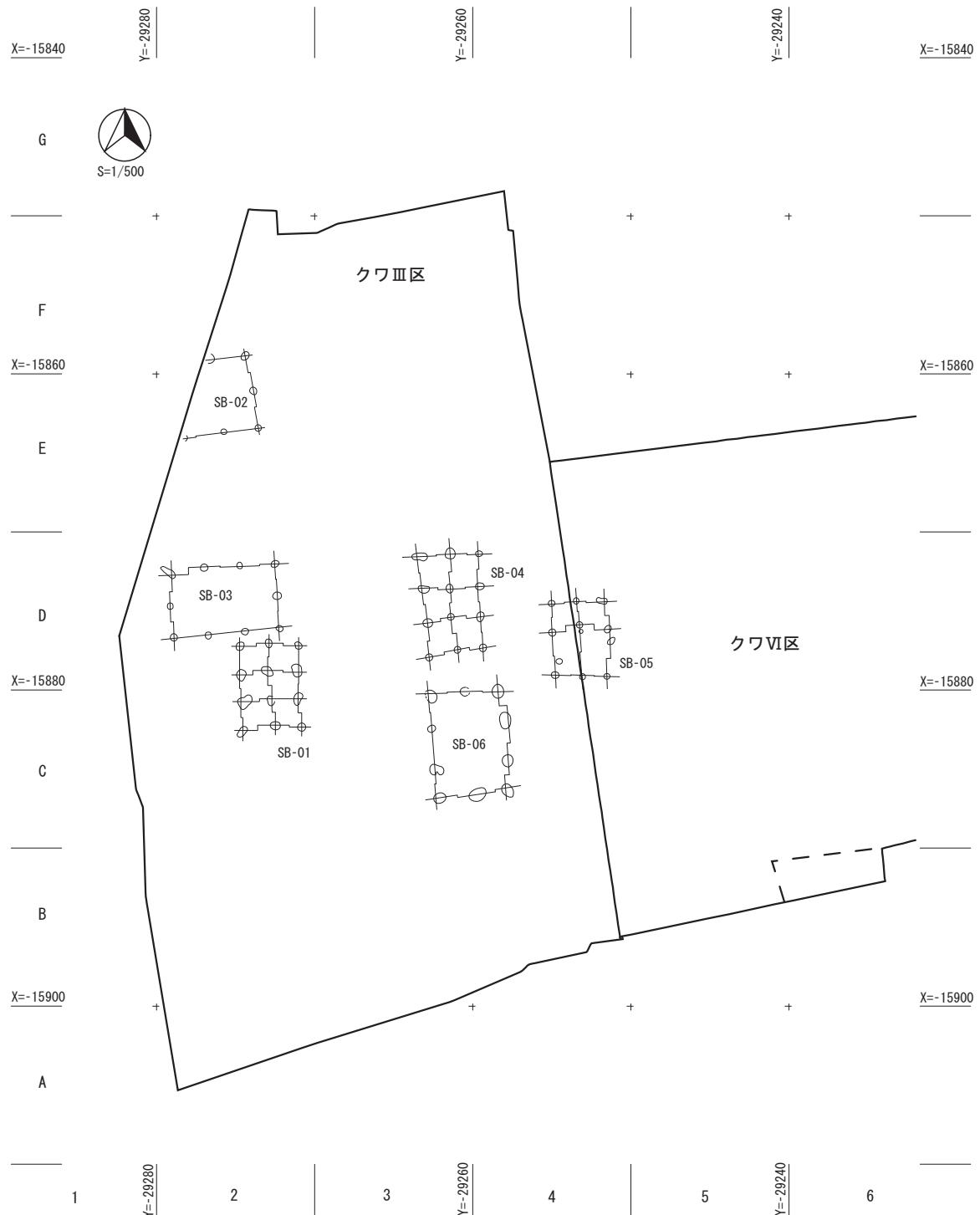
第 123 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 遺構配置図及びSD-10実測図



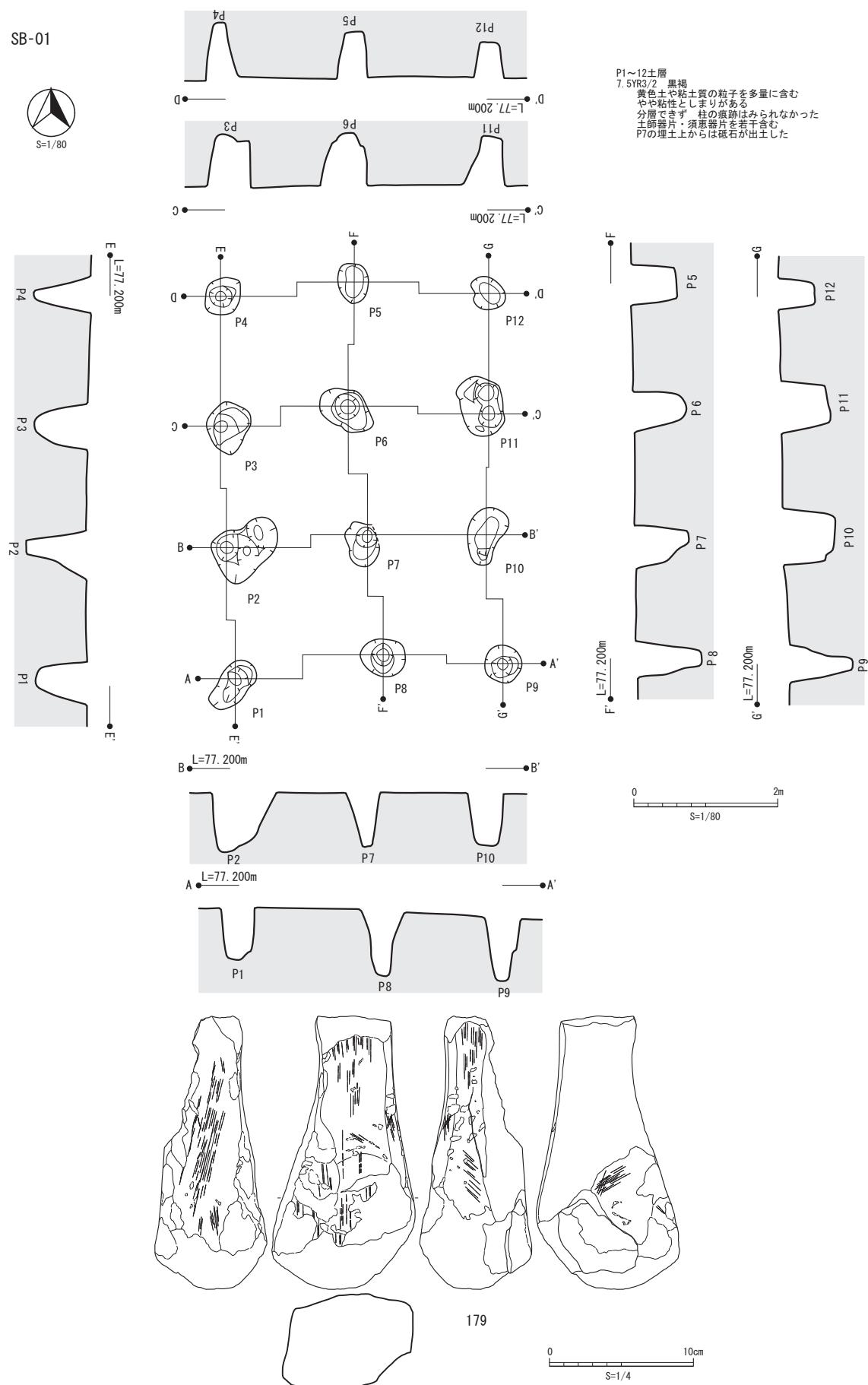
第 124 図 桑鶴遺跡群 V 区 IIIa 層 遺構配置図・鉄滓出土状況・  
ST-01 実測図及び出土遺物実測図



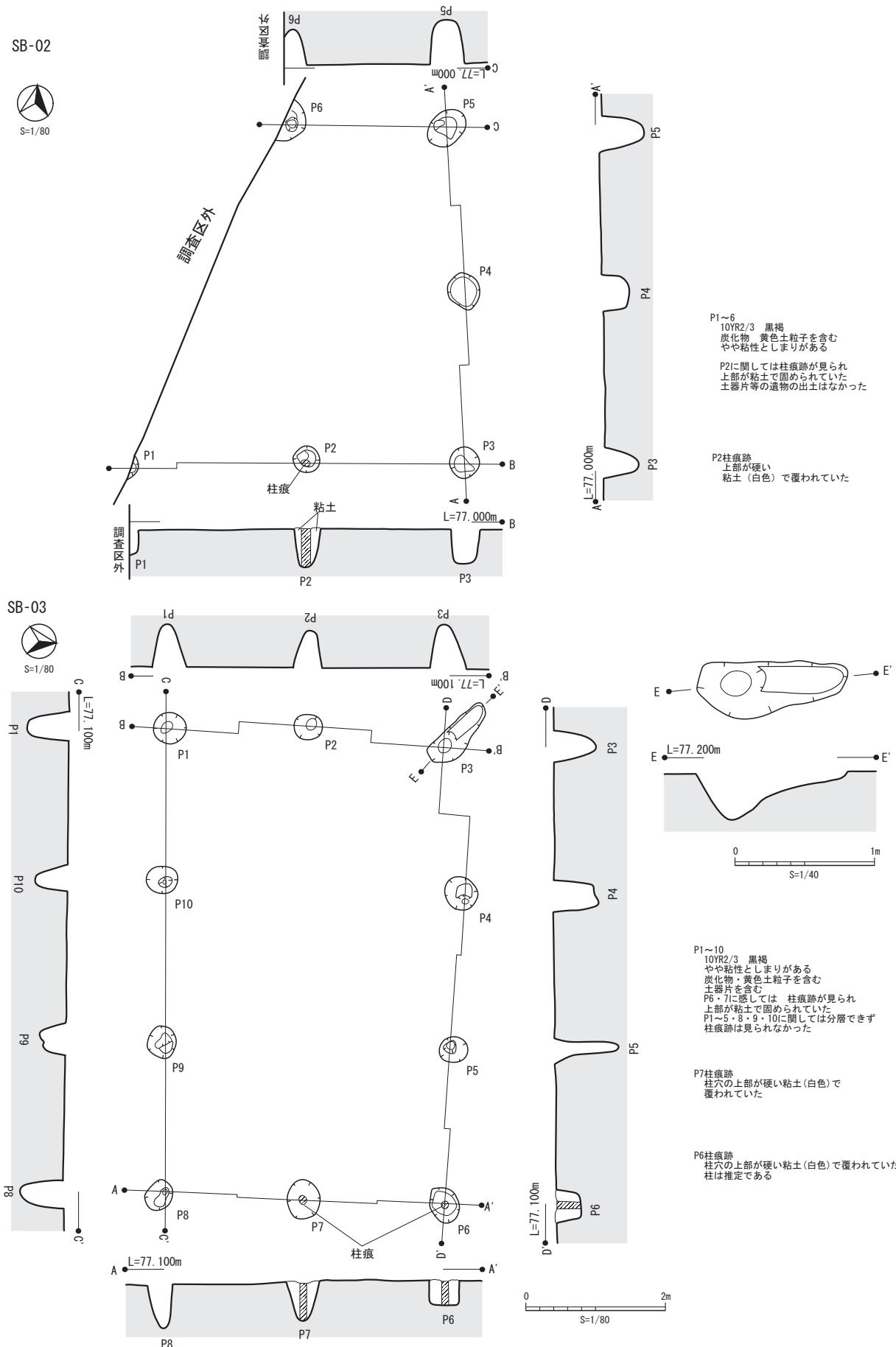
第 125 図 桑鶴遺跡群 V 区 IIIb 層 遺構配置図・ST-02 実測図及び出土遺物実測図



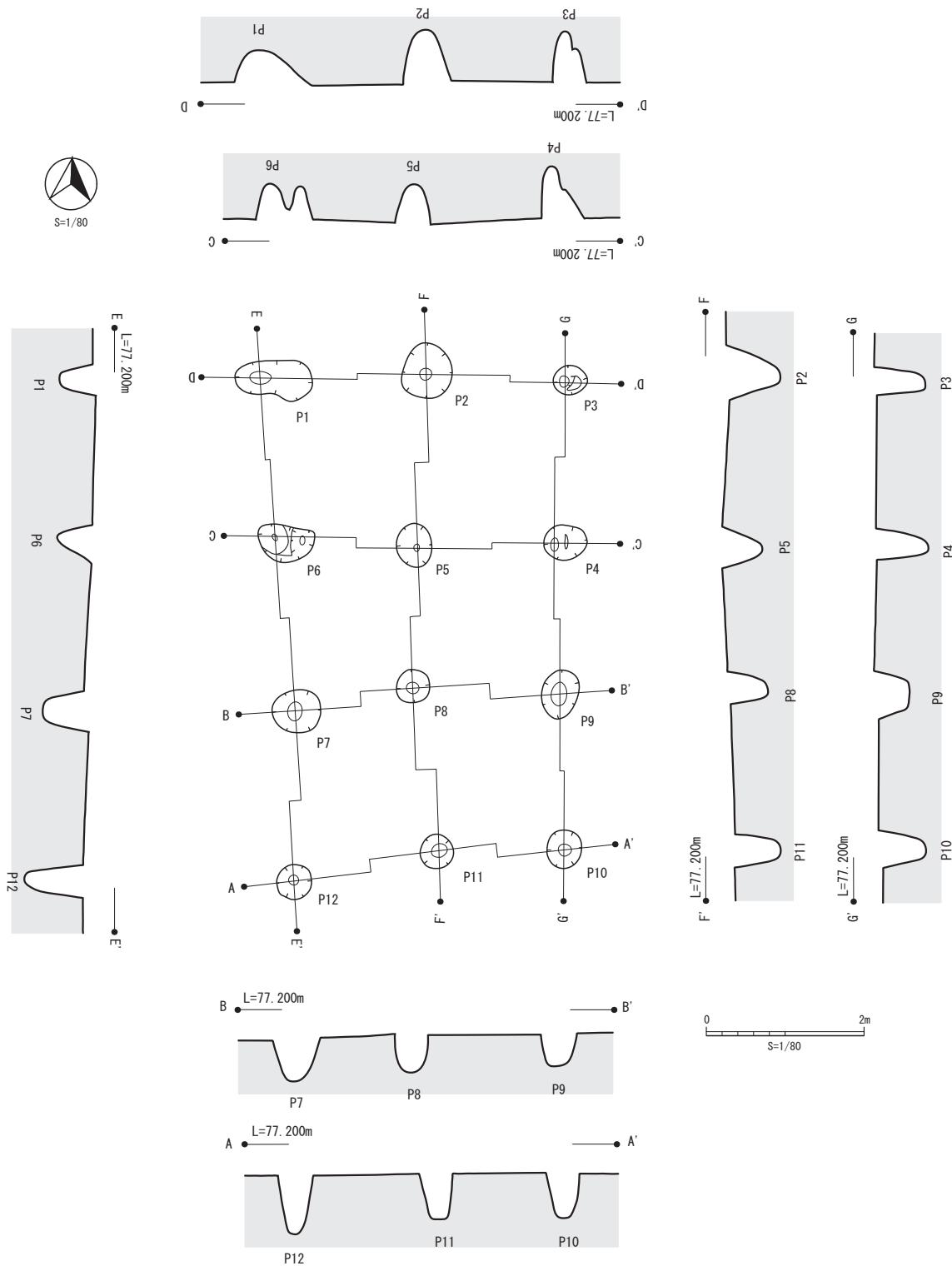
第 126 図 桑鶴遺跡群 III 区 遺構配置図



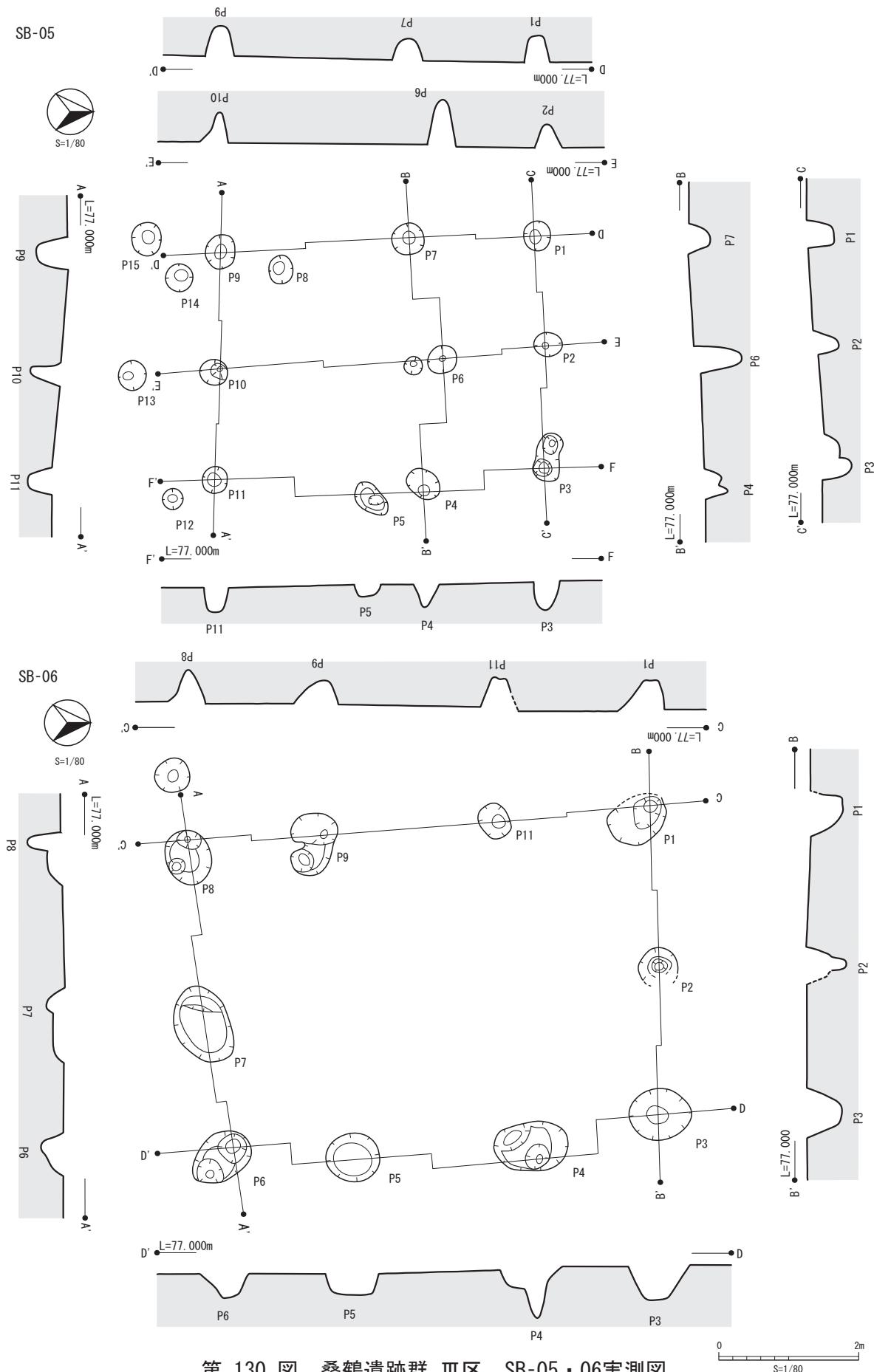
第 127 図 桑鶴遺跡群 III区 SB-01実測図及び出土遺物実測図



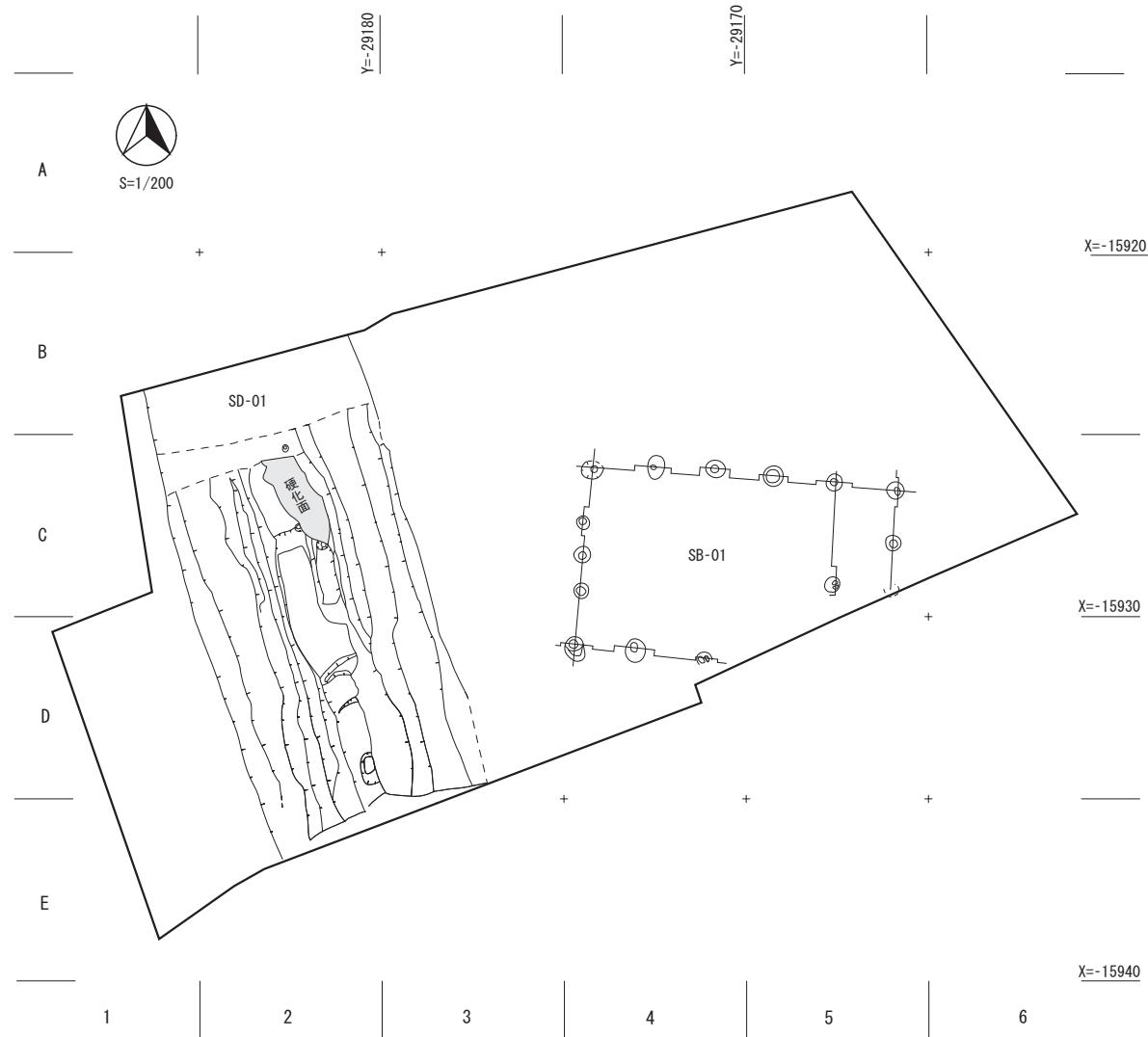
第 128 図 桑鶴遺跡群 III 区 SB-02・03 実測図



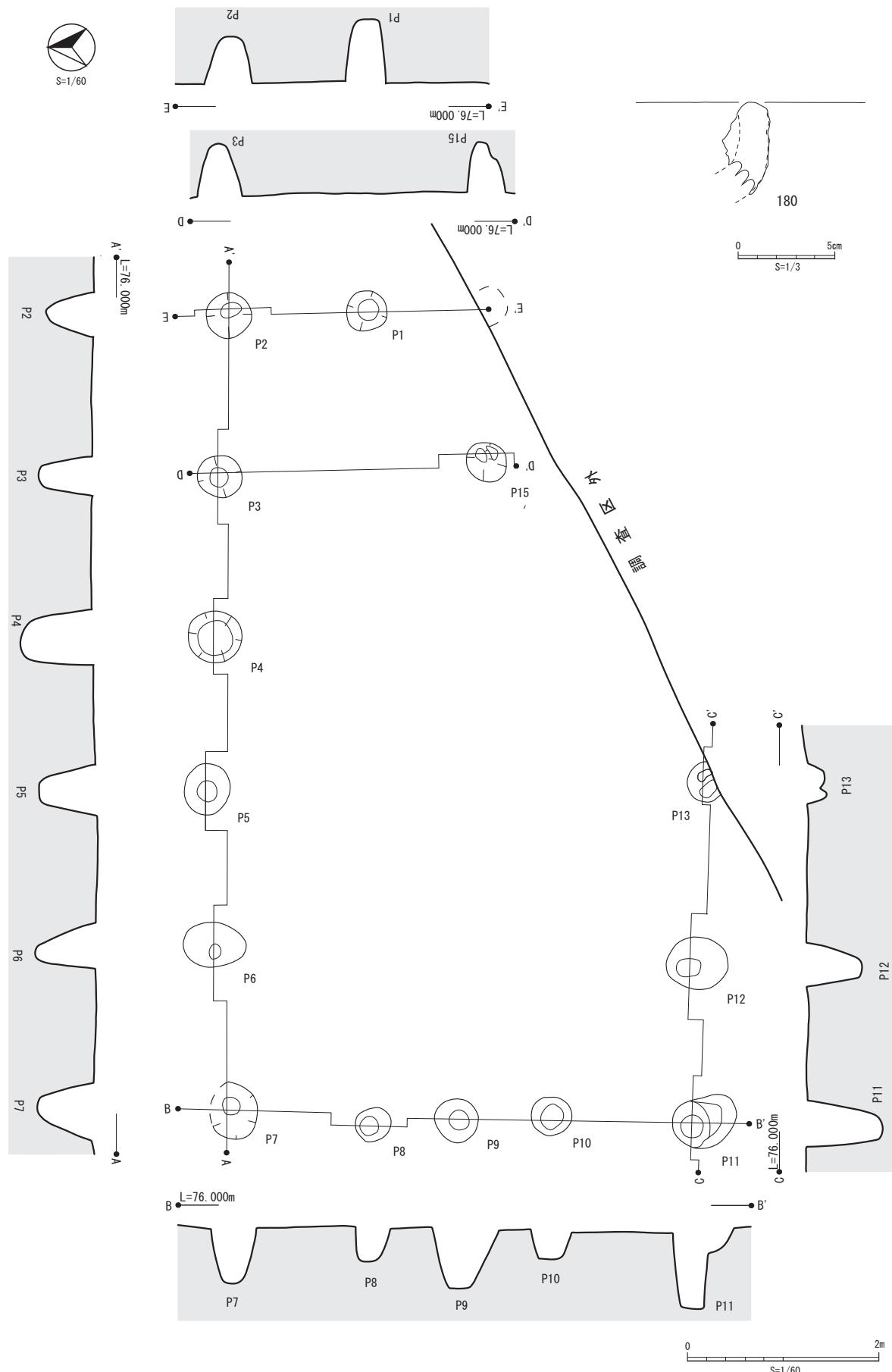
第 129 図 桑鶴遺跡群 III 区 SB-04 実測図



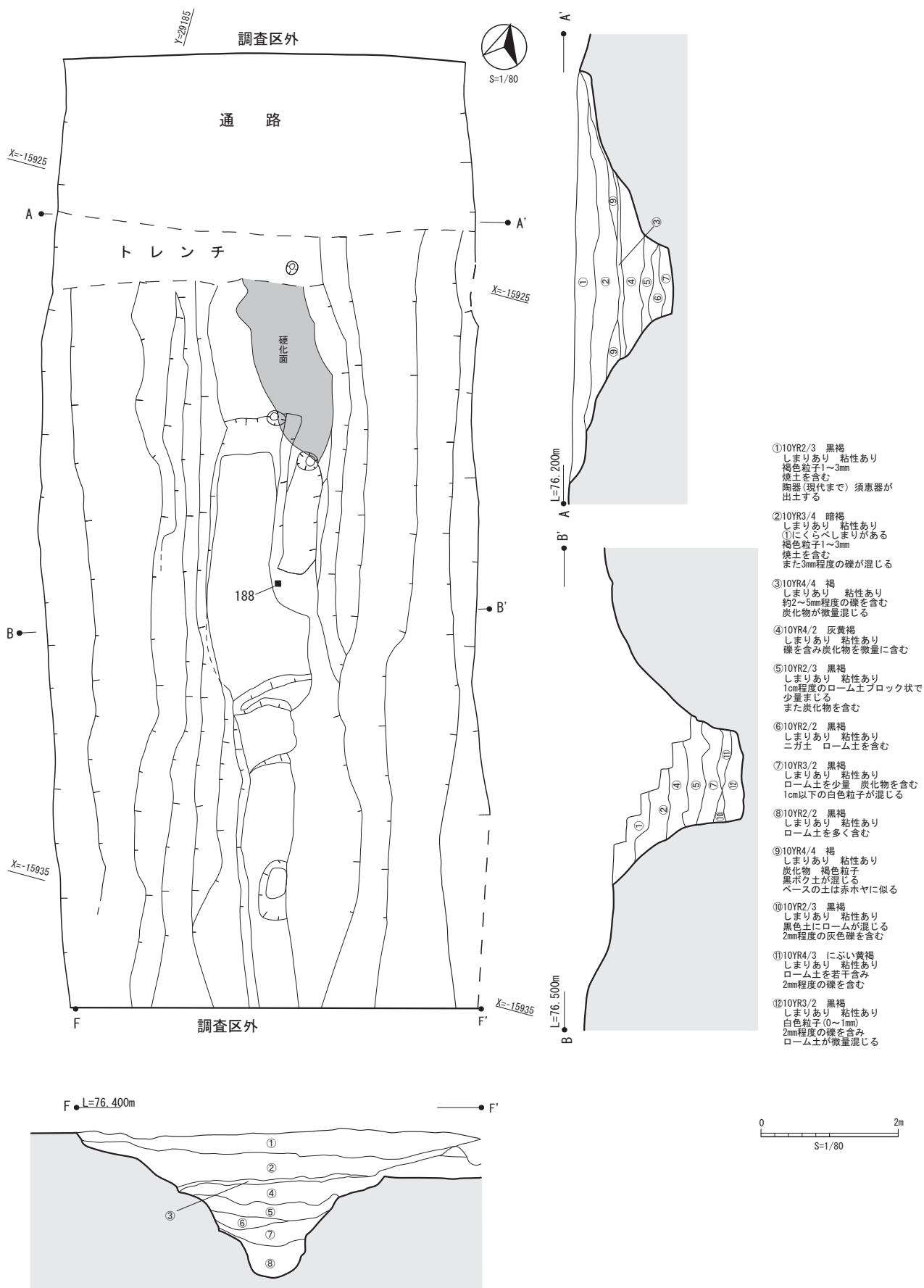
第130図 桑鶴遺跡群 III区 SB-05・06実測図



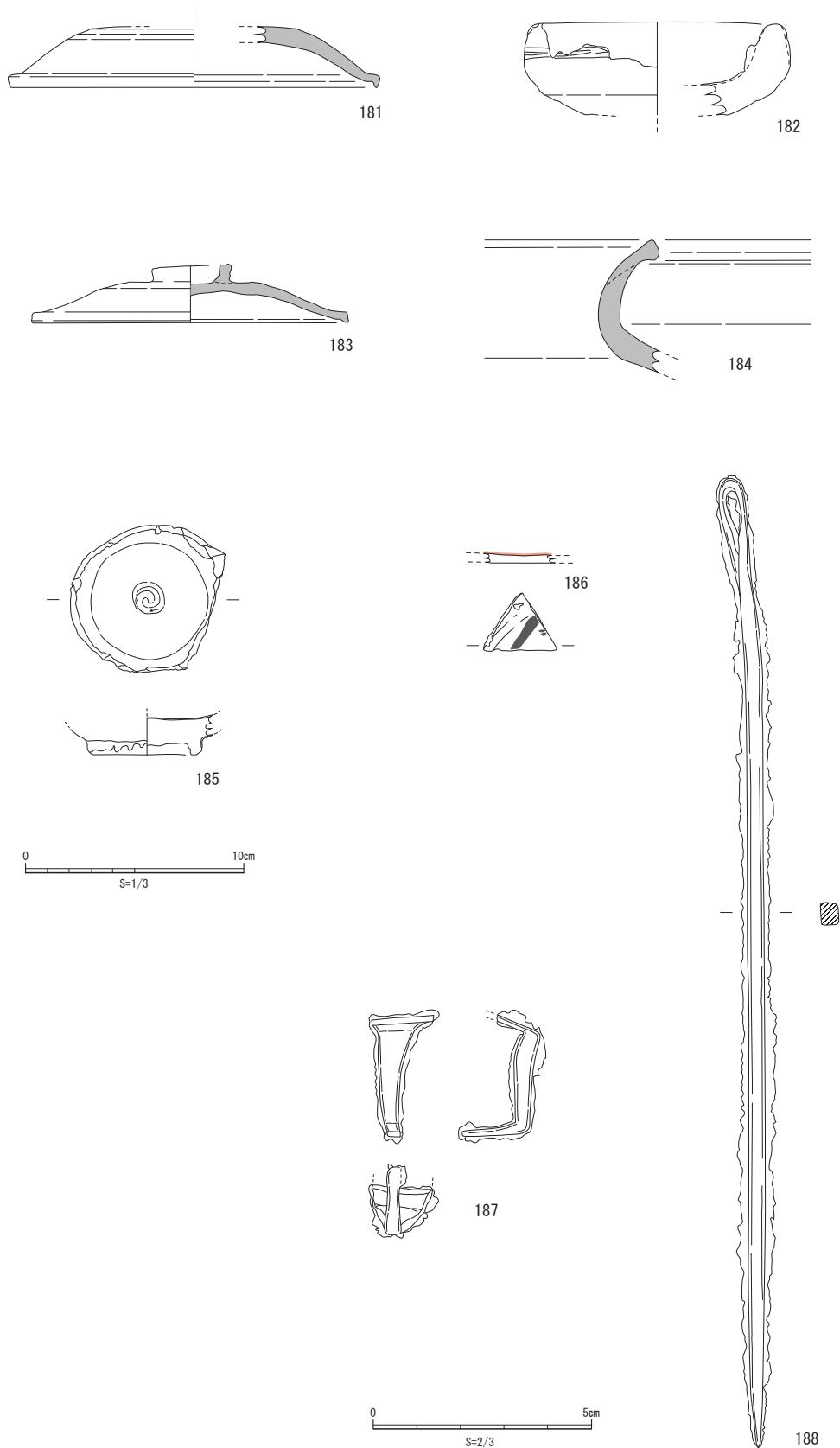
第 131 図 桑鶴遺跡群 V 区 遺構配置図



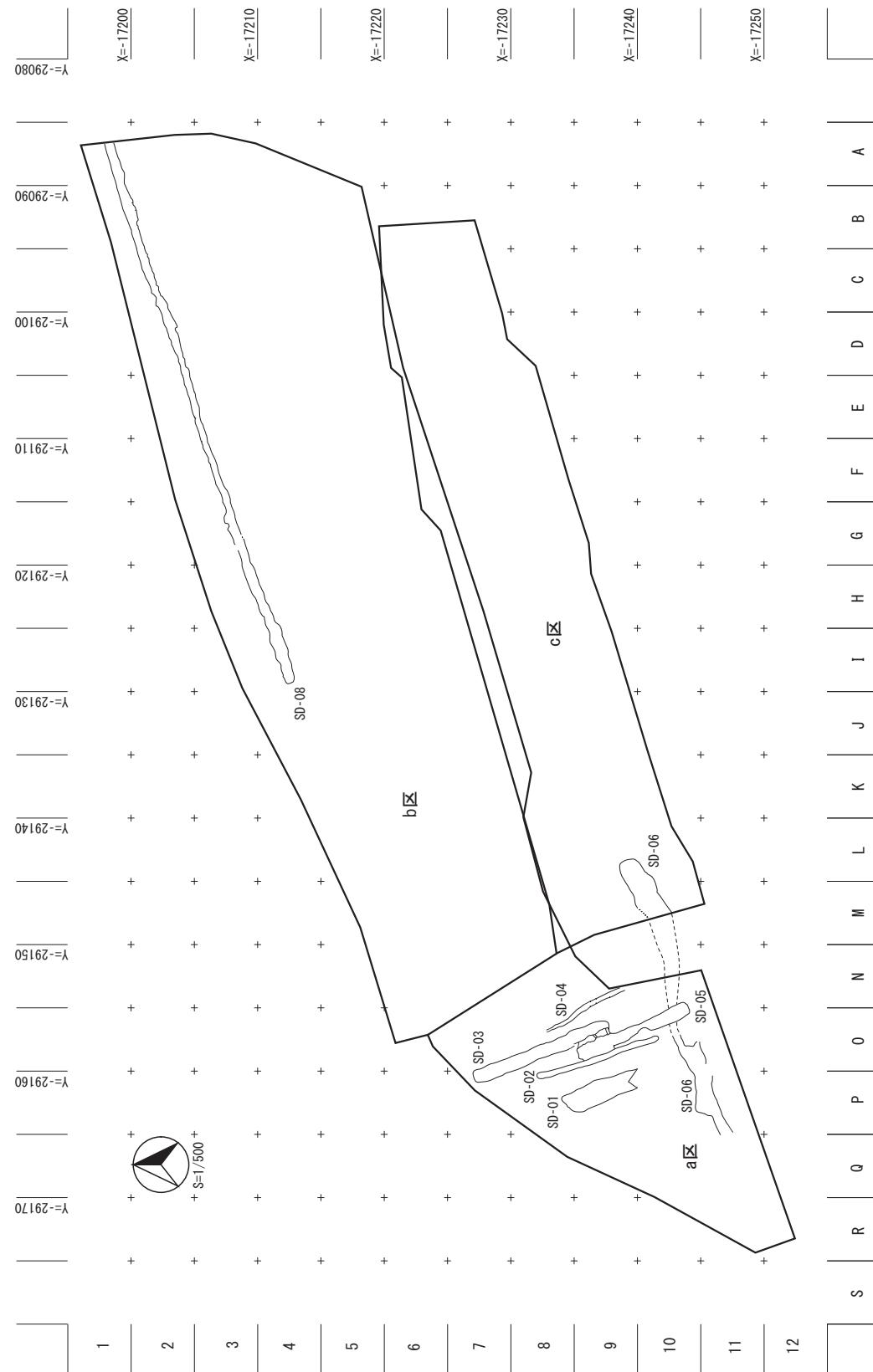
第 132 図 桑鶴遺跡群 V 区 SB-01 実測図及び出土遺物実測図



第133図 桑鶴遺跡群 V区 SD-01実測図



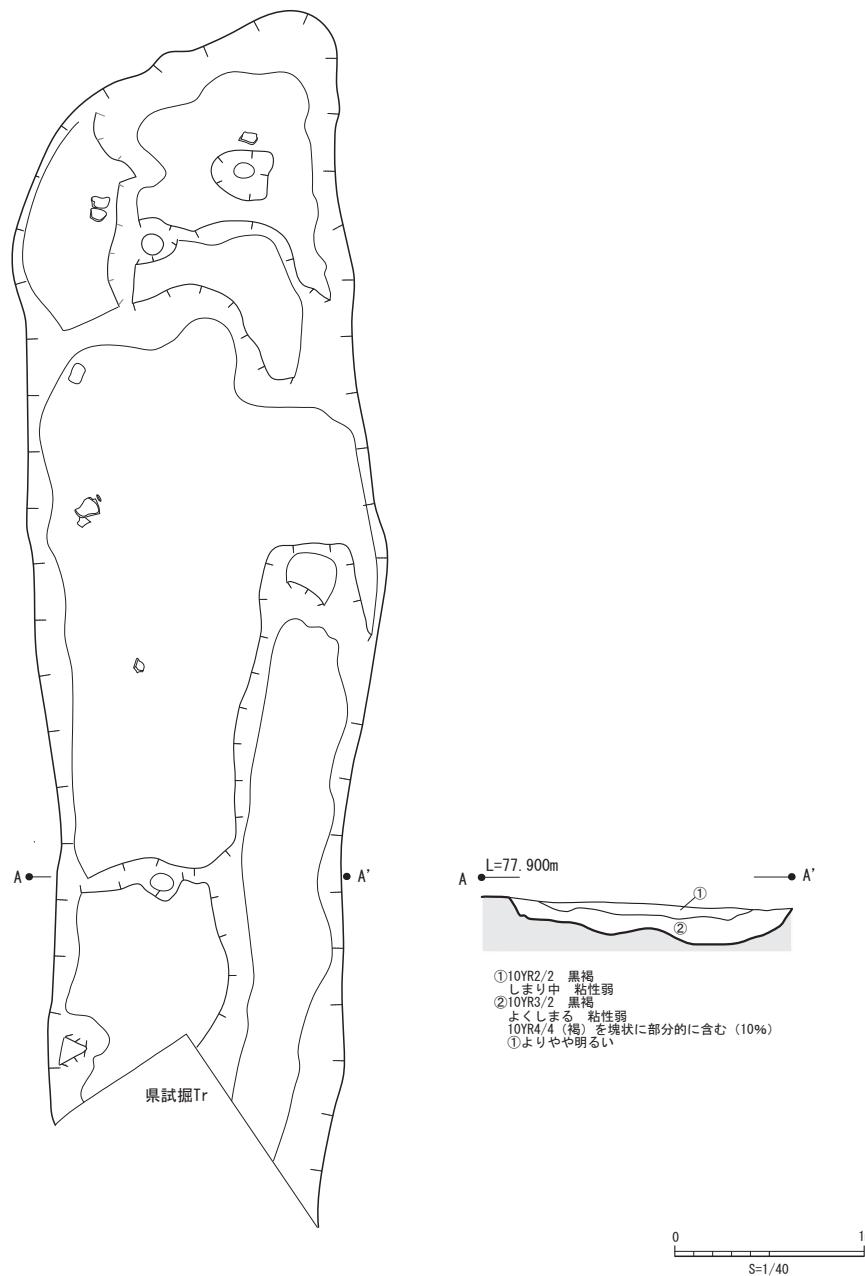
第 134 図 桑鶴遺跡群 V 区 SD-01出土遺物実測図



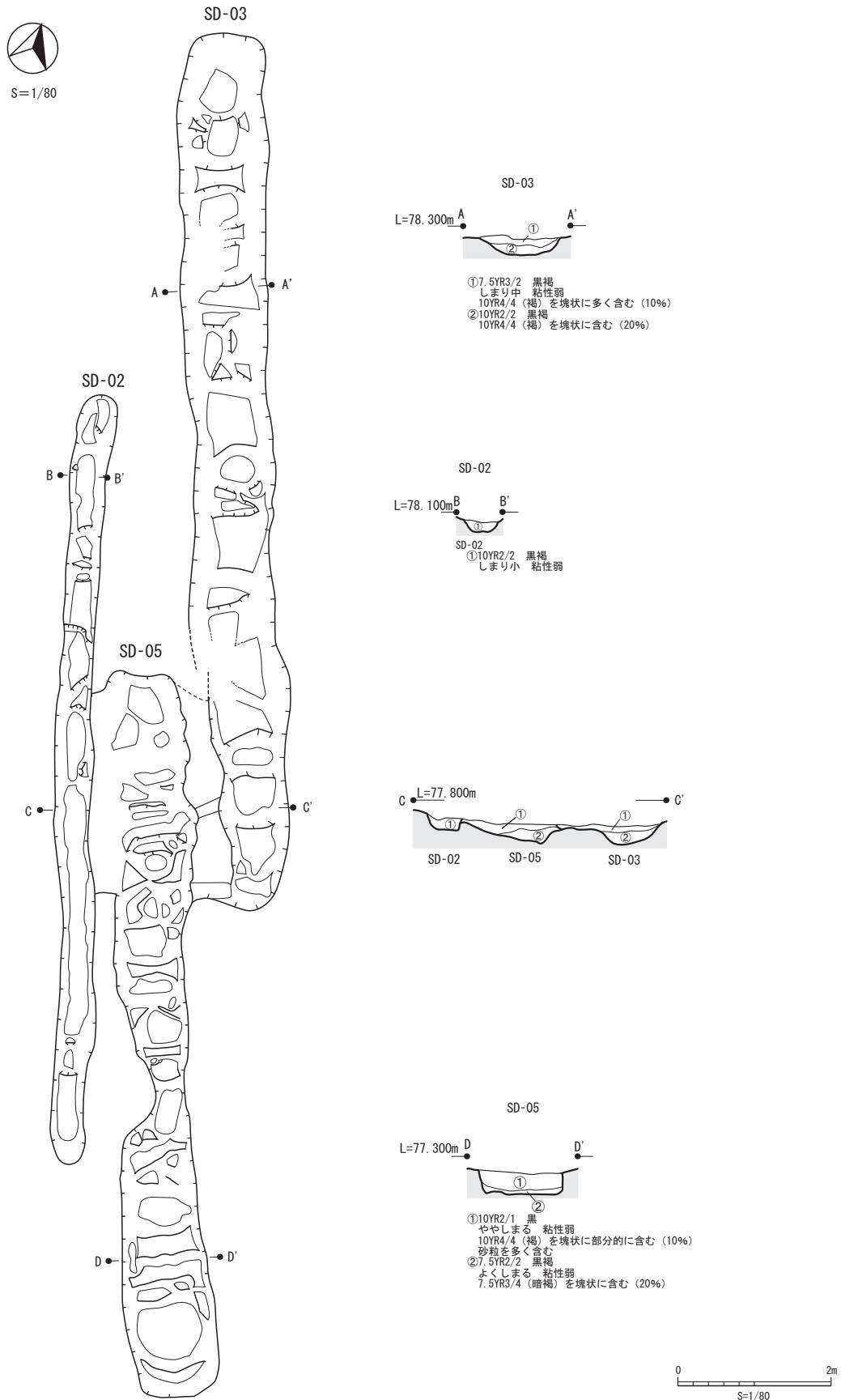
第135図 桑鶴遺跡群 06-I区 遺構配置図



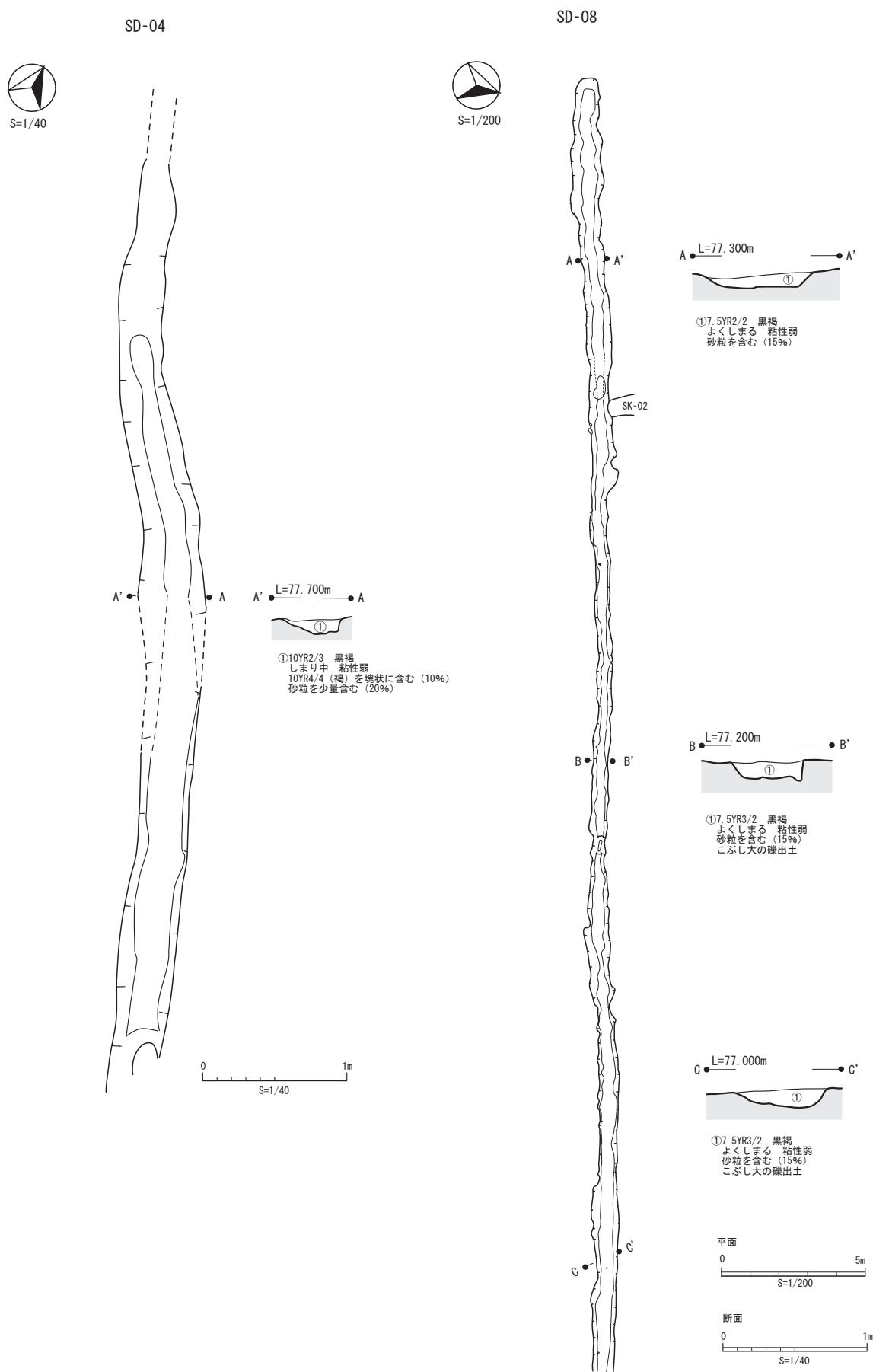
S=1/40



第 136 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SD-01 実測図

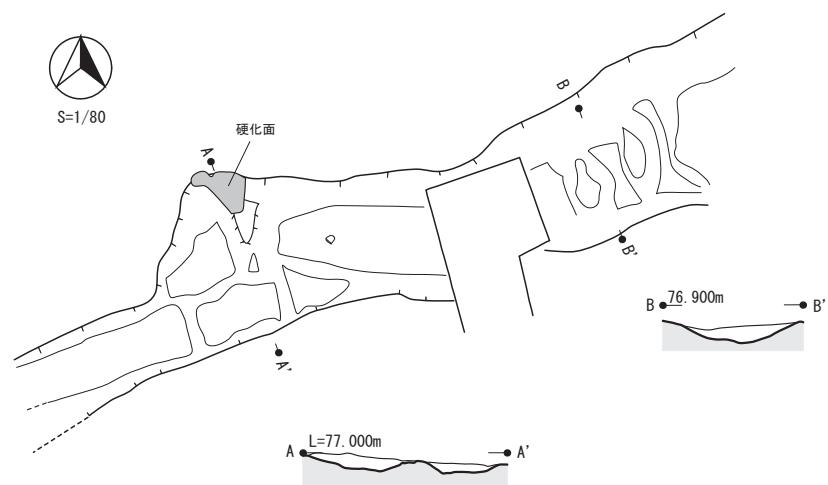


第 137 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SD-02・03・05 実測図

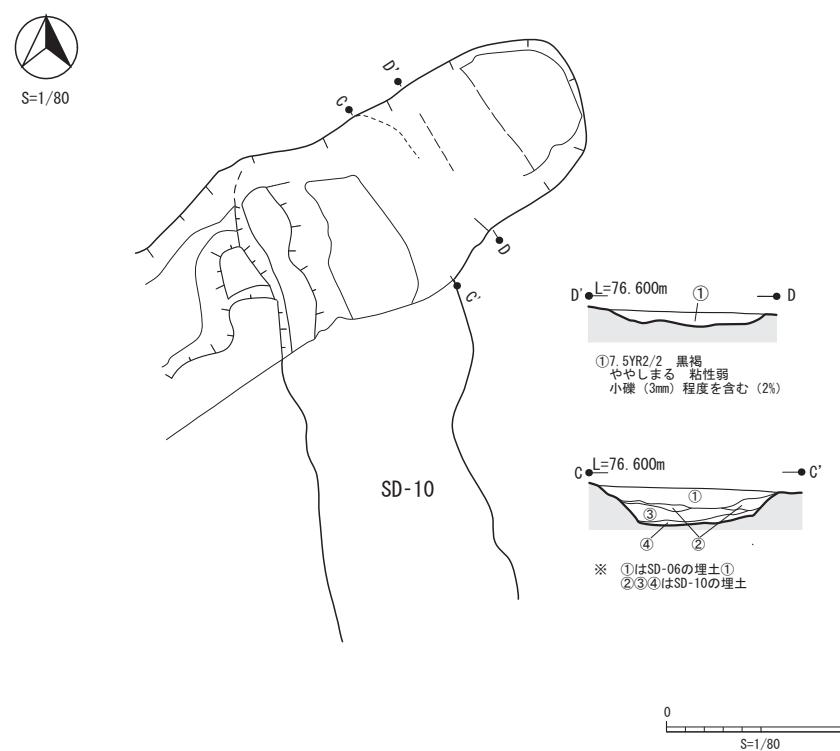


第 138 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SD-04・08実測図

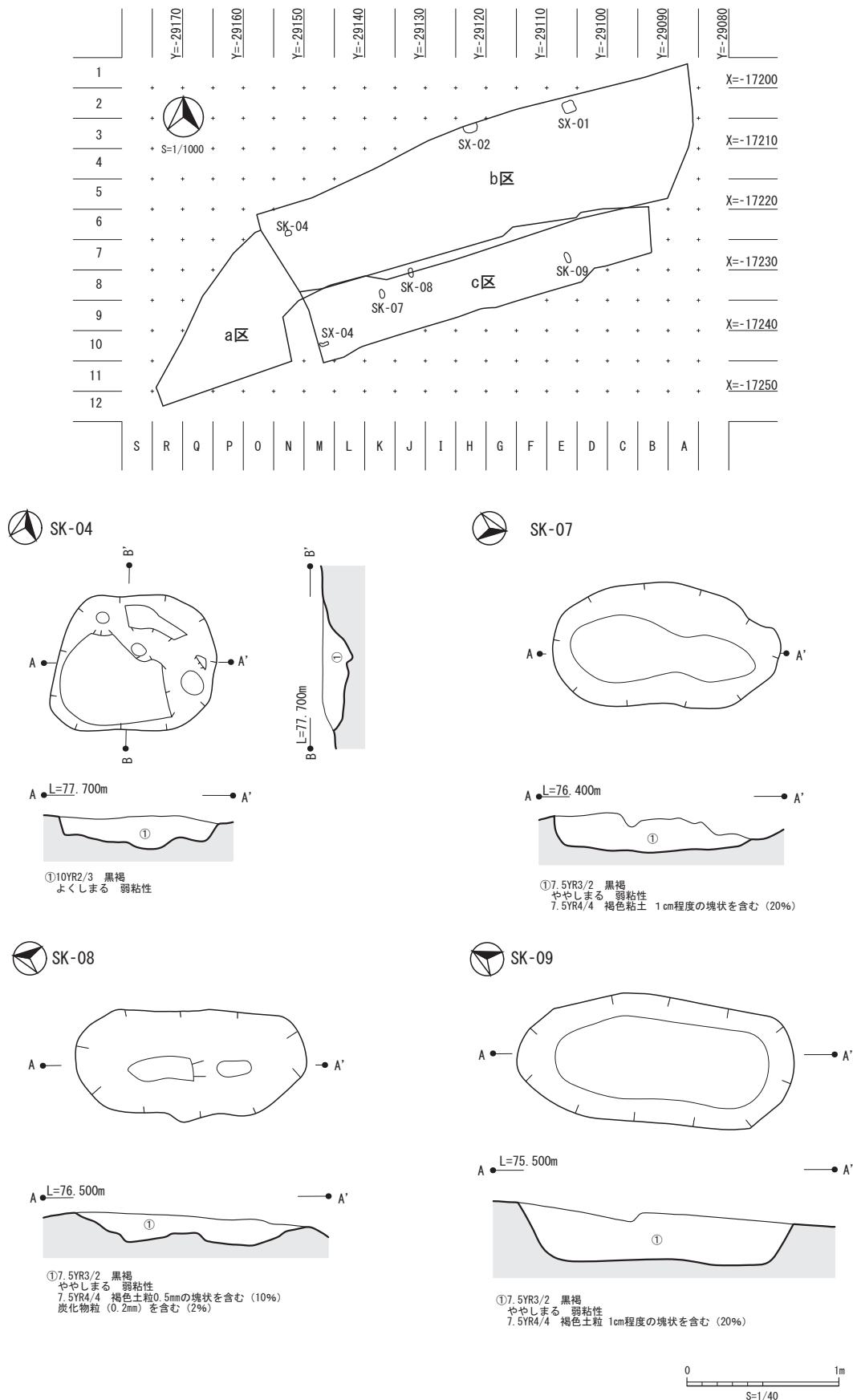
a区SD-06



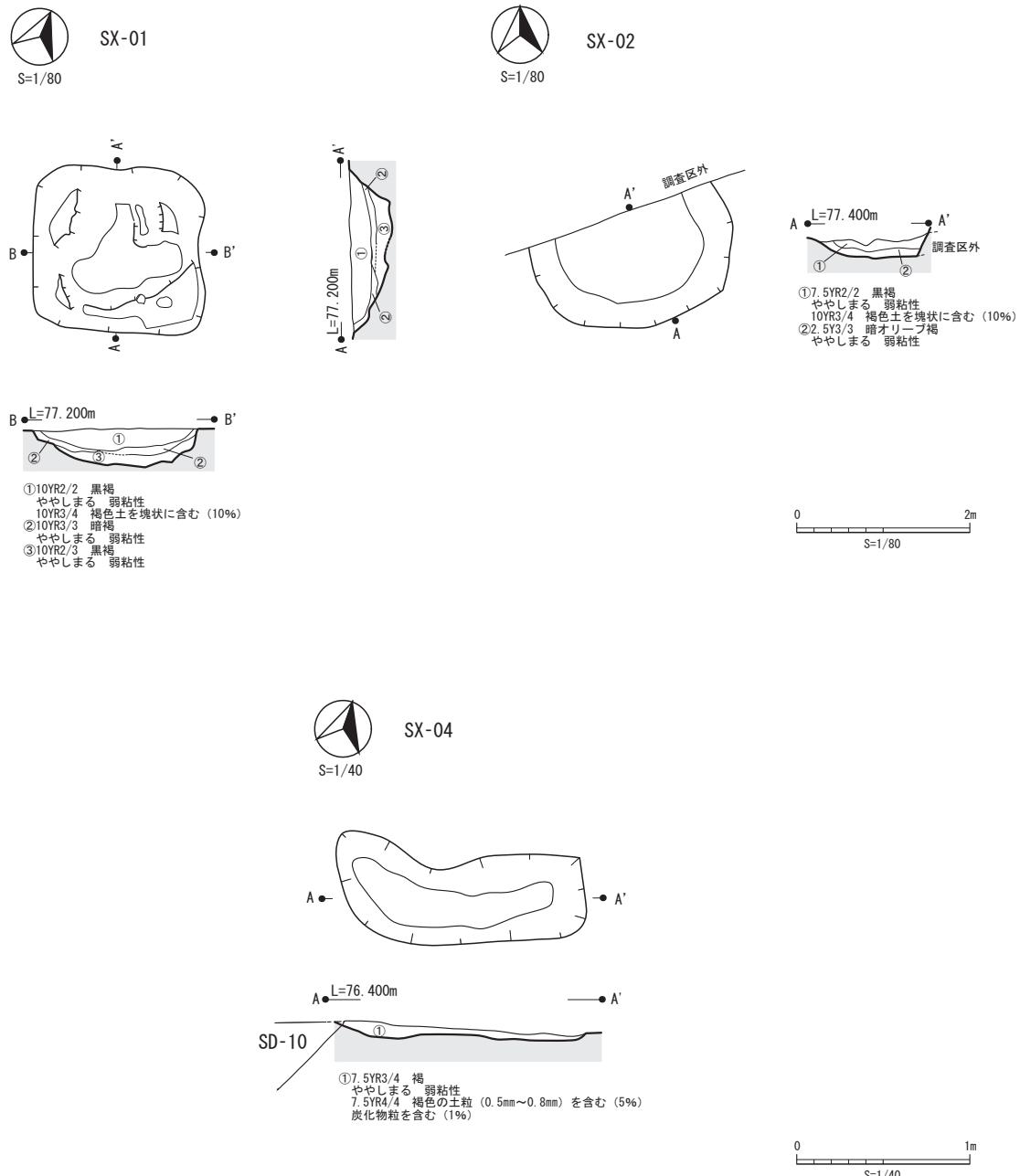
c区SD-06



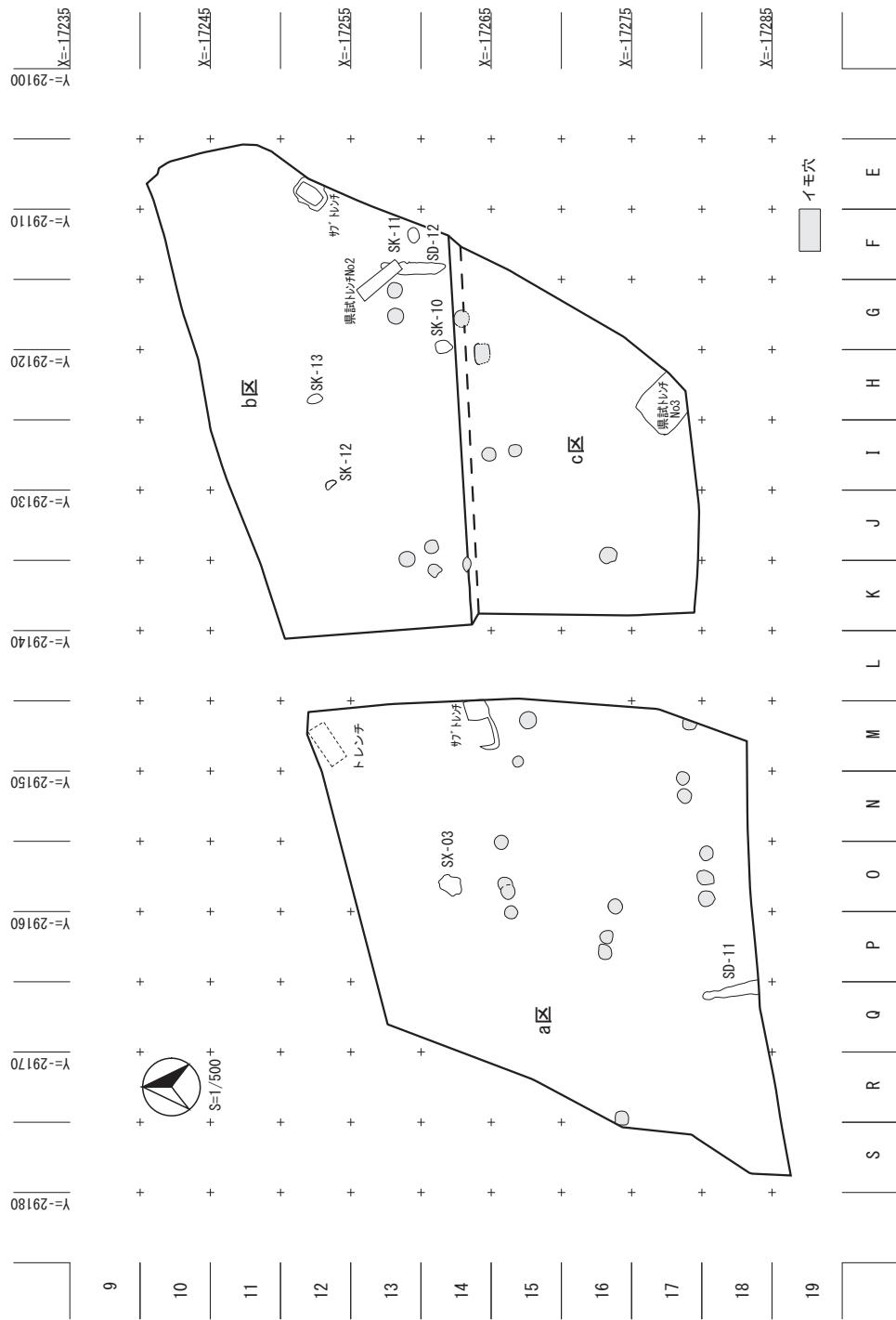
第 139 図 桑鶴遺跡群 06- I a区 SD-06実測図及び06- I c区 SD-06実測図



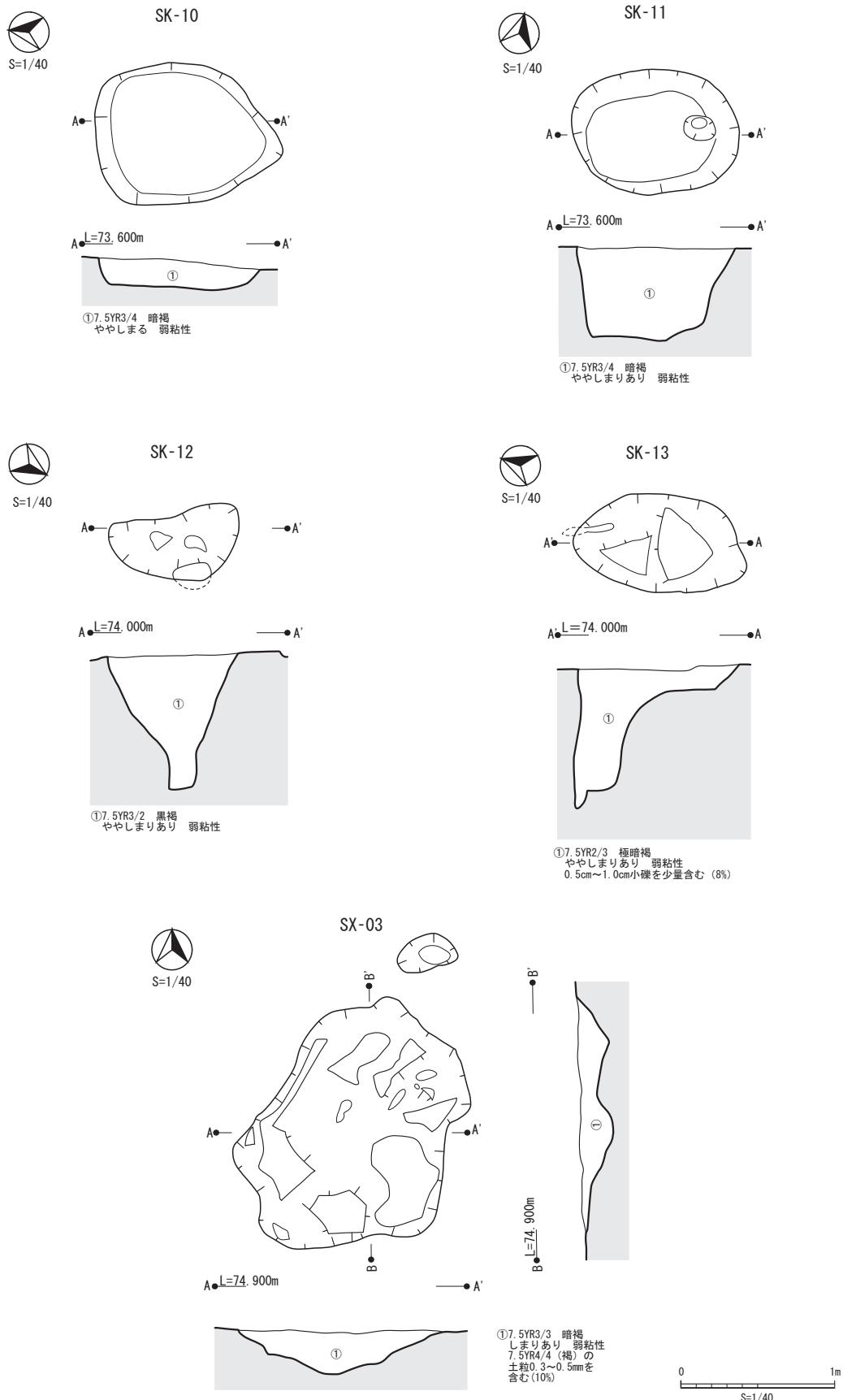
第 140 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 遺構配置図及びSK-04・07~09実測図



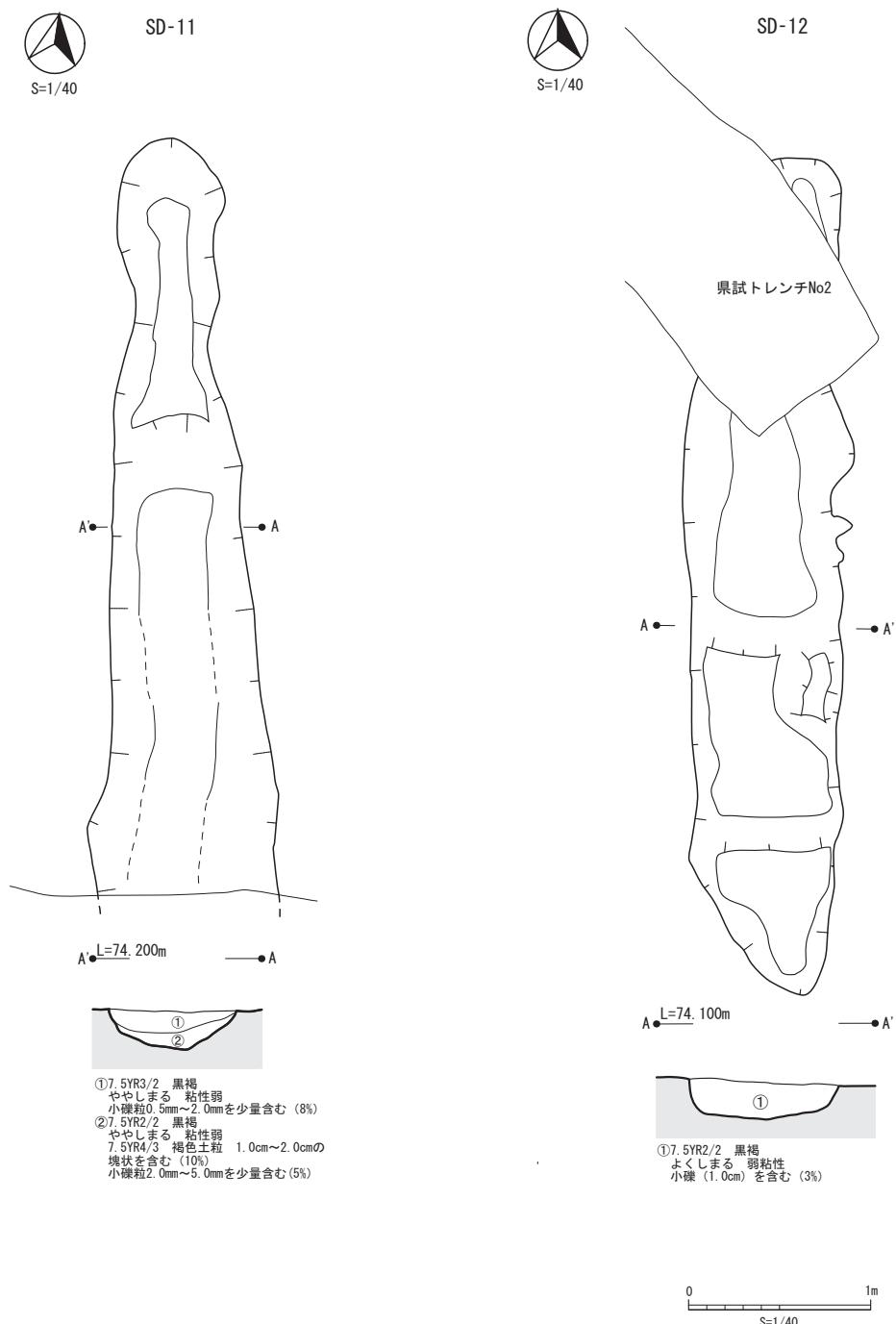
第 141 図 桑鶴遺跡群 06-I 区 SX-01・02・04 実測図



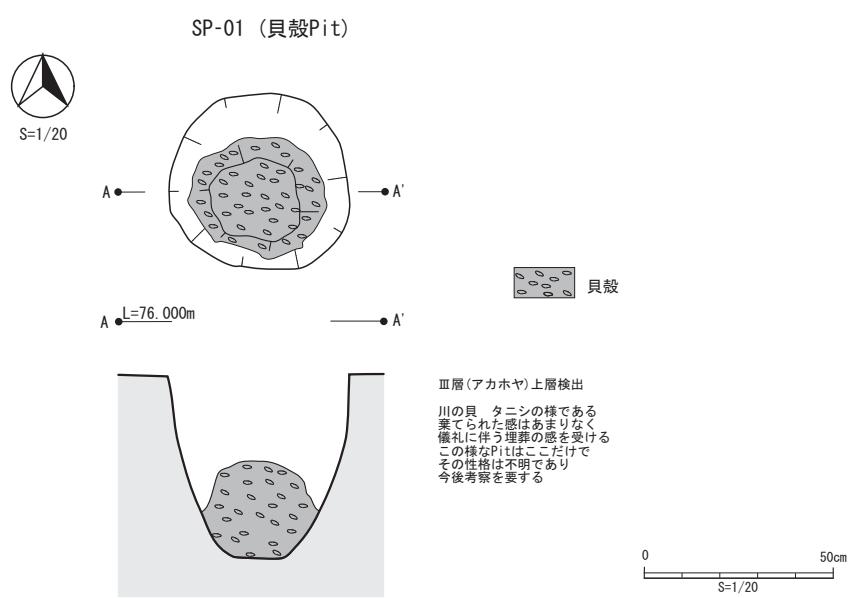
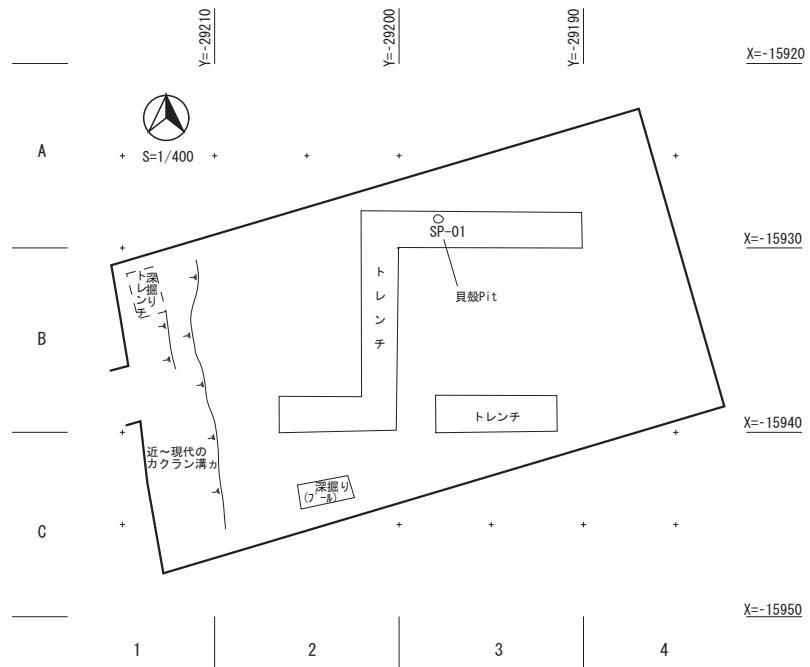
第 142 図 桑鶴遺跡群 06-II 区 遺構配置図



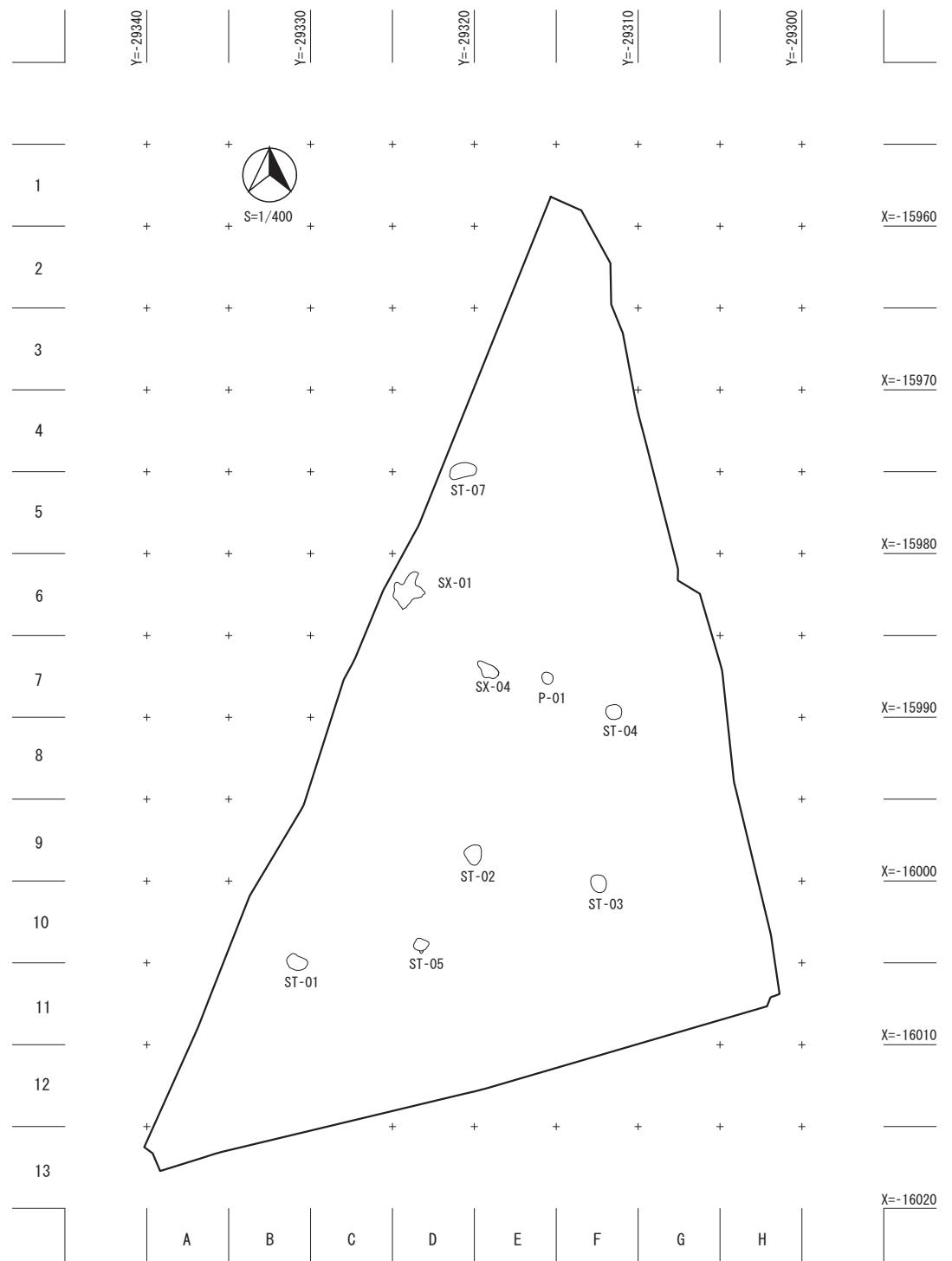
第 143 図 桑鶴遺跡群 06-II 区 SK-10~13・SX-03 実測図



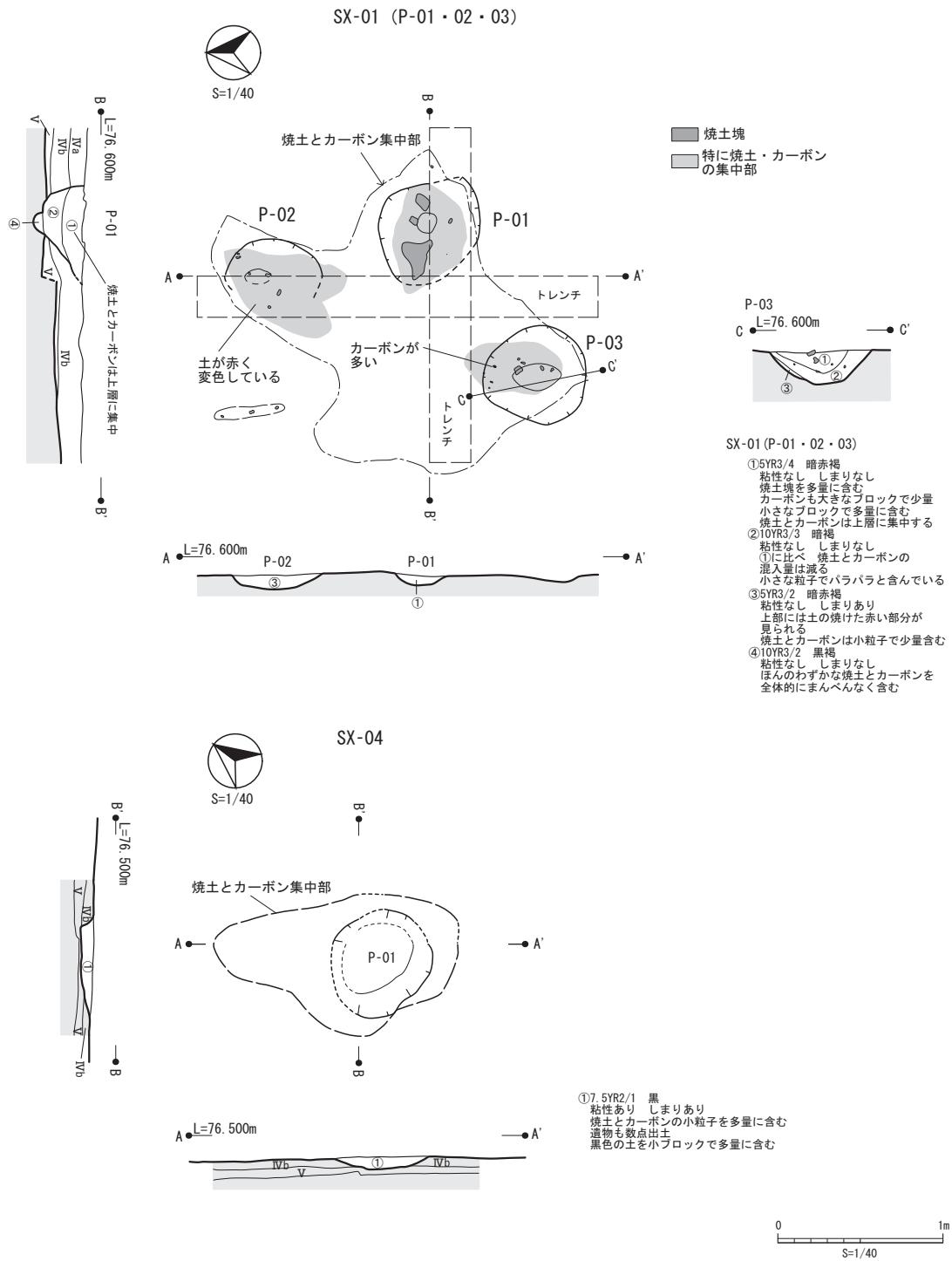
第144図 桑鶴遺跡群 06-II区 SD-11・12実測図



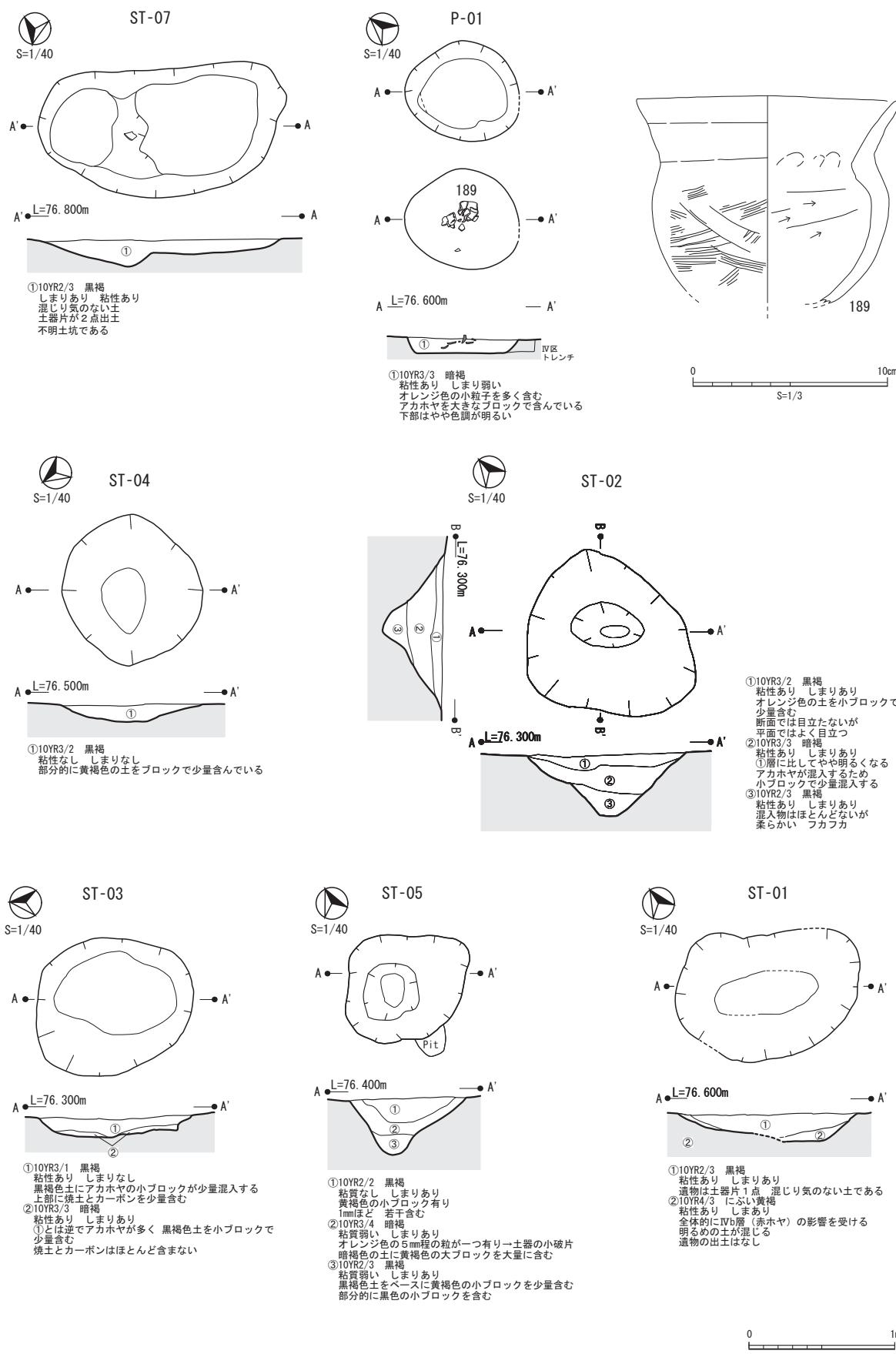
第 145 図 桑鶴遺跡群 IV区 遺構配置図及びSP-01 (貝殻Pit) 実測図



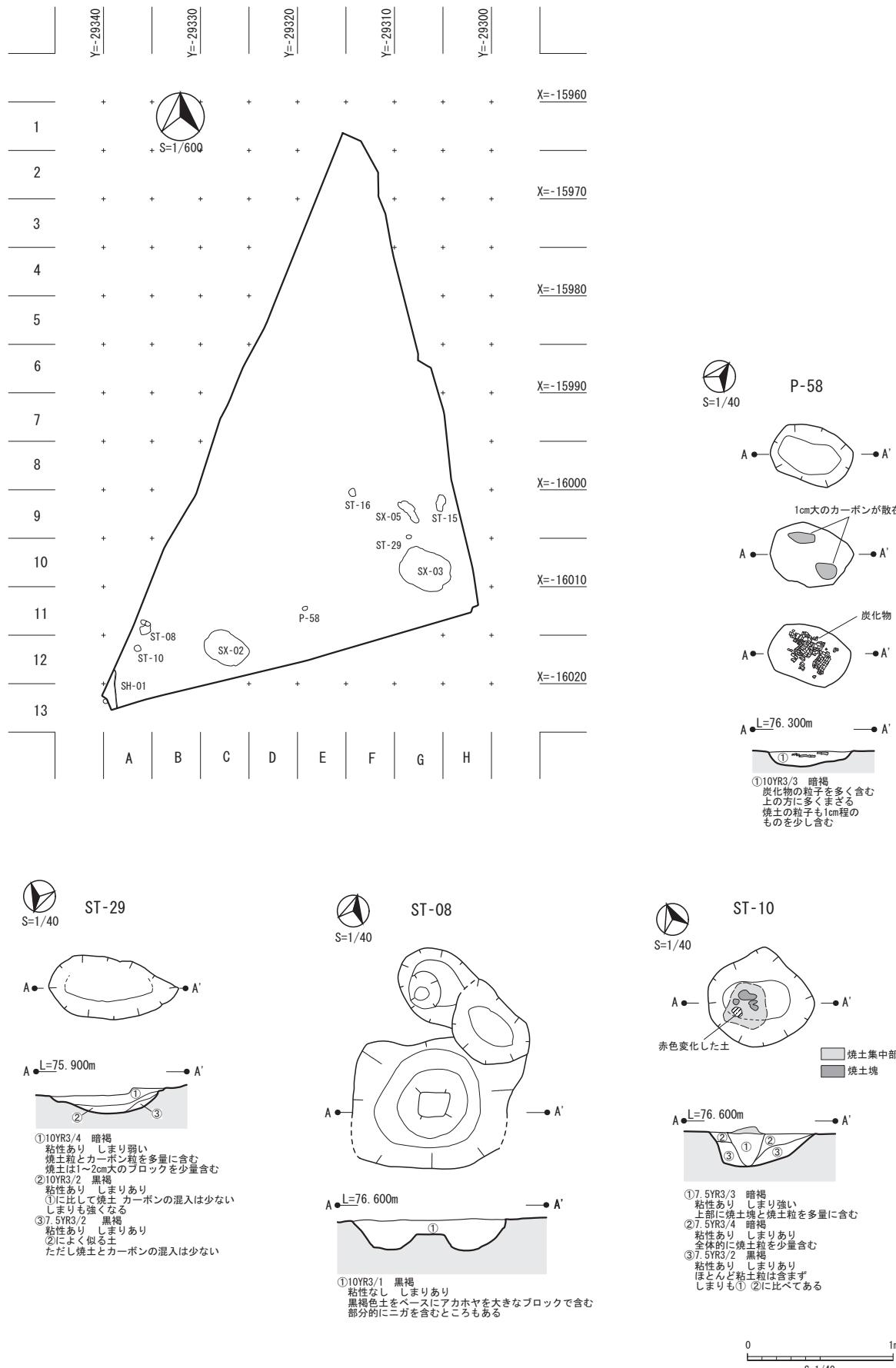
第 146 図 桑鶴遺跡群 VIII区 IVa層遺構配置図



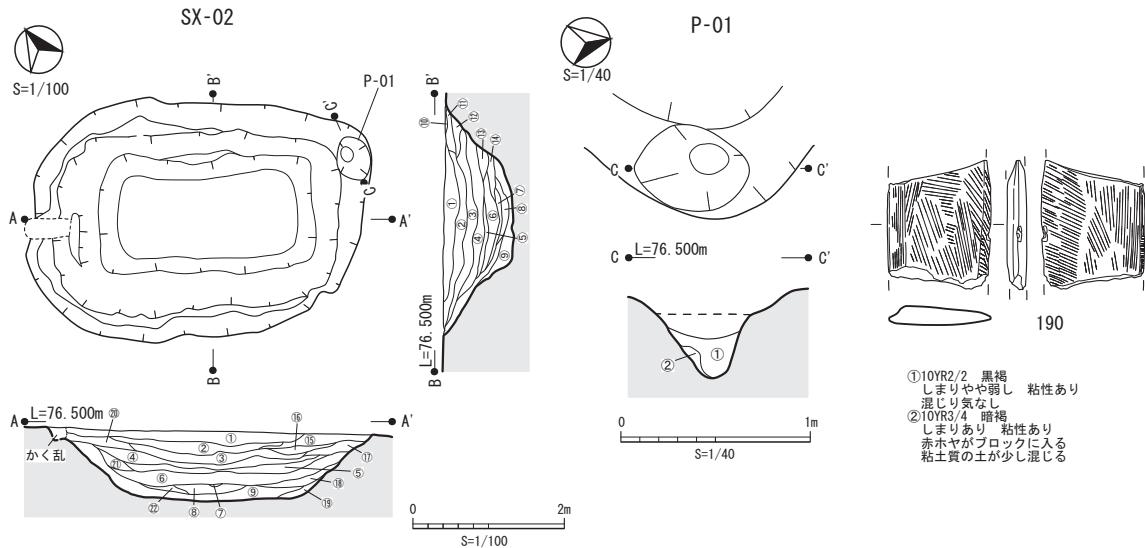
第 147 図 桑鶴遺跡群 VIII区 SX-01(P-01・02・03)・SX-04実測図



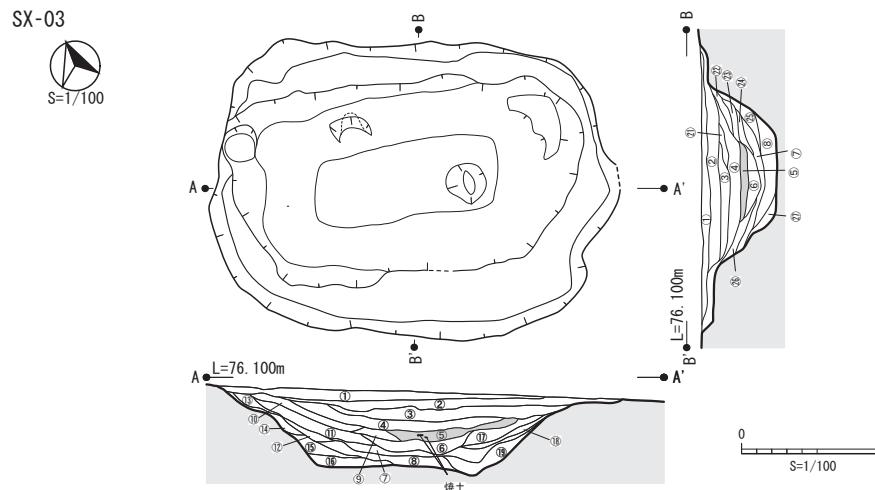
第148図 桑鶴遺跡群 VIII区 ST-01~05・07・P-01実測図及び出土遺物実測図



第149図 桑鶴遺跡群 VIII区 IVb層 遺構配置及びST-08・10・29・P-58実測図

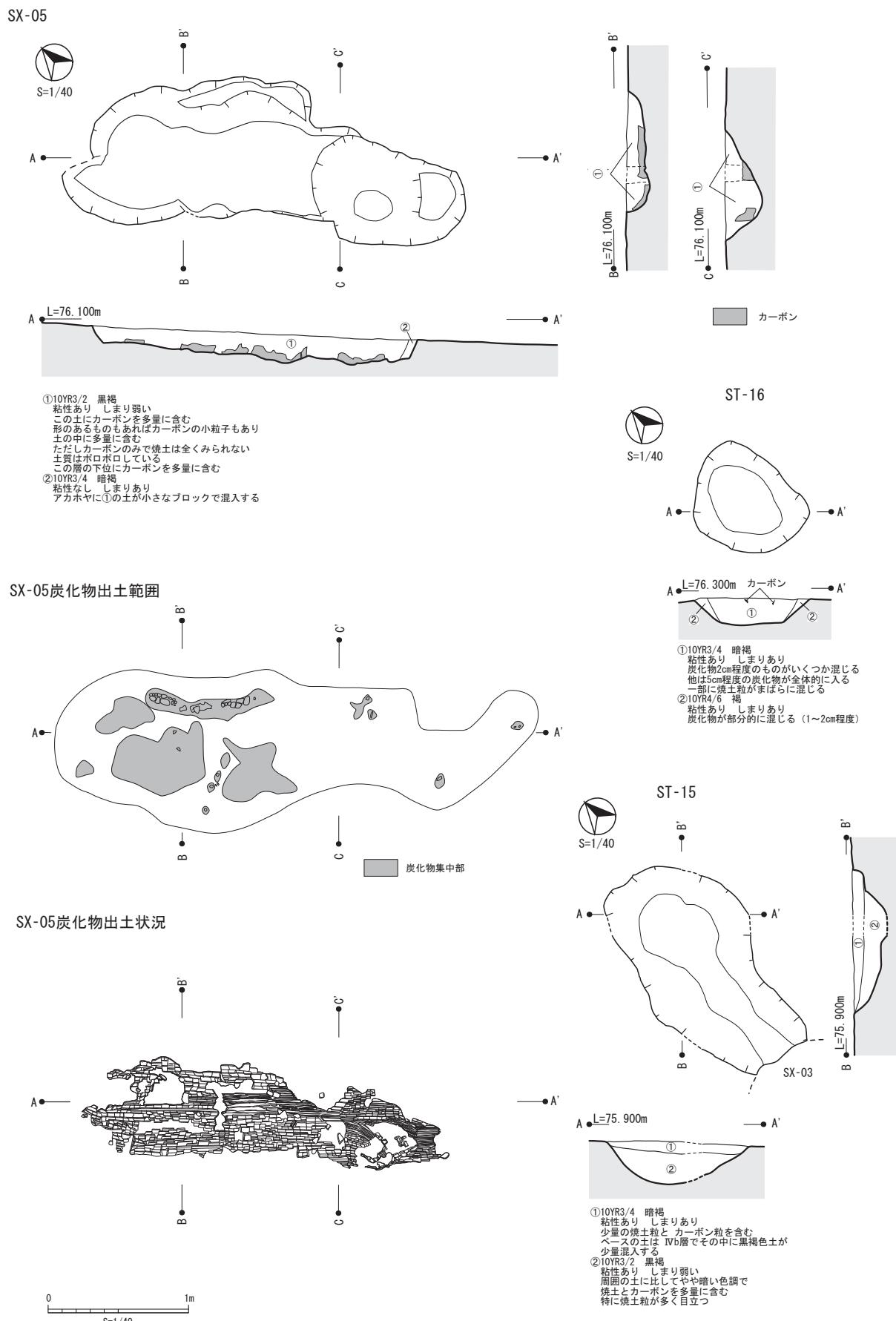


- Legend:**
- ① 10YR2/3 黒褐  
粘性あり ややしまりあり  
混じり気が少ない
  - ② 10YR4/4 黒褐  
粘性強し しまりあり  
5mm×1cm大的の板状ブロックが入る  
明黄色褐色の粒が混じる
  - ③ 10YR3/4 暗褐  
粘性あり しまりあり  
④と似ている  
外側には赤ホヤがブロック状に入る
  - ④ 10YR3/4 暗褐  
粘性あり しまりあり  
③と比べてやや赤みがある
  - ⑤ 10YR2/2 黒褐  
粘性あり しまりあり  
③と似ているがやや白味がある  
部分的に暗褐色の粘土粒が入る
  - ⑥ 10YR2/2 黒褐  
粘性あり しまりあり  
埋土の中でも黒味が強い  
炭化物粒が混じる  
土器片が混じる
  - ⑦ 10YR3/3 暗褐  
粘性あり しまりあり  
④と似ている  
⑤と似ている  
1mm程度のロームをわずかに混じる
  - ⑧ 10YR3/2 黒褐  
粘性あり しまりあり  
部分的に粘土ブロックが入る  
赤褐色の粒子が混じる
  - ⑨ 10YR4/3 ぶい黄褐  
粘性あり しまりあり  
粘土ブロックが多く 黄褐色の粒子が全般的に混じる
  - ⑩ 10YR4/3 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
1mm程度のロームをわずかに混じる  
下層のロームを混じる
  - ⑪ 10YR3/3 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
①と似ている  
⑩と似ている
  - ⑫ 10YR4/3 ぶい黄褐  
しまりあり 粘性あり  
ややしまりあり  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ⑬ 10YR2/3 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
1mm程度の粘土粒が混じる  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ⑭ 10YR2/3 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
1mm程度の粘土粒が混じる  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ⑮ 10YR2/3 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
1mm程度の粘土粒が混じる  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ⑯ 10YR2/3 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ⑰ 10YR2/3 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ⑱ 10YR2/2 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ⑲ 10YR4/3 ぶい黄褐  
しまりあり 粘性あり  
下層の粘土質の土がかなり混じる
  - ⑳ 10YR3/3 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
わざかににぶい黄褐色の粘土粒(5mm程度)が混じる
  - ㉑ 10YR3/4 暗褐  
しまりあり 粘性あり  
アカホヤがブロック状に混じる
  - ㉒ 10YR3/2 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
粘土粒がわずかに混じる
  - ㉓ 10YR3/2 黒褐  
しまりあり 粘性あり  
6と⑨の漸移層

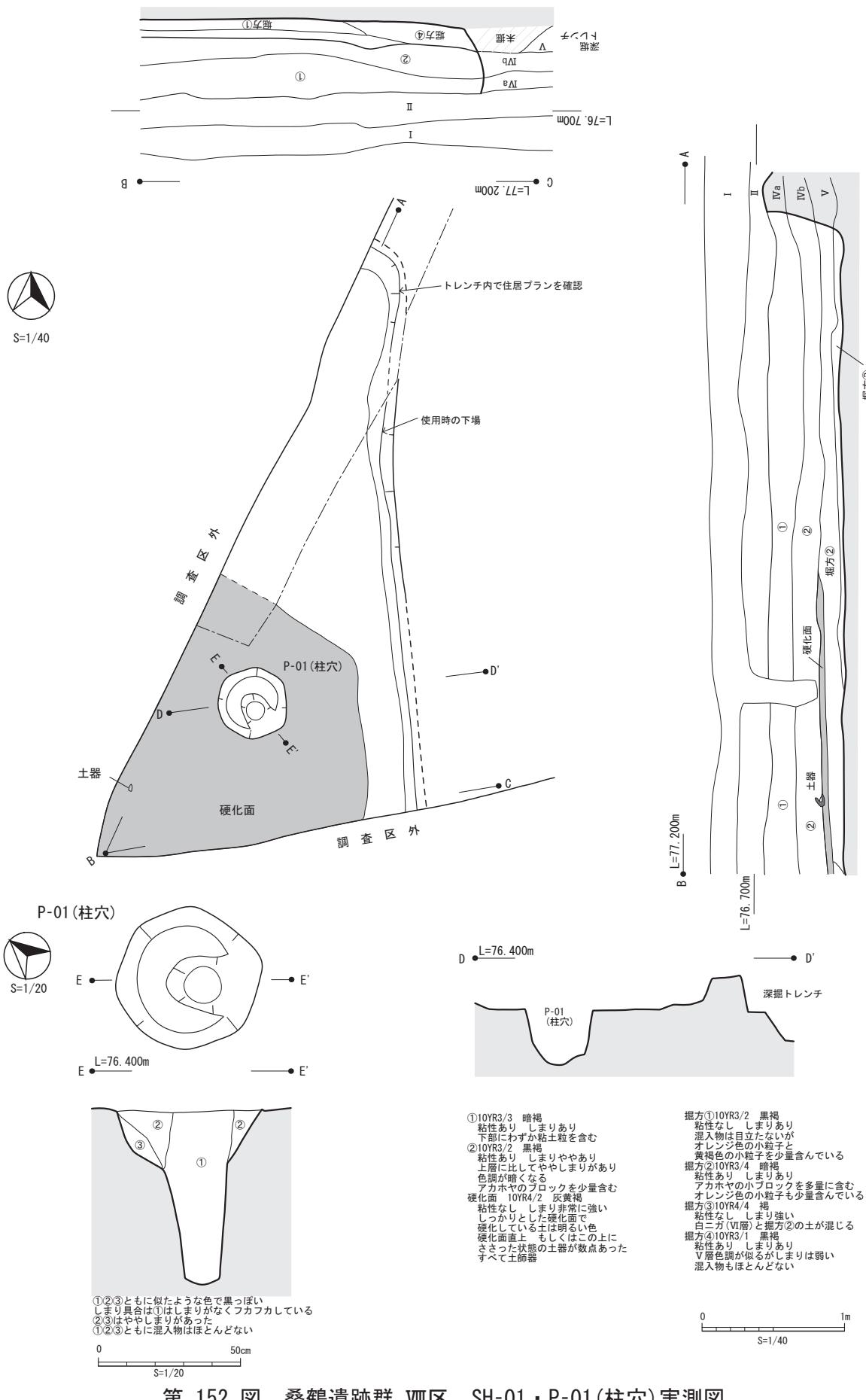


- Legend:**
- ① 10YR3/1 黒褐  
粘性あり しまりややあり  
混入物はほとんどない フカフカした土
  - ② 5YR3/1 黒褐  
粘性あり しまりあり  
①同様ほとんど混入物はないが  
①よりやや明るい色調
  - ③ 10YR3/2 黒褐  
粘性あり しまりあり  
下部に炭化物を少量含んでいる
  - ④ 5YR2/2 黑褐  
粘性あり しまりあり  
全体中に炭化物と焼土の粒子を  
多く含んでいる
  - ⑤ 10YR3/2 黑褐  
粘性あり しまりあり  
焼けたようなレンジ色の土をブロックで含む  
焼土とカーボンの塊を多量に含む
  - ⑥ 10YR2/1 黑褐  
粘性あり しまりややあり  
他の層に比べて黒い  
上部に焼土とカーボンを少量含む
  - ⑦ 10YR4/1 褐灰  
粘性あり しまりややあり  
ローム粒子と小さな砂粒が混入し  
上の層に比べてザラ感がある
  - ⑧ 7.5YR3/3 暗褐  
粘性あり しまりややあり  
ロームを大小様々なブロックで多く含む
  - ⑨ 7.5YR4/1 黑褐  
粘性あり しまりあり  
下部に10YR3/1 黑褐
  - ⑩ 10YR3/1 黑褐  
粘性あり しまりややあり  
部分的にアカホヤのブロックを少量含む
  - ⑪ 10YR3/4 暗褐  
粘性あり しまりややあり  
ロームの小粒子を全体的に含む  
黄色っぽい  
部分的に焼土粒を多量に含む
  - ⑫ 7.5YR3/1 黑褐  
粘性あり 似たり  
④によく似ている  
炭化物を若干含む
  - ⑬ 10YR4/2 黑褐  
粘性あり しまりあり  
①の土に多量のアカホヤが混入している
  - ⑭ 10YR4/2 黑褐  
粘性あり しまりあり  
ロームを多量に含み 黄色  
ロームは下部ほど多い
  - ㉑ 10YR3/1 黑褐  
粘性あり しまりあり  
⑯に対応
  - ㉒ 10YR3/2 黑褐  
粘性あり しまりあり  
③によく似るが やや色調が明るい
  - ㉓ 10YR3/2 黑褐  
粘性あり しまりあり  
②の土はほとんどない
  - ㉔ 10YR3/1 黑褐  
粘性あり しまりあり  
⑩に対応
  - ㉕ 10YR3/2 黑褐  
粘性あり しまりあり  
⑦に対応
  - ㉖ 10YR3/4 暗褐  
粘性あり しまりややあり  
⑪に対応
  - ㉗ 10YR3/1 黑褐  
粘性あり しまりややあり  
⑮に対応
  - ㉘ 10YR3/2 黑褐  
粘性あり しまりややあり  
⑯に対応

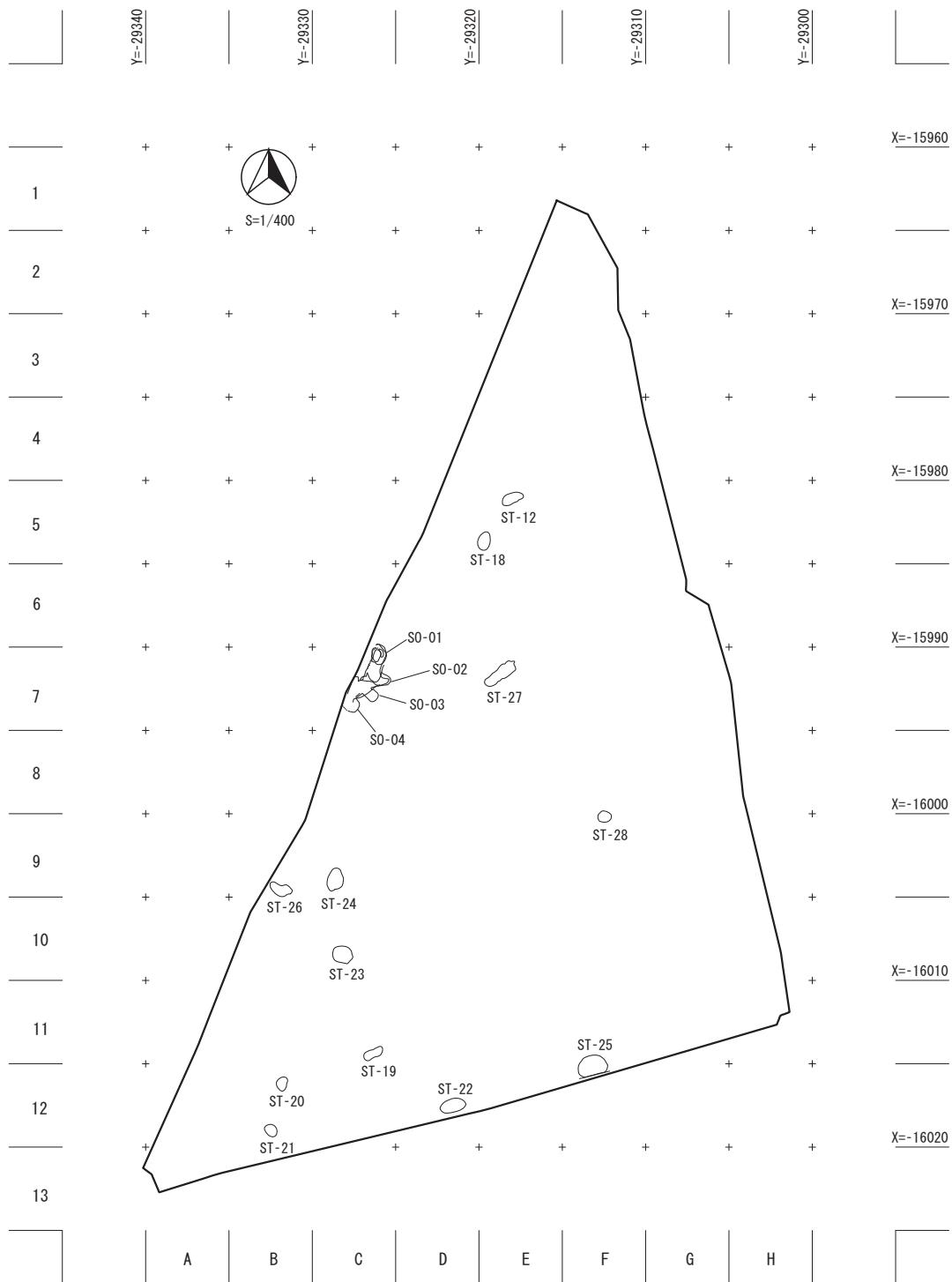
第150図 桑鶴遺跡群 VIII区 SX-02・03実測図及び出土遺物実測図



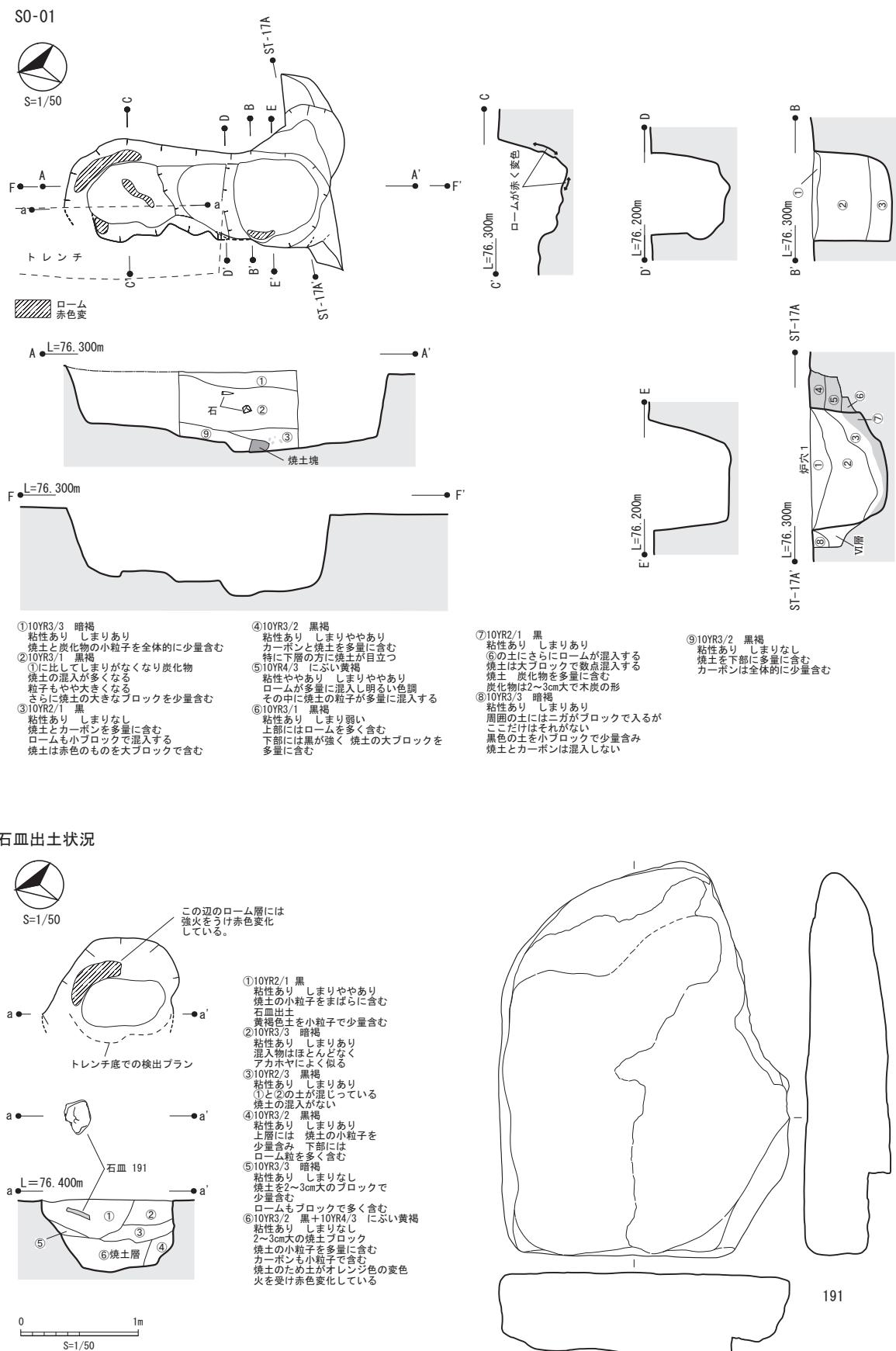
第 151 図 桑鶴遺跡群 VIII 区 SX-05・ST-15・16 実測図



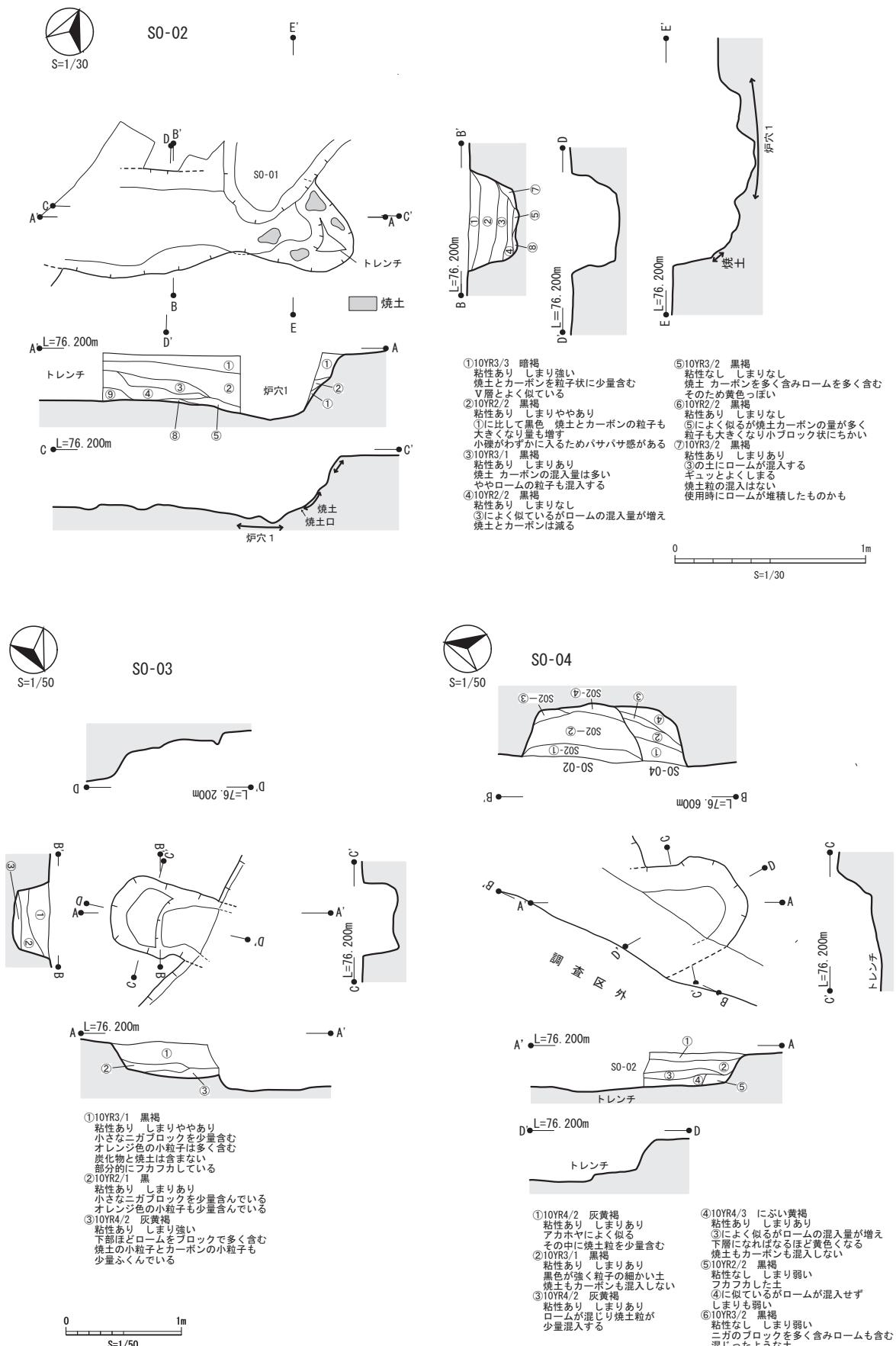
第 152 図 桑鶴遺跡群 VIII区 SH-01 · P-01(柱穴)実測図



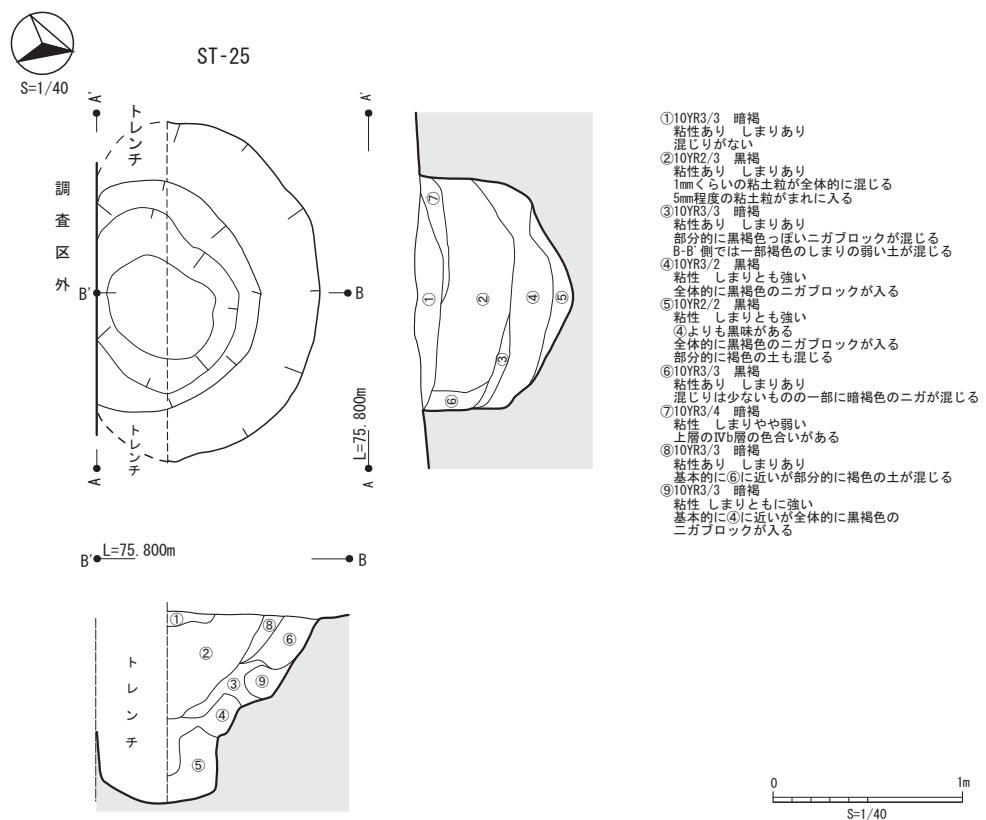
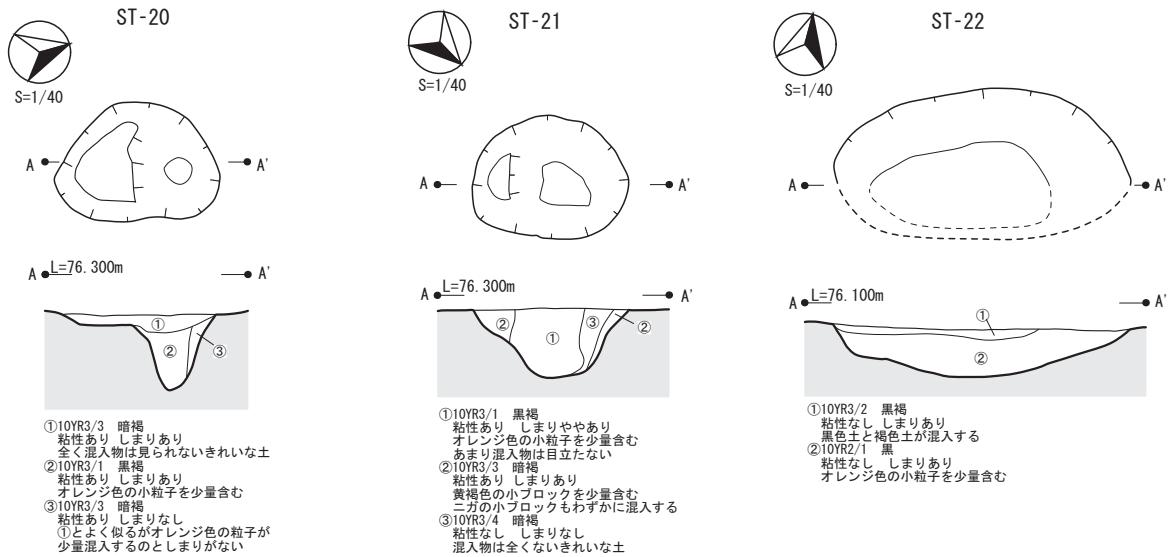
第 153 図 桑鶴遺跡群 VIII区 V層 遺構配置図



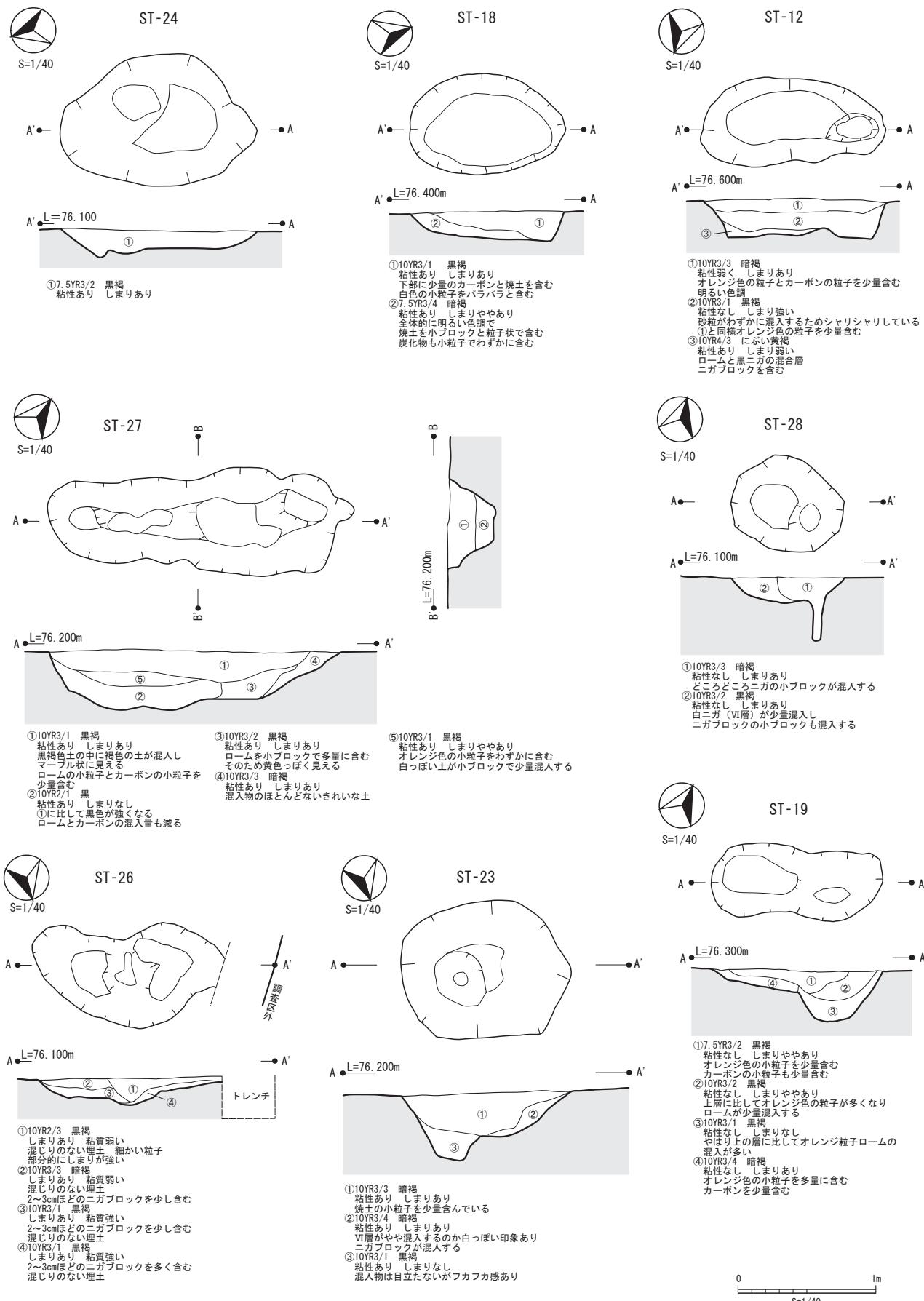
第154図 桑鶴遺跡群 VIII区 S0-01実測図及び出土遺物実測図



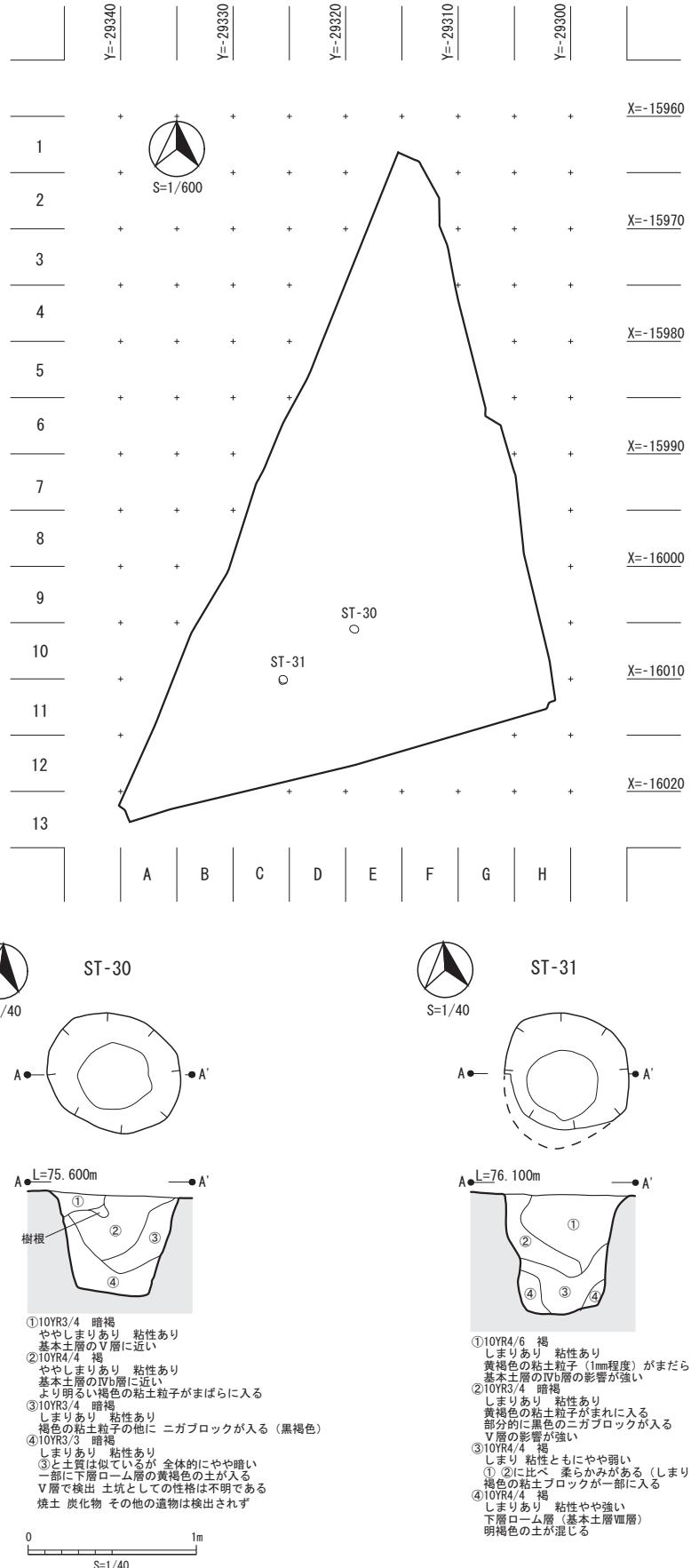
第 155 図 桑鶴遺跡群 VII 区 SO-02~04 実測図



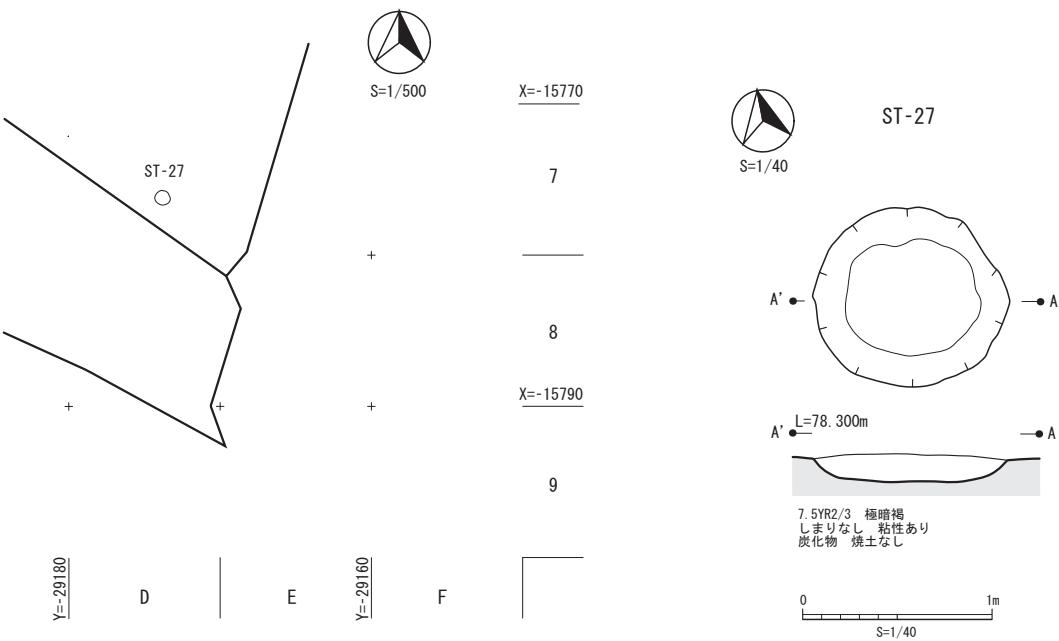
第 156 図 桑鶴遺跡群 VIII区 ST-20~22・25実測図



第 157 図 桑鶴遺跡群 VIII 区 ST-12・18・19・23・24・26~28 実測図



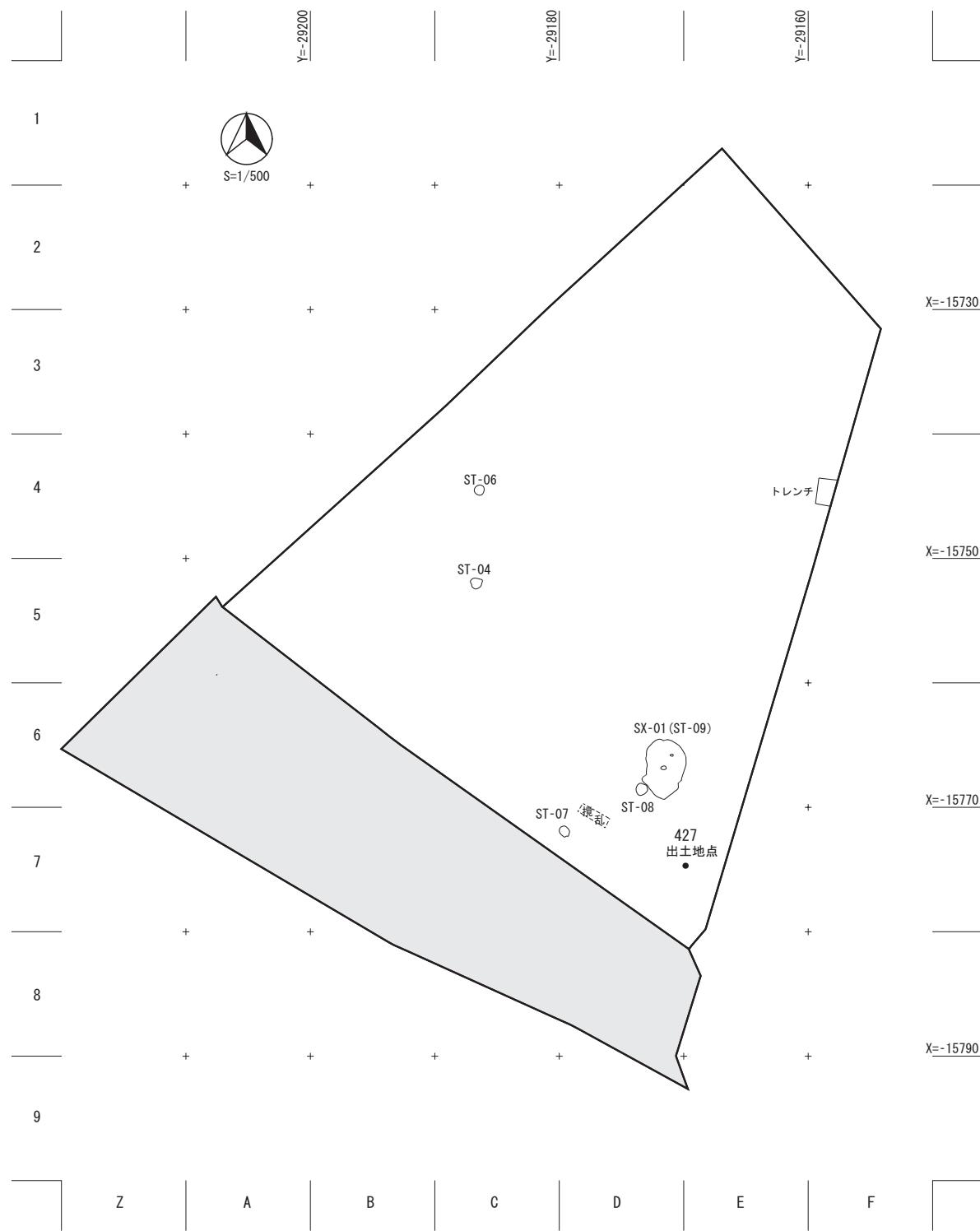
第158図 桑鶴遺跡群 VIII区 遺構配置図及びST-30・31実測図



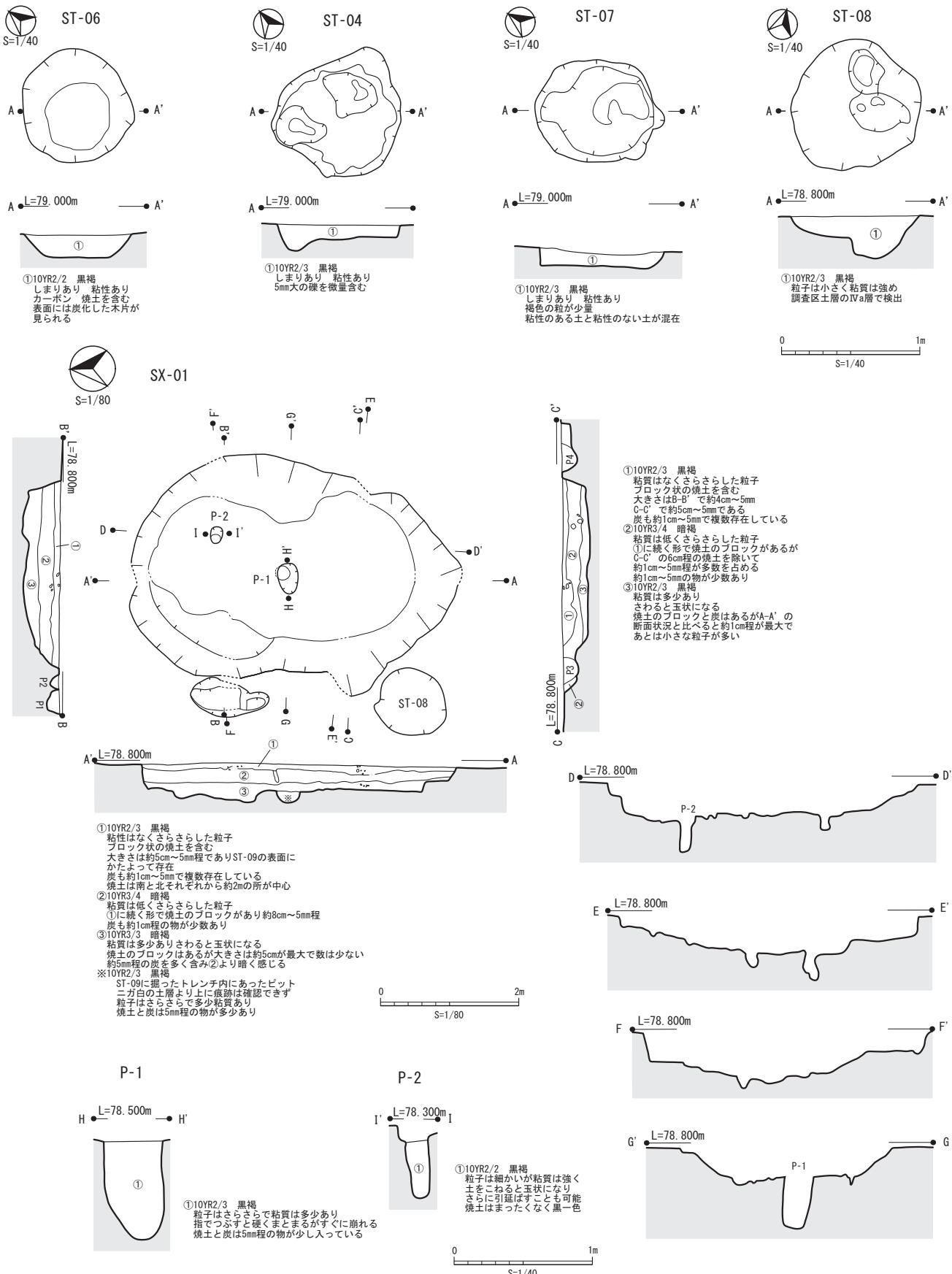
第 159 図 五丁中原遺跡 I 区 V 層 遺構配置図及び ST-27 実測図



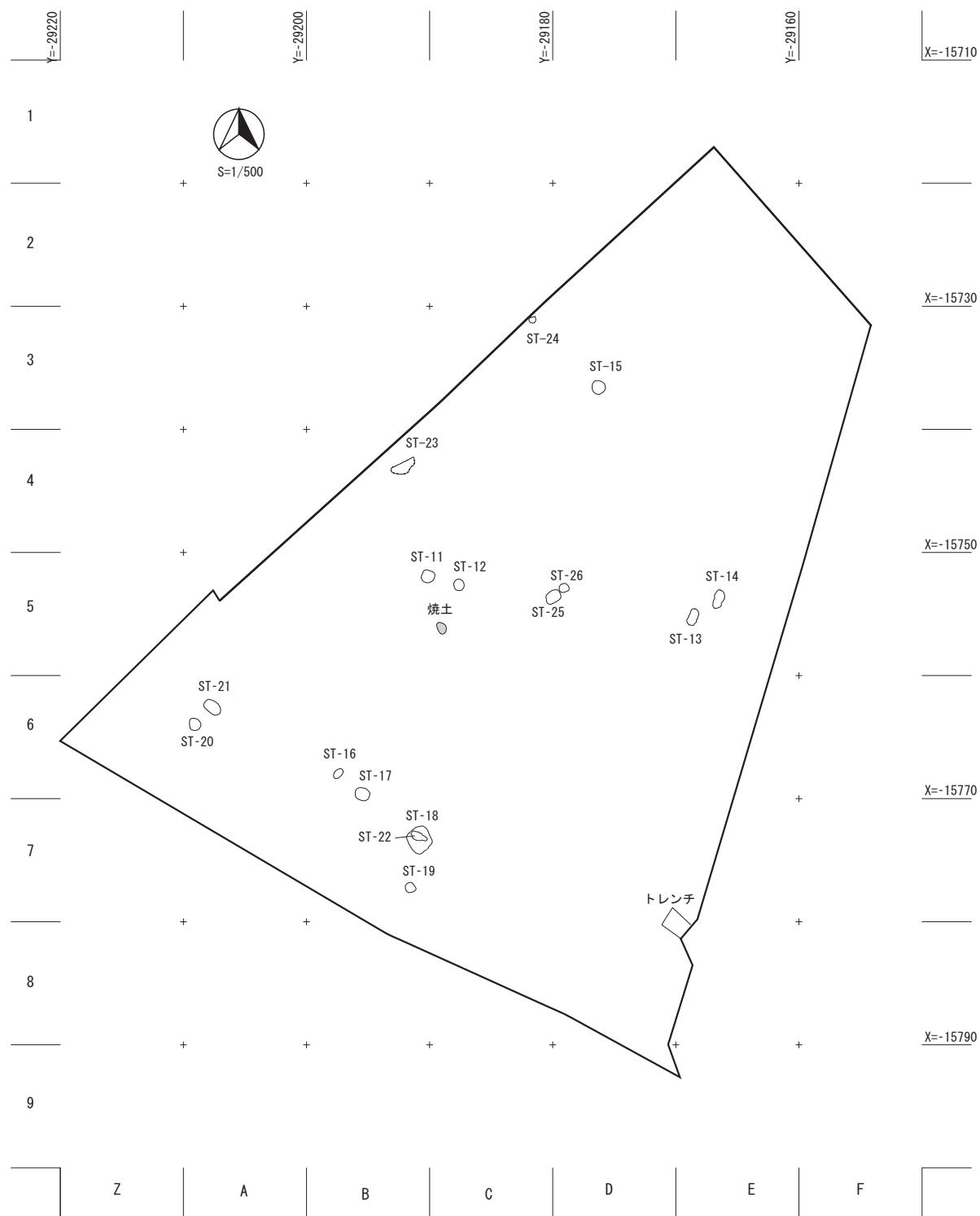
発掘調査状況（桑鶴遺跡群 II 区）



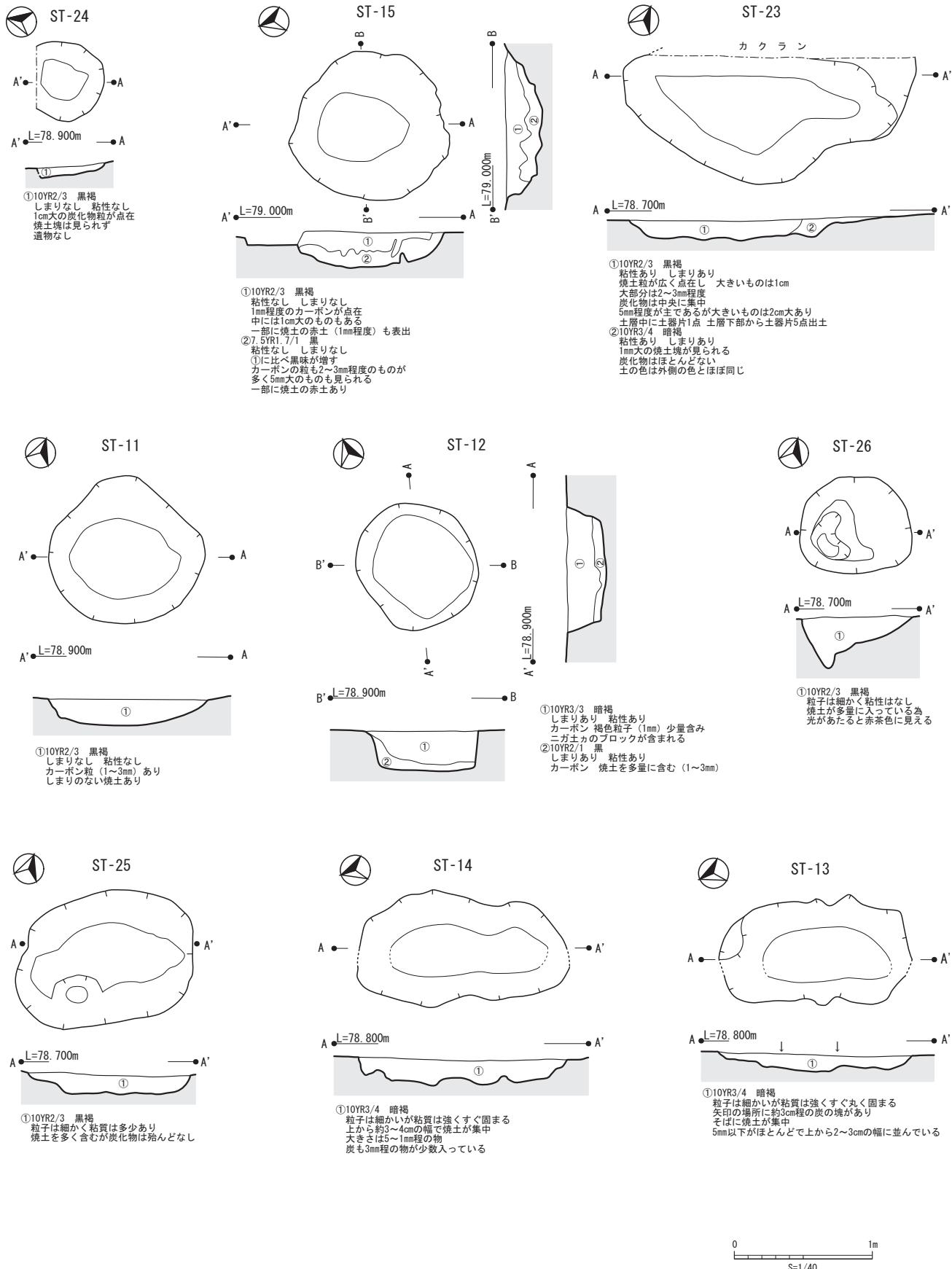
第 160 図 五丁中原遺跡 I 区 IVa層 遺構配置図及び遺物出土状況



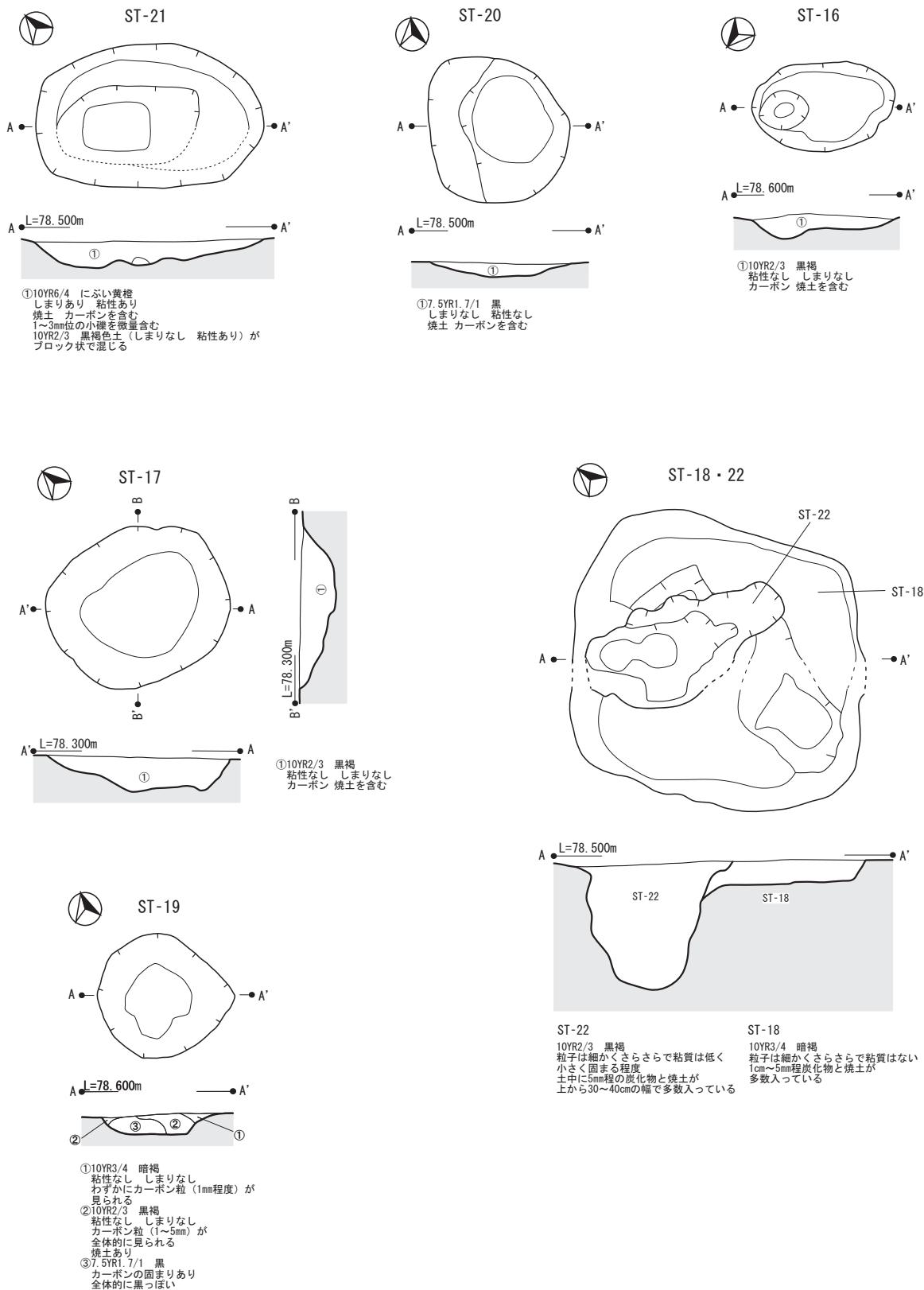
第 161 図 五丁中原遺跡 I 区 ST-04・06~08・SX-01 実測図



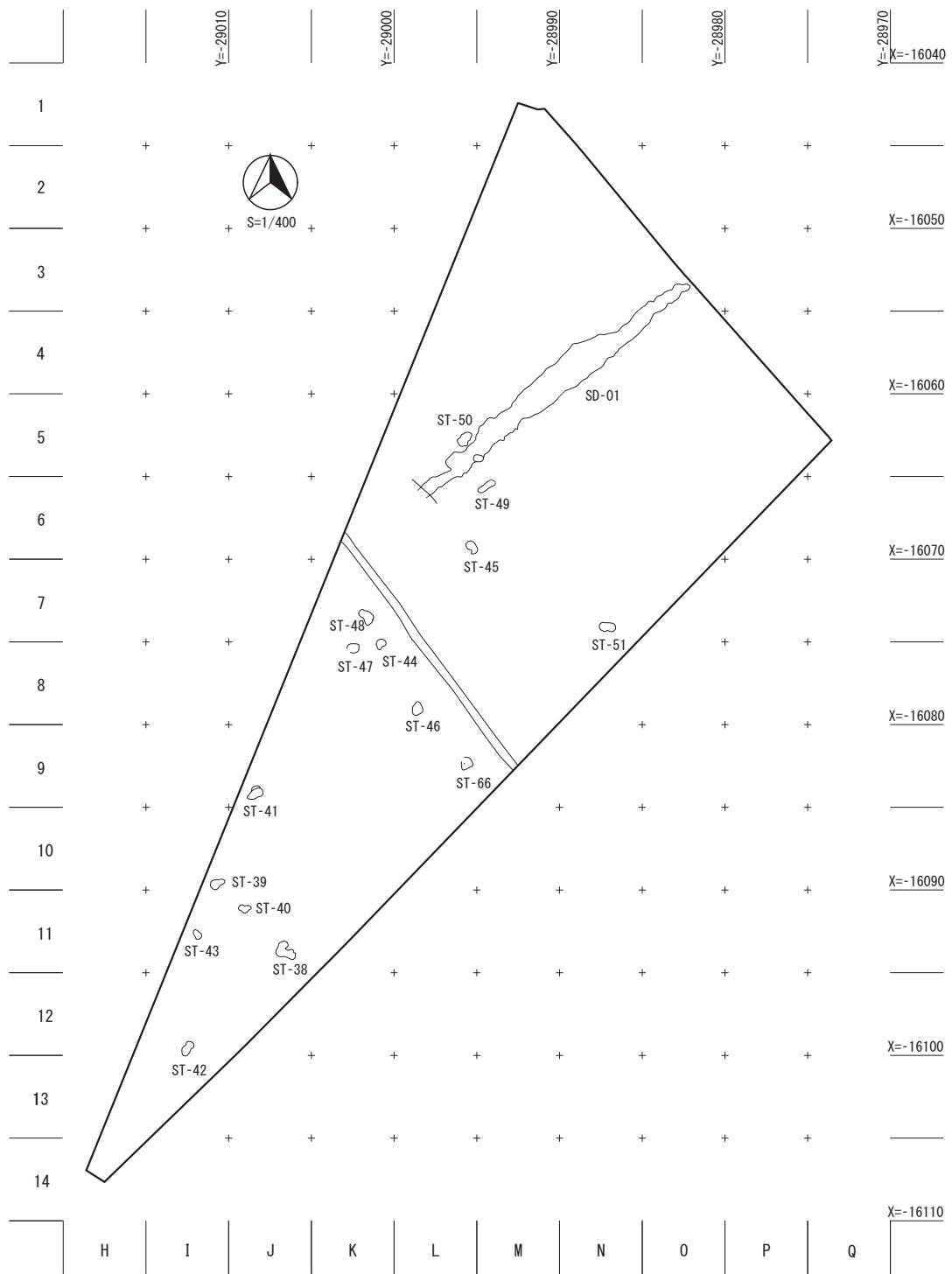
第 162 図 五丁中原遺跡 I 区 IVb層 遺構配置図



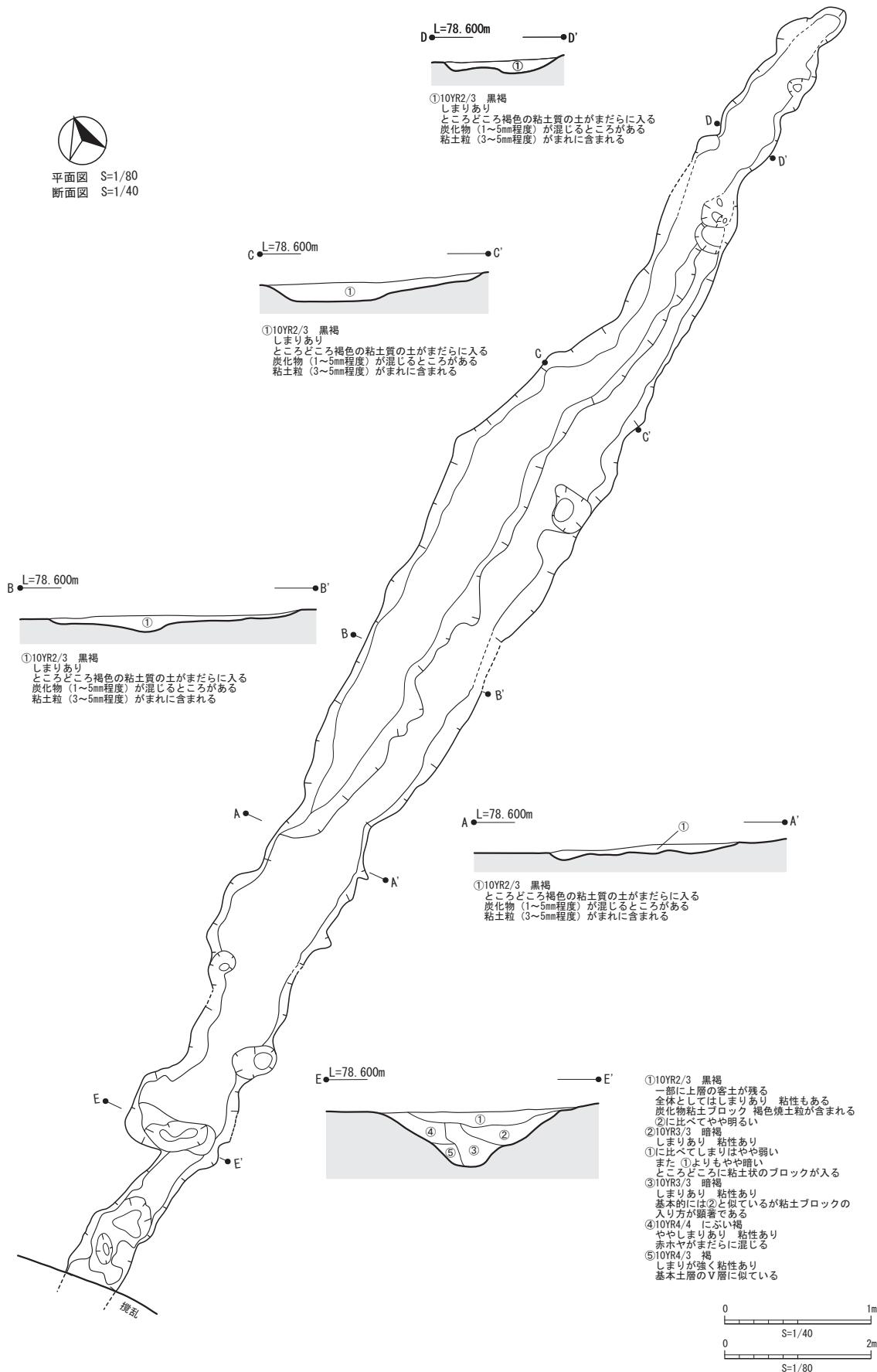
第 163 図 五丁中原遺跡 I 区 ST-11~15・23~26 実測図



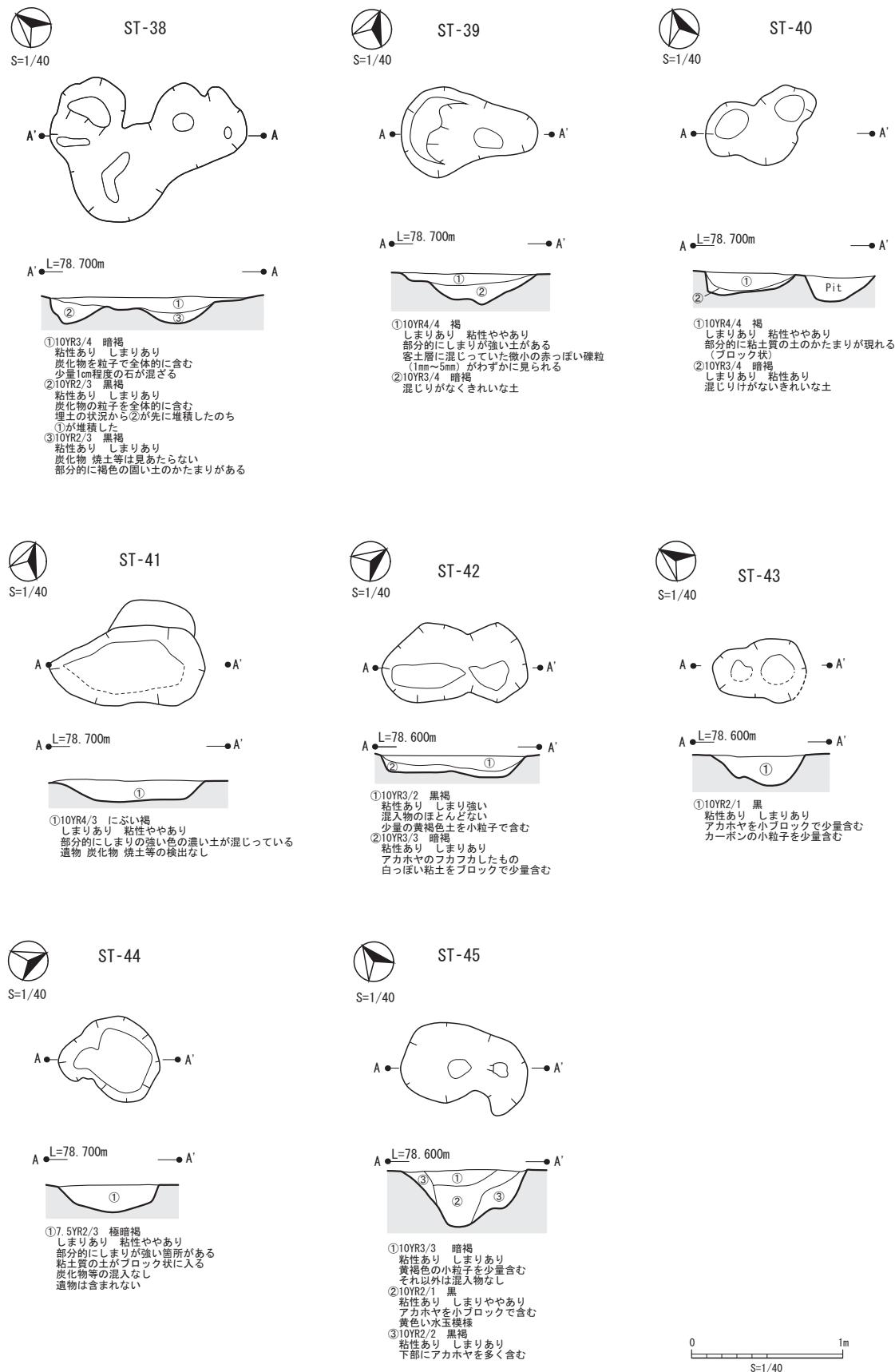
第164図 五丁中原遺跡 I区 ST-16~22実測図



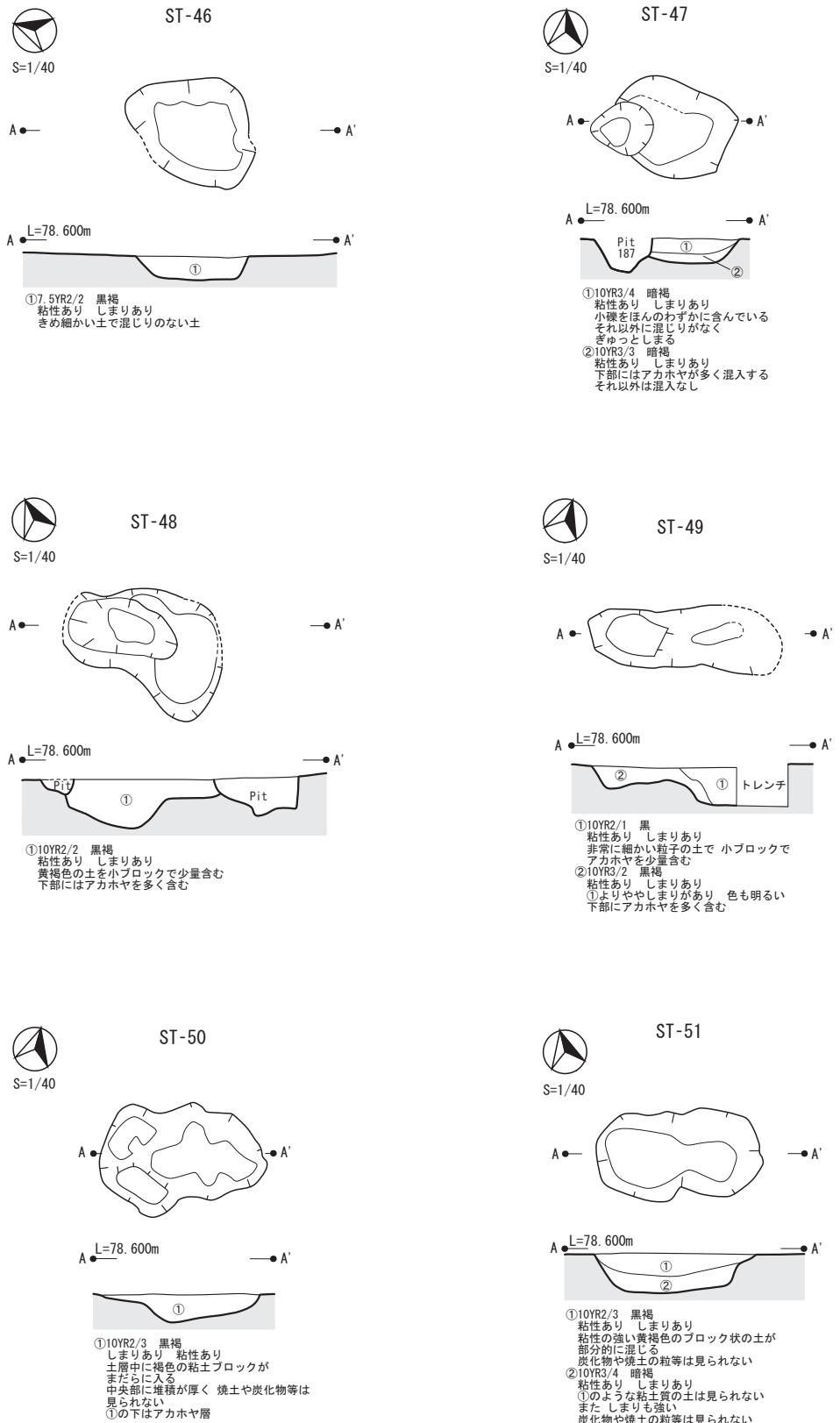
第 165 図 五丁中原遺跡 III区 遺構配置図



第 166 図 五丁中原遺跡 III区 SD-01実測図

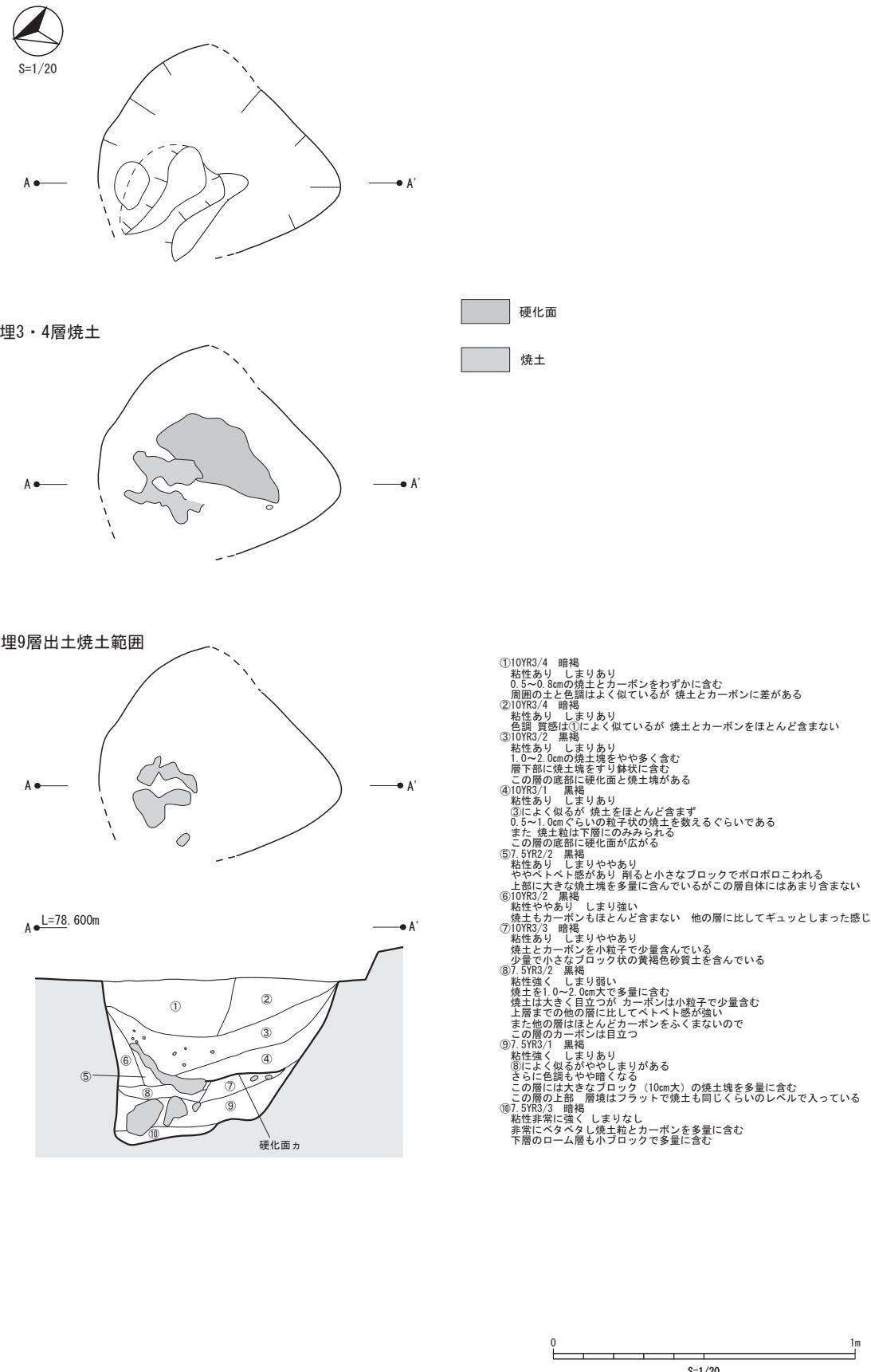


第 167 図 五丁中原遺跡 III区 ST-38~45実測図

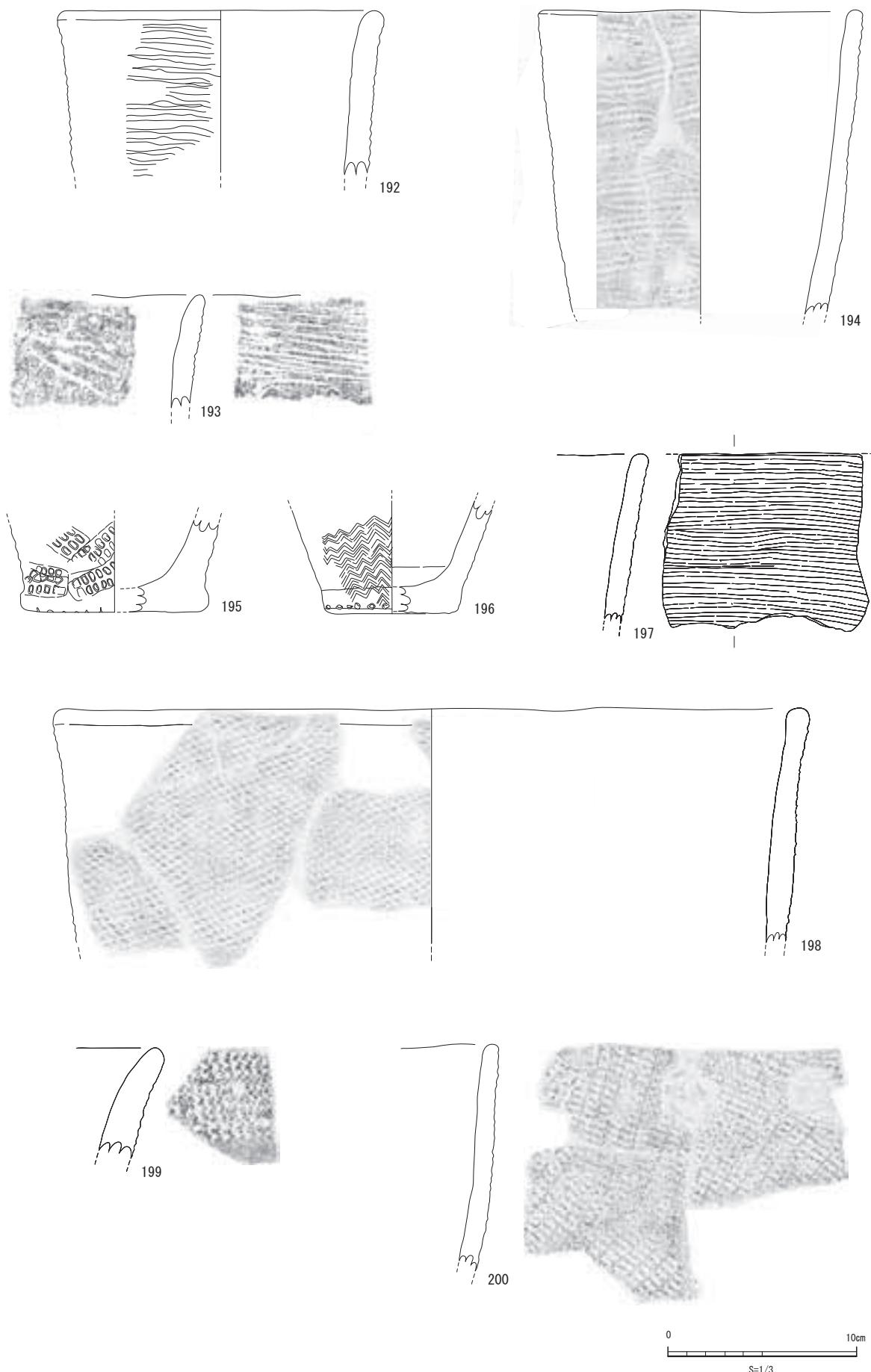


0 1m  
S=1/40

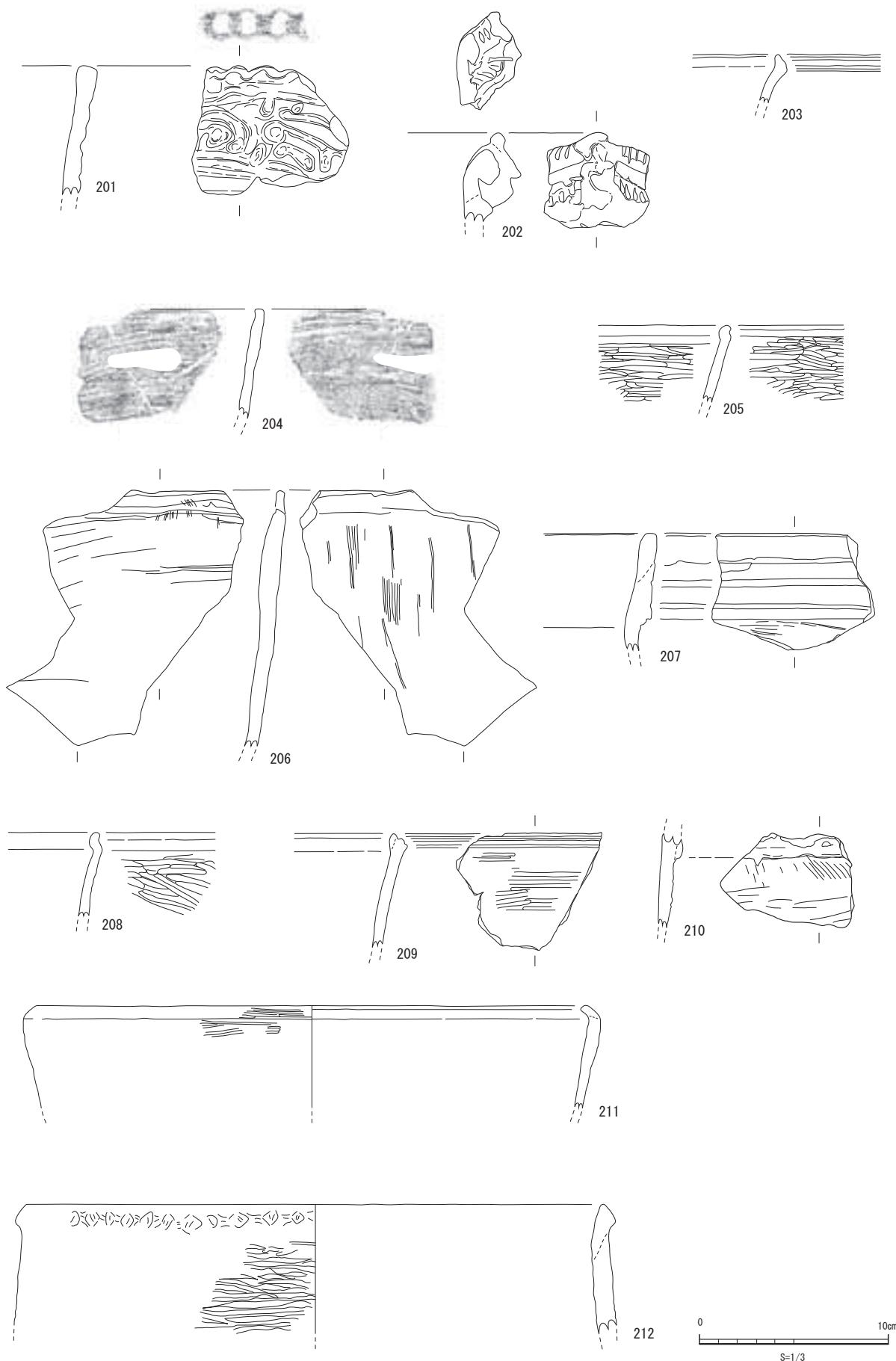
第 168 図 五丁中原遺跡 III区 ST-46~51実測図



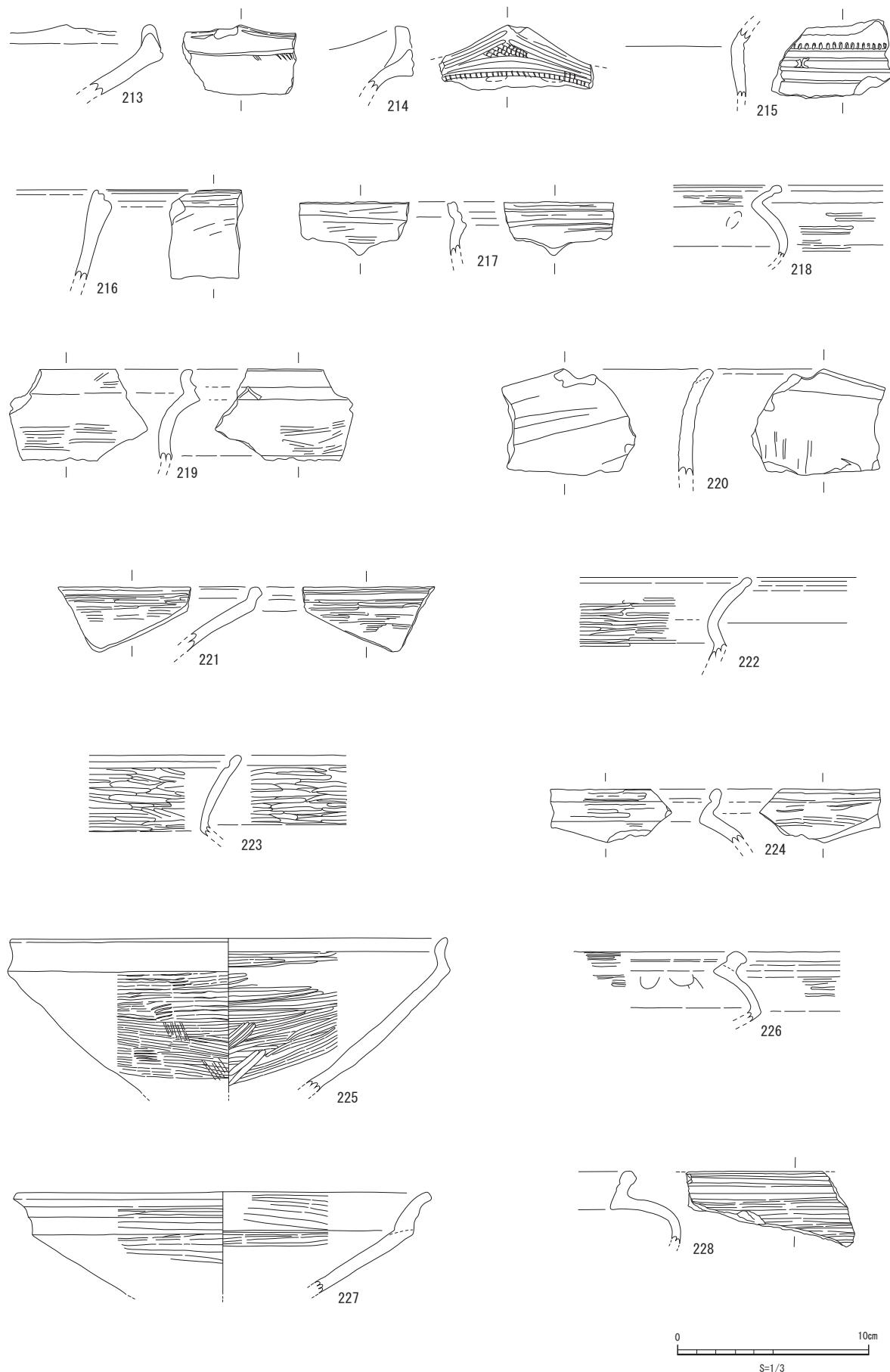
第 169 図 五丁中原遺跡 III区 ST-66実測図



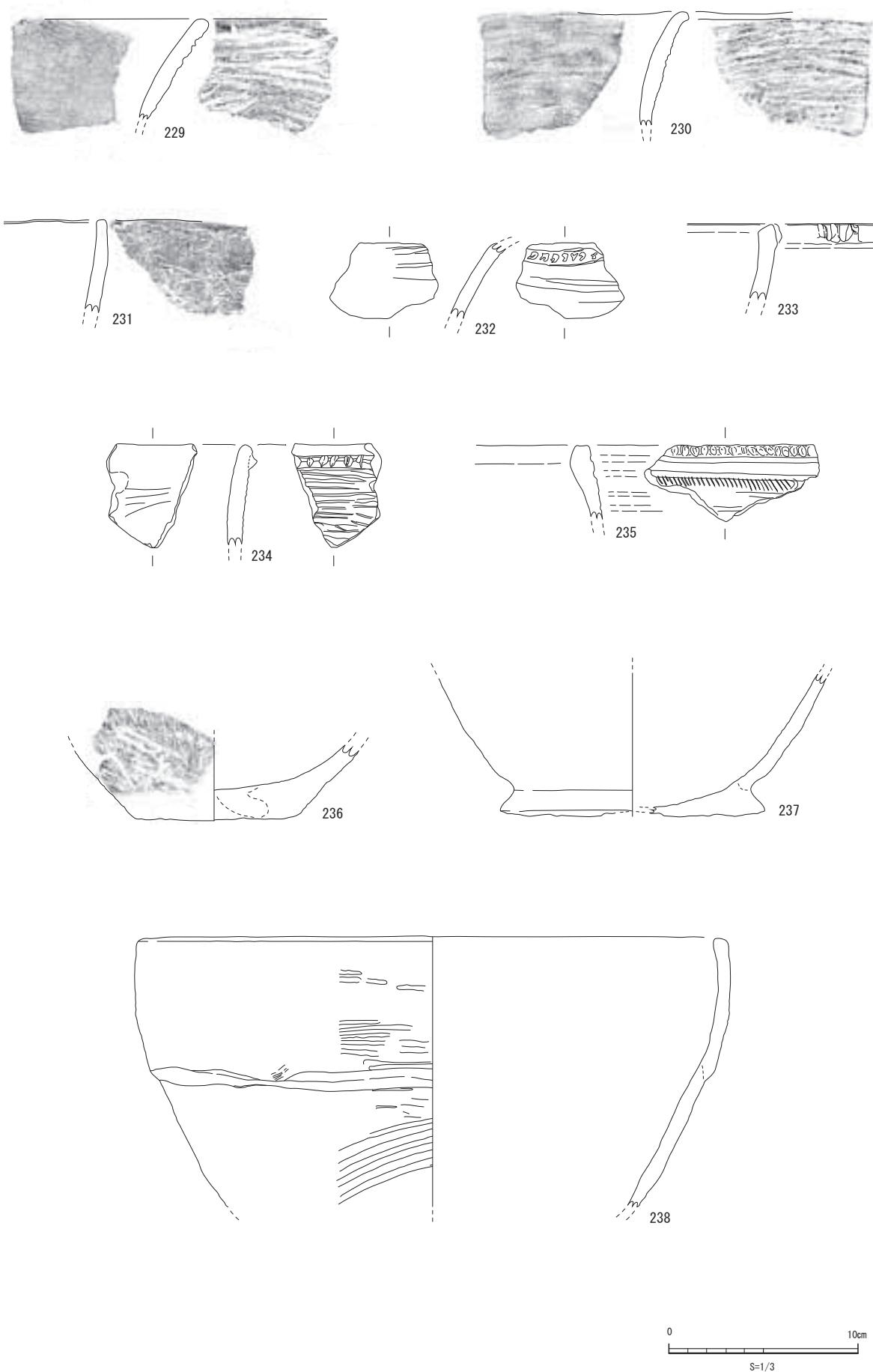
第 170 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 7



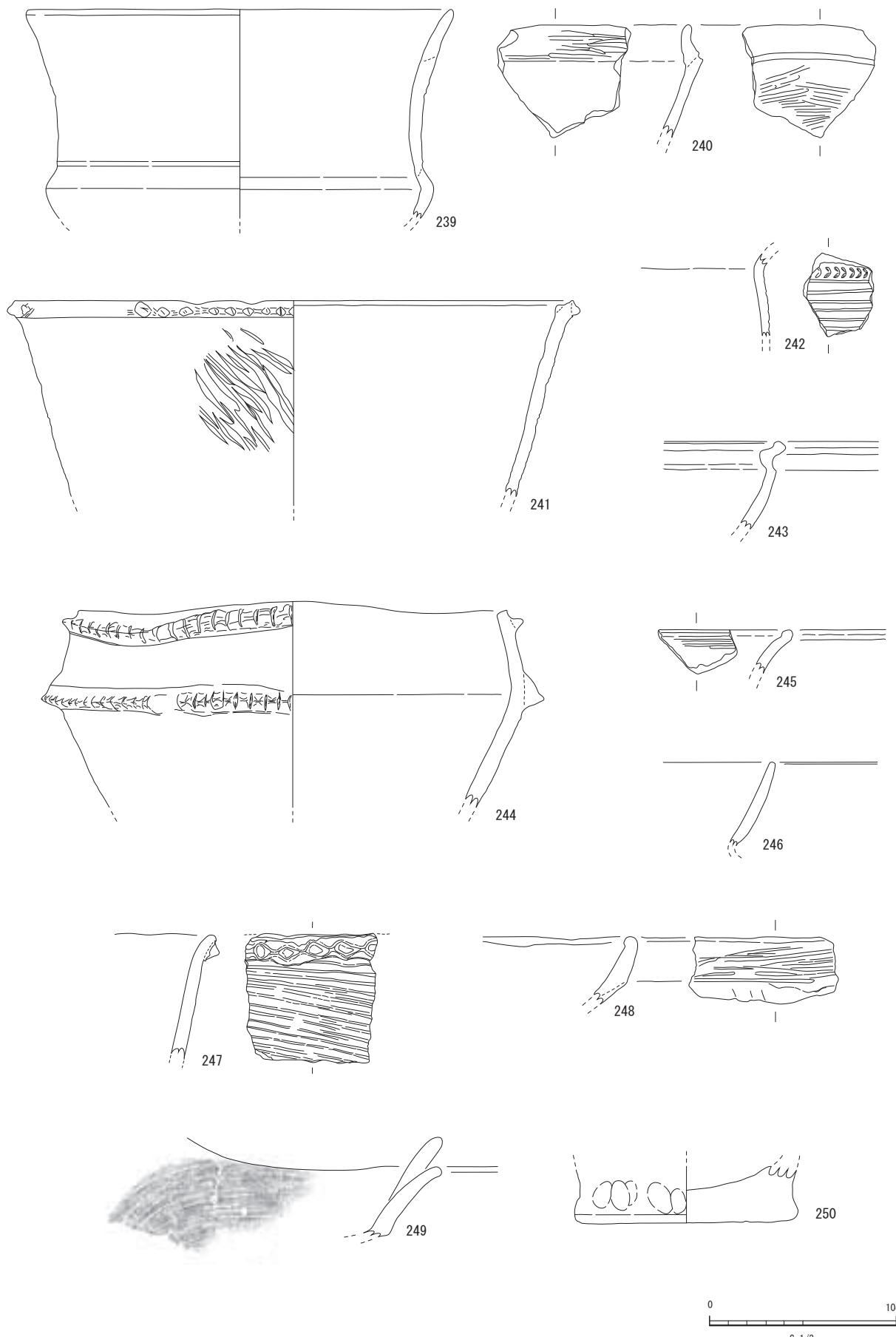
第 171 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 8



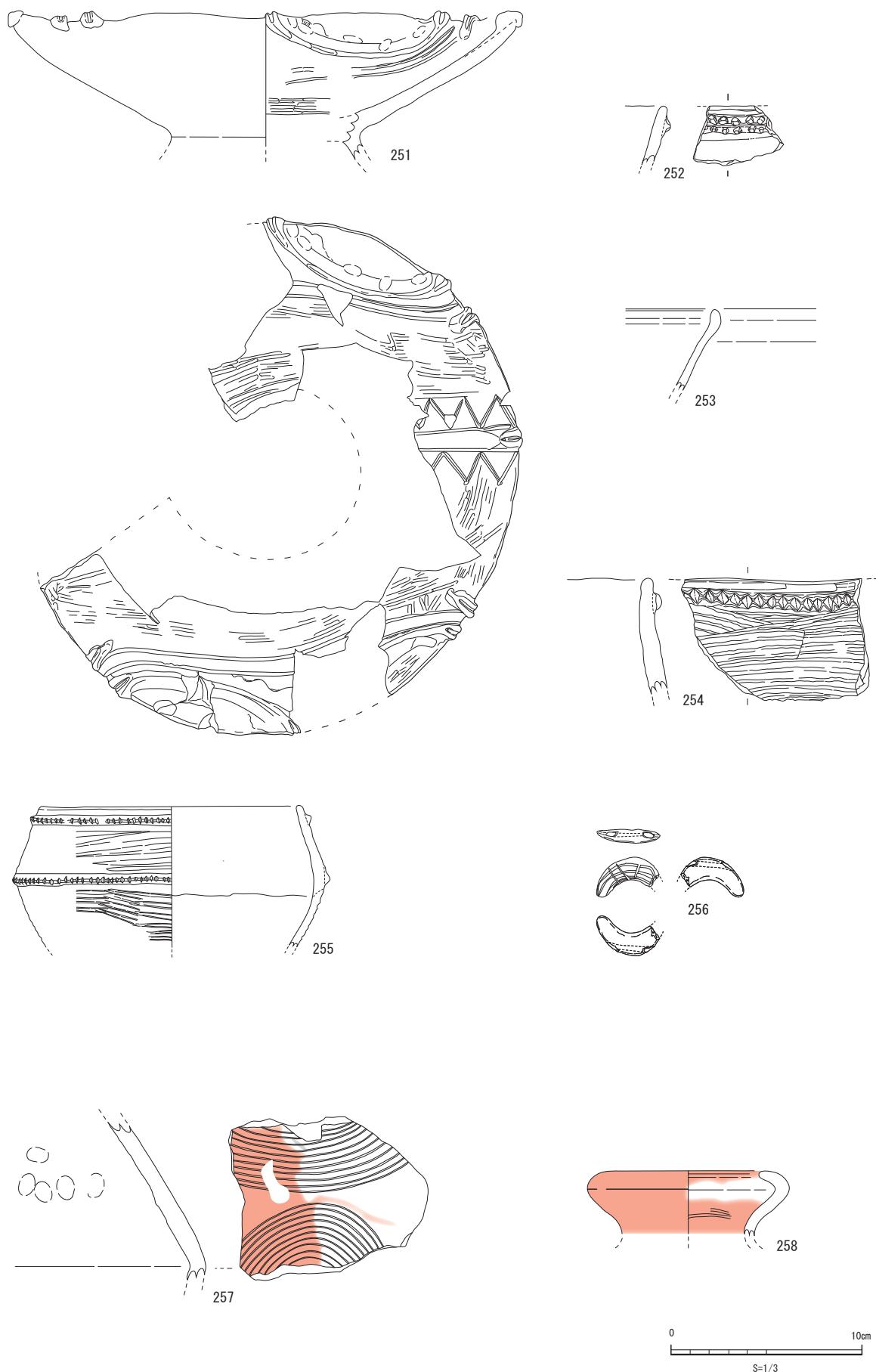
第 172 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 9



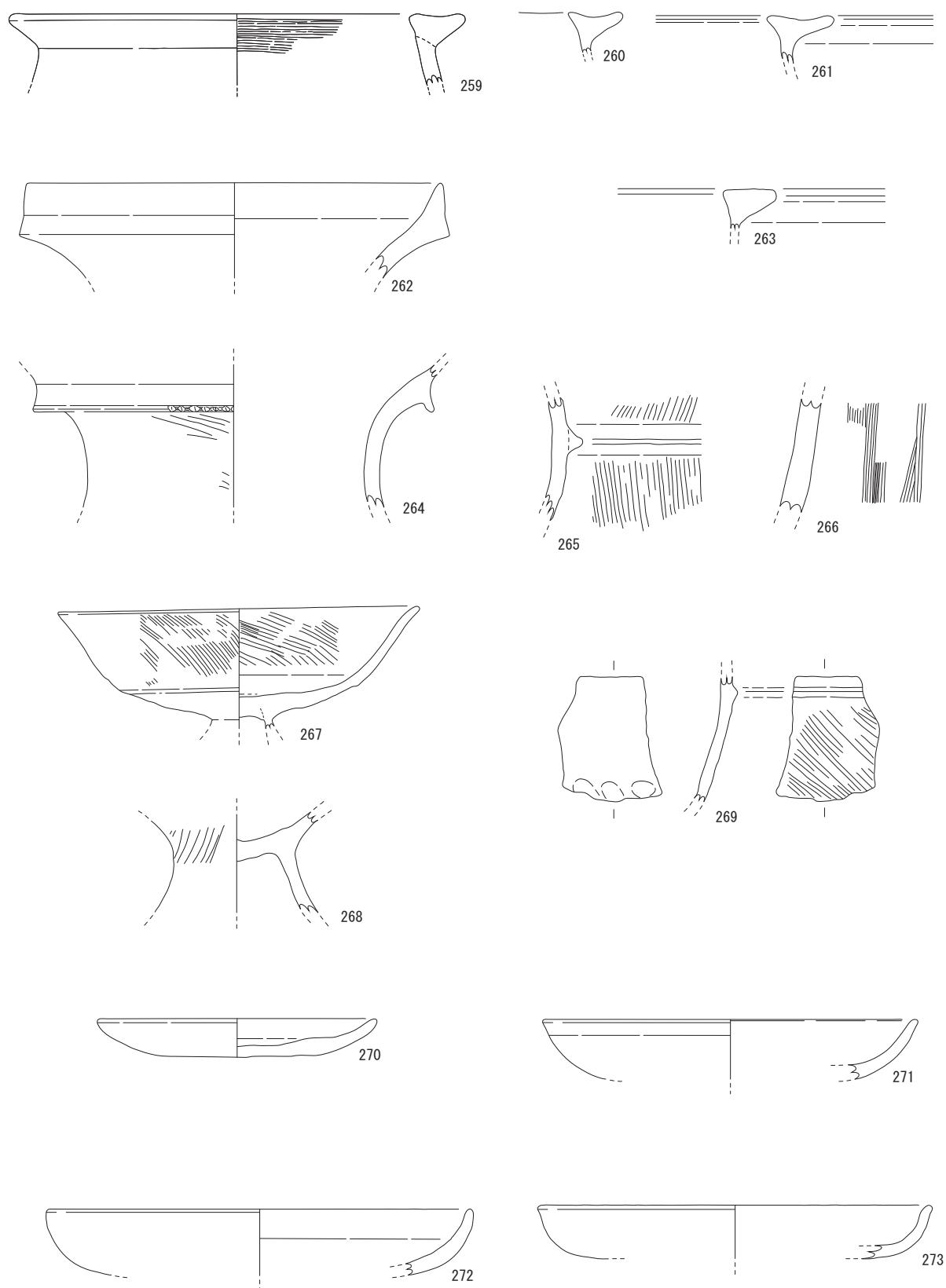
第 173 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 10



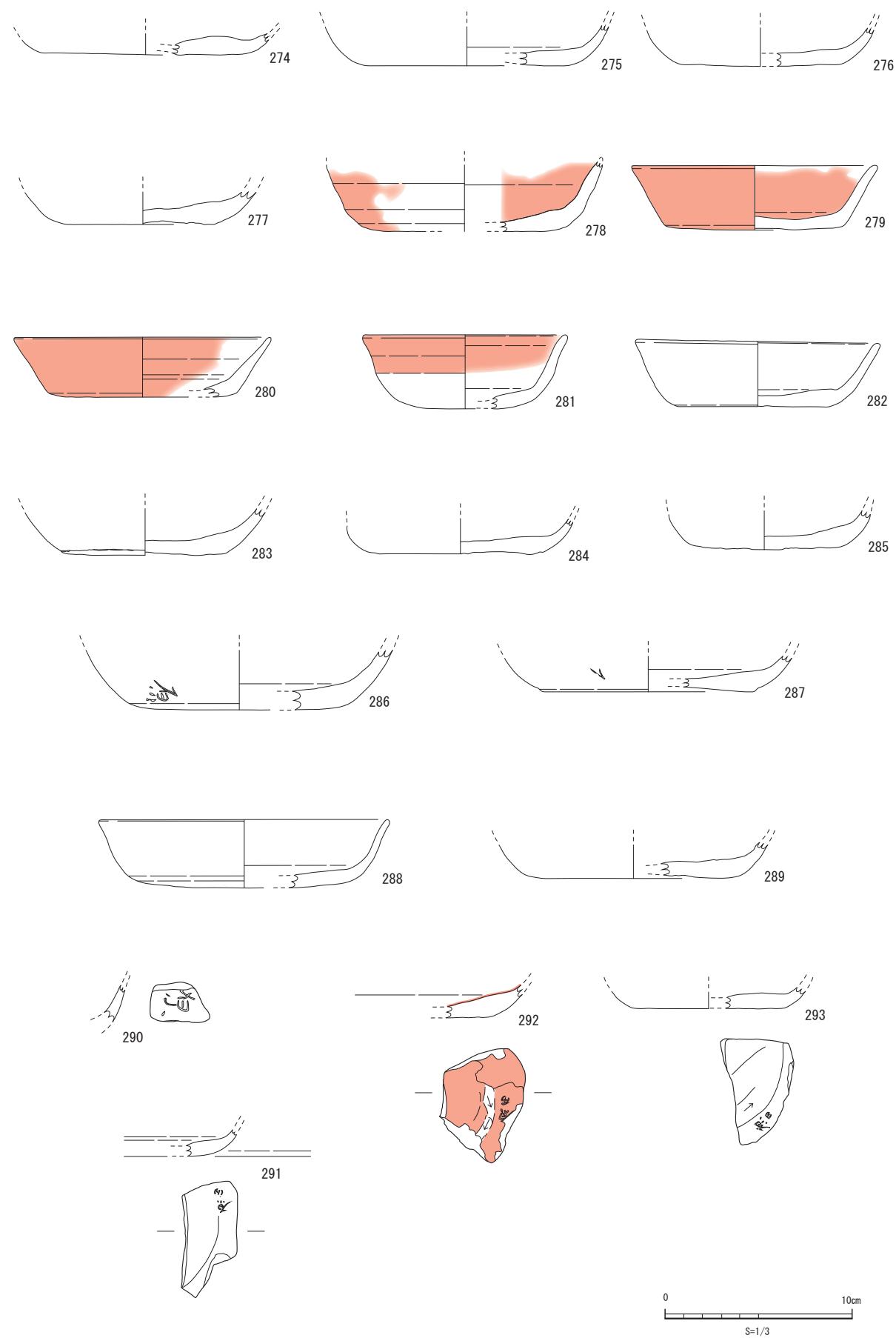
第 174 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 11



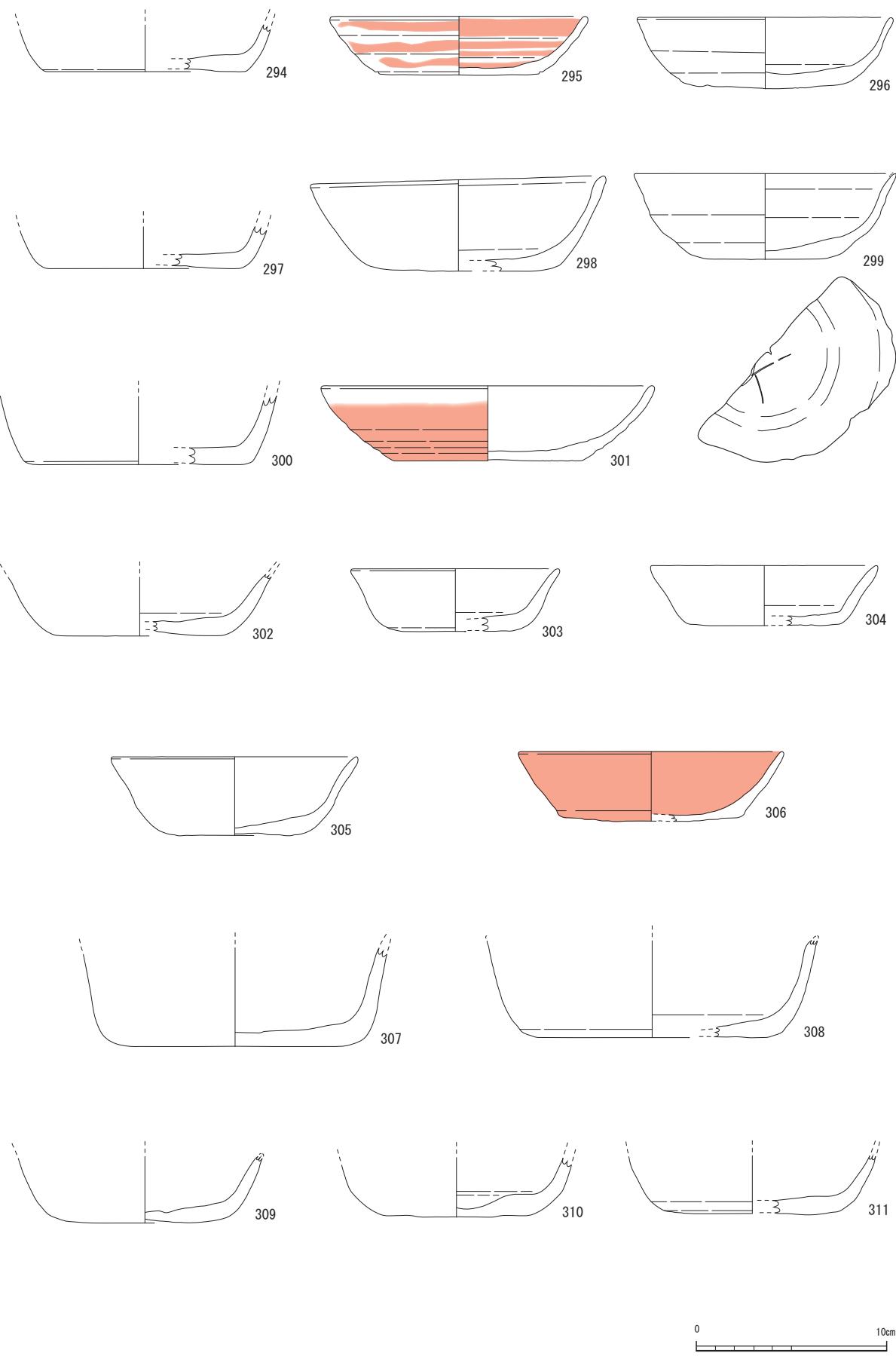
第 175 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 12



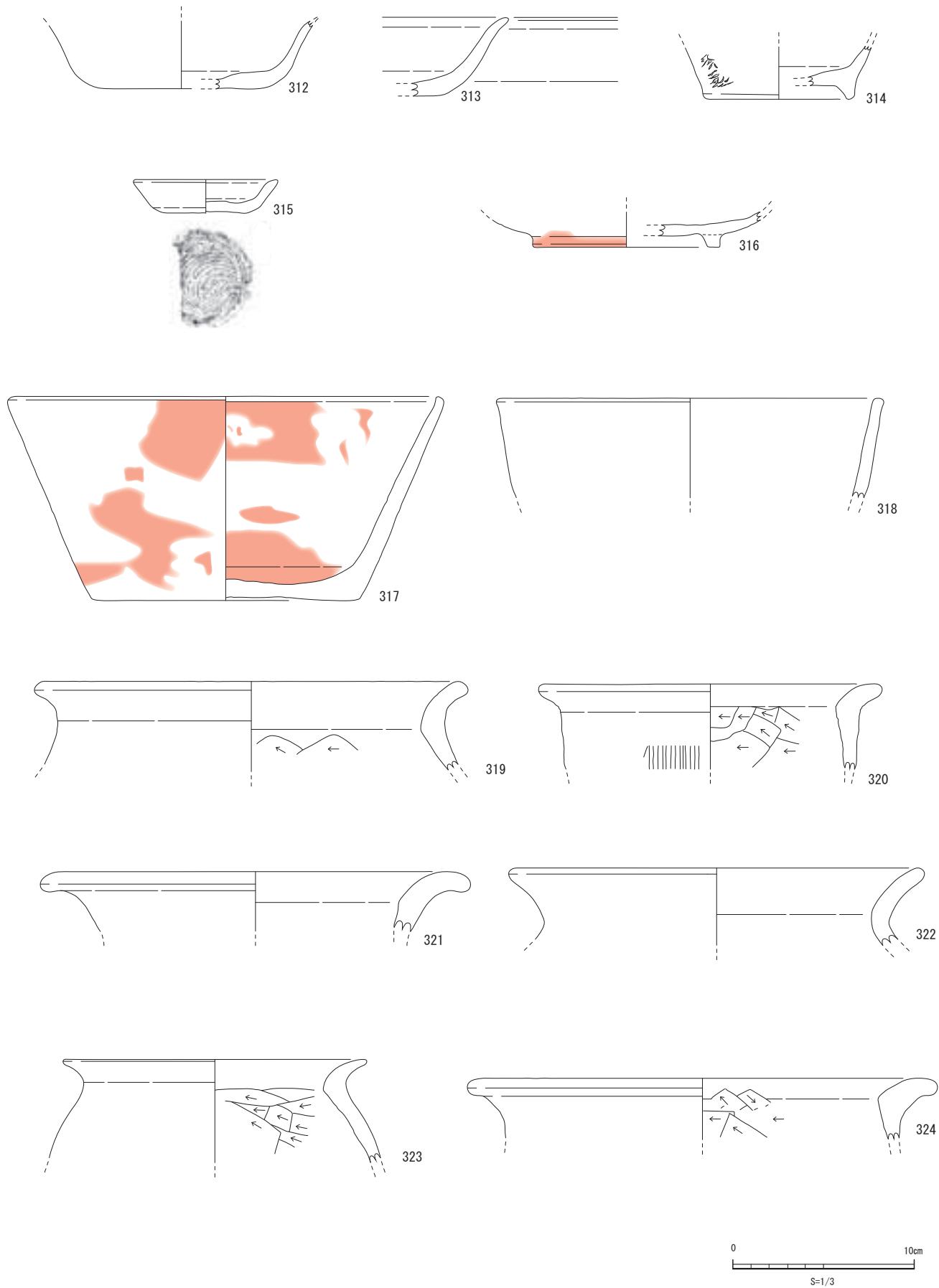
第 176 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 13



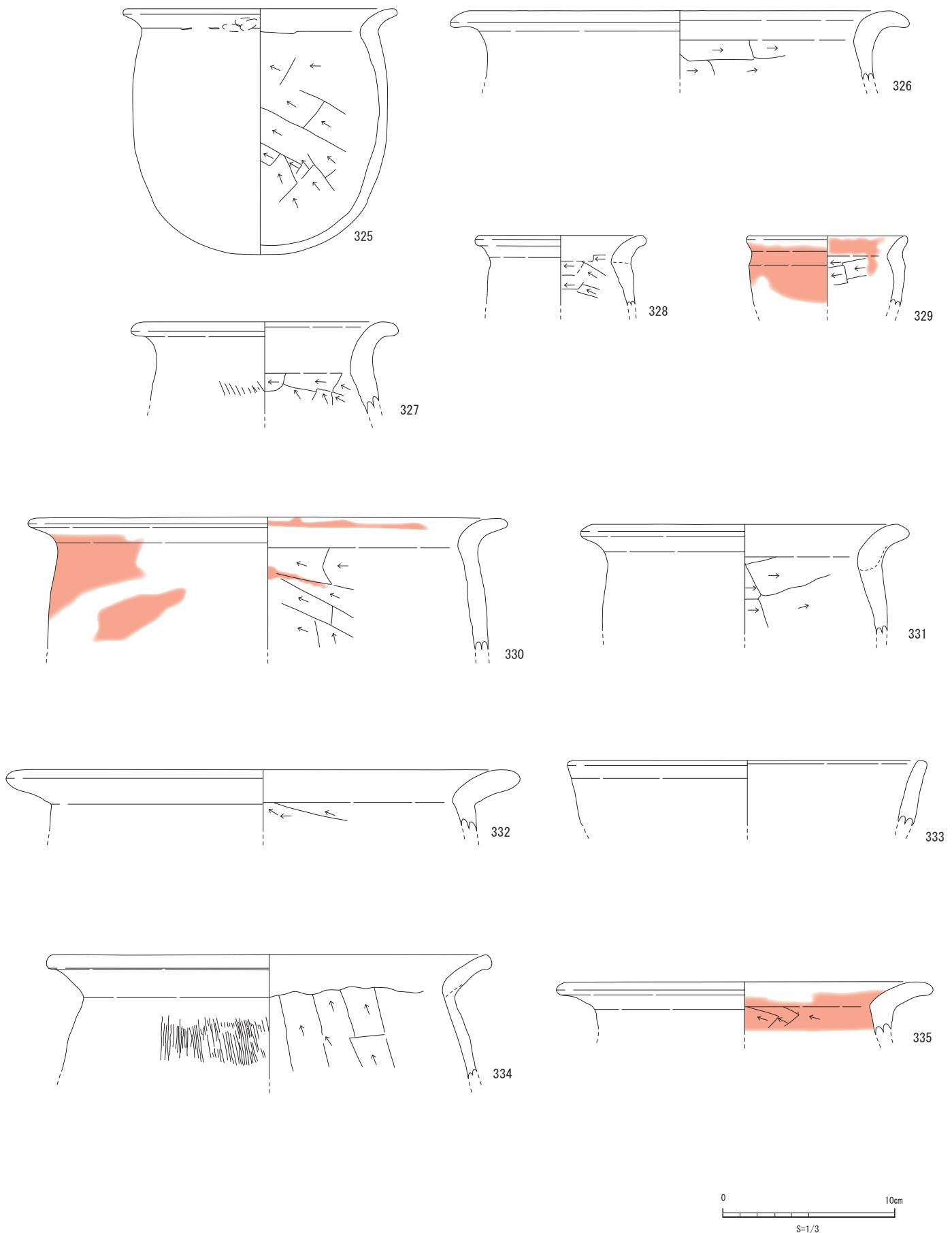
第 177 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 14



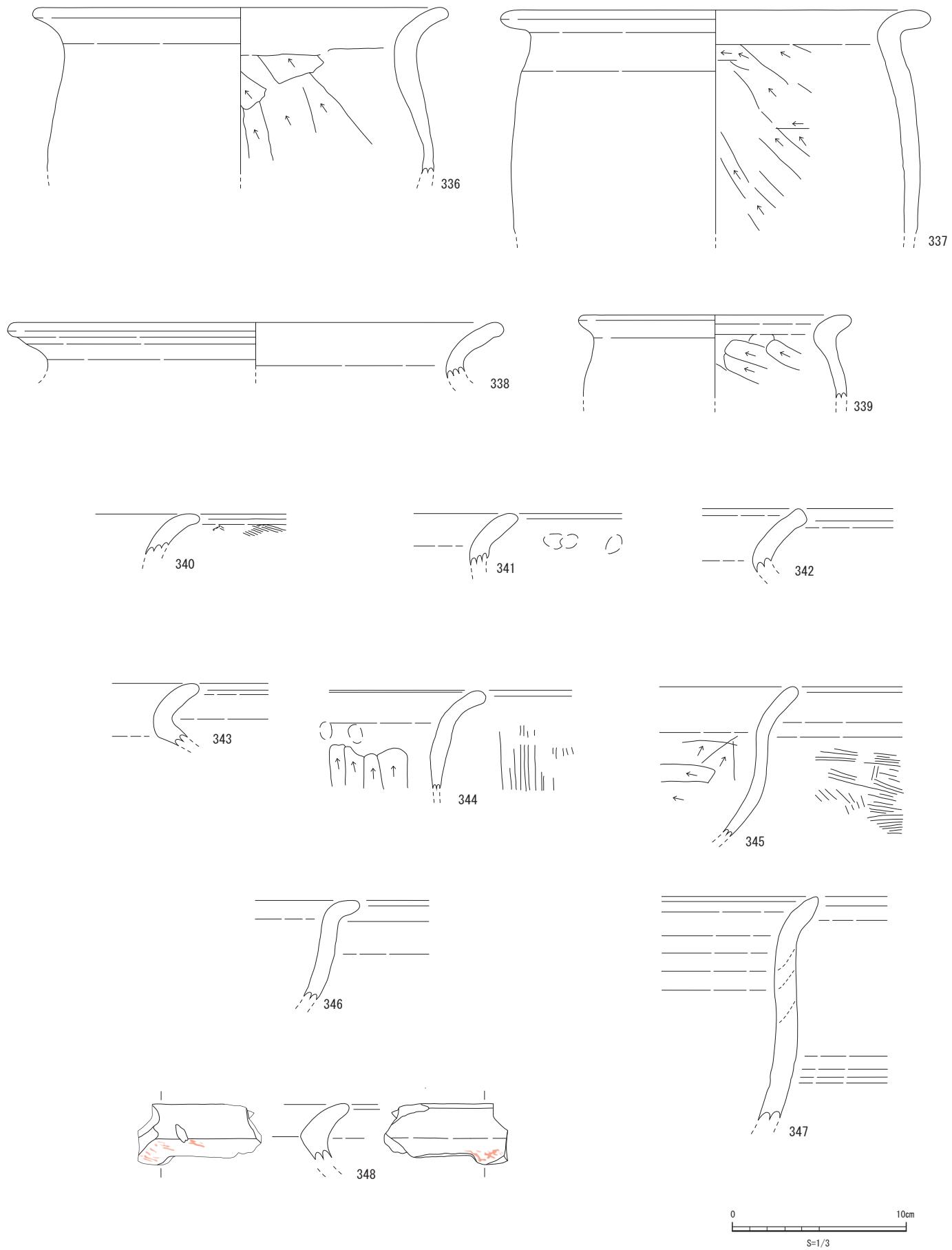
第 178 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 15



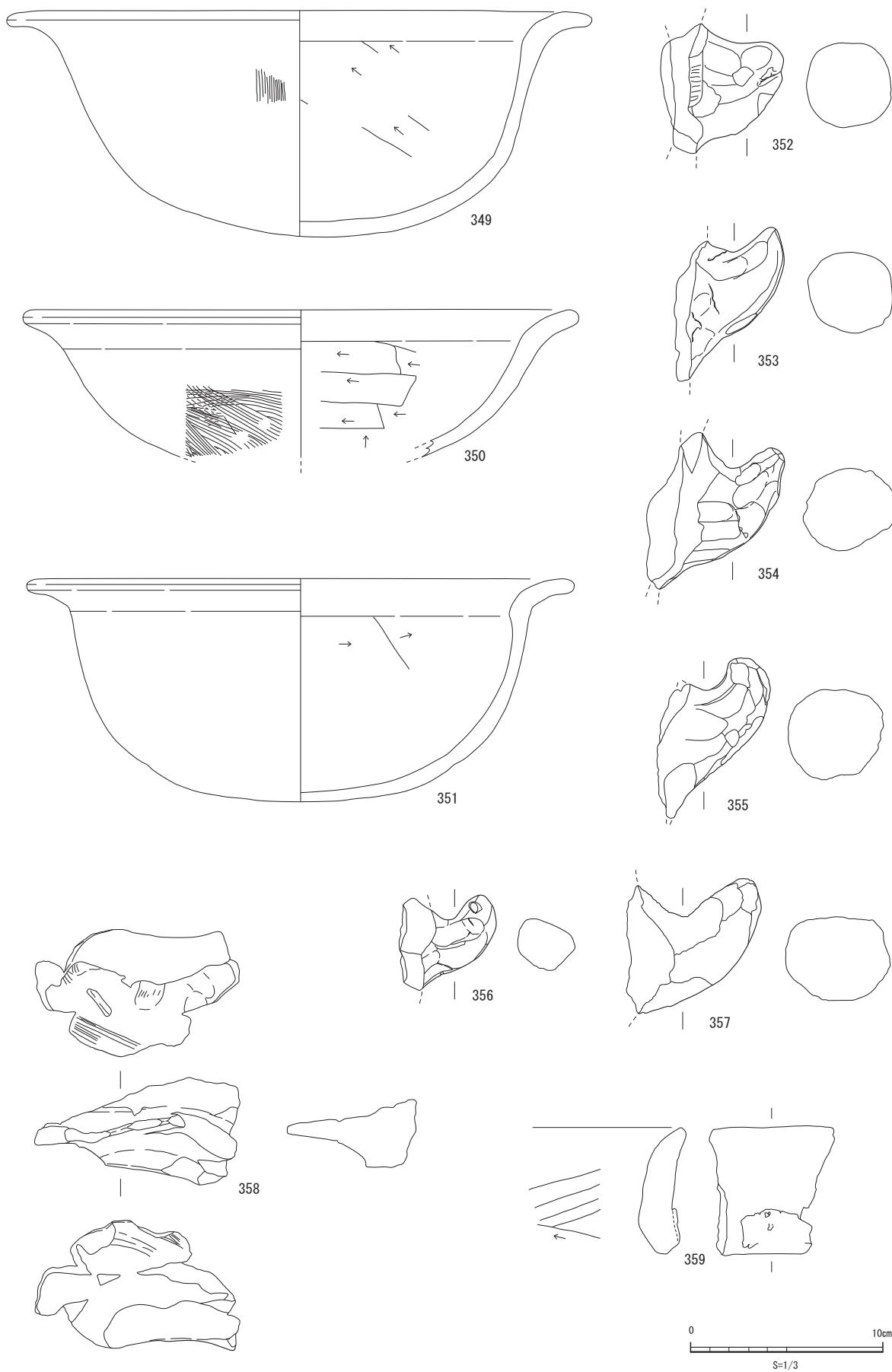
第 179 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 16



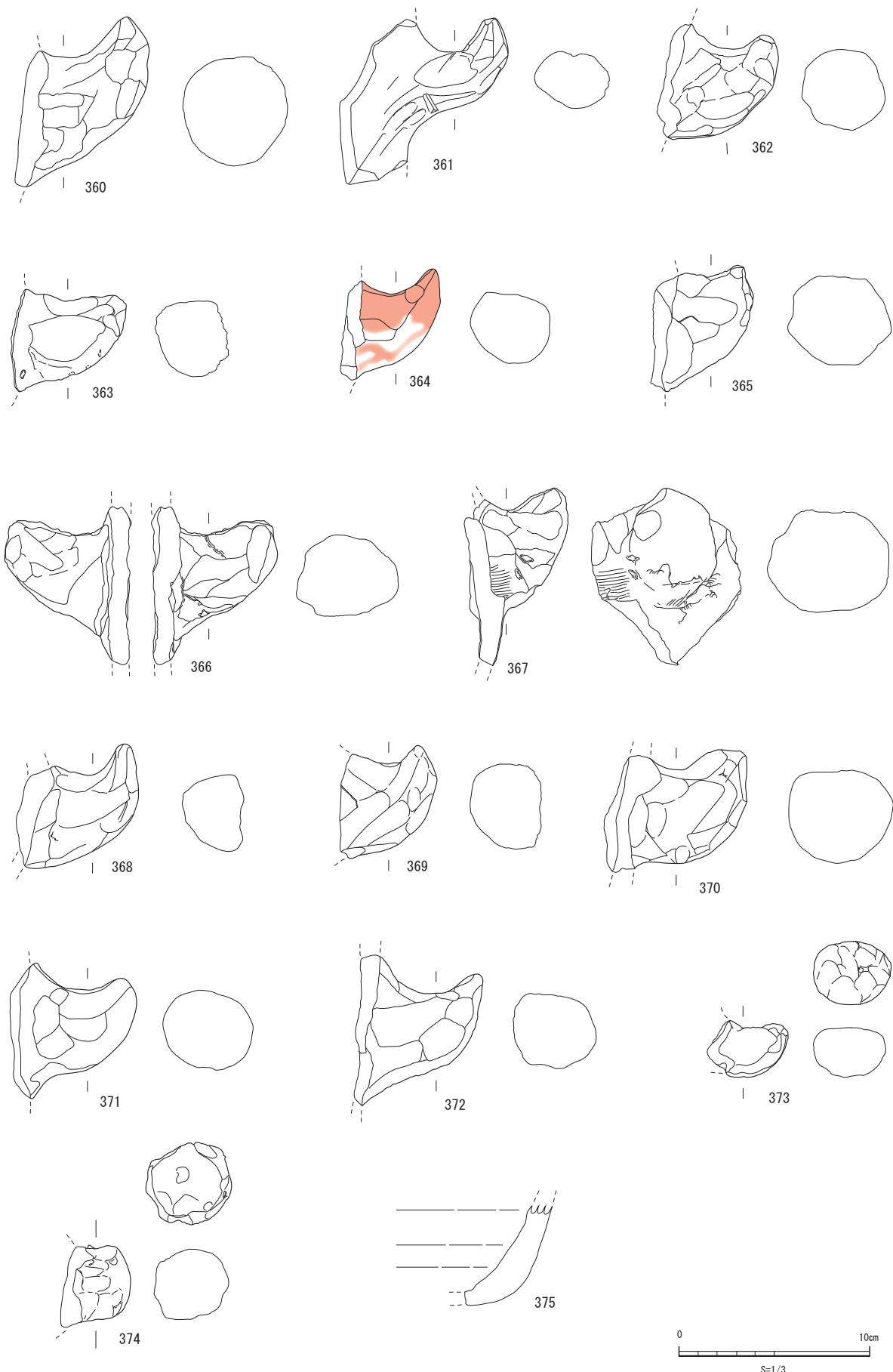
第 180 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 17



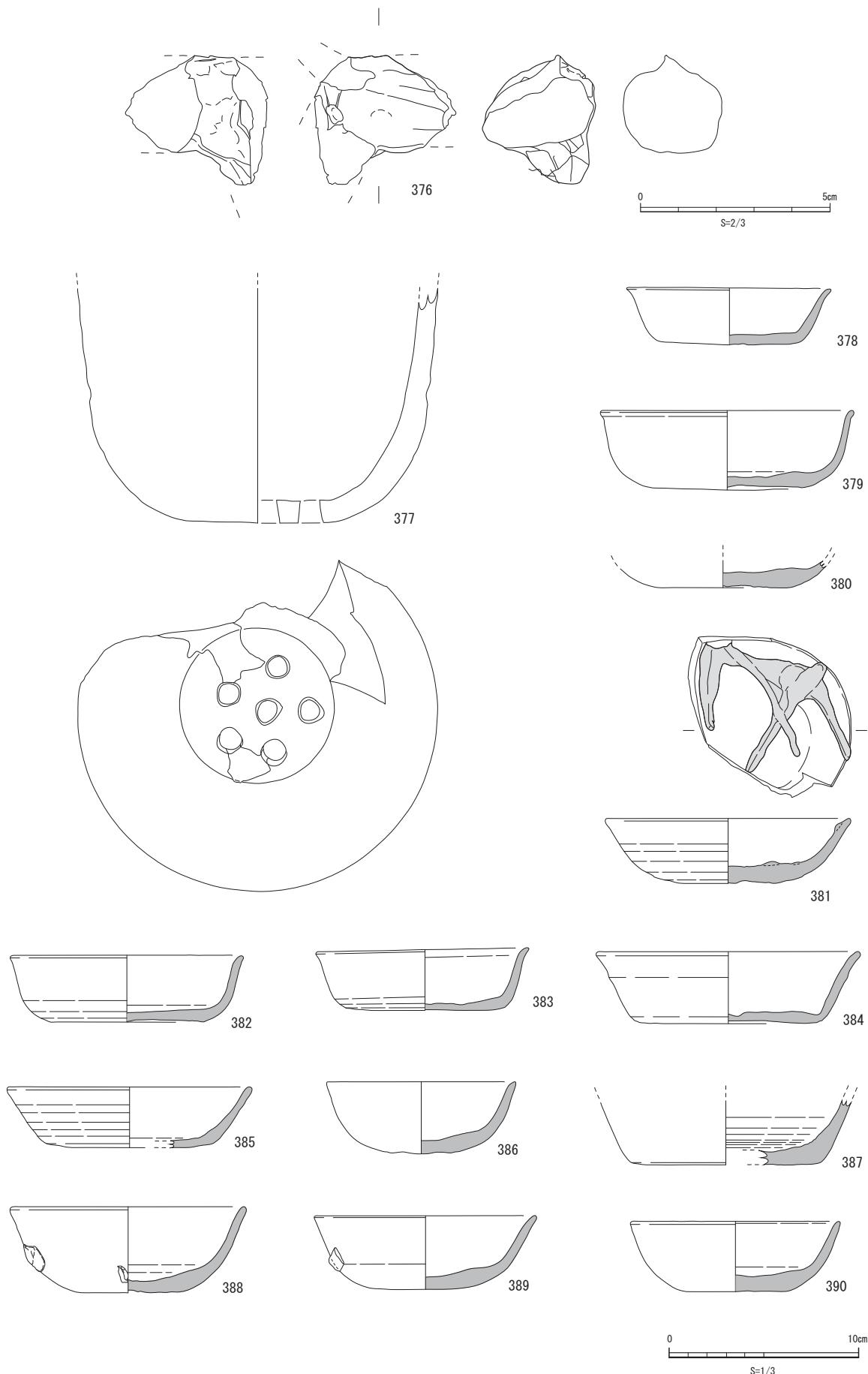
第 181 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 18



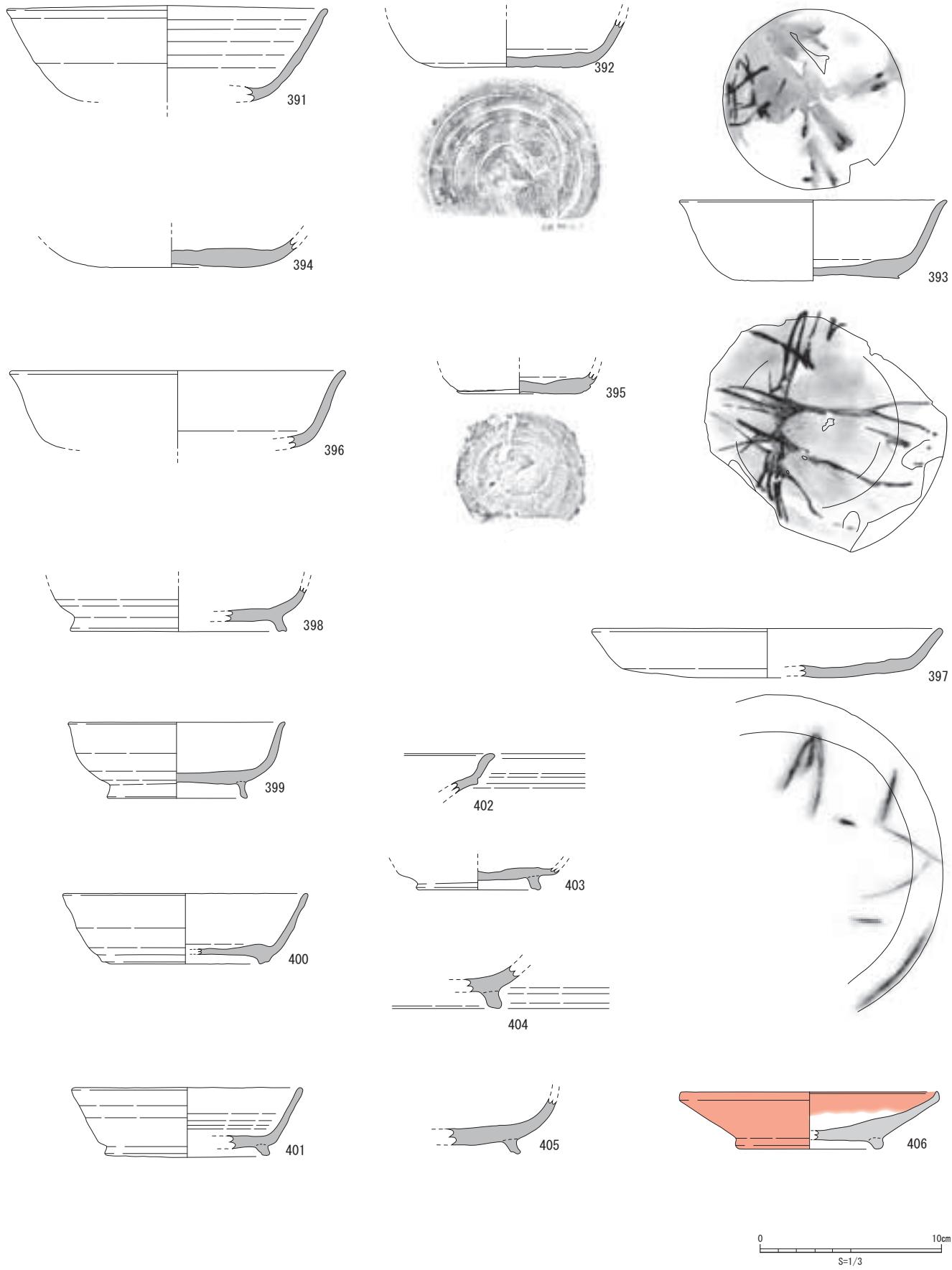
第182図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 19



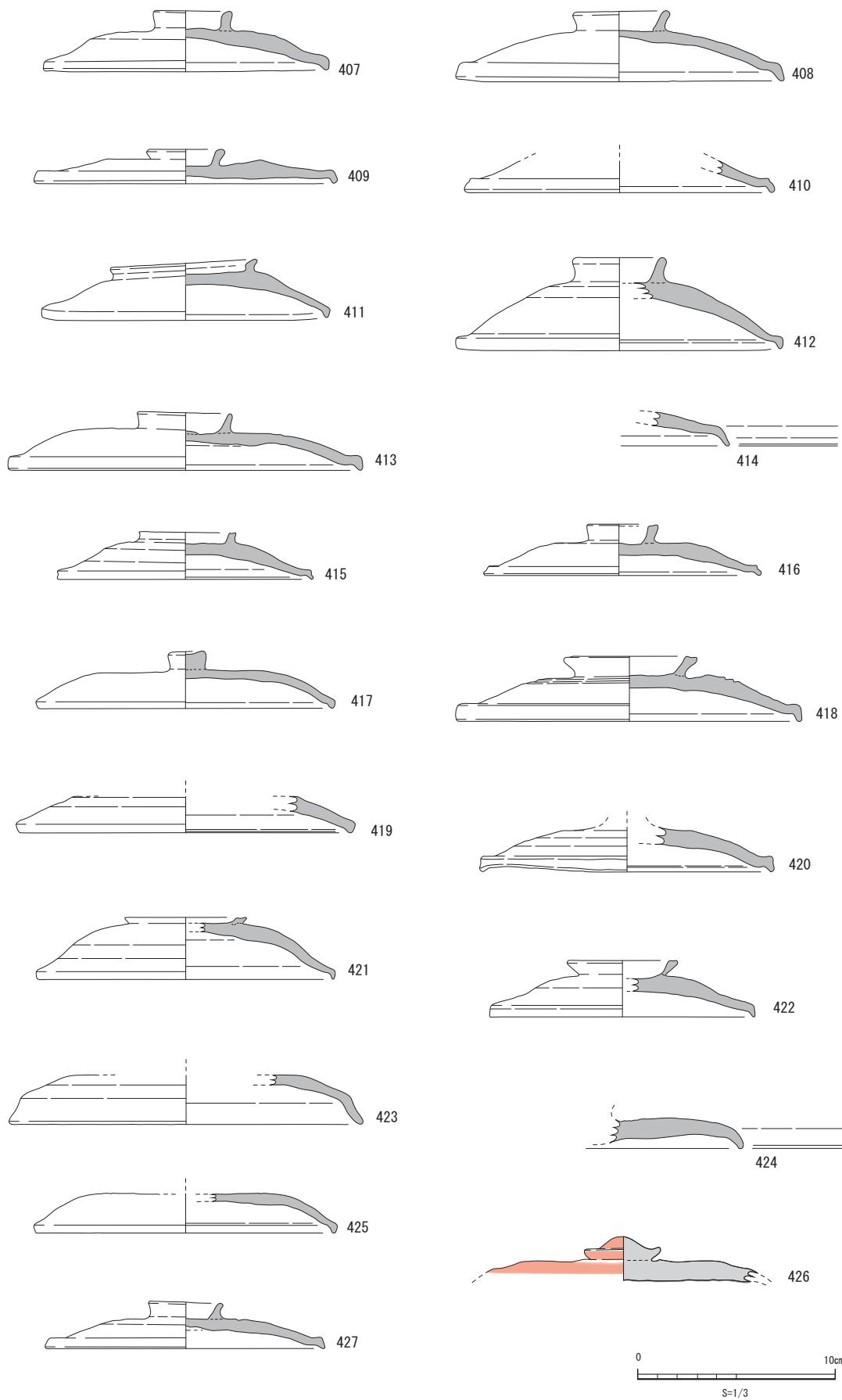
第 183 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 20



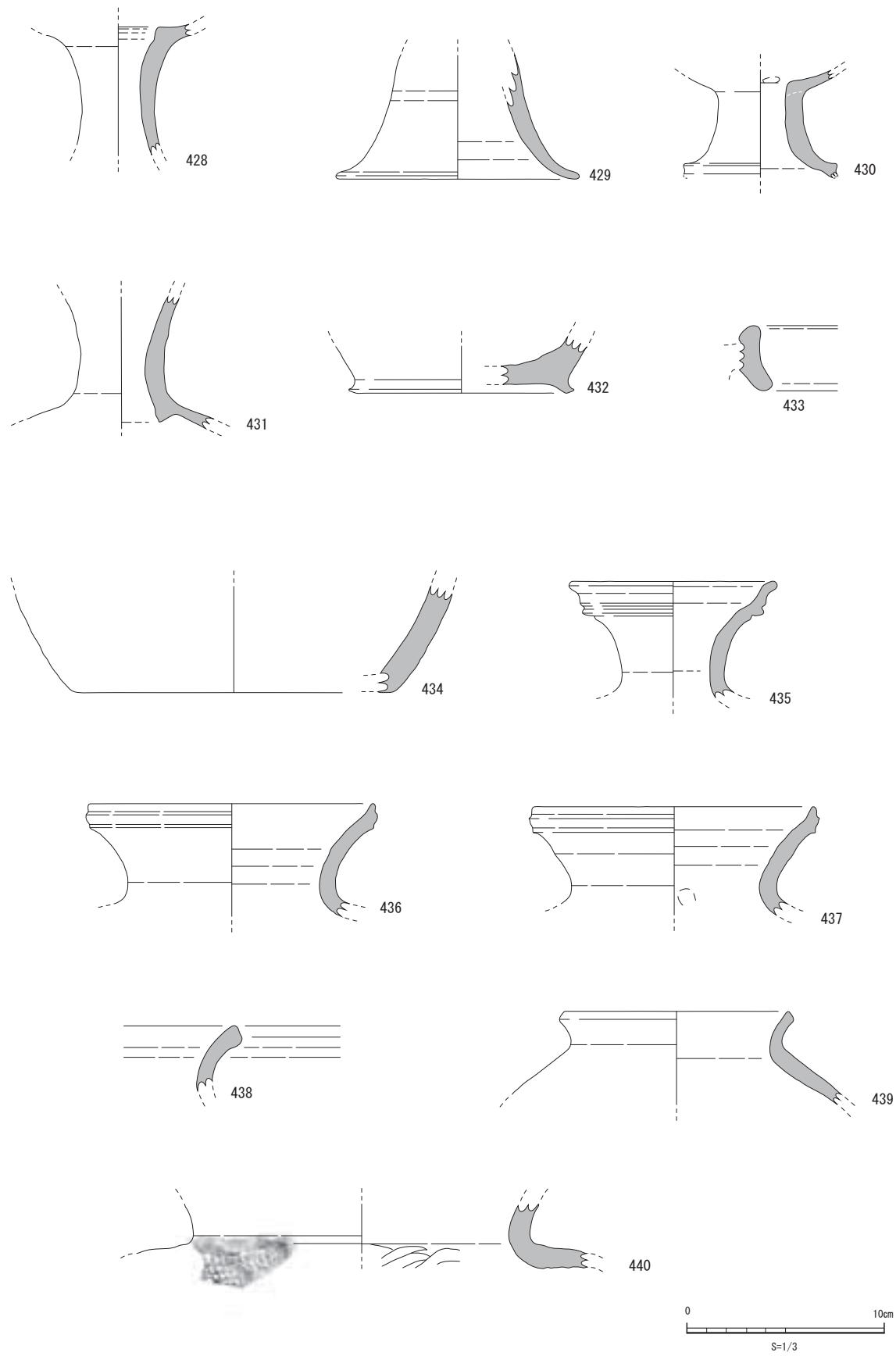
第184図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 21



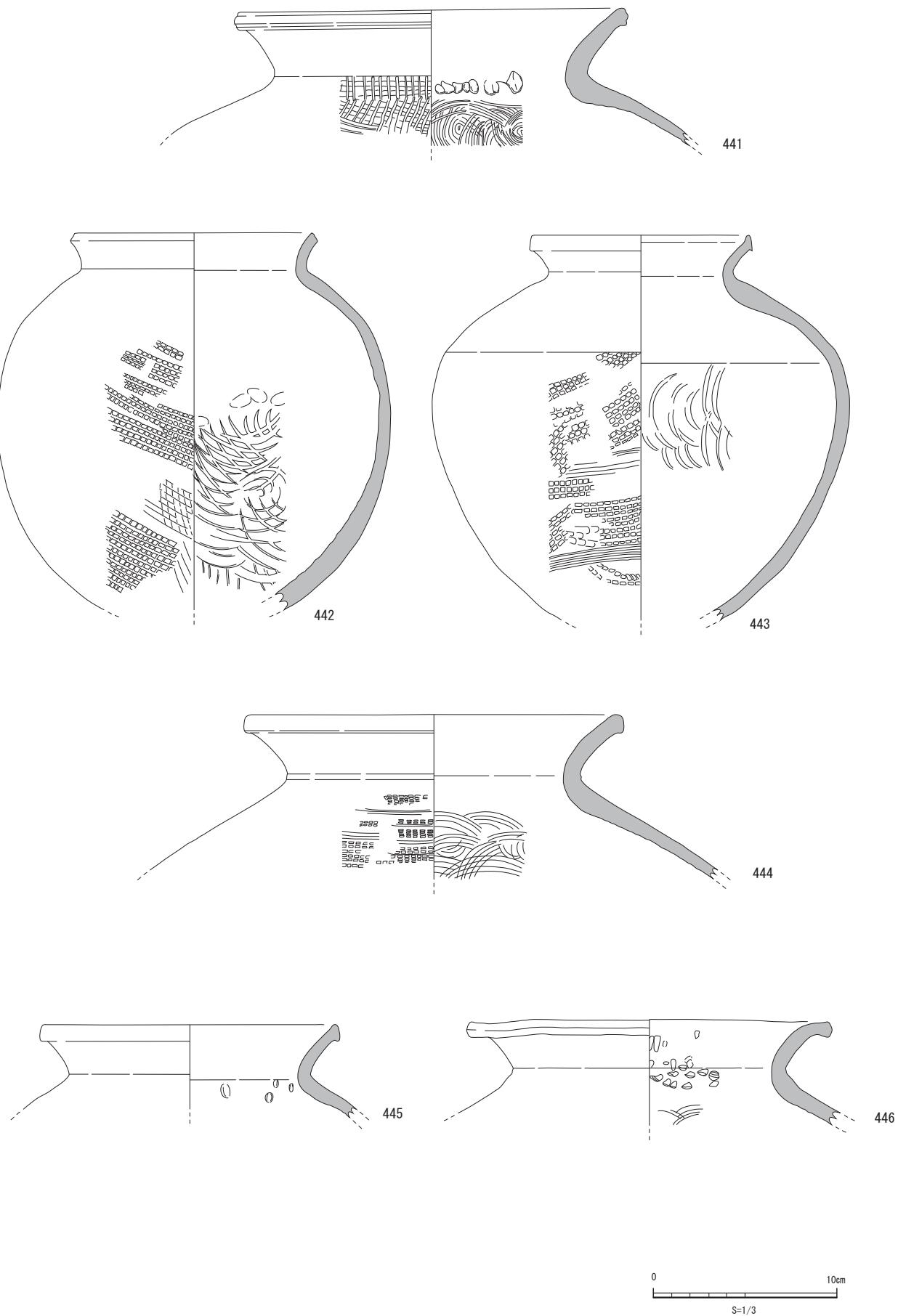
第 185 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 22



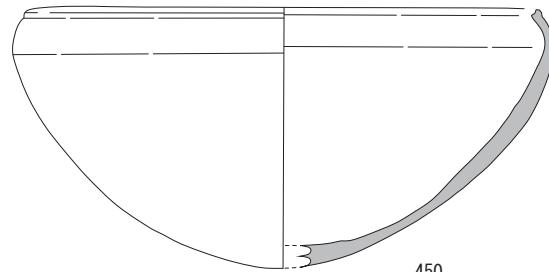
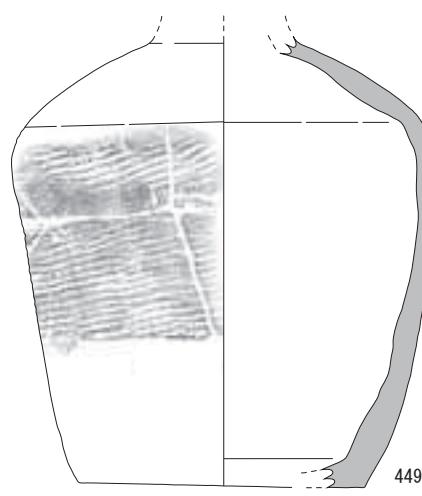
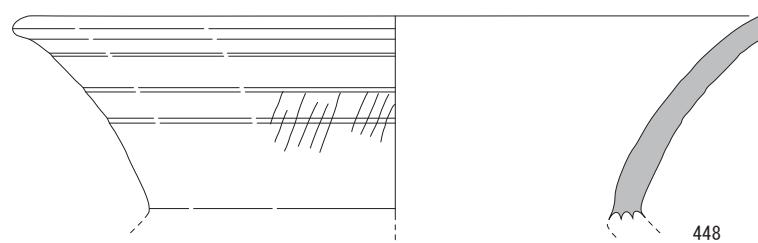
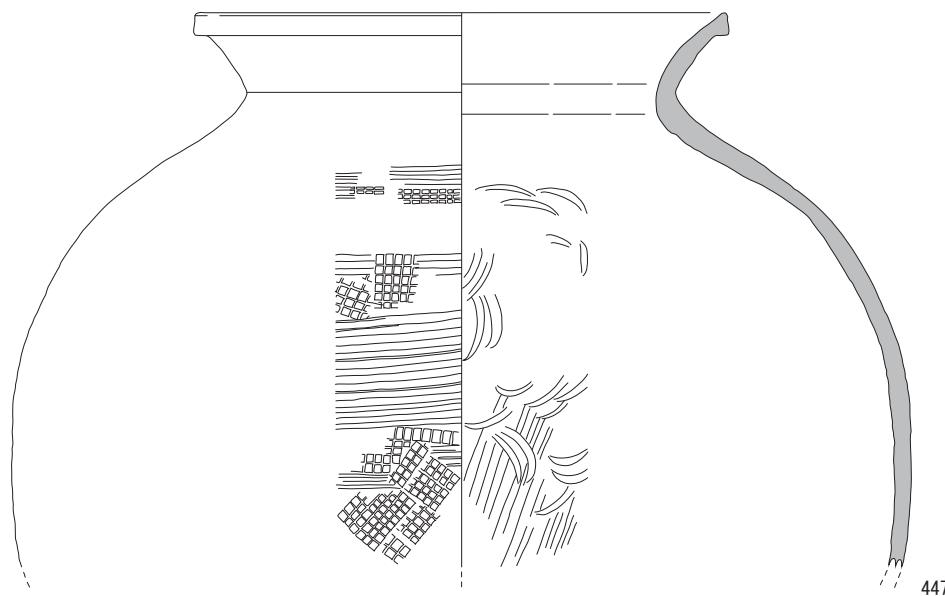
第 186 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 23



第 187 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 24

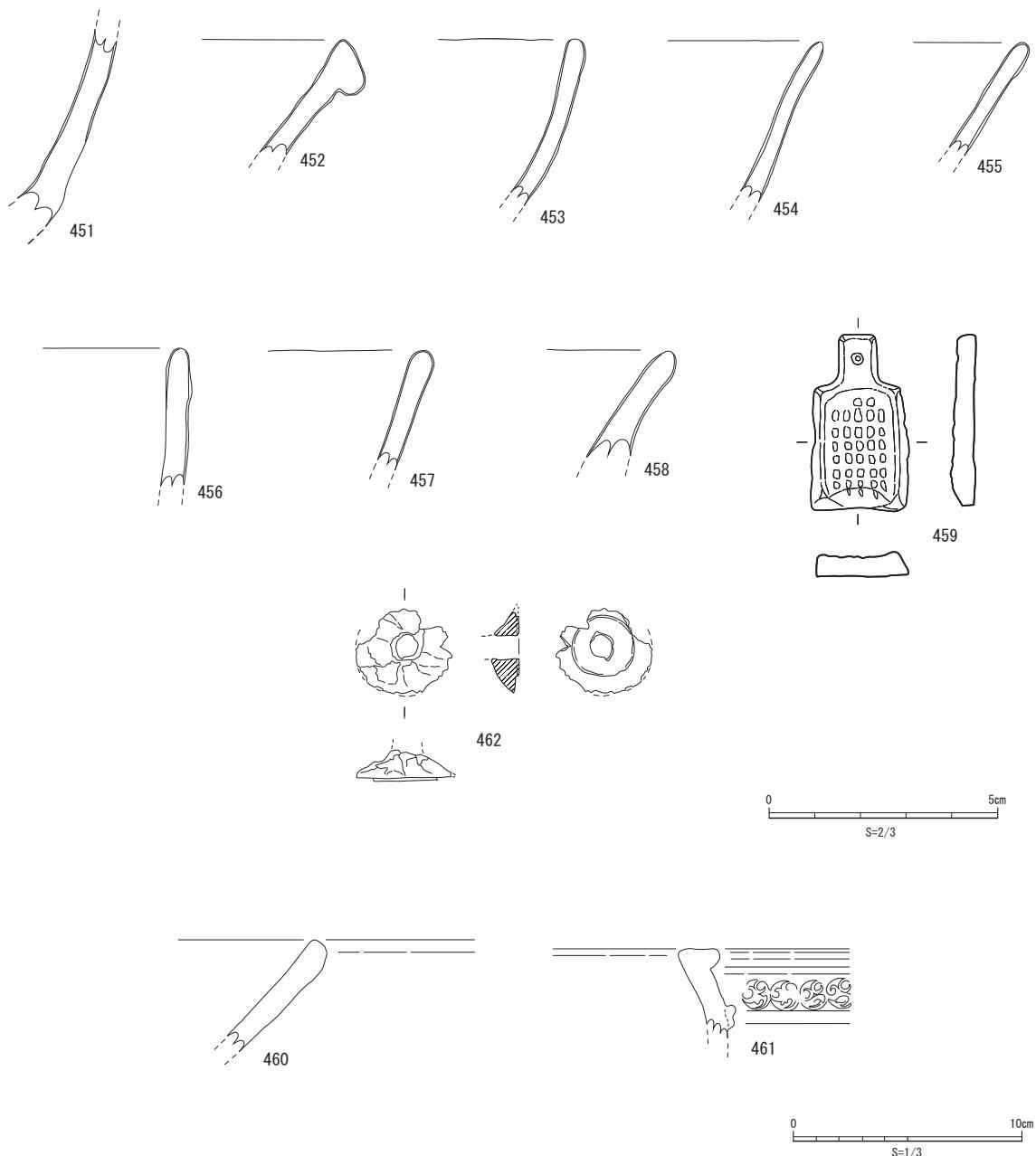


第 188 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 25

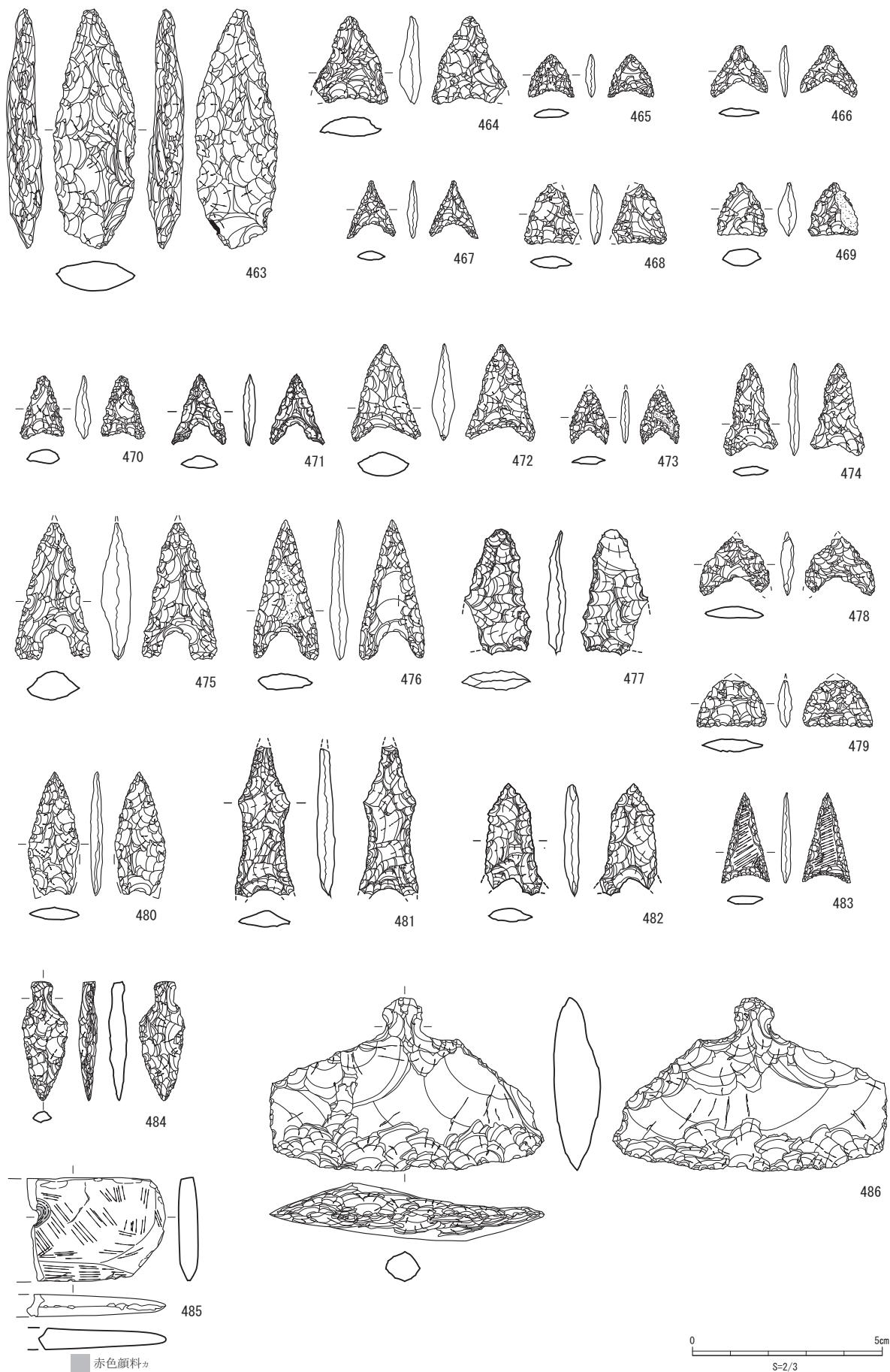


0 10cm  
S=1/3

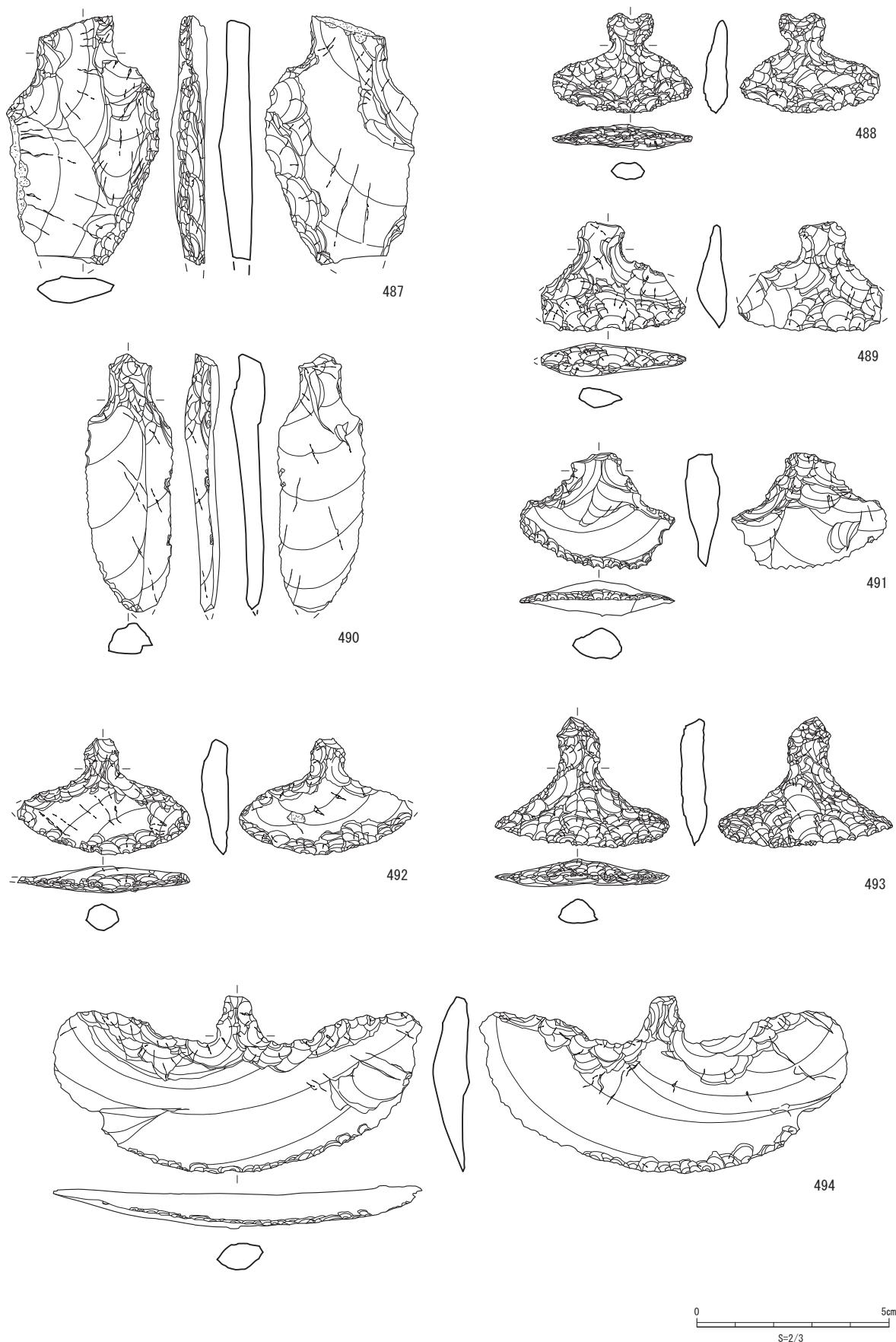
第 189 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 26



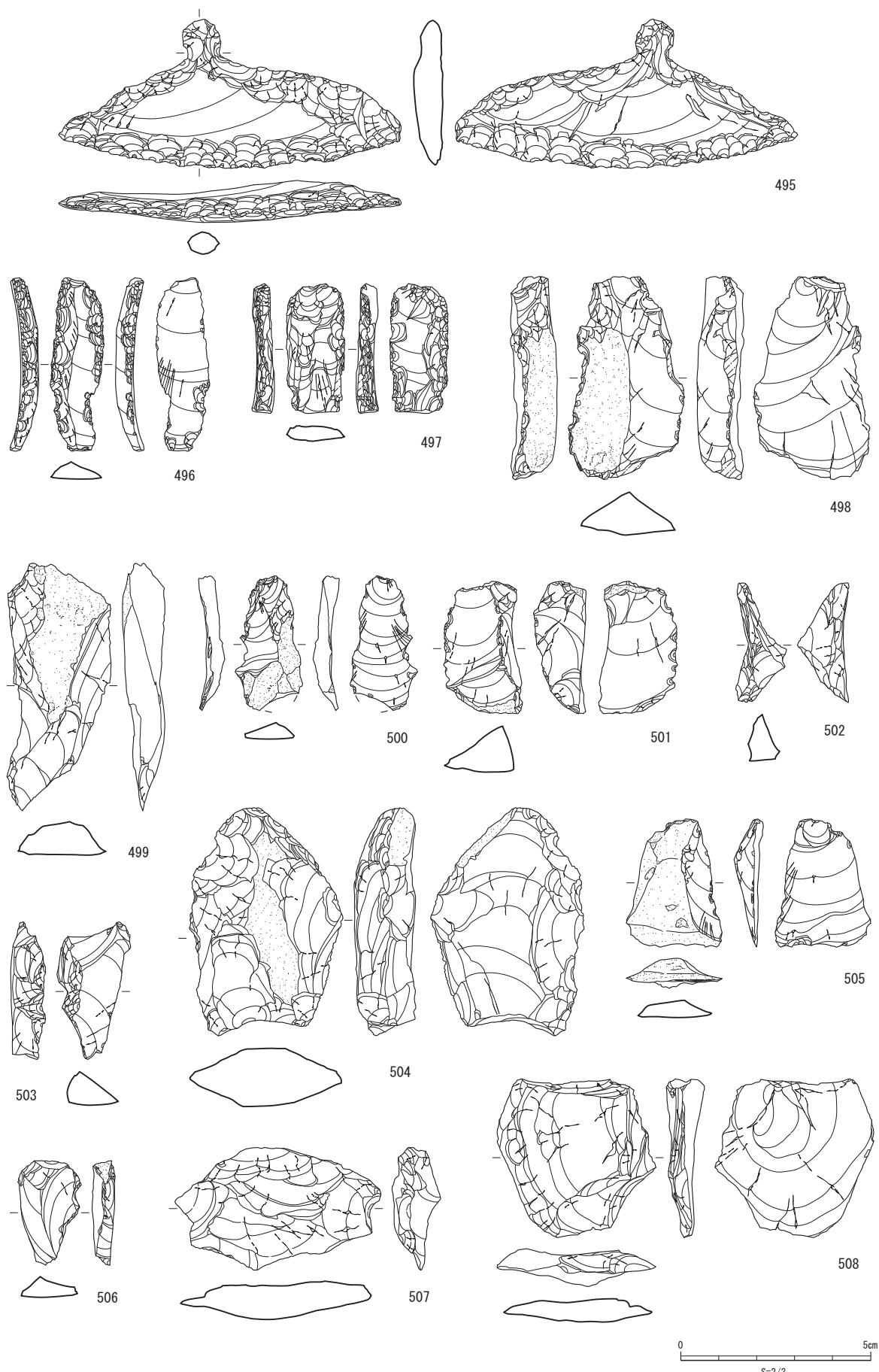
第190図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 27



第 191 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 28



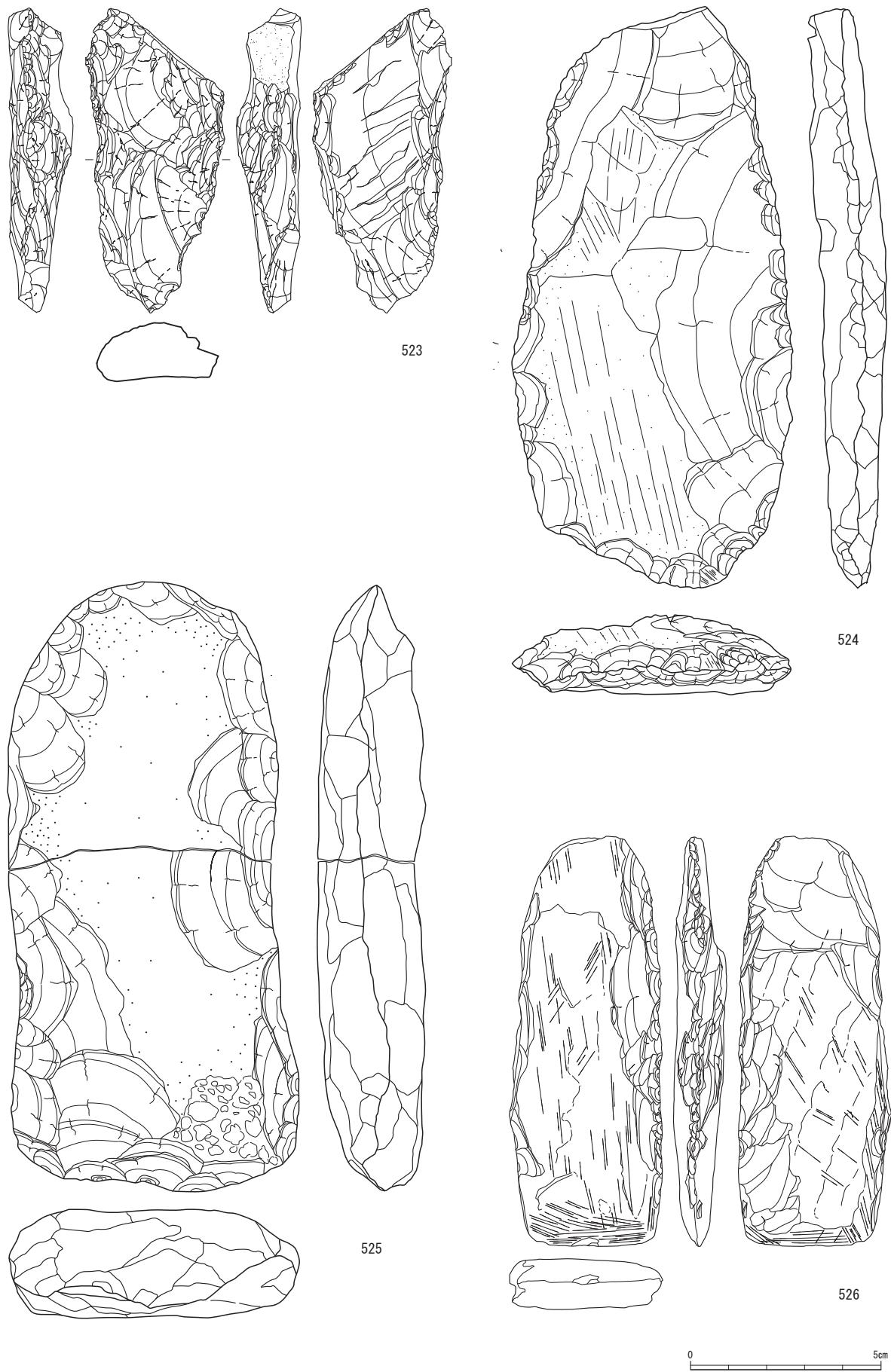
第 192 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 29



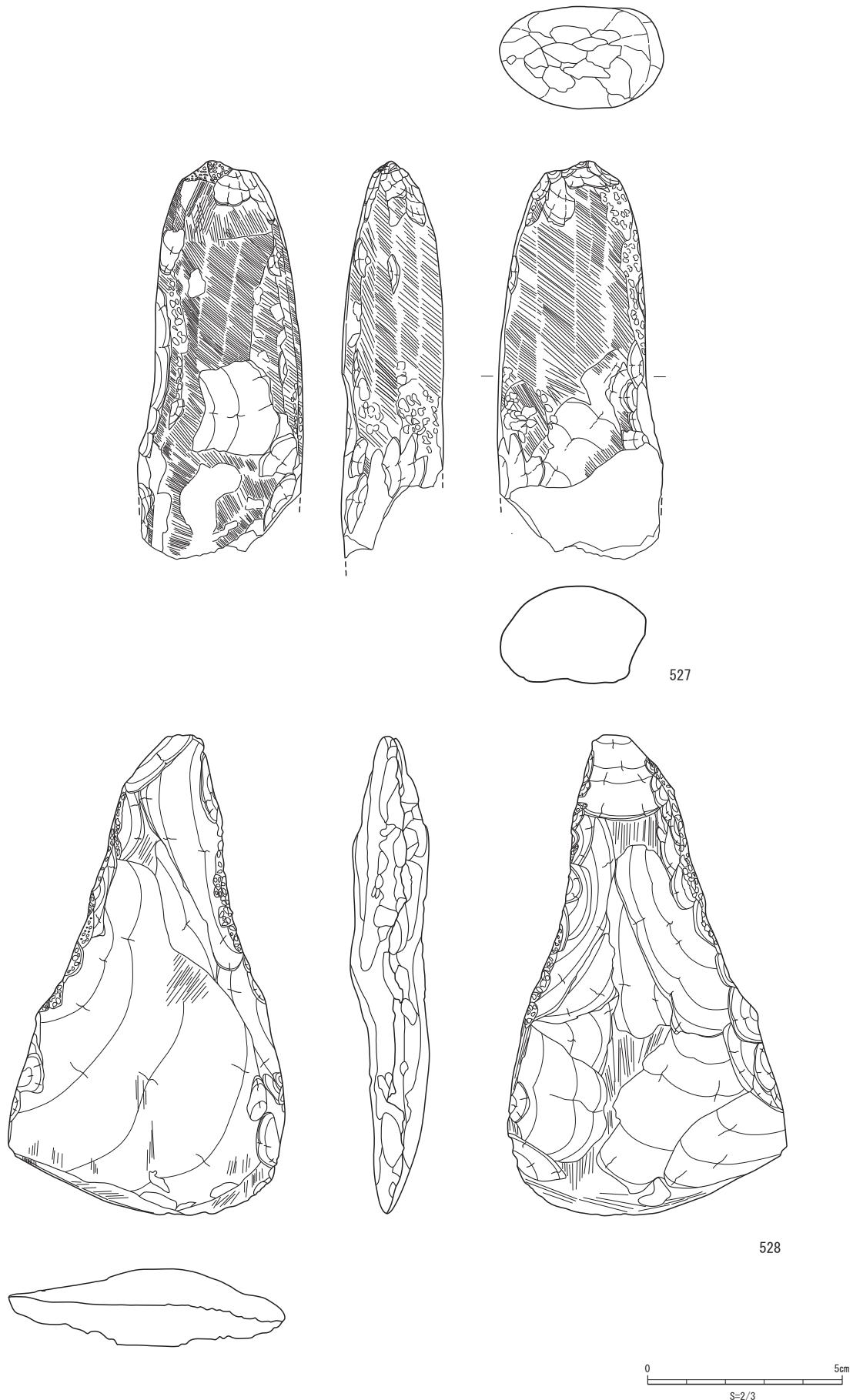
第 193 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 30



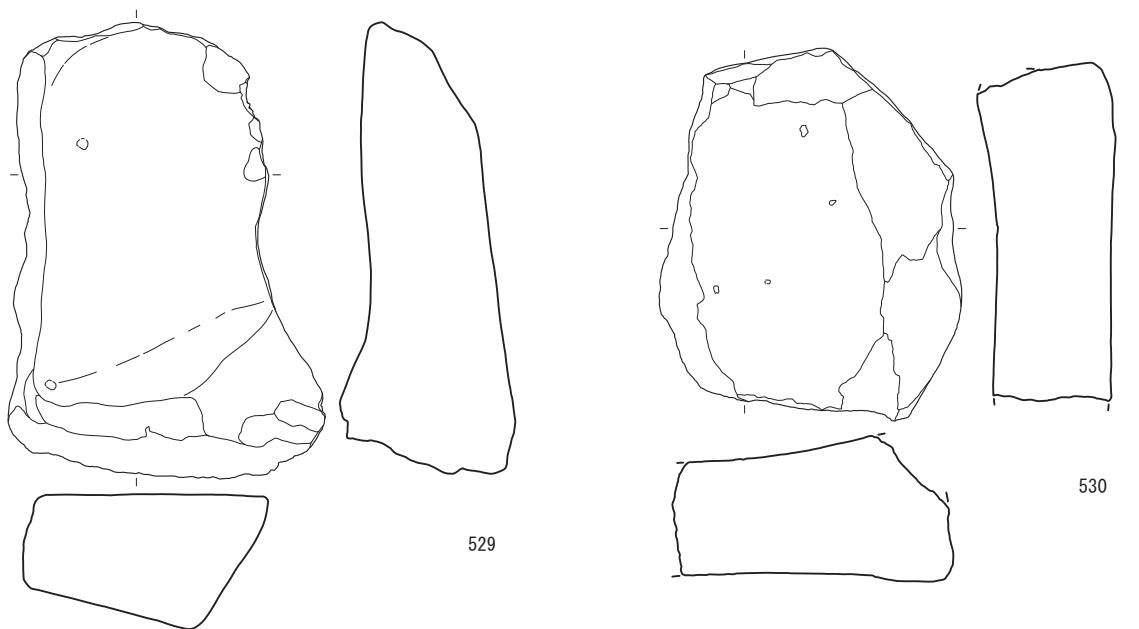
第 194 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 31



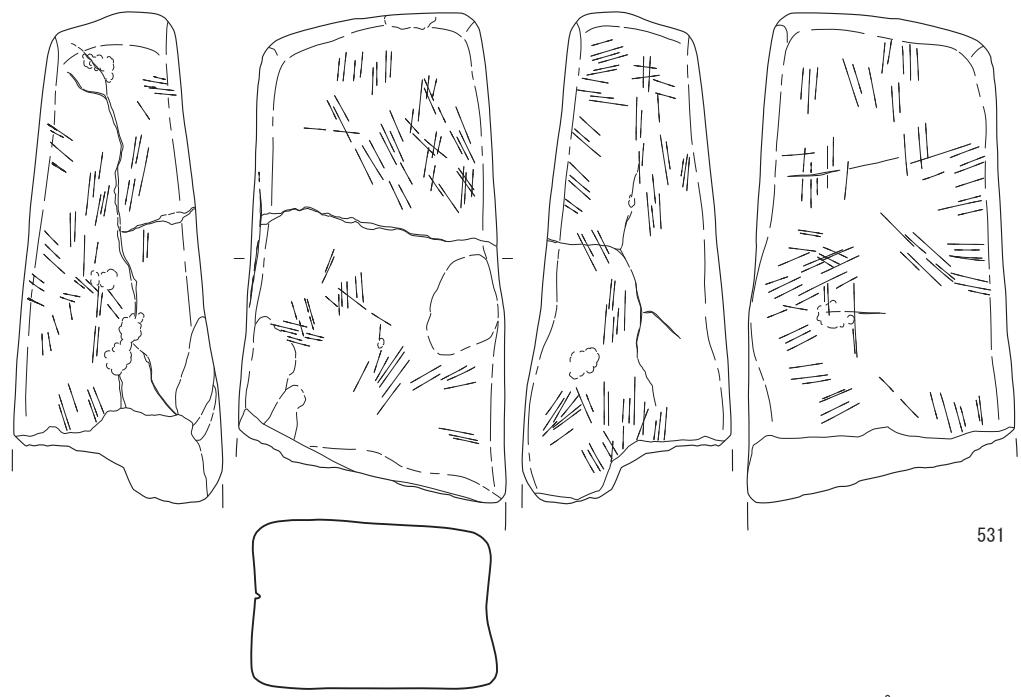
第 195 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 32



第 196 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 33

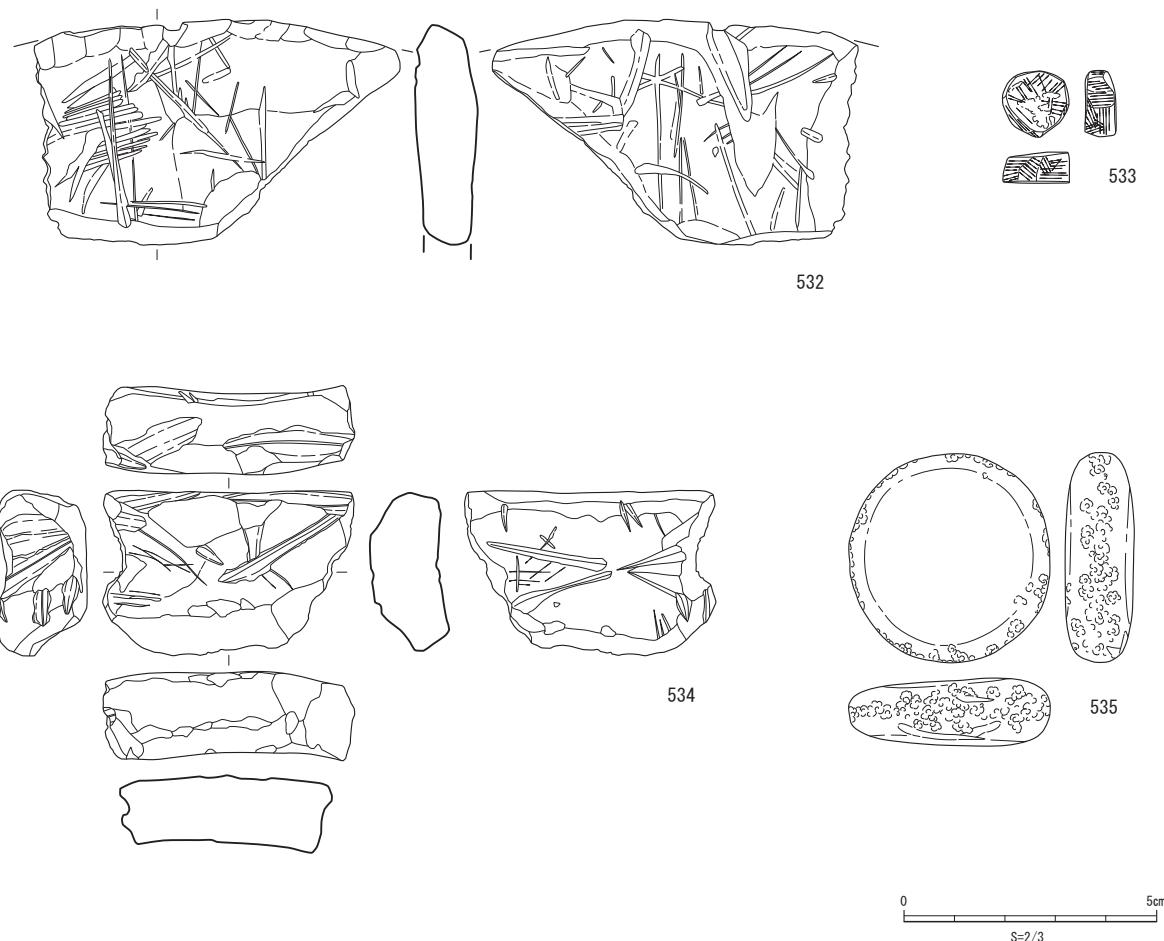


0 10cm  
S=1/5



0 10cm  
S=1/4

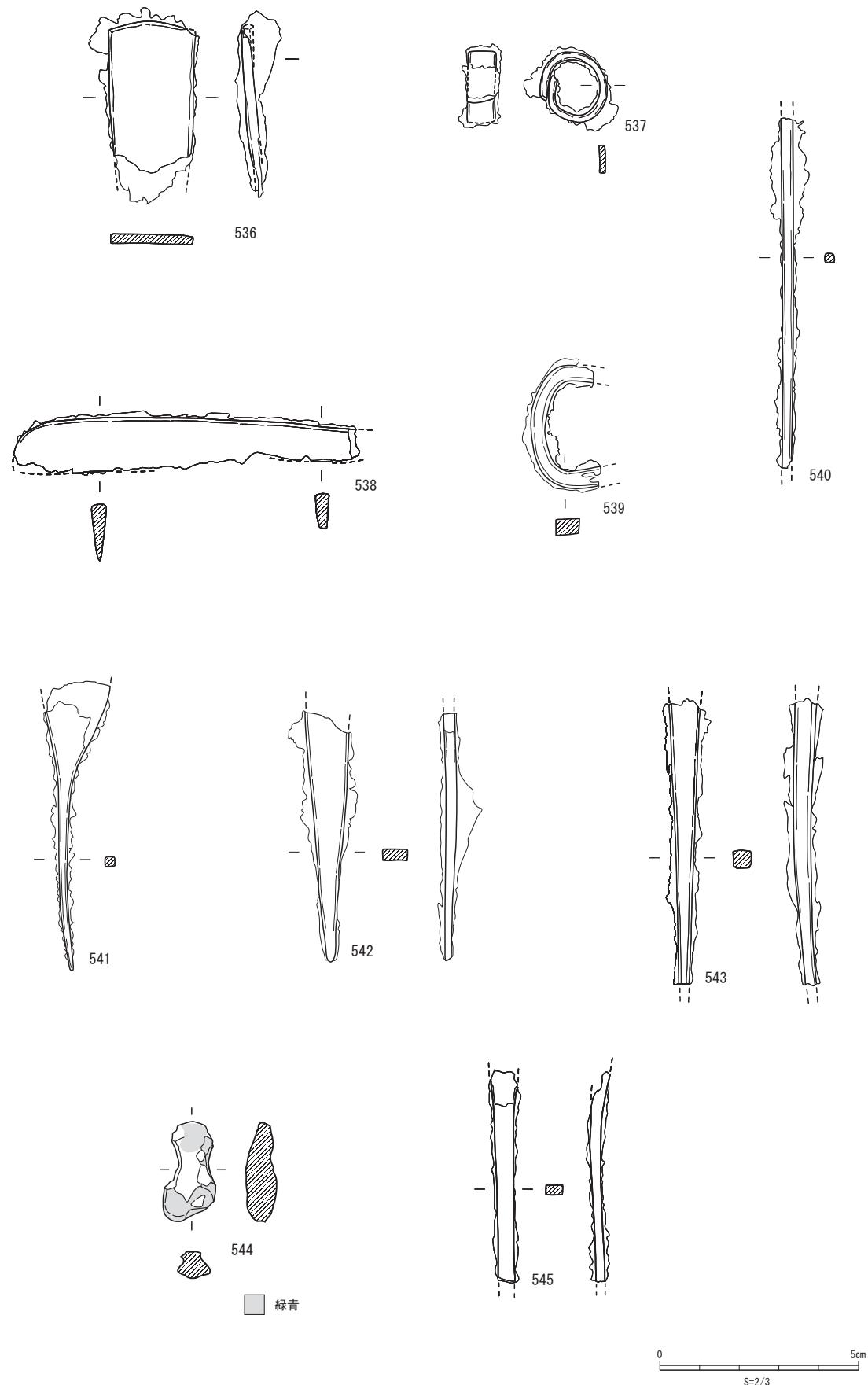
第 197 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 34



第 198 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 35



遺構撮影



第 199 図 桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡 出土遺物実測図 36

## 第V章 自然科学分析

### 第1節 火葬人骨

#### 熊本市桑鶴遺跡群出土の平安時代火葬骨

松下孝幸\*・松下真実\*\*

【キーワード】：熊本県、平安時代人骨、壺棺、火葬骨、女性

#### はじめに

熊本市北区貢町に所在する桑鶴遺跡群 06-I b 区の発掘調査が県道砂原四方寄線建設工事に伴って 2006(平成 18)年におこなわれ、1基の埋葬遺構(遺構番号: SI-01)から人骨が検出された。本遺跡からは本例の他に熊本市の調査で、2014年2月と6月にもそれぞれ1体ずつ人骨が出土しているが、この2体は中世以降の人骨と思われ、火葬されたものではない。

熊本県内では、古代人骨は二本木遺跡群などから出土しているが、火葬骨の例数は少なく、平安時代の火葬骨としては、大江(学苑)遺跡群(松下、2006)と江津湖遺跡群から出土した2例が存在するにすぎない。前者は、堅穴住居(SB39)の床に倒置された状態で出土した甕から検出された火葬骨である(9世紀)。量は重量にして約 790g であった。人骨は3体分が確認され、1体は性別・年齢が不明の火葬骨で、第二頸椎(軸椎)の一部も認められた。その他に男性大腿骨片と女性大腿骨片がそれぞれ1片ずつ認められたが、この大腿骨はいずれも骨になってから火を受けたものである。後者の遺跡からは火葬骨約 22g が蔵骨器から検出された(平安時代)。残存量は著しく少なく、性別・年齢を明らかにできなかった。

本例は熊本県内での平安時代の火葬骨例としては3例目になる。今回出土した火葬骨は量も少なく、大部分が細片状を呈しており、その形質を詳細には知り得なかつたが、解剖学的に精査し、人類学的な観察をおこない、性別などを推測し、被葬者の特徴のごく一部を明らかにできたので、その結果を報告しておきたい。

#### 資料および所見

本人骨は 06-I b 区の埋設土坑に埋置された蓋の付いた壺(遺構番号: SI-01)から検出された。この人骨は骨壺の考古学的所見から 9 世紀の平安時代に属すると推測されている。残存していた人骨片は後述している所見から火葬骨である。残存骨を解剖学的に精査した結果、重複する部分が認められないので、1 体分の火葬された人骨の一部と推断した。なお、本火葬骨は表 1 のとおり、下記の所見から、比較的年齢の若い女性骨と推測される。年齢区分を表 2 に示した。

表 1 出土人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考
06-I b 区 SI-01 人骨	女性	成年～壮年	火葬骨、約 390g

表 2 年齢区分 (Table 2. Division of age)

年齢区分			年齢
未成人	乳児	1 歳未満	
	幼児	1 歳～ 5 歳	(第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6 歳～ 15 歳	(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16 歳～ 20 歳	(蝶後頭軟骨結合癒合まで)

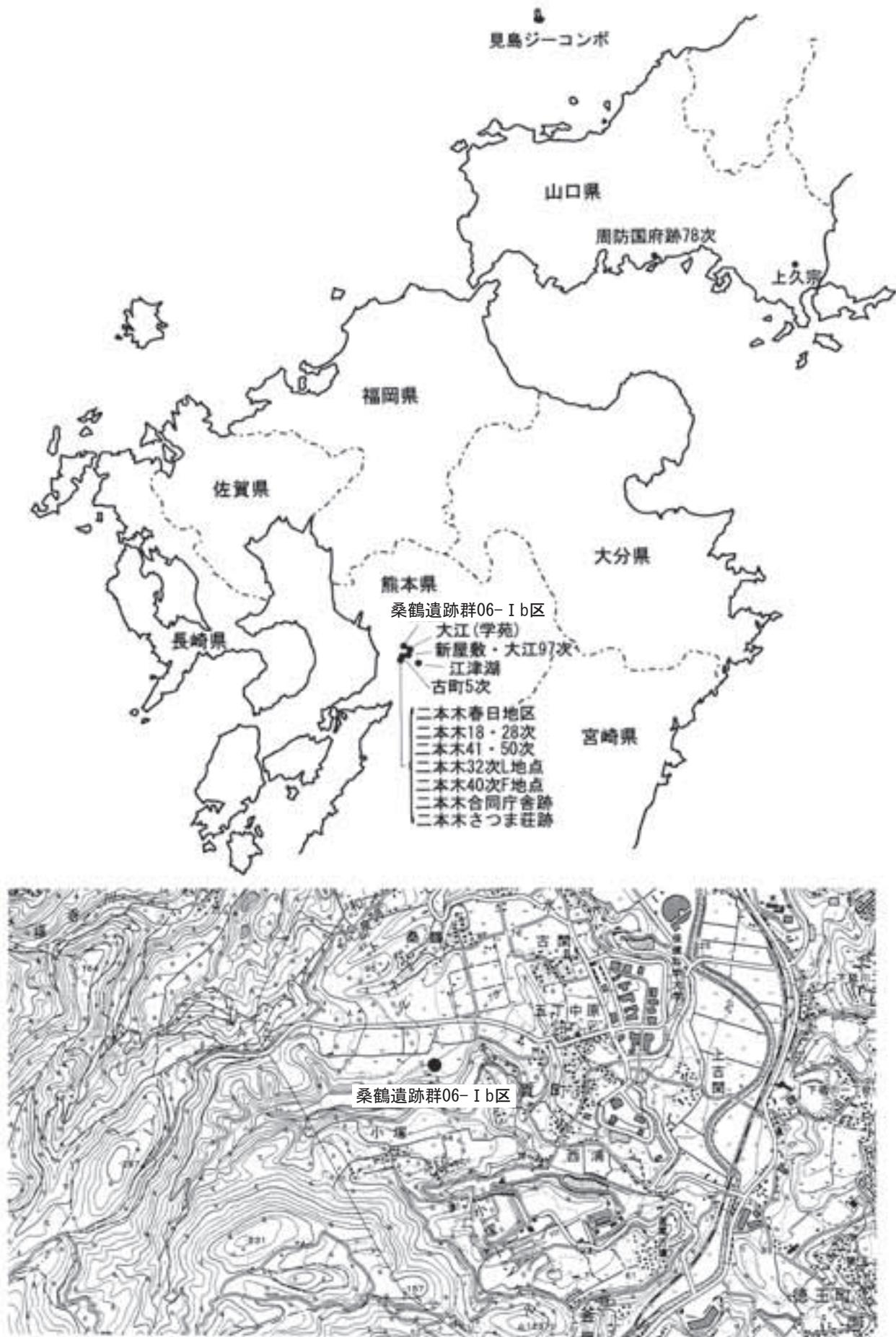


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the area of the 06-I b at the Kuwazuru site, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
熟年		40歳～59歳 (60歳未満)
老年		60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

人骨は2層に分けて取り上げられていた。上層には泥が堆積しており(埋土)、その泥の中には少量の火葬骨片が混じっていた。下層からは火葬骨が検出されている。頭蓋片約70g、四肢骨等の骨片約320g、合計約390gの火葬骨である。ほとんどが細片状態であることから、壺に入れる際に砕かれ、細片にされた可能性が強い。検出された人骨の色調は白もしくは灰色で、黒変している部分もある。骨表面には火葬骨特有の細かい亀裂が走っており、色調やこの亀裂の存在から本人骨が火葬骨であると容易に判断できる。検出された人骨には亀裂が見られるが、骨が飴のように捻れたものがほとんどみられないことから、ある程度軟部組織の腐敗が進行して、骨に近い状態になって火葬されたか、あるいは火葬の温度がそれほど高くなかったものと思われる。火葬骨はほとんどが細片で、もっとも大きいものでも、頭蓋は4cm大、四肢骨では長さが6cm程度である。残存してた骨片群を解剖学的に精査したところ、頭蓋骨片、下顎骨片、四肢骨片、椎骨片、歯根を見いだすことができたが、いずれもその量は少ない。

### 1. 頭蓋

頭蓋の量は少ない。ほとんどが頭頂骨か後頭骨と思われるが、いずれも小片・細片状態で骨壁は薄い。観察できた縫合はいずれも内外両板が明瞭に開離した状態である。下顎骨の中部が残存していた。歯槽の観察もできた。歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。また、歯根が4本残存していた。

/ / / / /	④	③	②	①		①	②	③	/ / / / / /
/ / / / / / / / / /						/ / / / / / / / / /			

[●:歯槽閉鎖 ○:歯槽開存 /:不明 ▽:先天性欠損、番号は歯種]

[1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小白歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯]

### 2. 四肢骨

四肢骨はほとんどが大腿骨、脛骨の骨体の一部であるが、左側の上腕骨体の遠位部が長さ4.5cmにわたって原形を保っていた。その径はかなり細い。

### 3. 胴の骨

椎弓などの椎骨の一部が数点残存していた。

### 4. 性別・年齢

残存していた火葬骨片には寛骨など性判別に必要な部位が存在しなかつたことから、性別を確定することはできなかつたが、上腕骨体がかなり細かつたことだけから推測すれば、女性の可能性が強い。観察できた縫合がいずれも明瞭に開離しており、骨壁も薄いことから、年齢はかなり若いことが推測され、年齢区分で表記すれば、成年(16～20歳)もしくは壮年の前半(20歳代)の可能性が強い。

## 要 約

熊本市北区貢町に所在する桑鶴遺跡群 06-I b 区の 2006 年度におこなわれた発掘調査で、1 基の埋葬遺構（壺）から人骨が検出された。人骨は少量の火葬骨であったが、解剖学的に精査し、人類学的観察をおこない、以下の結果を得た。

1. 埋葬遺構は 1 基のみで、土坑内に埋設された蓋付きの壺（遺構番号：SI-01）の中から火葬骨が検出された。
2. この人骨は、蔵骨器の考古学的所見から、9 世紀の平安時代に属する人骨と推定されている。
3. 火葬骨はほとんどが細片で、その量は重量にして、頭蓋片約 70g、四肢骨等の骨片約 320g、合計約 390g である。
4. 本火葬骨は、成年（16～20 歳）もしくは壮年の前半（20 歳代）の比較的若い女性骨と思われる。
5. 残存していたのは、頭蓋骨片、下顎骨片、四肢骨片、椎骨片、歯根であるが、いずれも細片状であった。ただし、左側の上腕骨体の遠位部は長さ 4.5cm にわたって原形を保っており、その径はかなり細い。
6. 壺に収納されていた火葬骨はヒトひとり分の全身骨ではなく、そのごく一部に過ぎない。壺の容積に比べてその量はあまりにも少ない。このことは、壺に収める量をこの程度にして、その他の大部分の火葬骨を別の場所に遺棄、あるいは埋納、あるいは安置した可能性を示唆している。また、骨が細片状になっているが、これは納骨の際、壺に収めるために碎かれた結果である。今後、火葬という特殊な遺体処理に伴う一連の工程（過程）を考察していく必要があろう。

### 謝辞

《擷筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育庁文化課の皆様に感謝致します。》

### 《参考文献》

5. 松下孝幸、1995b：山口県周東町上久宗遺跡出土の火葬骨。山口県埋蔵文化財調査報告第 174 集：25-30.
6. 松下孝幸、2005c：熊本市二本木遺跡群第 18 次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群 I - 第 18 次調査区発掘調査報告書－：41-46.
7. 松下孝幸、2006：熊本市大江（学苑）遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群 II（熊本県文化財調査報告第 231 集）：80-84.
8. 松下孝幸、2007a：熊本市吉町遺跡第 5 次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第 9 号：148-152.
9. 松下孝幸、2007b：熊本市大江遺跡群第 97 次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群 VI（－第 97 次・第 106 次調査区発掘報告書－）：114-117.
10. 松下孝幸・他、2008：熊本市二本木遺跡群第 28 次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群 V [二本木遺跡群第 28 次調査区 (E～I・K・L・P 地点) 発掘調査報告書] [熊本駅西地区画整理事業にともなう発掘調査報告 (2)]：178-183.
11. 松下孝幸・他、2011：熊本市二本木遺跡群第 41 次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群 X II - 二本木遺跡群第 41 次調査区発掘調査報告書－：127-135.
12. 松下孝幸・他、2010：熊本市二本木遺跡群 40 次調査区 F 地点出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群 X I (熊本駅西地区画整理事業にともなう発掘調査報告 (5))：197-201.
13. 松下孝幸・他、2012a：熊本市二本木遺跡群第 49 次調査区出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群 19 - 二本木遺跡群第 49 次調査区発掘調査報告書－ (熊本市の文化財第 19 集)：77-84.

14. 松下孝幸・他、2012b:熊本市二本木遺跡群（さつま荘跡）出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集):424-435.
15. 松下孝幸、熊本市江津湖遺跡群出土の平安時代火葬骨。(投稿中)
21. 松下真実・他、2012a:熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集):411-423.
22. 松下真実・他、2012b:熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集):398-410.

---

\* Takayuki MATSUSHITA、\*\* Masami MATSUSHITA



左側上腕骨 (The left humerus)



四肢骨 (The limb bones)  
桑鶴遺跡群 06-I b区 SI-01 (女性・年齢不明)  
(The skeleton 06-Ib, from the Kuwazuru sites No.2 female unknown age)

## 第2節 放射性炭素年代測定

### (1) 五丁中原遺跡 I 区

#### 熊本県教育庁文化課：五丁中原遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

### 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壤、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

### 2. 試料と方法

試料名	地点・層準等	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	F-3 グリッド, IVb 層	土壤	acid washes	AMS
No. 2	F-3 グリッド, V層上部	土壤	acid washes	AMS
No. 3	F-3 グリッド, V層下部	土壤	acid washes	AMS
No. 4	F-3 グリッド, VI層	土壤	acid washes	AMS
No. 5	F-3 グリッド, VII層上部	土壤	acid washes	AMS
No. 6	F-3 グリッド, VII層下部	土壤	acid washes	AMS

acid washes : 酸洗浄、AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

### 3. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	暦年代 (較正年代) ( $2\sigma$ : 95%確率, $1\sigma$ : 68%確率)
No. 1	276682	5260 ± 40	-20.4	5340 ± 40	交点 : Cal BC 4230 $2\sigma$ : Cal BC 4320–4290, 4270–4040 $1\sigma$ : Cal BC 4250–4160, 4130–4060
No. 2	276683	6630 ± 40	-21.1	6690 ± 40	交点 : Cal BC 5620 $2\sigma$ : Cal BC 5660–5550 $1\sigma$ : Cal BC 5640–5610, 5580–5570
No. 3	276684	8660 ± 50	-21.1	8720 ± 50	交点 : Cal BC 7730 $2\sigma$ : Cal BC 7950–7600 $1\sigma$ : Cal BC 7790–7610
No. 4	276685	10700 ± 50	-20.0	10780 ± 50	交点 : Cal BC 10870 $2\sigma$ : Cal BC 10910–10830 $1\sigma$ : Cal BC 10890–10860
No. 5	276686	17070 ± 70	-18.3	17180 ± 70	交点 : Cal BC 18360 $2\sigma$ : Cal BC 18480–18210 $1\sigma$ : Cal BC 18420–18290
No. 6	276687	19570 ± 80	-17.7	19690 ± 80	交点 : Cal BC 21660 $2\sigma$ : Cal BC 21840–21430 $1\sigma$ : Cal BC 21760–21530

BP : Before Physics (Present), Cal : Calibrated, BC : 紀元前

(1) 未補正<sup>14</sup>C年代

試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は5,730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いている。

(2)  $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正する。

(3) <sup>14</sup>C年代

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。曆年代較正にはこの年代値を使用する。

## (4) 曆年代(Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動および<sup>14</sup>Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。曆年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な<sup>14</sup>C測定値およびサンゴのU/Th(ウラン/トリウム)年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線(IntCal04)を使用した。IntCal04ではBC24050年までの換算が可能である(樹木年輪データはBC10450年まで)。

曆年代の交点は、<sup>14</sup>C年代値と較正曲線との交点の曆年代値を示し、 $1\sigma$ (68%確率)と $2\sigma$ (95%確率)は、<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。

## 4. 所見

加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定の結果、No.1では $5340 \pm 40$ 年BP( $2\sigma$ の曆年代でBC 4320～4290, 4270～4040年)、No.2では $6690 \pm 40$ 年BP(BC 5660～5550年)、No.3では $8720 \pm 50$ 年BP(BC 7950～7600年)、No.4では $10780 \pm 50$ 年BP(BC 10910～10830年)、No.5では $17180 \pm 70$ 年BP(BC 18480～18210年)、No.6では $19690 \pm 80$ 年BP(BC 21840～21430年)の年代値が得られた。

なお、土壤試料による年代測定結果は、その土壤が生成された当時の年代を示しており、文化層としての年代観とは必ずしも一致しない場合がある。

## 文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26–0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029–1058.

中村俊夫(1999)放射性炭素法.考古学のための年代測定学入門.古今書院, p.1-36.

## (2) 桑鶴遺跡群Ⅱ区

## 熊本県教育庁文化課：桑鶴遺跡群における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

## 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壤、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

## 2. 試料と方法

試料名	地点・層準等	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	B-5 グリッド, II層	土壤	acid washes	AMS
No. 2	B-5 グリッド, II'層	土壤	acid washes	AMS
No. 3	B-5 グリッド, III層	土壤	acid washes	AMS
No. 4	B-5 グリッド, IV層	土壤	acid washes	AMS
No. 5	B-5 グリッド, V層	土壤	acid washes	AMS
No. 6	B-5 グリッド, VI層	土壤	acid washes	AMS

acid washes : 酸洗浄、AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

## 3. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	暦年代 (較正年代) ( $2\sigma$ : 95%確率, $1\sigma$ : 68%確率)
No. 1	276688	5860 ± 40	-20.5	5930 ± 40	交点 : Cal BC 4800 $2\sigma$ : Cal BC 4910–4720 $1\sigma$ : Cal BC 4840–4770
No. 2	276689	7840 ± 50	-20.6	7910 ± 50	交点 : Cal BC 6750, 6720, 6700 $2\sigma$ : Cal BC 7040–6640 $1\sigma$ : Cal BC 6900–6890, 6830–6670
No. 3	276690	8820 ± 50	-20.4	8900 ± 50	交点 : Cal BC 8200, 8040, 8010 $2\sigma$ : Cal BC 8250–7930, 7890–7840 $1\sigma$ : Cal BC 8220–7960
No. 4	276691	10800 ± 50	-19.2	10900 ± 50	交点 : Cal BC 10920 $2\sigma$ : Cal BC 10960–10880 $1\sigma$ : Cal BC 10940–10900
No. 5	276692	20870 ± 130	-19.4	20960 ± 130	(暦年代較正の範囲外)
No. 6	276693	21900 ± 130	-18.3	22010 ± 130	(暦年代較正の範囲外)

BP : Before Physics (Present), Cal : Calibrated, BC : 紀元前

(1) 未補正<sup>14</sup>C年代

試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は5,730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いている。

(2)  $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正する。

(3) <sup>14</sup>C年代

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。

## (4) 暦年代(Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動および<sup>14</sup>Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な<sup>14</sup>C測定値およびサンゴのU/Th(ウラン/トリウム)年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線(IntCal04)を使用した。IntCal04ではBC24050年までの換算が可能である(樹木年輪データはBC10450年まで)。

暦年代の交点は、<sup>14</sup>C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、 $1\sigma$ (68%確率)と $2\sigma$ (95%確率)は、<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。

## 4. 所見

加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定の結果、No.1では5930±40年BP( $2\sigma$ の暦年代でBC 4910～4720年)、No.2では7910±50年BP(BC 7040～6640年)、No.3では8900±50年BP(BC 8250～7930, 7890～7840年)、No.4では10900±50年BP(BC 10960～10880年)、No.5では20960±130年BP(暦年代較正の範囲外)、No.6では22010±130年BP(暦年代較正の範囲外)の年代値が得られた。

なお、土壤試料による年代測定結果は、その土壤が生成された当時の年代を示しており、文化層としての年代観とは必ずしも一致しない場合がある。

## 文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26–0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029–1058.

中村俊夫(1999)放射性炭素法.考古学のための年代測定学入門.古今書院,p.1-36.

## (3) 桑鶴遺跡群VIII区

## 熊本県教育庁文化課：桑鶴遺跡群における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

## 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壤、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

## 2. 試料と方法

試料名	地点・層準等	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	VIII区, IVb層	土壤	acid washes	AMS
No. 2	VIII区, VI層	土壤	acid washes	AMS
No. 3	VIII区, VII層上部	土壤	acid washes	AMS
No. 4	VIII区, VII層中部	土壤	acid washes	AMS
No. 5	VIII区, VII層下部	土壤	acid washes	AMS
No. 6	VIII区, VIII層	土壤	acid washes	AMS

acid washes : 酸洗浄、AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

## 3. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	暦年代(較正年代) ( $2\sigma$ : 95%確率, $1\sigma$ : 68%確率)
No. 1	308325	5520 ± 30	-19.9	5600 ± 30	交点 : Cal BC 4450 $2\sigma$ : Cal BC 4490–4360 $1\sigma$ : Cal BC 4460–4440, 4420–4370
No. 2	308326	12190 ± 50	-19.7	12280 ± 50	交点 : Cal BC 12180 $2\sigma$ : Cal BC 12270–12080 $1\sigma$ : Cal BC 12220–12110
No. 3	308327	13800 ± 50	-19.1	13900 ± 50	交点 : Cal BC 14990 $2\sigma$ : Cal BC 15060–14930 $1\sigma$ : Cal BC 15020–14960
No. 4	308328	17160 ± 60	-18.2	17270 ± 60	交点 : Cal BC 18470 $2\sigma$ : Cal BC 18560–18390 $1\sigma$ : Cal BC 18520–18420
No. 5	308329	19160 ± 70	-18.2	19270 ± 70	交点 : Cal BC 21240, 21200, 21040 $2\sigma$ : Cal BC 21360–20680 $1\sigma$ : Cal BC 21310–20980, 20840–20730
No. 6	308330	18090 ± 60	-18.3	18200 ± 60	交点 : Cal BC 19610 $2\sigma$ : Cal BC 20040–19560 $1\sigma$ : Cal BC 19720–19580

BP : Before Physics (Present), Cal : Calibrated, BC : 紀元前

(1) 未補正<sup>14</sup>C年代

試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は5,730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いている。

(2)  $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正する。

(3) <sup>14</sup>C年代

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。

## (4) 暦年代(Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動および<sup>14</sup>Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な<sup>14</sup>C測定値およびサンゴのU/Th(ウラン/トリウム)年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線(IntCal09)を使用した。

暦年代の交点は、<sup>14</sup>C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、 $1\sigma$ (68%確率)と $2\sigma$ (95%確率)は、<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。

## 4. 所見

加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定の結果、No.1では $5600 \pm 30$ 年BP( $2\sigma$ の暦年代でBC 4490～4360年)、No.2では $12280 \pm 50$ 年BP(BC 12270～12080年)、No.3では $13900 \pm 50$ 年BP(BC 15060～14930年)、No.4では $17270 \pm 60$ 年BP(BC 18560～18390年)、No.5では $19270 \pm 70$ 年BP(BC 21360～20680年)、No.6では $18200 \pm 60$ 年BP(BC 20040～19560年)の年代値が得られた。

なお、土壤試料による年代測定結果は、その土壤が生成された当時の年代を示しており、文化層としての年代観とは必ずしも一致しない場合がある。

## 文献

Paula J Reimer et al., (2009) IntCal 09 and Marine 09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, p.1111–1150.

中村俊夫(1999)放射性炭素法.考古学のための年代測定学入門.古今書院, p.1-36.

## 第VI章 遺構・遺物データ

第4表 遺構データ表

## 集石データ

クワ=桑鶴遺跡群 ゴナ=五丁中原遺跡

挿図	調査区	遺構	グリッド	法量m (推定)			礫の総数	火受率%	堀込みの有無・規模	出土石器・土器
				長軸	短軸	深さ				
33	クワ	06-I b	1号集石	I-7	1.70	1.06		55	0.01	なし 磨石
33	クワ	06-I c	2号集石	L-10	2.80	2.00		58	0.03	なし 土器・磨石
34	クワ	06-I c	3号集石	G-8	2.00	1.50		39		なし 押型文土器 凹石・台石
34	クワ	06-I c	4号集石	F-7	1.00	0.80		23		なし
35	クワ	06-I c	5号集石	G-6	1.30	0.70		28		なし 凹石 (45)
35	クワ	06-I c	6号集石	F-6	1.90	1.10		35		なし 押型文土器 (46)
41	クワ	II	7号集石	B-3・4				60	11	なし
44	クワ	VII	8号集石	C-6・7	6.00			21	57	なし
44	クワ	VII	9号集石	C-D-6				3		1.37×1.2×0.6 円形 条痕文土器
52	ゴナ	III	10号集石	I-10・11	1.23	0.50		17	47	

## SHデータ

挿図	調査区	遺構	グリッド	法量m (推定)			面積 m <sup>2</sup> (推定)	平面形態	断面形状	備考
				長軸	短軸	深さ				
59	クワ	I	SH-01	B-4・5	3.37	3.18	0.18	10.71	隅丸方形	
73	クワ	III	SH-01	A-2	5.12	2.65～	0.69	13.56～	隅丸方形カ	凹状
74	クワ	III	SH-03	B-1・2	3.50～	4.10	0.61	14.35～	長方形	凹状
75	クワ	III	SH-04	C-1						主要遺構は調査区外
76	クワ	III	SH-05	C-D-1・2	5.40	3.90～	0.46	21.06～	隅丸方形	
77	クワ	III	SH-05内土坑	C-2	0.66	0.57～	0.17		橢円形	凹状
80	クワ	III	SH-06	C-2・3	3.0～	2.50～	0.41	7.50～	長方形	凹状
81	クワ	III	SH-07	C-2・3	4.23～	4.14	0.44	17.51～	隅丸方形	凹状
84	クワ	III	SH-08	C-2・3	2.93～	2.66～	0.37	7.79～	長方形	凹状
86	クワ	III	SH-09	C-2・3			0.50			凹状
88	クワ	III	SH-10	B-C-3・4	3.68	3.63	0.45	13.35	隅丸方形	凹状
92	クワ	III	SH-11	B-C-3・4	4.56	4.44	0.33	20.24	隅丸方形	凹状
95	クワ	III	SH-12	B-C-4	5.91	5.20	0.42	30.73		凹状
102	クワ	III	SH-13	B-C-3	4.04	3.50	0.35	14.14	長方形	凹状
104	クワ	III	SH-14内土坑	C-1・2	0.64	0.57	0.11		不定	凹状 灯明皿(150)
106	クワ	III	SH-15	C-3	3.84	(2.55)	0.48	(9.79)	隅丸方形	凹状
109	クワ	III	SH-16	C-3	4.90	3.98	0.32	19.50	長方形	凹状
112	クワ	III	SH-17	C-3	4.18	(3.47)	0.38	(14.50)	隅丸方形	凹状
115	クワ	III	SH-18	C-3			0.61			凹状
116	クワ	III	SH-19	C-3	(3.20)	(2.91)	0.12～	(9.31)		凹状

SH データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			面積 m <sup>2</sup> (推定)	平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ				
117	クワ	III	SH-20	C-3							個別図なし
121	クワ	IV	SH-01	B-4	2.85	2.52	0.33	7.18	隅丸方形	凹状	
152	クワ	VII	SH-01 P-01	A-12+13	3.80~		0.48				
152	クワ	VII	SH-01 P-01	A-13	0.48	0.48	0.60		円形	U字状	
104	クワ	III	SH-14	C-1+2	4.70~	(3.75)					

SB データ

挿図	調査区		遺構	規格 梁×桁	方位 N-86° -E	検出レベル m	グリッド	梁		桁	
								m [平均値]	P=ピット番号	m [平均値]	P=ピット番号
127	クワ	III	SB-01	2×3	N-86° -E	76.85	C-D-2	P4-P5-P12 P3-P6-P11 P2-P7-P10 P1-P8-P9	1.86+1.88[1.87] 1.76+1.96[1.86] 1.94+1.66[1.8] 2.06+[1.86]	P1-P4 P5-P8 P9-P12	1.84+1.68+1.82[1.78] 1.74+1.80+1.66[1.73] 1.80+1.68+1.68[1.72]
128	クワ	III	SB-02			76.92	E-F-2	P3-P5	2.38+2.20[2.29]	P1-P3 P5-P6	2.46+2.18[2.32] 2.14
128	クワ	III	SB-03	2×3	E-85° -N	76.30	D-2	P1-P3 P6-P8	2.08+1.96[2.02] 2.0+2.0[2.0]	P1-P10-P9-P8 P3-P6	2.20+2.22+2.20[2.20] 2.18+2.08+2.26[2.17]
129	クワ	III	SB-04	2×3	N-87° -E	77.04	D-3+4	P1-P3 P4-P6 P7-P9 P10-P12	2.1+1.8[1.95] 1.7+1.8[1.75] 1.5+1.9[1.7] 1.6+1.8[1.7]	P1-P6-P7-P12 P2-P5-P8-P11 P3-P4-P9-P10	2.0+2.2+2.2[2.13] 2.2+1.8+2.0[2.0] 2.1+1.9+2.0[2.0]
130	クワ	III	SB-05	2×2	N-86° -E	76.50	D-4	P1-P3 P4-P6-P7 P9-P11	1.6+1.7[1.65] 1.9+1.7[1.8] 1.6+1.6[1.6]	P1-P7-P9 P2-P6-P10 P3-P4-P11	1.8+2.7[2.25] 1.5+3.2[2.35] 1.7+3.0[2.35]
130	クワ	III	SB-06	2×3	N-87° -E	76.71	C-3+4	P1-P3 P6-P8	2.3+2.1[2.2] 2.0+2.3[2.15]	P1-P11-P9-P8 P3-P6	2.2+2.5+2.0[2.23] 1.7+2.7+1.7[2.03]
132	クワ	V	SB-01	4×5	N-90° -E	75.80	B-C-4+5	P7-P11 P3-P15 P1-P2	1.45+0.96+0.95+1.53[1.22] 2.77 1.4	P2-P7 P11-P13	1.7+1.69+1.60+1.70+1.70[1.67] 1.69+2.0[1.84]

ST データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
68	クワ	II	ST-01	B-3+4	1.09	0.90	0.24	円形	凹状	
68	クワ	II	ST-02	C-3+4	2.04	0.73	0.30	楕円形	凹状	
70	クワ	III	ST-01	C-2	0.83	0.81	0.18	不定形	皿状	
71	クワ	III	ST-04	D-E-3	1.21	0.75	0.38	不定形	凹状	
71	クワ	III	ST-07	E-4	0.13	0.70		楕円形		場所特定できず
124	クワ	V	ST-01	C-5	(0.96)	(0.92)	0.15	不定形	皿状	
125	クワ	V	ST-02	D-3	0.55	0.36	0.47	不定形	すり鉢状	
118	クワ	VI	ST-01	D-6+7	0.92	0.77	0.17	円形	皿状	
118	クワ	VI	ST-02	D-5	0.72	0.72	0.20	円形	凹状	
118	クワ	VI	ST-03	D-5	2.08	1.56	0.25	楕円形	皿状	
148	クワ	VII	ST-01	B-10+11	1.25	0.85	0.19	楕円形	皿状	
148	クワ	VII	ST-02	D-E-9	1.07	1.10	0.42	三角形	すり鉢状	
148	クワ	VII	ST-03	F-9+10	1.06	0.92	0.18	円形	皿状	
148	クワ	VII	ST-04	F-7	1.04	0.95	0.10	円形	皿状	

## ST データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
148	クワ	VII	ST-05	D-10	0.80	0.71	0.38	隅丸方形	すり鉢状	
148	クワ	VII	ST-07	D-4・5	1.64	0.86	0.18	楕円形	皿状	
149	クワ	VII	ST-08	A-11	1.87	1.06	0.25	不定形	凹状	
45	クワ	VII	ST-09	E-6	0.70	0.28	0.06	不定形	皿状	
149	クワ	VII	ST-10	A-12	0.73	0.55	0.27	楕円形カ	凹状	
45	クワ	VII	ST-11	F-4	0.93	0.50	0.17	不定形	皿状	
157	クワ	VII	ST-12	E-5	1.32	0.59	0.28	楕円形	凹状	
151	クワ	VII	ST-15	G・H-9	1.67	0.80	0.30	不定形	凹状	
151	クワ	VII	ST-16	F-8	0.83	0.74	0.19	不定形	凹状	
157	クワ	VII	ST-18	D・E-5	1.13	0.75	0.22	楕円形	凹状	
157	クワ	VII	ST-19	C-11	1.24	0.52	0.36	不定形	皿状・すり鉢状	
156	クワ	VII	ST-20	B-12	0.87	0.60	0.40	不定形	皿状・U字状	
156	クワ	VII	ST-21	B-12	0.83	0.63	0.37	円形	すり鉢状	
156	クワ	VII	ST-22	D-12	(1.55)	(0.50)	0.23	楕円形	皿状	
157	クワ	VII	ST-23	C-10	1.23	0.99	0.49	円形	凹状	
157	クワ	VII	ST-24	C-9	1.43	0.92	0.20	不定形	不定	
156	クワ	VII	ST-25	F-11・12	3.60	1.56	1.01	円形	U字状	
157	クワ	VII	ST-26	B-9	(1.38)	(0.72)	0.19	不定形	皿状	
157	クワ	VII	ST-27	E-7	2.23	0.77	0.43	不定形	皿状	
157	クワ	VII	ST-28	F-8・9	0.82	0.69	0.46	円形	皿状・U字状	
149	クワ	VII	ST-29	G-9	0.88	0.40	0.28	不定形	皿状	
158	クワ	VII	ST-30	E-10	0.80	0.69	0.60	円形	U字状	
158	クワ	VII	ST-31	C-11	0.75	0.64	0.72	円形	U字状	
161	ゴナ	I	ST-04	C-5	0.96	0.90	0.19	不定形	凹状	
161	ゴナ	I	ST-06	C-4	0.83	0.80	0.16	円形	凹状	
161	ゴナ	I	ST-07	D-7	0.92	0.73	0.12	円形	凹状	
161	ゴナ	I	ST-08	D-6	0.93	0.92	0.30	円形	凹状	
163	ゴナ	I	ST-11	B-5	1.12	0.90	0.18	円形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-12	C-5	0.92	0.83	0.79	円形	凹状	
163	ゴナ	I	ST-13	E-5	1.40	0.70	0.12	不定形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-14	E-5	1.47	0.69	0.19	楕円形	凹状	
163	ゴナ	I	ST-15	D-3	1.08	1.05	0.27	円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-16	B-6	0.94	0.58	0.16	楕円形	皿状	

## ST データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
164	ゴナ	I	ST-17	B-6	1.23	1.03	0.23	円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-18	B-7	1.94	1.84	0.84	方形	凹状	
164	ゴナ	I	ST-19	B-7	0.91	0.74	0.14	円形	凹状	
164	ゴナ	I	ST-20	A-6	0.96	0.86	0.08	円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-21	A-6	1.51	0.92	0.17	楕円形	皿状	
164	ゴナ	I	ST-22	B-7	(1.36)	(0.68)	0.84	不定形	U字状	
163	ゴナ	I	ST-23	B-4	(2.10)	(0.92)	0.13	不定形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-24	C-3	0.57	0.49	0.06	円形	皿状	
163	ゴナ	I	ST-25	C-D-5	1.26	0.96	0.15	楕円	皿状	
163	ゴナ	I	ST-26	C-D-5	0.80	0.70	0.37	円形	V字状	
159	ゴナ	I	ST-27	D-7	2.06	1.88	0.28	円形	皿状	
46	ゴナ	II	ST-28	K-18	0.84	0.70	0.18	円形	皿状	
46	ゴナ	II	ST-29	J-19	0.98	0.65	0.12	楕円形	凹状	
46	ゴナ	II	ST-30	K-18	0.80	0.70	0.16	円形	凹状	
46	ゴナ	II	ST-32	I-16	0.91	0.70	0.16	円形	凹状	
46	ゴナ	II	ST-33	I-15	0.89	0.80	0.09	円形	皿状	
46	ゴナ	II	ST-34	G-17	(0.50)	0.34~	0.27	不明	凹状	
48	ゴナ	II	ST-53	I-J-17	1.10	0.42	1.18 0.91	不定形	不定	
49	ゴナ	II	ST-54	H-17	1.59	0.34	0.16	隅丸長方形	凹状	
48	ゴナ	II	ST-56	K-18	1.04	0.80	0.86	楕円形	U字状	
48	ゴナ	II	ST-57	J-K-19	1.20	0.80	0.18	不定形	皿状	
48	ゴナ	II	ST-58	J-18・19	1.92	0.90	0.13	不定形	皿状	
49	ゴナ	II	ST-59	G-H-16	1.11	0.34	0.20	不定形	皿状△	
49	ゴナ	II	ST-60	I-18	1.14	0.40	0.22	不定形	凹状	
48	ゴナ	II	ST-61	K-17	1.10	0.42	0.26	不定形	U字状	
49	ゴナ	II	ST-62	G-17・18	(0.78)	(0.76)	0.32	不定形	すり鉢状△	
49	ゴナ	II	ST-63	G-17	(1.16)	(0.57)	0.20	不明	皿状△	
49	ゴナ	II	ST-65	I-17	1.15	0.75	0.30	不定形	不定	
167	ゴナ	III	ST-38	J-11	1.30	0.48	0.17	不定形	凹状	
167	ゴナ	III	ST-39	I-10	0.90	0.46	0.20	不定形	皿状	
167	ゴナ	III	ST-40	J-11	0.60	0.37	0.15	不定形	凹状	
167	ゴナ	III	ST-41	J-9	1.03	0.65	0.12	不定形	凹状	
167	ゴナ	III	ST-42	I-12	0.95	0.48	0.14	不定形	凹状	

## ST データ

挿図	調査区		造構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
167	ゴナ	Ⅲ	ST-43	I-11	0.61	0.38	0.20	不定形	凹状	
167	ゴナ	Ⅲ	ST-44	K-7・8	0.66	0.56	0.18	不定形	凹状	
167	ゴナ	Ⅲ	ST-45	L-6	0.84	0.48	0.37	不定形	すり鉢状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-46	L-8	0.73	0.60	0.14	不定形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-47	K-8	0.87	0.60	0.20	不定形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-48	K-7	0.93	0.72	0.28	不定形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-49	M-L-5・6	(0.86)	(0.34)	0.22	橢円形	凹状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-50	L-5	0.97	0.57	0.16	不定形	皿状	
168	ゴナ	Ⅲ	ST-51	N-7	0.97	0.50	0.23	不定形	凹状	
169	ゴナ	Ⅲ	ST-66	L-9			0.55	不定形	U字状	

## SK データ

挿図	調査区		造構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
56	クワ	06-I b	SK-01	D-2	3.35	1.21	0.17	橢円	凹状	
39	クワ	06-I b	SK-02	G-3	2.67	0.71	0.40	隅丸長方形	凹状	燃焼土坑
140	クワ	06-I b	SK-04	N-6	1.15	1.15	0.21	方形	凹状	
39	クワ	06-I b	SK-05	B-C-2	1.72	0.81		長方形	凹状	
56	クワ	06-I c	SK-06	M-9	0.84	0.84	0.07	不定形	皿状	
140	クワ	06-I c	SK-07	K-8	0.95	0.74	0.25	橢円形	凹状	
140	クワ	06-I c	SK-08	J-7・8	1.51	0.73	0.18	橢円形	皿状	
140	クワ	06-I c	SK-09	E-7	1.81	0.85	0.28	橢円形	凹状	
143	クワ	06-II b	SK-10	H-G-14	1.13	0.93	0.08	不定形	凹状	
143	クワ	06-II b	SK-11	F-13	1.07	0.80	0.30	橢円形	U字状	
143	クワ	06-II b	SK-12	I-12	0.86	0.45	0.43	不定形	すり鉢状	
143	クワ	06-II b	SK-13	H-12	1.13	0.65	0.45	不定形	不定	

## SO データ

挿図	調査区		造構	グリッド	法量m(推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
154	クワ	Ⅷ	S01	C-7	2.26	0.83	0.65	不定形	凹状	
155	クワ	Ⅷ	S02	C-7	0.70~	(0.75~)	(0.42)	不定形	凹状	
155	クワ	Ⅷ	S03	C-7	0.88~	(0.64~)	(0.31)	不定形	凹状	
155	クワ	Ⅷ	S04	C-7	0.60~	(0.88)	(0.45)	不定形	凹状	

## SDデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ		
133	クワ	V	SD-01	A~D-1~3	10.36	6.28	1.44	U字状	
166	ゴナ	III	SD-01	L~0-3~6	11.32	1.70	0.12~0.37	皿状・すり鉢状	
136	クワ	06-I a	SD-01	P-8・9	4.50	1.80	0.20	凹状	
137	クワ	06-I a	SD-02	O・P-8~10	8.50	0.60	0.14	凹状	
137	クワ	06-I a	SD-03	O・P-7~9	11.30	1.10	0.20	皿状	
138	クワ	06-I a	SD-04	N・O-8・9	5.50	0.40	0.10	皿状	
137	クワ	06-I a	SD-05	N・O-9・10	8.80	1.00	0.27	凹状	
139	クワ	06-I a	SD-06	N~P-10・11	5.10	1.10	0.17	皿状	別々に検出したが連続する可能性
139	クワ	06-I c	SD-06	L・M-9・10	8.60	1.10	1.65	皿状	
57	クワ	06-I b	SD-07	G・H-4~7	15.60	1.70	0.5~0.62	凹状	
138	クワ	06-I b	SD-08	A~I-1~4	45.2~	0.60	0.08	皿状・凹状	
54	クワ	06-I c	SD-09	B~G-6~8	23.5~	1.10	0.25~1.05	すり鉢状・凹状	
123	クワ	06-I c	SD-10	L・M-9~11	5.50	1.30	0.28~0.52	凹状	
144	クワ	06-II a	SD-11	P-O-18	4.10	0.75	0.20	凹状	
144	クワ	06-II b	SD-12	F-13・14	4.60	0.82	0.20	凹状	

## Pitデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
61	クワ	I	Pit1	B-5	0.91	0.63	0.54	隅丸長方形	U字状	SH-01に伴う
61	クワ	I	燃焼土坑	B-5	0.67	0.62	0.42	円形	すり鉢状	
70	クワ	III	燃焼土坑No.1		0.68	0.61	0.13	円形	皿状	
111	クワ	III	P-①		0.49	0.38	0.22	橢円形	U字状	SH-16の柱穴
111	クワ	III	P-②		0.62	0.58	0.55	橢円形	U字状	SH-16の柱穴か
145	クワ	IV	SP-01 (貝殻Pit)	A-3	0.46	0.46	0.47	円形	U字状	淡水系の貝
148	クワ	VII	P-01	E-7	0.78	0.50	0.10	円形	凹状	
149	クワ	VII	P-58	E-11	0.58	0.39	0.10	長方形	凹状	

## SIデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m (推定)			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
55	クワ	06-I b	SI-01	H-7	0.62	0.51	0.28	円形	凹状	古代の火葬墓 土師器(64・65)
55	クワ	06-I c	SI-02	D-5	0.37	0.30	0.06	円形	凹状	土師器(66)
40	クワ	06-II a	SI-03	S-17	1.13	0.86	0.25	橢円形	皿状	繩文土器(50)

## 土器集中区データ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m（推定）			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
36	クワ	06-I a	土器集中区1	P-7	0.30	0.45				縄文晚期浅鉢(47)
37	クワ	06-I c	土器集中区2	C-D-7	0.55	0.24				土器集中区 押型文土器(48)
38	クワ	06-I c	土器集中区3	C-6	0.45	0.30				押型文土器(49)

## SXデータ

挿図	調査区		遺構	グリッド	法量m（推定）			平面形態	断面形状	備考
					長軸	短軸	深さ			
63	クワ	II	SX-02	A~C-1~3	19.76	1.20		溝状	皿状	
64	クワ	II	SX-03	A·B-4	7.70	1.42		不定形	皿状	帶状の硬化面
65	クワ	II	SX-04	A~C-1~3	20.0	1.40	0.10			波状の硬化面 土師器・須恵器が出土
42	クワ	II	SX-05	A·B-1	2.50	2.50				土器散布 2.5×2.5
147	クワ	VII	SX-01	C·D-6	2.41	1.08	0.30	不定形	皿状	焼土とカーボン集中 ブランは確認できず
147	クワ	VII	SX-01 P-01	D-6	0.62	0.59	0.30	不定形	V字状	
147	クワ	VII	SX-01 P-02	D-6	0.57	0.30~	0.08	不定形	皿状	
147	クワ	VII	SX-01 P-03	D-6	0.62	0.60	0.19	円形	すり鉢状	
150	クワ	VII	SX-02	C-11·12	4.32	3.06	0.92	隅丸長方形	凹状	
150	クワ	VII	SX-02 P-01	C-12	0.60	0.45	0.44	橢円形	すり鉢状	
150	クワ	VII	SX-03	G·H-10·11	5.30	3.90	1.08	隅丸長方形	凹状	
147	クワ	VII	SX-04	E-7	1.48	0.85	0.10	不定形	皿状	
151	クワ	VII	SX-05	G-9	3.44	1.00	0.26	不定形	凹状	
141	クワ	06-I b	SX-01	E-2	1.90	1.98	0.48	方形	凹状	
141	クワ	06-I b	SX-02	H-3	2.30	1.32~	0.23	橢円形	凹状	
141	クワ	06-I c	SX-04	M-10	1.48	0.44	0.07	不定形	皿状	
143	クワ	06-II a	SX-03	O-14	1.69	1.18	0.26	不定形	皿状	
161	ゴナ	I	SX-01	D-6	4.74	3.04	0.55	橢円形	凹状	カーボン集中
50	ゴナ	II	SX-02	I·J-16						土器集中区
51	ゴナ	II	SX-04	I·J-16						土器集中区

掲図	報番	測量番号	出土地点			器種	石材	法 長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備 考		
			調査区	出土レベル(m)	グリッド									
20	1	469	クワ	I		VI層～V層	○	ナイフ形石器	輝緑凝灰岩	3.3	1.3	0.6	1.96 二側刃加工の小型ナイフ	
20	2	466	クワ	I	B-5	IV層直上 二方向直上	○	ナイフ形石器	在地産An	2.7	1.9	0.7	2.47 やや白く風化 基部欠損	
20	3	468	クワ	I		客土中		角錐状石器	良質An	5.5	2.0	1.3	15.19 やや黒色 西北九州産カ	
20	4	480	クワ	VI	D-7	IV層	○	台形様石器	チャート	3.2	2.3	0.9	4.51 やや風化 ヌマ多く入る 三条全て上から剝離がやや幅広い	
20	5	467	クワ	I		不明		細石刃	Aso-4ob	2.3	0.7	0.3	0.41 打面狭く頭部彫刻痕	
20	6	474	クワ	III		魔土中		細石刃	輝緑凝灰岩	1.7	0.6	0.2	0.19 上下欠損 白く風化	
20	7	605	クワ	IV	B-2	IV層	○	細石刃	腰岳ob	2.3	2.2	0.5	1.8 打面狭く頭部彫刻痕	
20	8	610	クワ	不明		不明		ナイフ形石器	流紋岩	4.1	1.2	0.6	2.01 二側刃加工ナイフ 大野川流域	
21	9	471	クワ	II		不明		剥片	輝緑凝灰岩	4.0	2.0	1.0	10.21 やや風化 縦長剥離 先端部欠損	
21	10	470	クワ	II	B-3	不明		石核	Aso-4ob	1.8	1.9	0.8	1.77 打面狭い ガジリ	
21	11	642	クワ	II	76.132	V～IV層	92	○	石核	Aso-4ob	1.9	2.5	0.7	2.53
21	12	644	クワ	II	76.157	V～IV層	87	○	剥片	Aso-4ob	2.1	2.3	1.4	6.83
21	13	643	クワ	II	75.974	V～IV層	62	○	石核	Aso-4ob	2.0	2.6	1.9	7.22 基部加工の小型ナイフ 白色風化
21	14	641	クワ	II	76.311	V～IV層	54	○	石核	Aso-4ob	5.0	1.6	0.8	4.48 基部加工の小型ナイフ 白色風化
25	15	636	クワ	VII	F-4	撲E5		ナイフ形石器	良質An	5.0	1.6	0.8	4.48 基部加工の小型ナイフ 白色風化	
25	16	639	クワ	VII	F-4	V層	○	ナイフ型石器	チャート	4.3	2.0	0.6	5.51 最先端部欠損 切出型ナイフ (猩谷型ナイフ)	
25	17	640	クワ	VII	E-5	V層	○	角錐状石器	輝緑凝灰岩	5.7	1.8	1.7	16.69 最先端部欠損	
25	18	486	クワ	VII	75.083	市松27	VII層	11-No.41	○	細石刃	腰岳ob	2.1	0.5	0.4 0.19 層的には落ち込み、打面狭い
25	19	489	クワ	VII	76.083	市松16	VII層	11-No.1	○	剥片	Aso-4ob	0.6	1.3	0.2 0.19 剥離面はそう風化していない
25	20	4	クワ	VII	75.515	市松18	VII層	11-No.11	○	二次加工のある 剥片	腰岳ob	2.1	3.0	0.8 3.10 ガジリ 風化
25	21	635	クワ	VII	C-10	V～VI層	○	台形様石器	腰岳ob	1.9	1.8	0.4	0.94 ガジリ	
25	22	539	クワ	VII	142.4	市松10 E-8	VI層～V層	1	○	台形様石器	良質An	2.1	2.7	0.9 3.53 西九州産カ
26	23	488	クワ	VII	1.151	市松2	VII層	1	○	剥片	不明	5.4	2.8	1.6 10.34 基質の強い石材 黒曜石カ
26	24	541	クワ	VII	市松4	VII層～VI層	○	剥片	在地産An	5.2	2.3	1.3	10.63 風化 トロトロ	
26	25	485	クワ	VII	75.379	市松25	VI層	11-No.36	○	二次加工剥片	良質An	4.3	2.0	0.9 5.89 縦長剥片
26	26	487	クワ	VII	1.418	市松2	VII層	3	○	剥片	在地産An	3.7	5.0	0.9 11.43 風化
26	27	519	クワ	VII	75.114	市松27 G-11	VII層	11-No.42	○	サイドスクレーパー	輝緑凝灰岩	10.5	4.4	2.4 99.65 大型素材
30	28	497	コナ	I	B-5	VII層	○	剥片	輝緑凝灰岩	6.2	2.4	1.3 16.59 角錐状石器の素材カ		
30	29	638	コナ	I	A-5.6	IVb層	○	ナイフ形石器	良質An	3.8	1.4	0.9 3.78 西九州産カ		

第5表 出土遺物観察表(石器)2

掲図	報番	測量番号	出土地点			器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考		
			調査区	出土レベル(m)	グリッド									
30	30	16	ゴナ	I		7層	211	○	二次加工剥片	在地産An	0.2	3.8	1.0	4.65 横長剥片
30	31	496	ゴナ	I		IVa層 (アカホヤ層)		○	剥片	良質An	3.7	16.4	0.5	3.53 旧石器の可能性 やや白く風化 基部欠 縦長剥片
30	32	495	ゴナ	I		B-5 (アカホヤ層)		○	角錐状石器	腰岳ob	4.2	1.7	1.2	7.96 やや風化 ガジリ 下部欠損
30	33	637	ゴナ	I		C-6 (アカホヤ層)		○	ナイフ形石器	良質An	4.8	1.7	1.1	7.83 表面は風化によりやや白色 西北九州産 両端部は欠損 國府系の櫛剥きナイフ
30	34	634	ゴナ	I	78.445	VII層	58	○	ナイフ形石器	腰岳ob	1.7	1.1	0.4	0.73 二側刃加工ナイフ 先端部欠損
30	35	11	ゴナ	I	77.713	VII層	2644	○	剥片	腰岳ob	1.3	2.1	0.5	0.83 小型の櫛長剥片
31	36	8	ゴナ	I	78.594	V層	87	○	細石刃	腰岳ob	1.0	0.5	0.1	0.05 上下端欠損
31	37	9	ゴナ	I	78.291	V層	103	○	細石刃	腰岳ob	1.6	0.6	0.1	0.16 微細片痕 上下端欠損
31	38	14	ゴナ	I	78.439	VII層	96	○	剥片	在地産An	2.7	2.1	1.4	5.14 上部欠損
31	39	490	ゴナ	I	78.561	VII層	90	○	細石刃	腰岳ob	1.5	0.4	0.2	0.12 上下端欠損
31	40	6	ゴナ	I	78.609	V層	89	○	細石刃	腰岳ob	1.1	0.5	0.1	0.08 上下端欠損
31	41	12	ゴナ	I	78.632	VII層	26	○	剥片	腰岳ob	2.5	2.1	0.4	1.00 下部欠損 微細剥離痕
31	42	19	ゴナ	III	市松3	VII層	○	二次加工剥片	腰岳ob	2.1	2.5	1.1	4.01 機面残る	
31	43	18	ゴナ	II	市松9 (H-16)	VI層～VII層		○	剥片	Aso-4qb	2.3	1.4	0.5	1.41 漆黒隕石 シマ模様入る 上下端欠損
31	44	13	ゴナ	I	78.461	VII層	122-1	○	剥片	在地産An	3.9	2.8	1.5	9.10 阿蘇産An
18	取88		クワ	II	76.201	V～IV層	No.88	○	剥片	象ヶ鼻産 溶結凝灰岩	3.2	2.5	1.0	7.07 サビ状の風化面
18	取115		クワ	II	76.166	V～IV層	No.115	○	碎片	腰岳ob	1.7	0.9	0.5	2.20 一部に機面残す
18	取151		クワ	II	76.167	V～IV層	No.151	○	碎片	不明ob	1.1	1.4	0.4	2.16 黒隕石 小片で不明
18	取83		クワ	II	76.156	V～IV層	No.83	○	碎片	在地産An	1.7	1.2	2.15 一部ガジリ 白く風化	
18	取121		クワ	II	76.27	V～IV層	No.121	○	碎片	Aso-4ob	0.8	1.3	0.2	1.92 織模様入る
18	取125		クワ	II	76.251	V～IV層	No.125	○	碎片	Aso-4ob	1.6	1.2	0.4	2.24 織模様入る
18	取159		クワ	II	76.162	V～IV層	No.159	○	碎片	不明ob	1.5	1.3	0.4	2.10 姫島産obの可能性 色調はスリガラス状の白色系 黒の斑点多く一部機面を残す
18	取123		クワ	II	76.215	V～IV層	No.123	○	碎片	Aso-4ob	1.1	1.4	0.2	1.97 灰灰っぽい艶を呈す 織模様入る
18	取147		クワ	II	76.174	V～IV層	No.147	○	碎片	在地産An	1.2	1.9	0.4	2.33 阿蘇産安山岩 織模様入る
18	取56		クワ	II	76.081	V～IV層	No.56	○	碎片	在地産An	1.2	1.2	0.4	2.15 やや白く風化しており織模様入る
18	取150		クワ	II	76.195	V～IV層	No.150	○	剥片	在地産An	3.1	2.8	1.1	6.81 阿蘇産安山岩 表面に空洞が多く所々に輝石も入る
18	取19		クワ	II	76.031	V～IV層	No.9	○	碎片	良質An	0.8	1.7	0.4	2.18 色調はやや青っぽい やや良質 西九州産
18	取103		クワ	II	76.123	V～IV層	No.103	○	剥片	在地産An	4.5	1.8	0.8	7.72 阿蘇産安山岩と考えられる やや白く風化 輝石が所々に入る

第5表 出土遺物観察表(石器)3

挿図	報番	実測番号	出土地点			調査区	出土レベル(m)	グリッド	層位	取上げNo.	包含層	石材	器種	法量			備考
			長(cm)	幅(cm)	厚(cm)									重(g)			
18	取104		クワ	II	76.125		V~VII層	No.104	O	石核	Aso-4ob	2.5	1.7	1.1	6.96	一面のみ剥片剥離 残りは擦面	
18	取69		クワ	II	75.887		V~VII層	No.69	O	石核	Aso-4ob	1.5	2.0	1.0	4.73	一面のみ剥片剥離 残りは擦面	
18	取101		クワ	II	76.135		V~VII層	No.101	O	石核	Aso-4ob	2.0	1.8	0.9	4.51	一面のみ剥片剥離 残りは擦面	
18	取65		クワ	II	76.196		V~VII層	No.65	O	石核	Aso-4ob	1.8	2.3	0.9	5.24	一面のみ剥片剥離 残りは擦面	
18	取58		クワ	II	76.306		V~VII層	No.58	O	石核	Aso-4ob	1.8	1.6	0.8	3.87	上下より剥片剥離 残りは擦面	
18	取59		クワ	II	76.161		V~VII層	No.59	O	剥片	Aso-4ob	2.1	2.1	0.8	5.20	主要剥離面以外は擦面 Aso-4bと同じ大きさの小擦の安山岩	
18	取100		クワ	II	76.108		V~VII層	No.100	O	剥片	在地産An	2.8	1.8	1.3	9.50	Aso-4b中に含まれるものと思われる Aso-4中に含まれるものと思われる 主要剥離面以外は擦面	
18	取84		クワ	II	76.156		V~VII層	No.84	O	剥片	Aso-4ob	1.5	2.4	0.9	3.66	一部に厚擦面を残す	
18	取96		クワ	II	76.11		V~VII層	No.96	O	剥片	Aso-4ob	1.8	2.4	0.4	2.74	一部に厚擦面を残す	
18	取86		クワ	II	76.213		V~VII層	No.86	O	剥片	Aso-4ob	2.1	2.1	0.8	4.21	主要剥離面以外は擦面	
18	取102		クワ	II	76.097		V~VII層	No.102	O	剥片	Aso-4ob	2.7	2.3	0.9	6.12	一部に厚擦面を残す	
27	取113		ゴナ	I	78.092		VII層	No.113	O	石核	腰岳ob	1.5	2.2	1.4	4.02	石材はいずれにせよ西北九州産ob 良質 小型の石核	
27	取333		ゴナ	I	78.209		VII層	No.333	O	剥片	腰岳ob	2.7	2.4	0.6	3.60	一部に厚擦面を残す	
27	取66		ゴナ	I	78.309		VII層	No.66	O	碎片	チャート	0.8	1.0	0.1	1.54	色調は白色	
27	取91		ゴナ	I	78.505		VII層	No.91	O	碎片	腰岳ob	1.0	1.1	0.2	1.31		
27	取334		ゴナ	I	78.224		VII層	No.334	O	碎片	腰岳ob	1.1	2.2	0.6	2.37		
22	取17		クワ	VIII	75.895	市松21	VIII層	11-No.17	O	剥片	Aso-4ob	2.0	2.0	0.5	2.76	一部に厚擦面を残す	
22	取20		クワ	VIII	75.103	市松18 F-9	VIII層	11-No.20	O	剥片	Aso-4ob	2.2	0.9	0.8	3.09	一部に厚擦面を残す	
22	取8		クワ	VIII	75.746	市松18	VII層	11-No.8	O	剥片	良質An	2.0	2.3	0.3	2.44	一部に厚擦面を残す	
22	取43		クワ	VIII	75.266	市松25	VII層	11-No.43	O	剥片	不明	2.1	1.6	0.7	2.85	珪質が強い石材 微細剥離痕 上部欠損 頭部調整 先端部ガジリによる欠損 紹模様	
Ph.14	546	写真のみ	クワ	II	-	III層(上)	-	O	細石刃	Aso-4ob	1.5~	0.6	0.2	0.15	表面三条上方よりの剥離痕		
Ph.14	547	写真のみ	クワ	II	-	B-3~5 C-3~5	III層~IV層	-	O	細石刃	不明ob	1.1~	0.7	0.3	0.17	頭部調整 先端部欠損 石材は灰白色のob 植葉川産カ 淡島産カ 灰白色	
Ph.15	548	写真のみ	クワ	VIII	-	F-7	IVb層	-	O	剥片	良質An	8.1	2.8	1.3	19.16	縄長の剥片の可能性 一部ガジリ やや良質	
挿図	報番	実測番号	出土地点			調査区	遺構	グリッド	層位	取上げNo.	包含層	石材	器種	法量			備考
			長(cm)	幅(cm)	厚(cm)									重(g)			
35	45	598	クワ	06-I c	5号集石	G-6	V層	1			凹石	安山岩	9.7	7.7	4.9	418.50	
77	86	624	クワ	III	SH-05						袖石	凝灰岩	37.1	16.0	17.0	720.00	
77	87	625	クワ	III	SH-05						袖石	凝灰岩	24.4	16.2	15.3	390.00	
127	179	616	クワ	IV	SB-01 Pit7						砥石	砂岩	18.9	10.0	7.8	1456.40	
150	190	611	クワ	VII	SX-02						石剣	蛇紋岩	2.6	2.1	0.4	2.90	
155	191	623	クワ	VII	ST-04						石皿	安山岩	27.0	19.2	5.9	4867.00	
191	463	484	クワ	VII	市松5	VI~VII層	1				尖頭器	安山岩	6.3	2.2	0.9	12.23	

第5表 出土遺物観察表(石器)4

掲図	報番	測量番号	出土地点		グリッド	層位	取上げNo.	包含層	器種	石材	法量			備考
			調査区	遺構							長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	
191	464	520	クワ	Ⅲ	D-3	II層下位			石鏃	黒曜石	2.3	2.0	0.6	1.72
191	465	521	クワ	VI	C-5	IIIb層一括			石鏃	黒曜石	1.1	1.2	0.3	0.25
191	466	522	クワ	VI	C-5	赤木や下			石鏃	安山岩	1.4	1.5	0.2	0.27
191	467	524	クワ	VI	C-5	III層上位			石鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.28
191	468	525	クワ	II	B-3	III層上位			石鏃	安山岩	1.6	1.4	0.3	0.64
191	469	526	クワ	II	G-2	III層上位			石鏃	黒曜石	1.4	1.3	0.5	0.68
191	470	529	クワ	VI	D-5	IIIb層一括			石鏃	チャート	1.6	1.2	0.4	0.53
191	471	549	クワ	I	B-6	III層上			石鏃	黒曜石	1.9	1.4	0.3	0.40
191	472	533	クワ	VI	D-7	IIIb層一括			石鏃	安山岩	2.5	1.8	0.6	1.64
191	473	534	クワ	VI	D-5	IIIb層			石鏃	黒曜石	1.4	1.0	0.2	0.25
191	474	527	クワ	I	B-6	III層上位			石鏃	安山岩	2.4	1.4	0.3	0.58
191	475	538	クワ	III	F-3	II層下位			石鏃	安山岩	3.6	1.9	0.8	3.34
191	476	536	ゴナ		D-5	IVb層			石鏃	安山岩	3.7	1.7	0.5	1.91
191	477	657	クワ	06-IIa	H-17	V層	497		打製石鏃	黒曜石	3.3	1.8	0.5	2.17
191	478	32	ゴナ		市松D C4	VII層			石鏃	黒曜石	1.6	1.8	0.3	0.60
191	479	33	クワ	VI	D-5	IIIb層一括			石鏃	黒曜石	1.2	1.8	0.4	0.67
191	480	530	クワ	VI	D-6	IV層暗褐色土			石鏃	安山岩	3.2	1.4	0.3	1.30
191	481	550	ゴナ		E-4	IVb層			石鏃	黒曜石 (姫鳥産)	(4.0)	(1.4)	0.4	2.50
191	482	548	クワ	VII	市松19	VII層	11-No.3		石鏃	黒曜石	(2.9)	(1.5)	0.4	1.60
191	483	528	クワ	III	SH-11	埋II層中			石鏃	黒曜石	2.4	1.3	0.3	0.57
191	484	509	クワ	I		II層 清掃時一括			石匙	安山岩	3.1	1.2	0.5	1.44
191	485	596	ゴナ	I	F-3		17		石包丁	粘板岩	2.7	3.7	0.6	9.01
191	486	482	クワ	VII	E-11	IVb層			石匙	安山岩	4.6	7.2	1.5	33.59
192	487	516	ゴナ	I	C-8	IVb層一括			石匙	安山岩	6.5	5.0	0.9	24.68
192	488	1	クワ	VII		IVb層			石匙	チャート	2.6	3.6	0.6	4.06
192	489	517	ゴナ	III	P174	L-6	1		石匙	安山岩	2.9	3.8	0.8	6.48
192	490	514	ゴナ	I	D-3 市松	V層	1		石匙	安山岩	6.7	2.3	0.9	9.69
192	491	512	クワ	VI					石匙	チャート	3.0	4.0	0.9	8.27
192	492	518	クワ	06-IIa	0-15G	V層	579		石匙	安山岩	3.0	4.5	0.7	6.13
192	493	511	クワ	II	A-2	III層上位			石匙	チャート	3.4	4.5	0.8	6.03
192	494	483	クワ	VII	C-10	IVb層			石匙	安山岩	4.7	9.6	1.1	27.20
193	495	479	クワ	IV		III層 アカホヤ			石匙	安山岩	3.9	9.0	1.1	21.78
193	496	473	クワ	III	D-2	III層上位			サイドスクレイバー	黒曜石	4.5	1.4	0.8	3.17
193	497	498	ゴナ	I		表土ハギ			サイドスクレイバー	黒曜石	3.4	2.5	0.5	3.57
193	498	502	ゴナ	II	H-18	V層			サイドスクレイバー	チャート	5.3	3.0	1.2	19.02

第5表 出土遺物観察表(石器)5

掲番	報番	測量番号	出土地点		グリッド	層位	取上げNo.	包含層	器種	石材	法量			備考
			調査区	遺構							長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	
193	499	505	クワ	06-IIa	N-176	V層	562		縦長剝片	安山岩	6.5	2.7	1.1	15.92
193	500	491	ゴナ	I	B-4	IVb層			縦長剝片	黒曜石	3.6	1.8	0.7	2.01
193	501	540	クワ	VIII					剝片	チャート	3.5	2.1	1.4	8.68
193	502	17	ゴナ	I		V層	54				3.1	1.3	1.4	2.54
193	503	515	ゴナ	I		IVa層								
193	504	507	クワ	06-Ia					打製石斧	安山岩	6.0	4.0	1.6	42.90 表探
193	505	506	クワ	06-IIa	M-17	V層	498		エンドスクリバー	黒曜石	3.4	2.5	0.7	3.74
193	506	543	クワ	III	市松25	V層	11-Na38		剝片	流紋岩	2.8	1.7	0.6	2.45
193	507	510	クワ	II	B-2	III層上位			剝片	安山岩	3.2	5.4	1.3	16.38
193	508	499	ゴナ	I	A-6	V層	57		縦縞燧灰岩		4.2	4.2	1.0	11.95
194	509	493	ゴナ			試掘トレンチ	1		サイドスクリバー	黒曜石	3.3	2.4	1.0	7.43
194	510	477	クワ	IV		表土ハギー活			二次加工 横剥片	黒曜石	3.2	1.1	0.6	1.22
194	511	481	クワ	VIII		北側III層			剝片	安山岩	3.2	1.1	0.6	1.71
194	512	500	ゴナ	II	J-17	IVa層			サイドスクリバー	黒曜石	3.5	1.8	0.6	2.69
194	513	513	ゴナ	I	C-4	IVb層一活			剝片	チャート	2.8	3.4	0.8	5.36
194	514	476	クワ	IV		表土 赤ホヤ			縦剥片	黒曜石	7.3	1.6	1.3	5.28
194	515	475	クワ	III	D-3	III層上			二次加工 横剥片	安山岩	1.5	3.8	1.1	5.27
194	516	494	ゴナ	I	C-4	IVb層一活			エンドスクリバー	黒曜石	2.0	2.1	0.6	1.96
194	517	546	ゴナ	I	D-3	V層	25		剝片	安山岩	2.1	2.7	0.4	1.56
194	518	492	ゴナ	I	A-5	IVb層一活			調整痕有剥片	黒曜石	2.4	2.4	0.9	3.77
194	519	508	桑鶴遺跡群		F-3	—活			縦剥片	安山岩	6.0	4.9	0.9	19.52
194	520	547	ゴナ	I	E-3 市松A	V層	5		二次加工のある石器	安山岩	5.1	1.8	1.1	9.50
194	521	504	ゴナ	III		V層下立一活			使用痕有る石器	安山岩	3.0	4.1	1.5	11.03
194	522	544	ゴナ	I	A-5 市松I	V層	53		剝片	安山岩	4.3	3.0	0.8	5.63
195	523	478	クワ	V	C-5	V層一活			サイドスクリバー	安山岩	8.0	3.6	1.7	44.97
195	524	627	ゴナ	I	D-8				打製石器	安山岩 (輝石安山岩)	15.2	7.4	2.1	247.10 天部幅6.2cm 縫辺全体による顕著な形成痕 基面部と表裏面、刃部に敲打痕
195	525	645	ゴナ		D-4	IVb層一活			打製石斧	安山岩	16.0	7.6	2.8	473.20 天部幅7.5cm 全体が摩滅氣味 表裏面は磨痕 縫辺全体に敲打による形成痕
195	526	5	クワ	VIII	D-12	1			局部磨製石斧	緑色片岩	10.8	4.0	1.4	89.40
196	527	628	ゴナ		D-8	IVb層			敲き石 (磨製石斧)		10.2	4.2	3.1	152.70 基面部と表裏面、刃部に敲打痕
196	528	592	クワ	II	A-2	III層上位			局部磨製石器	安山岩	12.3	7.1	1.9	153.60 天部に顕著な磨痕 ばち型石斧
197	529	621	ゴナ		C-4	IVb層			礫石器	安山岩	30.1	20.9	11.5	885.00
197	530	622	ゴナ		B-7	IVb層			石皿	火成岩 安山岩	24.0	20.0	9.5	720.00

第5表 出土遺物観察表(石器)6

掲図	報番	測量番号	出土地点			器種	石材	法量			備考
			調査区	遺構	グリッド			長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	
197	531	614	クワ	VIII	E-5		1				
198	532	609	クワ	II							
198	533	597	クワ	06-1b		表土層-括					
198	534	619	クワ	III		(表土八ギ) IIIb層					
198	535	601	クワ	06-IIa	0-17	V層					
							用途不明石器	安山岩	4.2	4.0	1.4 34.63

第6表 出土遺物観察表（土器）1

捕団番号	報番	測定番号	出土地点				種別	器種	法量(cm)		調整			胎土	備考		
			調査区	遺構	クリッド	層位			口径	底径	器高	外面	内面				
35	46	570	クワ	06-1	6号	F-6	V層	繩文土器	深鉢	60~	燃糸文後ナデ	7.5R4/6黒	7.5R5/4にぶい黄	長石・石英・角閃石・輝石 大粒の石粒	尖底内面が摩滅		
36	47	459	クワ	06-1	6号・集石	F-6	V層	一括	繩文土器	浅鉢	(33.7)	工具ナデ	10R7/4にぶい黄 10R3/1黒	10R7/4にぶい黄 10R4/2灰	長石・石英・角閃石 2mm以内の茶色粒・黑色粒・砂粒	黒斑 スス付着 口縁外側に沈線 内外面共に摩滅	
37	48	460	クワ	06-1		D-7	V層下層	繩文土器	深鉢	321~		ナデ	10R7/4にぶい黄 10R4/2灰	10R6/4にぶい黄 10R4/1褐灰	長石・石英・角閃石 6mm以内の茶色粒・茶色粒 白色粒	黒斑 スス付着 外側にスス付着 内外面共に摩滅	
38	49	579	クワ	06-1		C-6	V層	1・2・4・5・ 8・10・11	繩文土器	深鉢	(162)	横ナデ	10R6/4にぶい黄 10R4/1褐灰	10R5/2灰	長石・石英・角閃石・輝石 (多い)	内面がやや摩滅している 外側の胸前下部はスス 横円押型文	
40	50	464	クワ	06-IIa	SI-03		一括	繩文土器	深鉢	293	条痕状		2.5R4/6.4/8赤 2.5R3/6暗赤 5R2/3暗赤 2.5R3/1倍赤 5YR6/8倍赤 10R6/6明黄 7.5R4/3褐 7.5R4/2灰	2.5R4/6.4/8赤 2.5R3/6暗赤 5R2/3暗赤 2.5R3/1倍赤 5YR6/8倍赤 10R6/6明黄 7.5R4/3褐 7.5R4/2灰	長石・石英・角閃石・全雲母 黒曜石・白色粒・茶色粒 7mm以下での織	内面に黒斑	
42	51	6	クワ	II	SX-05	B-1・2	III層上	繩文土器	深鉢	37~		ナデ	10R7/3にぶい黄 10R4/4灰	10R4/2灰	長石・石英・2mm以内の茶色粒	沈線	
42	52	7	クワ	II	SX-05			繩文土器	深鉢	40~	ナデ	10R4/4	10R5/6灰	長石・石英・茶色粒	刻目突帯		
42	53	12	クワ	II	SX-05	1・2・3・9・ 25	B-1	III層上	繩文土器	深鉢	16.1	7.5~95	ナデ	5YR6/6明赤 5YR4/6赤	7.5R5/6明 7.5R4/4	長石・石英・滑石・雲母・白色粒 茶色粒・黑色粒	
2	54	13	クワ	II	SX-05	29-30-1 30-2	繩文土器	深鉢		103~		ナデ	7.5YR5/6明 7.5R4/4	7.5YR5/4にぶい黄 7.5R4/6	長石・石英・角閃石・白色粒 3mm以下の茶色粒・白色粒	阿高式	
42	55	576	クワ	II	SX-05	10・15・37				(35.4)	横ナデ・工具による横ナデ	横ナデ・ナデ・工具ナデ	10R5/4にぶい黄 10R3/3にぶい黄	10R5/4にぶい黄 10R3/2黒	長石・石英・角閃石・輝石 3mm以下の織	外側に凹線文	
56	56	37	クワ	VII	ST-09	IVb層	I層	繩文土器	深鉢	192~	ミガキ	ナデ・ミガキ	10R6/4にぶい黄 10R3/1黒	10R7/4にぶい黄 10R3/2黒	長石・石英・角閃石・金雲母 1mm以下の白色粒 3mm以下の織	外側摩滅	
45	57	33	クワ	VII	ST-11	F-4	IVb層	1・2・3・4	繩文土器	深鉢	(32.0)	ナデ	10R3/1~2黒 10R4/2灰	10R6/6灰	長石・石英・角閃石・金雲母 1mm以下の白色粒 3mm以下の織	外側に条痕文	
50	58	427	コナ	II	SX-02	16	繩文土器	深鉢	56~		ナデ	10R5/3~4/1 にぶい黄 ~灰	10R6/4にぶい黄 10R3/2黒	長石・石英・角閃石・茶色粒 3mm以下の織を少量			
50	59	448	コナ	II	SX-02	11・14・15	繩文土器	深鉢	99~	工具ナデ・工具ナデ後ナデ	工具ナデ後ナデ	10R6/4にぶい黄 10R3/3~4/1 にぶい黄 ~灰	10R5/3にぶい黄 10R2/黒	長石・石英・角閃石・茶色粒 1mm以下の白色粒 3mm以下の織	外側にスス付着		
51	60	428	コナ	II	SX-04	19	繩文土器	浅鉢	38~	ミガキ	ミガキ	10R3/2黒	10R5/3にぶい黄 10R2/黒	長石・石英・角閃石・茶色粒 1mm以下の白色粒 3mm以下の織	外側摩滅		
51	61	447	コナ	II	SX-04	15	繩文土器	深鉢	54~		ナデ	10R4/4	10R6/4にぶい黄	長石・石英・角閃石・赤色粒 白色粒・黑色粒・茶色粒 赤色粒	外側に条痕文		

第6表 出土遺物觀察表(土器) 2

第6表 出土遺物観察表（土器）3

捕団番号	報番	案別番号	出土地点			種別	器種	法量(cm)	調整			胎土	備考		
			調査区	遺構	クリッド				口径	底径	器高	外面	内面		
75	80	90	クワ	Ⅲ	SH-03		6	土師器	坏	(138) (6.8)	29~	回転ナデ	10YR8/6黄 7.5R/6	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・4mm以下の 茶色粒・3mm以内の裸	
75	81	51	クワ	Ⅲ	SH-03			土師器	壺	(166)	5.0~	ナデ	25R/7/6 10R3/4暗赤	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・3mm以下の裸	
75	82	52	クワ	Ⅲ	SH-03	5	土師器	壺		38~	ナデ	7.5R/8/3浅黄 10R8/6/3	角閃石・1mm以下の白色粒		
75	83	91	クワ	Ⅲ	SH-03	12層	土師器	壺		33~	横ナデ・工具痕	7.5R6/4/3 7.5R2/黒	長石・石英・角閃石・雲母・1mm 以内の黒色粒・茶色粒・白色粒		
75	84	88	クワ	Ⅲ	SH-04			土師器	壺	25~	ナデ	7.5R/6 7.5R/4/3	長石・石英・角閃石・2mm以内 の白色粒・茶色粒・黑色粒		
75	85	89	クワ	Ⅲ	SH-04			土師器	壺	29~	横ナデ	7.5R/8/2 7.5R/4/3	長石・石英・角閃石・茶色粒・白色 粒・茶色粒・黑色粒・白色粒		
77	88	107	クワ	Ⅲ	SH-05		2	土師器	坏	(177) (11.0)	5.0	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	7.5R/6/6 10YR7/4/3にぶい 10YR7/2/3-7/7にぶい 2.5R/4/3にぶい	長石・石英・角閃石・白色粒・茶色粒 黑色粒・茶色粒・茶色粒	
78	89	75	クワ	Ⅲ	SH-05	床直	9-11+107	土師器	坏	120	8.5	38	回転ナデ・回転ヘラ切り	7.5R/6/6 10YR7/3にぶい 2.5R/4/3にぶい	長石・石英・角閃石・白色粒・茶色粒 黑色粒・茶色粒・茶色粒
78	90	76	クワ	Ⅲ	SH-05	B-2	II層上			3.3~3.7	回転ヘラ切り後ナデ	7.5R/6/6 10YR7/4/3にぶい 2.5R/4/3にぶい	長石・石英・角閃石・白色粒・茶色粒 黑色粒・茶色粒・茶色粒		
78	91	105	クワ	Ⅲ	SH-05	B-2	III層上	須恵器	高台付坏	103	7.0	回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ	7.5R/6/6 10YR7/4/3にぶい 2.5R/4/3にぶい	長石・石英・角閃石・1mm以下の裸 1mm以下の白色粒・黑色粒	
78	92	108	クワ	Ⅲ	SH-05	2	土師器	坏	120	8.0	3.5	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	7.5R/6/6 10YR7/3にぶい 2.5R/4/3にぶい	角閃石・雲母・3mm以下の裸 2mm以下の白色粒	
78	93	77	クワ	Ⅲ	SH-05	3	土師器	坏	135	6.7	4.0	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	7.5R/6/6 10YR7/6明黄 2.5R/6/6	長石・石英・角閃石・白色粒 黑色粒・赤色粒	
78	94	109	クワ	Ⅲ	SH-05	25	土師器	坏	(150) (100)	4.4	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	7.5R/8/4 7.5R/8/4/3 7.5R/8/1/黒褐 7.5R/8/3/2黒褐	石英・黒曜石・雲母 1mm以下の白色粒・赤色粒 2mm以下の裸		
79	95	40	クワ	Ⅲ	SH-05	D-6	1層	須恵器	壺	(198)	7.5~	回転ナデ・工具ナデ	5Y/2/黒 5Y/4/1灰	長石・黒曜石・白色粒・黑色粒 表面に自然釉	
79	96	106	クワ	Ⅲ	SH-05	SH-05 SH-14	8層			ナデ	7.5R/7/6 7.5R/7/4/3にぶい 2.5R/6/6 5YR/8/8	長石・白色粒・茶色粒 2mm以内の裸含む			
79	97	72	クワ	Ⅲ	SH-05	101	土師器	坏	124	8.0	4.3	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	10YR7/4/3にぶい 10YR1/2黒	長石・角閃石・雲母 5mm以内の裸・白色粒・黑色粒	
79	98	104	クワ	Ⅲ	SH-05	102+103	土師器	高台付碗	189	12.4	6.0~6.2	回転ナデ・工具ナデ 貼付け高台	2.5YR6/8 5YR/8/8	長石・石英・4mm以下の裸 1mm以下の白色粒・黑色粒・茶色粒	
79	99	78	クワ	Ⅲ	SH-05	2層		土師器	灯明皿	130	9.8	2.7	回転ナデ・工具ナデ 回転ナデ	10YR8/2匹白 10YR1/2黒	長石・角閃石・雲母・1mm以下 の白色粒・黑色粒・茶色粒
79	100	73	クワ	Ⅲ	SH-05	上層		須恵器	坏壘	(138) (4.6)	3.1~	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	2.5YR8/4 5YR/6 7.5R/6/6 10YR8/3匹黄 10YR8/3匹黄	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・茶色粒 8mm以下の裸含む	
79	101	110	クワ	Ⅲ	SH-05	1層		土師器	壺	(292)	3.6~	横ナデ	5YR5/6明赤 5YR5/6明赤	長石・石英・角閃石・白色粒 黑色粒・赤色粒を含む	

第6表 出土遺物観察表（土器）4

種別	器種	法量 (cm)	調整			色調	胎土	備考
			口径	底径	器高			
79	102 74 クワ III	SH-05 SH-14	8層		土師器 蕤	(166) 87~	ミガキ後ナデ <sup>a</sup>	削りミガキ後ナデ <sup>a</sup>
80	103 87 クワ III	SH-06 SH-07			繩文土器 深鉢	36~	ナデ後工具アテ・工具アテ ナデ	ナデ後工具アテ・工具アテ ナデ
82	104 70 クワ III	SH-07 瓢	3 5・6・7・8 上層	土師器 蕤	23.7~		ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ
82	105 94 クワ III	SH-07 床直	1 土師器 蕤		22~	横ナデ	横ナデ・削り後	横ナデ・削り後
85	106 92 クワ III	SH-08		土師器 蕤	(270) 9.1~	回転ナデ・工具ナデ	7.5R6/6.5 8明赤色	2.5R4/6赤褐
85	107 93 クワ III	SH-08 床直	1 土師器 环	(9.6) 30~	回転ナデ・へら切り後ナデ	7.5R6/6.5 8明赤色	2.5R6/6.5 8明赤色	2.5R6/6.5 8明赤色
85	108 68 クワ III	SH-09 床直	2 土師器 蕤		42~	横ナデ・ナデ	10R3/2黒褐	10R3/2黒褐
87	109 67 クワ III	SH-09		土師器 蕤	(200) 28~	ナデ・ハケ目・工具ナデ	7.5R6/6.5 8明黄	7.5R6/6.5 8明黄
89	110 98 クワ III	SH-10 床直	8 須恵器 壺蓋		22~	ナデ	10R3/1黒	10R3/1黒
89	111 100 クワ III	SH-10	2層	土師器 环	(9.6) 28~	横ナデ・回転へら切り	7.5R6/6.5 8明赤褐	7.5R6/6.5 8明赤褐
89	112 99 クワ III	SH-10		土師器 蕤	27~	ナデ	10R3/3黒	10R3/3黒
89	113 101 クワ III	SH-10		土師器 蕤	24~	横ナデ	7.5R6/3 8明黄	7.5R6/3 8明黄
89	114 103 クワ III	SH-10 VI	2層 表土・火	土師器 瓶	21~	ナデ・摩減している	10R3/4 8明赤褐	10R3/4 8明赤褐
89	115 102 クワ III	SH-10	2層	須恵器 壺	(13.6) 25~	横ナデ	7.5R6/4 8明黄	7.5R6/4 8明黄
90	116 63 クワ III	SH-10 瓢 SH-10 瓢	1・2・4・6・7・11・100 土師器 蕤	(268) 25.9~	ナデ	10R2/1 黑	7.5R6/6.5 8明黄	7.5R6/6.5 8明黄
92	117 96 クワ III	Pt5	4 土師器 环	(149) (10.8) 3.4	回転ナデ・へら切り	7.5R6/3 8明黄	7.5R6/3 8明黄	7.5R6/3 8明黄
		SH-11	3 土師器 蕤	(280) 20.2~	ナデ・工具痕 ハケ目(摩減している)	10R3/4 8明黄	10R3/4 8明黄	10R3/4 8明黄
93	118 65 クワ III	SH-11 SH-11 Pt5	2・4・13・15・16・19 土師器 蕤		ナデ・工具痕 ハケ目(摩減している)	7.5R6/6.5 8明黄	7.5R6/6.5 8明黄	7.5R6/6.5 8明黄
		SH-11	3 土師器 蕤		ナデ・工具痕 ハケ目(摩減している)	10R3/4 8明黄	10R3/4 8明黄	10R3/4 8明黄
94	119 66 クワ III	SH-11 SH-11	土師器 蕤	(15.1) 4.9~	横ナデ	7.5R6/2 8明黄	7.5R6/2 8明黄	7.5R6/2 8明黄
		SH-11	3 土師器 蕤		横ナデ・削り	10R3/4 8明黄	10R3/4 8明黄	10R3/4 8明黄

第6表 出土遺物観察表（土器）5

捕団番号	報番	案別番号	出土地点				種別	器種	法量(cm)	調整			胎土	備考			
			調査区	遺構	クリッド	層位				口径	底径	器高	外面	内面			
94	120	97	ヶワ	Ⅲ	Sh-11 竈		土師器	甕		38~	横ナデ工具痕	横ナデ・削り	7.5R7/4i-5i黄 5R6/6盤	長石・石英・角閃石・雲母 5mm以内の繊茶色粒・白色粒 黒色粒	外面基部から頭部によりに工具痕 口縁部歪み 横円形を呈す		
95	121	122	ヶワ	Ⅲ	Sh-12 床直	1層	須恵器	坏	(177)	5.3~	回転ナデ	回転ナデ	N7/0R8白 N6/0-5/0灰	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	摩滅により不明瞭		
95	122	124	ヶワ	Ⅲ	Sh-12 床直	11	土師器	坏	(129)	3.9	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10R8/4浅黄 10R8/4浅黄	微細な雲母・赤色粒・黒色粒 黒色粒・3mm以下の妙粒	長石・石英・1mm以下の白色粒 白色粒・黒色粒		
95	123	121	ヶワ	Ⅲ	Sh-12 Pit-1		土師器	坏	132	7.5	4.1	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5R7/4i黄 7.5R6/6盤	長石・石英・3mm以下の妙粒	長石・石英・1mm以下の白色粒 白色粒・黒色粒	
97	124	119	ヶワ	Ⅲ	Sh-12 竈	1	須恵器	土馬		39~			7.5R6/4i褐灰		内外面の一部にスス付着		
					1-2-3-4- 5-6												
97	125	71	ヶワ	Ⅲ	Sh-12 土ミソB	1層	土師器	甕		13.2~	ハケ目	削り後ナデ	2.5R7/8-6/8盤 10R8/6黄	石英・角閃石・雲母・黒曜石 赤色粒・2mm以下の様	外面一部に彩色(赤彩)		
					Sh-12 床直	8-9									内外面の一部にスス付着		
98	126	120	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	1層	3	土師器	坏	8.0	23~	回転ナデ 回転ヘラ切後ナデ	回転ナデ	7.5R7/6盤	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・1cm以下砂粒・1cm以下茶色粒	外面一部に彩色(赤彩)	
98	127	56	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	1層	須恵器	壺	(138)	18.9~	叩き後ナデ・カキメ後ナデ	同心円文	10R3/1黒褐 5YR3/1黒褐	長石・石英・6mm以下の様 1mm以下の白色粒・茶色粒	底部に板状圧痕		
99	128	43	ヶワ	Ⅲ	Sh-12		101	土師器	坏	13.5	8.8	回転ナデ 回転ヘラ切後ナデ	回転ナデ	7.5R7/6盤 7.5R8/6黄 5R5/6明赤褐	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の赤色粒・5mm~1mm以内の様	底部に板状圧痕 脇部に刻書	
99	129	111	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	103	土師器	坏	(135)	8.3	3.5	回転ナデ 回転ヘラ切後ナデ	回転ナデ	7.5R7/6盤 7.5R8/4i-5i黄 2.5R7/6盤	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の赤色粒・赤色粒	脇部に刻書	
99	130	60	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	105	土師器	甕	(160)	11.7~	ナデ	回転ナデ・丁寧なナデ	回転ナデ・丁寧なナデ	7.5R7/4i-5i黄 2.5R7/6盤	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の赤色粒・2mm以下の様	底部に刻印	
99	131	116	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	115	土師器	坏	(120)	8.4	4.3	丁寧なナデ	回転ナデ	10R7/4i-5i黄 2.5R7/6盤	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の赤色粒	底部に刻印	
99	132	114	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	201	土師器	坏	(132)	6.0	3.9	回転ナデ 回転ヘラ切後削り	回転ナデ	10R7/6明黄褐 10YR4/2灰黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒	内面の頸部から頭部に黒斑	
99	133	117	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	211	土師器	坏		8.8	2.5~	回転ナデ 回転ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	7.5R7/6盤	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	内面の頸部から頭部に黒斑	
99	134	62	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	216	土師器	甕	(224)	18.5~	ナデ・ハケ目	ナデ・削り後ナデ	10R8/3浅黄 5R5/6明赤褐	石英・角閃石・雲母 6mm以内の様 砂粒・茶色粒	内面に彩色(赤彩)		
100	135	112	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	1層											
100	136	61	ヶワ	Ⅲ	Sh-12	C-4	2層下	312	土師器	坏	(138)	回転ナデ 回転ヘラ切後ナデ	回転ナデ	10R7/4i-5i黄 10R8/3浅黄	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒・赤色粒	内面に彩色(赤彩)	
100	137	115	ヶワ	Ⅲ	Sh-12			304-327	土師器	坏	(183)	12.4	6.0	回転ナデ後ミガキ 回転ヘラ切後ミガキ 貼り付け高台	2.5R5/6-5/6明赤褐 2.5R3/1暗赤灰	角閃石・雲母・黒曜石 1mm以下の白色粒・黒色粒 2mm以下の赤色粒・2mm以下の様	内面の全面に彩色(赤彩)
100	138	59	ヶワ	Ⅵ	Sh-12 南壁	2~3層 IIIa層	B-5-23	114-316	土師器	甕	(234)	9.0~	横ナデ・ハケ目	横ナデ・削り	10R7/4i-5i黄 5R6/6盤	長石・石英・角閃石・褐色 5mm以内の様 砂粒	内面頭部に指頭圧痕
100	139	123	ヶワ	Ⅲ	Sh-12		311	土師器	甕		4.9~	横ナデ	横ナデ・削り	7.5R8/4i-5i黄 7.5R4/4盤	長石・角閃石・雲母 白色粒・黒色粒	内面頭部に指頭圧痕	

第6表 出土遺物観察表（土器）6

種別	器種	取上印No.	法量 (cm)	調整			色調	胎土	備考
				口径	底径	器高			
100 140 69 クワ 調査区 Sh-12	土師器 瓢	313	94~	横ナデ	横ナデ・削り	5R5/4にぶい赤褐 5R3/1黒褐	5R5/4にぶい赤褐 5R3/1黒褐	5R5/4にぶい赤褐 5R3/1黒褐	内外面共に一部スス付着
100 141 57 クワ III Sh-12	I層 4	326							
101 142 38 クワ III Sh-12	須恵器 瓢	298~	タタキ	アテ具痕	75V/1灰白 75V3/オリーブ黒	N5/0-4/0灰	長石・角閃石 1mm以下の黒色粒・白色粒	長石・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・茶色粒 3mm以下の砂粒	外面に刻書 内面に黒斑(スス付着)
101 143 45 クワ III Sh-12	土師器 坏	210	土師器 坏	134	9.0	3.9	10V7/6明黄褐 2.5V3/1黒褐	10V7/6明黄褐 2.5V3/1黒褐	10V7/6明黄褐 2.5V3/1黒褐
101 144 113 クワ III Sh-12	土師器 坏	1層	土師器 坏	8.6	23~	回転ナデ	7.5R6/6/7/6燈 7.5R7/1/7/6燈	7.5R6/6/7/6燈 7.5R7/1/7/6燈	7.5R6/6/7/6燈 7.5R7/1/7/6燈
101 145 118 クワ III Sh-12	土師器 坏	1層	土師器 坏	(9.8)	20~	回転ナデ	7.5R7/4にぶい黄燈 7.5R8/4にぶい黄燈	7.5R7/4にぶい黄燈 7.5R8/4にぶい黄燈	7.5R7/4にぶい黄燈 7.5R8/4にぶい黄燈
103 146 47 クワ III Sh-13	土師器 瓢	280	5.8~	ナデ	ナデ・削り後ナデ	5R5/6明赤褐 5V4/1褐灰	長石・石英・角閃石 1mm以下の茶色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石 1mm以下の茶色粒・3mm以下の砂粒	摩滅により不明瞭
103 147 131 クワ III Sh-13	土師器 坏	1層	土師器 坏	12~	回転ナデ	5R5/6/6燈 2.5V5/3にぶい黄褐	長石・石英・雲母 1mm以下の茶色粒	長石・石英・雲母 1mm以下の茶色粒	スス付着
103 148 132 クワ III Sh-14	土師器 坏	101	土師器 坏	3.4	横ナデ	5R7/8-7.5V8/4燈 2.5V5/3にぶい黄褐	長石・石英・雲母 1mm以下の茶色粒	長石・石英・雲母 1mm以下の茶色粒	
105 149 50 クワ III Sh-05	土師器 瓢	8層			ナデ・横ナデ	5R7/8-7.5V8/4燈 2.5V5/3にぶい黄褐	長石・石英・雲母 1mm以下の茶色粒	長石・石英・雲母 1mm以下の茶色粒	
105 150 134 クワ III Sh-14	土師器 瓢	1層	100	光明皿	122	10.9	2.4	10V8/4浅黄燈 10V7/2にぶい黄褐	10V8/4浅黄燈 10V7/2にぶい黄褐
108 151 48 クワ III Sh-15	土師器 坏			土師器 坏	(138)	8.0	4.2	10V8/4/6燈 10V7/3にぶい黄燈	10V8/4/6燈 10V7/3にぶい黄燈
108 152 133 クワ III Sh-15	土師器 瓢			土師器 坏		40~	ナデ・横ナデ	10V8/4/6燈 10V7/3にぶい黄燈	10V8/4/6燈 10V7/3にぶい黄燈
110 153 130 クワ III Sh-16	土師器 坏	12	土師器 坏	(154)	8.3	6.4	回転ナデ	7.5R6/6燈 6/4にぶい黄燈	7.5R6/6燈 6/4にぶい黄燈
110 154 53 クワ III Sh-16	土師器 瓢	1・3-5・6・7・8	土師器 坏	(196)	17.9	回転ナデ・ハケ目	5R7/4にぶい黄燈 5R4/2灰褐	5R7/4にぶい黄燈 5R4/2灰褐	石英・角閃石・長石 5mm以下の茶色粒
111 155 54 クワ III Sh-16	土師器 坏	1	土師器 坏	(207)	14.5~	ナデ・横ナデ	10V8/3浅黄燈 10V7/2灰褐	10V8/3浅黄燈 10V7/2灰褐	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の白色粒・黑色粒
111 156 128 クワ III Sh-16	土師器 坏	P-2	3	須恵器 坏蓋	(130)	23~	回転ナデ	7.5R6/4にぶい黄褐 5V4/3灰褐	7.5R6/4にぶい黄褐 5V4/3灰褐
111 157 55 クワ III Sh-16	土師器 坏蓋	P-12			(16.7)	20~	回転ナデ・工具ナデ	2.5V7/2灰褐 2.5V6/1-5.1灰	2.5V7/3浅黄 2.5V6/1-5.1灰
									内外面共に口縁部から頸部に 彩色(赤彩)
									内外面共に全体的に黒斑 転用強力

第6表 出土遺物観察表（土器）7

地図番号	報番	調査区	出土地点	基準	クリッド	層位	種別	器種	口径	底径	器高	法量(cm)			調整			色調			胎土				
												内面	外面	内面	内面	外面	内面	内面	内面	内面	内面	内面	内面	内面	
111	158	129	ケワ III	SH-16 P-2		2	須恵器	壺蓋	(138)	1.3~	回転ナデ	回転ナデ	57/4浅黄 10/2/黒	N6/0~5/0灰	石英・角閃石・雲母・黒曜石 白色粒	石英・角閃石・雲母・黒曜石 長石・1mm以内の黒色粒	自然釉								
112	159	64	ケワ III	SH-10		4	須恵器	壺	(8.4)	1.9~	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ・ナデ	25/R6/3にぶい黄 25/R6/2灰黄	25/R6/3にぶい黄 25/R6/2灰黄	長石・石英・雲母・白色粒	長石・石英・雲母・白色粒									
112	160	127	ケワ III	SH-17 床直		2	須恵器	高杯	124	5.8~	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	25/R6/4にぶい黄	25/R6/4にぶい黄	長石・石英・雲母・白色粒	長石・石英・雲母・白色粒	外面部の一部に内面に自然釉								
113	161	136	ケワ III	SH-17 硬化面下		8	土師器	甕		6.5~	ナデ・横ナデ	横ナデ・削り	10/R7/4にぶい黄	10/R7/4にぶい黄	長石・石英・雲母・白色粒	長石・石英・雲母・白色粒									
113	162	137	ケワ III	SH-17 硬化面下		9	土師器	甕		7.0~	横ナデ	横ナデ・削り	7.5/R7/6盤	7.5/R7/6盤	長石・石英・雲母・白色粒	長石・石英・雲母・白色粒									
114	163	49	ケワ III	SH-17 床直		1	土師器	壺	144	11.9	4.2	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	7.5/R6/6盤 7.5/R7/6盤	7.5/R6/6盤 7.5/R7/6盤	石英・雲母・赤色粒	石英・雲母・赤色粒								
114	164	135	ケワ III	SH-17 床直		7	須恵器	甕		5.3~	横ナデ	横ナデ	5/R7/8盤	5/R7/8盤	長石・雲母・白色粒	長石・雲母・白色粒	外面部に黒斑								
115	165	126	ケワ III	SH-18 床面		1	土師器	壺		4.0~	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	10/R7/6明黄褐	10/R7/6明黄褐	長石・角閃石・1mm以下の茶色粒	長石・角閃石・1mm以下の茶色粒	底部に線刻(ヘラ記号「X」)								
118	166	327	ケワ VI	ST-03		2層	須恵器	壺	150	8.3	4.2	回転ナデ・ケズリ後ナデ	回転ナデ	5/Y5/1灰	5/Y5/1灰	長石・石英・角閃石・雲母	長石・石英・角閃石・雲母								
118	167	293	ケワ VI	VI		I層	須恵器	壺蓋	136	20~	回転ナデ	回転ナデ	25/R6/1オリーブ灰 5/Y6/1灰	25/R6/1オリーブ灰 5/Y6/1灰	長石・黒色粒・白色粒・茶色粒 2mm以内の砂粒	長石・黒色粒・白色粒・茶色粒 2mm以内の砂粒	つまり径(5.4)cm								
118	167	167	ケワ VI	D-3		II層	表土ノギ																		
119	168	317	ケワ VI	C-5-1		III層上	土師器	壺	118	7.7	3.1	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ・後ナデ	10/Y8/3浅黄	10/Y8/3浅黄	長石・石英・雲母	長石・石英・雲母	板状玉痕							
119	169	314	ケワ VI	C-5-1		III層下	土師器	壺	95	7.2	1.7	回転ナデ・回転ヘラ削り	ナデ・回転ナデ	10/Y8/4浅黄褐	10/Y8/4浅黄褐	長石・石英・角閃石・雲母	長石・石英・角閃石・雲母	板状玉痕							
121	170	372	ケワ IV	SH-01 床面		2	土師器	壺	(132)	9.0	3.3	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ・後ナデ	7.5/R7/6盤 25/R8/6明赤褐	7.5/R7/6盤 25/R8/6明赤褐	石英・長石・雲母・白色粒	石英・長石・雲母・白色粒	彩色(赤彩)							
122	171	382	ケワ IV	SH-01 床面		7	土師器	甕	(248)	28.4~	横ナデ・ハケ目 ハケ目後ナデ	横ナデ・削り	7.5/R7/4にぶい盤 7.5/R4/褐灰	7.5/R7/4にぶい盤 7.5/R4/褐灰	長石・石英・角閃石 4mm以内の黒色粒	長石・石英・角閃石 4mm以内の黒色粒	内外面共に摩滅								
122	172	594	ケワ IV	SH-01 瓶		3	土師器	壺		(13.7)	2.1~	ヘラ削り	ヘラ削り後ナデ	10/R7/4にぶい黄	10/R7/4にぶい黄	長石・石英・角閃石・雲母	長石・石英・角閃石・雲母	縁辺部打ち欠き 内外面に彩色(赤彩)残存							
124	173	410	ケワ V	C-5		III層	8	輪の羽口	3.7	13.3~	削り後ナデ		7.5/R7/6盤	10/R8/2灰白	長石・石英・角閃石・雲母	長石・石英・角閃石・雲母									
124	174	409	ケワ V	表土中				輪の羽口	8.1	(10.9)	9.1	ナデ・削り後ナデ		10/R8/4にぶい黄	10/R8/4にぶい黄	石英・角閃石・白色粒・赤色粒	石英・角閃石・白色粒・赤色粒								
124	175	414	ケワ V	D-4		II層下		坩埚			4.6~	削り			N7/灰白 N3/暗灰	N7/灰白 N3/暗灰	上部に焼付着 工具抜き取り痕	上部に焼付着 工具抜き取り痕							
124	176	412	ケワ V	C-4		III層		坩埚	(9.2)	(3.0)	4.5	ナデ	W4/灰 N3/暗灰 5/R3/6暗赤	W4/灰 N3/暗灰 5/R3/6暗赤	石英・角閃石・雲母・白色粒	石英・角閃石・雲母・白色粒	内部から口縁部 外部の一部にかけて鉄と錫が付着 福岡市埋蔵文化財センターにて強X線分析済								
124	177	413	ケワ V	C-5		III層		坩埚			0.9~	ナデ	5/Y8/3淡黄	25/Y8/3淡黄	石英・角閃石・雲母・白色粒	石英・角閃石・雲母・白色粒	内部に鉄と青銅が付着								
125	178	398	ケワ V	ST-02		1層	土師器	甕	(192)	17.2~	ナデ・ハケ目	ナデ・削り	7.5/R6/4にぶい盤 7.5/R1.7/1黒	7.5/R6/4にぶい盤 7.5/R1.7/1黒	長石・石英・角閃石・黒色粒	長石・石英・角閃石・黒色粒	内部にスス付着 表面が摩滅								
132	180	415	ケワ V	Pit6		1層		坩埚			4.8~		N7/灰白 N3/暗灰	N7/灰白 N3/暗灰	石英・雲母・白色粒	石英・雲母・白色粒	口縁部内部から外面にかけて鉄が付着								

第6表 出土遺物観察表（土器）8

種別	器種	取上げNo.	法量 (cm)	調整			色調	胎土	備考
				口径	底径	器高			
出土地点	出土地点								
調査区	調査区	グリッド	グリッド						
番号	番号	V	SD-01	2層					
134 181 399 クワ V	B-4	IIIa層		須恵器	壺蓋	(169)	28~	ヘラ削り後回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ
C-3	IIIa層							5YR5/4にぶい赤褐	10YR6/4にぶい黄橙
134 182 411 クワ V	C-4	II層下						2.5Y/2灰白	N3/暗灰
V	V	SD-01	VII層	埴輪	(110) (6.6)	42~	ナデ	2.5Y/1灰白	7.5R3/1暗赤灰
134 183 400 クワ V	V	SD-01	V層	須恵器	壺蓋	144	2.7	ナデ・回転ヘラ削り後ナデ	回転ナデ・ナデ
V	V	B-3	IIIa層					2.5Y/2灰白	2.5Y/1灰白
134 184 391 クワ V	V	SD-01		須恵器	甕		5.1~	ナデ・横ナデ・タタキ	横ナデ・アテ具痕
V	V	SD-01	IV層	青磁・瓦玉	碗		5.2	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉
134 185 653 クワ V	V	SD-01		土師器	壺		0.5~	回転ミガキ	回転ミガキ
V	V	SD-01						10YR6/4にぶい黄燈	10YR5/6明赤褐
148 189 32 クワ VII				1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・No.なし	土師器	甕	134	(10.7)	横ナデ・ハケ目後ナデ
								10YR8/4浅黄燈	10YR8/4明黄燈
170 192 446 ゴナ II	V層	IVb層	1	繩文土器	深鉢	(164)	8.6~		ナデ
		II~IV層	1	繩文土器	深鉢		5.7~		10YR6/6明黄褐
170 193 456 ゴナ III	V層	IV層	1~7	繩文土器	深鉢	(171)	16.1~	横ナデ	10YR7/4にぶい黄燈
		一括		繩文土器	深鉢			ナデ・横ナデ	10YR5/6黄褐
170 194 569 クワ 06-1	V層	IV層	8	繩文土器	深鉢	(110) (10.0)	4.9~		ナデ
12号イモ穴				繩文土器	深鉢		7.2	横ナデ	7.5R6/5爐
170 195 563 クワ 06-1	V層	IV層	8	繩文土器	深鉢	(212)	9.0~	横ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
				繩文土器	深鉢			ナデ・横ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
170 196 556 クワ 06-1	V層	IV層	8	繩文土器	深鉢	(202)	12.4~	横ナデ	10YR6/4リーフ褐色
				繩文土器	深鉢			ナデ・横ナデ	2.5Y/4オーブ褐色
170 197 562 クワ 06-1	V層	IV層	7	繩文土器	深鉢	(310)	5.9~	横ナデ	2.5Y/4リーフ褐色
				繩文土器	深鉢			ナデ・横ナデ	2.5Y/4オーブ褐色
170 198 578 クワ 06-II	V層	IV層	13	繩文土器	深鉢	(157)	12.0~	横ナデ	7.5R3/1黒褐
				繩文土器	深鉢			ナデ	7.5R4/3~4.4褐
170 199 558 クワ 06-1	V層	IV層	8	繩文土器	深鉢		6.7~		ナデ
				繩文土器	深鉢			ナデ	5YR5/4にぶい赤褐
170 200 567 クワ 06-I	G-8	V層	56	繩文土器	深鉢		4.7~		ナデ
				繩文土器	深鉢			ナデ	7.5R4/3褐
171 201 11 クワ II	B-2	III層上		繩文土器	深鉢		2.6~		ナデ
				繩文土器	深鉢			ナデ	10YR6/4明黄褐
171 202 5 クワ I	B-6	III層上面		繩文土器	深鉢		5.8~	条痕後ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
				繩文土器	深鉢			ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
171 203 4 クワ I	J-10	IVb層		繩文土器	深鉢		4.1~	横ナデ・ミガキ	10YR6/4にぶい黄燈
				繩文土器	深鉢			ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
171 204 454 ゴナ III	J-14	IVa層		繩文土器	深鉢			横ナデ・ミガキ	10YR6/4にぶい黄燈
				繩文土器	深鉢			ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
171 205 440 ゴナ II	V	V層		繩文土器	深鉢			横ナデ・ミガキ	10YR6/4にぶい黄燈
				繩文土器	深鉢			ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
171 206 397 クワ V	B-3	IIIb層		繩文土器	深鉢			ナデ・ハケ目・工具ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
				繩文土器	深鉢			ナデ	10YR6/4にぶい黄燈
171 207 36 クワ VII	D-3	V層		繩文土器	深鉢		13.6~	ナデ・ハケ目・工具ナデ	10YR5/1~4.4褐
				繩文土器	深鉢			ナデ	5YR6/4にぶい黄燈
171 207 36 クワ VIII	F-8	IVb層		繩文土器	深鉢		6.2~		5YR3/1黒褐

第6表 出土遺物観察表（土器）9

第VI章 遺構・遺物データ

地図番号	報番	調査区	遺構	クリッド	出土地点	種別	器種	法量(cm)	調整			胎土	備考
									口径	底径	器高	外面	内面
171	208	442	コナ	II	H-16	IVa層	縄文土器	深鉢	44~	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	10YR4/2灰黄褐	石英・角閃石・白色粒・黒色粒
171	209	439	コナ	II	J-15	IVb層	縄文土器	深鉢	59~	ミガキ	ミガキ	10R7/3にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・茶色粒 1mm以下の黒色粒・茶色粒
171	210	441	コナ	II	J-16	IVa層	縄文土器	深鉢	47~	ミガキ	ミガキ	10YR5/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 1mm以下の黒色粒・茶色粒
171	211	443	コナ	II	H-17	IVb層	縄文土器	深鉢	294	ミガキ	横ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
171	212	424	コナ	I	H-18	IVa層	縄文土器	深鉢	308	64~		10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
171	213	269	クワ	III	D-3	アカホヤ	縄文土器	浅鉢	31~	ミガキ・沈線	ミガキ	10YR8/4浅黄褐	長石・石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	214	35	クワ	VII	C-7	IVb層	縄文土器	浅鉢	32~	ミガキ・ミガキ後沈線	ナデ・ミガキ	10YR4/4暗黄褐	長石・石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	215	438	コナ	II	J-18	III層	縄文土器	深鉢	32~	ミガキ・ミガキ後沈線	ミガキ	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	216	434	コナ	II	I-17	IV層	縄文土器	浅鉢	47~	ミガキ	ミガキ	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	217	435	コナ	II	J-17	IVb層	縄文土器	浅鉢	25~	ミガキ	ミガキ	10YR7/4~6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	218	19	クワ	II	B-1	Ⅲ層上	縄文土器	浅鉢	37~	ミガキ	指揮さ後ナデ・ミガキ	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	219	419	コナ	I	C-7	IVb層	縄文土器	浅鉢	48~	ミガキ	ミガキ	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	220	444	コナ	II		III層	縄文土器	深鉢	55~	工具ナデ後ナデ	横ナデ・工具痕	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・白色粒 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	221	316	クワ	VI	C-7	III層	縄文土器	浅鉢	34~	ミガキ	ミガキ	10YR7/1黒鴨	石英・角閃石・茶色母・白色粒 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	222	21	クワ	II	C-4	III層上	縄文土器	浅鉢	36~	摩滅	ミガキ	10YR2/1黒	長石・角閃石・1mm以内の白色粒 1mm以下の黒色粒・白色粒
172	223	248	クワ	III	C-2	III層上	縄文土器	鉢	38~	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	10YR6/4にぶい黄橙	石英・角閃石・茶色母 1mm以下の黒色粒・茶色粒
172	224	433	コナ	II	I-17	IVb層	縄文土器	浅鉢	26~	ミガキ	ミガキ	10YR4/1海凹	長石・角閃石・1mm以内の白色粒 1mm以下の黒色粒・白色粒
172	225	575	クワ	06-IIa	M-17	V層	縄文土器	浅鉢	81~	横ナデ・工具による横ナデ	横ナデ・ヘラミガキ	10YR4/2灰黄褐	長石・石英・角閃石・薄石 1mm以下の白色粒・黑色粒
172	226	25	クワ	II	B-3	III層上	縄文土器	浅鉢	36~	ミガキ	ミガキ	5Y4/1灰	長石・角閃石・2mm以下の白色粒 1mm以下の白色粒・黑色粒
172	227	577	クワ	06-II	N-17	V層	縄文土器	深鉢	53~	ミガキ・横方向のミガキ	ミガキ・横方向のミガキ	10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・薄石 1mm以下の白色粒・黑色粒
172	228	554	クワ	06-II	N-18	V層	縄文土器	浅鉢	38~	ミガキ	ミガキ・削り後ナデ	25Y5/2暗灰黄	長石・石英・金雲母
173	229	379	クワ	IV	B-4	III層下	縄文土器	深鉢	53~	ナデ・条痕	ナデ・ミガキ	10YR7/4にぶい黄橙	石英・角閃石・雲母・白色粒 1mm以下の黒色粒・赤色粒
173	230	378	クワ	IV	B-4	III層下	縄文土器	深鉢	60~	ナデ・条痕	ナデ・ミガキ	10YR7/4~6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 1mm以下の黒色粒・赤色粒
173	231	373	クワ	IV	南壁	III層上	縄文土器	深鉢	49~	工具ナデ	ナデ	7.5YR6/4~2暗褐	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒 1mm以下の黒色粒・赤色粒
173	232	262	クワ	III	C-3	III層下	縄文土器	鉢	40~	劫突・条痕	ミガキ後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒 1mm以下の黒色粒・赤色粒
173	233	368	クワ	VI	C-6	IIIa層	縄文土器	深鉢	52~	ナデ	ナデ・工具痕	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒 1mm以下の黒色粒・赤色粒
173	234	315	クワ	VI	D-5	IIIa層	縄文土器	深鉢	52~	ナデ	ナデ・工具痕	2.5Y6/4にぶい黄	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒 1mm以下の黒色粒・赤色粒
173	235	420	コナ	I	D-3	IVb層	縄文土器	深鉢	39~	ナデ	10YR4/2灰黄褐	長石・石英・角閃石・白色粒 1mm以下の黒色粒・白色粒	
173	236	263	クワ	III	アカホヤ	縄文土器	深鉢	80	37~	条痕・ナデ	ナデ	2.5Y7/4~5/2	長石・石英・角閃石・白色粒 1mm以下の黒色粒・白色粒

第6表 出土遺物観察表（土器）10

種別	器種	口径	法量 (cm)	調整		胎土	備考
				底径	器高		
出土地点	出土地点	調査区	遺構	グリッド	取上げNo.		
神戸 報番 番号	調査区	III	K-7	IVb層			
173 237 449 ゴナ	III	III	K-8	IV層			
	VI	VI	K-8	IVb層			
	VI	VI	D-7	III層			
	VI	VI	D-7	III層			
	VI	VI	D-7	III層			
173 238 287 クワ	I	D-4	IVb層	繩文土器	深鉢	(140) 73~	ナデ
		D-2	V層	繩文土器	深鉢	(306) 143~	ナデ
		E-3	IVb層	繩文土器	深鉢	(227) 112~	横ナデ
			IVa層	繩文土器	深鉢	60~	ミガキ・工具ナデ
174 239 423 ゴナ	I	K-17	V層	繩文土器	深鉢	105~	ミガキ後ナデ
		N-17	V層	繩文土器	浅鉢	39~	ナデ・ミガキ
		N-18	V層	繩文土器	深鉢	11.1~	ナデ
			317	清掃一括			
174 240 421 ゴナ	I	K-18	IVb層	繩文土器	浅鉢	4.7~	ミガキ
		H-18	IVb層	繩文土器	浅鉢	24~	ミガキ
			~V層	繩文土器	鉢	4.5~	ミガキ
174 241 416 ゴナ	I	N-17	V層	繩文土器	浅鉢	69~	横ナデ
		N-18	V層	繩文土器	深鉢	36~	横ナデ・工具ナデ・ミガキ
			317	清掃一括			
174 242 431 ゴナ	II	K-17	V層	繩文土器	深鉢	11.1~	ナデ
		N-17	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
		N-18	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
174 243 432 ゴナ	II	K-18	IVb層	繩文土器	浅鉢	39~	ナデ・ミガキ
		H-18	IVb層	繩文土器	浅鉢	11.1~	ナデ
			~V層	繩文土器	鉢	2.5~	ミガキ
174 244 465 クワ	II	N-17	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
		N-18	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
			317	清掃一括			
174 245 436 ゴナ	II		III層	繩文土器	鉢	2.5~	ミガキ
				繩文土器	浅鉢	2.5~	ミガキ
174 246 437 ゴナ	II	N-17	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
		N-18	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
			317	清掃一括			
174 247 593 クワ	II	N-17	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
		D-5	IIIa層	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
		C-2	III層上	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
		B-2	III層上	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
		B-3	III層上	繩文土器	深鉢	2.5~	ミガキ
174 250 245 クワ	III	D-2	IV層中	繩文土器	深鉢	11.5	ナデ
		D-4	IIIb層	繩文土器	鉢	27.0	ナデ・ミガキ
		D-5	IIIb層	繩文土器	皿	27.0	ナデ・ミガキ
175 251 394 クワ	V	N-17	V層	繩文土器	深鉢	2.5~	横ナデ
		D-4	IV層	繩文土器	深鉢	2.5~	横ナデ
		D-5	IV層	繩文土器	深鉢	2.5~	横ナデ
175 252 568 クワ	06-IIa	N-17	V層	繩文土器	不明	3.1~	横ナデ・工具による横ナデ
		D-4	II層下	土師器	不明	4.3~	横ナデ・摩滅
		N-17	V層	突帯土器	不明	6.1~	横ナデ
175 253 168 クワ	III						工具による横方向のナデ
							ナデ後ミガキ
175 254 565 クワ	06-II						ナデ・ミガキ
							ナデ
175 255 580 クワ	06-II	N-176	V層	繩文土器	甃	7.1~	横ナデ
							横ナデ
175 256 572 クワ	06-IIa	N-17	V層	土製品	ベンダント ヘッド (縦)33 (横)1.2 (厚)0.6	7.8~	横ナデ・工具による横ナデ
		F-3	IVb層	土師器	壺	8.2	横ナデ
		B-4	V層一括	突帯土器	甃	23.0	横ナデ
175 257 422 ゴナ	I			弥生時代	長頸壺	24~	横ナデ
							横ナデ
175 258 426 ゴナ	I						横ナデ・ハケ後ナデ
							ナデ
176 259 553 クワ	06-I						ハケ目後ナデ
							ナデ
176 260 571 クワ	06-IIa	0~16	V層	土製品	甃	24~	横ナデ
							横ナデ

第6表 出土遺物観察表（土器）11

地図 番号	報番 番号	調査区	遺構	クリッド	出土地点	種別	器種	法量 (cm)	調整			色調	備考		
									口径	底径	器高	外面			
176	261	418	ゴナ	I	A-5	IVa層	弥生土器	甕	24~	ナデ・横ナデ	横ナデ	10YR/4にぶい黄橙	石英・雲母・角閃石・黒曜石 白色粒・黑色粒		
176	262	277	クワ	VI	D-6	IIIa層	弥生土器	甕	48~			7.5YR/4にぶい黄橙	長石・石英・3mm以内の茶色粒 白色粒		
176	263	266	クワ	III	F-3	黒色土	弥生土器	甕	20~	横ナデ	横ナデ	10YR/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒		
176	264	417	ゴナ	I	E-4	IVa層	III層	不明	不明	ナデ・横ナデ・工具ナデ	横ナデ	10YR/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・茶色粒・黑色粒		
176	265	264	クワ	III	F-3	黒色土	弥生土器	甕	62~	ナデ・ハケ目	ナデ	10YR/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の中粒 砂粒・茶色粒・白色粒		
176	266	180	クワ	III	B-2	II層下	土師器	甕	55~	ハケ目後ナデ	削り	10YR/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・7mm以内の 砂粒・茶色粒・白色粒		
176	267	425	ゴナ	I		IVa層	1-1・2・ 1-3・1-4・ 1-5・1-6・ 1-7	土師器	高杯	18.1	61~	ナデ・ハケ目後ナデ	ナデ・ハケ目後ナデ		
176	268	233	クワ	III	D-4	II層下	弥生土器	甕	46~	ナデ・ハケ目	ナデ	5YR/6盤 7.5YR/6盤 7.5YR/1黒	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒 黑色粒・茶色粒		
176	269	261	クワ	III	C-3	III層下	土師器	甕	63~	ナデ・ハケ目	ナデ	7.5YR/3浅黄	長石・石英・角閃石・雲母・白色粒 白色粒・黑色粒・茶色粒		
176	270	147	クワ	III	E-3	II層下	土師器	杯	(140)	20	回転ナデ・へら切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR/6浅黄	長石・雲母・1mm以下の赤白粒 白色粒	
176	271	202	クワ	III	B-4	II層下	土師器	杯	(188)	30~	ナデ	7.5YR/6盤	長石・角閃石・雲母・1mm以内 の茶色粒・2mm以下の砂粒		
176	272	211	クワ	III	B-4	II層下	土師器	杯	(214)	34~	横ナデ	10YR/4浅黄	角閃石・雲母・白色粒・茶色粒 白色粒		
176	273	216	クワ	III	B-3	II層下	土師器	杯	(196)	27~	ナデ・回転ナデ	回転ナデ	7.5YR/6盤	長石・石英・雲母・白色粒 白色粒	
177	274	249	クワ	III	F-2	III層上	土師器	杯	(115)	08~	ナデ	10YR/6黃	石英・角閃石・雲母・白色粒 赤色粒・黑色粒・茶色粒		
177	275	17	クワ	II	A-2	III層上	土師器	杯	(107)	21~	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR/6盤	長石・雲母・2mm以下の赤白粒 3mm~1mmの繊	
177	276	20	クワ	II	C-3	III層上	土師器	杯	(90)	1.9~	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR/6盤	長石・角閃石・雲母・白色粒 茶色粒・黑色粒	
177	277	252	クワ	III	B-3	III層上	土師器	杯	8.0	17~	ナデ・へら切り後ナデ	ナデ	7.5YR/7盤	長石・雲母・白色粒 1cm以下の微少量	
177	278	24	クワ	II	B-3	III層上	土師器	杯	35~	ナデ・回転ナデ	ナデ・回転ナデ	5YR/6盤赤褐	長石・雲母・白色粒 茶色粒		
177	279	389	クワ	V	D-4	IIIb層	土師器	杯	(131)	9.6	3.5	回転ナデ・回転へラ切り	回転ナデ	2.5YR/8盤	長石・雲母・白色粒 2mm以内の茶色粒・黑色粒
177	280	251	クワ	III	B-4	III層上	土師器	杯	(138)	(100)	3.2	ナデ・回転ナデ	回転ナデ	10YR/6盤	雲母・白色粒・黑色粒・茶色粒 4mm以下の赤色
177	281	339	クワ	VI	B-5-22	IIIa層	土師器	杯	(108)	40~	ナデ・回転ナデ	回転ナデ	10YR/6盤明黄褐	長石・角閃石・雲母・白色粒 茶色粒	
177	282	383	クワ	V	C-4	IIIa層	土師器	杯	(90)	23~	回転ナデ・へら切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR/6盤	長石・角閃石・雲母・白色粒 2mm以内の茶色粒・砂粒	
177	283	227	クワ	III	C-4	II層下	土師器	杯	9.0	1.7~	ナデ・回転ナデ・へら切り摩滅	ナデ	7.5YR/4にぶい盤	角閃石・雲母・角閃石・雲母 2mm以内の茶色粒・砂粒	
177	284	148	クワ	III	E-3	II層下	土師器	杯	9.0	1.9~	回転ナデ・へら切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR/4にぶい盤	角閃石・雲母・白色粒・黑色粒 全體的に摩滅	
177	285	361	クワ	VI	D-5	IIIa層	土師器	杯	8.5			7.5YR/8盤	3mm以下の赤色 4mm以下の白色		
177	286	296	クワ	VI	D-6	IIIa層	土師器	杯	(108)	32~	ナデ・へら切り後ナデ	ナデ	10YR/4にぶい盤	長石・石英・4mm以内 茶色粒・黑色粒	
177	287	291	クワ	VI		II層	土師器	杯	(114)	18~	ナデ・へら切り後ナデ	ナデ	10YR/3にぶい黄橙	長石・雲母・3mm~1mm以下の白色粒 黑色粒	

第6表 出土遺物観察表（土器）12

種別	器種	取上げNo.	法量 (cm)	調整			色調	胎土	備考
				口径	底径	器高			
出土地点	出土地点	グリッド	層位	土師器	坏	(15.4) (11.6) 3.7	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	内面
調査区	調査区	A-2	II層下	土師器	坏	(10.8) 1.8~	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	外面
遺構番号	遺構番号	VI	表土ノギ	土師器	坏	1.7~	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	内面
177 288 194 ケワ III	VI	A-2	II層下	土師器	坏	1.1	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	内面
177 289 323 ケワ VI	VI	B-2	II層下	土師器	坏	~1.3	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	内面
177 290 42 ケワ III	VI	B-2	III層上	土師器	坏	13~	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	内面
177 291 39 ケワ III	VI	B-2	II層	土師器	坏	10.5	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	内面
177 292 41 ケワ III	VI	D-4	II層下	土師器	坏	8.0	0.9~	摩滅	内面
177 293 44 ケワ III	VI	B-2	II層下	土師器	坏	10.5	2.5~	ナデ・横ナデ	内面
178 294 326 ケワ VI	VI	B-5	トレーナー	土師器	坏	13.4	3.1	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ
178 295 289 ケワ VI	VI	表土ノギ	II層	土師器	坏	13.5	3.1	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ
178 296 294 ケワ VI	VI	C-5-3A	II層	土師器	坏	8.6	3.7	ナデ・ヘラ切り	回転ナデ
178 297 318 ケワ VI	VI	II層	土師器	坏	13.8	22~	調整不明・回転ナデカ	調整不明・回転ナデカ	
178 298 172 ケワ III	E-3	II層下	土師器	坏	15.4	5.0	回転ナデ・削り後ナデ	回転ナデ	内外面に色彩(赤彩)残存
178 299 144 ケワ III	E-2	II層上	土師器	坏	13.8	7.8	4.5~	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ
178 300 159 ケワ III	D-2	II層下	土師器	杯	12.0	3.6~	回転ナデ・回転ヘラ切り	ナデ・回転ナデ	内外面共に黒斑
178 301 407 ケワ V	B-4	III層	土師器	坏	17.4	100	4.0	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ
178 302 193 ケワ III	A-3	II層下	土師器	坏	9.0	31~	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	内面胸部一部と外面口縁部から摩滅
178 303 201 ケワ III	B-11	II層下	土師器	坏	10.8	5.8	3.3	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	回転ナデ
178 304 200 ケワ III	B-3-4	II層下	土師器	坏	11.9	8.4	3.2	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	回転ナデ
178 305 358 ケワ VI	E-4	IIIa層	土師器	坏	12.9	6.0	4.1	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ
178 306 304 ケワ VI	B-5-18	IIIa層	土師器	坏	13.8	9.8	3.7~	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	回転ナデ
179 307 283 ケワ VI	C-5-3	IIIa層	土師器	坏	13.0	4.9~	ナデ・ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面にスス付着
178 308 191 ケワ III	A-2	II層下	土師器	坏	11.8	5.1~	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	外表面が摩滅
178 309 140 ケワ III	A-2	II層下	土師器	坏	9.0	3.4~	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	摩滅により不明瞭
178 310 192 ケワ III	A-2	II層下	土師器	坏	8.0	2.8~	横ナデ・ヘラ切り後ナデ	横ナデ	摩滅
178 311 10 ケワ II	II層清掃	土師器	坏	(9.3)	3.1~	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	黒色粒・茶色粒・白色粒	
179 312 204 ケワ III	B-4	II層下	土師器	坏	(9.0)	3.5~	ナデ・ヘラ切り	ナデ・回転ナデ	黒色粒・茶色粒・白色粒
179 313 178 ケワ III	II層下	土師器	坏		4.3~	横ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	ナデ・横ナデ	1cm以内の黒斑	
179 314 273 ケワ VI	B-5-18	IIIa層	土師器	坏	7.8	2.9~	ナデ	2.5Y6/2灰黄	内外面共に摩滅

第6表 出土遺物観察表（土器）13

種別	器種	口径	底径	器高	法量 (cm)		調整		色調		胎土	備考
					出土点	層位	取上No.	外 面	内 面	外 面	内 面	
II層	土師器	坏	(7.8)	(4.4)	1.9	回転ナデ・糸切り痕	回転ナデ	2515/3黄褐色 2514/2暗灰黃 5R5/4にぶい赤褐	長石・石英・角閃石・雲母 黒色粒・白色粒・茶色粒	10YR6/4にぶい黄橙 10YR4/2灰黃褐 5R5/4にぶい赤褐	内面全体にスス付着 灯明皿	内面全体にスス付着 灯明皿
II層下	土師器	坏	(103)	15~	回転ナデへうら切り後ナデ 貼り付け高台	回転ナデ	7.5R6/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・赤色粒	7.5R6/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・茶色粒	外面部に彩色(赤彩)残存	外面部に彩色(赤彩)残存
IIIa層 表土ノハナ	土師器	坏	(148)	11.3	ナデ・回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	ナデ・回転ナデ	7.5R7/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・黑色粒	7.5R7/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 黒曜石・白色粒・黑色粒	内外面の一部に彩色(赤彩)	内外面の一部に彩色(赤彩)
II~III層 トレンチ	土師器	鉢	(235)	1.48	ナデ・回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	ナデ・回転ナデ	7.5R7/6燈	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒	7.5R8/6燈 10YR6/4浅黄橙	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒
II層下	土師器	鉢	(209)	5.5~	横ナデ・摩滅	横ナデ・摩滅	7.5R7/6燈	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒	10YR8/2白灰 10YR8/3浅黄橙	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒	角閃石・雲母・2mm以下の白色粒 茶色粒・1mm以下の白色粒
II層下	土師器	甕	(230)	4.6~	横ナデ	横ナデ・削り	7.5R8/4~8/3浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR8/2白灰 10YR8/3浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層上	土師器	甕	(184)	4.7~	ナデ・横ナデ ハケ目後ナデ	ナデ・横ナデ・削り	7.5R6/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR7/8黄橙 10YR3/1黒褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・茶色粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・茶色粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・茶色粒
II層上	土師器	甕	(212)	3.3~	横ナデ	横ナデ・削り	7.5R6/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR8/3浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層上	土師器	甕	(230)	4.0~	横ナデ	横ナデ	10YR8/3浅黄橙	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR5/3にぶい黄褐 10YR5/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層	土師器	甕	(164)	5.4~	横ナデ・ハケ目後ナデ	横ナデ・削り	10YR5/3にぶい黄褐 10YR6/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR5/3にぶい黄褐 10YR6/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層下	土師器	甕	(240)	3.3~	ナデ・横ナデ・工具痕	ナデ・横ナデ・工具痕	10YR6/4にぶい黄褐 10YR6/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR6/4にぶい黄褐 10YR6/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層上	土師器	甕	(160)	14.3	工具ナデ	ナデ・削り	5R6/4にぶい黄褐 10YR6/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR6/3にぶい黄褐 10YR6/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層上	土師器	甕	(247)	3.9~	横ナデ	横ナデ・削り	10YR4/2灰黃褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR7/4にぶい黄褐 10YR7/6明黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層上	土師器	甕	(140)	4.6~	横ナデ・ハケ目後ナデ	横ナデ・削り	5R7/6燈 7.5R6/4にぶい黄褐 10YR2/1黒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR7/6明黄褐 10YR7/4にぶい黄褐 7.5R7/3にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
II層上	土師器	甕	(95)	4.0~	ナデ	ナデ・削り	2.5R6/6燈 2.5R6/3にぶい黄褐	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	7.5R6/4にぶい黄褐 7.5R7/4にぶい黄褐	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒
II層下	土師器	甕	(94)	4.1~	ナデ	ナデ・削り	2.5R6/6燈 2.5R6/3にぶい黄褐	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	7.5R6/4にぶい黄褐 7.5R7/4にぶい黄褐	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒
II層上	土師器	甕	(270)	7.7~	横ナデ	横ナデ・削り	2.5R6/6燈 2.5R6/3にぶい黄褐	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	7.5R6/4にぶい黄褐 7.5R7/4にぶい黄褐	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒	長石・角閃石・滑石・3mm以下の砂粒
E-2	II層上	土師器	(175)	6.2~	ナデ・横ナデ	ナデ・横ナデ・削り	10YR6/4にぶい黄褐 10YR4/2灰黃褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	10YR3/1黒褐 10YR7/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・3mm以下の砂粒
B-3	II層上	土師器	(280)	3.6~	横ナデ・工具痕	横ナデ・工具痕	10YR4/2灰黃褐 10YR7/4にぶい黄褐	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・4mm以下の砂粒	7.5YR6/6·7/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・4mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・4mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・4mm以下の砂粒
D-3	II層下	土師器	(200)	3.8~	横ナデ	横ナデ	10YR8/6·7/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒	7.5YR8/2白灰 5YR8/3浅黄橙 7.5YR8/4にぶい黄褐 7.5YR8/6明黄褐 7.5YR8/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒
D-5	IIIb層 t	土師器	(254)	6.5~	ナデ・ハケ目	ナデ・削り	10YR8/6·7/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒	7.5YR8/2白灰 5YR8/3浅黄橙 7.5YR8/4にぶい黄褐 7.5YR8/6明黄褐 7.5YR8/6燈	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒	長石・石英・角閃石・雲母 白色粒・黑色粒・6mm以下の砂粒

第6表 出土遺物観察表（土器）14

種別	器種	法量 (cm)	調整			胎土	備考
			口径	底径	器高		
出土地点 調査区	遺構 番号	取上げNo.	層位	層位	層位	横ナデ・削り	長石・石英・角閃石 1mm以内の茶色粒・黒色粒・砂粒 4mm以下の礫
180 335 386 クワ V	C-5	II層下	土師器	甕	(205)	28 ~ 横ナデ	7.5YR5/6澄
181 336 285 クワ VI	D-5	IIIa層	土師器	甕	(231)	9.5 ~ 橫ナデ・横ナデ	7.5YR7/4にぶい黄澄
181 337 335 クワ VI	D-5	IIIb層	土師器	甕	(228)	12.9 ~ 橫ナデ・横ナデ	10YR7/4にぶい黄澄
181 338 364 クワ VI	B-5-18	IIIa層	土師器	甕	(279)	28 ~ 横ナデ	10YR8/4浅黄澄
181 339 332 クワ VI	B-5-18	IIIa層	土師器	甕	(151)	48 ~ 橫ナデ・横ナデ	10YR6.4~10YR//4 [=5YR] 澄
181 340 185 クワ III	B-2	II層上	土師器	甕		18 ~ 横ナデ・ハケ目後ヨコナデ	10YR7/4にぶい黄澄
181 341 257 クワ III	B-2	III層上	土師器	甕		26 ~ 横ナデ	10YR7/4にぶい黄澄
181 342 163 クワ III	D-2	II層上	土師器	甕		30 ~ 橫ナデ・横ナデ	7.5YR//6澄
181 343 404 クワ V	C-5	IIIa層	土師器	甕		31 ~ 横ナデ	10YR6/4にぶい黄澄
181 344 321 クワ VI	II層	II層	土師器	甕		56 ~ 横ナデ・ハケ目後ナデ	10YR7/4にぶい黄澄
181 345 384 クワ V	C-5	IIIa層	土師器	甕		8.7 ~ ナデ・ハクリ	10YR6/4にぶい黄澄 5YR6/6澄 2.5YR6/6澄
181 346 403 クワ V	C-5	IIIa層	土師器	鉢		5.7 ~ 横ナデ	10YR6/4にぶい黄澄
181 347 282 クワ VI	B-4	IIIa層	土師器	不明		12.8 ~ ナデ・タキ	5YR7/4にぶい黄澄 7.5YR//4にぶい黄澄
181 348 406 クワ V	B-3	IIIa層	土師器	甕		31 ~ 横ナデ	10YR7/4にぶい黄澄
182 349 298 クワ VI	B-5-23	IIIa層	土師器	鉢	(276)	11.8 ~ ナデ・横ナデ・ハケ後ナデ	10YR7/4にぶい黄澄 N/A/0黑
182 350 179 クワ III	B-2	II層下	土師器	鉢	(281)	7.7 ~ ナデ・横ナデ・ハケ目	10YR6/4角明黄褐 10YR3/1黒褐
182 351 295 クワ VI	B-5-3	IIIa層	土師器	鉢	(286)	11.6 ~ 横ナデ・ナデ	7.5YR6/6澄 7.5YR//6澄
182 352 392 クワ V	B-5-17	IIIa層	土師器	把手		6.8 ~ 削り後ナデ	7.5YR6/6澄 7.5YR//6澄
182 353 365 クワ VI	B-5-23	IIIa層	土師器	把手		7.8 ~ 削り後ナデ	10YR7/4にぶい黄澄 10YR5/2灰黄褐
182 354 34 クワ VII	南側	III層	土師器	把手		8.2 ~ 削り後ナデ	7.5YR//6澄 10YR//4にぶい黄澄
182 355 359 クワ VI	D-5-4	IIIa層	土師器	把手		8.4 ~ 削り後ナデ	5YR6/6澄
182 356 366 クワ VI	C-5-8	IIIa層	土師器	把手		5.0 ~ 削り後ナデ	7.5YR//4にぶい黄澄
182 357 354 クワ VI	B-5-17	IIIa層	土師器	把手		7.1 ~ 削り後ナデ	7.5YR/3にぶい褐
182 358 303 クワ VI	B-5-18	IIIa層	土師器	移動式竈		6.7 ~ ナデ調整・部・ハケ後ナデ	7.5YR5/4にぶい褐
182 359 183 クワ III	B-2	II層下	土師器	不明・竈	6.6	横ナデ・工具ナデ	10YR4/6褐 10YR2/1黑
						粘土折り返し痕	スナ付着

第6表 出土遺物觀察表(土器) 15

第6表 出土遺物觀察表 (土器) 16

第6表 出土遺物観察表（土器）17

種別	器種	口径	底径	器高	法量 (cm)		調整		色調		胎土		備考
					出土地点	遺構番号	調査区	遺構番号	クリッド	層位	取上No.	外面	内面
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層	164	3.6	ナデ・回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	5/6/1灰	5/6/1灰	長石・雲母・白色粒・黒色粒	長石・2mm以内の黒色粒	つまみ径4.9cm	
須恵器	壺蓋	B-5-23	IIIa層					25/6/1灰	5/3/1オーブ黒	長石・石英・茶色粒	長石・2mm以内の白色粒	つまみ径4.0cm	
須恵器	壺蓋	C-3-4	II層下	152	1.8	ナデ・回転ナデ 回転ヘラ削り	ナデ	25/6/2灰黄	2.5/6/2灰黄	長石・石英・1mm以下	長石・石英・1mm以下	つまみ径4.0cm	
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層	(155)	1.6~	ナデ	ナデ	25/5/1黄灰	2.5/4/1黄灰	黑色粒	黑色粒		
須恵器	壺蓋	D-2	II層下										
須恵器	壺蓋	B-5	IIIa層										
須恵器	壺蓋	D-4	IIIa層										
須恵器	壺蓋	表土ノギ	II層下										
須恵器	壺蓋	表土ノギ	II層下										
須恵器	壺蓋	D-5	IIIa層										
須恵器	壺蓋	D-6	IIIa層										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	B-3	II層下										
須恵器	壺蓋	D-2	II層上										
須恵器	壺蓋	E-4	II層下										
須恵器	壺蓋	D-3	II層下										
須恵器	壺蓋	D-4	II層下										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	D-4	II層下										
須恵器	壺蓋	D-3	II層下										
須恵器	壺蓋	D-4	II層下										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	D-4	II層下										
須恵器	壺蓋	D-3	II層下										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	C-3	II層下										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	B-3	II層下										
須恵器	壺蓋	E-5	IIIa層										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	B-3	II層下										
須恵器	壺蓋	E-2	II層下										
須恵器	壺蓋	C-5	IIIa層										
須恵器	壺蓋	表土ノギ	II層下										
須恵器	壺蓋	表土ノギ	II層下										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	B-5-18	IIIa層										
須恵器	壺蓋	C-3-4	II層下										
須恵器	壺蓋	C-3	II層下										

第6表 出土遺物觀察表 (土器) 18

第6表 出土遺物観察表（土器）19

種別	器種	法量(cm)	調整		色調	胎土	備考
			口径	底径	器高		
須恵器	甕	(19.5)	5.1~	ナデ・横・ナデ・タタキ	25.6/3にぶい黄 25.6/2黄灰	長石・石英 1mm以内の黒色粒・茶色粒	口縁部に垂み
須恵器	甕	(20.8)	22.0~	横ナデ・アテ・工具痕 (青海波文)	7.5R4/3褐 7.5G4/3暗褐色	5Y5/2灰オリーブ灰	外面に格子目文
須恵器	甕	(20.8)	22.0~	横ナデ・カキ目 タタキ後カキ目	7.5R4/3褐 7.5G4/3暗褐色	5Y5/2灰オリーブ灰	外面に格子目文
須恵器	甕	(29.1)	8.0~	横ナデ・ハケ目後ナデ	25Y5/1黄灰 25Y3/1黒褐	2.5Y5/2灰黄	長石・石英・1mm以内の黒色粒 茶色粒・白色粒
須恵器	甕	(29.1)	8.0~	横ナデ・ハケ目後ナデ	25Y5/1黄灰 25Y3/1黒褐	2.5Y5/2灰黄	接合面で剥離
須恵器	甕	(29.1)	8.0~	横ナデ・ハケ目後ナデ	25Y5/1黄灰 25Y3/1黒褐	2.5Y5/2灰白	白色粒
須恵器	壺	11.4	17.9~	タタキ後ナデ 回転ヘラ削りナデ	横ナデ	5Y7/2灰白 5Y6/1灰 5Y5/1灰	黒斑
須恵器	壺	102	10.3~	ナデ・回転ナデ	回転ナデ	25Y6/1黄灰 20YR5/2灰黄褐	長石・2mm以内の黒色粒 5mm以内の茶色粒
須恵器	鉢	102	10.3~	ナデ・回転ナデ	回転ナデ	25Y6/1黄灰 20YR5/2灰黄褐	長石・2mm以内の黒色粒 5mm以内の茶色粒
陶器	天目茶碗	(14.2)	4.3~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-128褐色 C-214消炭の色	長石
白磁・碗	碗・王様	(14.2)	2.5~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-143銀灰色	運花文(運弁文)
青磁・碗	碗	(13.6)	3.6~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	運花文(運弁文)
青磁・碗	碗	(15.6)	4.0~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-134焦茶色	運花文(運弁文)
青磁壺	壺	(7.6)	2.5~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	運花文(運弁文)
青磁壺	壺	(12.4)	3.0~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	運花文(運弁文)
青磁・碗	碗	(12.4)	2.7~	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	回転ヘラ削り後ナデ・施釉	C-216すずかけの樹の色	運花文(運弁文)
青磁・碗	碗	(22.0)	2.3~	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	C-190冬の緑	内面・口縁部に旋文 外面共に雷文 内面に草花文
青磁	遊具	(縦)3.9(幅)2.1	(厚)0.5	ナデ・押し型文	ナデ・押し型文	C-164垂鉢華の白	旋文(雷文)
青磁	遊具	おろし金	4.9~	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目	2.5Y4/1黄灰	6.2g
瓦質土器	捏鉢	(縦)3.9(幅)2.1	(厚)0.5	ナデ・押し型文	ナデ・押し型文	2.5YR6/4にぶい綠 2.5YR5/4にぶい赤	石英・雲母・白色粒・砂粒 2mm以内の白色粒・黑色粒 茶色粒
瓦質土器	火鉢	3.9	ナデ・押し型文	ナデ・押し型文	ナデ・押し型文	2.5Y4/4オーリーブ褐	長石・石英
土製品	不明	(縦)1.9~ (横)2.1~ (厚)0.1~					形状は割離し

第7表 出土遺物観察表（金属製品）

插番	報番	実番	調査区	グリッド	遺構	出土層	取上げ No.	法量(cm)			種別
								長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	
134	187	586	ケワ	V		SD-01	埋1層	2.8	1.4	0.5	3.9
134	188	585	ケワ	V		SD-01	埋5層	1	22.2	0.6	23.4
199	536	590	ゴナ	II	H-18	IVb~V		4.5~	2.2	0.3	13.1
199	537	582	ケワ	III	E-2	II層下位		1.8	0.8	0.2	3.3
199	538	587	ケワ	I		溝掃除 一括2層		8.7~	14~	0.5	13.2
199	539	584	ケワ	VI				1.8	3.1	0.6	5.0
199	540	591	ゴナ		C-6	IVb		8.8	0.3~	0.3~	7.0
199	541	589	ゴナ			I~II		7.3	1.6	0.3	10.9
199	542	581	ケワ	III	D-2	II層下位		6.3~	1.1~	0.6	5.7
199	543	588	ケワ	VII		搅乱		7.2~	0.8~	0.5	9.8
199	544	666	ケワ	V	B-4	IIIa	24	2.0	1.4	0.8	6.7
199	545	583	ケワ	III	D-2	2層上		5.3~	0.8~	0.4	3.1

## 第VII章 総括

### 第1節 遺構

#### (1) 集石

本遺跡では10基の集石が出土した。いずれも密集度の高い集石ではなく散乱の様相に近い。これは集石が蒸焼きの調理法としたならばその役目を終え、石を取り除いた痕跡であろうか。本遺跡での集石には掘り込みは確認出来なかった。また平均石数40個程で、集石として小規模類に入る。

#### (2) 燃焼土坑 (S0)

土坑状の掘り込みの埋土・側壁に焼土が見られる。本遺跡では桑鶴遺跡群VIII区において集中的に検出があった。S0-01・02などが該当し、それは長軸2.3m・短軸0.7m程の規模で、遺構の性格を窺い知るものは出土しなかつたため、その性格は不明であるが側壁に燃焼面が見られることから土坑内で火を用いたことは明白である。そのプランから南九州を中心として検出される縄文期の連結土坑の類か。本県ではこの連結土坑は鶴羽田遺跡(熊本市北区)にて検出されている。

#### (3) 土坑 (ST・SK)

土坑は88基検出されたが、ここでは「燃焼土坑」とは区別した。何れも浅い掘り込みでそのプランは円形・橢円に大別でき、一部不定形も確認できる。しかしその性格を特定する遺物は殆ど出土せず、これまでの事例から廃棄土坑などの使用目的を特定するに至らなかった。

#### (4) 火葬墓 (第55図)

明確な火葬墓として出土したのは桑鶴遺跡群06-I区にて検出された蓋付甕である。器内には小片火葬骨が出土した。火葬骨についてはNPO法人人類学研究機構に鑑定を依頼し、その内容は第V章「自然科学分析」に掲載した。蓋付甕の器型から9C頃と推測され、この時期の火葬骨は希少であるという。火葬骨を納入してあるので「火葬蔵骨器」と呼称してよいか。検出は土坑状の掘り込みに埋納されていた状況で蓋部は土圧であろうが破損しており甕には土が流れ込んでいた。

#### (5) 積穴式住居 (SB)

桑鶴遺跡群III・VI区を中心として出土した。何れも竈を持ちSH-05からは竈の袖石(No.86・87)が出土している。凝灰岩で火熱を受けたとみられ風化が激しい。

3m×3m程の規模であるがここで注目したいのは、竈位置が住居の東方向に存在していることである。このことは住居内の約束事ではなく、竈機能を考慮した空気循環等の課題を提示し、地域による気象条件に関与しているものであろう。このエリアの住居は切り合いが激しいため、規格に準じるものか特定できなかった。しかし素朴な疑問として思うのは何故、同じ場所に新たに構築するのであろうか。また破壊の要因は何であろうか。これを本遺跡において考古学的調査で理解することは困難であった。少類例であったが竈より彩色土器が出土したため、廃棄に伴う儀礼の一つか。

#### (6) 掘立柱建物

本遺跡から7軒検出された。3間×2間の建物が主で規模としては大型部類ではない。桑鶴遺跡群III区SB-03(第128図)に至っては北西方向のP3のプランは不定形を呈している。位置的に隅柱であり柱の仮置きを行い、

後に調整した痕跡であろう。また桑鶴遺跡群III区 SB-05（第130図）に至っては長軸A-B・B-Cラインを見てみると柱間隔に差異がある。短軸B-C間は土間・A-B間は住居空間と想定した。

#### (7) 堀（第133図）

桑鶴遺跡群V区にて検出された。幅6m・深さ2mを測り、調査区を横断しており調査区外まで存在することは確実である。断面はU字状を呈し下層に硬化面が検出されたことから堀としての機能を消失した後は道として利用されたことが考えられる。鉄針（No.188）が中層から出土しているが本遺構には関与しない後世の流れ込み遺物とした。

#### (8) 道（第65図）

桑鶴遺跡群II区にて検出された。長さ20m・幅1.4mを測る。波板状の硬化面が連続的に確認される。道路状遺構であろう。この遺構から時代を特定できる遺物は出土しなかったが、遺構はN-40°-W軸である。これまでの類例から古代の遺構であろう。

#### (9) 不明・他（第145図）

##### SP-01（貝殻Pit）

桑鶴遺跡群IV区にて検出された。ピット状の掘り込みにタニシ類の川貝が中層から下層にかけて埋設されていた。その個数は2,257個で貝の断面観察では透明部が認められること、掘り込みが掘立柱建物のピットに類似していることから古い様相を呈しないようである。しかし単体での出土であり食用後の廃棄の痕跡でもないようであるためその性格は不明とした。

## 第2節 遺物

### (1) 旧石器時代

#### ① 遺跡の立地環境と石器石材利用（第200・201図、第9表参照）

本遺跡は金峰山の外輪山から延びる台地上に位置し、金峰山から噴出した溶岩の上に約9万年前の阿蘇火砕流堆積物が堆積して基盤層となっている。周辺遺跡もほとんどが洪積世に形成された台地上等に立地し、当時の地質的環境を物語っている。

本遺跡の数メートル下には阿蘇4火砕流堆積物が見られその中に親指大の黒曜石が多く含まれている（Ph.1参照）。旧石器研究者の中ではこれらの黒曜石を「阿蘇4系黒曜石（Aso-4系ob）」と呼称する者が多い。当時でも周辺の台地の浸食部や河川でこの黒曜石の採集が可能であったと推定される。この石材を使用した石器として、数は少ないが細石刃があげられる。しかし、桑鶴遺跡群II区のV～VII層（白ニガ層～ローム層）において、石核、剥片、碎片が多く出土しており、剥片剥離が行われたことは確実である。その様な意味では、この遺跡は、阿蘇4系黒曜石の原産地遺跡と言えるかもしれないが、遺跡全体、かつ各層に亘る普遍的な石材利用状況ではない。時間の制約上、十分な接合作業ができなかった。また、出土した石核や剥片には多くの原礫面が残っており、どの様な石器を目的とした剥片剥離を行ったのかが不明である。また、阿蘇4火砕流堆積物中には親指大の安山岩も含まれており、その使用も見られた。

遠隔地石材で多かった使用石材は、腰岳産黒曜石であった。本遺跡から直線距離で約80km離れている。良質な黒曜石であるため、約3万年前の周辺遺跡でも使用されている石材である。製品あるいは剥片での持ち込み

が想定される。また、良質な安山岩は西北九州産石材の可能性も考えられるが、最終的な石材の产地同定は蛍光X線分析にゆだねなければならないと考える。

その他の石器使用石材として、緑川流域で産出する輝緑凝灰岩、阿蘇周辺で採集可能な在地産安山岩が多用されており、少量ながら阿蘇市周辺で産出する象ヶ鼻産ガラス質溶結凝灰岩、構造線沿いに産出するチャート、祖母・傾山系で産出する流紋岩などの石材がみられた。

## ② 石器群の様相とまとめ

本遺跡出土の旧石器の明確な出土層位を把握することは、やや困難で不安な面が残るが、実際に多くの石器が旧石器出土該当層から出土していることは事実である。動植物の影響や凍上現象などに代表される自然現象による石器の浮き沈みや後世の攪乱等で出土した石器以外は、基本的に当時の堆積層から出土していると考えられる。

本遺跡から出土した定形的な旧石器を第8表に照らし合わせてみると、AT降灰以降の石器群が主体である。阿蘇周辺の小畠編年を例にとると、切出形ナイフ形石器（No.16：狸谷型ナイフ形石器）に代表される石器群、角錐状石器（No.3・17・32）に代表される石器群、小型のナイフ形石器（No.1・9・15・29・34）に代表される石器群、細石核は出土していないが細石刃（No.5～8・18・36・37・39・40）に代表される石器群の時期が該当する。特にV期～VIII期の石器群が主体と言えるだろう。

また、桑鶴遺跡群VII区の出土石器（第25図：No.19・20・22 第26図：No.23・24・26・27）の中には明らかにATより下層であるVII層、VIII層からの出土石器も見られる。但し定形的な石器はNo.22の台形様石器のみである。

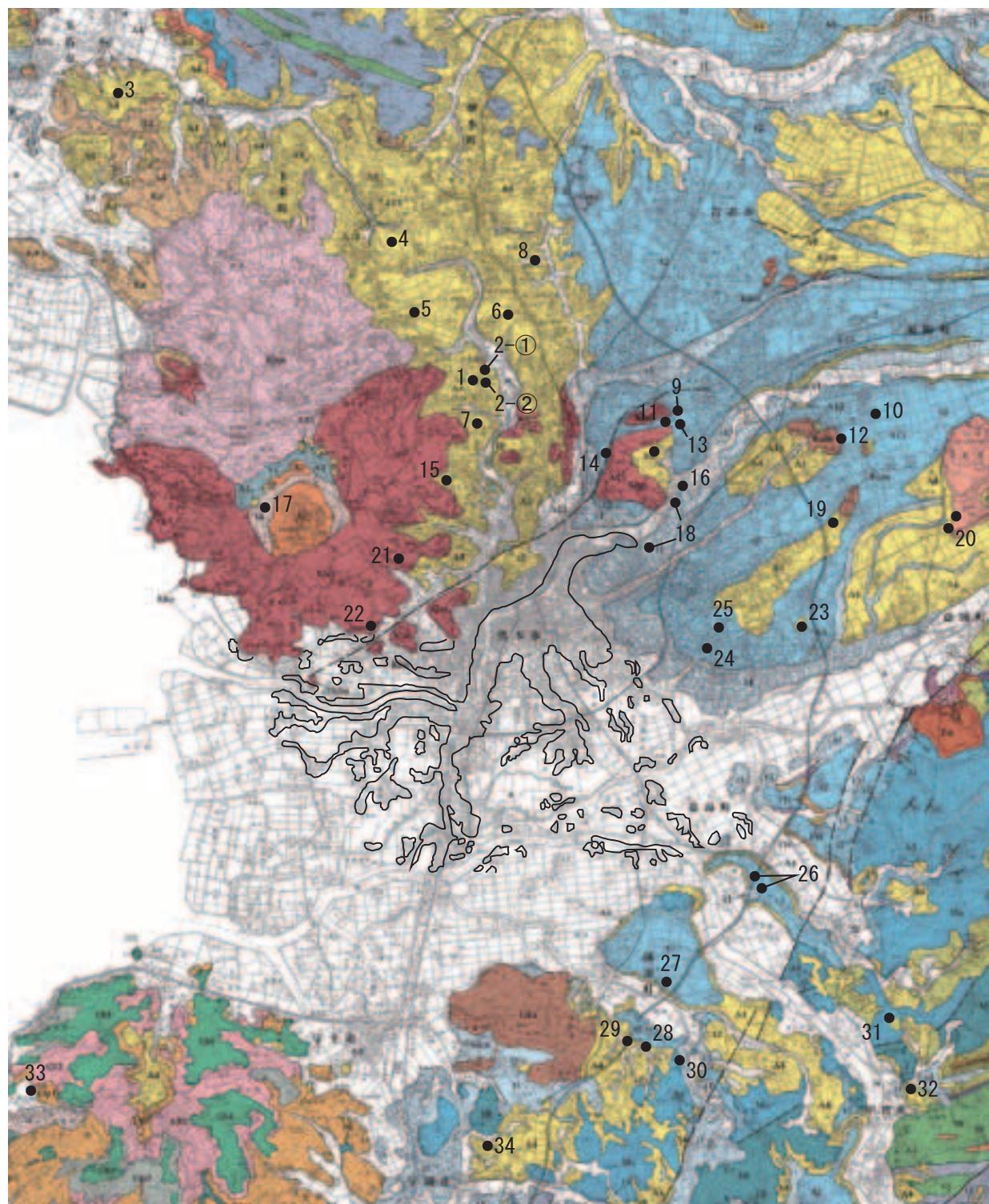
時代	九州西北部（萩原）		九州南西部（宮田）		阿蘇周辺（小畠）		クワVII区 ゴナI～ III区	クワII ～V层 上部	クワI・IV区
	時期区分と特徴		時期区分と特徴		時期区分と特徴				
縄文時代 草創期	土器の出現とほぼ同時に西海技法による細石核が出現し、南九州での地域固有の細石核が認められる。九州には神子文化の要素も認められ、複雑な模様を呈している。	X期	福井型細石刃核が特徴的に認められる時期。爪形文土器、無文土器、石鏃、尖頭器などが共伴する。				V層下部 ～IV層 上部	IV層下部 ～V层 上部	
5期	ナイフ形石器群の最終末と土器出現前の細石刃核群。ナイフ形石器群は、定形石器の小型化、形態の統一化、組合せ道具の開発という基本構造が認められ、細石刃石器群の出現と深く関わる。	IX期	東九州地域に船野型が出現し、南九州全体に拡散する時期。	VIII期 (15,000～ 12,000BP)	細石刃石器群				
4期	小さな地域単位で独自の石器製作システムが発達。角錐状石器、槍先形尖頭器、柿崎型ナイフ形石器、今崎型ナイフ形石器、枝去木型台形石器、百花台型台形石器などがある。	VIIb期	野岳・休場型細石刃核単純期の時期。	VII期 (18,000～ 15,000BP)	百花台型台形石器に代表される石器群		VI層	V層	IV層
		VIIa期	長さ2～3cm程度の小型ナイフ形石器が主体であり、素材は綾長剥片のほか横長剥片も認められる。	VI期 (20,000～ 18,000BP)	小型の綾長ナイフ形石器に代表される石器群				
		VI期	三棱尖頭器が主体となり盛行する時期。国府型ナイフ形石器も入る。	V期 (23,000～ 20,000BP)	今崎型ナイフ形石器や三棱尖頭器に代表される石器群				
		Vc期	基部加工のナイフ形石器や今崎型ナイフ形石器、そして台形石器が主体となる石器群を指標とする時期。						
後期旧石器時代 3期	第2期を特徴づけた石刃・ナイフ形石器類・急傾斜細調整サブシステムが解体し、形式の豊富さに対応する複数のサブシステムが発達。剥片尖頭器、角錐状石器、狸谷型ナイフ形石器、原の辻型ナイフ形石器、國府型ナイフ形石器などがある。	Vb期	剥片尖頭器が主体となる時期。	IV期 (25,000～ 23,000BP)	剥片尖頭器や狸谷型ナイフ形石器に代表される石器群				
		Va期	幅広剥片を使用した厚みのある切出し形のいわゆる狸谷型ナイフ形石器を指標とする時期。						
		IV期	二側縫加工ナイフ形石器と削器などが主体となり、剥片尖頭器と三稜尖頭器は含まない。						
	姶良Tn火山灰（AT） 25,000BP								
2期	初源的要素はAT直前に出現する。	III期	綾長剥片を素材とし、打面を截断するように二側縫加工をしたものや一側縫加工のいわゆる茂呂型ナイフ形石器が主体であり、ほかに擦器、削器、敲石等が伴う。多くの遺跡で縦縫を伴う。	III期 (27,000～ 25,000BP)	綾長の二側辺加工のナイフ形石器に代表される石器群		VII層	VII層	
1期	良好な層位の検出例はなく、細別編年は困難で、型式学的な方法にたよらざるをえない。比較的大形の二側辺加工ナイフ形石器、打面残置の側辺加工ナイフ形石器、端部加工ナイフ形石器などがある。	II期	小型の剥片石器が多いが、九州東南部ではこの時期の遺跡は少ない。台形石器、部分加工ナイフ形石器、削器などがある。	II期 (30,000～ 27,000BP)	プランティングや面加工の発達した台形石器と局部磨製石斧に代表される石器群				
前・中期 旧石器時代	石刃（綾長剥片）製ナイフ形石器の存在は明らかではないが、石刃の存在は確かである。局部磨製石斧、基部加工ナイフ形石器、日ノ岳型など多様な台形石器類が存在する。	I期	大型の剥片を素材とした鋸齒縁石器や斧形の石器が共通していおり、磨石・敲石類の縦縫石器が多いことが特徴である。	I期 (33,000～ 30,000BP)	部分加工の台形様石器と粗加工のノッチャビックに代表される石器群		VII層	VII層	V層
	現段階では、前・中期旧石器時代石器群の内容を明確に示すことは出来ない。	0期	石器認定が困難なものが多いが、大型剥片石器と小型剥片石器の2種類がある。						

△1: VI層: 10780±50年  
 △2: VII層上: 17180±70年  
 △3: VII層下: 19690±80年  
 ●1: VI層上: 20960±130年  
 ●2: VI層下: 22010±130年  
 クワ=桑鶴遺跡群 ゴナ=五丁中原遺跡

第8表 旧石器時代の地域的編年と本遺跡との比較表



第 200 図 遺跡を取り巻く石材環境 ( $S=1/1,000,000$ )



第 201 図 熊本市周辺の地質図と旧石器時代の遺跡位置図 熊本県地質図 (S=1/100,000) 説明書 (2008) より加筆引用

#### 凡例

A4 : 阿蘇 - 4 火碎流堆積物 Kbo : 金峰火山古期噴出物 A13 : 阿蘇 - 1~3 火碎流堆積物 t1 : 低位段丘堆積物 t2 : 中位段丘堆積物  
 Ki : 金峰火山新期堆積物 Ys : 芳野層 ta : 崖錐堆積物 Kbn : 金峰火山中期噴出物 Kum : 熊本層群 Ai : 赤井火山 (砥川溶岩)  
 Mu : 御船層群上部層 FH : 布田層・花房層 MI : 御船層群下部層 vg : 苦鉄質火山岩類 cc : 結晶質チャート um : 超苦鉄質岩類  
 Gks : 雁回山層 011 : 大岳古期輝石安山岩溶岩 013 : 大岳新期角閃石安山岩溶岩 014 : 大岳新期輝石安山岩溶岩  
 0p1 : 大岳新期角閃石安山岩火碎岩 0p2 : 大岳新期輝石安山岩火碎岩

●は遺跡の位置、○の範囲は自然堤防の範囲を示す。

番号	遺跡名	所在地	標高(m)	遺物・遺構	出土場所・層位等	調査歴	文献
1	桑鷺遺跡群	熊本市北区賀町字馬場・二つ塚	78	ナイフ、台形様、三棱尖頭器、剥片等	白二ガ層、ローム層、アカホヤ層、客土等	県発掘 県発掘	本報告
2-①	五丁中原遺跡	熊本市北区賀町字馬場・三つ塚	77	ナイフ、三棱尖頭器、細石刃、剥片	白二ガ層、アカホヤ層、黒ニガ層	市発掘 市発掘	本報告
2-②	五丁中原遺跡（市調査区）	熊本市北区賀町字馬場・三つ塚	72~73	剥片尖頭器、ナイフ、三棱尖頭器	弥生の包含層、網文早朝の集石	玉名市発掘 市発掘	熊本県教育委員会「197b 五丁中原遺跡 第1次調査区発掘調査報告書」
3	吉丸前遺跡	玉名市寺田字吉丸前	43~47	三棱尖頭器	中世の空堀	玉名市発掘 市発掘	玉名市教育委員会「2007a 吉丸前遺跡 第16集」
4	ヲスキ遺跡	熊本市北区植木町滴水字ヲスキ	90	ナイフ	他の遺物に混入	発掘 探査	熊本県教育委員会「2003 ヲスキ遺跡 第214集」
5	山海道遺跡	熊本市北区万葉寺町甲斐尾	100~120	剥片尖頭器	工事中の残土	市発掘 市発掘	熊本県教育委員会「1994 熊本県遺跡地図」
6	硯川遺跡	熊本市北区西堀尾町480番地	90	剥片	姶良川火山灰包含層中	市発掘 市発掘	熊本県教育委員会「1999a 熊本県文化財調査年報第2号」
7	扇田遺跡	熊本市北区賀町扇田	60	剥片尖頭器、ナイフ、三棱尖頭器	網文時代等の包含層	市発掘 市発掘	熊本県教育委員会「2001a 熊本県文化財調査年報第4号」
8	小糸山遺跡群	熊本市北区明徳町字系屋敷	77~78	剥片尖頭器、三棱尖頭器	姶良川火山灰包含層中	市発掘 市発掘	熊本県教育委員会「1999a 熊本県文化財調査年報第2号」
9	庵ノ前遺跡	熊本市北区西堀尾町480番地	80	台形様、ナイフ、剥片	他の遺物に混入	発掘 発掘	熊本県教育委員会「1997a 庵の前遺跡Ⅲ 第160集」
10	下石ヶ迫遺跡	菊池郡菊陽町辛川	90	炭化物集中	ローム層	県予備調査 探査	肥後考古学会「1985 特集・熊本の旧石器文化」
11	天坪山遺跡	熊本市北区清水町輸木	97	炭化物集中	天坪山斜面	発掘 探査	熊本県教育委員会「1996 石の本遺跡群Ⅱ 第178集」
12	平山石ノ本遺跡	熊本市東区平山町石ノ本	75~104	ナイフ、台形、面部磨製石斧等、陳群	白ニガ層、ローム層等	発掘 発掘	熊本県教育委員会「2001b 石の本遺跡群Ⅳ 第195集」
13	古闘山遺跡	熊本市北区龍田町上立田	90	台形様、剥片、細石刃	ローム層直上、清掃中	発掘 発掘	熊本県教育委員会「1996 古闘山遺跡 第171集」
14	谷口遺跡	熊本市北区清水町万石4丁目	25	ナイフ	他の遺物に混入	県発掘 探査	肥後考古学会「1985 肥後考古 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
15	柿原羽山尻遺跡	熊本市西区花園町柿原	50	ナイフ、細石刃	不明	発掘 探査	熊本県教育委員会「1996 石の本遺跡群Ⅲ 第178集」
16	竜田陳内遺跡	熊本市北区龍田町陳内	34	三棱尖頭器、剥片	弥生時代の遺物包含層	県発掘 探査	肥後考古学会「1988 竜田陳内遺跡 第1卷 考古資料」
17	面木遺跡	熊本市西区河内町面木	230	剥片尖頭器など	ミカン園内	発掘 探査	熊本県教育委員会「1996 新熊本市史 第1卷 考古資料」
18	新南部遺跡群	熊本市東区新南部町・上南部町	30	ナイフ、細石刃核	東洋大学西側の烟内、弥生時代の包含層	発掘 探査	肥後考古学会「1985 新南部遺跡 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
19	葉山遺跡群	熊本市東区戸島町葉山	60	細石刃核	弥生時代の遺物調査	発掘 発掘	肥後考古学会「1985 新南部遺跡 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
20	遺跡名未詳	上益城郡益城町(甲賀郡製糸所内)	140~150	剥片	旧石器出土駁当層	県予備調査 探査	肥後考古学会「1985 新南部遺跡 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
21	谷尾崎遺跡	熊本市西区谷尾崎町谷尾崎	50	細石刃核	不明	発掘 探査	肥後考古学会「1985 谷尾崎遺跡 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
22	高橋町遺跡群(上高橋遺跡)	熊本市西区高橋町上高橋	50	ナイフ、台形	ミカン園内	発掘 探査	肥後考古学会「1985 高橋町上高橋 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
23	梨木遺跡	上益城郡益城町大崎字梨木	35	ナイフ	網文時代の遺物包含層	発掘 発掘	熊本県教育委員会「1996 新熊本市史 第1卷 考古資料」
24	健軍神社周辺遺跡群	熊本市東区健軍本町	25	細石刃	ローム層	県調査 発掘	熊本県教育委員会「1990c 古闘北・梨木遺跡 第175集」
25	健軍藤原遺跡	熊本市東区健軍(自衛隊敷地内)	30	剥片	細石刃、細石刃核、台形様、石核、剥片	発掘 発掘	熊本県教育委員会「2005 健軍藤原遺跡 第229集」
26	久保(秋只)遺跡	上益城郡御船町大字久保・秋只	45	細石刃、細石刃核、台形様、石核、剥片	表土擾乱層	発掘 発掘	肥後考古学会「1985 肥後考古 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
27	沈目遺跡群	熊本市南区城南町沈目	30	台形、搔器、削器など	ローム層	町発掘 町発掘	城南町文化財調査報告第12集
28	上ノ原遺跡	熊本市南区城南町原上ノ原	40	ナイフ、台形、角錐状石器	堅穴住居の覆土・表土	県発掘 県発掘	熊本県教育委員会「1983a 上の原遺跡 I 第1卷 考古資料」
29	尾窪遺跡(塙原古墳群)	熊本市南区城南町尾窪	30	台形、搔器、削器など	中世墓裏の焼土や土壤の埋土中	県発掘 県発掘	熊本県文化財調査報告第53集
30	遺跡名未詳(後田)	熊本市南区城南町藤山字後田	30	細石刃	旧豊田中学校敷地の南側崖下付近	探査 探査	熊本県教育委員会「2005 肥後考古 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
31	大峯遺跡	上益城郡甲佐町上早川	70	搔器、削器など	中位ローム層	調査団発掘 調査団発掘	肥後考古学会「1985 肥後考古 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
32	上早川遺跡(日下横田)	上益城郡甲佐町下横田	65	搔器、削器など	烟内	探査 探査	肥後考古学会「1985 肥後考古 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
33	田平遺跡	宇土市綱町柳原	5	ナイフ	流れ込み	宇土市発掘 宇土市発掘	肥後考古学会「1985 田平遺跡 第5号 特集・熊本の旧石器文化」
34	曲野遺跡	宇城市公橋町曲野字長谷川	22	台形、ナイフ、局部磨製石斧など	ニガシロ、ローム層	県調査 県調査	熊本県教育委員会「1984 曲野遺跡 I 第65集」

◆ その他にも遺跡地図の中に「旧石器時代」の遺跡として掲載されているものが、岩倉山遺跡、堂ノ前遺跡として存在するが、ここでは調査歴あるいは採集歴のある遺跡を取り上げる。

第9表 周辺の旧石器遺跡データ一覧表

## (2) 旧石器以降

### ① ヘラ描き土器・墨書き土器

「原」の文字がヘラ描きで確認できる。「原」はその語源を厂と泉に分けることができる（大漢和辞典）。

厂は平原の意で、小字は和泉町で発音は「イズミ」となる。また「原田」（No. 291～293）も出土した。墨書き土器は須恵器の蓋に書かれ「口殿」と読める。ヘラ描き土器は製作時に陶工が傍らに積み上げ、最上部に出荷先をヘラ書きすると云われている。

### ② 金属器

鎌・刀子・楔などが確認されるが用途不明の遺物も多く、ここではその内容を提示する。No. 188 は大型の針状で、推定の素材として先端は鋭利でその反対端部は輪を形成してある。全体に撓りを掛け強度を増しているようである。輪は何等かを通す穴と考えると紐状のものを使用した金具か。現代でいう畳針に近いものか。

本遺跡では製鉄を行った可能性を示唆する遺物として、轍の羽口・鉄滓の出土により可能性は高い。また埴堀（No. 175・176 他）には銅片が付着している。出土遺物に銅滓（No. 545）があることから製銅を行っていたことが考えられる。やや厚手で浅い小型の碗状である。併せて多くの鉄滓が本遺跡より出土した。

またNo. 381 は須恵器に溶接していた窯のガラス滓で窯の高温により溶解したケイ素類が付着したものであろう。これらが大量に付着すると器としての機能を失うので廃棄されたものである。

### ③ 土馬（No. 124・376）

桑鶴遺跡群III区・VI区より出土。炻器状態であり、かなり高温で焼成されている。No. 124 は頭部位の可能性があり全体は破壊されている。祭祀に関与する遺物であろうがその性格を明確にできる関連の遺構・遺物は検出・出土しなかった。近接する調査区 桑鶴遺跡群II区から古代の道が検出されているので交通に関与したものか。土馬として提示した。

### ④ 土製品（No. 256）

桑鶴遺跡群 06-II a 区より出土。1点だけの出土であった。全体に沈線を巡らし装飾であろう。孔が穿ってあり糸など通す目的であろう。装飾品として考えたいが、これも1点の出土のためその性格は不明である。

五丁中原遺跡III区 SD-01 の 2 層より泥面子が出土しているが破片で実測に耐えられないが、この近年、注目されている「泥面子」については「肥後郷土玩具想隨」（梅原與惣次 1936）記載の文章に  
「面と呼ぶ諸種の泥面が存在していた。清正公・為朝を初め武将の顔を象ったもの、福神を象ったもの、或いは鬼面を現したものなどあって、長さ一寸内外の土面に彩色した甘い感じのするものである。普通、『人形』又は『投げ人形』と呼んでいた。之を地上或る距離のところに円を描いて投げ込み、遊び相手がこれを打ち合う、相手の人形をうまく円外に打ち出せば勝ちで自分の所有となる。（略）」

とある。昭和 11 年の書物であるため古形を色濃く残した遺物である。

### ⑤ 輸入磁器

数的には多くない。また何れも破片である。龍泉窯の青磁蓮弁文碗が出土している。蓮弁の文様から 13C の産物であろう。外器に雷文を施した青磁もみられるが何れも同時期であろう。他に宗時代の天目碗も出土しているが輸入磁器は伝製品の性格を持つため製品作成年代と所有年代には差異は生じるだろう。しかし所有するには当時の特権階級であるためこの地域の様相を窺い知る材料となる。

また近世陶磁器として本報告書には記載しなかったが近世中期の筒型湯呑碗・油徳利の小片が本遺跡上層で出土している。何れも生活器で農耕に関与した生活地が存在したのであろう。輸入磁器ではないがNo. 459は磁器製で観察からは卸し金のようであるため近現代遊具の中の一つであるか。

#### ⑥ 彩色土器

本遺跡より赤色を施した土器が出土した。遺構に伴う主な土器はNo. 91・97で何れも住居からの出土であり、それは打ち欠きの感を受けることから住居廃棄儀礼に伴うものか。また肉眼観察ではベンガラ（酸化第二鉄）と赤土（Al・Siを主にFe）に大別できそうである。

本遺跡では弥生中期の袋状口縁部片（No. 258）・後期の免田式土器（No. 257）があり、以後は古代の土師器にそれを見て取れる。前述したように住居廃棄に伴う彩色土器など、今後、民俗事例との関係も参考として本遺跡での類例を提示した。

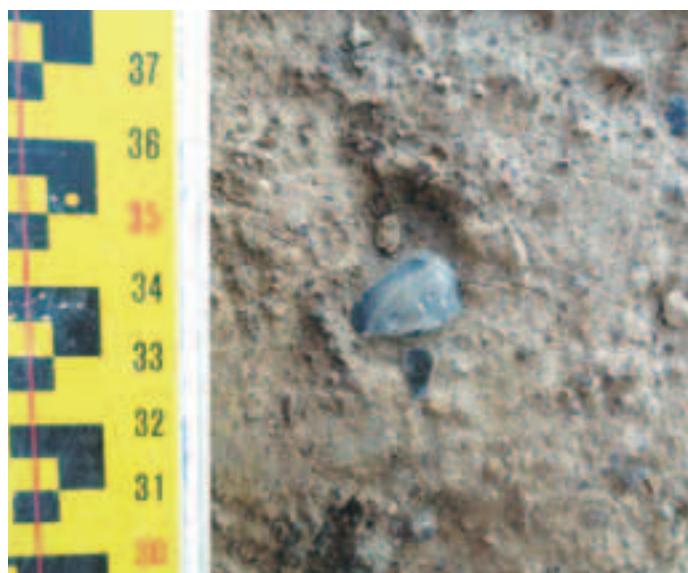
### 第3節 結言

古代については、この地域においての調査事例に乏しくその様相について不明部分が多かったが、9世紀の住居地の検出により、この地域の一つの情報提示を行うことが出来そうである。竈付住居で生活地域を提示した。住居集中区が本遺跡に存在するが、この理由については明確にできなかった。しかしこの住居地集中区からヘラ描き土器には「原」の文字が刻まれていた。ヘラ描き土器の出土は、本遺跡ではその数11点であるが、前述したように「原」は厂と泉の意があり厂は平原、泉は現在の地名の和泉に通じるのであろう。この台地は火山灰土壤であるが湧水に恵まれていることが知られ、また現在では平坦な畠地であるが、本調査に関連した確認調査では谷部も存在し生活の水源としては恵まれていたのであろう。

道路状遺構も古代と推定され住居地群と同時期ならば、この台地にて集落を形成し集落の生活・交通に大きく関与したことになりムラの様相を想定することができる。また住居内で出土した土馬も交通の信仰関係と深く関係しているのであろうか。

また前節で述べたようにここに住居が集中している根拠が存在するのであるが、調査・整理ではその理由を明確にできなかった。一度、掘り込んだ箇所を再利用するのは容易なことであろうが、それを結論とすると短絡的すぎる。また第1節で述べたように、住居の廃棄に関しては本遺跡の考古学手法では明確な回答を得ることは困難であったが、この竈とは火に関係する所であり食に暖に照明にと、生活の根底を成すものである。ここには人々の想い・願いが凝縮される。住居地から出土した灯明皿のほんのりした灯りは日々の安堵感を与えたに違いない。

また時期は不明であったが桑鶴遺跡群V区にて検出の堀（SD-01）とその西側には掘立柱建物が検出されたことは関連が想定され、それは中世の居館の存在を窺わせる。これを補足するに少数であるが輸入磁器の出土がある。従って本遺跡は旧石器と古代をピークに持ち、縄文・弥生・中世がこの台地に点在することが、調査結果になる。しかし、この台地は全面調査でなく部分的な調査であるため、点と点を結ぶ作業に近い。本遺跡に限らずほとんどの行政調査がそうであろう。その状況の中で遺跡の成果は、今後の調査への一助として提示するに留めるしかないのかもしれない。



阿蘇 4 火碎流堆積物中の  
黒曜石 確認状況



五丁中原遺跡 II 区 西側  
工事現場 土層断面状況



桑鶴遺跡群 VIII区 SH-01 使用時完掘状況  
(N →)  
Ph. 1



桑鶴遺跡群 VIII区 土層断面図 A-A' (S →)



桑鶴遺跡群 VIII区 南西壁 土層断面



五丁中原遺跡 I 区 南壁 土層断面 B (S → N)  
Ph. 2



五丁中原遺跡 I 区 VI層 石器出土状況 (28)



五丁中原遺跡 I 区 東壁 土層断面 1 (W → E)



五丁中原遺跡 I 区 東壁 土層断面 2 (W → E)



五丁中原遺跡 I 区 東壁 土層断面 3 (W → E)



桑鶴遺跡群 06-I 区 1 号集石 検出状況 (W →)



桑鶴遺跡群 06-I 区 3 号集石 検出状況 (W →)

Ph. 4



桑鶴遺跡群 06-I 区 SI-01 検出状況 (S →) (64・65)



桑鶴遺跡群 06-II 区 SI-03 土坑 検出状況 (E →) (50)

Ph. 5



桑鶴遺跡群 II区 SX-04 検出状況 1 (N → S)



桑鶴遺跡群 II区 SX-02 (右) SX-04 (左) 検出状況 2 (N → S)



桑鶴遺跡群 I 区 石器 出土状況 (3)



桑鶴遺跡群 II 区 石器 出土状況 (9) (E →)



桑鶴遺跡群 II 区 SX-05 土器 出土状況 (E →)

Ph. 7



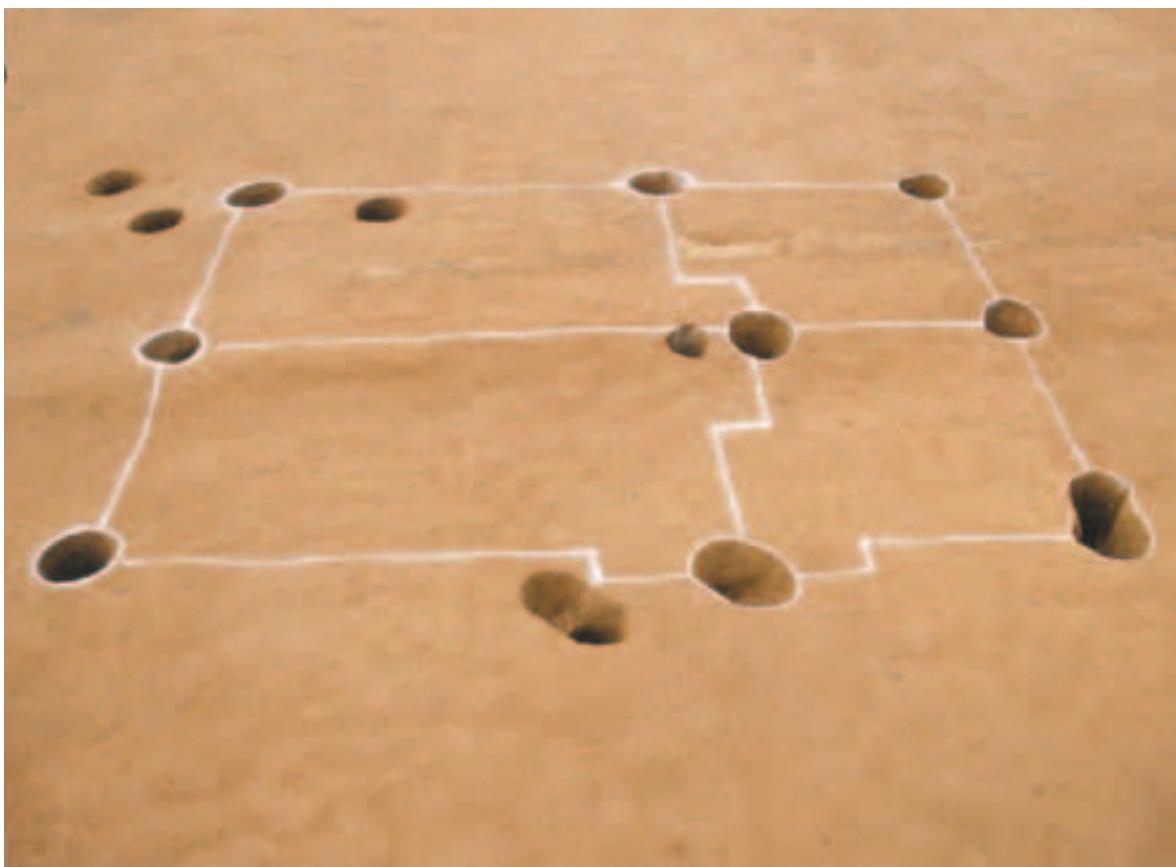
桑鶴遺跡群 III区 SH-17 竈 検出状況 (W →)



桑鶴遺跡群 III区  
SH-12 土馬 出土状況 (124) (S →)



桑鶴遺跡群 III区 住居密集地 検出状況 (SE →)



桑鶴遺跡群 III区 SB-05 完掘状況 (E →)



桑鶴遺跡群 IV区 SH-01 窟 使用時状況 (E →)



桑鶴遺跡群 V 区 SD-01 完掘状況 (N →)



桑鶴遺跡群 IV 区 貝殻 出土状況 (S →)

Ph. 10



桑鶴遺跡群 VI 区 土師器 出土状況 (168・169) (WS →)



五丁中原遺跡 I 区 石器 出土状況 (490) (E →)



桑鶴遺跡群 VIII区 SX-05 炭化物 出土状況 (N →)



五丁中原遺跡 I 区 SX-01 完掘状況 (W →)

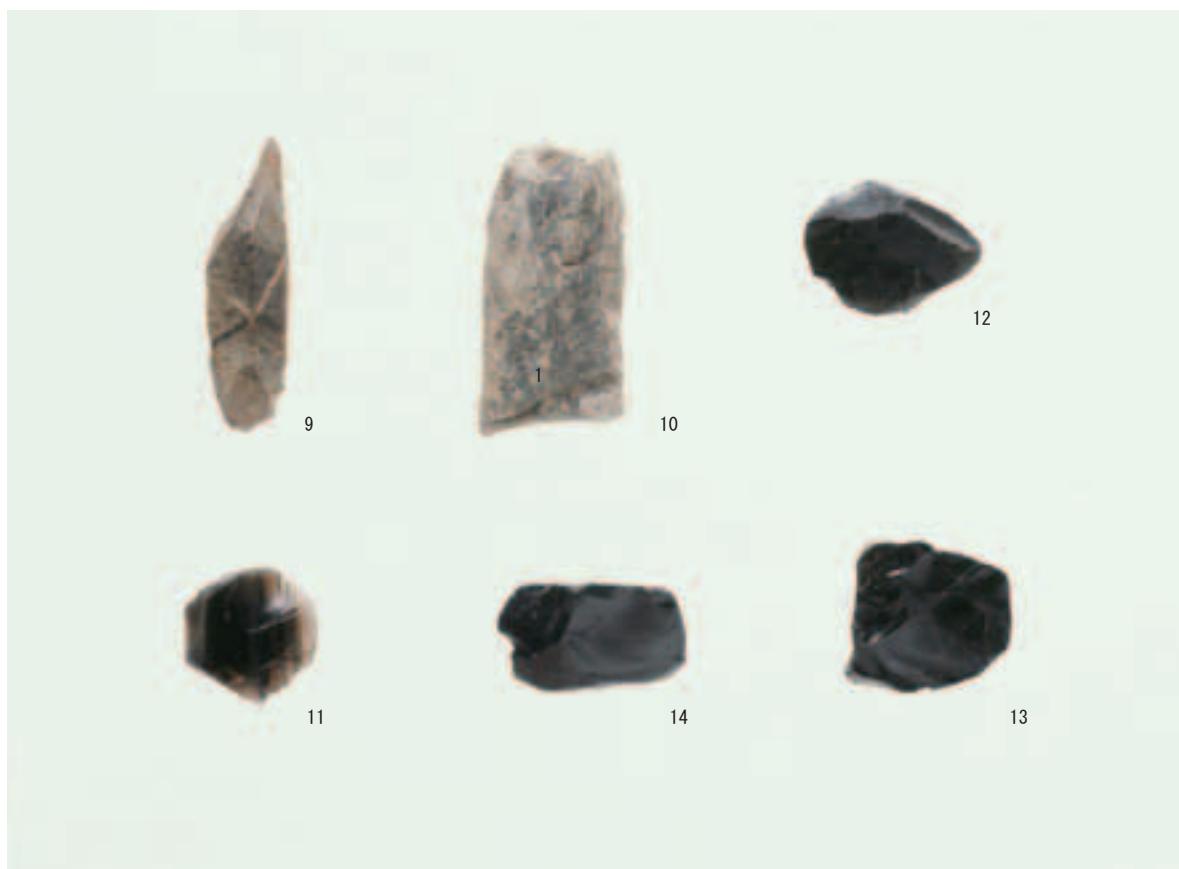
Ph. 11



出土石器 1 (表)



出土石器 1 (裏)

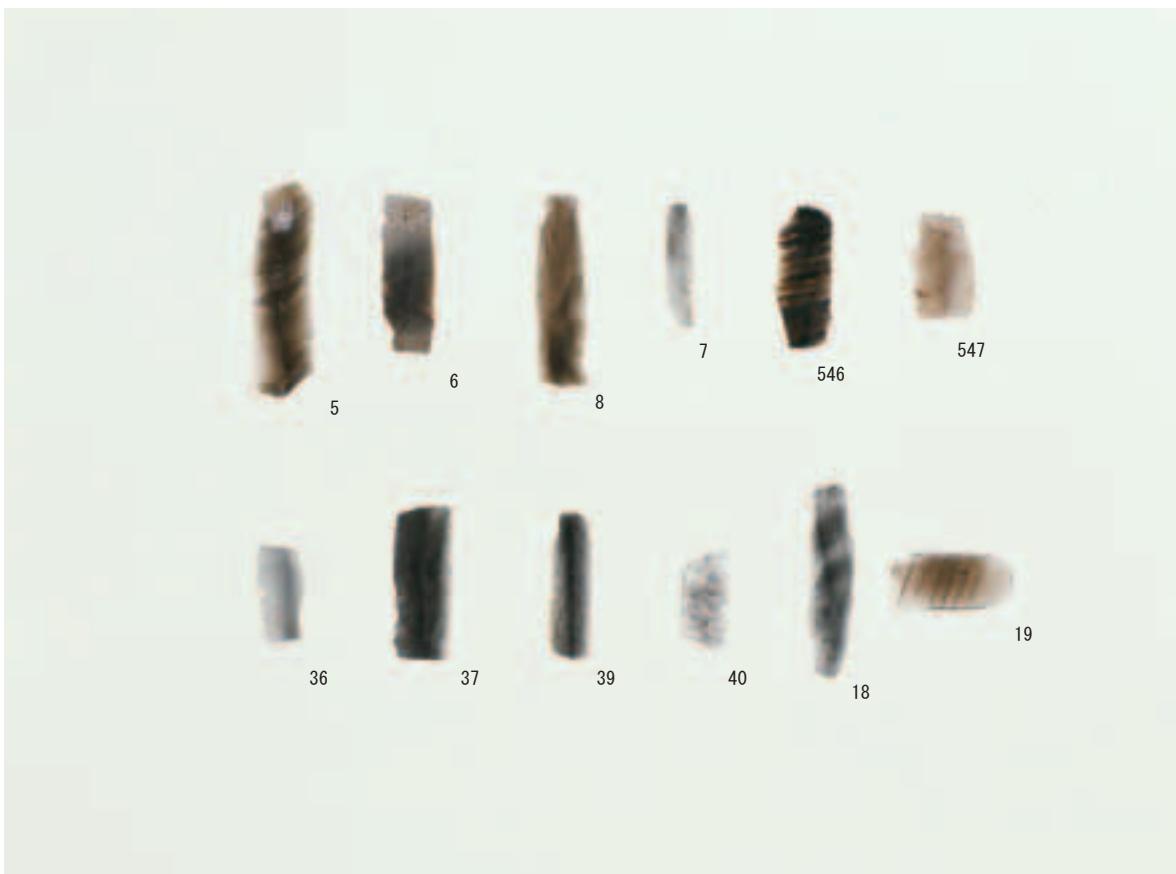


出土石器 2 (表)



出土石器 2 (裏)

Ph. 13



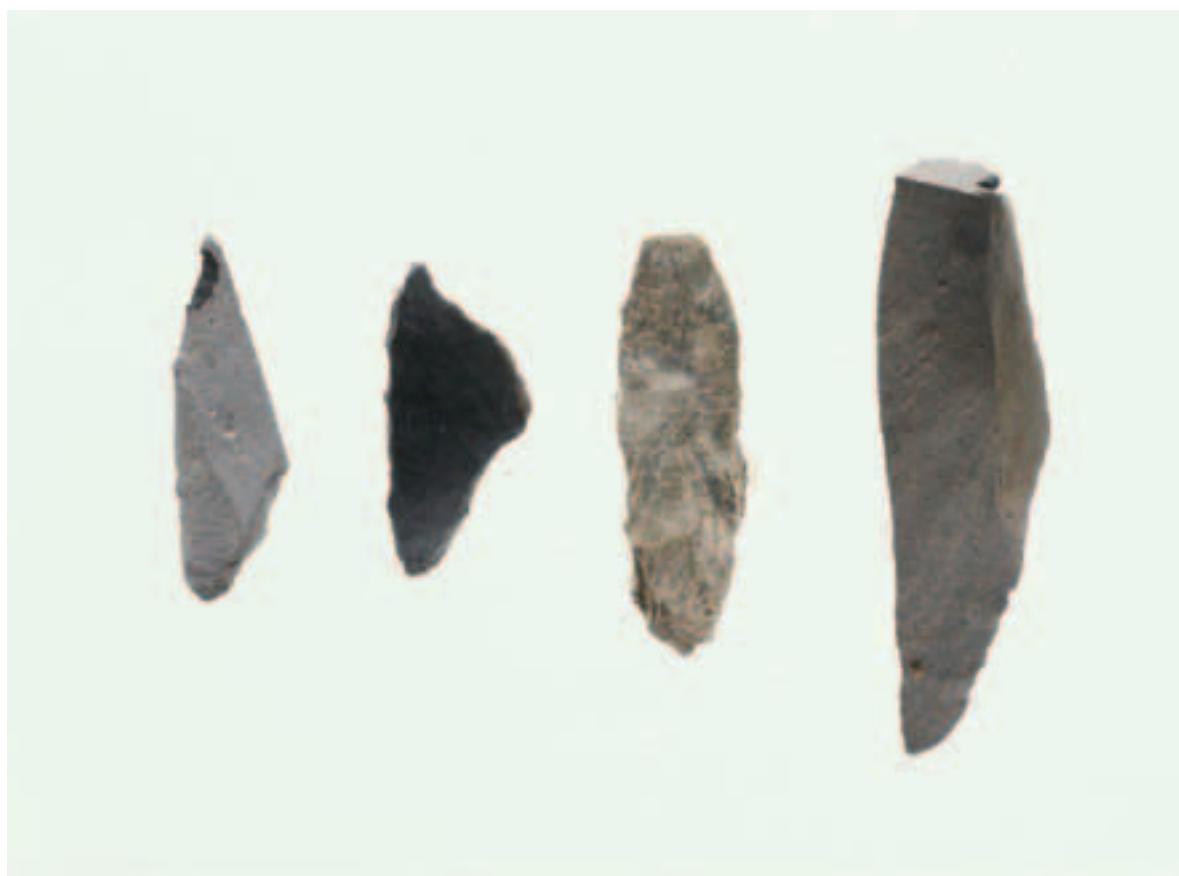
出土石器 3 (表)



出土石器 3 (裏)

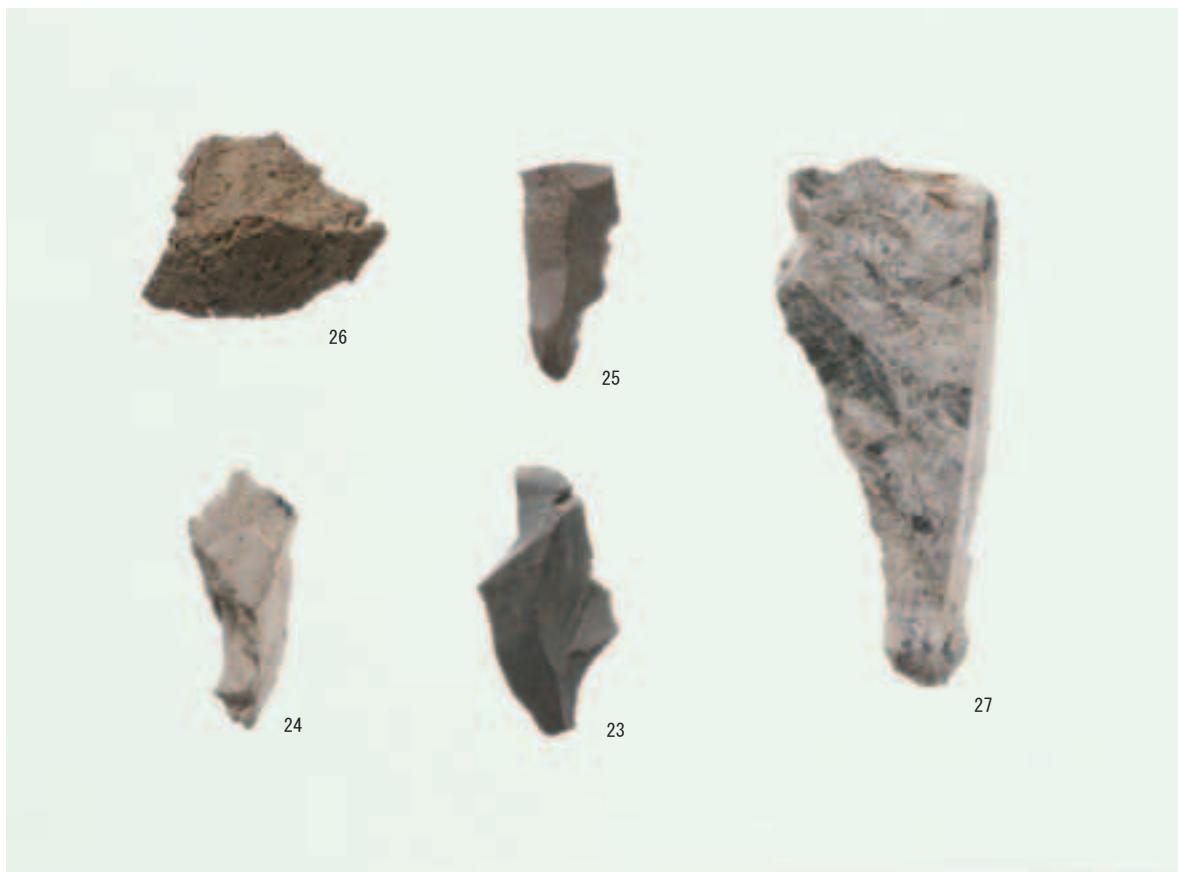


出土石器 4 (表)



出土石器 4 (裏)

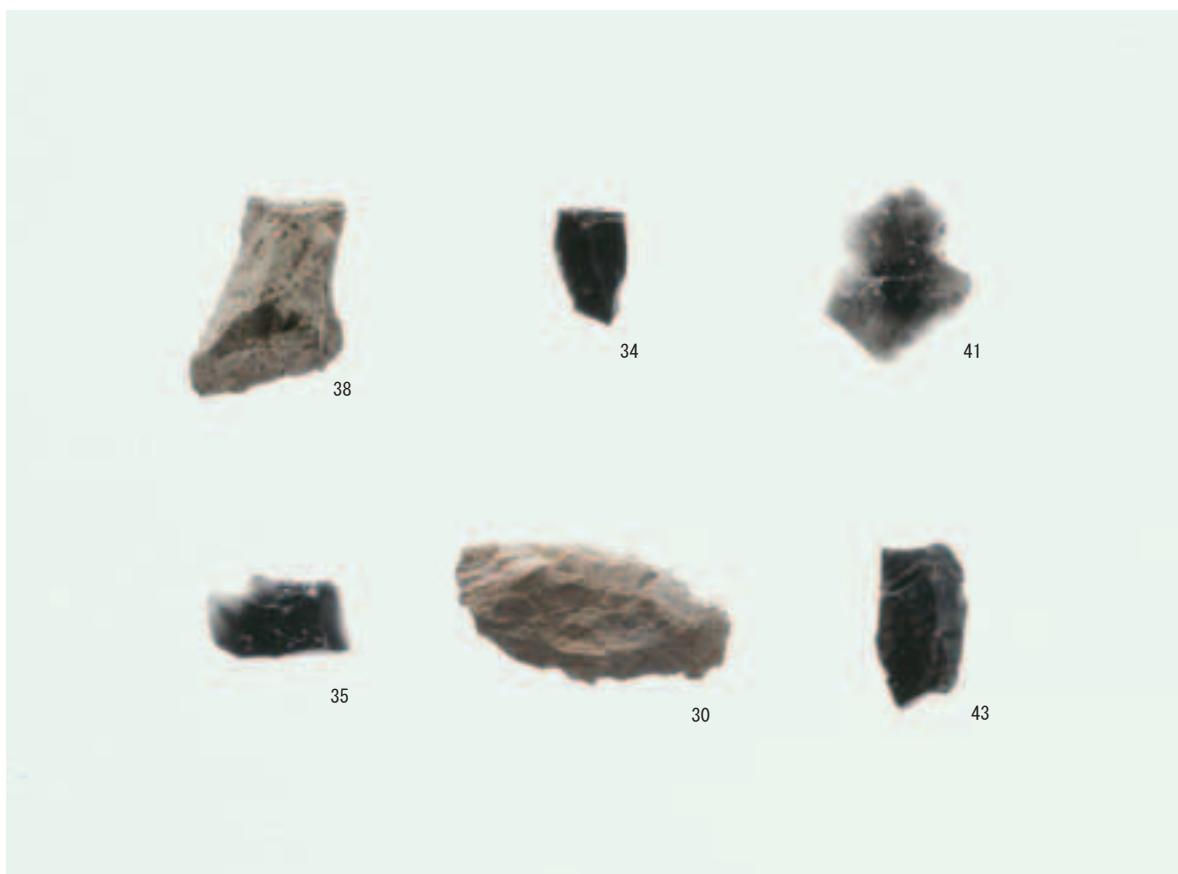
Ph. 15



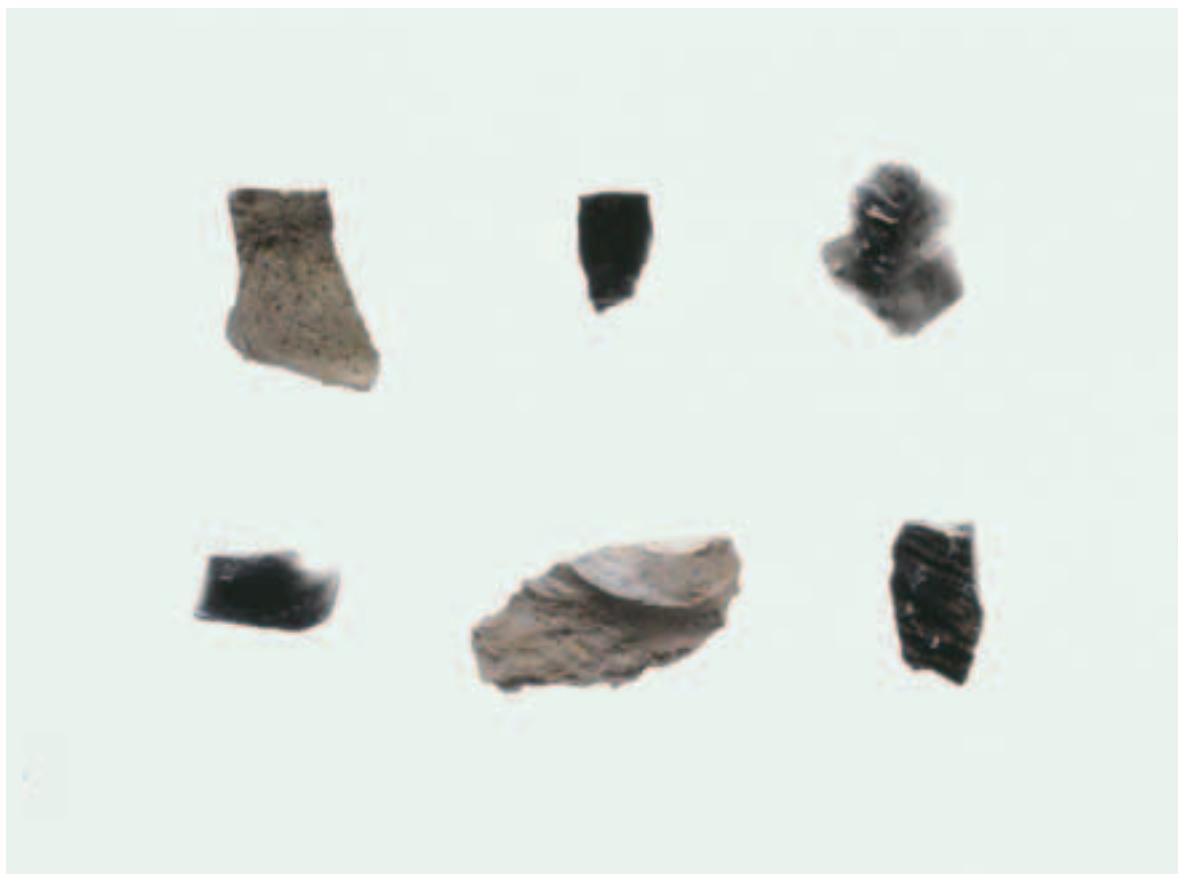
出土石器 5 (表)



出土石器 5 (裏)



出土石器 6 (表)



出土石器 6 (裏)

Ph. 17

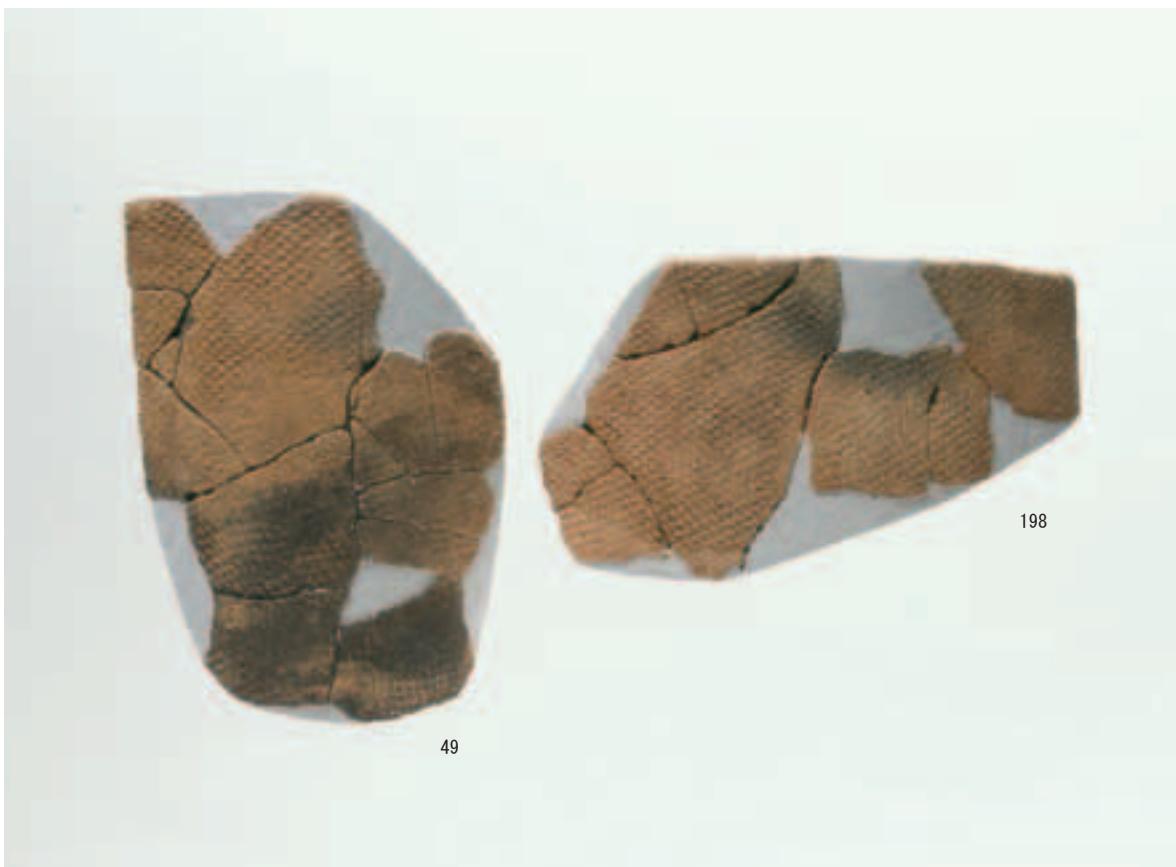


出土石器 7 (表)



出土石器 7 (裏)

Ph. 18



縄文早期土器 1 楠円文



縄文早期土器 2 条痕文・格子目文・塞ノ神式

Ph. 19



桑鶴遺跡群 06-I 区 SI-01 出土土器



桑鶴遺跡群 06-I 区 SI-01 底部様相



桑鶴遺跡群 V 区 出土坩堝と鞴の羽口



桑鶴遺跡群 06-II 区 出土 土製勾玉



桑鶴遺跡群 VI 区 ガラス滓（左）  
桑鶴遺跡群 VI 区 鉄滓（右）



五丁中原遺跡 I 区 出土 免田式土器片



桑鶴遺跡群 I 区 SH-01 出土土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-03 出土 墨畫土器



桑鶴遺跡群 II 区 SX-05 阿高式土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-12 出土土馬



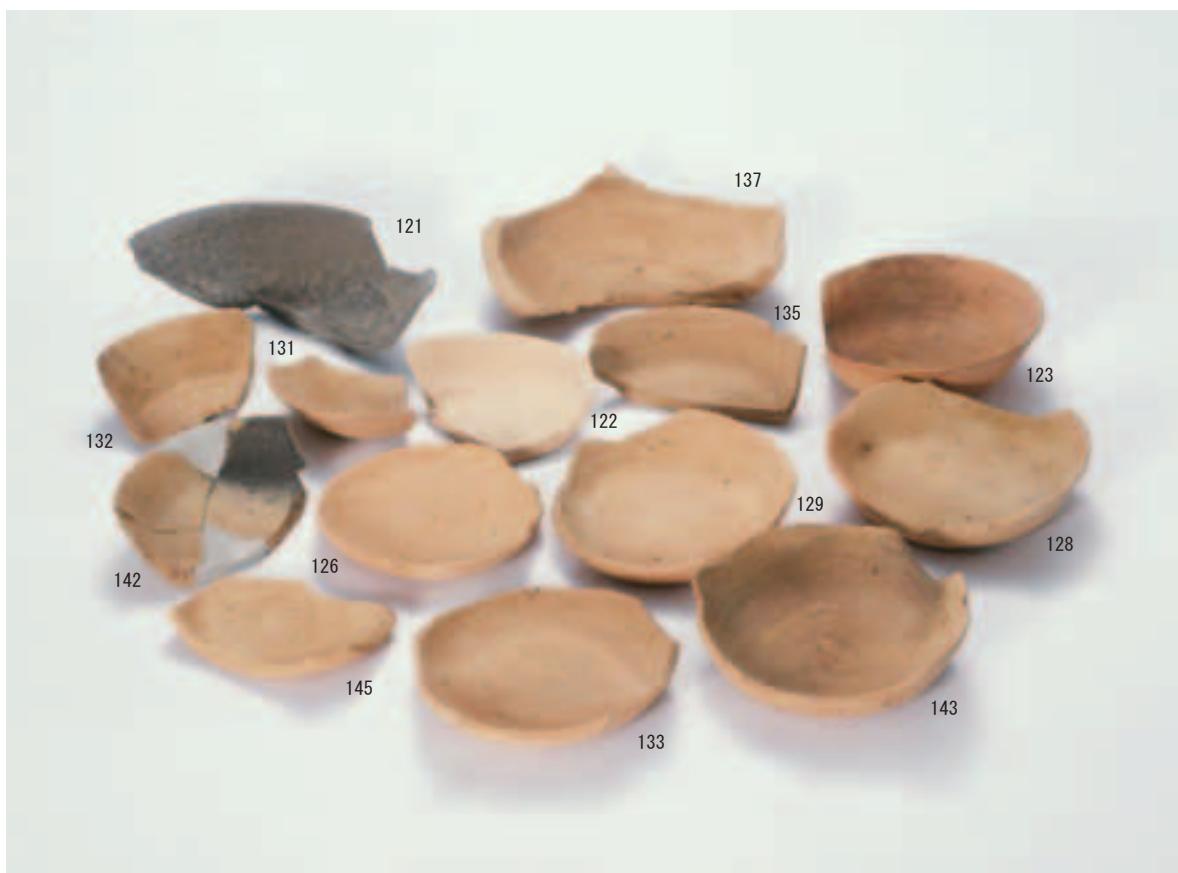
桑鶴遺跡群 II 区 SX-05 阿高式土器



桑鶴遺跡群 VI区 ST-03 出土土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-05 出土土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-12 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-10 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-11 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-07 出土土器



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-14 出土土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-16 出土土器



桑鶴遺跡群 VII区 SH-01 P-1 出土土器



桑鶴遺跡群 III区 SH-17 出土土器



桑鶴遺跡群 IV区 SH-01 出土土器



桑鶴遺跡群 III区 出土 把手部位



把手貼り合わせ状態



桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-05 出土 ヘラ書き「原」

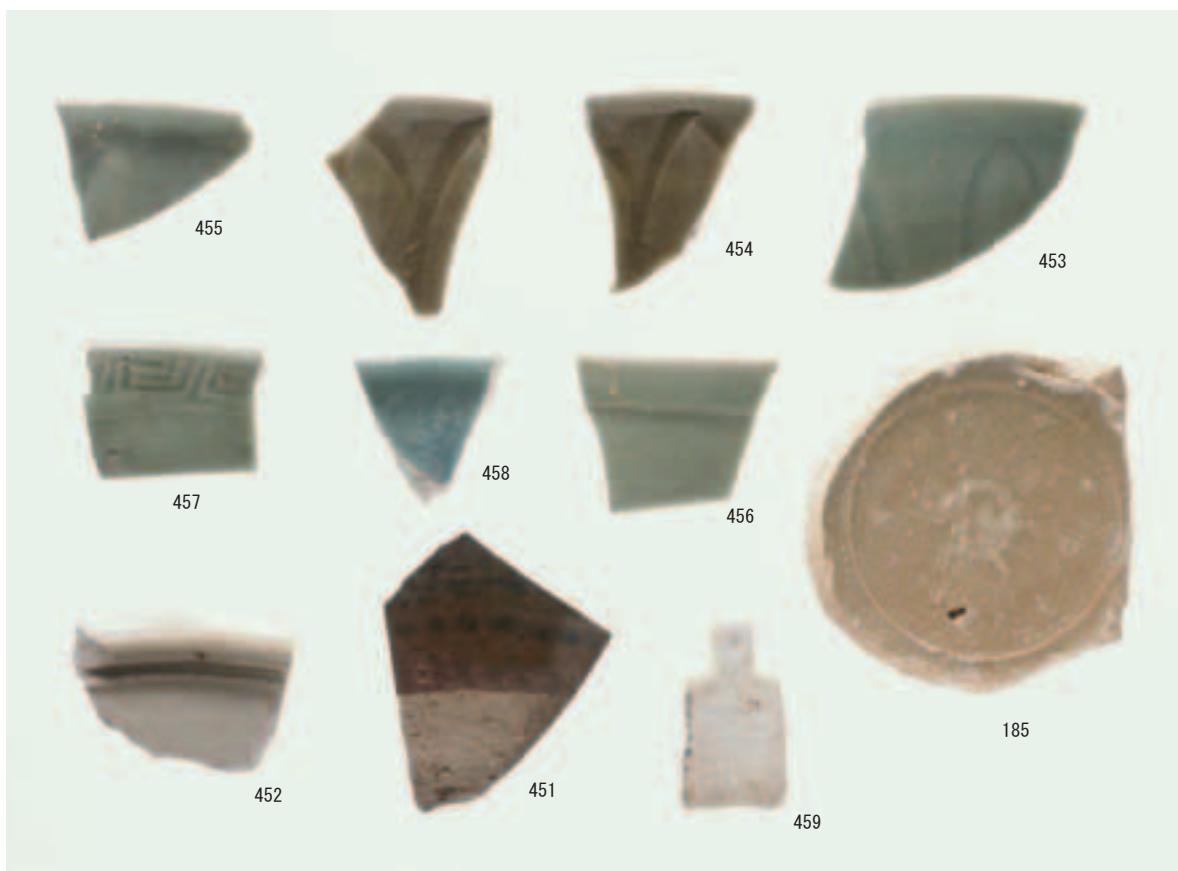


桑鶴遺跡群 Ⅲ区 SH-12 出土 ヘラ書き「原」「O」



桑鶴遺跡群「原」墨書ヘラ記号

Ph. 25



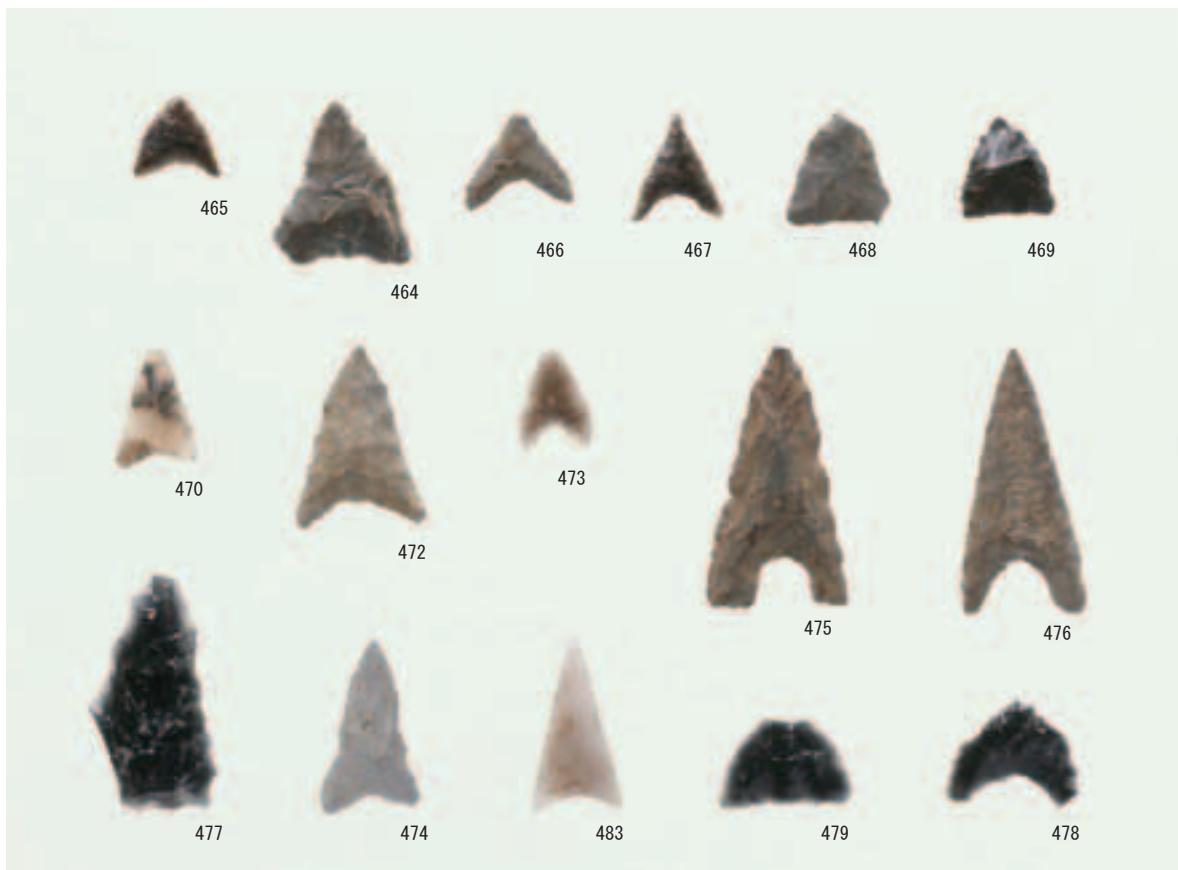
輸入磁器類



桑鶴遺跡群 V 区 IIIb 層 出土土器



桑鶴遺跡群 III 区 SH-05 出土袖石

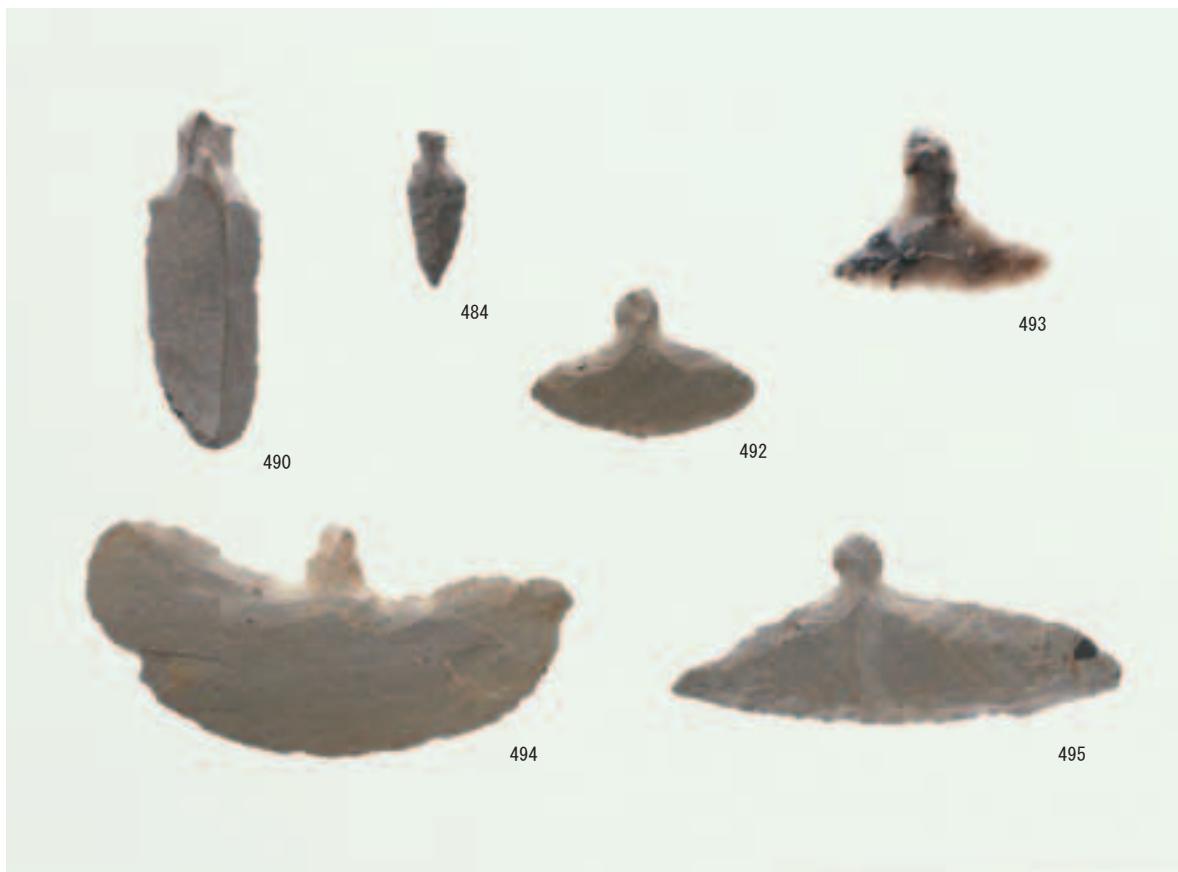


石器 1 (石鏃)



石器 2 (石鏃・尖頭器)

Ph. 27



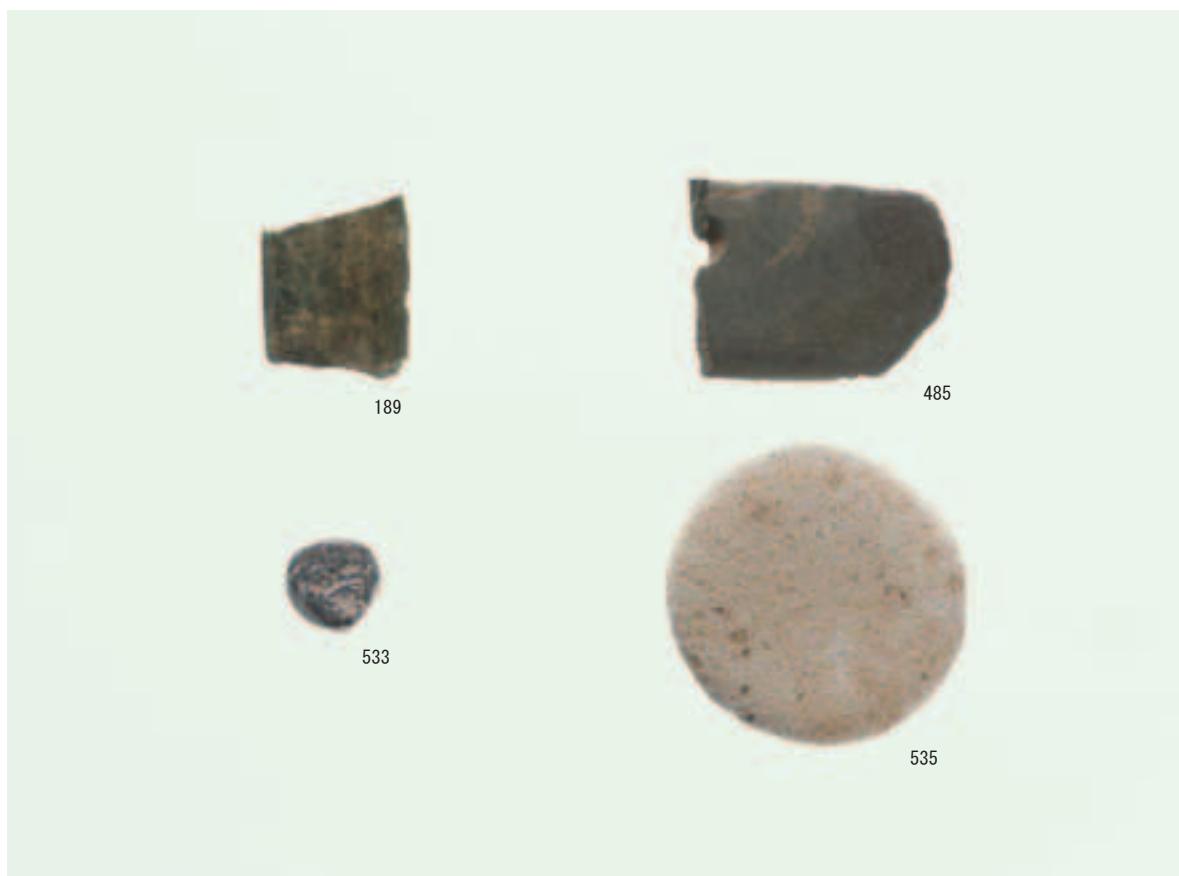
石器 3 (石匙)



石器 4 (打製石斧 · 磨製石斧 · 凹石)

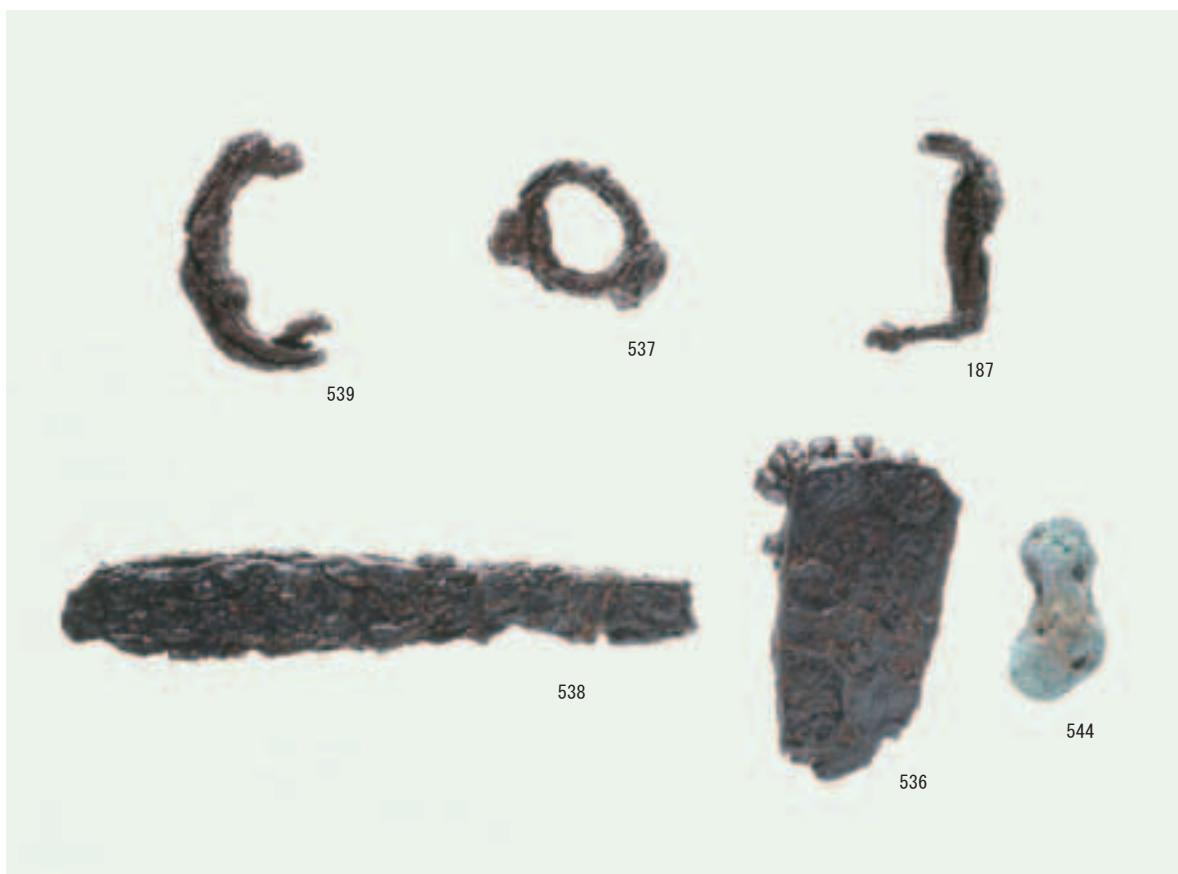


石器 5 (砥石)

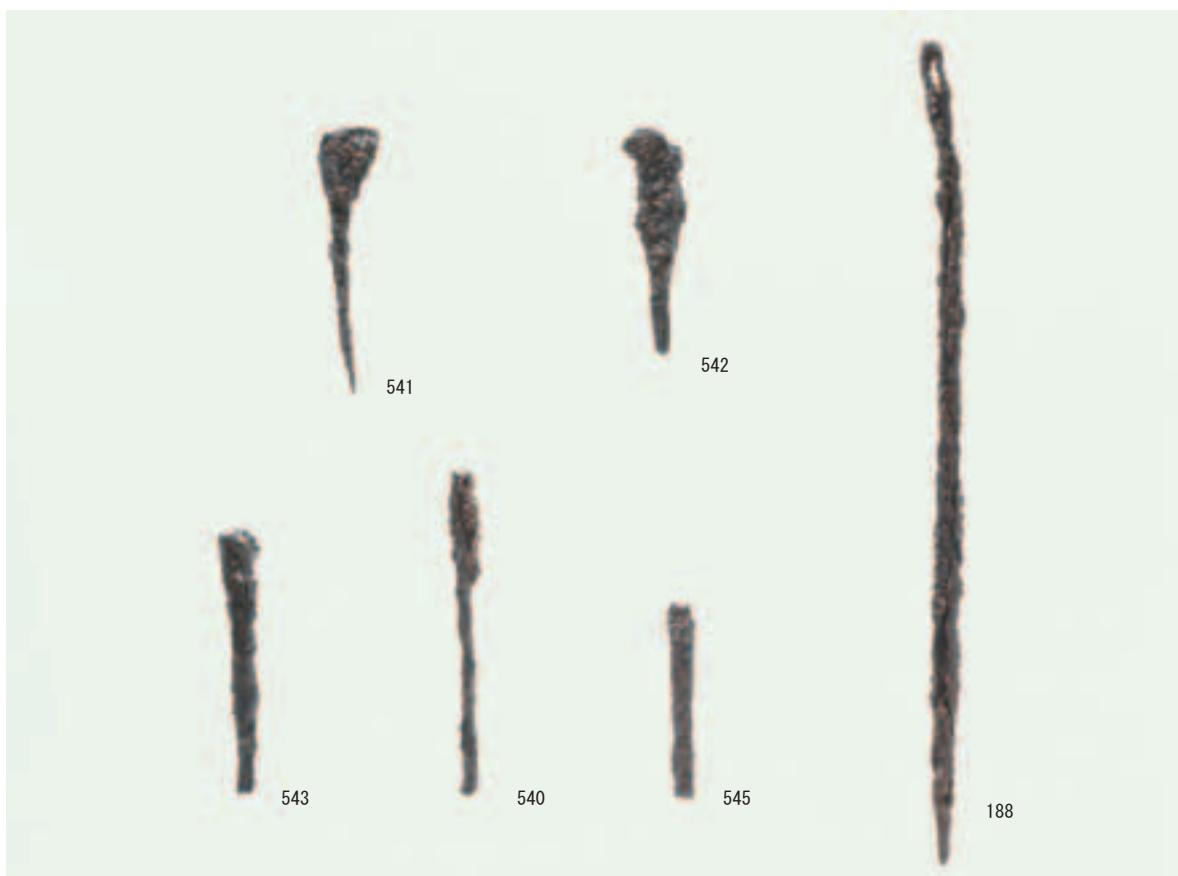


石器 6 (石劍・石包丁・用途不明石器)

Ph. 29



金属製品 1



金属製品 2

## 編集後記

近年、報告書に携わる度に思うのだが、報告書とは遺跡が消滅したことを表す「死亡診断書」のようなものである。だからその内容には正確さと緻密さが求められる。本「診断書」はその点において今後の参考程度であろう。これも編集者の力不足による。

調査においては用地買収と並行して行われたため、調査の工程通りにはならない場面が幾つもあった。しかし用地買収の担当者は何度も地権と交渉を重ねられ、調査地を「確保」して下さったことは、この場を借りて感謝申し上げたい。温暖化の影響であろうか近年、春と秋を感じる機会が少なくなった。寒風酷暑、現場は作業員さんと汗を流し、防寒着で小雪を凌いだ。この中で歴史学を専攻したある非常勤職員が居た。少し述べたい。

考古学は概論で学んだというが、当初は仕事の内容を理解できない事も多く、かなり戸惑いが見られた。2年目の調査時に複雑な切り合いの罠付住居を任せた。手も服も汗と土にまみれ、粘り強く調査を敢行し、見事に掘り抜いた。自琢である。それを機にその非常勤職員は積極的な生き方を選んだ。また、逆に遺跡を放棄し自滅していった調査員も少なくはない。整理作業員さんについては、言葉に表せないほど感謝申し上げていますが、ここで言葉に表しました。この充実した時間は、私にとり深い想いに昇華しました。

遺跡から学ぶことは無限である。モノと人の架け橋の特質を持つからであろう。昔人の「調査は人なり」との言葉を最近、よく思い出す。

( 山下 記 )

## 現場作業員

荒木康利 境 優太 稲村 明 石川貴保 本田美和 狩野禎晴 酒井昌枝 牛島しおり 青木立子 山野美智子 三島多恵子 上内重徳 星野信弘 白石美智子 森本清子 野尻近夫 松永一代 桃井哲夫 緒方洋子 西村信二 林田恵子 西山雅廣 守井昭雄 山本正則 中村良一 関部ロサヘレナ 岩下郁子 桑鶴 護 森本紀代子 合志具英 木村武徳 徳岡 賴 荒木照之 副島頼知 森本勝行 杉本久義 森 明彦 下田高男 廣瀬正義 辰島正徳 森本一人 麻生 昇 稲本俊一 岩下 孝 坂田洋一 松本 崇 高木洋美 野口まさ代 藤井勇二 平田理恵 境 百合子 坂本紀代子 田中鳴美 宮本國昭 牧野律子 関 律子 稲村光則 松本和徳 田尻信行 緒方正明 中井良一 柴田道子 桑鶴律子 井上咲雄 牛島一征 野田 昇 中島 守 広瀬紘二 西村和幸 豊岡キヨミ 川上紀男 甲斐福義 熊谷邦彦 稲本佳子 平松英光 江藤駿助 麻生昭子 石川幹郎 後藤章一 豊民誠之 吉岡龍子 畑中儀介 大塚 昇 野仲朗怡 大久保哲哉 平野直孝 木村利男 中石徳和 宮下忠行 岩下悦子 岩下哲夫 東とし子 広瀬多津子 伊形久佐子 井上順子 早田 均 早田律子 本田敏廣 西嶋直美 竹熊清隆 吉岡睦生 井上利子 中野洋子 森 節子 河端 斎 吉川ゆかり 境 優太 稲本敏行

## 整理作業員

境美恵子 濱崎清子 園田智子 青木美代子 青木玲子 鳩々野ふみ 藤田繁子 一野幸枝 清田幸恵 紫垣博子 村田昭恵 立岩恵美子



整理スタッフ（撮影 2015.01.19）

報告書抄録

ふりがな	くわづるいせきぐん・ごちようなかばるいせき							
書名	桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡							
副書名	砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査							
卷次								
シリーズ名	熊本県文化財調査報告							
シリーズ番号	第308集							
編著者名	山下義満							
編集機関	熊本県教育委員会							
所在地	〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号							
発行年月日	2015年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				調査原因	
くわづるいせきぐん 桑鶴遺跡群 ごちようなかばるいせき 五丁中原遺跡	くまもとけんくまもとしきたく 熊本県熊本市北区 みつぐまち いづみまち 貢町・和泉町	43201	418 420	32° 46'	130° 38'	2006年 5月18日 ～ 2007年 3月29日 2009年 6月1日～ 2011年 11月11日	約17,000 m <sup>2</sup>	砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
桑鶴遺跡群 五丁中原遺跡	集落	旧石器 縄文 古代 中世	住居 道路 堀立柱建物	旧石器 縄文土器 土師器 金属器				
要約	<p>桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡は熊本市西部の舌状台地に位置し、両遺跡は同一の性格を持つものである。</p> <p>旧石器は、姶良Tn火山灰(AT)降灰以降の角錐状石器に代表される石器群・小型のナイフ型に代表される石器群・細石刃に代表される石器群が主体的であった。古代は9世紀の古代の集落跡であり、竈付住居を検出し、この遺構から「原」・「原田」のヘラ描き土器によりこの一帯の当時の地名、及び環境を想定する材料になった。中世は掘立建物から生活の痕跡が窺え、少数ではあるが輸入磁器を所有する館の存在も想定され、今後、周囲の調査が望まれる。</p>							

熊本県文化財調査報告書 第308集

桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡

—砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

平成27年3月31日

編集 熊本県教育委員会  
発行

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

印刷 株式会社 大和印刷所

〒861-8031 熊本市東区戸島町920-11

発行者：熊本県教育委員会  
所屬：教育総務局文化課  
発行年度：平成 26 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第308集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2016年9月21日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>